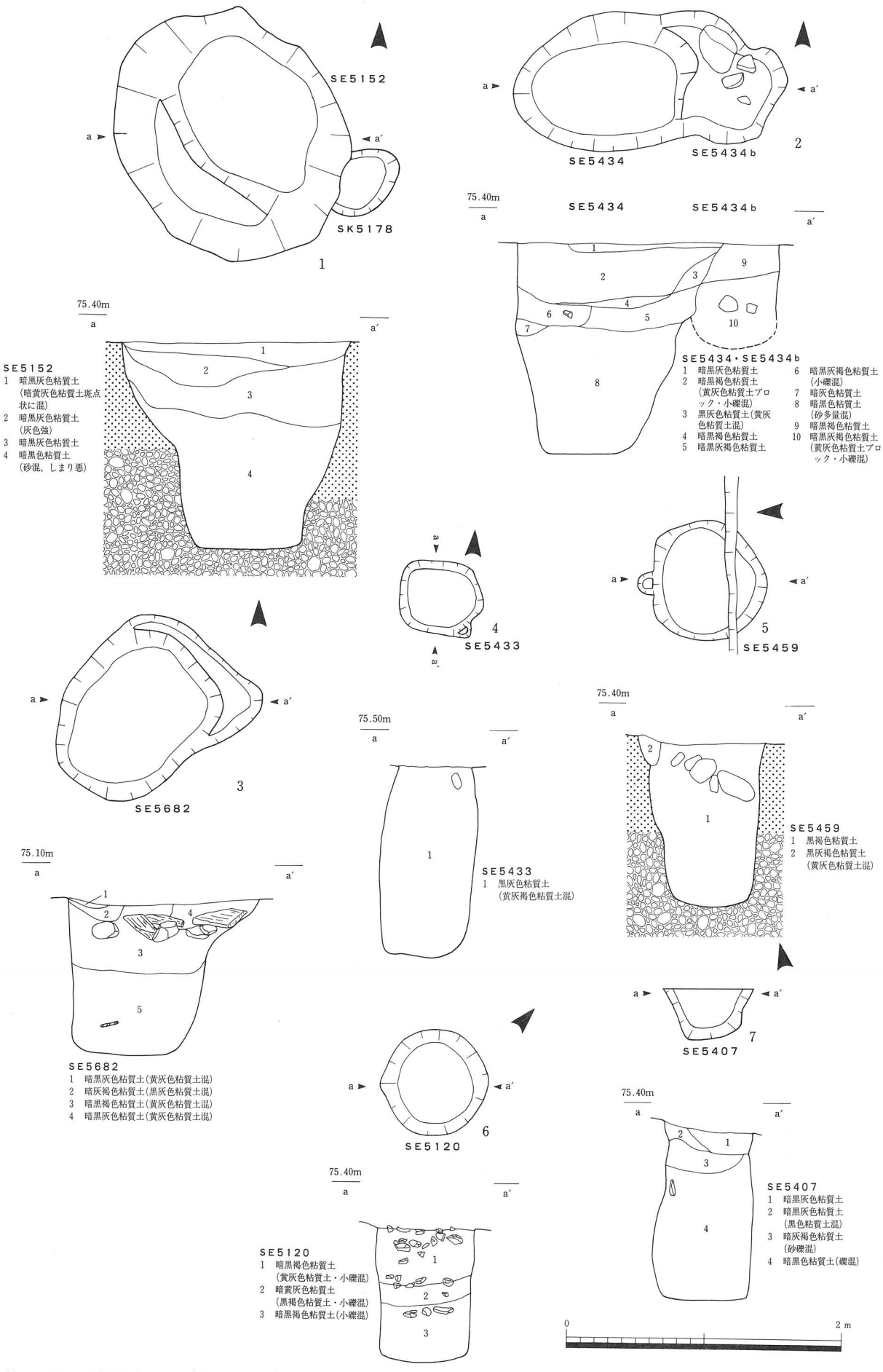
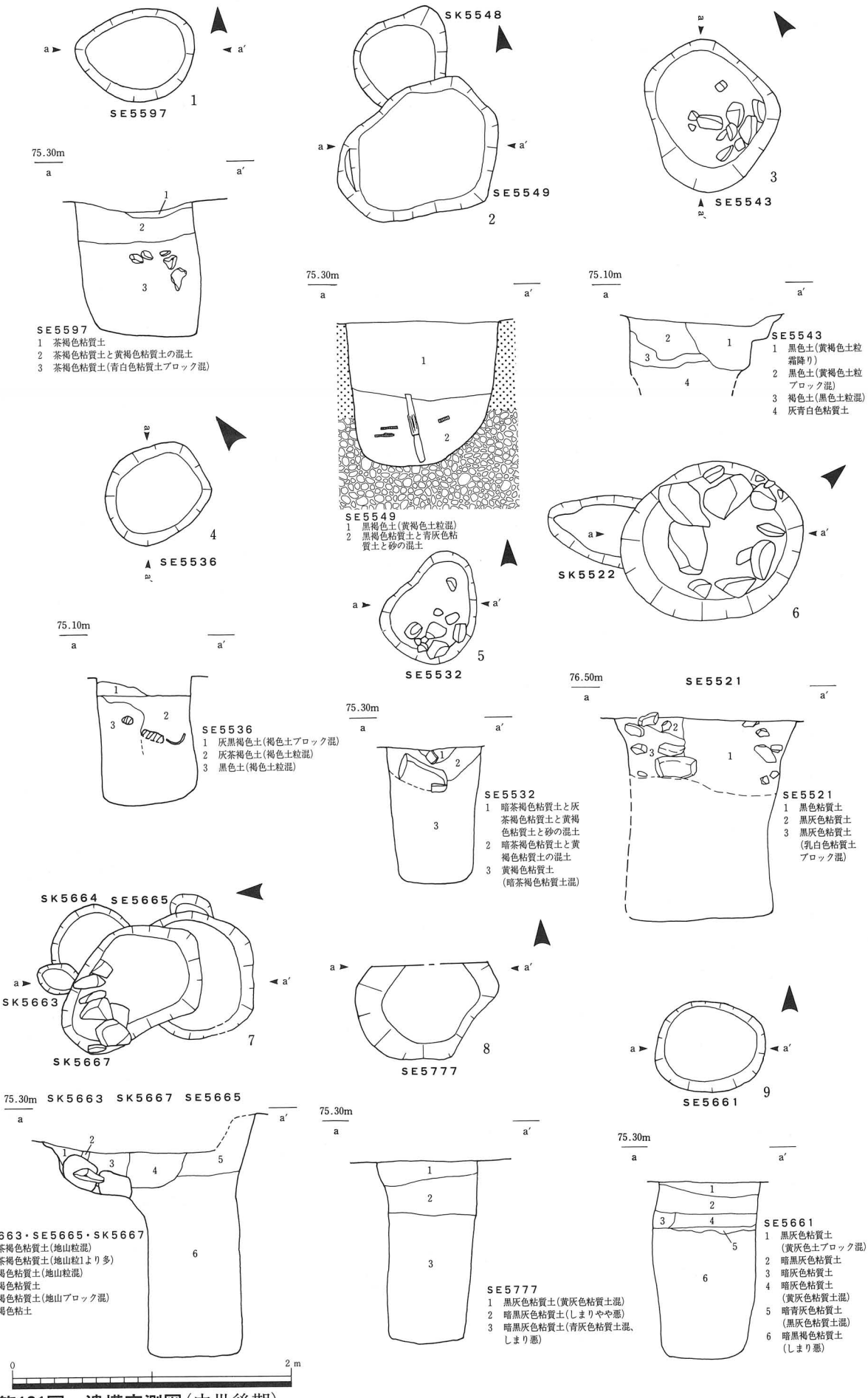


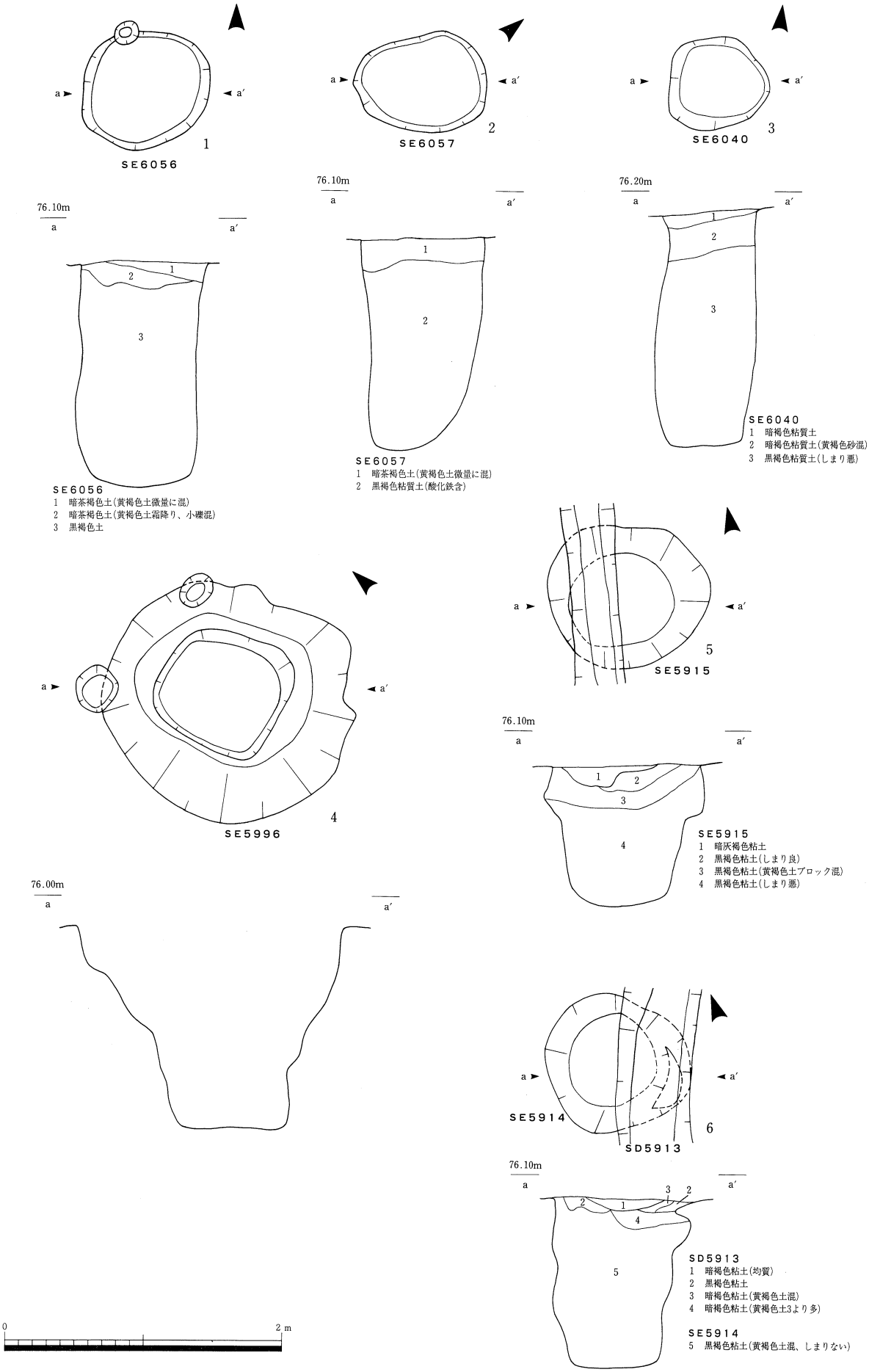
第190図　遺構実測図(中世後期)

1.SE5152 2.SE5434 3.SE5682 4.SE5433 5.SE5459 6.SE5120 7.SE5407



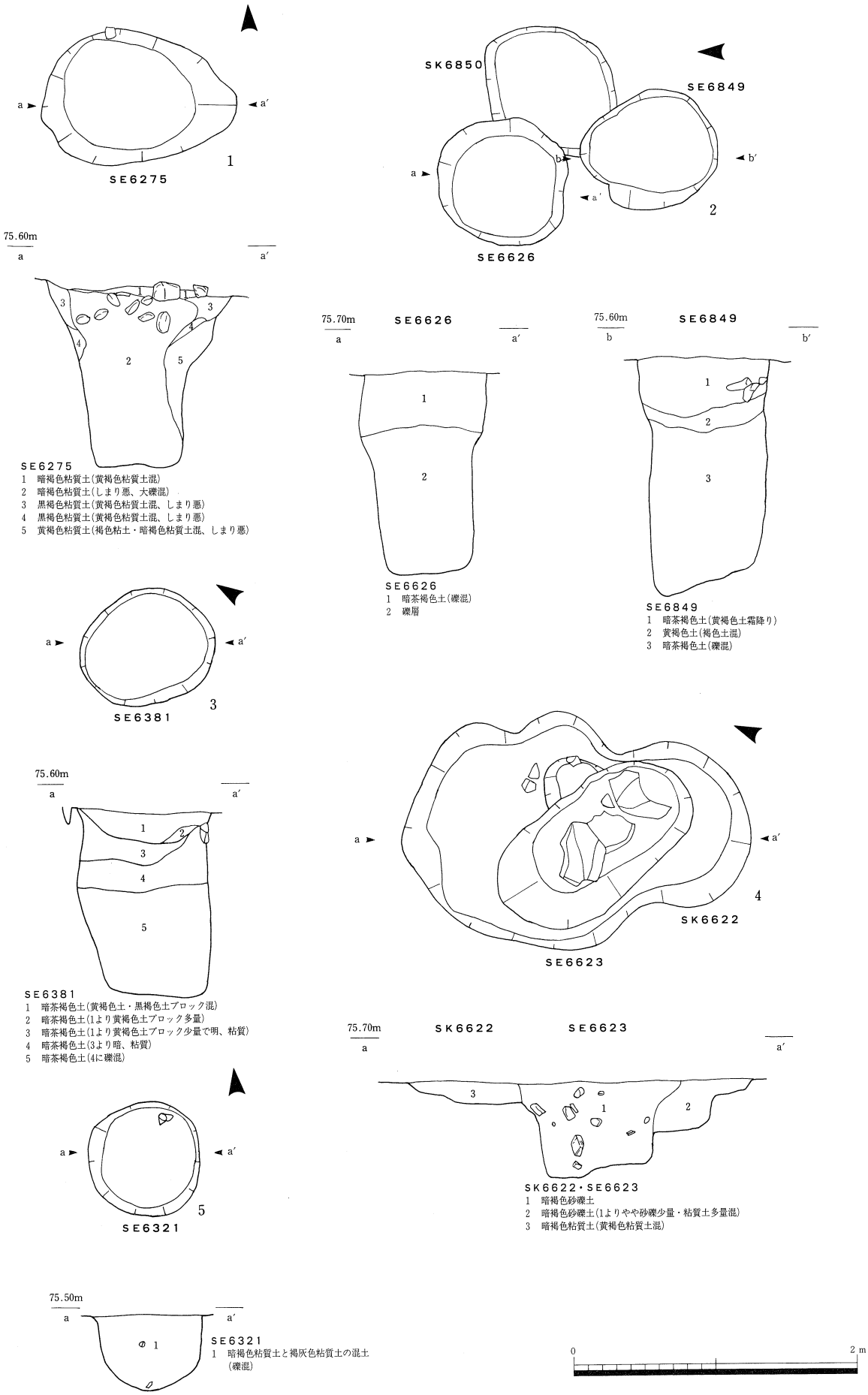
第191図　遺構実測図(中世後期)

1.SE5597 2.SE5549 3.SE5543 4.SE5536 5.SE5532 6.SE5521
7.SE5665 8.SE5777 9.SE5661



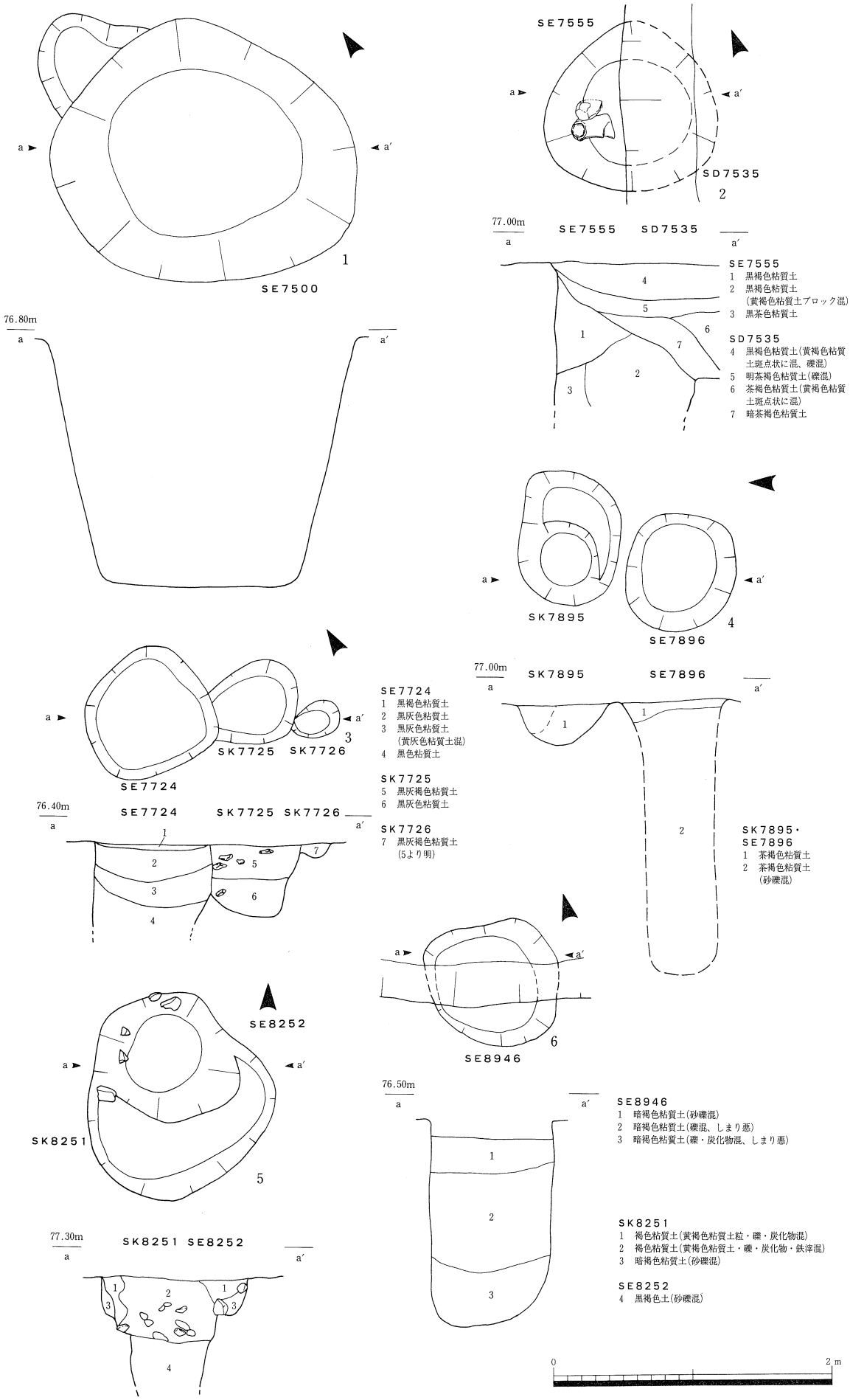
第192図　遺構実測図(中世後期)

1.SE6056 2.SE6057 3.SE6040 4.SE5996 5.SE5915 6.SE5914



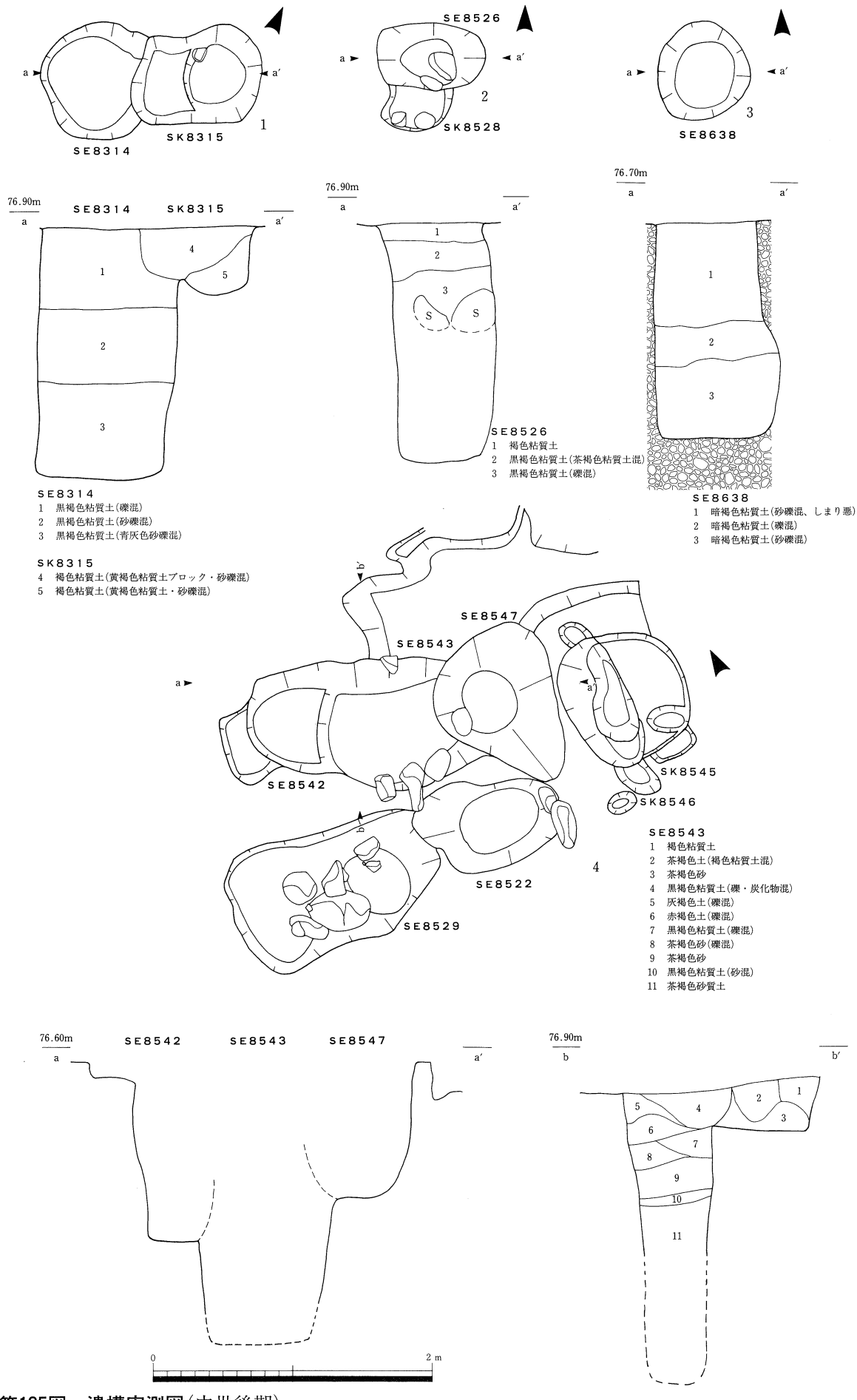
第193図　遺構実測図(中世後期)

1.SE6275　2.SE6626・SE6849　3.SE6381　4.SE6623　5.SE6321



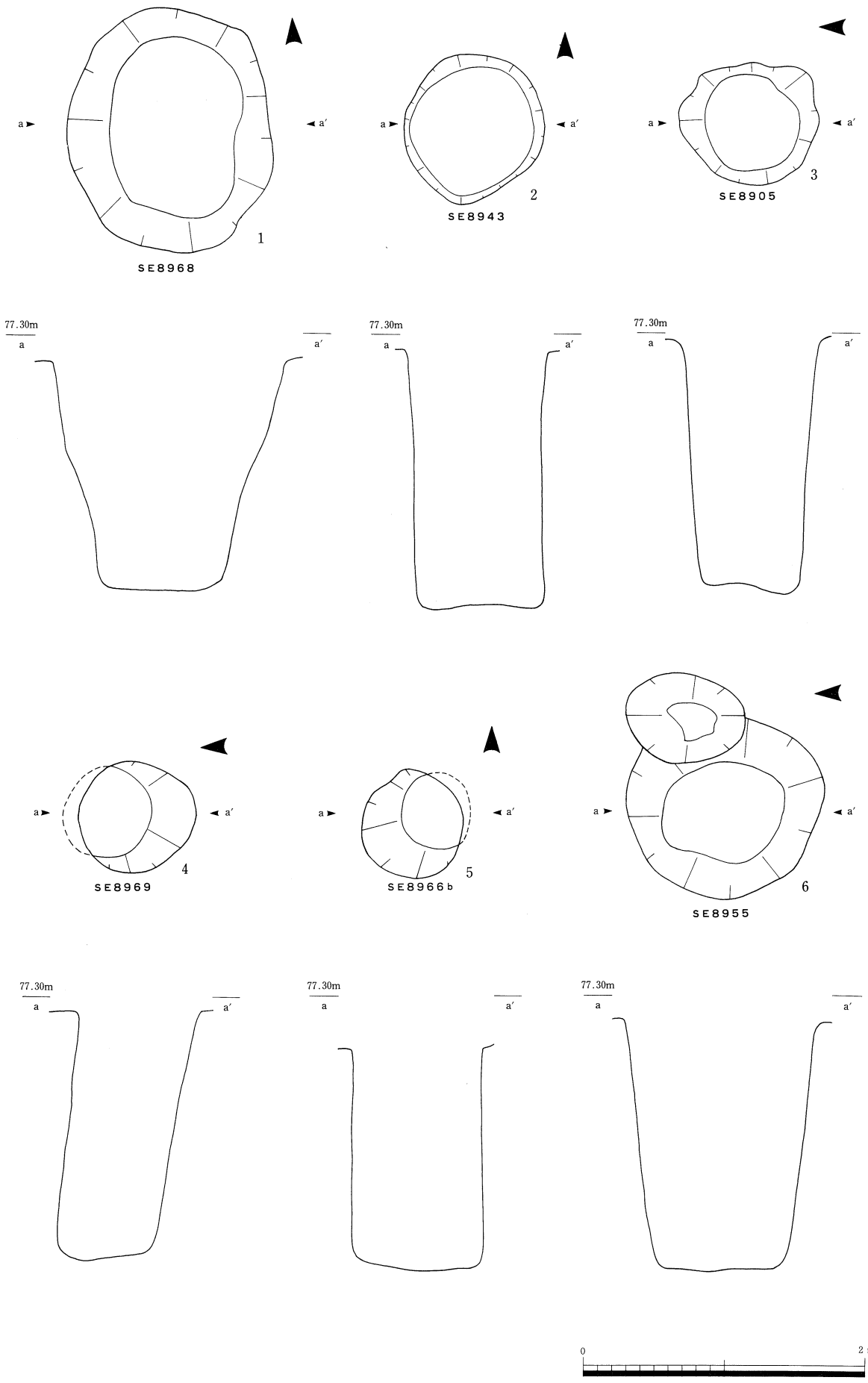
第194図　遺構実測図(中世後期)

1.SE7500　2.SE7555　3.SE7724　4.SE7896　5.SE8252　6.SE8946

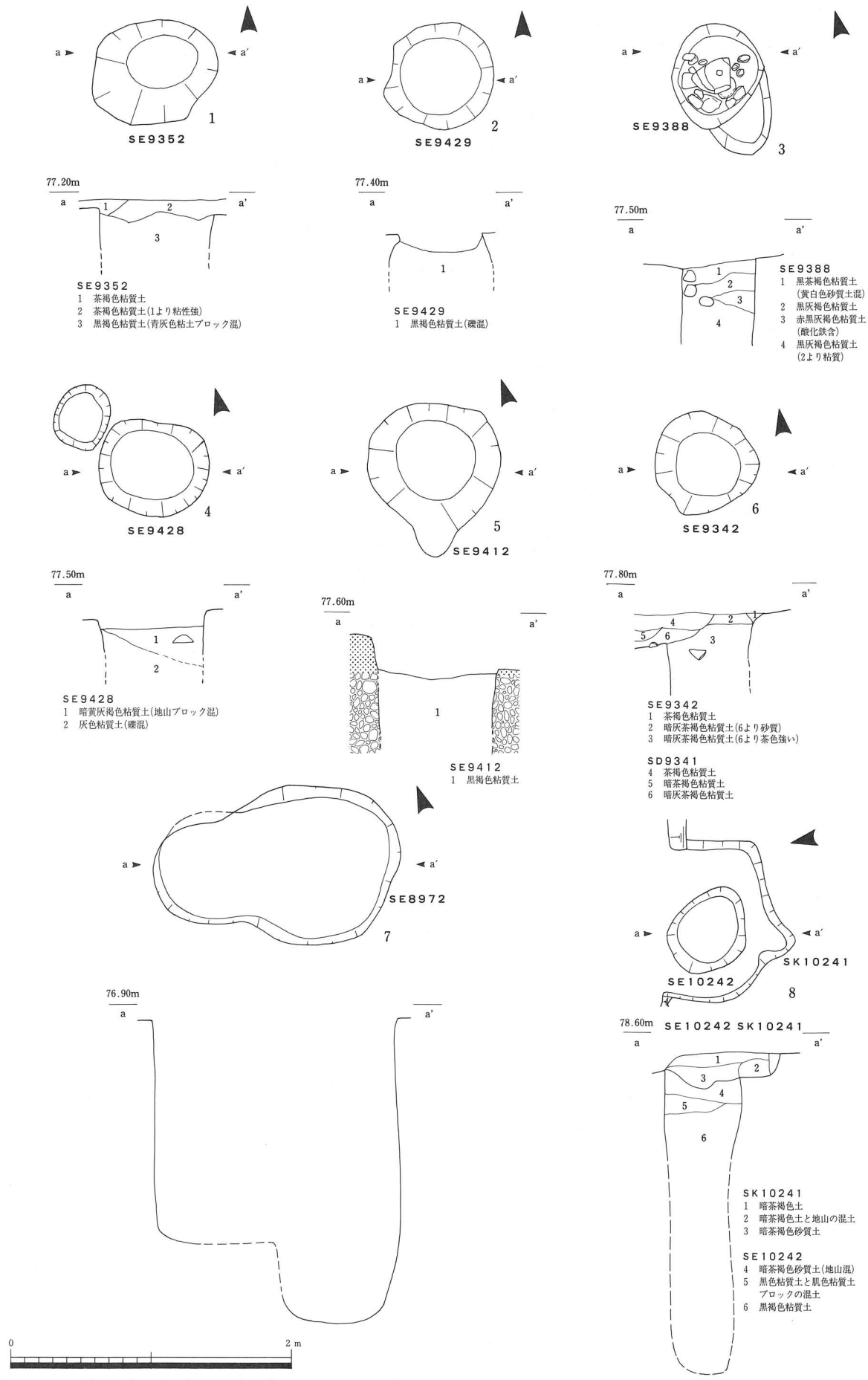


第195図　遺構実測図(中世後期)

1.SE8314　2.SE8526　3.SE8638　4.SE8542・SE8543・SE8547

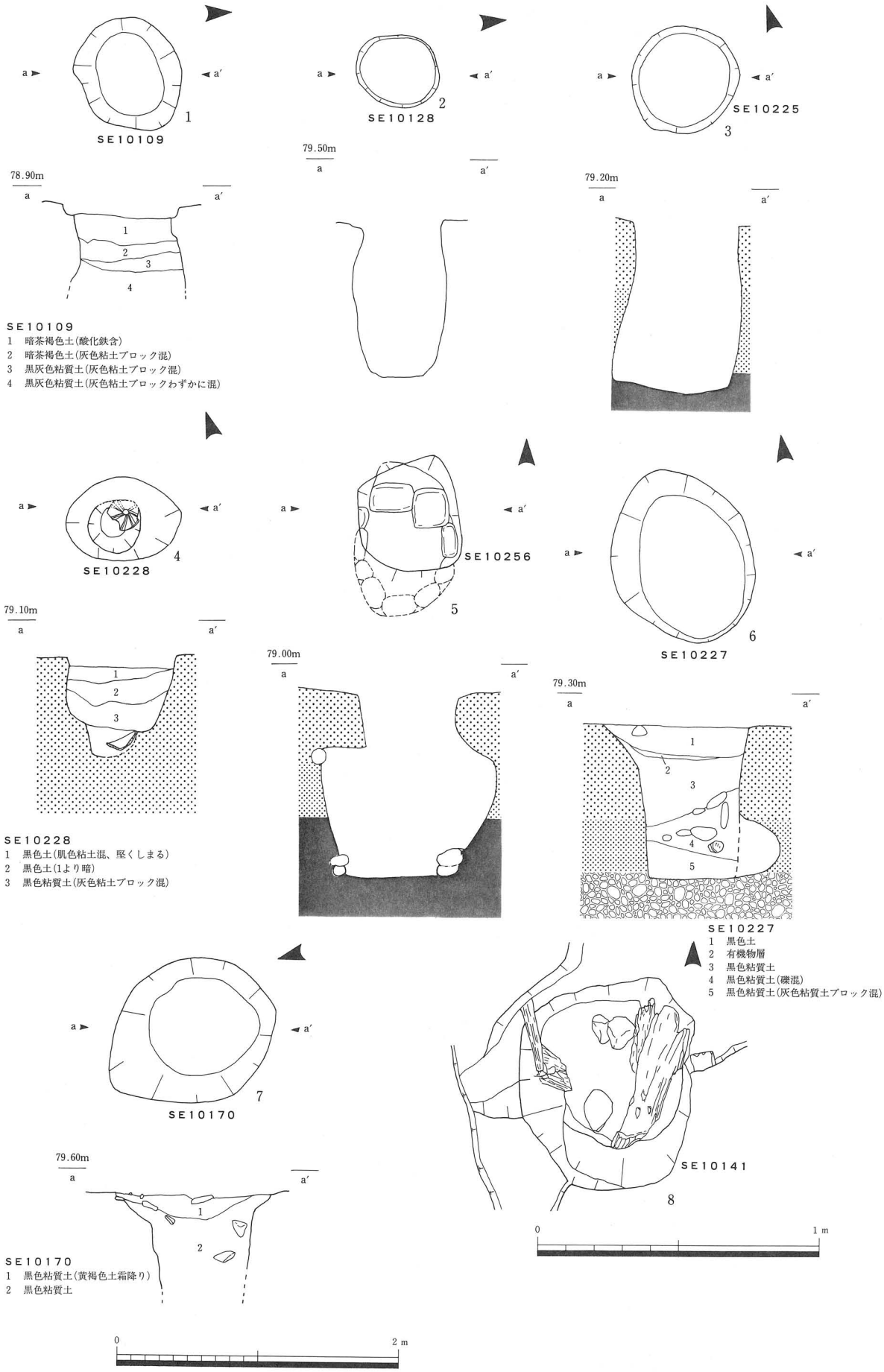


第196図　遺構実測図(中世後期)
1.SE8968　2.SE8943　3.SE8905　4.SE8969　5.SE8966b　6.SE8955



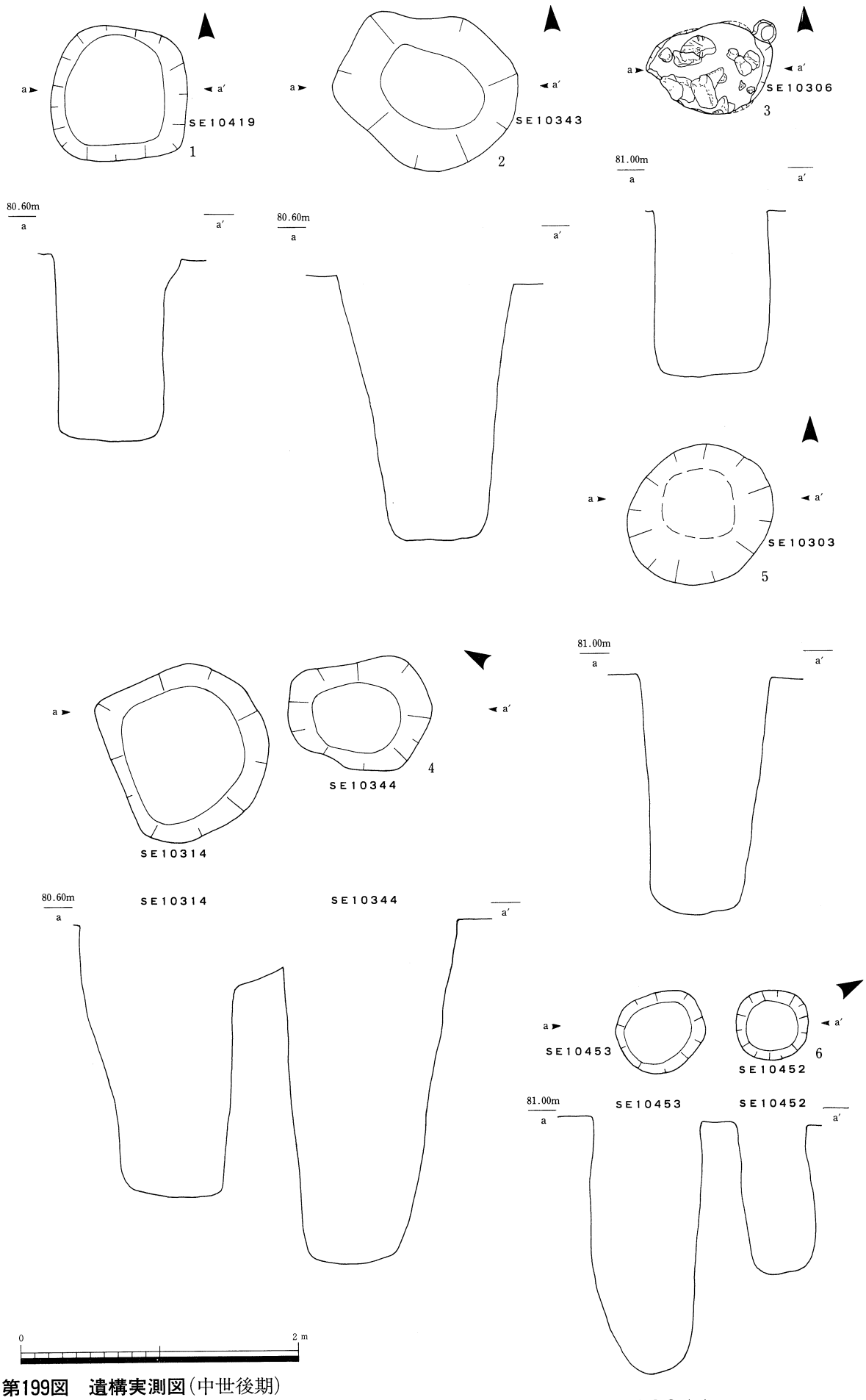
第197図　遺構実測図(中世後期)

1.SE9352　2.SE9429　3.SE9388　4.SE9428　5.SE9412　6.SE9342
7.SE8972　8.SE10242



第198図　遺構実測図(中世後期)

1.SE10109 2.SE10128 3.SE10225 4.SE10228 5.SE10256 6.SE10227
7.SE10170 8.SE10141



第199図　遺構実測図(中世後期)

1.ＳＥ１０４１９　2.ＳＥ１０３４３　3.ＳＥ１０３０６　4.ＳＥ１０３１４･ＳＥ１０３４４
5.ＳＥ１０３０３　6.SE10452･SE10453

4　土　　坑

中世後期の土坑は，方形の明確な掘形をもつ竪穴状土坑と，切り合いが複雑で不整形な土坑に大きく分けられる。方形のものには石列が伴うものや，羽口や坩堝などの出土から土坑の性格がわかるものがある。不整形のものは遺物量も少なく，性格のわかるものは少ない。

A地区

3008号土坑（SK3008）

A3地区の北西部分，X366～369Y86～91に位置する。南北は440cmで，東西はSK3015や別の土坑に切られているが，現長330cmである。平面形は長方形（推定）で，深さ20cmである。覆土は茶褐色土で，地山土が混じる。遺物には中世土師器・瀬戸美濃があり，時期は16世紀である。

3016号土坑（SK3016）

X365･366Y86･87に位置する。長軸280cm，短軸226cmの長方形で，深さ44cmである。土坑はSE3018を切り，SK3017に切られる。覆土は黒茶褐色土である。下層に地山土が多く混じる。遺物には中世土師器・瀬戸美濃・青花がある。時期は16世紀である。

3691号土坑（SK3691，第142図）

SD3425の区画内，X336～338Y98～100に位置する。長軸514cm･短軸363cmの長方形で，深さ74cmである。SK3707を切っている。覆土は黒褐色土（上層），茶褐色土で，地山土・礫が混じる。上層から中層にかけて，炭化物が多く混じる暗茶褐色土がある。また，土坑の西部分には砂利混じりの茶褐色土が土坑の肩からなだらかに底まで入っている。土坑の底には地山土がブロック状に混じる黄褐色土・茶褐色土がある。土坑の底は礫面まで掘り込んで凸凹なので，この土は貼床土と考える。遺物には中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・白磁・青磁，フイゴの羽口がある。下層には13世紀の遺物が入っているが，時期は15世紀であろう。土坑周辺の柱穴から建物を復元できなかったが，上屋を持つ竪穴状土坑と考える。

3967号土坑（SK3967，第140図）

X343･344Y105に位置する，長軸216cm･短軸198cmの不整形で，深さ15cmの土坑である。土坑の北側は少し張り出しているが，覆土からは別遺構とは考えられない。断面は浅くくぼみ皿状になる。覆土は茶褐色土である。上層は地山土が霜降り状に混じる。遺物には15世紀の中世土師器がある。

B地区

4338号土坑（SK4338，第200図）

X312Y89で検出した長方形の土坑である。規模は南北116cm，東西182cmで，壁の立ち上がりはしっかりしている。床面は平坦であるが，中央西寄りで一部くぼむ所もある。覆土は砂礫の混じる茶褐色粘質土，砂礫の混じる暗茶褐色粘質土，砂礫の混じる黒茶褐色粘質土が順に水平堆積する。遺物には中世土師器・珠洲がある。

4439号土坑（SK4439，第200図）

SK4479の南で検出した不整形の土坑である。西側は暗渠に切られる。南北最大310cm，東西約178cmである。覆土は砂礫の混じる茶褐色粘質土，黒褐色粘質土，砂礫の混じる黒褐色粘質土の順に上から堆積している。

4611号土坑（SK4611，第201図，図版118）

X292～294Y96～99付近で，SD4604とSD4605の間に検出した土坑である。平面形は東西470cm，南北314cmのやや不整形な方形を呈し，深さは20cmを測り浅い。覆土は炭化物を含む黒褐色土で上下

2層に分かれ，下層がより粘質である。遺物は中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁，箸が出土しており，時期は14世紀～15世紀と考えられる。

4623号土坑（ＳＫ4623，第201図，図版118）

Ｘ295～296Ｙ81～83付近で，ＳＤ4602の南側西端に検出した土坑である。平面形は東西410cm，南北265cmを測る方形を呈するが，北側の肩ははっきりしない。深さは中央部で24cmを測る。緩やかに傾斜した南東隅に，斜めに柱根が検出されたが，その掘形は土坑の覆土を掘り込んでいる。したがってこの土坑に伴うものである可能性は低い。覆土は主に黒茶褐色粘質土である。遺物には中世土師器，漆器椀がある。漆器椀は中央やや西寄りに，底から約10cm浮いた状態で出土した。遺物の時期は14世紀～15世紀である。

4745号土坑（ＳＫ4745，第202図，図版118）

Ｘ297Ｙ82付近で，ＳＤ4602内の南側斜面に検出した土坑である。斜面に穴を掘り，周辺に大小の石を配した石組のものである。平面形は直径95cmの円形を呈し，深さは35cmを測る。覆土は茶褐色土で，酸化鉄と5 mm～1 cm大の小石を多く含む。周辺の石は中央部と東側の石の上面が赤化しており，被熱によるものと考えられる。遺物は珠洲，底部から瀬戸美濃の皿が出土しており，時期は16世紀とみられる。溝内での水溜としての機能を果たしていた可能性もあるが，石の赤化状態との関わりからみて性格は不明である。

4809号土坑（ＳＫ4809，第202図）

Ｘ280Ｙ90で検出したやや不整形の長方形の土坑である。南端が攪乱で切られるが，規模は南北約300cm，東西165cmである。床面は平坦ではなく，壁も立ち上がりがまちまちである。覆土は橙色土が混じる黒褐色粘質土が主体で，南側には肌色粘質土ブロックが混じる褐色土が堆積する。遺物には須恵器，越前・瀬戸美濃がある。時期は16世紀である。

4821号土坑（ＳＫ4821，第202図，図版119）

ＳＫ4820の北東で検出した土坑である。長軸140cm，短軸110cmの卵形に近い楕円形である。覆土は黒灰色粘質土の単層で，床面近くから礫に混じって石製暖房具と漆塗りのしゃもじが出土している。この他にも13世紀の中世土師器・珠洲・16世紀の越前・13世紀～14世紀の瀬戸が出土している。

4852号土坑（ＳＫ4852，第202図，図版119）

Ｘ286Ｙ95で検出した直径53cmの円形の土坑である。検出面から5 cm～10cm下から曲物の側板・底板・加工木，完形の中世土師器が一括して出土した。またこれらを取り上げた下層にも底板・有孔の円い板・板材が出土している。穴一杯に遺物を詰め込む様子で，意図的なものが感じられる。時期は中世土師器から16世紀である。

4853号土坑（ＳＫ4853，第203図，図版119）

Ｘ272Ｙ79で検出した円形の土坑である。直径53cm，深さ74cmを測る。覆土は黒褐色粘質土に黄褐色粘質土ブロックが混じる土である。約25cm下層からほぼ完形の石臼と楕円形の自然石を検出した。また，石臼の下からは厚さ5 mmの長方形の板材を検出しており，この他にも木製椀が出土している。土器の出土は須恵器のみであるが，周辺の遺構から判断して当期と考える。

4858号土坑（ＳＫ4858，第203図，図版119）

Ｘ269Ｙ86で検出した楕円形の土坑である。長軸90cm，短軸70cm，深さ73cmを測る。覆土は黒褐色粘質土で，遺物は曲物片・加工木片が多く出土している。覆土の性格などから井戸の可能性もある。

4866号土坑（ＳＫ4866，第203図）

X269Y81で検出した楕円形の土坑である。長軸95cm，短軸80cm，深さ41cmである。覆土は黒褐色粘質土である。遺物には瀬戸美濃，羽口，石臼，加工木があり，石臼は壁際に寄った状況で検出した。時期は16世紀である。

4867号土坑（SK4867，第203図）

X281Y82で検出した楕円形の土坑である。長軸91cm，短軸62cm，深さ29cmである。底からは漆器と石臼が壁に張り付いたような状況で出土している。

5004号土坑（SK5004，第203図）

X244Y99，調査区東際で検出した楕円形の土坑である。北のSD5006より新しい。井戸の可能性もある。規模は長軸80cm，短軸70cm，深さ68cmである。底は丸く，覆土は上層が砂礫混じりの暗褐色粘質土，下層がしまりの悪い黒褐色粘質土である。遺物には15世紀の中世土師器，木製品（底板）がある。

5007号土坑（SK5007，第203図）

SK5004の西で検出した土坑である。直径63cmの円形で，深さ82cm，井戸の可能性もある。掘形は円筒形で，覆土は黒褐色粘質土，下層には黄褐色砂礫が混じる。遺物には中世土師器がある。時期は15世紀～16世紀である。

5069号土坑（SK5069，第203図）

X260Y100で検出した円形の土坑である。西のSK2070と接する。規模は直径70cm，深さ57cmで底が丸い。覆土は上層が暗茶灰色粘質土，下層が黒灰色粘質土で下層には板状の木製品が混じる。遺物には15世紀の中世土師器がある。

5073号土坑（SK5073，第203図）

X257Y98で検出した楕円形の土坑である。長軸80cm，短軸70cmで，深さは62cmである。掘形は円筒形，覆土は上層が暗茶褐色土，下層が黒灰色粘質土である。下層から石臼が出土している。

5075号土坑（SK5075，第204図）

X264～266Y95～98，平成元年度調査区と同3年度調査区の境で検出した土坑である。元年度調査終了後の工事のために上面が攪乱を受け，常時水が溜まった状態であった。このため，実際の深さより浅くなっており，東の肩がはっきりしない。東西幅は約560cm，深さは約35cmと推定する。覆土は黒褐色粘質土が主体で，部分的に砂層・礫混じり土が入る。床面は平坦で，ここからSK5393を検出した。これは西側のSE5847と共に土坑より古い。遺物には土師器(羽釜)，中世土師器・珠洲がある。SK5393からは珠洲と木製品が出土している。

5078号土坑（SK5078，第203図）

X262Y101，調査区東側の排水溝脇で検出した土坑である。長軸60cm，短軸52cmの楕円形で，深さ63cmである。掘形は円筒形，覆土は暗茶灰色土が主体で，この土は周辺の地山の土と判別しにくい。遺物には中世土師器，木製品（加工木・底板）がある。時期は15世紀～16世紀である。

5089号土坑（SK5089，第203図，図版119）

X265Y98，SK5075の東で検出した，不整形の楕円形の土坑である。規模は長軸180cm，短軸121cm，深さ80cmである。上層は大小の礫が多量に混じる暗灰色粘質土，下層は暗黒灰色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲・青磁がある。

5098号土坑（SK5098，第203図）

X255Y98，耕作面が一段下がる境目で検出した土坑である。上段との差は約20cmである。規模は

90cmの円形で，深さは下段面で28cmである。覆土は第1層が暗褐色粘質土，第2層は中央に径27cmの範囲でレンズ状に堆積し，この下層から炭化した木製品を検出した。第3層は礫の混じる暗黒灰色粘質土で，炭化木製品の埋土となっている。何らかの目的で埋置したものであろう。遺物には15世紀の中世土師器がある。

5100号土坑（ＳＫ5100，第203図）

Ｘ256Ｙ97で検出した円形の土坑である。直径105cm，掘形は擂鉢形，深さ99cmである。覆土は上層が灰褐色粘質土，下層が灰黒色粘質土である。上層には珠洲が混じり，下層から木製品（加工木・曲物片・底板）が出土した。

5332号土坑（ＳＫ5332，第204図）

ＳＫ5331の北で検出した方形の土坑である。規模は南北145cm，東西153cmと正方形に近く，深さ16cmである。土坑内のＳＫ5572は土坑より古い。覆土は黒褐色土に黄褐色土が混じる土の単層で，床面は平坦である。遺物には中世土師器，銅銭がある。

5333号土坑（ＳＫ5333，第204図）

ＳＫ5332の東の長方形の土坑で，東側は暗渠に切られる。南北は228cm，深さは20cmである。覆土は黒褐色土に黄褐色土が混じる土で，床面は平坦である。遺物には珠洲がある。

5383号土坑（ＳＫ5383，第274図）

Ｘ257Ｙ87･89で検出した長方形の土坑である。北側は暗渠に切られる。東西は230cm，深さ63cmである。断面形は逆台形，覆土は黄褐色土・黒褐色土・黄茶灰色土・暗茶褐色土・茶褐色土などが混じり合い，多種の層となり細かい堆積の様相をなしている。最下層には暗灰色粘質土が堆積する。遺物には15世紀の中世土師器，木製品（加工木・板材），銅製品がある。

5390号土坑（ＳＫ5390，第203図）

Ｘ266Ｙ99で検出した楕円形の土坑である。長軸123cm，短軸98cm，底は丸く，深さは79cmである。覆土は灰黒色粘質土で，下層になると礫を含む。遺物は中世土師器・珠洲，木製品（漆器椀・底板・杭）がある。

5482号土坑（ＳＫ5482，第205図，図版120）

Ｘ255～257Ｙ79～81，耕作面が一段下がる境で検出した長方形の土坑である。規模は南北384cm，東西は長方形の部分で420cmで，西辺から床面が約5 cm高くなって不整形に張り出し，先端が暗渠で切られる。覆土は灰黒色土，黒色土が主体で，これに褐色土粒が混じることもある。検出面から10cm～15cm掘り下げた段階で，北に向かって逆「Ｌ」字形の石列を検出した。20cm～40cm大の石を内側に面を取って並べている。東側が1段，南側は部分的に2段の石組である。石で囲まれた範囲は南北215cm，東西340cm，面積は7.3m²である。石列の外側の覆土は内側の覆土とあまり変わらない。土坑の中央床面下からＳＥ5682を検出した。上面は黄褐色粘質土で埋まっており，土坑はこの後に作られたものである。遺物には16世紀の中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花，石臼がある。時期は16世紀である。

6025号土坑（ＳＫ6025）

Ｘ220Ｙ97で検出した円形の土坑である。直径約130cm，深さ48cm，床面は平坦で，壁の立ち上がりは垂直に近い。覆土は上層が砂礫と黄褐色粘土の混じるしまりの悪い暗褐色粘土，下層が黄褐色粘土主体の土である。下層の深さ約40cmから，藁状の繊維の紐を穴に通した銅銭の束を検出した。銅銭は錆で固まっており，正確な数は不明だが約70枚は確認できた。他の遺物は出土せず，銅銭の種類もま

だ分析していないが，出土のありかたから当時期と考える。

6044号・6045号土坑（ＳＫ6044・ＳＫ6045，第206図）

ＳＤ6036などの北で検出した土坑である。ＳＫ6045はＳＫ6044より古い。ＳＫ6044は南北135cm，東西185cmの長方形の土坑である。深さは30cm，覆土はしまりの悪い，礫混じりの暗褐色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲がある。ＳＫ6045は南北100cmの長方形の土坑である。深さは22cm，覆土は上層が暗褐色粘質土，下層が暗褐色粘土である。遺物は出土していない。ＳＫ6044の遺物から当時期にあてているが，西にある近世の土坑ＳＫ6047と同じ並びを取り，配置からみて，ＳＤ6036などに沿って並ぶ近世の土坑の可能性が強い。

6046号土坑（ＳＫ6046）

ＳＫ6045の北で検出した長方形の土坑である。ＳＫ6045には南側を切られる。東西は68cm，深さ91cm，覆土は黒褐色粘質土である。遺物は15世紀の中世土師器，銅製品が出土している。

6213号土坑（ＳＫ6213，第206図）

Ｘ237Ｙ76～77で検出した不整形の楕円形の土坑である。南北は360cm，東側を暗渠に切られる。南西側のＳＫ6214・ＳＫ6216よりは古い。覆土は暗褐色粘質土が主体で，これに黄褐色粘質土・暗褐色粘質土が混じる。床面は平坦で，壁の立ち上がりもしっかりしている。床面中央では，小穴２基と一辺１ｍの正方形の土坑を検出した。いずれも土坑よりも古い。遺物には中世土師器・16世紀後半の越前・瀬戸美濃がある。

6608号土坑（ＳＫ6608，第207図）

Ｘ235Ｙ96で検出した長楕円形の土坑である。北端をＳＫ6609に切られる。東西幅は110cm，掘形は擂鉢形で底は丸い。覆土は多量の砂礫が混じる黒褐色粘質土で，深さは142cmを測る。砂礫に混じって上層からは石臼片が，下層からは何かの基壇に利用していたと考えられる桑山石の加工石が出土した。石製品の他には中世土師器・瀬戸美濃がある。

6609号土坑（ＳＫ6609，第207図）

ＳＫ6608の北で検出した方形の土坑である。ＳＫ6608とは切り合いで負ける。規模は南北212cm，東西205cmでほぼ正方形に近く，深さは95cmと深く壁の立ち上がりは急である。床面は平坦で，砂礫層を掘り抜いているためか湧水が見られる。覆土の基本層は上層がしまった暗茶褐色土，黒褐色土・黄褐色土の混じる暗茶褐色土，下層が黄褐色土が混じる暗茶褐色粘質土である。遺物には中世土師器・15世紀の珠洲・16世紀の越前，17世紀の唐津がある。唐津は上面からの混入と考えており，時期は15世紀・16世紀である。

6616号土坑（ＳＫ6616，第207図）

Ｘ255Ｙ93･94で検出した長方形の土坑である。南東から北西にかけて暗渠が走り，攪乱を受けている。ＳＫ6654・ＳＥ6620より新しく，ＳＥ6617より古い。規模は南北245cm，東西290cmでいくらか歪んでいる。深さは35cm，壁の立ち上がりは明瞭で，床面も平坦である。覆土は上層が黄褐色土が混じる黒褐色土，下層が黒褐色土でほぼ水平に堆積する。遺物には中世土師器・15世紀の珠洲・瀬戸美濃がある。

7235号土坑（ＳＫ7235，第209図）

Ｘ197Ｙ74，ＳＤ7200の北側で検出した長方形の土坑である。規模は南北132cm，東西100cmで，壁の立ち上がりは直角に近く，床面は水平である。覆土は上層が黒褐色粘質土で，茶褐色粘質土，黒褐色粘質土の順で堆積する。遺物には中世土師器と青花がある。時期は16世紀である。

7318号土坑（ＳＫ7318，第208図）

Ｘ197Ｙ69，ＳＤ7319の西側で検出した土坑である。不整形の浅い土坑で，規模は南北180cm，東西142cm，深さは22cmである。覆土は第１層が黒褐色粘質土，第２層が黒褐色土粘質土と黄褐色粘質土の混土で，第１層上面から珠洲の胴部片が出土している。

7448号土坑（ＳＫ7448，第209図，図版120）

Ｘ200Ｙ85で検出した直径180cmの円形の土坑である。南のＳＫ7449より新しい。深さは34cmで，壁の立ち上がりはしっかりしている。覆土は上層に明赤黄色粘質土がレンズ状に堆積し，その下層には黒褐色粘質土が堆積する。遺物には16世紀の中世土師器がある。

7511号土坑（ＳＫ7511，第208図）

Ｘ191Ｙ90で検出した楕円形状の土坑である。東側上面には近世の溝ＳＤ7504，ＳＤ7505が南北に走る。規模は南北255cm，東西200cmで，掘形は擂鉢形である。覆土は上層が黄褐色粘質土と茶褐色粘質土の混土，下層が茶褐色粘質土である。遺物には16世紀の中世土師器がある。

7570号土坑（ＳＫ7570，第209図）

Ｘ178Ｙ82･83，ＳＤ7220とＳＤ7580の交点で検出した土坑である。溝との切り合いはＳＤ7220には西側が切られるが，ＳＤ7580よりは新しい。平面形は南北350cmの楕円形を呈すると考える。覆土は礫の混じる黒褐色粘質土である。遺物には中世土師器と珠洲がある。時期は15世紀である。

7633号土坑（ＳＫ7633，第208図）

Ｘ185Ｙ83，平行して南北に走るＳＤ7220とＳＤ7535の間で検出した長方形の土坑である。土坑の長軸方向は溝と平行する。規模は南北392cm，東西195cmで，南側は幅が狭まる。西肩で検出したＳＥ7636は土坑より新しい。床面は平坦で，覆土は礫の混じる暗茶褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器がある。

7686号土坑（ＳＫ7686，第208図）

Ｘ187Ｙ79で検出した台形状の土坑である。規模は南北140cm，東西160cmである。断面はレンズ状で，深さは26cmである。覆土は上層が礫の混じる暗茶褐色粘質土で，下層はこれに暗黄褐色粘質土が混じる。遺物には中世土師器と珠洲があり，時期は15世紀である。

7955号土坑（ＳＫ7955，第210図）

Ｘ179Ｙ70，ＳＤ7961の東肩で検出した長方形の土坑で，溝に負ける。規模は南北178cm，床面は平坦。覆土は黄褐色粘質土ブロック･砂礫の混じる暗茶褐色粘質土の単層で，遺物には瀬戸美濃がある。

7962号土坑（ＳＫ7962，第210図）

Ｘ182Ｙ70で検出した不整形の長方形の土坑である。西側のＳＥ7963は土坑より新しい。規模は南北135cm，東西238cm，深さ20cmである。不整形であるが，壁の立ち上がりは比較的しっかりしている。遺物には中世土師器がある。

7980号・7981号土坑（ＳＫ7980・ＳＫ7981，第210図）

ＳＫ7962の南側で検出した不整形の土坑である。２基の土坑，及びＳＤ7961の上面には砂礫の混じる暗茶褐色粘質土が10cm～15cmの厚さで堆積する。その下層はＳＫ7980が砂礫・黄褐色粘質土粒の混じる暗茶褐色粘質土，ＳＫ7981は茶褐色粘質土と黄褐色粘質土の混土の単層である。壁の立ち上がりが曖昧なため，正確な規模は不明である。南にあるＳＫ7860もプラン・遺物から考えて関連遺構の可能性が高い。遺物の出土はＳＫ7980から中世土師器・珠洲・瀬戸美濃がある。

8057号土坑（ＳＫ8057，第208図）

X185Y67で検出した楕円形の土坑で，この遺構の東側は遺構の密度がやや希薄である。規模は南北72cm，東西128cmである。深さは19cmである。覆土は主に黄褐色土粒が混じる明茶褐色粘質土である。遺物には中世土師器と青磁がある。時期は15世紀末である。

8090号土坑（ＳＫ8090，第211図）

Ｂ３地区の西端で検出した土坑である。排水溝を挟んでＢ３Ｗ地区のＳＫ8275と接合すると考えるが，接合部分が不明瞭となってしまったため，各々記述することにする。ＳＫ8090は南北446cmを測り，壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は暗黒灰褐色粘質土の単層で，深さは38cmである。ＳＫ8093より新しく，遺物は中世土師器・珠洲・越前がある。時期は16世紀である。

8093号土坑（ＳＫ8093，第211図）

ＳＫ8090の下層で検出した土坑である。ＳＤ7600の北側からＳＫ8090の南側にまで広がっているが，ＳＤ7600・ＳＫ8090・排水溝に切られ正確な規模は不明である。覆土は３層に分かれ，第１層暗黒褐色粘質土，第２層が暗黒灰色砂土，第３層が暗黒灰色粘質土である。第１・２層の遺存状況は悪く，深さは24cmである。遺物には16世紀の中世土師器がある。

8243号土坑（ＳＫ8243，第211図，図版120）

ＳＫ8274の南の方形に近い長方形の土坑である。規模は南北282cm，東西264cmで，深さは50cmである。床面は平坦で，壁の立ち上がりはしっかりしている。壁の内面には覆土とは別に黒色土が沿って堆積し，黒色土でＳＫ8274との境の壁などをつくっているようである。覆土は砂礫の混じる茶褐色粘質土，暗茶褐色粘質土で，表面が黒色化した礫の混じる層もあり，総じて堅く締まっており人為的に埋め戻しがされたと想定できる。北のＳＫ8274との密接な関係が考えられ，あわせてその性格を考えるのが妥当であろう。遺物には珠洲・越前がある。

8272号土坑（ＳＫ8272，第212図）

ＳＫ8274の南西に位置する不整形の土坑である。壁の立ち上がりはしっかりしており，規模は南北最大212cm，東西最大168cmである。覆土は褐色砂礫土が主体で，深さは27cmである。土坑内の２基の井戸ＳＥ8302・ＳＥ8303は土坑の床面で検出したもので，西肩で切り合うＳＥ8273のみが土坑より新しい。遺物には15世紀後半の中世土師器がある。

8274号土坑（ＳＫ8274，第211図）

南北590cmを測る長方形の土坑である。東側を排水溝に切られる。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦であるが北半がやや深く，特に北東部が一段深くなっている。深さは最深部で78cmである。覆土は基本３層が水平堆積する。第１・２層が焼土・炭化物・礫が混じる暗褐色粘質土，第３層が礫の混じる暗褐色粘質土である。北東部の深い所には，上面を平坦に仕上げた黄褐色砂礫土，その下層には黒褐色粘質土が堆積していた。また，西側半分には褐色砂礫土が堆積し，基本３層との間には不規則な形で，黒褐色粘質土が堆積する。これは大きめに土坑を掘り上げた後，西側を砂礫層で埋め戻し，黒褐色粘質土で壁を仕上げたということが想定できる。ＳＫ8243とは，ＳＫ8274の砂礫層の南北ラインがＳＫ8243の西肩のラインと符合すること，同じように壁を黒色粘質土で仕上げていることなど特徴が似ていることが多い。遺構の性格としては覆土に焼土・炭化物を多く含み，付近に鉄滓を多く出土した遺構があることから，作業場的性格をもつものと考える。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁がある。時期は15・16世紀である。

8279号土坑（ＳＫ8279，第212図）

ＳＫ8272の西で検出した楕円形の土坑である。南北100cm，東西76cmで，深さは33cmを測るが，

床面は凸凹である。覆土は礫の混じる茶褐色粘質土である。遺物には16世紀の瀬戸美濃がある。

8451号土坑（ＳＫ8451，第212図）

Ｘ182～184Ｙ62･63で検出した長方形の土坑である。規模は南北292cm，東西313cmで，南にはＳＤ8440が東西に平行し，北にはＳＤ8470がある。深さは25cmで床面は平坦である。他遺構との切り合いは，ＳＫ8454・ＳＤ8470は土坑に勝つが，ＳＫ8453・ＳＫ8455は土坑に負ける。覆土は主に３層に分けられ，上層がしまった黄褐色粘質土ブロックが混じる茶褐色粘質土，中層は薄くバンド状で茶褐色粘質土が混じる黄褐色粘質土で部分的に黒褐色粘質土がサンドイッチ状に入る。中層は東西セクションの西側では上層と混じった土が堆積し不明確であるが，南北セクション・東西セクションの東側では明確に観察でき，一番特色的な層と言える。下層はやや柔らかく灰褐色粘質土と黄褐色粘質土ブロックが混じる暗茶褐色粘質土で，最下層には部分的に薄く黒褐色粘質土が堆積する。遺物の出土はないが，周辺の遺構の時期から当時期としている。

8530号土坑（ＳＫ8530，第213図）

Ｘ188･189Ｙ64･65で検出した長方形の土坑である。規模は南北205cm，東西242cmで方形に近い。北側にはＳＫ8530ｂが広がり，北端はＳＤ8100と切り合うが新旧関係は不明である。覆土は第１層が礫の混じる黒褐色粘質土(部分的)，第２層が礫の混じる茶褐色粘質土，第３層が黒褐色粘質土が混じる茶褐色粘質土である。床面はあまり平坦ではなく，下層からＳＥ8546を検出した。ＳＫ8530ｂは切り合いではＳＫ8530に負け，覆土は礫の混じる暗茶褐色粘質土の単層で，床面は平坦である。ＳＤ8100との境付近，ＳＫに伴うものと考えるが，検出面から10cmの深さで南北20cm，東西50cmの範囲で藁状の炭化物の広がりを見た。この北側には10cm～20cm大の礫の集積が見られ，中には焼けた礫や石臼片も混じる。遺物には15世紀～16世紀の中世土師器・珠洲がある。

8565土坑（ＳＫ8565，第214図）

Ｘ211･212Ｙ65で検出した長方形の土坑である。規模は南北210cm，東西190cmで，壁の立ち上がりは緩く浅い。覆土は礫の混じる黒褐色粘質土の単層である。土坑内のＳＫ8594・ＳＫ8592は床面下層から検出したものである。遺物には16世紀の中世土師器・瀬戸美濃がある。

8570号土坑（ＳＫ8570，第214図，図版121）

Ｘ216Ｙ67で検出した長方形の土坑である。中央東側を南北に暗渠が走り，東端はわずかに調査区外へ延びる。南北の長さは270cmを測り，深さは40cmである。中央を中心に大小の礫が混じり，中の幾つかは検出面の上面で見られるものもある。覆土は上層の黒褐色粘質土または褐色粘質土の下に，北東部を中心として，黒褐色粘質土に礫と黄褐色粘質土の混じるしまった土が堆積する。貼床の土とも推測されるが，覆土に混じる礫は貼床面の上面にも混じっており確かではない。この土の下層には黒褐色粘質土が堆積する。遺物には15世紀の中世土師器がある。

8580号土坑（ＳＫ8580，第214図）

ＳＫ8570の北東隅で切り合う長方形の土坑である。ＳＫ8570より古いが，南北243cmで南北の軸方向は等しい。北端ではＳＫ8990に負け，土坑内のＳＫ8570ｂ・ＳＫ8570ｃも土坑より新しい。床面は平坦で，覆土は砂礫が少量と炭化物が混じる黒褐色粘質土の単層である。炭化物の中には木片も混じる。遺物には15世紀の中世土師器がある。

8600号・8646号・8656号土坑（ＳＫ8600・ＳＫ8646・ＳＫ8656，第213図，図版121）

Ｘ206～208Ｙ64･65で検出した長方形の土坑である。平面形では１基のように見えるが，３基の土坑が切り合っている。周辺の上面に広がるＳＫ8600は上面に一部残るのみである。覆土は暗灰褐色粘質

土の単層である。外側の掘形をもつものがＳＫ8646で，ＳＫ8656は北西部を中心に完全に重複し，切り合いで勝っている。他の遺構との切り合いは，ＳＫ8618・ＳＫ8619以外はすべてＳＫ8646・ＳＫ8656に勝っている。ＳＫ8646号の覆土は上層が褐色粘質土が混じる黒褐色土，下層が礫の混じる均質な黒褐色土で，２層は明確に識別できる。ＳＫ8656は礫の混じる黒褐色粘質土の単層である。遺物はＳＫ8656から16世紀後半の青花，ＳＫ8646から珠洲が出土している。

8952号土坑（ＳＫ8952，第215図，図版122）

Ｘ161～163Ｙ73～76，調査区幅のほぼ中央で検出した土坑である。長方形の３基の土坑が組み合わされた形状をしている。東側の部分を仮にａとすると，ａは南北405cm，東西305cmの規模である。深さは35cmで，床面は平坦でレベルは他に比べて一番高い。覆土は小砂礫混じりの暗茶褐色土の単層である。南西部をｂとすると，ｂは南北405cm，東西310cmの規模で，中央に同時期と考えるＳＥ8972がある。深さは45cmで，床面のレベルは一番深い。覆土は上層が砂礫の混じる暗黄褐色土で，下層は微量の黄褐色土が混じる暗茶褐色土である。北東部の張り出し部は南北160cm，東西140cmである。深さは35cmであるが，ａの床面より１段下がる。覆土は黒褐色土の単層である。南東隅のＳＥ8953は土坑より古い。このように３基に分かれると言うものの，実際はプランの規格性から見ると，同時に掘り込んだものと考えている。総面積は29.2m²である。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁，石臼があり，ＳＥ8972の遺物との関係から15世紀・16世紀～17世紀に入る時期の遺構と考える。

8960号土坑（ＳＫ8960，第216図，図版122）

調査区の西縁に位置する部分検出した土坑である。検出規模は南北が東で220cm，西で370cm，東西520cmで，台形状である。深さは50cm，床面は平坦，壁の立ち上がりは明確である。覆土は主に明茶褐色粘質土で，南側にはこの下層に礫を含む茶褐色土が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁がある。時期は15世紀・16世紀である。

8961号土坑（ＳＫ8961，第216図，図版122）

ＳＫ8960の北で検出した土坑である。検出規模は南北400cm，東西490cmである。西側は切られるが，長方形を呈するものと考える。壁の立ち上りはしっかりしており，床面は平坦である。この床面でＳＥ9003を検出した。この中には，表面が黒色化した拳大の石が稠密に詰め込まれてあった。覆土は主に黄褐色土粒の混じる暗茶褐色粘質土で，これに礫層・礫と黄褐色土の混じ暗茶褐色土・黒褐色土がセットになってブロック状に堆積する。遺物には珠洲がある。

8965号・8975号土坑（ＳＫ8965・ＳＫ8975，第217図）

ＳＫ8952の北で検出した長方形の土坑である。規模は南北300cm，東西190cmで，主軸方向はＳＫ8952と同じである。北のＳＫ8975・ＳＥ8977との切り合いは勝っている。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は小砂礫・黄褐色土が混じる暗茶褐色土が主体である。遺物には珠洲・青磁があり，時期は14世紀・15世紀であるが，切り合いで勝っているＳＫ8975から越中瀬戸が出土しているため，16世紀・17世紀まで下るであろう。ＳＫ8975は南北250cm，東西220cmの不整方形の土坑である。重複するＳＥ8977はＳＫより古い。壁は西側が直線的に立ち上がるが，東側は緩やかである。覆土は茶褐色土，黄茶褐色土，黄褐色土，礫の混じる茶褐色土，黒褐色土が堆積する。遺物には珠洲，17世紀前半の越中瀬戸がある。

8967号土坑（ＳＫ8967，第217図，図版122）

Ｘ165・166Ｙ81で検出した方形の土坑である。南東隅で切り合っているＳＥ8968には切られる。規模

は南北250cm，東西245cmである。深さは39cmで，床面は平坦である。壁は北・東・西は急角度で立ち上がるが，南壁の中央は緩やかでスロープ状になっている。覆土は主に礫の混じる暗黄褐色土で，最下層に黒色粘質土が堆積する。遺構の性格としては，井戸の付属施設の可能性が高い。遺物には珠洲・青磁がある。時期は15世紀である。

C地区

9133号土坑（SK9133，第218図）

X151～153Y63～67で検出した大型の長方形の土坑である。SD9107・SD9159には切り合いで勝つ。規模は南北390cm，東西880cmである。壁の立ち上がりは緩やかで，床面はあまり平坦を意識していない。覆土は上面の部分的に黄褐色粘土が堆積するが，明茶褐色土と黒褐色土の混土の単層である。遺物には中世土師器・珠洲・青磁・青花がある。時期は15世紀・16世紀である。

9157号土坑（SK9157，第218図）

SK9133の南で検出した土坑である。SK9133より新しい。規模は南北260cm，東西250cmで方形に近い。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は茶褐色砂礫土である。遺物には16世紀の珠洲・白磁，石臼がある。

9311号土坑（SK9311，第219図）

X116Y55で検出した長方形の土坑である。規模は南北200cm，東西180cm，深さ53cmである。壁の立ち上がりは比較的急で，床面は平坦である。覆土は上層が茶褐色粘質土，中層は黄褐色粘質土や茶褐色粘質土に黒褐色粘質土ブロックが混じる土が堆積する。下層は淡青灰色粘質土で最下層には礫が混じる。遺物は出土していないが，方形に区画するSD9313やSD9310の内部に位置しているのでこれに関連する遺構として当時期と考えた。

9315号土坑（SK9315，第220図）

X113・114Y62～66で検出した長方形の土坑である。この地区は路線幅を東西に分けて掘ったため，その境目に位置するSK9315などの遺構は全体像がやや不明確となっている。SK9315の規模は南北最大440cm，東西890cmで，東側は方形状であるが西側はやや膨らみ丸みを帯びる。壁の立ち上がりは緩やかで，床面は平坦である。覆土は3層が水平堆積し，深さは32cmである。上層は中礫の混じる黄褐色粘質土で，SK9316の上面，SK9360の一部上面，及びSK9315の遺構外東側にも広がる。中層は淡茶灰色粘質土，下層は暗茶褐色粘質土である。SK9316とは覆土の様子，等間隔をあけて位置している配置などから，遺構と考える。SK9360なども遺物の出土はないが同様であろう。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁がある。

9316号土坑（SK9316，第220図）

SK9315の北に位置する不整形の長方形の土坑である。規模は南北最大440cm，東西275cm，深さ32cmである。覆土は上層がSK9315と同様の中礫の混じる黄褐色粘質土，中層が淡灰色土，下層が淡茶灰色粘質土である。遺物には中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃，唐津があり，一連の周囲の遺構の時期は17世紀まで下ることがわかる。

9320号土坑（SK9320，第302図）

X118・119Y56で検出した長方形の土坑である。南北125cm，東西90cm，深さ44cmである。覆土は黒褐色粘質土と暗灰褐色粘質土の互層である。遺物の出土はない。挿図では近世で版組をしているが，方形区画の内部に位置することから中世後期の遺構と考えるべきであろう。

9326号土坑（SK9326，第219図，図版123）

X128Y59，ＳＤ9330とＳＤ9343の間で検出した長方形の土坑である。ＳＤ9330には切り合いで勝っている。規模は南北440cm，東西275cm，深さ32cmである。壁の立ち上がりは緩やかで，床面は平坦である。覆土は黄褐色粘質土ブロック（地山）が混じる茶褐色粘質土の単層で，大量の礫が混じる。礫は一気に埋められた感で，この中に遺物が混じる。遺物には珠洲，石臼がある。

9328号土坑（ＳＫ9328，第218図）

X133Y58・59で検出した台形状の土坑。規模は南北310cm，東西最大300cm，深さは32cmである。この土坑も含め周辺の土坑の上面には，茶褐色粘質土・黄褐色粘質土（地山）ブロックが混じる茶褐色粘質土が堆積している。従って，周囲のＳＫ9329・ＳＫ9338・ＳＫ9344は同時期の関連遺構と考えている。ＳＫ9328の覆土は暗茶褐色粘質土で，ＳＫ9329の覆土と同質である。遺物には瀬戸美濃，唐津がある。

9329号土坑（ＳＫ9329，第218図）

ＳＫ9328の東で検出した。平面形は東側が不明瞭であるが長方形を呈し，規模は南北200cm，東西205cm，覆土の堆積状況はＳＫ9328と同じで，深さは32cmである。遺物には中世土師器・珠洲がある。

9331号土坑（ＳＫ9331，第220図）

X110Y62，ＳＤ9305の東で検出した長方形の土坑である。規模は南北158cm，東西150cm，深さ25cmである。覆土は黒褐色粘質土ブロックが混じる暗茶褐色粘質土で，床面近くでは約20cm大の礫を幾つか検出した。遺物には16世紀の瀬戸美濃がある。

9335号土坑（ＳＫ9335，第221図，図版124）

X140Y70，ＳＤ9334とＳＤ9378に囲まれた浅い土坑である。範囲は遺構の切り合いが多く不明であるが，ＳＤ9378・ＳＤ9380・ＳＥ9351に切られるということは明らかである。土坑のみで考えるより，ブロックとして再検討する必要がある。東への広がりについては，東西の境のため不明確である。覆土は黒褐色粘土の単層で，一部下層に帯状に黄白色粘土と赤黄色粘土のブロック層が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁がある。時期は14世紀～16世紀である。

9338号土坑（ＳＫ9338，第218図）

ＳＫ9328の北で検出した長方形の土坑である。規模は南北300cm，東西200cm，深さ44cmである。ＳＫ9338の覆土は黄褐色土（地山）ブロックが混じる黒褐色粘質土で，酸化鉄を含む。遺物は出土していないが，ＳＫ9328と同時期と考える。

9340号土坑（ＳＫ9340）

ＳＤ9301により方形に区画された内部のX122・123Y55・56で検出した長方形の土坑である。規模は南北230cm，東西370cmで，西壁の立ち上がりが不明瞭である。覆土はほぼ暗茶褐色粘質土の単層である。遺物の出土はないが，長軸方向から北に隣接するＳＫ9345の関連施設と考える。

9344号土坑（ＳＫ9344，第218図）

ＳＫ9338の西に位置する長方形の土坑である。規模は南北292cm，東西212cm，深さ48cmである。壁の立ち上がりは直角に近く，床面は平坦である。覆土は黒褐色粘質土である。遺物には16世紀の瀬戸美濃がある。

9345号土坑（ＳＫ9345）

ＳＫ9340の北に隣接する土坑である。規模は南北460cm，東西約400cm，深さ35cmで，西壁の立ち上がりが不明瞭である。覆土は上面が黒褐色粘質土で，この下層で白色砂質土ブロックが多く混じる黄褐色粘質土の貼床面を検出している。ＳＢ206に伴う竪穴状土坑の可能性が高い。遺物には中世土師

器・珠洲・瀬戸美濃・青磁がある。時期は15世紀・16世紀である。

9360号土坑（ＳＫ9360，第220図）

ＳＫ9315の南に隣接する不整形の土坑である。南北535cm，東西770cm，深さは48cmを測る。断面観察による覆土の違いから，２遺構の可能性がある。ＳＫ9315・土坑内のＳＥ9658には切り合いで負けている。覆土は北側に暗茶褐色粘質土，南側には中礫の混じる灰褐色粘質土，黄褐色粘質土が堆積し，南側のほうが後に堆積したものである。遺物の出土はないが，ＳＫ9315・ＳＫ9316の関連遺構と考える。

9673号土坑（ＳＫ9673，第308図）

Ｘ109～111Ｙ72･73で検出した長方形の土坑である。規模は南北565cm，東西440cm，深さ34cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。中央にある柱根をもつＳＫ9678には切り合いで負ける。覆土は上層が地山土が混じる茶褐色粘質土，下層が地山土が混じる黒色土，最下層に薄く黒褐色粘質土が堆積する。遺物は珠洲・青磁があり，時期は15世紀後半～16世紀である。

9690号土坑（ＳＫ9690，第308図）

Ｘ112～115Ｙ73で検出した長方形の土坑である。切り合いでは，ＳＫ9685・ＳＫ9705に負ける。規模は南北690cm，東西180cm，深さ55cmである。覆土は主に茶褐色粘質土，暗黄褐色土，灰茶褐色粘質土，暗灰褐色粘質土，暗灰色粘質土の順に堆積する。特に暗灰褐色粘質土は厚さ約10cmで，全面に広がる。遺物には珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁がある。時期は16世紀である。

9738号土坑（ＳＫ9738，第224図）

Ｘ120･121Ｙ73･74で検出した長方形の土坑である。規模は南北285cm，東西310cm，深さ35cmを測る。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面も平坦である。この床面からはＳＥ9759を検出した。覆土は暗茶褐色土で，上層は黄褐色土が霜降り状，下層は黄褐色土がブロック状に混じる。覆土中には大小の礫が多く混じり，特に北西ブロックと南側中央に多い。遺物には中世土師器・越前・瀬戸・瀬戸美濃がある。時期は15世紀・16世紀である。

9742号土坑（ＳＫ9742，第222図，図版123）

Ｘ119･120Ｙ70で検出した長方形の土坑である。西のＳＫ9746と接し，主軸方向は同じである。北側で重複するＳＫ9743，西側で重複するＳＫ9742とは切り合いで負ける。規模は南北260cm，東西225cm，深さ28cmである。覆土は黄褐色土ブロックが混じる茶褐色土である。遺物は16世紀の中世土師器が出土している。

9743号土坑（ＳＫ9743，第222図，図版123）

ＳＫ9742の北側上面で検出した長方形の土坑である。上面から確認できたが，覆土が異なるだけで床面は同じである。規模は南北95cm，東西120cm，深さ18cmである。覆土はしまった暗茶褐色土，黒褐色土，暗茶褐色粘質土の順に上から堆積している。床面直上から瀬戸美濃の天目茶碗が伏せた状態で出土した。時期は16世紀前半である。

9746号土坑（ＳＫ9746，第222図，図版123）

ＳＫ9742の西に隣接する長方形の土坑である。北で切り合うＳＫ9747よりは新しい。規模は南北335cm，東西210cm，深さ32cmである。壁の立ち上がりは直角に近く，床面は平坦である。覆土はほぼ黄褐色土ブロックが混じる茶褐色土の単層で，ＳＫ9742の覆土と似ている。遺物には中世土師器・瀬戸美濃がある。

9747号・9757号土坑（ＳＫ9747・ＳＫ9757，第222図）

ＳＫ9746の北に位置するやや丸みを帯びた長方形の土坑である。ＳＫ9747はＳＫ9757の南西部と重複するものであるが，覆土が異なるだけであり，同一の遺構の可能性もある。ＳＫ9747の規模は東西203cmで，覆土は上層が茶褐色土ブロックと黄褐色土ブロックの混土で，下層は茶褐色土が霜降り状に混じる黄褐色土である。ＳＫ9757は東西290cmを測り，覆土は上層が黒褐色土，下層が暗茶褐色土である。深さはＳＫ9747と同じで38cm，ＳＫ9746に比べると若干深くなる。遺物はＳＫ9757から中世土師器が出土している。

9761号土坑（ＳＫ9761，第219図）

Ｘ123Ｙ71で検出した長方形の土坑である。東西に暗渠，畦畔ブロックが上面を走るため攪乱が著しい。規模は南北195cm，東西185cm，深さ42cmである。覆土は暗茶褐色粘質土が主体であるが，攪乱によるものも含まれよう。遺物には珠洲がある。

9787号土坑（ＳＫ9787，第223図）

Ｘ129Ｙ75で検出した台形状の土坑である。西辺に比べ東辺が長い。南のＳＫ9786には切り合いで負ける。規模は東辺で南北285cm，東西310cm，深さ37cmである。壁の立ち上がりは直角に近く，床面は平坦である。覆土は地山ブロックが混じる暗茶褐色粘質土の単層である。地山ブロックはかなりしまったもので，斜め方向から混入する。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃がある。時期は16世紀である。

9799号土坑（ＳＫ9799）

Ｘ126Ｙ69・70で検出した長方形の土坑である。規模は南北200cm，東西370cm，深さ30cmである。床面は平坦で，覆土は場所によっていろいろな土が混じるが，主体は地山土が混じる暗茶褐色粘質土である。西側に位置するＳＫ9802との切り合いは微妙なもので，ほとんど同時期の遺構と考える。遺物には15世紀の珠洲・青磁がある。

9800号・9801号土坑（ＳＫ9800・ＳＫ9801）

ＳＫ9799の北に位置する不整形の土坑である。ＳＫ9800はＳＫ9801の北側で重複する。ＳＫ9801の規模は南北600cm，東西330cm，深さ30cmである。ＳＫ9800はＳＫ9801とは覆土の違いで分けた浅い土坑で，覆土は暗茶褐色粘質土と黄褐色粘質土の２層である。ＳＫ9801の覆土は上層が茶褐色粘質土，中層が約10cm弱の厚さの黄褐色粘質土，最下層が黒褐色粘質土である。ＳＫ9800の下層とＳＫ9801の中層の黄褐色粘質土層は貼床状，または整地面の層と考えられる特徴的な層である。遺物はＳＫ9800から珠洲，ＳＫ9801から中世土師器・珠洲が出土している。時期は15世紀・16世紀である。

9853号土坑（ＳＫ9853，第223図）

Ｘ132～134Ｙ74・75で検出した長方形の土坑である。南のＳＥ9854には切り合いで負ける。規模は南北320cm，東西265cm，深さ28cmである。床面は平坦である。覆土は上面中央に薄くしまった黒褐色土が堆積し，その下層には黄褐色土ブロックが混じる暗茶褐色土が堆積する。そしてこの下層には部分的に（東肩際，北側半分）暗茶褐色礫土が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青花，砥石がある。時期は16世紀である。

10105号土坑（ＳＫ10105，第225図）

Ｘ105Ｙ51で検出した不整方形の浅い落ち込み状の土坑である。南北275cm，東西240cmの規模で，深さも16cmと浅く，床面も平坦ではない。覆土は黒褐色土が主体である。遺物には中世土師器，越中瀬戸がある。時期は16世紀末～17世紀初である。

10106号・10107号土坑（ＳＫ10106・ＳＫ10107，第225図）

X104・105Y52～54，C１地区とC２地区の境で検出した土坑である。北側は東西に排水溝が走り，その北側上面は削平を受けている。SK10107は南北335cm，東西425cmの長方形で，床面は平坦，深さは38cmである。覆土は肌色粘土と黒色粘質土の混土で，最下層には黒褐色土が堆積し，この中から珠洲の甕胴部片が出土している。遺物はこの他に中世土師器・瀬戸美濃がある。時期は16世紀である。SK10106は，SK10107の南で部分検出した土坑である。覆土はしまりのない黒褐色土の単層である。遺物の出土はないが，切り合いから16世紀以前であろう。

10108号土坑（SK10108，第225図）

SD10101とSD10103との接点の北側で検出した，直径80cmの円形の土坑である。深さは35cmで，底は丸く，20cm～30cm大の礫を底に置く。覆土は炭化物が多量に混じる暗茶褐色土で，上面から珠洲の甕が一括して出土した。量は口縁部から胴部上半２分の１で，破片の断面に漆で接合した痕があるものがある。他には15世紀後半の中世土師器・14世紀の青磁，石臼がある。

10114号・10115号土坑（SK10114・SK10115，第226図）

X78～80Y80，調査区の西際で検出した土坑である。南側はSD10116に切られる。北側のSD10113とはほぼ同時期の遺構と考える。SK10114はSK10115の上面にある土坑で，深さ20cm，覆土は黒褐色土の単層である。遺物は15世紀後半の中世土師器と，混入と考える唐津がある。SK10115はSK10114の床面で南北200cm，西側は調査区外に延びる。覆土は上層が灰色粘質土が混じる黒色粘質土，下層は黒色粘質土である。遺物には珠洲，加工木・箸がある。特にSK10115は西に延びる溝の可能性もある。

10119号土坑（SK10119，第226図）

X56Y47で検出した長方形の土坑である。中央を南北に暗渠が走る。規模は東西が208cm，南北が185cmである。深さは10cmと浅いが，壁の立ち上がりはしっかりしている。覆土は暗茶褐色土の単層で，西側には下層に薄く黒褐色土が堆積する。遺物は出土していないが，中世後半のSD10117に平行していることからこれと同時期と考える。

10123号土坑（SK10123，第227図）

X70Y53，調査区の中央で検出した不整形の土坑である。南北212cm，東西465cmを測る。中央は南北のブロック埋設物の攪乱を受ける。深さは10cmと浅く，覆土は橙色粘土ブロックが混じる黒色粘質土の単層である。遺物には珠洲がある。

10136号土坑（SK10136，第227図）

SK10123の南で検出した長方形の土坑である。南北270cm，東西512cmを測る。深さは20cmで，壁の立ち上がりもしっかりしており，床面も平坦である。覆土は橙色粘土ブロックが混じる黒色粘質土で，SK10123の覆土と似る。遺物の出土はないが，SK10123と同時期と考える。

10162号土坑（SK10162，第229図）

X66Y56で検出した円形の土坑である。井戸の可能性もある。この周辺にはこの他にも深さ１ｍ弱の円形の土坑が散在し，井戸かどうか判断しかねるものが多い。この土坑は直径100cmの円形で，深さ63cm，掘形は円筒形で底は平坦である。覆土は黒色土と礫の混じる黒色土の互層である。遺物には中世土師器（鉢）・表面に陰刻で文様が施された石硯片がある。

10174号土坑（SK10174，第229図）

X75Y56で検出した円形の土坑である。井戸の可能性もある。直径72cmで，覆土は礫が多量に混じる黒色粘質土である。北東隅には長楕円の礫を２個平行して肩に埋めており，足場にでも利用したものであろうか。遺物には珠洲・越前，石臼，加工木・箸がある。

10175号土坑（ＳＫ10175，第229図）

Ｘ78Ｙ57で検出した円形の土坑で，井戸の可能性もある。直径65cmで，掘形は先すぼまりの円筒形である。深さは67cm，覆土は黒色粘質土の単層である。遺物には珠洲・越前，加工木・漆器がある。

10177号土坑（ＳＫ10177，第229図）

Ｘ81Ｙ58で検出した円形の土坑である。南半分が暗渠に切られ，この遺構も井戸の可能性がある。覆土は黒色土で，遺物には石硯，加工木がある。

10181号土坑（ＳＫ10181，第229図）

Ｘ81Ｙ59で検出した楕円形の土坑である。南北116cm，東西93cmの楕円形の土坑である。深さ50cmで掘形は円筒形，覆土は礫の混じる黒色粘質土と青灰色粘質土の混土である。遺物には珠洲，五輪塔がある。

10182号土坑（ＳＫ10182，第229図）

ＳＫ10181の北で検出した楕円形の土坑である。南北74cm，東西95cm，深さ50cmである。覆土は第１層黒色粘質土と青灰色粘質土の混土，第２層暗灰色粘質土，第３層黒褐色粘質土，第４層青灰色粘質土ブロックが混じる黒褐色粘質土である。第４層の底面近くからは柄杓が出土している。

10184号土坑（ＳＫ10184，第229図）

Ｘ84Ｙ60で検出した楕円形の土坑である。井戸の可能性もある。規模は南北100cm，東西88cmである。掘形は円筒形，深さ73cmである。覆土は黒色粘質土，およびこれに青灰色粘質土ブロックが混じる土であるが，第２層には有機物が混じる。遺物には15世紀後半の中世土師器・珠洲，曲物・漆器・加工木がある。

10186号土坑（ＳＫ10186，第228図，図版125）

ＳＫ10184の西で検出した土坑である。規模は直径85cmで，深さ27cmである。壁は直角に立ち上がり，床面は平坦である。壁面から木片，床面直上から２片に割れた，上面がレンズ上にくぼむ加工石を検出した。他に珠洲が出土している。

10191号土坑（ＳＫ10191，第228図，図版125）

ＳＫ10186の北西方向で検出した土坑である。西側半分を暗渠に切られる。直径60cmの円形を呈するものと考える。床面近くから珠洲の甕口縁部片１点，越前の甕口縁部片１点・胴部片３点，信楽の胴部片１点が出土した。時期は珠洲がⅤ期，越前が14世紀である。問題は破片の時期よりも，故意に異なる種類の破片が集められて埋められていることであろう。何らかの意味をもつ行為と考えられる。

10198号土坑（ＳＫ10198，第228図，図版125）

ＳＫ10191の南方の方向にある土坑である。規模は南北75cm，東西約60cmである。東側半分を暗渠に切られる。覆土は黒色粘質土主体で，深さ36cmである。この土坑の10cm掘り下げた地点で和鏡を検出した。鏡は直径5.9cm，縁高0.5cm，「洲浜水草双鳥鏡」である。普通当期の鏡は祭祀遺構や経塚などから出土することが多いのに対し，このような出土の例は少ない。時期は15世紀以降である。

10216号土坑（ＳＫ10216，第228図）

Ｘ85Ｙ65で検出した長方形の土坑である。中央を東西にＳＤ10214が走る。切り合いは溝のほうが新しい。規模は南北95cm，東西435cm，深さ８cmである。覆土は黒色粘質土で，溝の覆土とあまり変わらない。遺物の出土はないが，溝との切り合いから16世紀以前の時期と考える。

10218号・10219号土坑（ＳＫ10218・ＳＫ10219，第228図）

Ｘ100Ｙ68･69，Ｃ１地区とＣ２地区の境で検出した土坑である。ＳＫ10218はＳＫ10219との切り合

いでは勝つが，ほとんど同時期と考える。ＳＫ10218の規模は東西292cm，南北約140cmの長方形である。深さは26cmで床面は平坦である。覆土は黒褐色土が主体で，遺物には中世土師器・16世紀の瀬戸美濃がある。ＳＫ10219は西側が長方形に一段下がる土坑で，規模は不明である。覆土は肌色粘土ブロックが混じる黒色土である。遺物には中世土師器がある。

10222号土坑（ＳＫ10222，第229図）

Ｘ89Ｙ69，ＳＤ10214が東から南に直角に曲がる地点の下層で検出した土坑である。規模は南北130cm，東西100cmの長方形で，ＳＤ10214の西肩の内側にすっぽり入る。断面形は逆台形で，深さ86cmである。覆土は黒色粘質土に青灰色粘質土が混じる土が主体である。遺物の出土はないが，ＳＤ10214から16世紀の遺物が出土していることから，16世紀以前と考える。

10231号土坑（ＳＫ10231，第228図，図版125）

ＳＥ10255の南で検出した土坑である。南北87cm，東西64cmの不整円形を呈する。深さ14cmの中央で礎盤と推測される木製品を検出した。木製品の種類は盤または鉢のようなもので水平に置かれており，底部は完形であるが，口縁部は約３分の１しか残っていない。断面・表面の一部が炭化している。内部と横には珠洲の胴部片も検出した。覆土は木製品の内部は黒色土，外部は黒色土の混じる青灰色粘質土が充塡されていた。建物は検出されていないが，柱穴の可能性が高い。

10268号土坑（ＳＫ10268，第228図，図版125）

Ｘ92Ｙ62で検出した不整円形の土坑である。直径は約58cm，深さ27cmである。土坑の中央では，西に傾いた状態で完形の石臼（上臼）を検出した。

10444号土坑（ＳＫ10444，第230図）

Ｘ15Ｙ49，ＳＤ10438の東側で検出した土坑である。規模は南北146cm，東西157cmで方形に近い。壁の立ち上がりはしっかりしており，深さは15cmと浅い。覆土は黒褐色粘質土で，下層に薄く黄褐色粘質土に黒褐色粘質土が混じる土が堆積する。遺物の出土はないが，溝との関係や，覆土から当時期にあてた。

10445号土坑（ＳＫ10445，第230図）

ＳＫ10444の南で検出した土坑である。規模は南北330cm，東西221cmの長方形で，深さは13cmである。床面はほぼ平坦で，壁は緩やかに立ち上がる。覆土はＳＫ10444と同様である。遺物の出土はないが，ＳＫ10444と同時期で関連遺構と考える。

10467号土坑（ＳＫ10467，第230図，図版125）

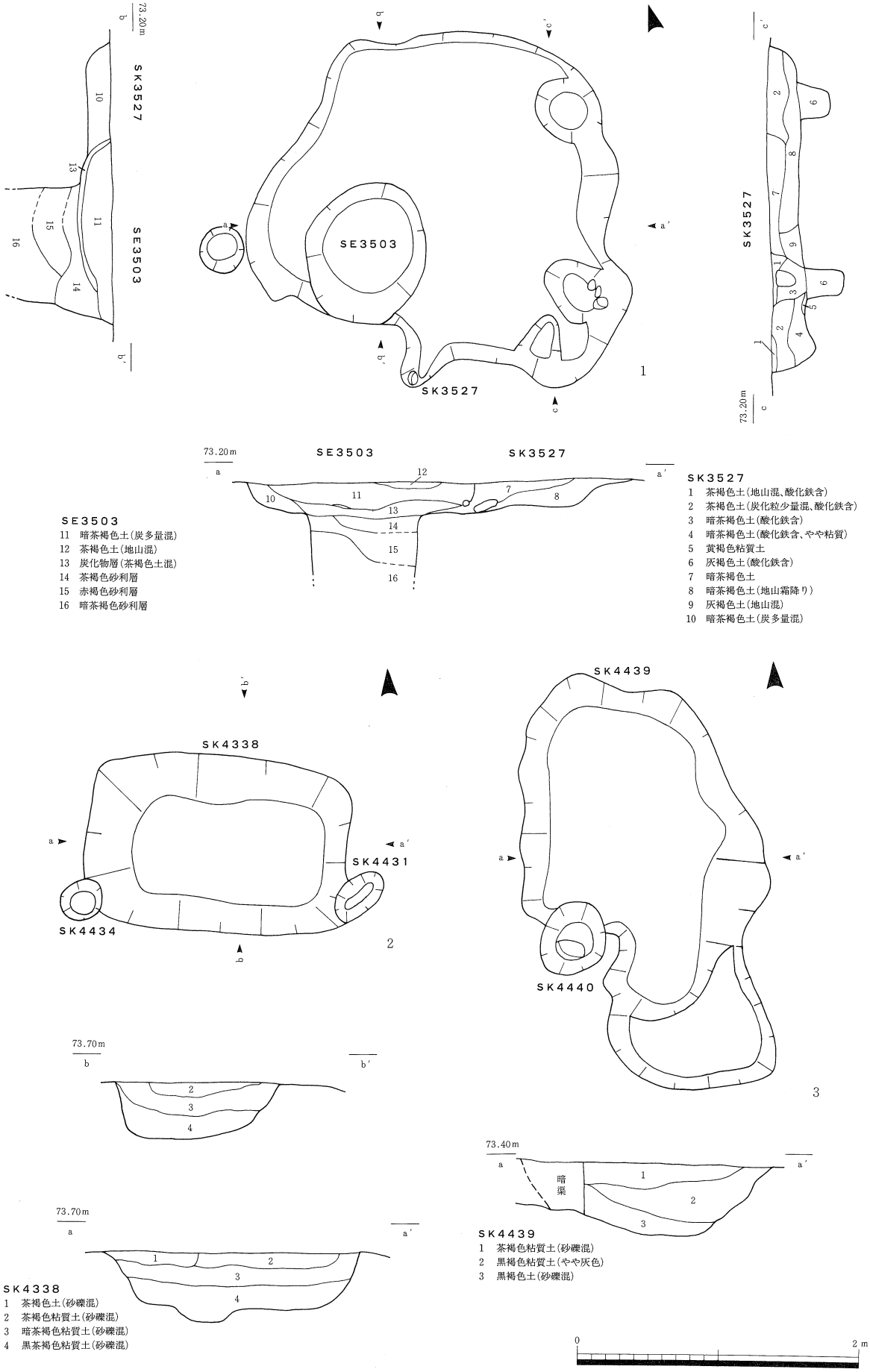
Ｘ43Ｙ50で検出した円形の土坑である。直径79cmで，深さ49cmである。床面近くから，内外面黒色で表面が磨かれた瓦質土器が割れた状態で検出された。底部は完形であるが，口縁部片は２分の１しか検出されなかった。時期は当期またはそれ以降であろう。（宮田進一　島田美佐子　田中道子）

遺構番号	整理番号	地　区	平面形	規模：長	規模：短	規模：深	覆　　土	出　土　遺　物	備　　考	時　　期
ＳＫ814	ＳＫ114	Ａ１	楕円形	125	59	8	暗茶褐色土・黄褐色土	中世土師器・瀬戸美濃		
ＳＫ1369	ＳＫ669	Ａ１	－	－	－	－		中世土師器・青磁・青花		13･16Ｃ
ＳＫ1436	ＳＫ736	Ａ１	方形	162	67	62	暗黄茶褐色土	青磁・青花		13･16Ｃ
ＳＫ2244	ＳＫ44	Ａ２	円形	173	－	37	褐色土	中世土師器・瀬戸美濃		
ＳＫ2455	ＳＫ255	Ａ２	不整形	－	350	42	褐色土	中世土師器・白磁・青磁		13･14･15Ｃ
ＳＫ3008	ＳＫ08	Ａ３Ｎ	方形	440	330	20	茶褐色土	中世土師器・瀬戸美濃		16Ｃ
ＳＫ3009	ＳＫ09	Ａ３Ｎ	方形	240	200	36	茶褐色土	土師器・須恵器・中世土師器・鉄滓		
ＳＫ3010	ＳＫ10	Ａ３Ｎ	方形	410	300	46	茶褐色土	中世土師器・珠洲		14Ｃ
ＳＫ3015	ＳＫ15	Ａ３Ｎ	不整形	163	－	－	茶褐色土	中世土師器	ＳＫ3015＞ＳＫ3008	
ＳＫ3016	ＳＫ16	Ａ３Ｎ	方形	280	226	44	黒茶褐色土	中世土師器・瀬戸美濃・青花		16Ｃ
ＳＫ3411	ＳＫ11	Ａ３Ｓ	方形	120	90	6	茶褐色土	中世土師器・珠洲・青磁		13･15Ｃ
ＳＫ3598	ＳＫ198	Ａ３Ｓ	円形	21	－	17	褐色土	中世土師器・瀬戸	ＳＥ3599＞ＳＫ3598	14･15Ｃ
ＳＫ3627	ＳＫ227	Ａ３Ｓ	不整形	－	171	6	黄褐色土	中世土師器・青磁		15Ｃ
ＳＫ3691	ＳＫ291	Ａ３Ｓ	方形	514	363	74	黒褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・白磁・青磁・羽口		15Ｃ
ＳＫ3748	ＳＫ348	Ａ３Ｓ	方形	210	165	49	暗褐色土・黒褐色土	中世土師器		13･14･15Ｃ
ＳＫ3967	ＳＫ567	Ａ３Ｓ	不整形	216	198	15	茶褐色土	中世土師器		15Ｃ初
ＳＫ4338	ＳＫ38	Ｂ１	方形	182	116	50	茶褐色粘質土・茶褐色土・暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		
ＳＫ4356	ＳＫ56	Ｂ１	楕円形	77	69	49	茶褐色粘質土	中世土師器・青磁		14･15･16Ｃ
ＳＫ4389	ＳＫ89	Ｂ１	円形	98	－	37	焦茶色粘質土・礫	中世土師器・珠洲		15･16･17Ｃ
ＳＫ4439	ＳＫ139	Ｂ１	不整形	310	178	51	茶褐色粘質土・黒褐色粘質土	－		
ＳＫ4456	ＳＫ156	Ｂ１	不整形	87	－	30	黒褐色土	中世土師器・珠洲		15Ｃ
ＳＫ4610	ＳＫ10	Ｂ１－３	方形	95	23	44	暗黄白色土	瀬戸美濃		16Ｃ
ＳＫ4611	ＳＫ11	Ｂ１－３	方形	470	314	20	黒褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁・箸		14･15Ｃ後半～16Ｃ中頃
ＳＫ4614	ＳＫ14	Ｂ１－３	楕円形	170	80	25	茶褐色土	中世土師器		15Ｃ
ＳＫ4623	ＳＫ23	Ｂ１－３	方形	410	265	24	黒茶褐色粘質土	中世土師器・漆器		14･15Ｃ
ＳＫ4666	ＳＫ66	Ｂ１－３	方形	110	100	44	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲		15Ｃ
ＳＫ4686	ＳＫ86	Ｂ１－３	不整形	－	－	14	灰茶褐色粘質土	中世土師器		15Ｃ
ＳＫ4714	ＳＫ114	Ｂ１－３	不整形	－	－	14	灰茶褐色粘質土	中世土師器		15Ｃ
ＳＫ4745	ＳＫ145	Ｂ１－３	円形	95	－	35	茶褐色土	珠洲・瀬戸美濃		16Ｃ
ＳＫ4803	ＳＫ03	Ｂ	不整形	275	175	19	黒褐色土に肌色粘質土ブロック	中世土師器・珠洲		14･15Ｃ
ＳＫ4809	ＳＫ09	Ｂ	方形	300	165	26	黒褐色粘質土に橙色土ブロック	須恵器・越前・瀬戸美濃		16Ｃ
ＳＫ4812	ＳＫ12	Ｂ	不整形	－	45	11	暗茶褐色土	瀬戸美濃		16Ｃ
ＳＫ4815	ＳＫ15	Ｂ	円形	95	92	44	暗茶褐色土	越前・加工木		16Ｃ
ＳＫ4818	ＳＫ18	Ｂ	楕円形	71	65	40	黒褐色粘質土	中世土師器・漆器		14･15Ｃ
ＳＫ4821	ＳＫ21	Ｂ	不整楕円形	140	110	44	黒灰色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・白磁・石製暖房具・しゃもじ・加工木		13･14･15･16Ｃ
ＳＫ4824	ＳＫ24	Ｂ	円形	87	－	48	－	中世土師器・瀬戸美濃		15･16Ｃ
ＳＫ4825	ＳＫ25	Ｂ	不整形	150	110	20	－	中世土師器・青花・加工木		15･16Ｃ
ＳＫ4826	ＳＫ26	Ｂ	楕円形	92	88	44	黒褐色粘質土	須恵器・中世土師器		15Ｃ後半
ＳＫ4838	ＳＫ38	Ｂ	楕円形	100	75	61	－	中世土師器・加工木		15Ｃ後半
ＳＫ4840	ＳＫ40	Ｂ	方形	83	83	47	－	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・箸・曲物・加工木		15･16Ｃ
ＳＫ4848	ＳＫ48	Ｂ	楕円形	90	75	33	－	中世土師器・珠洲・曲物	，	15Ｃ後半
ＳＫ4850	ＳＫ50	Ｂ	楕円形	80	65	41	－	中世土師器・珠洲		15Ｃ
ＳＫ4852	ＳＫ52	Ｂ	円形	53	－	28	－	中世土師器・箸・曲物・底板・加工木		16Ｃ
ＳＫ4853	ＳＫ53	Ｂ	円形	53	－	74	黒褐色粘質土	須恵器・石臼・木製椀・加工木		
ＳＫ4858	ＳＫ58	Ｂ	楕円形	90	70	73	黒褐色粘質土	曲物・加工木		
ＳＫ4862	ＳＫ62	Ｂ	方形	64	59	92	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・加工木		15Ｃ
ＳＫ4866	ＳＫ66	Ｂ	楕円形	95	80	41	黒褐色粘質土	瀬戸美濃・羽口・石臼・曲物・加工木		16Ｃ
ＳＫ4867	ＳＫ67	Ｂ	楕円形	91	62	29	－	石臼・漆器		
ＳＫ4868	ＳＫ68	Ｂ	方形	35	35	29	－	瀬戸美濃		16Ｃ
ＳＫ4878	ＳＫ78	Ｂ	楕円形	80	70	21	－	中世土師器・箸		15Ｃ後半
ＳＫ4882	ＳＫ82	Ｂ	方形	100	86	58	－	瀬戸美濃・青磁		15･16Ｃ
ＳＫ4883	ＳＫ83	Ｂ	方形	145	130	103	－	中世土師器・瀬戸美濃・白磁・石臼		16Ｃ
ＳＫ4884	ＳＫ84	Ｂ	楕円形	60	52	32	黒褐色粘質土	中世土師器・砥石・打製石斧		15Ｃ
ＳＫ4884	ＳＫ95	Ｂ	楕円形	68	47	27	－	中世土師器・瀬戸美濃・下駄		14･15･16Ｃ
ＳＫ4903	ＳＫ103	Ｂ	方形	70	70	40	－	中世土師器・珠洲・加工木		15Ｃ
ＳＫ4904	ＳＫ104	Ｂ	不整形	200	90	51	－	中世土師器・加工木		15Ｃ
ＳＫ4905	ＳＫ105	Ｂ	楕円	82	38	40	黒褐色粘質土	中世土師器		15Ｃ
ＳＫ4909	ＳＫ109	Ｂ	横円形	138	96	92	－	中世土師器・伊万里		16Ｃ
ＳＫ4916	ＳＫ116	Ｂ	方形	102	85	57	－	中世土師器・珠洲・加工木		15Ｃ後半
ＳＫ5004	ＳＫ2004	Ｂ２Ｎ	楕円形	80	70	68	暗褐色粘質土	中世土師器・底板		15Ｃ
ＳＫ5007	ＳＫ2007	Ｂ２Ｎ	円形	63	≒	82	黒褐色粘質土	中世土師器		15Ｃ～16Ｃ
ＳＫ5069	ＳＫ2069	Ｂ２Ｎ	円形	70	－	57	暗茶灰色粘質土	中世土師器		15Ｃ
ＳＫ5073	ＳＫ2073	Ｂ２Ｎ	楕円形	80	70	62	暗茶褐色土	石臼		
ＳＫ5075	ＳＫ2075	Ｂ２Ｎ	方形	560	－	35	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・羽釜		
ＳＫ5078	ＳＫ2078	Ｂ２Ｎ	楕円形	60	52	63	暗茶灰色土	中世土師器・底板・加工木		15･16Ｃ
ＳＫ5085	ＳＫ2085	Ｂ２Ｎ	方形	60	40	44	暗茶褐色粘質土	中世土師器		15･16Ｃ
ＳＫ5087	ＳＫ2087	Ｂ２Ｎ	不整形	97	57	48	－	中世土師器		15Ｃ
ＳＫ5089	ＳＫ2089	Ｂ２Ｎ	楕円形	180	121	80	暗茶褐色土・暗灰色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁		
ＳＫ5098	ＳＫ2098	Ｂ２Ｎ	円形	90	－	28	暗褐色粘質土	中世土師器		15Ｃ
ＳＫ5100	ＳＫ2100	Ｂ２Ｎ	円形	105	－	99	灰褐色粘質土	珠洲・曲物・底板・加工木		
ＳＫ5134	ＳＫ2134	Ｂ２Ｎ	方形	70	70	69	暗黒灰色粘質土	中世土師器		15Ｃ？
ＳＫ5332	ＳＫ2332	Ｂ２Ｎ	方形	153	145	16	黒褐色土	中世土師器・銅銭		
ＳＫ5333	ＳＫ2333	Ｂ２Ｎ	方形	228	－	20	黒褐色土	珠洲		
ＳＫ5338	ＳＫ2338	Ｂ２Ｎ	方形	90	43	20	暗褐色粘質土	珠洲		
ＳＫ5383	ＳＫ2383	Ｂ２Ｎ	方形	230	－	63	黒褐色土・黄褐色土	中世土師器・銅製品・加工木		15Ｃ
ＳＫ5390	ＳＫ2390	Ｂ２Ｎ	楕円形	123	98	79	灰黒色粘質土	中世土師器・珠洲・漆器・底板・杭		
ＳＫ5421	ＳＫ2421	Ｂ２Ｎ	方形	85	60	51	暗黒灰色粘質土	焼石		
ＳＫ5475	ＳＫ2475	Ｂ２Ｎ	－	－	－	10	暗茶褐色粘質土	土師器・中世土師器・珠洲		15Ｃ
ＳＫ5482	ＳＫ2482	Ｂ２Ｎ	方形	510	384	44	灰黒色土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花・石臼		16Ｃ
ＳＫ6025	ＳＫ125	Ｂ２	円形	130	－	48	暗褐色粘土	銅銭		
ＳＫ6044	ＳＫ144	Ｂ２	方形	185	135	30	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲		
ＳＫ6045	ＳＫ145	Ｂ２	方形	100	－	22	暗褐色粘質土	－		
ＳＫ6046	ＳＫ146	Ｂ２	方形	68	－	91	黒褐色粘質土	中世土師器・銅製品		15Ｃ
ＳＫ6058	ＳＫ158	Ｂ２	方形	166	145	20	黒褐色粘質土	珠洲		
ＳＫ6213	ＳＫ313	Ｂ２	楕円形	360	－	35	暗褐色粘質土	中世土師器・越前・瀬戸美濃		16Ｃ後半
ＳＫ6248	ＳＫ348	Ｂ２	不整形	218	56	18	－	－		
ＳＫ6608	ＳＫ708	Ｂ２	楕円形	110	－	142	黒褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・石臼・切石		
ＳＫ6609	ＳＫ709	Ｂ２	方形	212	205	95	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・越前・唐津		15・16Ｃ
ＳＫ6616	ＳＫ716	Ｂ２	方形	290	245	35	黒褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃		15Ｃ
ＳＫ7221	ＳＫ121	Ｂ３	不整形	175	120	24	焦茶色粘質土	中世土師器		15Ｃ後半
ＳＫ7229	ＳＫ129	Ｂ３	方形	76	65	24	黒灰色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃		16Ｃ
ＳＫ7235	ＳＫ135	Ｂ３	方形	132	100	37	黒褐色粘質土	中世土師器・青花		15Ｃ後半・16Ｃ
ＳＫ7260	ＳＫ160	Ｂ３	楕円形	105	80	87	－	瀬戸美濃		16Ｃ
ＳＫ7318	ＳＫ218	Ｂ３	不整形	180	142	22	黒褐色粘質土	珠洲		
ＳＫ7323	ＳＫ223	Ｂ３	円形	60	－	19	黒褐色土	中世土師器・瀬戸美濃		15Ｃ後半
ＳＫ7329	ＳＫ229	Ｂ３	楕円形	90	70	28	黄茶褐色土	中世土師器		15Ｃ～16Ｃ初
ＳＫ7330	ＳＫ230	Ｂ３	方形	105	80	78	暗黄褐色土	中世土師器・青磁		14Ｃ後半～15Ｃ
ＳＫ7448	ＳＫ348	Ｂ３	円形	180	－	34	明赤黄色粘質土	中世土師器		16Ｃ
ＳＫ7511	ＳＫ411	Ｂ３	楕円形	255	200	53	黄褐色粘質土と茶褐色粘質土との混土	中世土師器		16Ｃ
ＳＫ7570	ＳＫ470	Ｂ３	楕円形	350	－	51	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲		15Ｃ～
ＳＫ7633	ＳＫ533	Ｂ３	方形	392	195	14	暗茶褐色粘質土	中世土師器		
ＳＫ7675	ＳＫ575	Ｂ３	方形	430	168	35	－	中世土師器・珠洲		
ＳＫ7686	ＳＫ586	Ｂ３	方形	160	140	26	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		15Ｃ
ＳＫ7890	ＳＫ790	Ｂ３	方形	292	182	37	淡茶褐色砂礫層	－		
ＳＫ7891	ＳＫ791	Ｂ３	方形	420	218	31	明褐色砂礫層	珠洲		
ＳＫ7955	ＳＫ855	Ｂ３	方形	178	－	20	暗茶褐色粘質土	瀬戸美濃		
ＳＫ7962	ＳＫ862	Ｂ３	方形	238	135	20	茶褐色粘質土	中世土師器・火舎		
ＳＫ7980	ＳＫ880	Ｂ３	不整形	195	120	33	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃		
ＳＫ7981	ＳＫ881	Ｂ３	不整形	150	120	16	暗茶褐色粘質土	珠洲		
ＳＫ7990	ＳＫ890	Ｂ３	不整形	294	97	48	暗茶褐色粘質土	珠洲		15Ｃ
ＳＫ8007	ＳＫ907	Ｂ３	方形	222	180	17	－	八尾・珠洲		
ＳＫ8057	ＳＫ957	Ｂ３	楕円形	128	72	19	明茶褐色粘質土	中世土師器・青磁		15Ｃ末
ＳＫ8061	ＳＫ961	Ｂ３	方形	375	230	12	青灰茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		
ＳＫ8090	ＳＫ990	Ｂ３	方形	446	390	38	暗黒灰褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前		16Ｃ
ＳＫ8093	ＳＫ993	Ｂ３	方形	360	130	24	暗黒褐色粘質土	中世土師器		16Ｃ

第11表　土坑(中世後期)一覧(1)

遺構番号	整理番号	地　区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆　　土	出　土　遺　物	備　　考	時　　期
SK8148	SK1048	B 3	方形	361	150	22	黒褐色粘質土	瀬戸美濃		
SK8203	SK03	B 3 W	−	−	−	15	暗茶褐色粘質土	中世土師器		15C
SK8209	SK09	B 3 W	−	−	−	18	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・志野・青花		15・17C
SK8211	SK11	B 3 W	楕円形	209	50	19	茶褐色粘質土	中世土師器		15C
SK8225	SK25	B 3 W	不整形	146		42	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・石臼		15C・15後半
SK8243	SK43	B 3 W	方形	282	264	50	茶褐色粘質土	珠洲・越前		13・14C
SK8272	SK72	B 3 W	不整形	212	168	27	褐色砂礫土	中世土師器		15C後半
SK8274	SK74	B 3 W	方形	590	−	78	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁・火舎		15・16C
SK8279	SK79	B 3 W	楕円形	100	76	33	茶褐色粘質土	瀬戸美濃		16C
SK8326	SK126	B 3 W	楕円形	83	69	55	茶褐色粘質土	珠洲		15C
SK8451	SK251	B 3 W	方形	313	292	25	茶褐色粘質土	−		
SK8456	SK256	B 3 W	楕円形	64	50	40	暗褐色粘質土	中世土師器		15C
SK8530	SK330	B 3 W	方形	242	205	43	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		15～16C
SK8530b	SK330b	B 3 W	不整形	240	−	31	暗茶褐色粘質土	石臼		
SK8565	SK365	B 3 W	方形	210	190	10	黒褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃		16C
SK8570	SK370	B 3 W	方形	270	140	40	黒褐色粘質土	中世土師器		15C
SK8580	SK380	B 3 W	方形	243	−	20	黒褐色粘質土	中世土師器		15C
SK8600	SK400	B 3 W	方形	−	−	4	暗灰褐色粘質土	中世土師器・美濃・瀬戸・唐津		
SK8646	SK446	B 3 W	方形	313	−	20	黒褐色粘質土	珠洲		
SK8656	SK456	B 3 W	方形	313	−	20	黒褐色粘質土	青花		16C後半
SK8658	SK458	B 3 W	楕円形	118	90	19	黒褐色粘質土	−		
SK8685	SK485	B 3 W	円形	47	44	22	褐色粘質土	中世土師器		15C
SK8687	SK487	B 3 W	楕円形	85	50	24	砂混茶褐色粘質土	中世土師器		15C
SK8701	SK501	B 3 W	楕円形	60	34	48	−	珠洲・唐津		15C？
SK8952	SK52	C N	不整形	760	655	45	暗黄褐色土・暗茶褐色土・黒褐色土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・石臼		15・16C
SK8960	SK60	C N	方形	520	370	50	明茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁		14C後半～15C中・16C
SK8961	SK61	C N	方形	490	400	28	暗茶褐色粘質土	珠洲		
SK8965	SK65	C N	方形	300	190	34	暗茶褐色土	珠洲・青磁		14・15C
SK8967	SK67	C N	方形	250	245	39	暗黄褐色土	珠洲・青磁		15C
SK8974	SK74	C N	不整形	467	136	26	−	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃		
SK8975	SK75	C N	不整形	250	220	38	茶褐色土	珠洲・越中瀬戸		17c前半
SK9133	SK33	C S	方形	880	390	50	明茶褐色土・黒褐色土	中世土師器・珠洲・青磁・青花		15・16C
SK9157	SK57	C S	方形	260	250	40	茶褐色砂礫土	珠洲・白磁・石臼		16C
SK9311	SK11	C 1	方形	200	180	53	茶褐色粘砂土	−		
SK9315	SK15	C 1	方形	890	440	32	黄褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁		
SK9316	SK16	C 1	方形	440	275	32	黄褐色粘質土	中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃・唐津		
SK9317	SK17	C 1	−	−	−	−	−	珠洲・瀬戸美濃		
SK9320	SK20	C 1	方形	125	90	44	黒褐色粘質土	−		
SK9326	SK26	C 1	方形	440	275	32	茶褐色粘砂土	珠洲・石臼		
SK9328	SK28	C 1	方形	310	300	32	暗茶褐色粘質土	瀬戸美濃・唐津		
SK9329	SK29	C 1	方形	205	200	32	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		
SK9331	SK31	C 1	方形	158	150	25	暗茶褐色粘質土	瀬戸美濃		16C
SK9335	SK35	C 1	方形	285	240	26	黒褐色粘土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁		14・15・16C
SK9338	SK38	C 1	方形	300	200	44	黒褐色粘質土	−		
SK9340	SK40	C 1	方形	370	230	21	暗茶褐色粘質土	−		
SK9344	SK44	C 1	方形	292	212	48	黒褐色粘質土	瀬戸美濃		16C
SK9345	SK45	C 1	方形	460	400	35	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁		15・16C
SK9357	SK57	C 1	楕円形	−	−	−	茶褐色粘質土	−		
SK9360	SK60	C 1	不整形	770	535	48	暗茶褐色粘質土	−		
SK9367	SK67	C 1	方形	198	133	39	−	珠洲		
SK9370	SK70	C 1	楕円形	200	175	43	−	瀬戸美濃・青磁		16C
SK9374	SK74	C 1	不整形	268	119	19	−	中世土師器？		
SK9377	SK77	C 1	不整形	119	101	18	−	越前		16C
SK9602	SK302	C 1	−	−	−	−	−	瀬戸美濃		
SK9605	SK305	C 1	−	−	−	−	−	珠洲・青花		
SK9614	SK314	C 1	方形	142	95	12	黒褐色粘質土	越前		16C
SK9629	SK329	C 1	楕円形	280	144	16	−	瀬戸美濃・青花		16C
SK9673	SK373	C 1	方形	565	440	34	茶褐色粘質土	珠洲・青磁		15C後半～16C
SK9679	SK379	C 1	方形	50	49	15	−	−		
SK9690	SK390	C 1	方形	690	180	55	茶褐色粘質土	珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁		16C
SK9722	SK422	C 1	不整形	−	−	−	−	中世土師器（火舎）		16C
SK9738	SK438	C 1	方形	310	285	35	暗茶褐色土	中世土師器・越前・瀬戸・瀬戸美濃		15・16C
SK9742	SK442	C 1	方形	260	225	28	茶褐色土	中世土師器		16C
SK9743	SK443	C 1	方形	120	95	18	暗茶褐色土	瀬戸美濃		16C前半
SK9746	SK446	C 1	方形	335	210	32	茶褐色土	中世土師器・瀬戸美濃		
SK9747	SK447	C 1	方形	203	−	38	茶褐色土と黄褐色土の混土	−		
SK9757	SK457	C 1	方形	290	−	38	黒褐色土	中世土師器		
SK9761	SK461	C 1	方形	195	185	42	暗茶褐色粘質土	珠洲		
SK9762	SK462	C 1	−	−	−	−	−	越前？		
SK9786	SK486	C 1	不整形	82	51	10	茶褐色粘質土	−		
SK9787	SK487	C 1	方形	310	285	37	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃		16C
SK9793	SK493	C 1	方形	230	150	33	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・下駄		
SK9799	SK499	C 1	方形	370	200	30	暗茶褐色粘質土	珠洲・青磁		15C
SK9800	SK500	C 1	不整形	190	−	18	暗茶褐色粘質土	珠洲		
SK9801	SK501	C 1	不整形	600	330	30	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・焼石		15・16C
SK9802	SK502	C 1	不整形	430	−	16	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・青花		13・14C～
SK9805	SK505	C 1	不整形	160	60	−	灰色粘質土	瀬戸美濃		
SK9819	SK519	C 1	円形	83	−	24	暗茶褐色粘質土	珠洲・瀬戸美濃		
SK9851	SK551	C 1	方形	274	−	24	黒褐色土	中世土師器		
SK9853	SK553	C 1	方形	320	265	28	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青花・砥石		16C
SK9861	SK561	C 1	方形	334	−	32	黄茶褐色土・黒褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃？・青磁		15C
SK9862	SK562	C 1	方形	257	235	22	茶灰色砂礫土	越前		16C
SK9864	SK564	C 1	方形	235	−	14	黒茶褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・志野		15～16C
SK9865	SK565	C 1	不整形	−	201	19	暗茶褐色土	珠洲		14・15C
SK9867	SK567	C 1	方形	40	34	5	暗茶灰褐色土	中世土師器		
SK9869	SK569	C 1	楕円形	140	102	39	茶褐色肌色茶粘質土	珠洲・火舎		
SK9870	SK570	C 1	方形	147	121	38	茶灰色土	瀬戸美濃		
SK9902	SK602	C 1	方形	122	65	−	−	珠洲		
SK10105	SK05	C 2	方形	275	240	16	黒褐色土	中世土師器・越中瀬戸		16C末～17C初
SK10106	SK06	C 2	方形	261	62	8	黒褐色土	瀬戸美濃		
SK10107	SK07	C 2	方形	425	335	38	肌色粘土・黒色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃		16C
SK10108	SK08	C 2	円形	80	−	35	暗茶褐色土（多量に炭）	中世土師器・珠洲・青磁・石臼		13C～15C後半
SK10114	SK14	C 2	方形	369	−	20	黒褐色土	中世土師器・唐津		15C後半
SK10115	SK15	C 2	部分	200	185	40	黒色粘質土	珠洲・加工木・箸		
SK10119	SK19	C 2	方形	208	185	10	暗茶褐色土	−		
SK10123	SK23	C 2	楕円	465	212	10	黒色粘質土	珠洲		
SK10136	SK36	C 2	方形	512	270	20	黒色粘質土	−		
SK10162	SK62	C 2	円形	100	−	63	黒色土	中世土師器・石硯・加工木		
SK10174	SK74	C 2	円形	72	−	61	黒色粘質土	珠洲・越前・石臼・加工木・箸		
SK10175	SK75	C 2	円形	65	−	67	黒色粘質土	珠洲・越前・加工木・漆器		
SK10177	SK77	C 2	円形	93	−	−	黒色土	石硯・加工木・柱		
SK10181	SK81	C 2	楕円形	116	93	50	黒色粘質土と青灰色粘質土の混土	珠洲・五輪塔		
SK10182	SK82	C 2	楕円形	95	74	50	黒色粘質土と青灰色粘質土の混土	柄杓		
SK10184	SK84	C 2	楕円形	100	88	73	黒色粘質土と青灰色粘質土の混土	中世土師器・珠洲・曲物・漆器・加工木		
SK10186	SK86	C 2	円形	85	−	27	黒色粘質土	珠洲・石製品		
SK10191	SK91	C 2	円形	60	42	28	−	珠洲・越前・信楽		15・16C
SK10198	SK98	C 2	楕円形	75	60	36	黒色粘質土	和鏡		15・16C
SK10216	SK116	C 2	方形	435	95	8	黒色粘質土	−		
SK10218	SK118	C 2	方形	292	140	26	黒褐色土	中世土師器・瀬戸美濃		15C後半・16C
SK10219	SK119	C 2	方形	116	98	41	黒色土	中世土師器		
SK10222	SK122	C 2	方形	130	100	86	黒色粘質土と青灰色粘質土の混土	−		15・16C
SK10231	SK131	C 2	不整円	87	64	14	黒色土	珠洲・木製品（磨盤？）		
SK10268	SK168	C 2	不整円	58	−	27	−	石臼		
SK10444	SK144	C 3	方形	157	146	15	黒褐色粘質土	−		
SK10445	SK145	C 3	方形	330	221	13	黒褐色粘質土	−		
SK10467	SK167	C 3	円形	79	−	49	−	瓦質土器		

第11表　土坑（中世後期）一覧（2）



SE3503
11 暗茶褐色土(炭多量混)
12 茶褐色土(地山混)
13 炭化物層(茶褐色土混)
14 茶褐色砂利層
15 赤褐色砂利層
16 暗茶褐色砂利層

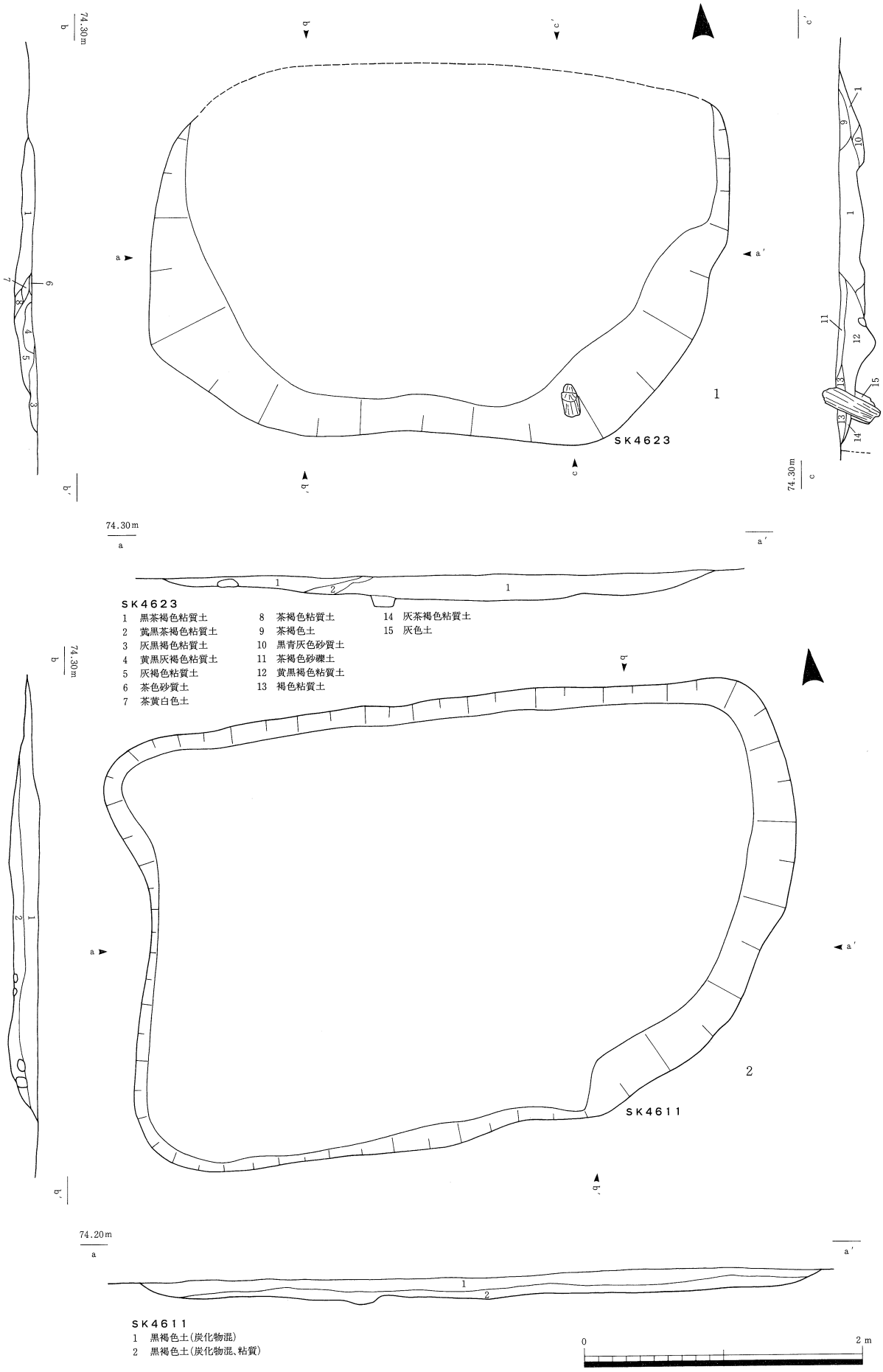
SK3527
1 茶褐色土(地山混、酸化鉄含)
2 茶褐色土(炭化粒少量混、酸化鉄含)
3 暗茶褐色土(酸化鉄含)
4 暗茶褐色土(酸化鉄含、やや粘質)
5 黄褐色粘質土
6 灰褐色土(酸化鉄含)
7 暗茶褐色土
8 暗茶褐色土(地山霜降り)
9 灰褐色土(地山混)
10 暗茶褐色土(炭多量混)

SK4338
1 茶褐色土(砂礫混)
2 茶褐色粘質土(砂礫混)
3 暗茶褐色粘質土(砂礫混)
4 黒茶褐色粘質土(砂礫混)

SK4439
1 茶褐色粘質土(砂礫混)
2 黒褐色粘質土(やや灰色)
3 黒褐色土(砂礫混)

0 2 m

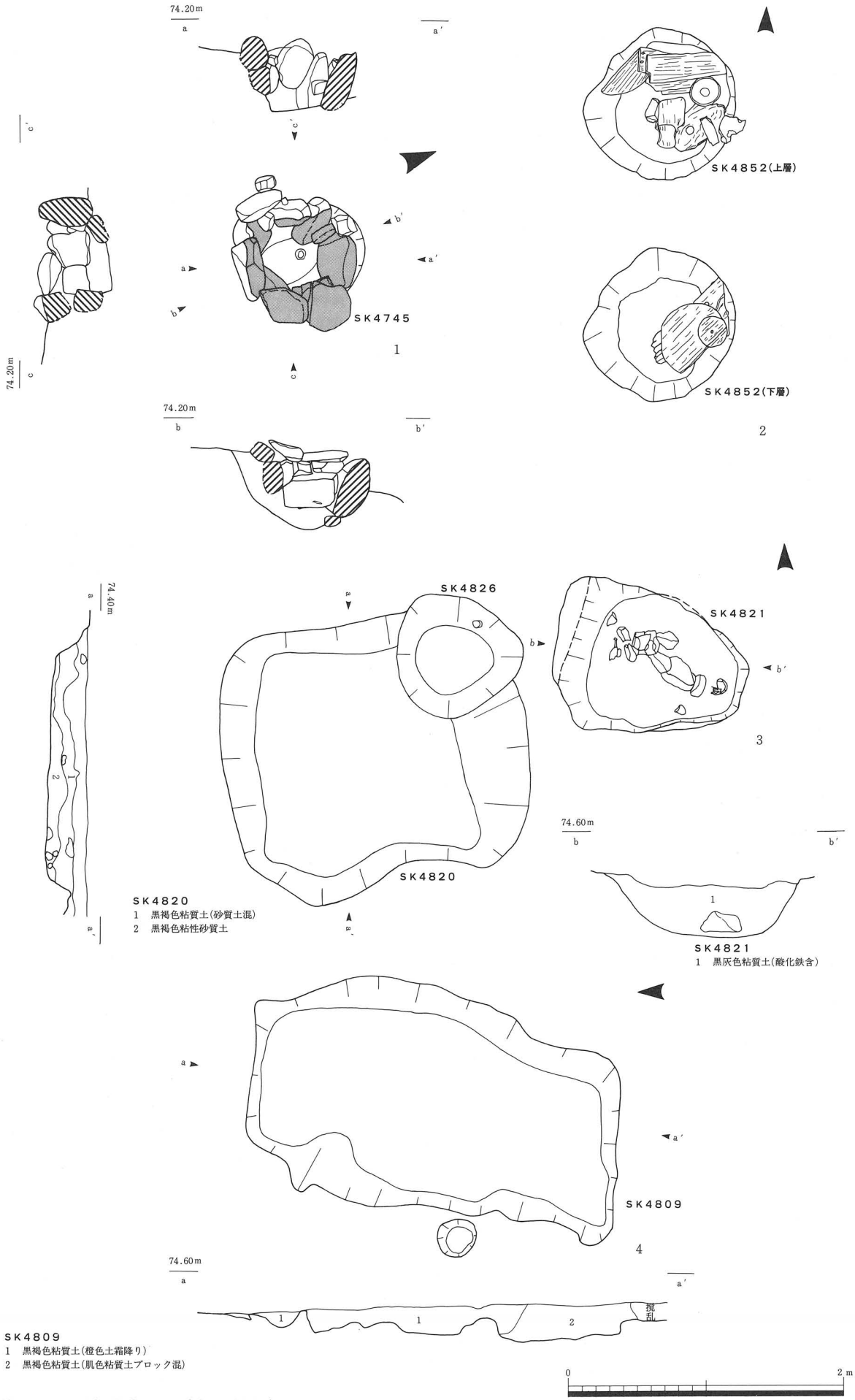
第200図　遺構実測図(中世後期)
1.SK3527　2.SK4338　3.SK4439



SK4623
1 黒茶褐色粘質土
2 黄黒茶褐色粘質土
3 灰黒褐色粘質土
4 黄黒灰褐色粘質土
5 灰褐色粘質土
6 茶色砂質土
7 茶黄白色土
8 茶褐色粘質土
9 茶褐色土
10 黒青灰色砂質土
11 茶褐色砂礫土
12 黄黒褐色粘質土
13 褐色粘質土
14 灰茶褐色粘質土
15 灰色土

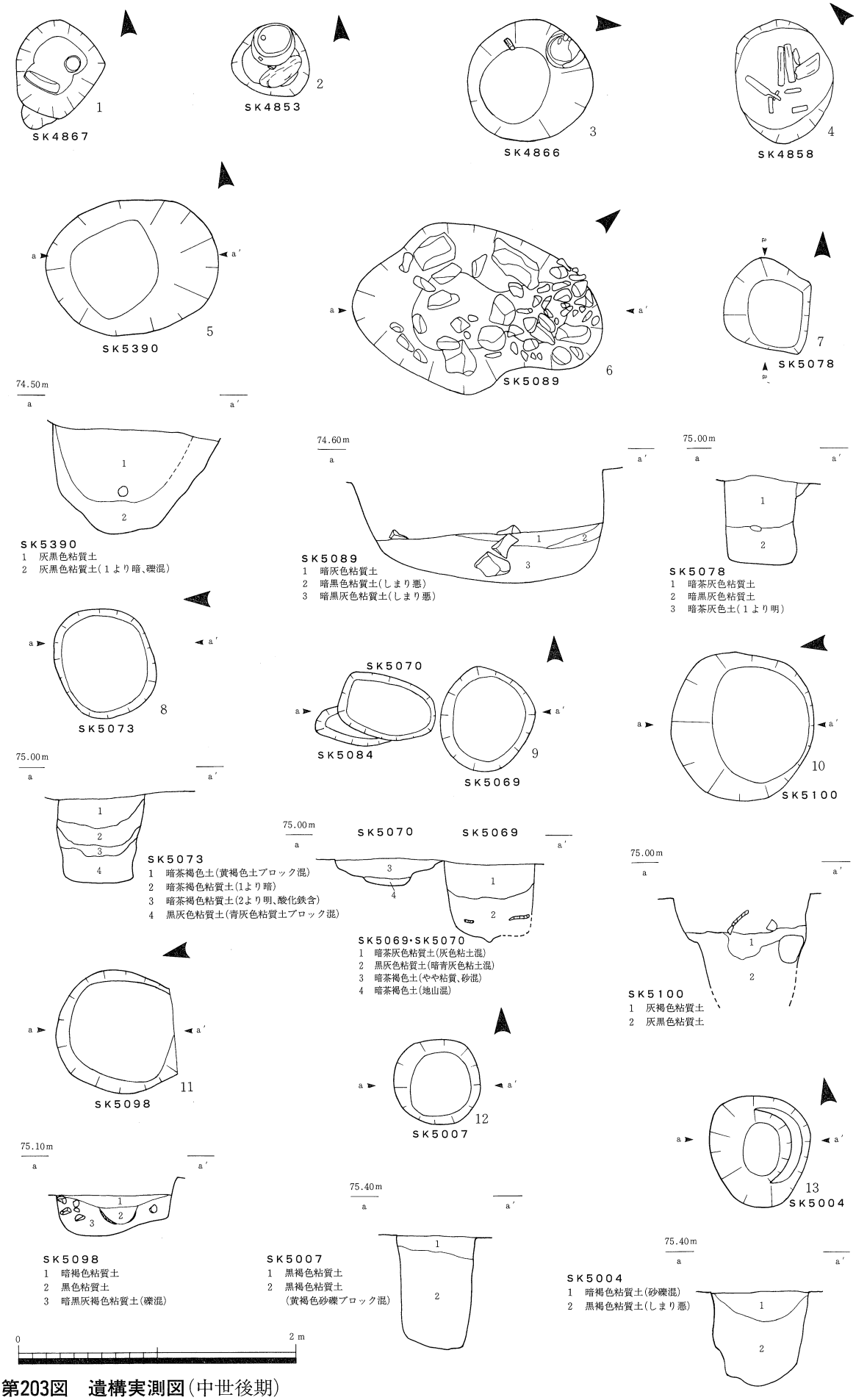
SK4611
1 黒褐色土(炭化物混)
2 黒褐色土(炭化物混、粘質)

第201図　遺構実測図(中世後期)
1.SK4623　2.SK4611



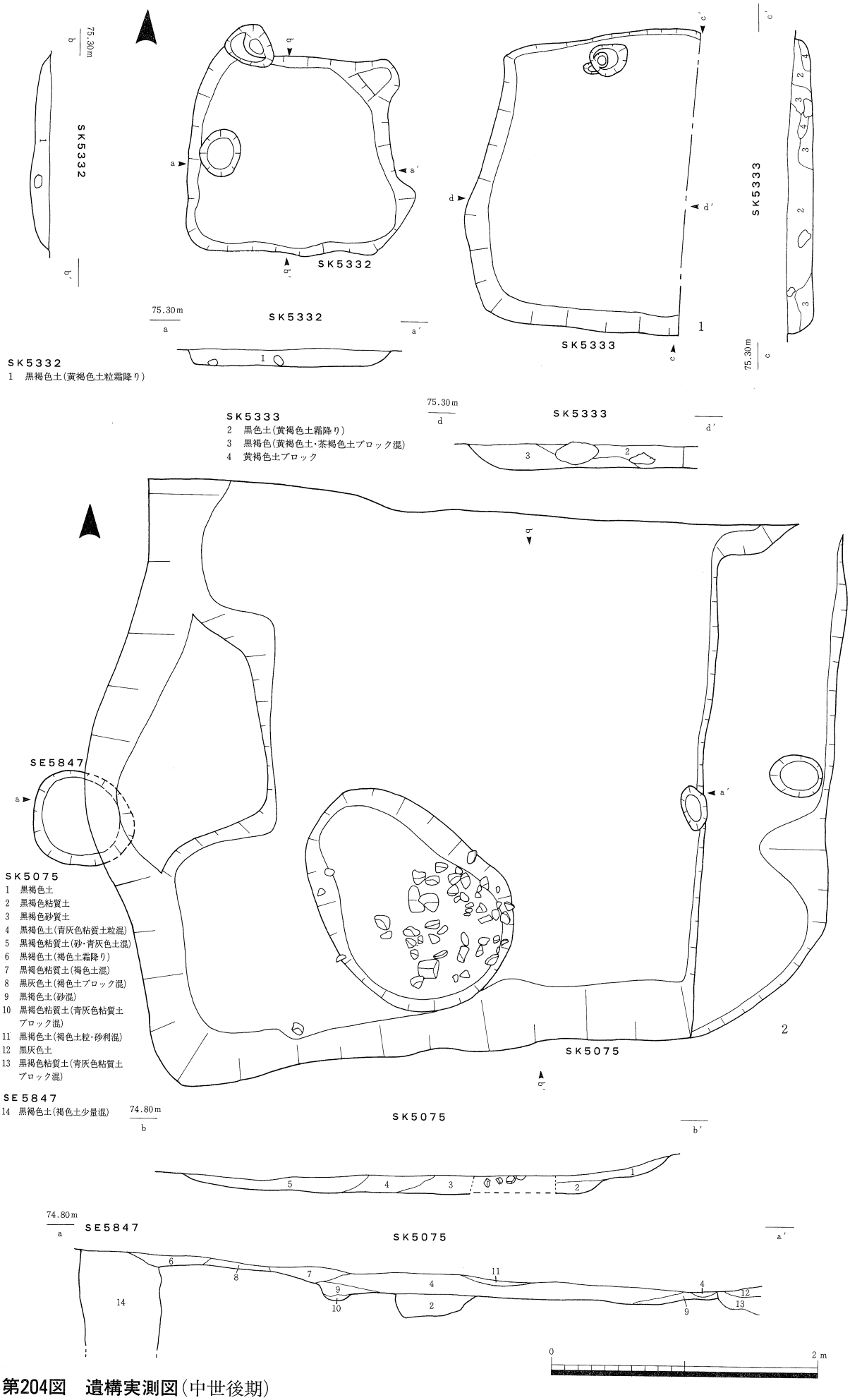
第202図　遺構実測図(中世後期)

1.SK4745　2.SK4852遺物出土状況　3.SK4820・SK4821　4.SK4809

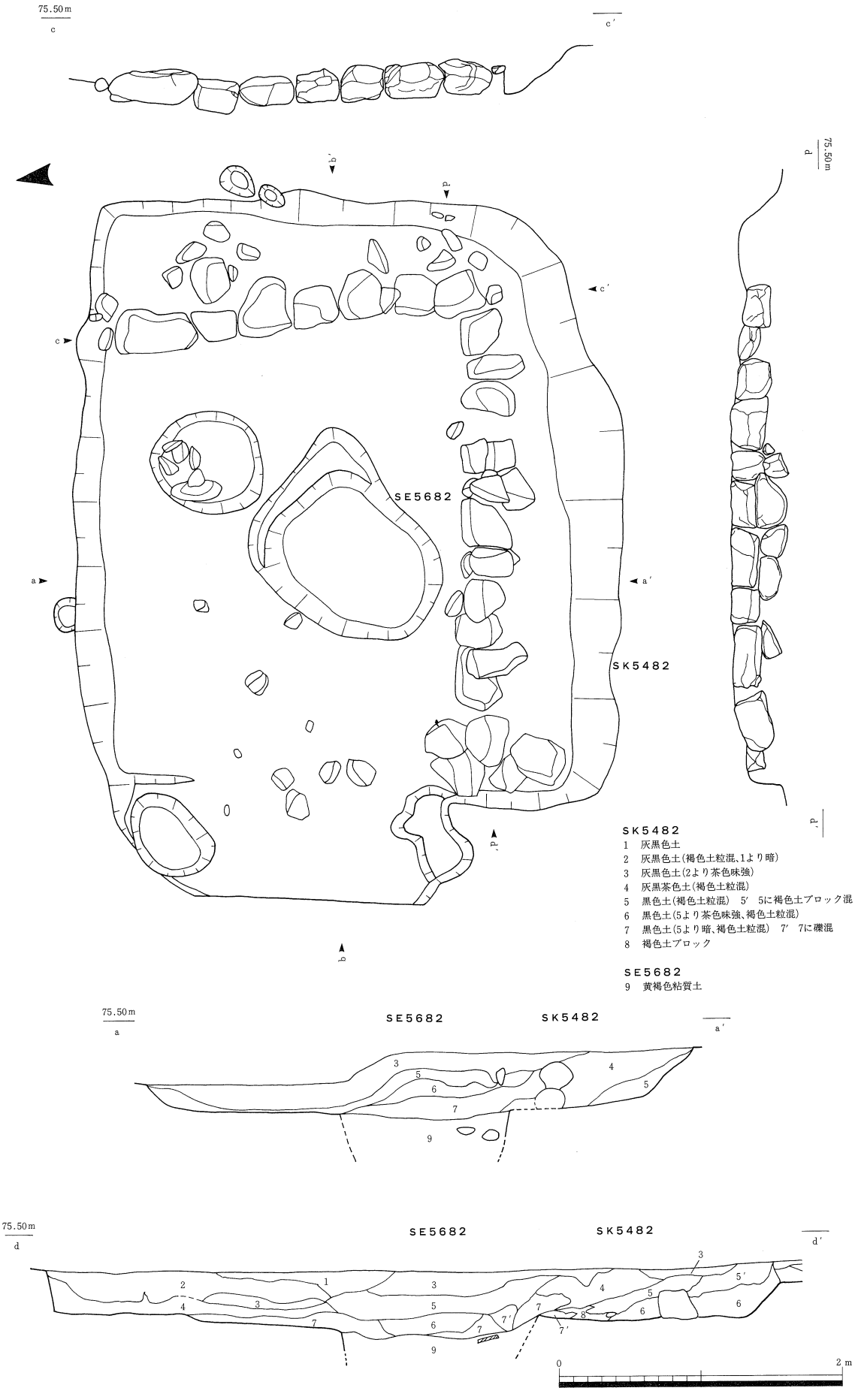


第203図　遺構実測図(中世後期)

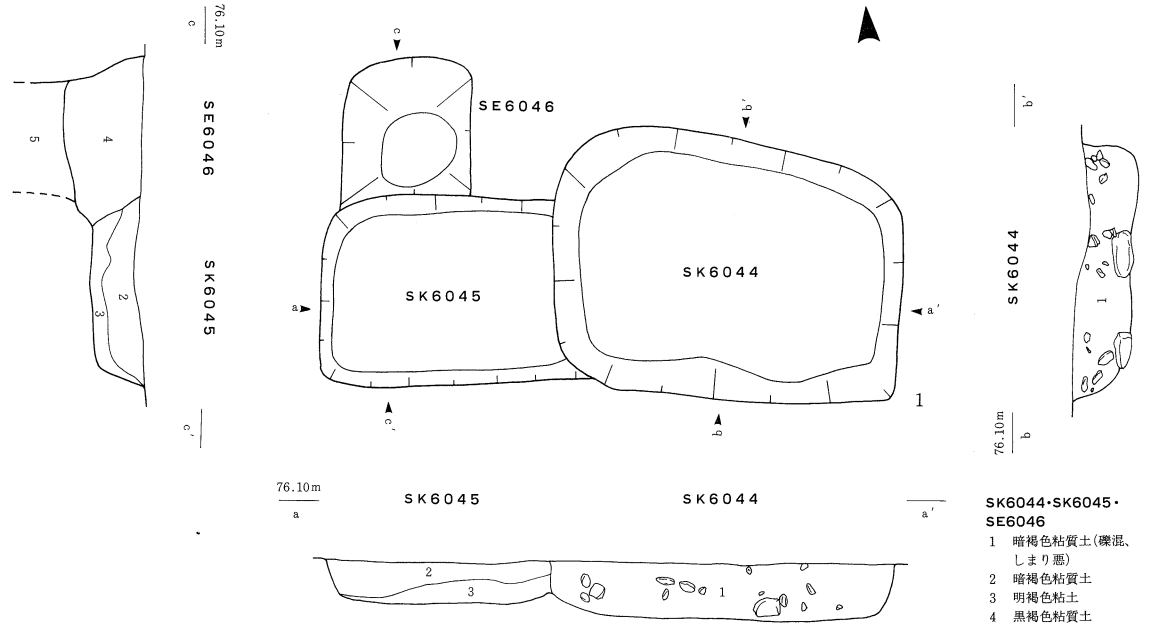
1.SK4867 2.SK4853 3.SK4866 4.SK4858 5.SK5390 6.SK5089 7.SK5078
8.SK5073 9.SK5069・SK5070 10.SK5100 11.SK5098 12.SK5007 13.SK5004



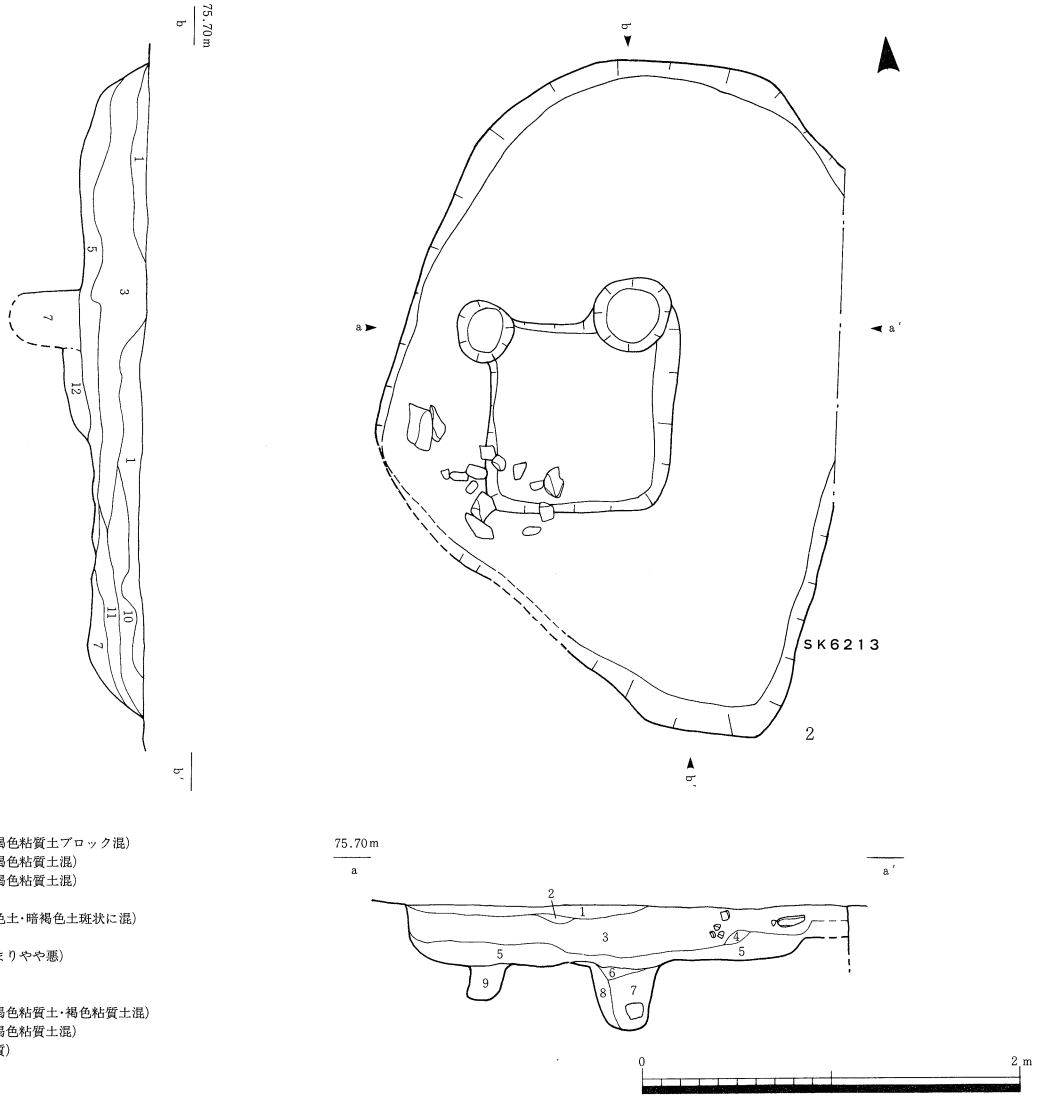
第204図　遺構実測図(中世後期)
1.SK5332・SK5333　2.SK5075



第205図　遺構実測図(中世後期)
SK5482

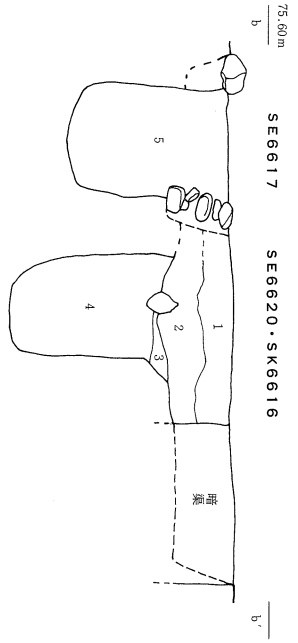


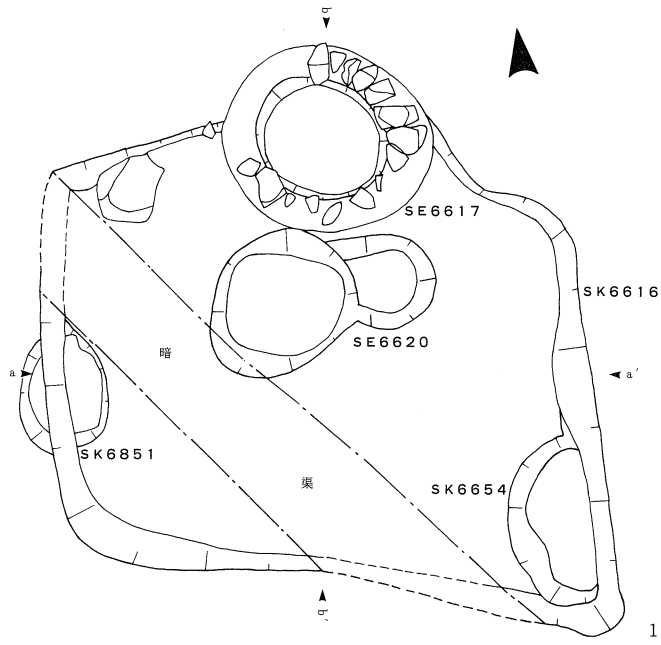
SK6044・SK6045・SE6046
1 暗褐色粘質土(礫混、しまり悪)
2 暗褐色粘質土
3 明褐色粘土
4 黒褐色粘質土
5 黒褐色粘土



SK6213
1 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック混)
2 黄褐色粘質土(暗褐色粘質土混)
3 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
4 褐色粘質土
5 褐色粘質土(黄褐色土・暗褐色土斑状に混)
6 淡黄色粘質土
7 黒褐色粘質土(しまりやや悪)
8 黒褐色粘質土
9 黒褐色粘質土
10 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土・褐色粘質土混)
11 黒褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
12 黒褐色粘質土(均質)

第206図　遺構実測図(中世後期)
1.SK6044・SK6045　2.SK6213

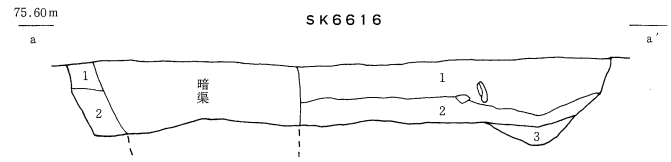




1

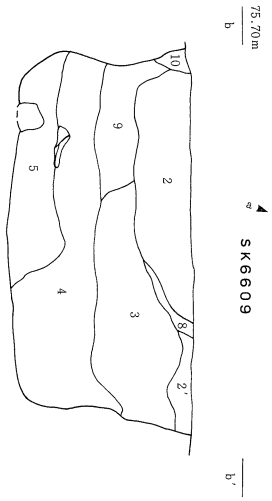
SK6616・SE6620
1　黒褐色土(黄褐色土少量霜降り)
2　黒褐色土
3　黒黄茶褐色土(砂混)
4　黒褐色粘質土

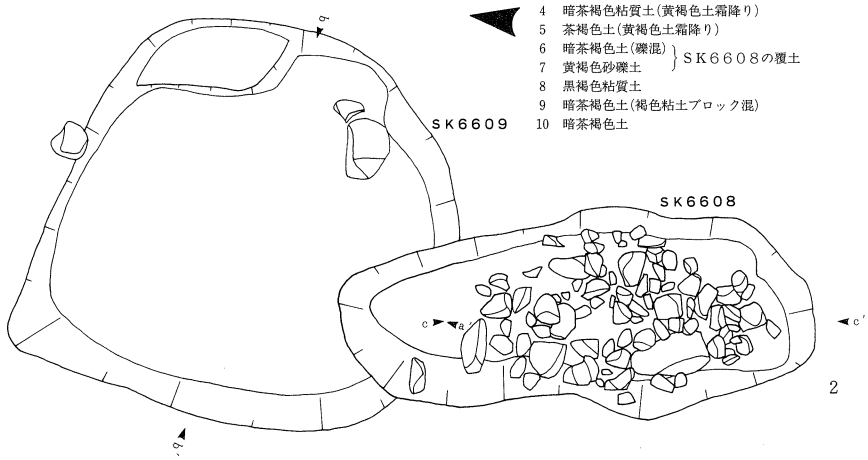
SE6617
5　暗茶褐色土(黄褐色土粒・礫混)



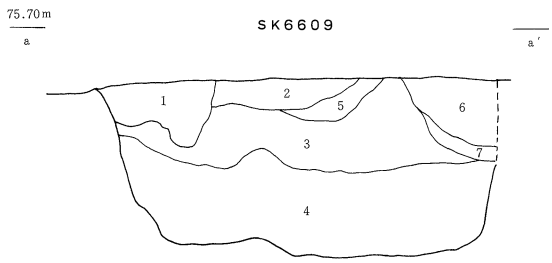
SK6609
1　暗茶褐色土(礫混)
2　暗茶褐色土(しまる)　2′　2より明
3　暗茶褐色土(黒褐色土・黄褐色土霜降り)
4　暗茶褐色粘質土(黄褐色土霜降り)
5　茶褐色土(黄褐色土霜降り)
6　暗茶褐色土(礫混)　} SK6608の覆土
7　黄褐色砂礫土
8　黒褐色粘質土
9　暗茶褐色土(褐色粘土ブロック混)
10　暗茶褐色土

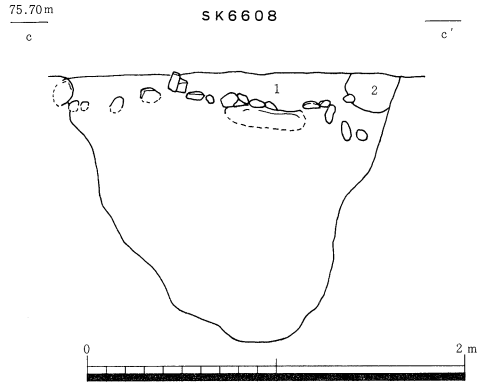
SK6608
1　黒褐色粘質土(砂礫混)
2　暗褐色粘質土(砂礫混)



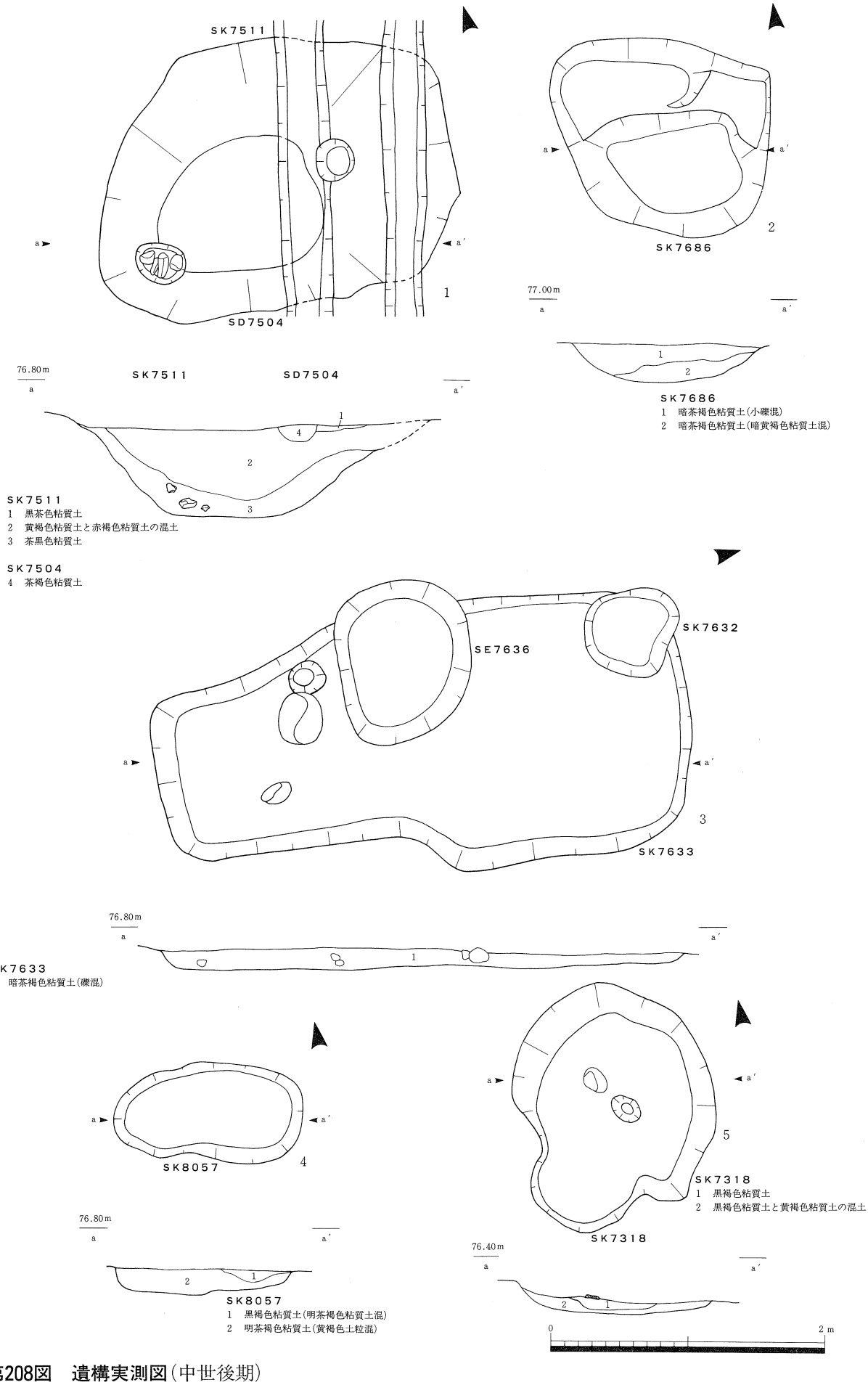


2



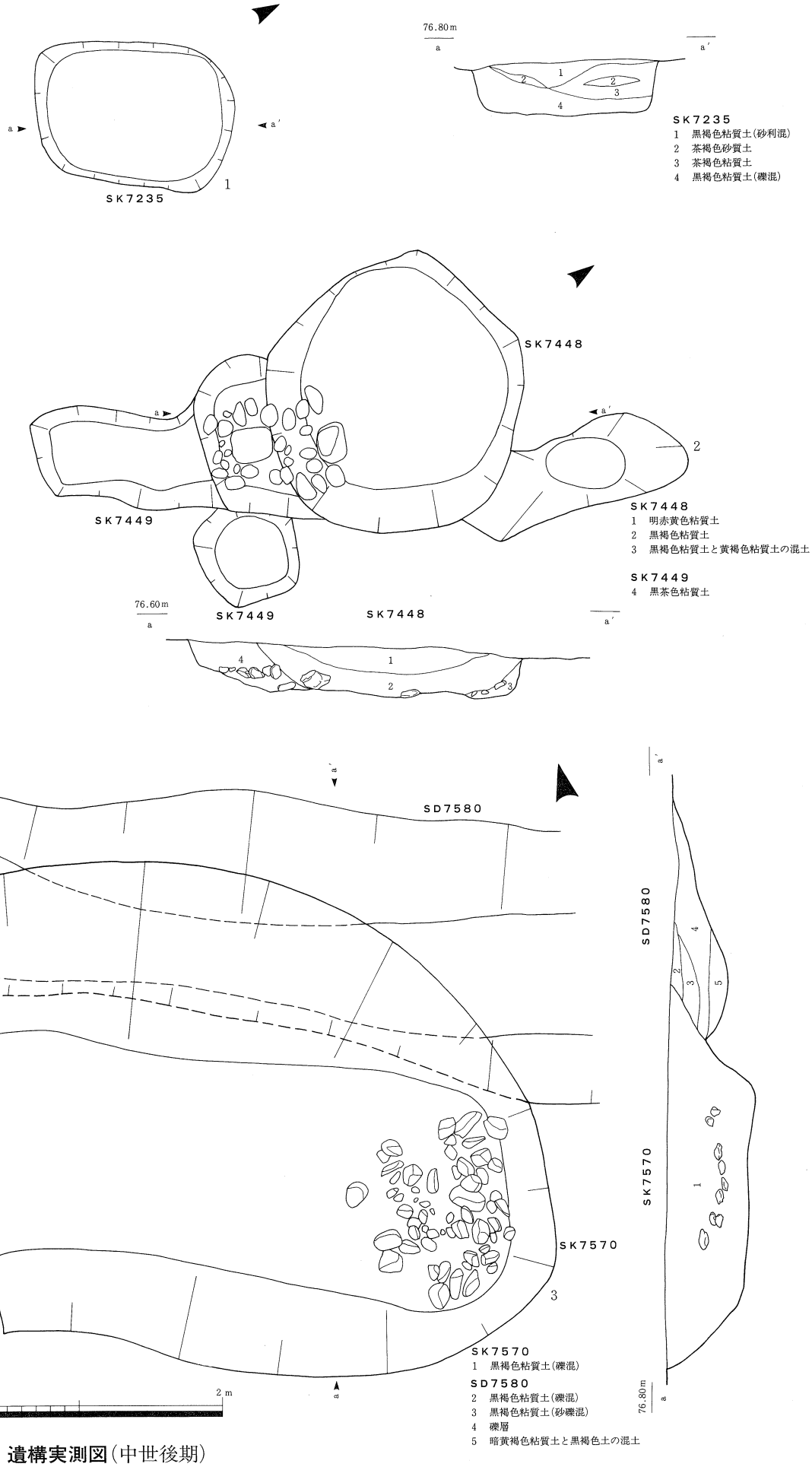


第207図　遺構実測図(中世後期)
1.SK6616　2.SK6608・SK6609

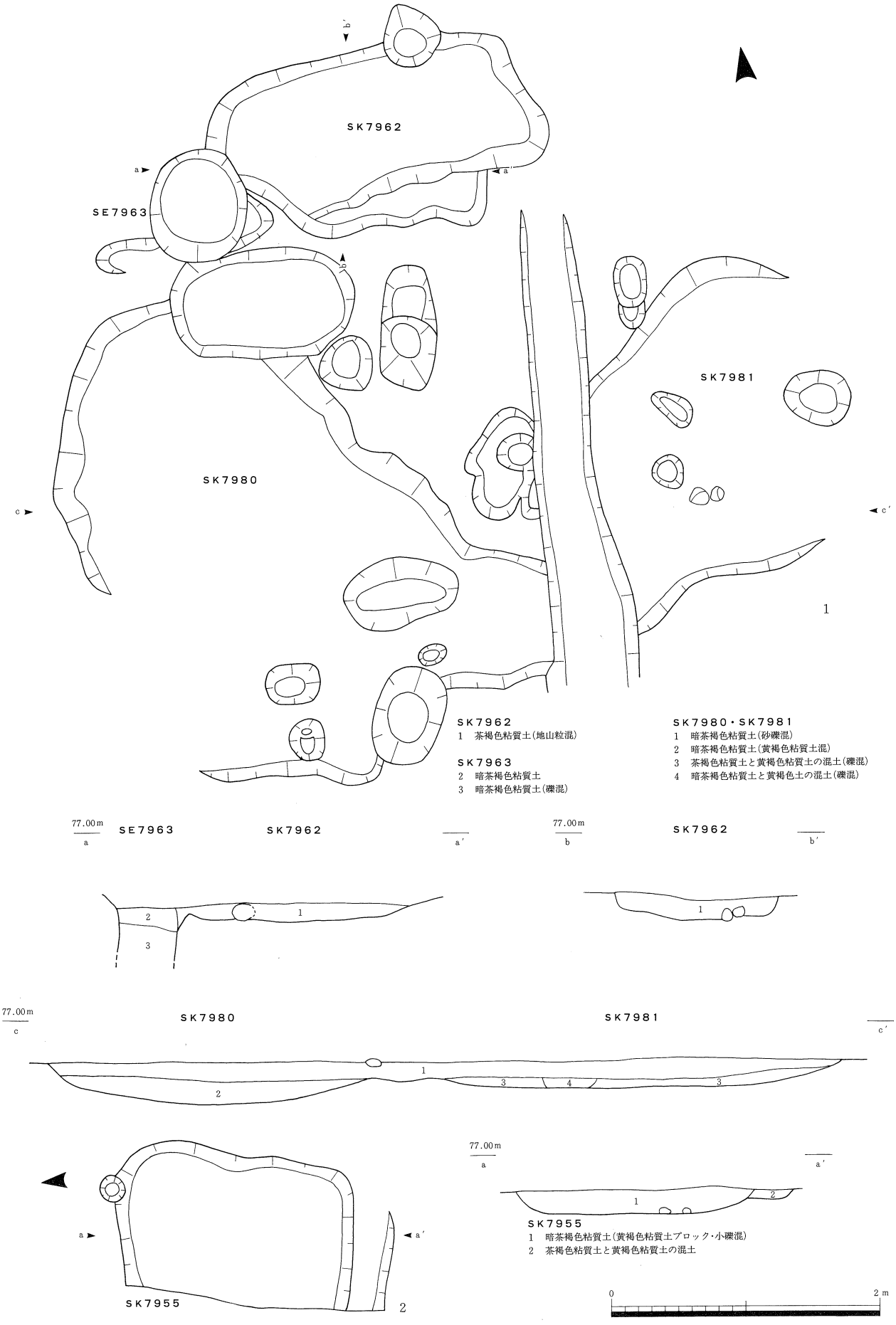


第208図　遺構実測図(中世後期)

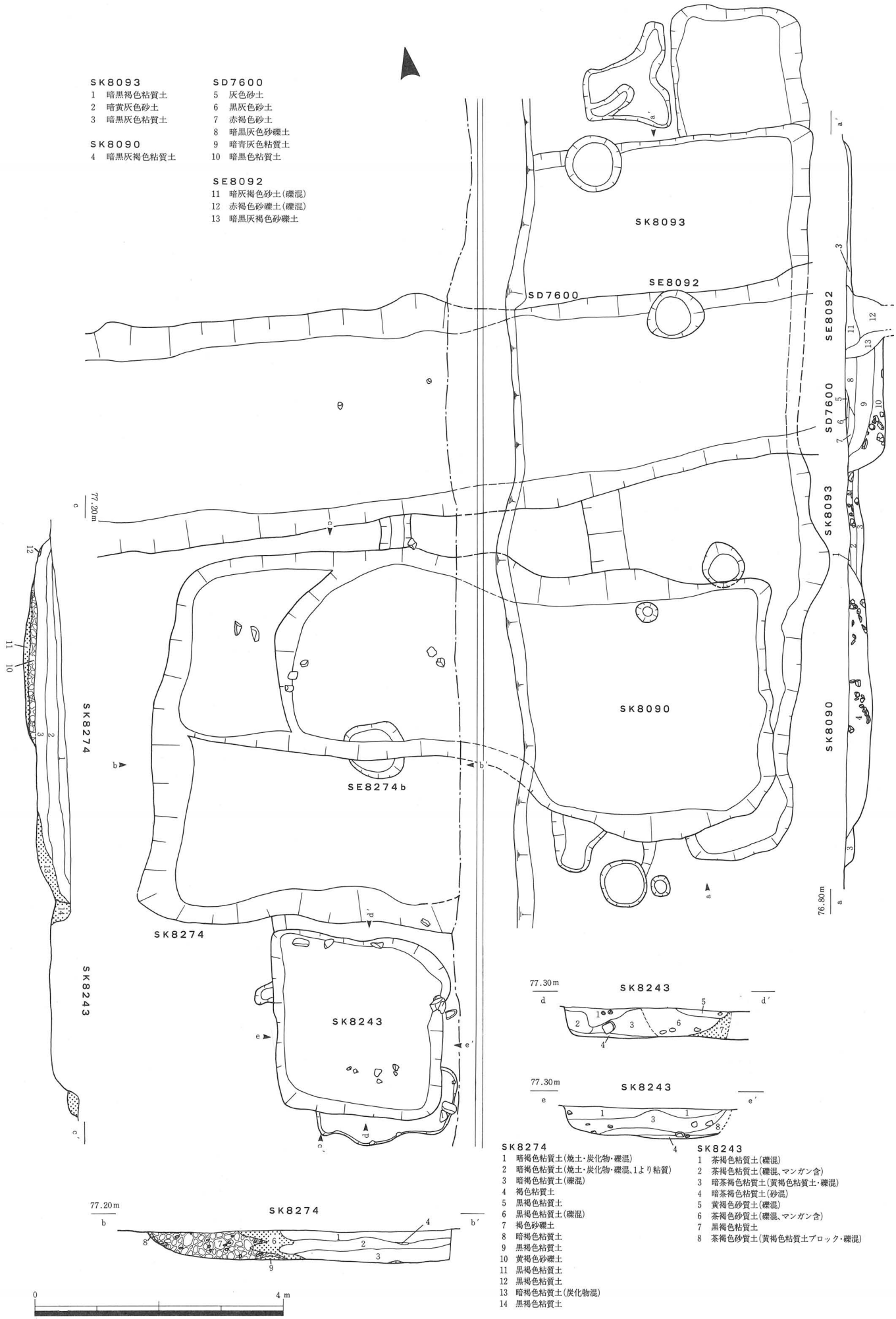
1.SK7511　2.SK7686　3.SK7633　4.SK8057　5.SK7318



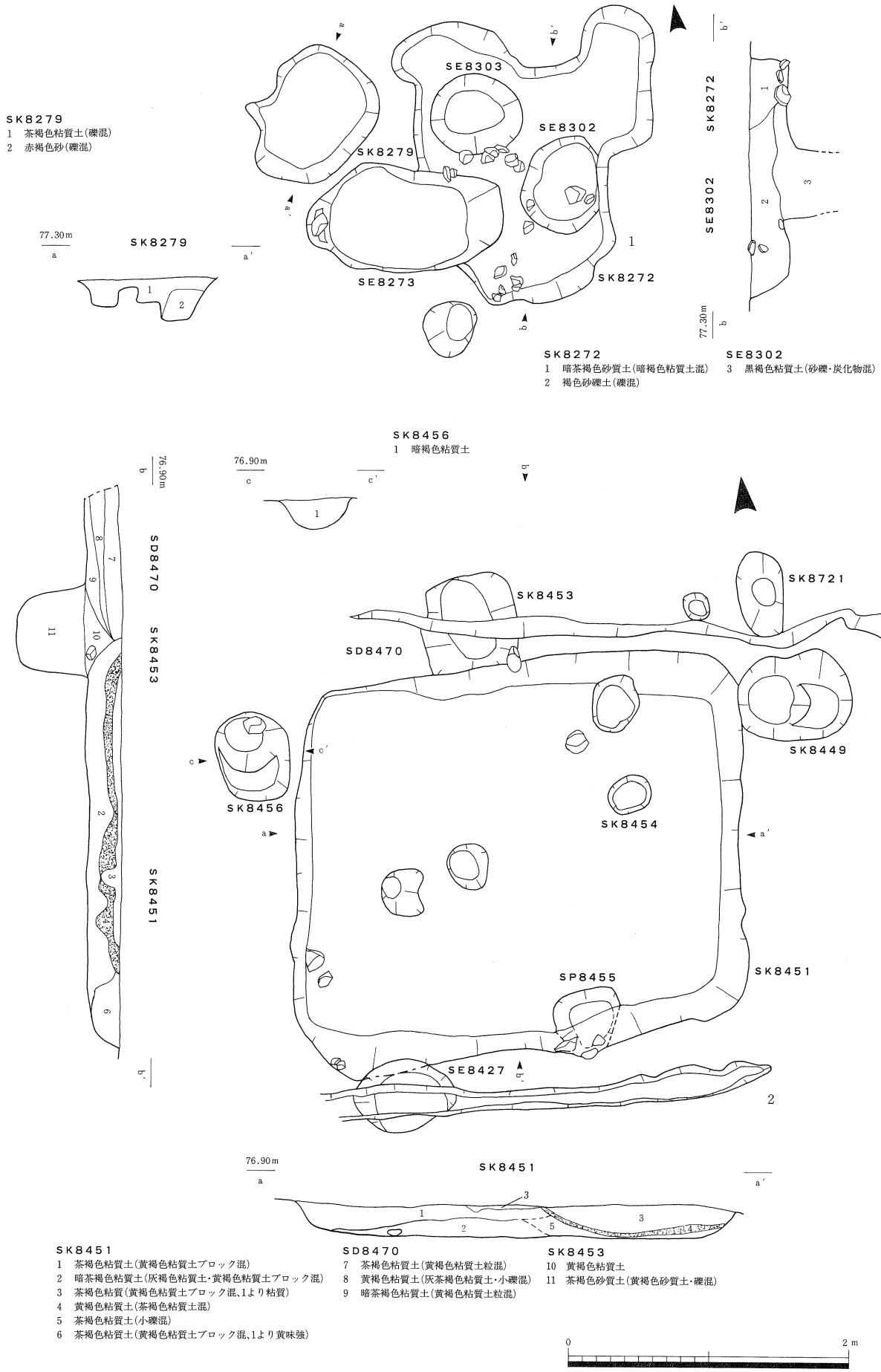
第209図　遺構実測図(中世後期)
1.SK7235　2.SK7448　3.SK7570



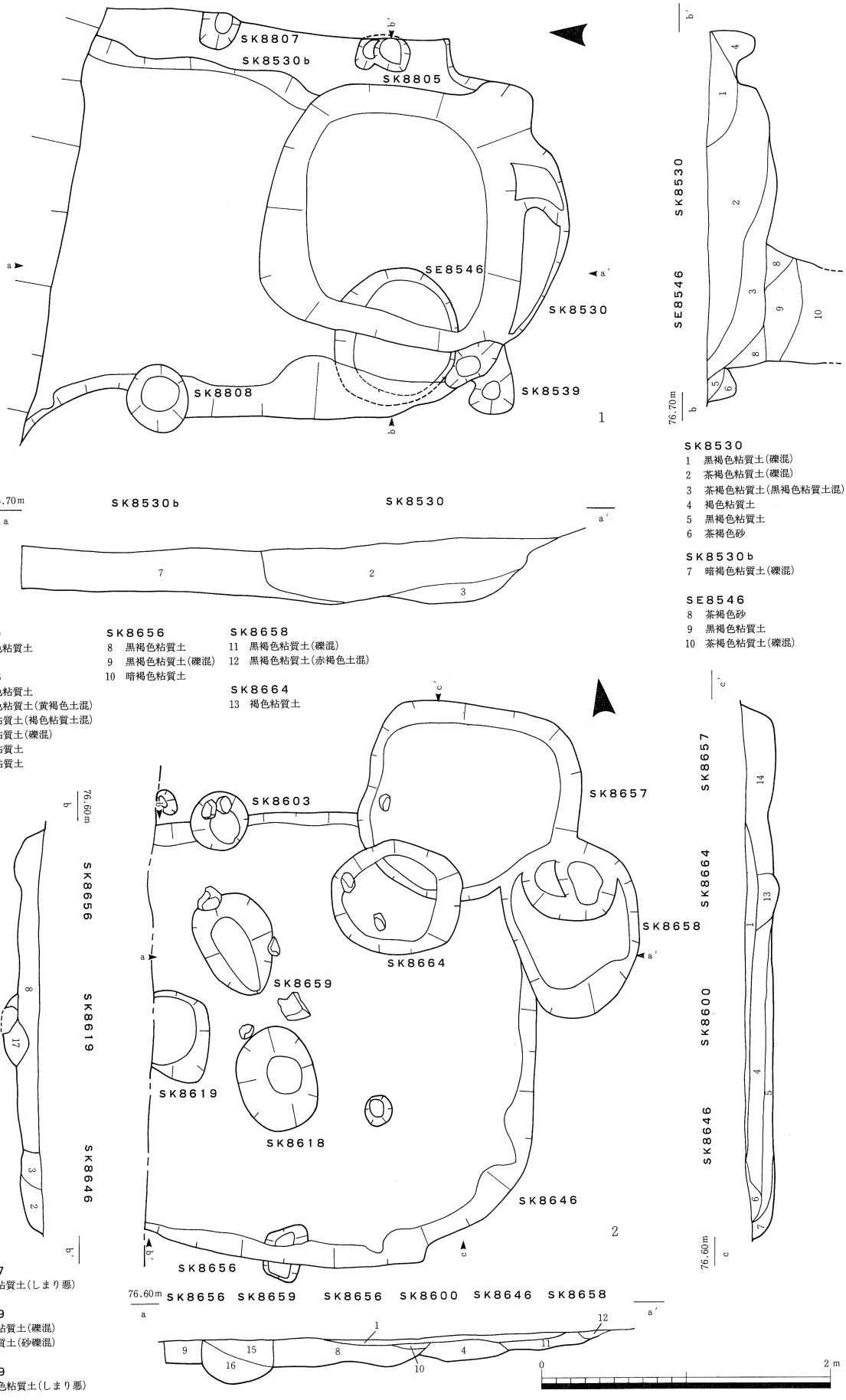
第210図　遺構実測図(中世後期)
1.SK7962・SK7980・SK7981　2.SK7955



第211図　遺構実測図(中世後期)
SK8090・SK8093・SK8243・SK8274

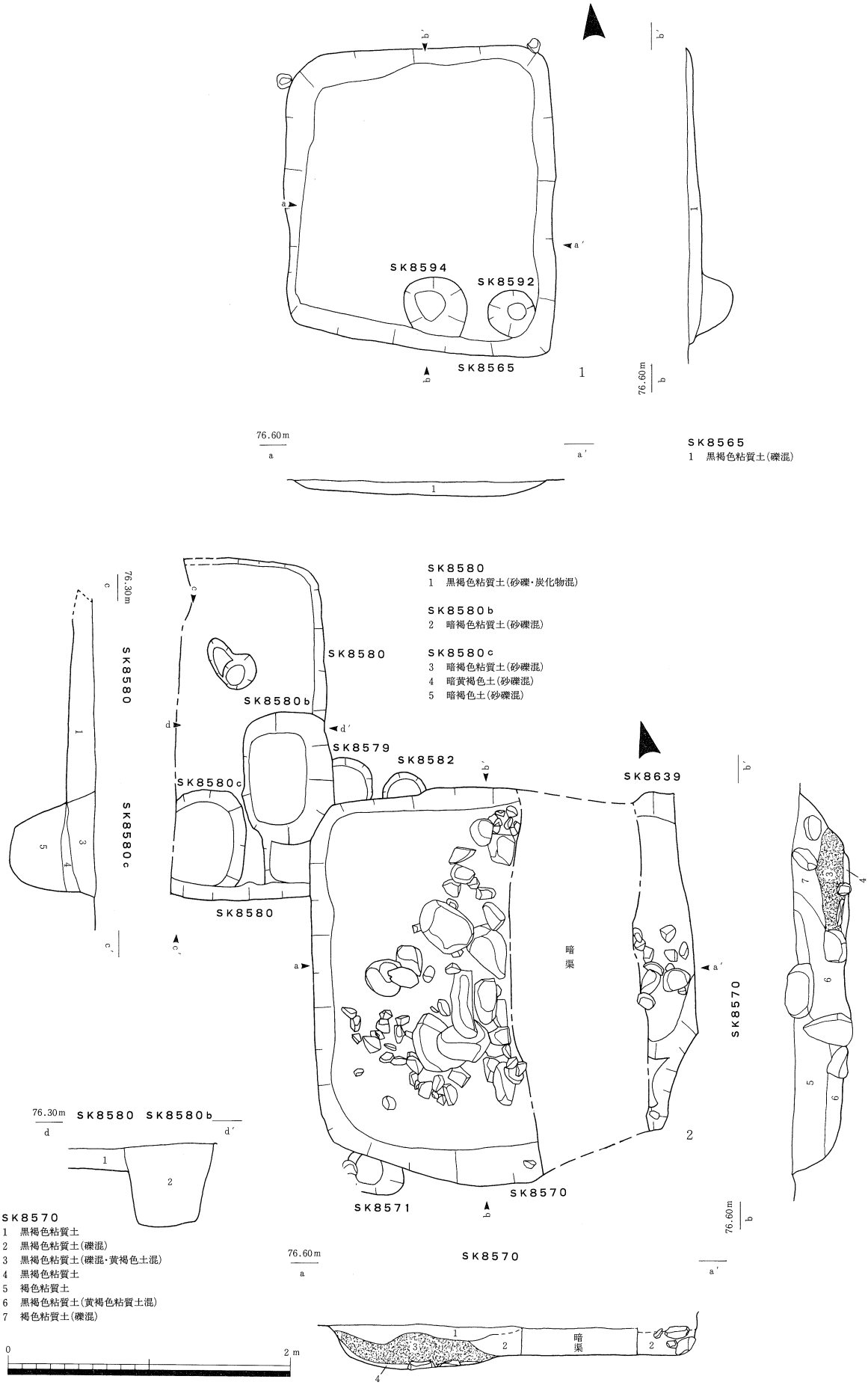


第212図　遺構実測図(中世後期)
1.SK8272・SK8279　2.SK8451・SK8456



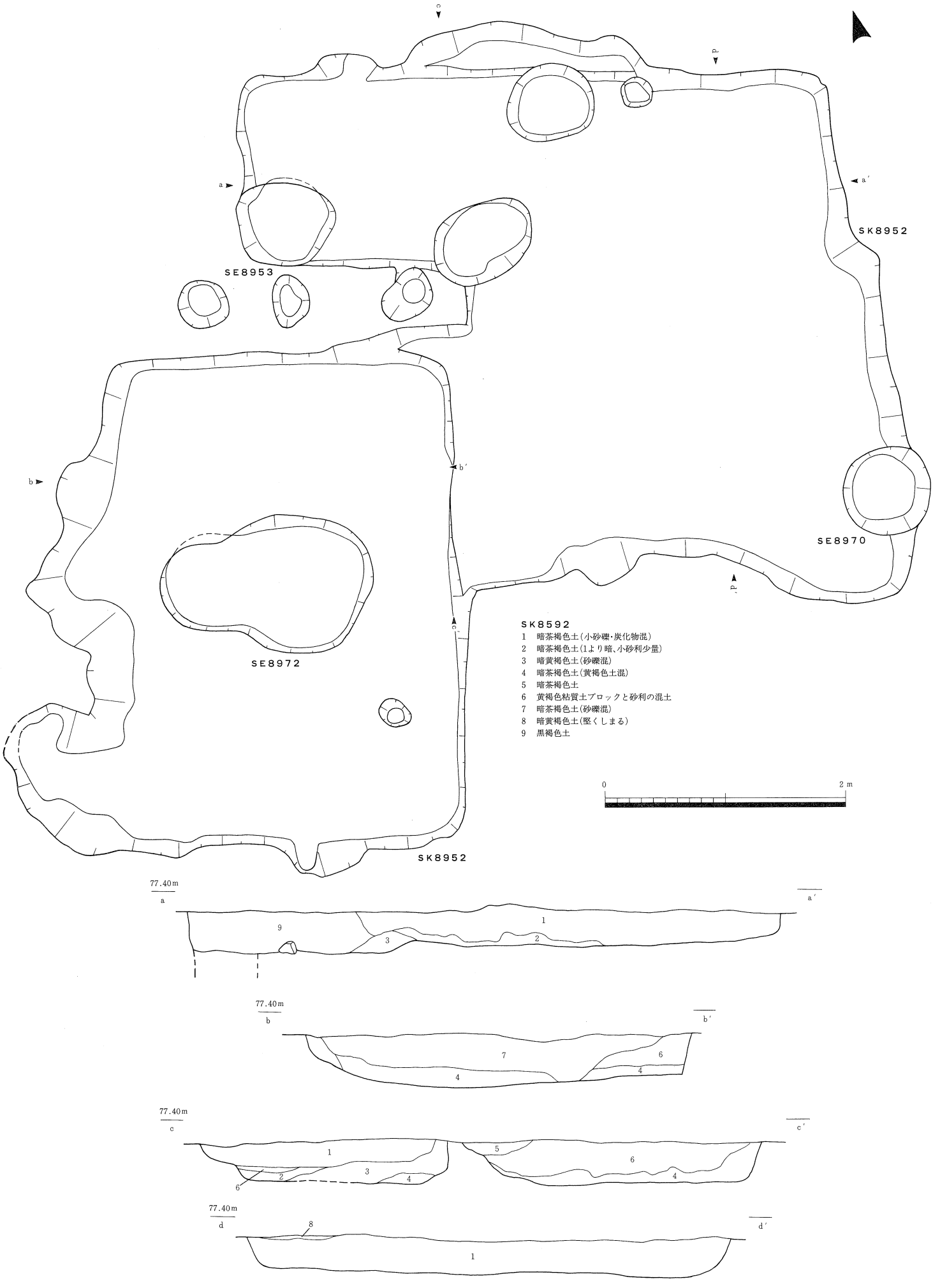
第213図　遺構実測図(中世後期)

1.SK8530・SK8530b　2.SK8646・SK8656～SK8658・SK8600・SK8664

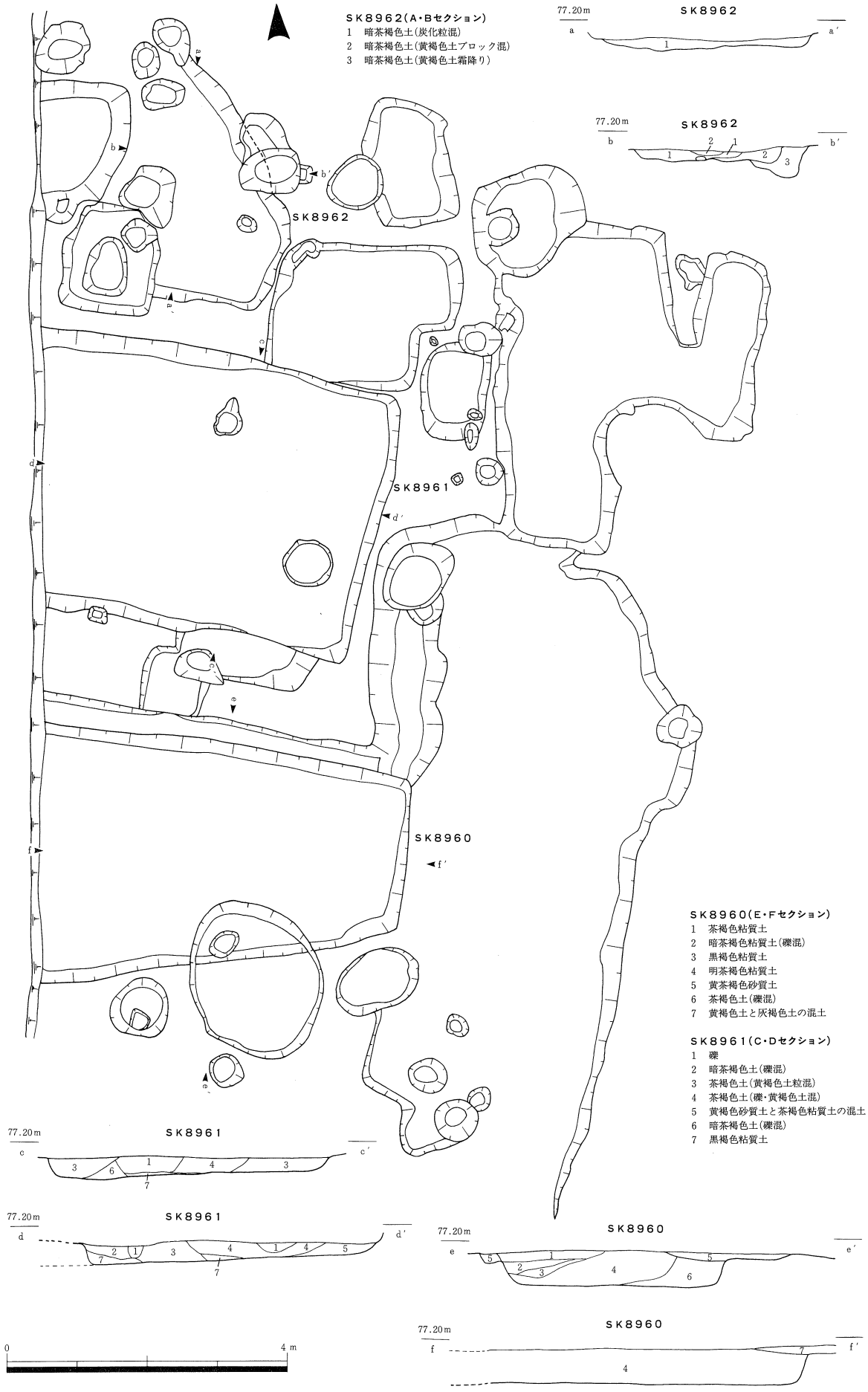


第214図　遺構実測図(中世後期)

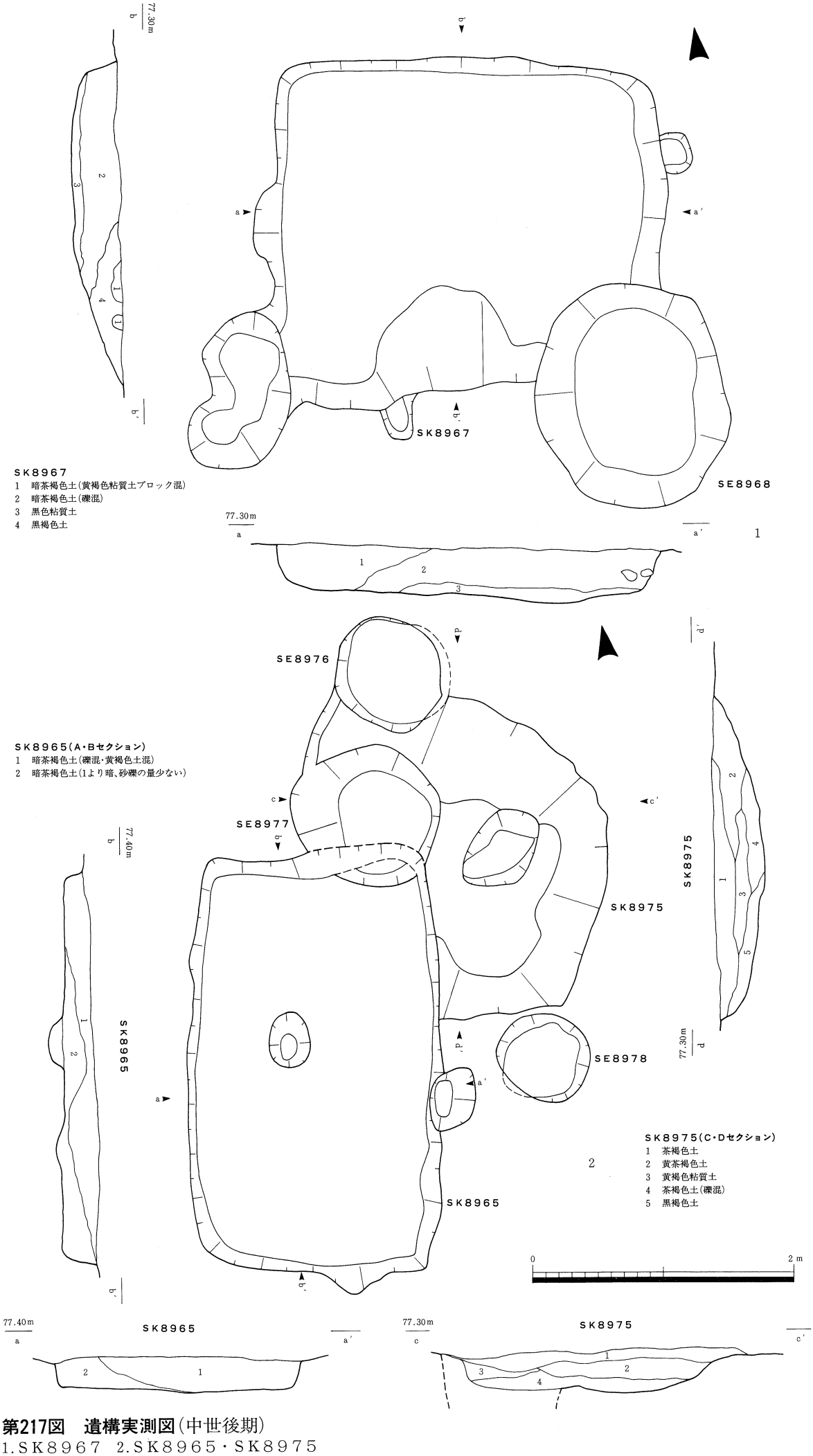
1.SK8565　2.SK8570・SK8580・SK8580b・SK8580c



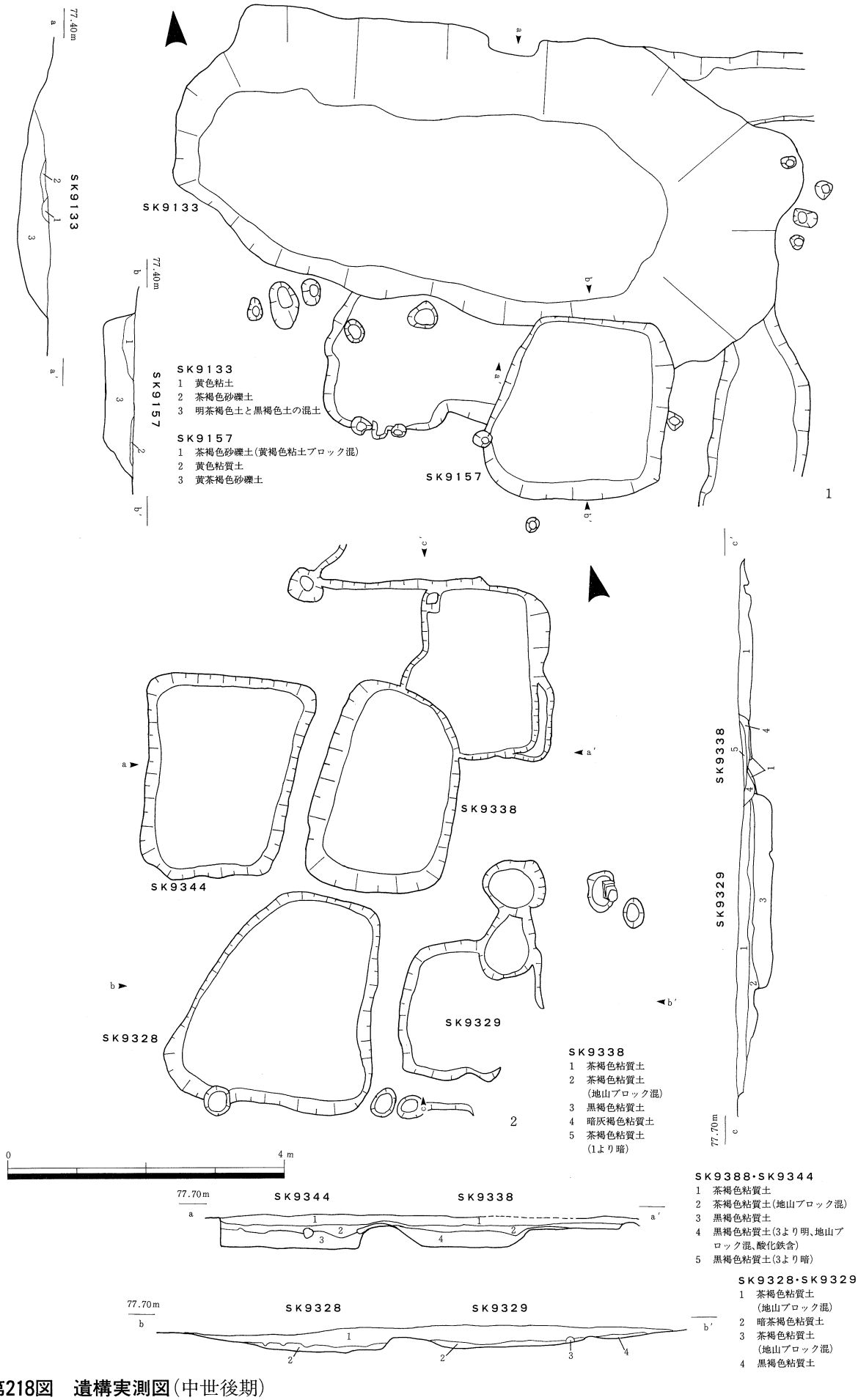
第215図　遺構実測図(中世後期)
SK8952



第216図　遺構実測図(中世後期)
SK8960～SK8962

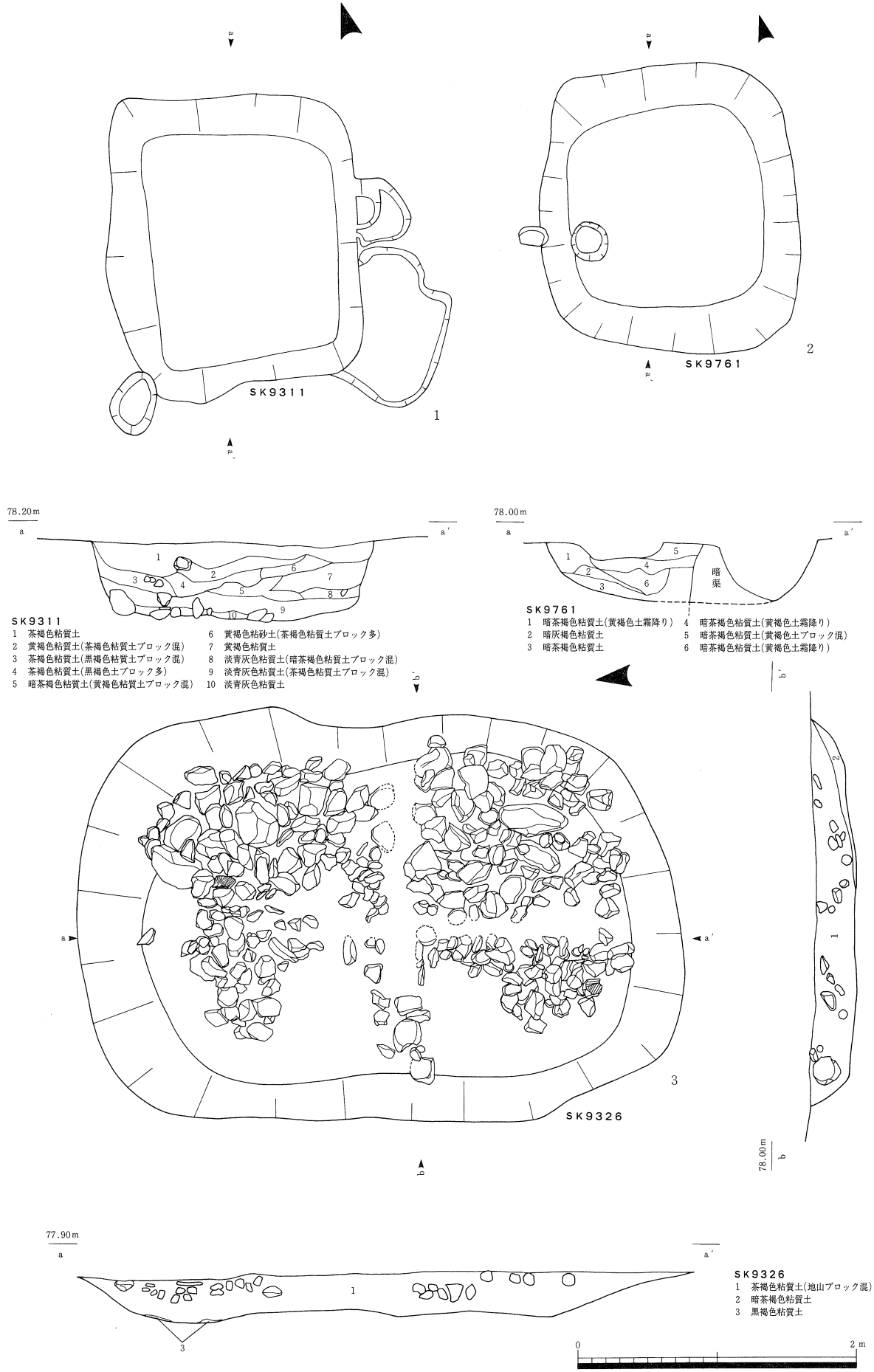


第217図　遺構実測図(中世後期)
1.SK8967　2.SK8965・SK8975

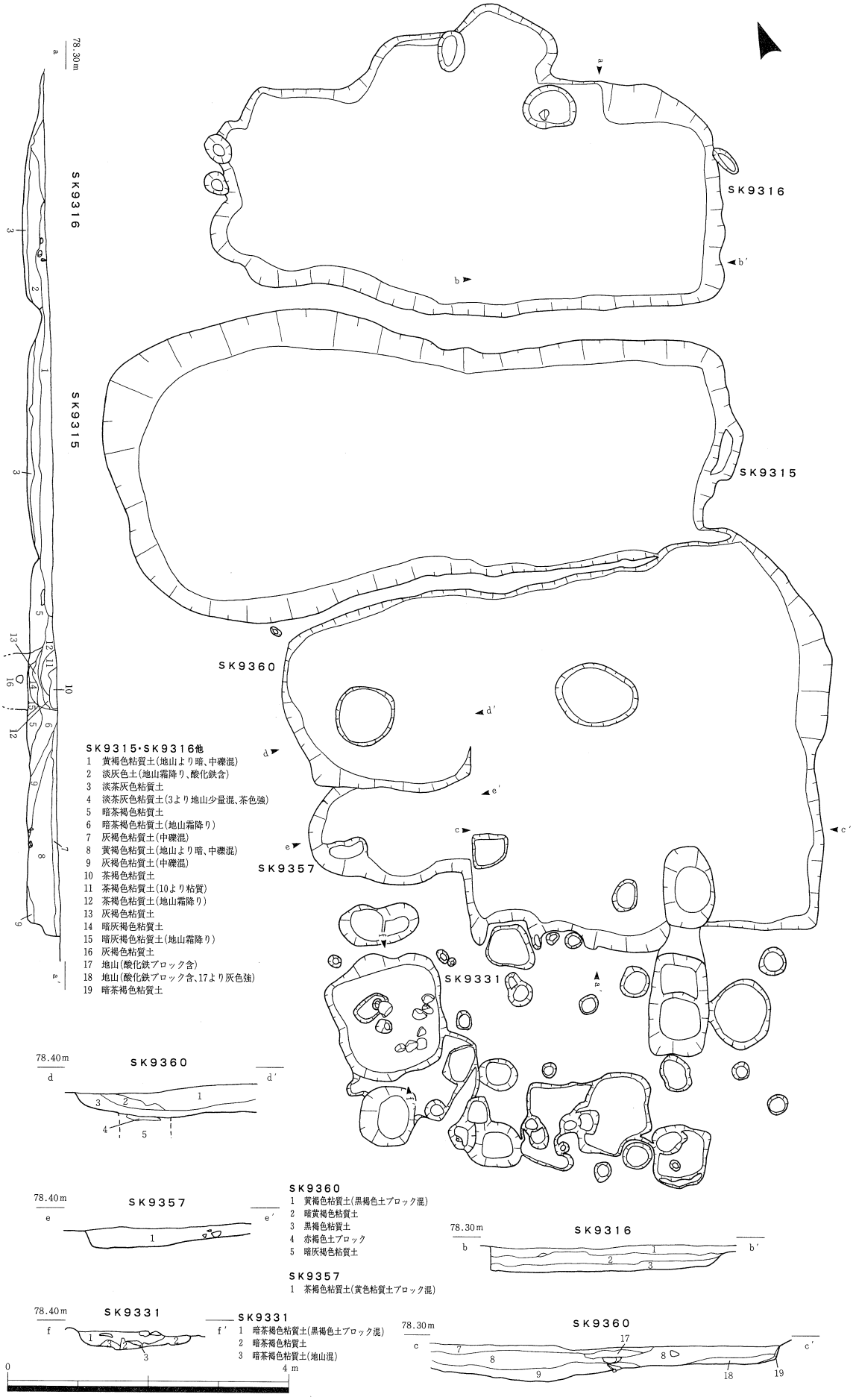


第218図　遺構実測図(中世後期)

1.SK9133・SK9157　2.SK9328・SK9329・SK9338・SK9344

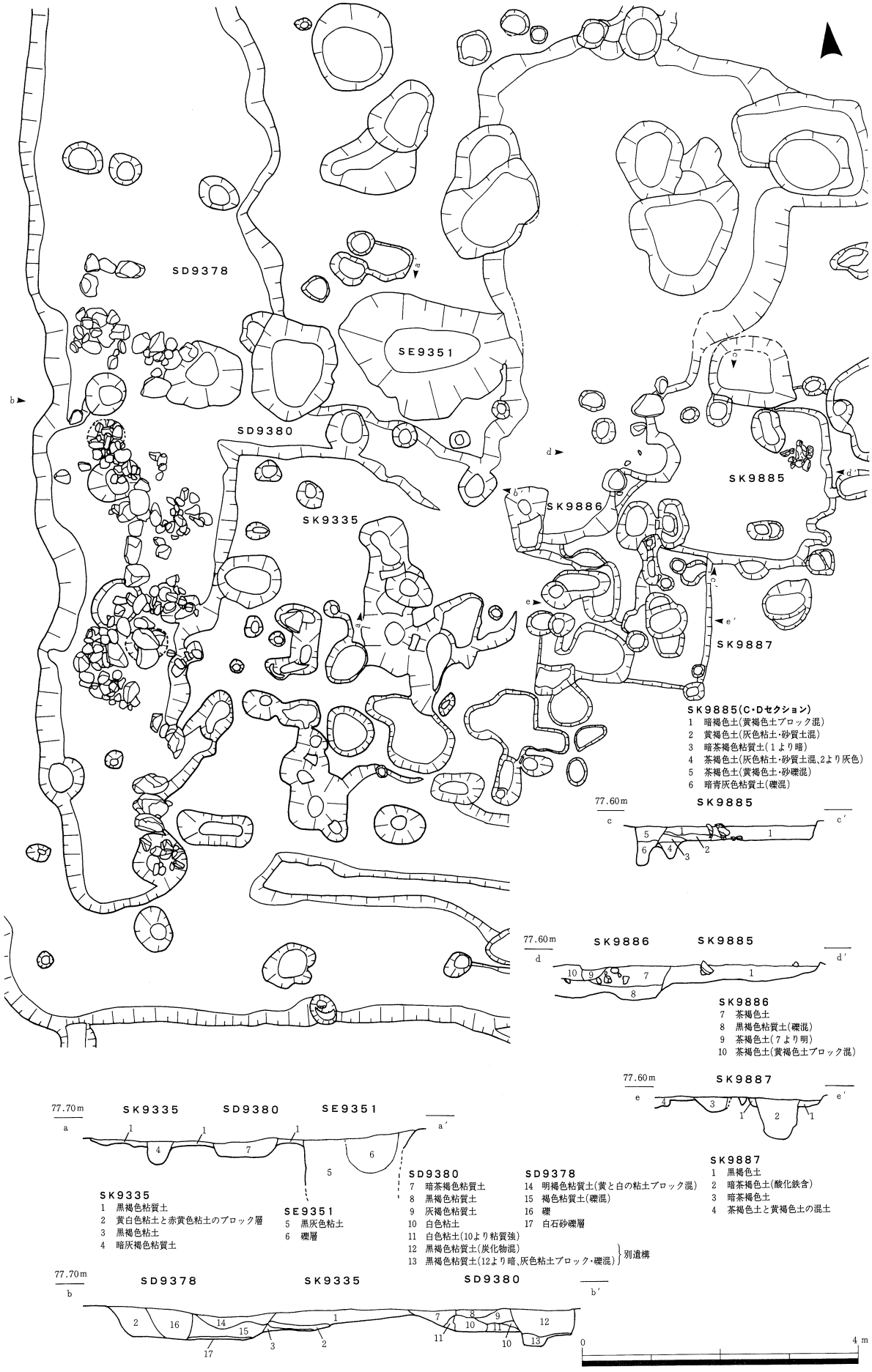


第219図　遺構実測図(中世後期)
1.SK9311　2.SK9761　3.SK9326

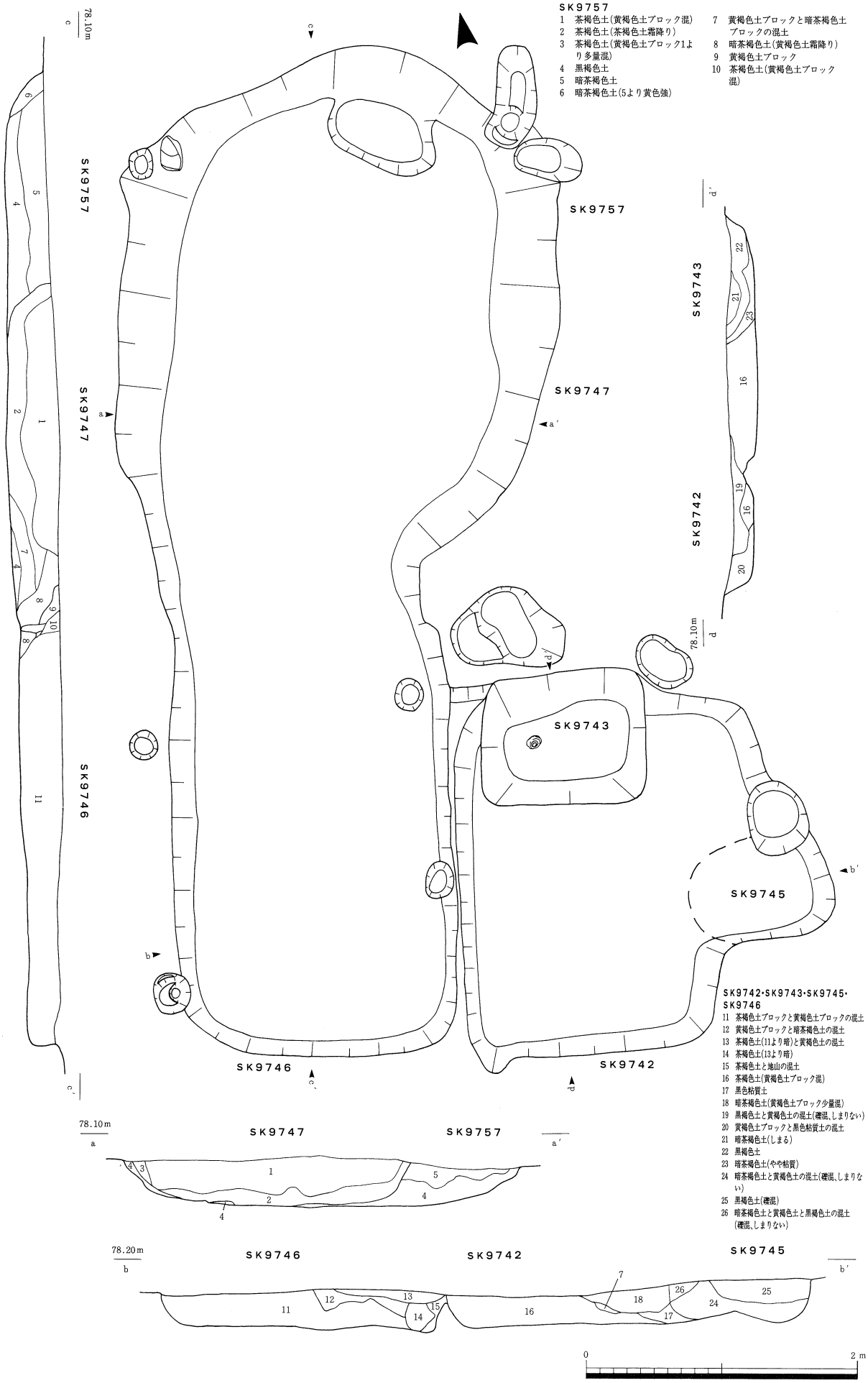


第220図　遺構実測図(中世後期)

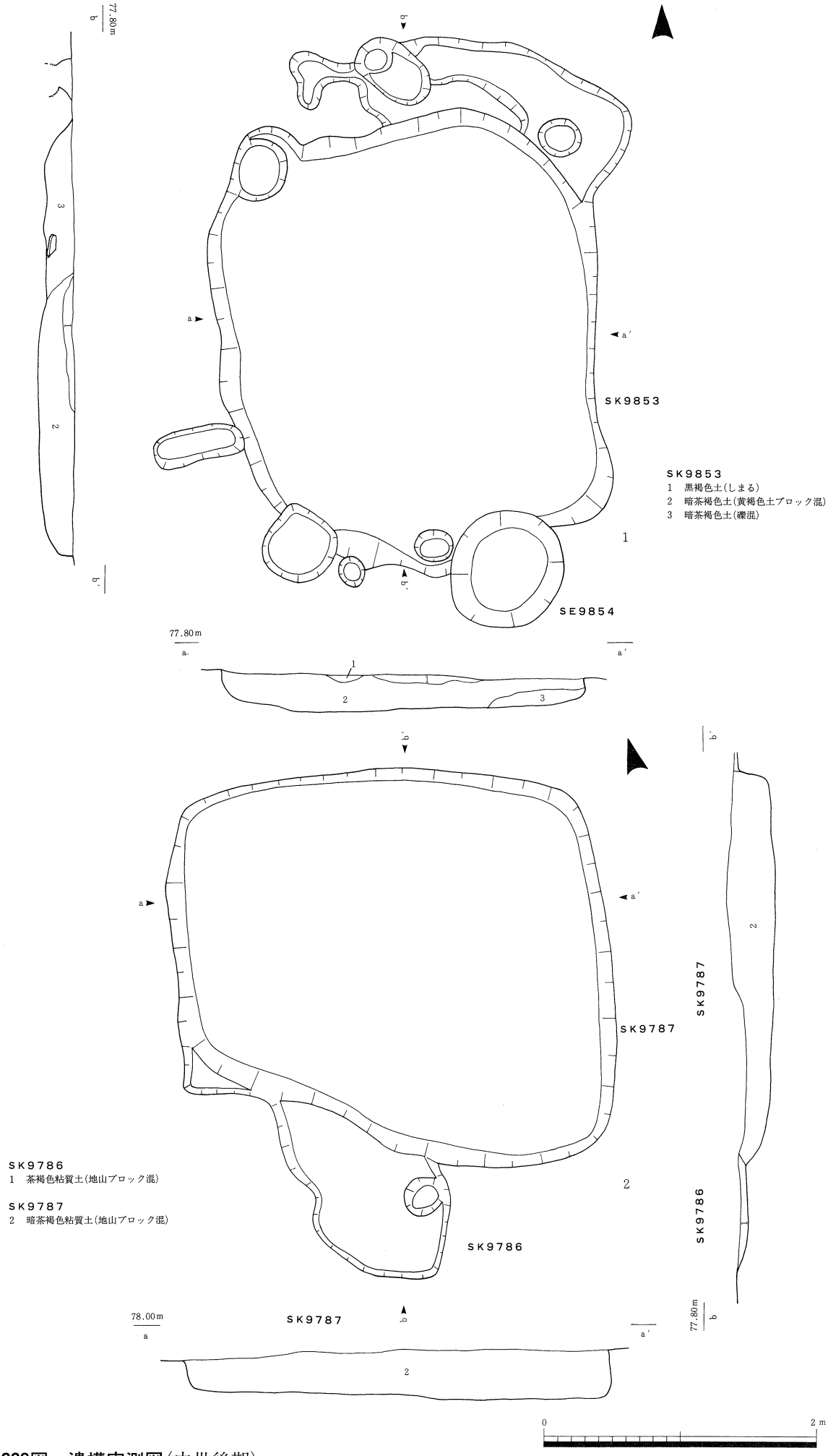
SK9315・SK9316・SK9331・SK9357・SK9360



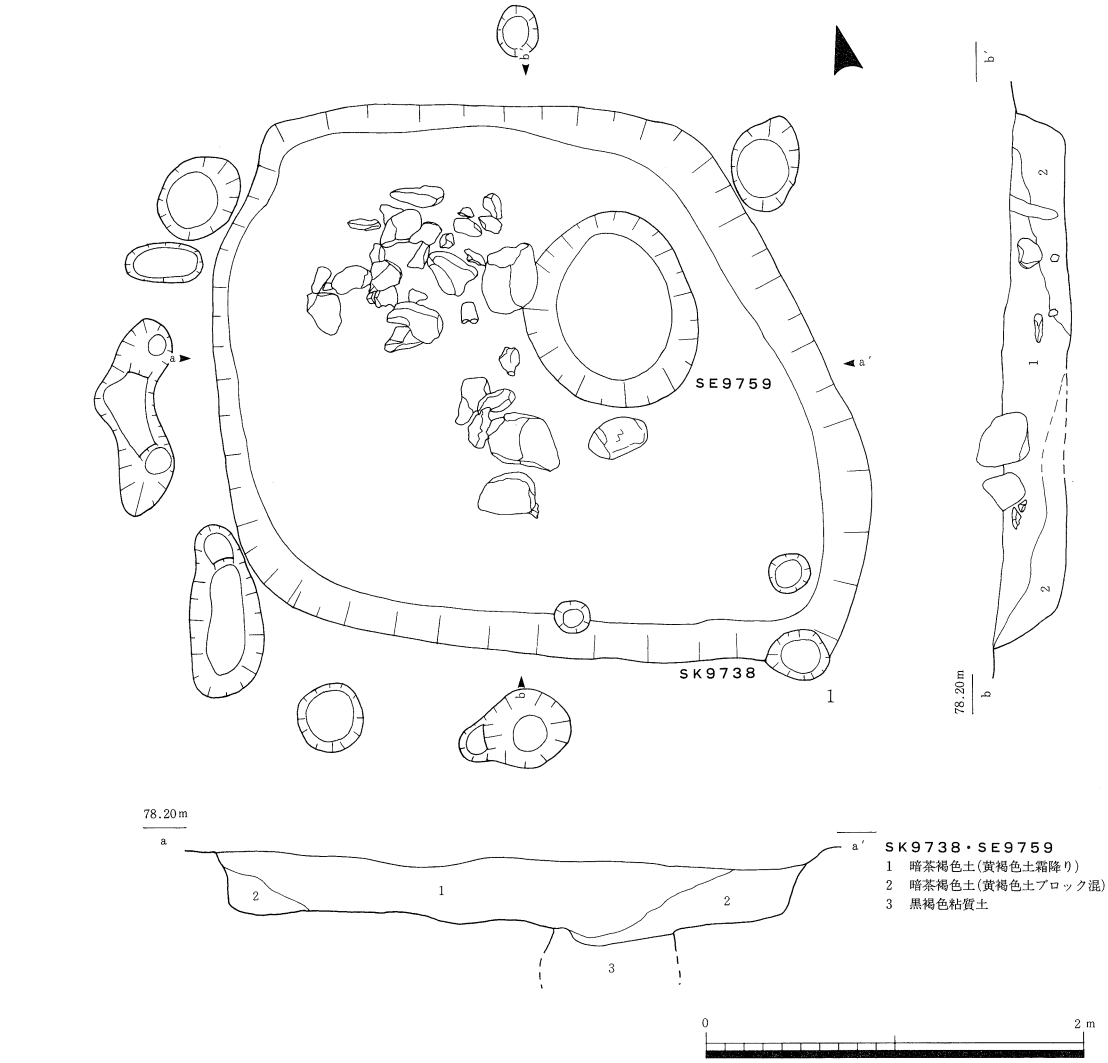
第221図　遺構実測図(中世後期)
SK9335・SK9885～SK9887



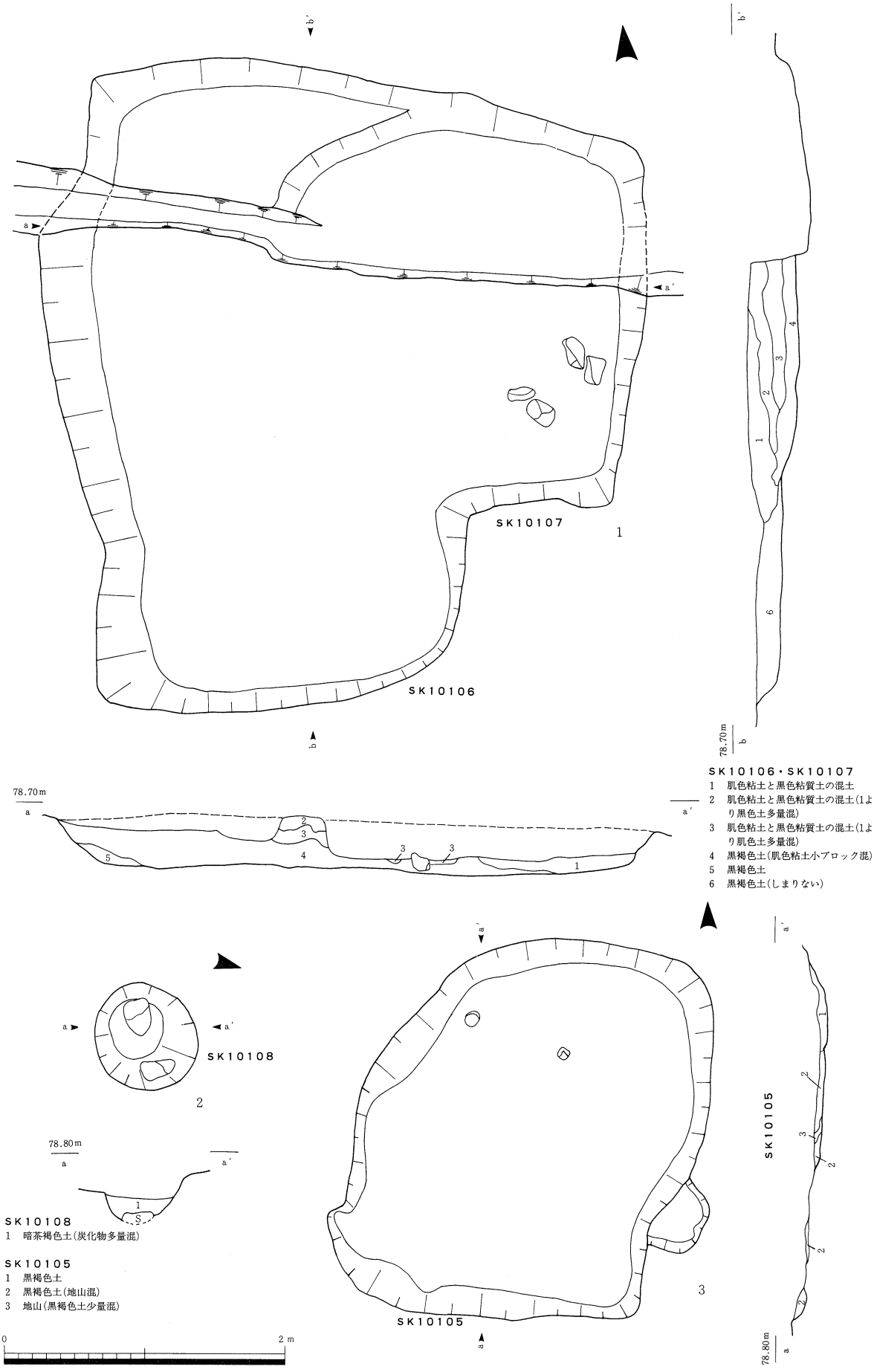
第222図　遺構実測図(中世後期)
SK9742・SK9743・SK9745～SK9747・SK9757



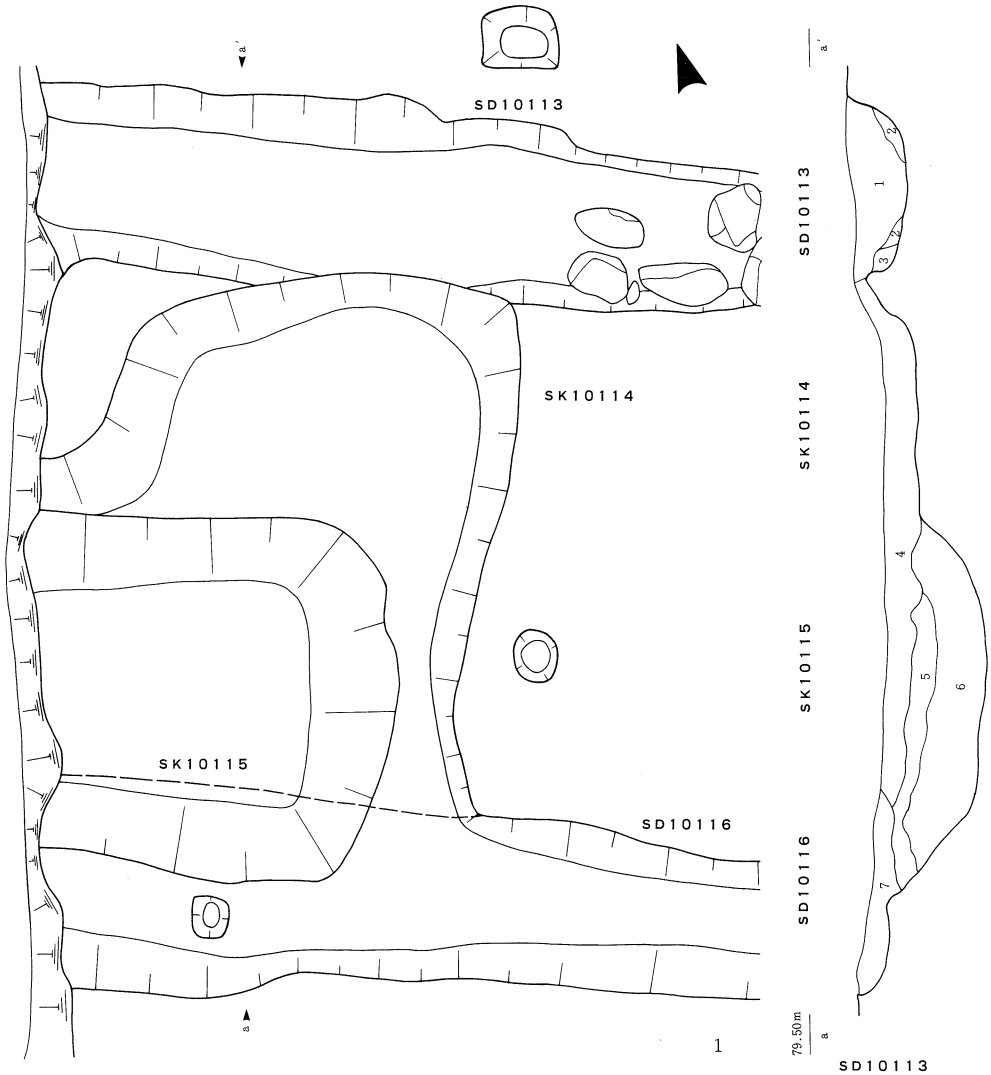
第223図　遺構実測図(中世後期)
1.SK9853　2.SK9786・SK9787

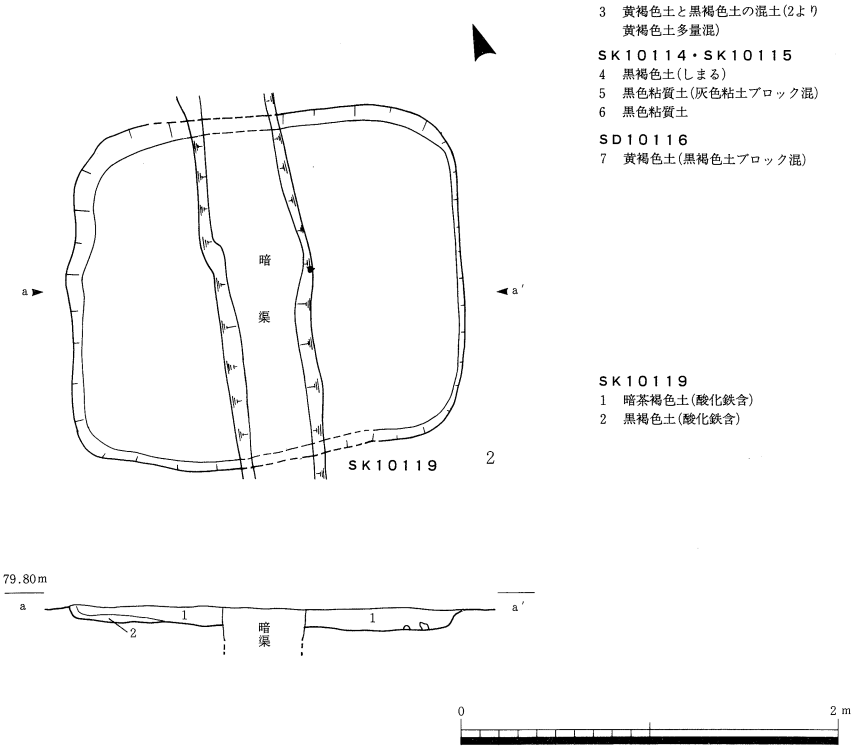


第224図　遺構実測図(中世後期)
1.SK9738　2.SK10216

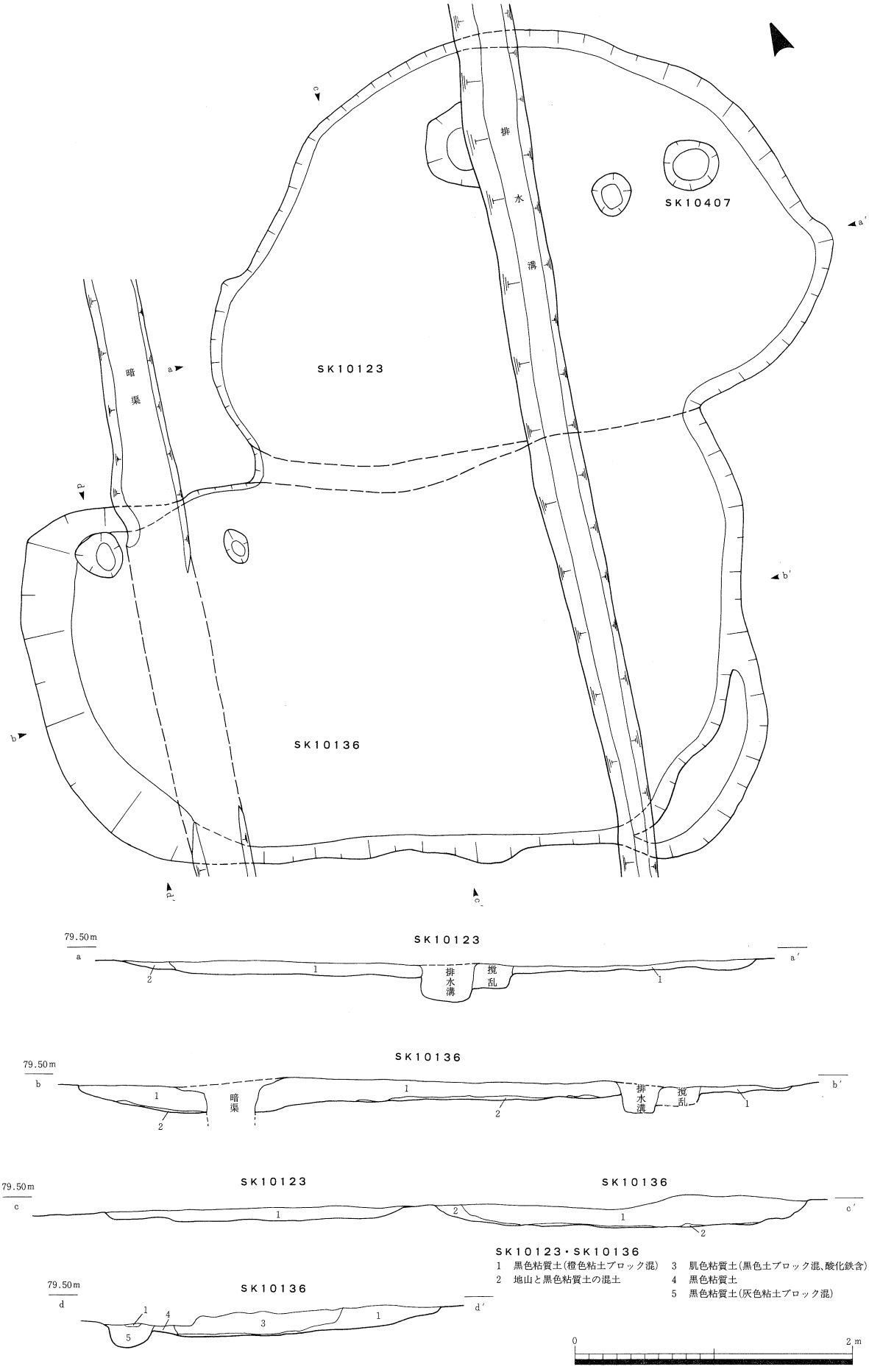


第225図　遺構実測図(中世後期)
1.SK10106・SK10107　2.SK10108　3.SK10105

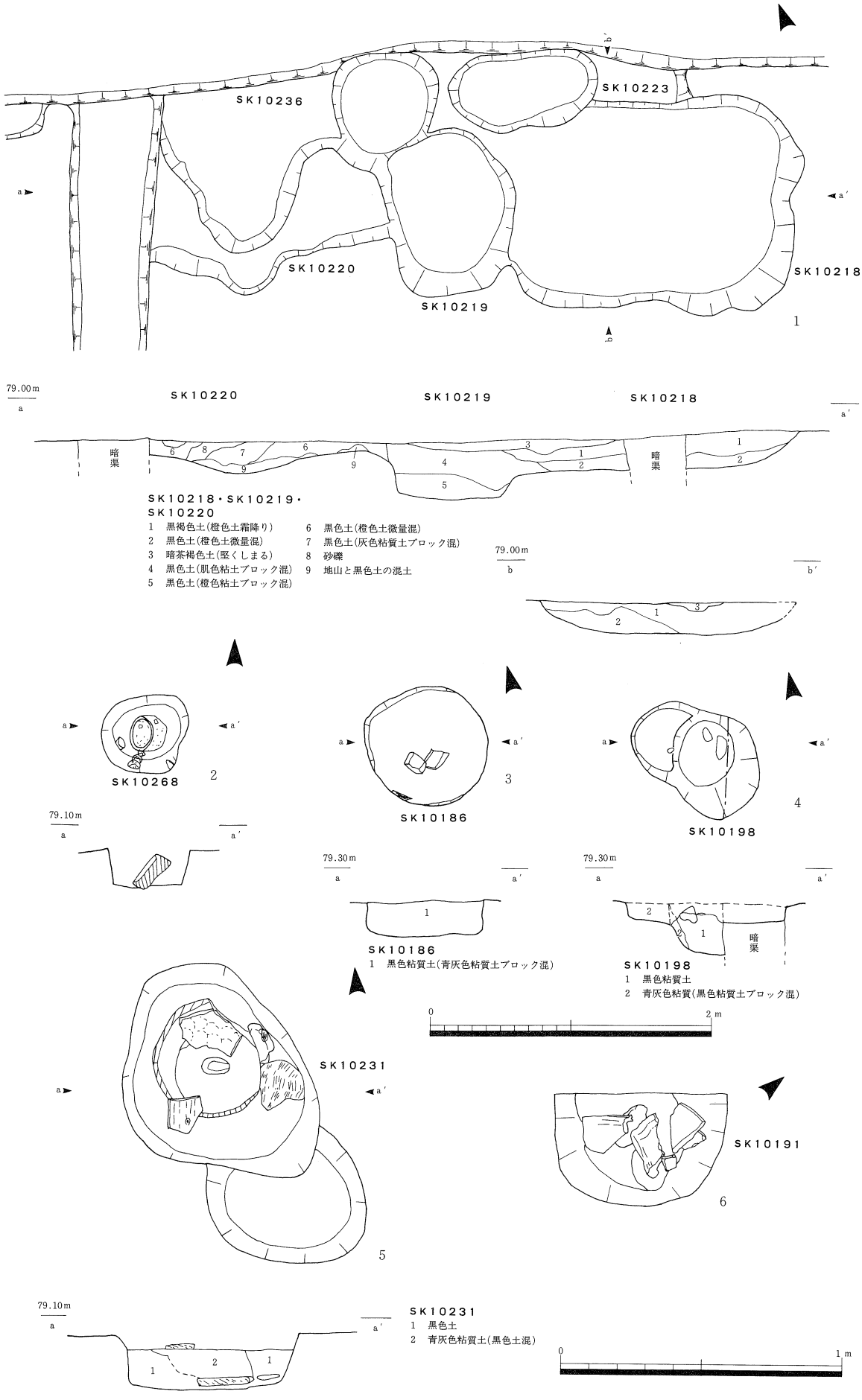




第226図　遺構実測図(中世後期)
1.SK10114・SK10115　2.SK10119

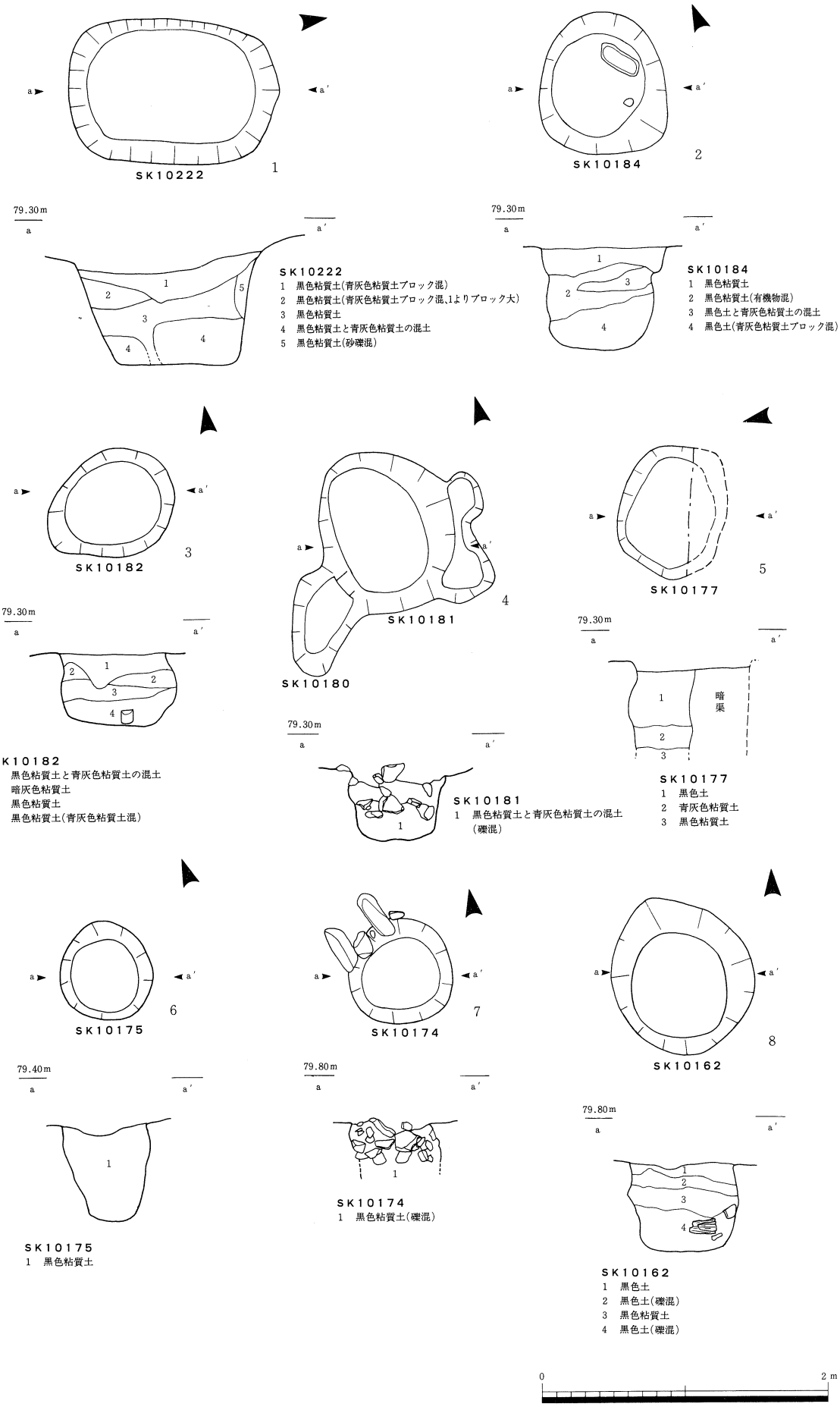


第227図　遺構実測図(中世後期)
SK10123・SK10136



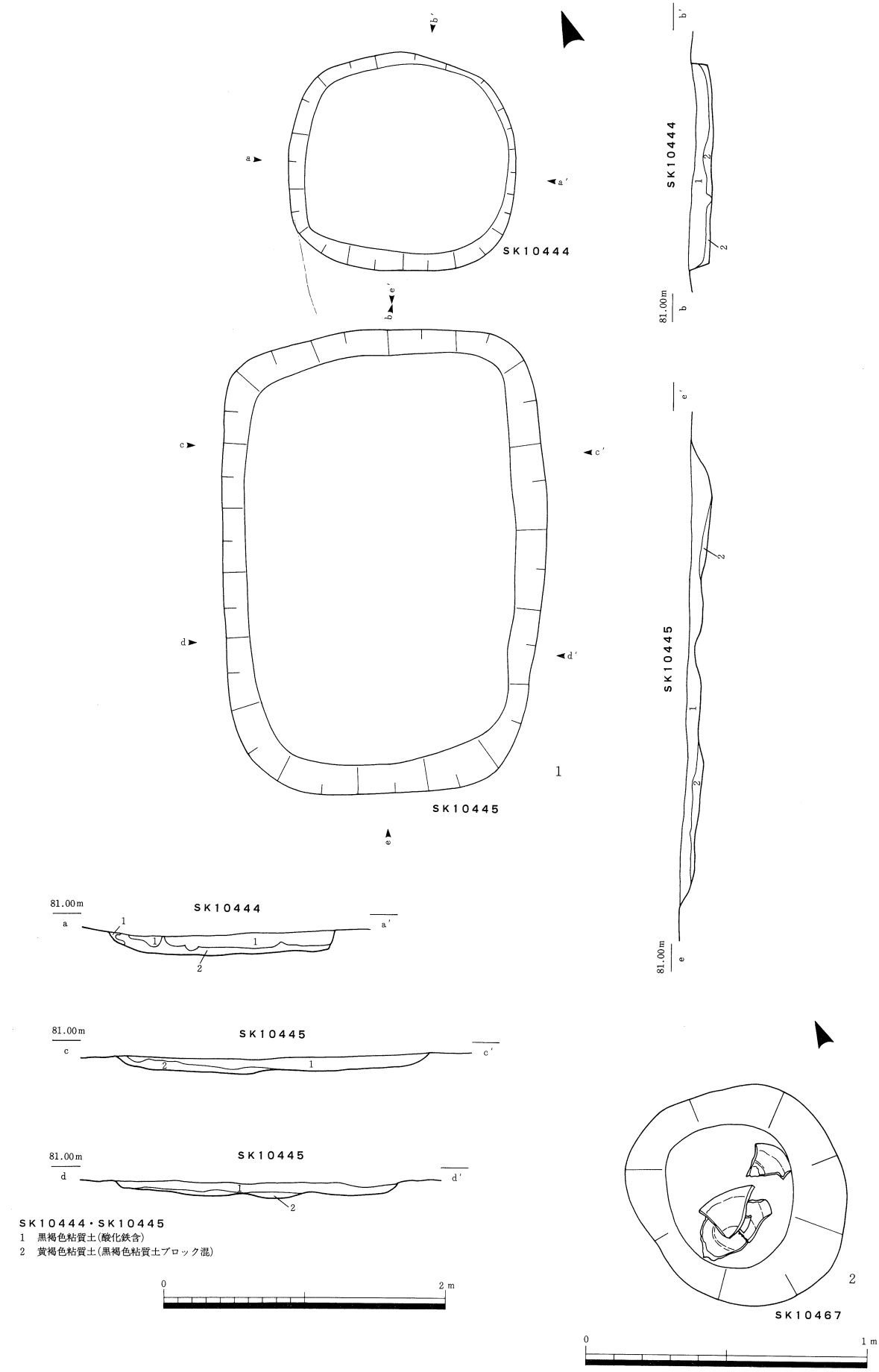
第228図　遺構実測図(中世後期)

1.SK10218~SK10220　2.SK10268　3.SK10186　4.SK10198　5.SK10231
6.SK10191遺物出土状況



第229図　遺構実測図(中世後期)

1.SK10222　2.SK10184　3.SK10182　4.SK10181　5.SK10177　6.SK10175
7.SK10174　8.SK10162



第230図　遺構実測図(中世後期)
1.SK10444　2.SK10445　3.SK10467遺物出土状況

E　近　　世

近世の遺構には，掘立柱建物・土台建物・溝・井戸・竪穴状土坑を含む土坑・製鉄関連遺構がある。16世紀末～17世紀前半はＢ２地区～Ｃ１地区に集中し，17世紀後半～18世紀はＢ２・Ｂ３地区の旧以速寺周辺と，Ａ１・Ａ２地区に散在する。

1　掘立柱建物

近世の掘立柱建物は49棟が復元できた。柱穴は楕円柱穴と円形柱穴のものがあるが，規模は他の時代のものに較べて大きい。時代も17世紀を中心に，伝安楽寺周辺に集中している。

Ａ地区

31号掘立柱建物（ＳＢ31，第231図）

Ａ１地区のＳＤ701の北側，Ｘ458～461Ｙ108～112に位置し，２間×２間の側柱建物である。ＳＢ32より古い。桁行6.36m×梁行4.08m，平面積は26m²である。主軸はＮ－70°－Ｗで，中世後期の建物と方向が違う。梁行の柱間は198cm・210cmと狭く，桁行の柱間は390cm・246cmと広い。柱掘形は平均長軸115cm×短軸65cmの楕円形で，深さ60cmである。北・南桁行の柱穴は深さ60cm～70cmであるが，ロ一三柱穴は深さ50cmで少し深い。ロ二柱穴は深さ22cmと浅く，床持ち柱になるのであろう。柱穴の長軸方向は棟方向と同じである。長軸方向の柱穴壁面は少し段がある。掘形埋土は茶褐色（粘質）土に黄褐色（粘質）土が霜降り状に混じる。ハ二柱穴の埋土には径15cm程の柱痕跡が確認できた。ロ一柱穴から須恵器・中世土師器，ロ三柱から珠洲・伊万里，ハ一柱穴から縄文土器・中世土師器，ハ三柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は17世紀後半である。

32号掘立柱建物（ＳＢ32，第231図）

ＳＢ31より新しい，２間×２間の側柱建物である。長軸6.00m×短軸3.90m，平面積23m²である。主軸はＮ－16°－Ｅで南北に向く。イ二柱穴以外の柱掘形は長軸106cm×短軸80cmの楕円形で，深さ77cmである。イ二柱穴は58cm×49cmの円形で，深さ22cmである。イ一柱穴から近世陶磁器，ハ一柱穴から白磁・越中瀬戸・伊万里，ロ一三柱穴から中世土師器（13世紀）が出土した。イ三柱穴はＳＫ797（18世紀の伊万里）に切られていることから，建物の時期は17世紀後半であろう。

44号掘立柱建物（ＳＢ44，第232図）

ＳＤ701の南側，Ｘ443～445Ｙ99～101に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.40m×梁行3.00m，平面積16m²である。主軸はＮ－19°－Ｅで南北に向く。四隅の柱穴は平均長軸134cm×短軸100cmである。不整円形のロ一柱穴以外は楕円形である。深さは平均51cmである。イ一二柱穴は井戸と重複し，柱穴の深さは不明である。出土遺物はないが，柱穴規模から，時期は17世紀であろう。

45号掘立柱建物（ＳＢ45，第232図・233図）

Ｘ439～442Ｙ104～106にある，２間×１間の側柱建物である。桁行6.15m×梁行3.00m，平面積18m²である。主軸はＮ－16°－Ｅで南北に向く。イ一二・ロ一柱穴の掘形は深さ69cm・長軸161cm×短軸73cmの楕円形で，建物の主軸と違って東西に向く。イ二柱穴は，深さ81cm・長軸190cm×短軸93cmの楕円形で，上記の柱穴と違って南北に向く。ロ三柱穴は，ＳＫ1437と重複するために方形に見えるが，130cm×114cmの楕円形，深さ104cmである。ロ二柱穴はＳＫ1404（18世紀）のため確認できなかった。掘形埋土は茶褐色（粘質）土か黒褐色（粘質）土で，黄褐色土（地山土）がわずかに混じる。柱痕跡は確認できなかった。イ二柱穴から中世土師器，ロ一柱穴から青磁（13世紀）・青花（16世紀）が出土した。ＳＫ1405（近世）をかすかに切っているので，建物の時期は17世紀であろう。

46号掘立柱建物（ＳＢ46，第232・233図，図版91）

ＳＤ1406の南側，Ｘ439～441Ｙ95～98に位置する，２間×２間の側柱建物である。桁行5.04m×梁行4.08m，平面積は21m²である。主軸はＮ－14°－Ｅと南北に向く。四隅の柱穴は大きく，その間の柱穴は小さい。北梁行の柱穴は長軸102cm～117cm×短軸56cm～72cmの楕円形，南梁行の柱穴は長軸82cm～90cm×短軸42cm～60cmの楕円形である。深さは北の柱穴で60cm～80cm，南のそれで40cmである。後者の柱穴は前者の柱穴より規模が小さい。ロ三柱穴は97cm×52cmの楕円形で，東西に向く。その他の柱穴は98cm～66cm×52cm～55cmの楕円形である。イ一柱穴の掘形埋土には一辺20cm方形の柱痕跡（暗茶褐色粘質土）と黄褐色土（地山土）混じりの暗茶褐色土がある。イ二柱穴から中世土師器が出土した。大形楕円柱穴から建物の時期は17世紀であろう。

Ｂ地区

136号掘立柱建物（ＳＢ136，第234図，図版99）

Ｂ１地区の中央部，旧橋本川の南際に位置する，４間×１間の側柱建物である。桁行17.40m×梁行4.80m，平面積84m²である。主軸はＮ－83°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸106cm～142cm×短軸78cm～106cm，平均122cm×94cmである。イ一・ロ二三五柱穴は東西向きの楕円形，イ・ロ五柱穴は南北向きの楕円形である。ロ一四柱穴は不整円形である。深さは平均64cmである。イ五・ロ四柱穴の73cm・95cm，それ以外は55cm～59cmである。イ五柱穴は砂利混じりの青灰色粘質土（最下層）の上に柱根を立て，礫混じりの茶褐色土で埋めている。その柱根は柱穴中央部の西端にあり，径20cmで，西側に77°傾いている。イ五・ロ四柱穴から珠洲が出土した。柱穴が中世後期のＳＤ4365・ＳＤ4484を切り，しかも，大形楕円柱穴から，建物の時期は17世紀であろう。

146号掘立柱建物（ＳＢ146，第235図，図版99）

Ｂ２地区の北側の中央部，Ｘ264～266Ｙ88～90に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸4.80m×短軸3.78m，平面積18m²である。主軸はＮ－84°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸148cm～154cm×短軸66cm～77cm，平均151cm×71cmの楕円形である。掘形の長軸は建物の主軸に向く。二段掘りのように段を持つ。深さは90cm～100cm，平均85cmである。ロ二柱穴は半分以上が未掘である。柱抜き取り痕跡はイ一柱穴で確認できる。それは地山土が霜降り状に混じる黒褐色土で，幅16cm前後で，東に少し傾く。イ二柱穴の掘形にある石は柱根の周りに入れたものであろう。イ二柱穴から17世紀後半の伊万里，ロ二柱穴から越前が出土した。イ一柱穴は16世紀のＳＤ6574を切り，イ二柱穴は18世紀のＳＫ6564に切られている。建物の時期は17世紀後半であろう。

149号掘立柱建物（ＳＢ149，第235図）

ＳＢ146の南側，ＳＤ5105の北側に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸4.20m×短軸3.00m，平面積13m²である。主軸はＮ－86°－Ｗで東西に向く。柱掘形は二段になる段掘りである。ロ一柱穴は長軸78cm×短軸54cmの楕円形で，深さ74cmである。イ一柱穴は３つの穴が重なっているが，南北に向き，深さ67cmの楕円形である。その他の柱穴は暗渠のため，攪乱されているが，南北に向く楕円形であろう。すなわち，掘形の長軸と建物の主軸とは直交する。遺物は柱穴から出土しなかったが，建物の時期は16世紀末～17世紀であろう。

151号掘立柱建物（ＳＢ151，第235図，図版92・99）

ＳＢ149の西側，ＳＤ5105の北側に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.10mである。梁行は，東側で330cm，西側で360cmと，柱間が少し違う。平面積18m²である。主軸はＮ－80°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸116cm×短軸59cmの楕円形で，長軸は建物の主軸に向く。イ一柱穴は92cm×57cm，それ以外は100cm～135cm×43cm～60cmである。深さは64cmである。イ二・ロ二柱穴

の底には礎石がある。ロ一柱穴の底は少し窪んでおり，柱根を据え付ける穴がある。ロ三柱穴には柱痕跡が確認できた。その他の柱穴の中には，礫が多く入っており，柱根を支えていたのであろう。柱穴から出土遺物がないが，大形楕円柱穴から，建物の時期は17世紀であろう。

152号掘立柱建物（ＳＢ152，第236図）

Ｂ２地区の中央部の西側，Ｘ248～250Ｙ80～83に位置する，２間×１間の側柱建物である。東桁行は南から240cm・240cm，西桁行は270cm・240cmである。梁行は360cmで，平面積は18m²である。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸84cm×短軸58cmの不整形である。イ一柱穴は112cm×52cm，イ二柱穴は58cm×42cm，その他は70cm～90cm×60cm～68cmである。深さは平均53cmである。イ一・ロ三柱穴から柱痕跡が確認できる。柱穴には礫を入れて柱根を支えている。イ二柱穴の南20cmにある柱穴には，８cmの柱根が確認できたが，建物に伴うのか不明である。遺物が出土しなかったが，周辺の遺構配置から，建物の時期は16世紀末～17世紀であろう。

153号掘立柱建物（ＳＢ153，第236図，図版100）

ＳＢ152の南側に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.40m×梁行4.92m，平面積27m²である。主軸はＮ－9°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸125cm×短軸62cmである。ロ三柱穴は80cm×65cmの長方形に近く，その他は115cm～162cm×54cm～73cmの楕円形である。柱穴長軸は建物の主軸に向く。深さは平均59cmである。掘形埋土は地山土が霜降り状に混じる。ロ一～三柱穴の底に柱据え付けの石がある。イ一三・ロ一二柱穴から越前甕・唐津折縁皿・青磁・石臼が出土した。ロ一柱穴の越前甕（17世紀前半）と，イ一柱穴を切るＳＫ6260のそれが接合することから，建物の時期は17世紀前半である。

154号掘立柱建物（ＳＢ154，第237図，図版94・100）

Ｘ231～237Ｙ75～78，ＳＤ6096の西側に位置する，４間×１間の側柱建物である。桁行11.16m×梁行4.68m，平面積52m²である。主軸はＮ－5°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸114cm×短軸57cmの楕円形で，建物の主軸に並行する。イ五柱穴は80cm×40cm，その他は100cm～150cm×40cm～68cmである。ロ一二柱穴は，近現代の土坑で切られている。深さは35cm～60cm，平均45cmである。イ二・ロ五柱穴の掘形壁面に少し段を持つ。掘形埋土は地山土（黄褐色粘質土）が多く混じる（黒）褐色粘質土である。イ二柱穴は径12cmの柱根があり，そばに石が据え置かれている。イ一・ロ一柱穴は径14cmの柱痕跡が確認できる。イ三柱穴から17世紀末～18世紀前半の肥前陶磁器，ロ五柱穴から中世土師器・越前（16世紀）が出土した。前者の遺物は廃絶後の混入と考えられるから，建物の時期は16世紀末～17世紀である。なお，イ五柱穴は土台建物ＳＢ6665に切られている。

155号掘立柱建物（ＳＢ155，第237図，図版94・100）

ＳＢ154の内に位置する，３間×１間の側柱建物である。桁行6.60m×梁行3.36m，平面積22m²である。主軸はＮ－6°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸73cm×短軸43cmである。イ一二四柱穴は80cm～100cm×49cm～52cmの楕円形，その他は52cm～58cm×28cm～46cmの不整方形である。深さは平均37cmである。イ三・ロ一柱穴は13cm～15cmと浅く，その他は37cm～53cmである。イ一柱穴から径14cmの柱痕跡が確認できた。その痕跡の下は地山土の黄褐色粘質土で，その痕跡の周りには褐色粘質土が入る。柱穴から遺物が出土しなかったが，ロ四柱穴が切られているから，ＳＢ154より古く，建物の時期は16世紀末～17世紀前半であろう。

157号掘立柱建物（ＳＢ157，第239図，図版100）

ＳＤ6021の東側，Ｘ232～235Ｙ92～95に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.70m×梁行

4.80m，平面積27m²である。主軸はN－5°－Wで他の遺構よりも南北に向く。柱掘形は平均長軸107cm×短軸64cmの楕円形である。イ二柱穴は65cm×46cm・イ三柱穴は156cm×87cmで，それ以外は96cm～110cm×55cm～72cmである。深さは50cm～76cm，平均65cmである。ロ三柱穴から径16cmの柱痕跡が出土している。その土は礫混じりの暗茶褐色粘質土で，ぼそぼそである。掘形埋土は地山土が多く混じる褐色粘質土である。イ三柱穴から中世土師器・石鉢（桑山石）・漆器，ロ一柱穴から越中瀬戸・伊万里（17世紀後半），ロ三柱穴から越前（16世紀）が出土した。建物の時期は17世紀後半である。

158号掘立柱建物（ＳＢ158，第238図）

ＳＢ156の南側，ＳＤ6021を切る，１間×１間の側柱建物である。長軸4.20m×短軸3.90m，平面積16m²である。主軸はN－77°－Wで東西に向く。イ二柱穴の掘形は深さ56cm・長軸132cm×短軸55cmの楕円形，ロ一柱穴のそれは深さ56cm・長軸92cm×短軸44cmの楕円形である。共に，掘形断面にわずかに段を持つ。その他の柱穴の規模は確定できない。イ一・ロ二柱穴から柱根，ロ一柱穴から柱痕跡が確認できた。ロ一柱穴はＳＤ6021（15世紀～16世紀）を切って作られており，埋土から16世紀の瀬戸美濃・信楽が出土している。建物の時期は16世紀末～17世紀である。

159号掘立柱建物（ＳＢ159，第238図）

ＳＢ158に重複するように位置する，１間×１間の側柱建物である。柱穴の切り合いから，ＳＢ158より新しい。長軸3.90m×短軸3.60m，平面積14m²である。主軸はN－78°－Wで，東西に向く。ロ一・二柱穴の掘形は長軸86cm・92cm×短軸40cm・44cmの楕円形，イ一・二のそれは長軸104cm・128cm×短軸49cm・52cmの楕円形である。平均103cm×46cmである。深さは32cm～51cm，平均40cmである。掘形の長軸に建物の主軸が並行する。柱穴掘形にわずかに段を持つ。ロ二柱穴には柱痕跡が確認できた。イ・ロ一柱穴から17世紀前半の越中瀬戸，イ・ロ二柱穴から17世紀前半の唐津が出土した。特に，出土遺物から，建物の時期は17世紀前半と考える。

160号掘立柱建物（ＳＢ160，第238図）

ＳＢ158・ＳＢ159に重複するように位置する，１間×１間の側柱建物である。ＳＢ158より新しい。長軸5.10m×短軸4.02m，平面積21m²である。主軸はN－16°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸123cm～160cm×短軸44cm～64cm，平均146cm×54cmの楕円形である。深さは50cm～72cm，平均54cmである。掘形の長軸が建物の主軸と同じ方向である。イ二柱穴の底には礎石があり，その上にぼそぼその暗茶褐色土が確認できた。その土は柱抜き取り痕跡とも考えられる。イ一柱穴から中世土師器・唐津（17世紀），ロ二柱穴から越中瀬戸・石臼が出土した。建物の時期は17世紀である。

161号掘立柱建物（ＳＢ161，第239・240図）

ＳＢ160の南側，X231～234Y86～89に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸4.38m×短軸4.20m，平面積18m²である。主軸はN－75°－Wで東西に向く。ロ二柱穴は長軸58cm×短軸44cmの円形，イ二・ロ一柱穴は長軸80cm・86cm×短軸50cm・53cmの楕円形，イ一柱穴は長軸104cm×短軸96cmの円形である。ロ一二柱穴の長軸は建物の主軸と同じ方向であるが，他は違っている。イ一柱穴の掘形は段をもつ。イ二柱穴の底は柱据え付けのため，少し窪んでいる。柱痕跡は確認できなかった。ロ二柱穴は16世紀末～17世紀のＳＫ6624を切っていることから，建物の時期は17世紀であろう。

162号掘立柱建物（ＳＢ162）

Ｂ２地区の土台建物ＳＢ6390の南部分の下層で確認できる。柱穴が「Ｌ」字状にめぐり，西列と南列では確認できない。２間×２間の側柱建物である。長軸6.00m×短軸5.40m，平面積32m²である。主軸はN－10°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸110cm～146cm×60cm～80cm，平均128cm×73cmの楕

円形である。深さは40cm～55cm，平均49cmである。ロ三柱穴以外の柱掘形の長軸は，建物の主軸方向に向く。ハ三柱穴の埋土は黒褐色粘質土で，褐色粘質土・砂礫土が混じる。ロ三柱穴の埋土は砂礫土混じりの黒灰色粘質土である。イ一柱穴から17世紀前半の唐津が出土したことやＳＢ6390より古いことから，建物の時期は17世紀前半であろう。

163号掘立柱建物（ＳＢ163）

ＳＢ162の南側に位置し，大形柱穴が３基南北に並ぶ。柱間は南から210cm・180cmとなる。イ一柱穴の掘形は長軸136cm×短軸88cm，深さ67cmである。掘形埋土は黄褐色土に黒褐色土・褐色粘土が霜降り状に混じり，柱根が残っている。イ二柱穴の掘形は長軸114cm×短軸70cm，深さ42cmである。掘形埋土は黄褐色土に黒褐色土が霜降り状に混じる。イ一・二柱穴の長軸は東西・南北と向きを違えている。イ三柱穴は別の遺構と重複するため，規模不明である。イ一柱穴から17世紀前半の唐津，イ二柱穴から16世紀末の越前が出土した。これらの柱穴は大形楕円柱穴で，柱根があることから，ＳＢ164・165・170と同様，建物の棟持ち柱の柱穴と考えられる。建物の時期は17世紀前半であろう。

165号掘立柱建物（ＳＢ165，第240・241図）

Ｂ２地区の南西側，Ｘ218～221Ｙ74～77，ＳＤ5936を挟むように位置する，３間×１間の側柱建物である。桁行は8.40m，梁行3.90mである。北西側に１間（3.30m）×１間（3.30m）の張出があるが，身舎の柱列との並びが少しずれる。張出部を含めると，平面積は44m²である。主軸はＮ－88°－Ｗで東西に向く。ロ一柱穴は長軸136cm×短軸96cmの楕円形，その他の柱穴は長軸108cm～130cm×短軸44cm～70cmの楕円形である。ロ一柱穴以外の柱穴の長軸は建物の主軸に向く。張出にあるハ三四柱穴は106cm・118cm×52cm・90cmの楕円形で，建物の主軸に直交する。掘形の平均は123cm×66cmである。深さは55cm～75cmで，平均61cmである。イ一二四・ロ一柱穴の掘形には段を持つ。イ一三四・ハ四柱穴から柱痕跡が確認でき，地山土が霜降り状に混じる。イ三四・ロ三四柱穴はＳＤ5936（16世紀）を切る。ロ一柱穴から17世紀前半の唐津が出土した。これらのことから，建物の時期は16世紀末～17世紀前半であろう。ＳＫ5957・ＳＫ5958は建物に伴う。ＳＫ5958の石列はＳＫ5957の方に向かって面を取って並んでいる。なお，建物の南側に柱穴が４基並んでいる。全長8.40mで，東から315cm・315cm・210cmの間隔である。この建物の塀になるのであろう。

166号掘立柱建物（ＳＢ166，第240・241図，図版93）

ＳＢ165の東側に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行7.20m×梁行5.10m，平面積37m²である。主軸はＮ－13°－Ｅで南北に向く。ロ一柱穴の掘形は長軸146cm×短軸90cmの楕円形，その他は長軸114cm～156cm×短軸44cm～70cmの楕円形である。平均136cm×61cmである。柱掘形の長軸は建物の主軸方向と並行する。ロ二柱穴の深さは80cm，その他は44cm～58cmである。深さの平均は59cmである。イ一二・ロ一柱穴から幅18cm～20cmの柱痕跡が確認できる。その周りには，地山土が霜降り状に混じる黒褐色粘質土が入っている。ロ三柱穴の底には柱根を支えるための石が置かれている。ロ一柱穴から16世紀末～17世紀の越中瀬戸・唐津，ロ二柱穴を切っているＳＥ5987の上層から越中瀬戸（16世紀末～17世紀）・越前が出土した。このことから，建物の時期は17世紀前半であろう。

167号掘立柱建物（ＳＢ167，第240図，図版93）

ＳＢ166の南側に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.40m×梁行3.30m，平面積18m²である。主軸はＮ－９°－Ｅで南北に向く。イ二三柱穴の掘形は長軸80cm・70cm×短軸34cm・42cmの楕円形，ロ一・二柱穴は長軸108cm・128cm×短軸38cm・54cmの楕円形，ロ一柱穴は長軸110cm×短軸76cmの隅丸方形である。掘形の平均は99cm×49cmである。深さは平均44cmである。イ一～三柱

穴は29cm～34cm，それ以外は57cm・63cmである。イ一・ロ三柱穴の底は柱を据え付けるために約18cm程窪んでいる。ロ二柱穴から柱痕跡が確認できる。掘形埋土には地山土が多く混じる黒褐色粘質土が大部分である。イ三柱穴から中世土師器・越前・瀬戸美濃（16世紀），ロ三柱穴から越中瀬戸・唐津（17世紀前半）が出土した。ロ二柱穴はＳＢ166に切られているので，建物は17世紀前半であろう。

168号掘立柱建物（ＳＢ168，第237図，図版94）

Ｂ２地区の中央部の南側，ＳＤ5010の西側，Ｘ220～222Ｙ84～86に位置する。１間×１間の側柱建物で，長軸4.74m×短軸3.90m，平面積18m²である。梁行が斜方向に歪む。主軸はＮ－86°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸90cm～116cm×短軸46cm～66cm，平均99cm×53cmの楕円形である。深さは32cm～48cm，平均42cmである。掘形埋土は地山土を多く混じる褐色粘質土である。イ一二・ロ一柱穴では幅10cm～20cmの柱痕跡が確認できた。イ一柱穴から中世土師器が出土してた。ロ二柱穴を切るＳＫ5997（17世紀）から，建物の時期は16世紀後半～17世紀である。

170号掘立柱建物（ＳＢ170，第240図）

ＳＫ167の東側に位置し，３基の柱穴が並んでいる。南から，4.20m・3.60mの間隔である。イ一柱穴の掘形は，長軸128cm×短軸68cm，深さ67cmである。掘形埋土は，下層が黒褐色砂礫土と黄褐色砂礫土の混土，上層が黄褐色粘土と黒褐色粘土の混土である。柱穴の底には柱据え付け穴が南北に２箇所ある。北側の穴は底面より10cm程深く，長さ25cm（幅不明），南側の穴は北の穴より30cm離れ，底面より20cm程深く，長さ25cm（幅不明）である。イ二柱穴の掘形は長軸245cm×短軸82cm，深さ76cmである。掘形埋土は黄褐色粘土と黒褐色粘土の混土で，柱痕跡がある。柱穴の底には，イ一柱穴と同様，２箇所の柱据え付け穴がある。その北側の穴は底面より30cm深く，長さ27cm（幅不明）で，柱根がある。南側の穴は底面より27cm深く，長さ23cm（幅不明）で，柱痕跡が残る。イ三柱穴の掘形は長軸108cm×短軸62cm，深さ64cmである。掘形埋土は，上層が黄褐色粘土をわずかに混じる黒褐色粘土，下層が褐色粘土混じりの砂礫土である。柱穴の底面には柱据え込みの穴が確認できない。以上から，これらの柱穴は建物の屋根を支える柱列と考える。建物の規模はこれらの柱穴から左右に広がると考えられる。柱穴から出土遺物はないが，大形楕円柱穴から，建物は17世紀であろう。

171号掘立柱建物（ＳＢ171）

Ｘ204～207Ｙ76・77に位置し，２間×１間の側柱建物である。長軸6.60m×短軸3.00m，平面積20m²である。主軸はＮ－３°－Ｅで南北に向く。四隅の柱穴は長軸70cm～104cm×短軸54cm～78cm，平均長軸90cm×短軸68cmの楕円柱穴で，深さ65cmである。ロ二柱穴は86cm×54cmで，深さ13cmと浅い。イ二柱穴は規模不明だが，深さ19cmである。イ一柱穴は茶褐色土と黄褐色土の混土，ロ一柱穴は黄褐色土に赤褐色砂質土が混じる。イ一柱穴から土師質擂鉢・青磁，イ二柱穴から中世土師器・瀬戸美濃，イ三柱穴から中世土師器・珠洲，ロ一柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は16世紀末～17世紀前半である。

174号掘立柱建物（ＳＢ174，第242図）

Ｘ179～181Ｙ73～76，ＳＤ7600の北側に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸4.92m×短軸2.40m，平面積12m²である。主軸はＮ－83°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸105cm×56cmである。ロ二柱穴の掘形は長軸90cm×短軸58cmの不整形，それ以外は長軸90cm～134cm×短軸54cm～56cmの楕円形である。掘形の長軸は建物の主軸方向と直交する。ロ二柱穴の深さは35cm，イ一柱穴は82cm，それ以外は54cm・57cmである。深さの平均は57cmである。イ一柱穴から石臼（桑山石）が出土している。大形楕円柱穴から考えて，建物の時期は17世紀前半であろう。

175号掘立柱建物（ＳＢ175，第242図，図版94）

ＳＢ174の南側，ＳＤ7600に接するように位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸5.01m×短軸3.45m，平面積17m²である。主軸はＮ－82°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸104cm～126cm×短軸54cm～64cm，平均長軸117cm×短軸60cmの楕円形である。深さは平均65cmである。掘形の長軸は建物の主軸に直交する。イ二柱穴は別の柱穴に切られているため，規模が不明である。掘形埋土は地山土が霜降り状に混じる茶褐色粘質土である。柱痕跡が確認できなかった。イ一柱穴は16世紀後半～17世紀のＳＤ7600に切られる。イ一柱穴から17世紀前半の唐津・越中瀬戸が出土したことから，建物の時期は17世紀前半である。

176号掘立柱建物（ＳＢ176）

Ｘ180～182Ｙ87･88，ＳＤ7535の東側に位置する。１間（4.20m）×１間（2.70m），平面積11m²である。主軸はＮ－9°－Ｅ，南北に向く。イ一二・ロ二柱穴の掘形は長軸102cm～154cm×短軸76cm～100cmの楕円形，ロ一柱穴は長軸230cm×短軸90cmの楕円形である。平均156cm×90cmである。ロ一柱穴の深さは73cm，その他は95cm～108cmである。深さの平均は98cmである。掘形の長軸は建物の主軸に直交している。ＳＢ174・ＳＢ175と同様，１間×１間で，建物は東側の未発掘区に延びないと考える。ロ一・二柱穴は掘形に段を持つ。掘形埋土には地山土が多く混じる茶褐色粘質土が多い。イ二柱穴は中世土師器・珠洲・石臼，ロ二柱穴は珠洲・瀬戸美濃（16世紀）が出土した。このことから，建物の時期は16世紀末～17世紀前半である。

182号掘立柱建物（ＳＢ182，第242・243図）

Ｘ180～183Ｙ61～63に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.22m×梁行3.66m，平面積19m²である。主軸は真北に向く。柱掘形は平均長軸68cm×短軸50cm，深さ47cmである。イ三・ロ三柱穴は45cm・46cm×45cm・37cmの円形，イ一柱穴は76cm×40cmの楕円形，その他は64cm～76cm×50cm～65cmの偏平な円形である。ロ一以外の柱穴の長軸は建物の主軸方向に並行する。深さは平均47cmである。ロ三柱穴は19cm，その他は44cm～62cmである。掘形埋土は礫混じりの黒褐色粘質土である。イ一柱穴の底には礎石がある。ロ二柱穴から17世紀の唐津鉄釉碗，ロ三柱穴から土師質擂鉢が出土した。建物の時期は17世紀である。

184号掘立柱建物（ＳＢ184）

Ｂ３Ｗ地区の南西側，Ｘ174～178Ｙ61～64に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行7.50m×梁行4.50m，平面積34m²である。主軸はＮ－12°－Ｅ，南北に向く。柱掘形は平均長軸73cm×短軸54cmである。イ二・ロ二柱穴は57cm・46cm×46cm・36cmの円形，ロ三柱穴は104cm×62cmの楕円形，その他は76cm～78cm×53cm～64cmの偏平な円形である。イ三・ロ三以外の柱穴は建物の主軸方向に並行する。深さは平均49cmである。ロ二柱穴は21cm，その他は42cm～61cmである。掘形埋土は礫や地山土混じりの茶褐色粘質土である。柱痕跡は確認できなかった。ロ二柱穴から13世紀～14世紀の珠洲が出土したが，建物の配置から考えて，建物の時期は16世紀～17世紀であろう。

Ｃ地区

192号掘立柱建物（ＳＢ192，第244図）

Ｃ１地区の北側の中央部，Ｘ139～143Ｙ65～67，ＳＤ9378を跨ぐように位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行6.60m×梁行2.10m，平面積14m²である。主軸はＮ－83°－Ｗで東西に向く。ロ三柱穴の掘形は長軸90cm×短軸54cmの楕円形，その他は長軸50cm～77cm×短軸47cm～62cmである。イ三・ロ一二柱穴は円形，イ一二柱穴は楕円形に近い。楕円形の長軸は建物の主軸方向と直交する。

イ三・ロ一柱穴の深さは27cm・32cmで，その他は41cm～62cmである。イ二柱穴は径15cmの柱根の根元に石を据え付けている。掘形埋土は小石混じりの黒褐色粘質土である。ロ一柱穴は径12cmの柱痕跡で，黒褐色粘質土の埋土である。イ二柱穴の下層から17世紀前半の絵唐津が出土した。建物の時期は17世紀前半である。

193号掘立柱建物（ＳＢ193，第244図，図版95）

Ｘ132～134Ｙ66～71，194号建物の西側に接するように，３間×１間の側柱建物である。桁行6.30m×梁行4.20m，平面積26m²である。主軸はＮ－80°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸93cm～128cm×短軸38cm～64cm，平均長軸107cm×短軸56cmの楕円形である。掘形の長軸は建物の主軸と並行する。深さは平均49cmである。ロ一柱穴の24cm，それ以外は43cm～58cmである。イ四柱穴から幅20cmの柱痕跡が確認できた。掘形埋土は地山土が霜降り状に混じる黒褐色土である。柱穴はＳＢ194に切られ，ＳＤ9341を切っていることから，建物の時期は17世紀前半であろう。

194号掘立柱建物（ＳＢ194，第244図，図版95）

ＳＤ9341の北側に位置する，３間×２間の側柱建物である。ＳＢ193より新しい。桁行6.00m×梁行3.90m，平面積23m²である。主軸はＮ－11°－Ｅで南北に向く。イ二・ハ一柱穴の掘形は長軸70cm・86cm×短軸49cm・54cmの楕円形，それ以外は長軸95cm～118cm×短軸50cm～63cmの楕円形である。平均99cm×57cmである。イ・ハ柱列の楕円形の長軸は，建物の主軸と並行し，ハ四柱穴のみ直交する。深さは39cm～59cm，平均50cmである。イ一柱穴から径16cmの柱根が出土している。掘形埋土は地山土が霜降り状に混じる茶褐色土である。ハ三四柱穴の底から柱根を支える石が出土している。ハ二柱穴から瀬戸美濃（16世紀），ハ三柱穴から瀬戸美濃（16世紀）・石臼，ハ四柱穴から越前が出土した。柱穴はＳＤ9341（16世紀）の覆土を掘り込んでいることから，建物は17世紀前半であろう。

197号掘立柱建物（ＳＢ197，第245図，図版95）

Ｘ120～124Ｙ72～75，２間×１間の側柱建物である。桁行は7.80mと7.50m，梁行は3.60mと3.90mで，各々の長さが違う。平面積29m²である。各々の柱間は3.00mを超えている。主軸はＮ－17°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸74cm～120cm×短軸38cm～55cmの楕円形，平均長軸94cm×短軸46cmである。掘形の長軸は建物の主軸に並行する。北側の地山面の高さは南側に較べて約30cm低い。深さも，北側で62cm～72cmと深く，南側で14cm～27cmと浅い。平均46cmである。柱痕跡は確認できなかった。イ・ロ三柱穴などの埋土は地山土が霜降り状に混じる茶褐色粘質土である。ロ一柱穴から中世土師器（15世紀後半），ロ三柱穴から唐津（17世紀）が出土した。建物の時期は17世紀である。

201号掘立柱建物（ＳＢ201，第245図）

Ｘ106～111Ｙ64～67，ＳＤ9305の東側に位置する，４間×２間の側柱建物である。桁行9.12m，梁行5.79mと5.10mで，平面積50m²である。主軸はＮ－14°－Ｅで南北に向く。大部分の柱間は３ｍ以下である。柱掘形は平均長軸124cm×短軸74cmで，楕円形のものが多い。イ二五・ロ五・ハ二柱穴は80cm～98cm×52cm～74cm，その他は116cm～166cm×62cm～125cmである。ハ五柱穴は確認できないが，イ三五・ハ二柱穴は不整長方形，その他は楕円形である。イ四・ロ三四柱穴の深さは85cm～113cm，それ以外は30cm～64cmである。深さの平均は66cmである。掘形の長軸は建物の主軸に並行する。掘形埋土は地山土が霜降り状に混じる黒（茶）褐色粘質土である。柱痕跡は確認できない。ロ五柱穴から珠洲が出土した。遺構の切り合い関係が不明であるが，柱穴の規模・配置などから，建物の時期は16世紀末～17世紀であろう。（宮田進一）

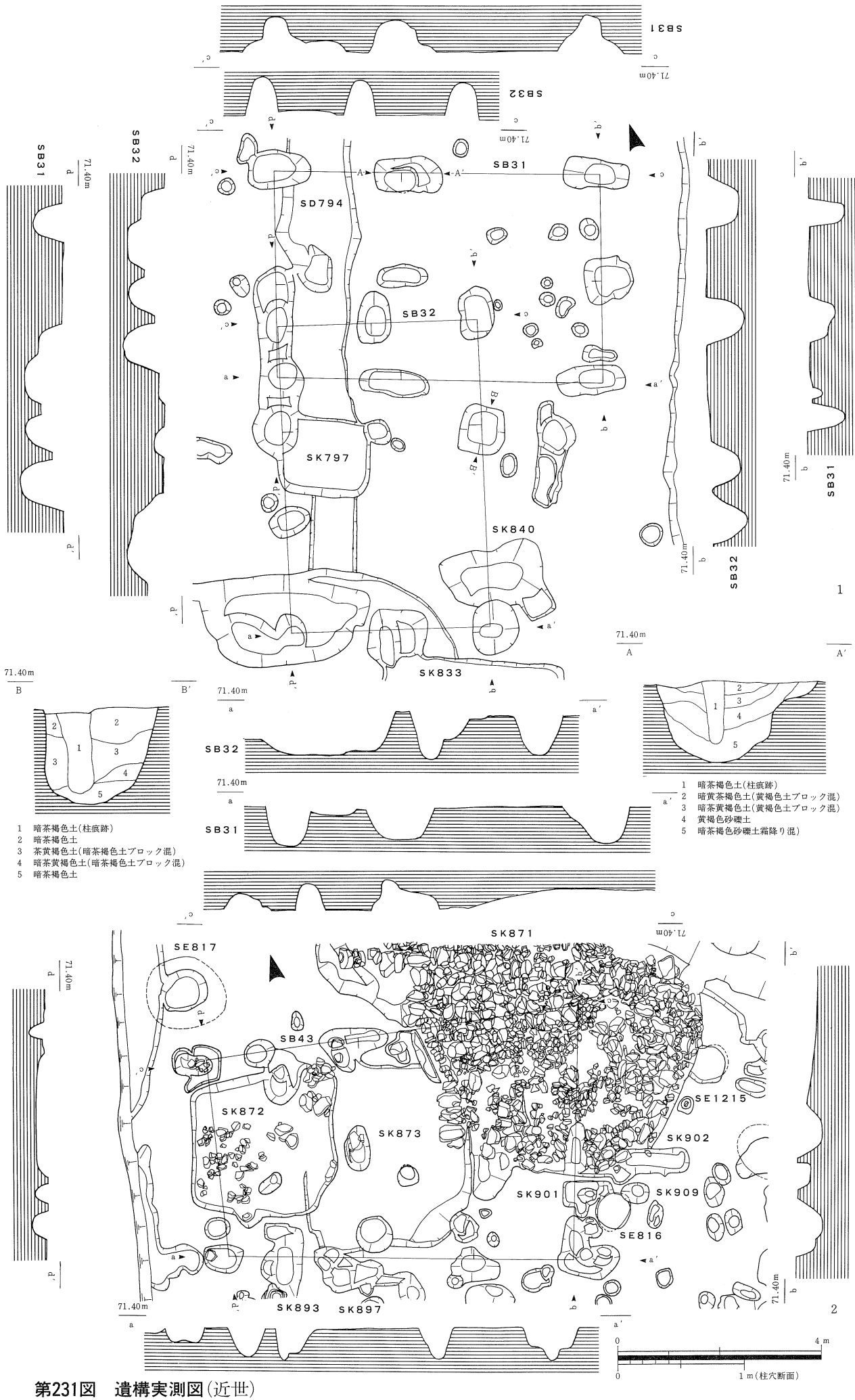
遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長 cm	桁行長 尺	桁行長 平均 cm	梁行長 cm	梁行長 尺	梁行長 平均 cm	平面積 (m²)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm 長軸	柱穴 cm 短軸	柱穴 cm 深さ	柱穴 cm 長軸÷短軸	時代	柱形式	備考
31	A 1	2	2	636	21.2	318	408	13.6	204	26	390(13),246(8.2)	198(6.6),210(7)	東西棟	N70W	115	65	60	1.77	17世紀後半	側柱	大形楕円柱穴，床持柱有り，SB32より古い，柱穴から縄紋土器・中世土師器・珠洲出土
32	A 1	2	2	600	20	300	390	13	195	23	390(13),210(7)	210(7),180(6)	南北棟	N16E	106	80	77	1.33	17世紀後半	側柱	大形楕円柱穴，SB31より新しい，SK797(伊万里18c)に切られる，柱穴から近世陶磁器出土
43	A 1	3	2	672(735)	22.4(24.5)	224(245)	495(390)	16.5(13)	247(195)	31	192(6.4)195(6.5),216(7.2)240(8),264(8.8)300(10)	225(7.5)390(13),270(9)	東西棟	N80W	104	60	50	1.73	17世紀か	側柱	南(89度)北(80度)の桁方位が違う，梁行・桁行変形，SK871に切られる
44	A 1	2	1	540	18	270	300	10	300	16	270(9),270(9)	300(10)	南北棟	N19E	134	100	61	1.34	17世紀	側柱	柱穴が井戸に切られる，大形円形，大形楕円形
45	A 1	2	1	615	20.5	307	300	10	300	18	315(10.5),300(10)	300(10)	南北棟	N16E	161	85	90	1.89	17世紀	側柱	SK1405(近世)を切る，柱穴から中世土師器・青磁(13c)・青花(16c)出土
46	A 1	2	2	504	16.8	252	408	13.6	204	21	324(10.8)282(9.4),180(6)222(7.4)	219(7.3),189(6.3)	南北棟	N14E	93	56	70	1.66	17世紀	側柱	大形楕円柱穴，柱穴から中世土師器出土
136	B 1	4	1	1740	58	435	480	16	480	84	390(13),360(12),510(17),480(16)	480(16)	東西棟	N83W	122	94	64	1.3	17世紀	側柱	円形・大形楕円柱穴，南列は柱穴不明，柱根は柱穴の端に有る，柱穴から珠洲出土
141	B	2	1	600	20	300	438	14.6	438	26	312(10.4),288(9.6)	438(14.6)	南北棟	N 2 E	49	46	45	1.07	17世紀か	側柱	梁間が広い，柱穴から越前(15-16c)・唐津皿(17c)出土
146	B 2	1	1	480	16	480	378	12.6	378	18	480(16)	378(12.6)	東西棟	N84W	151	71	85	2.13	17世紀後半	側柱	大形楕円柱穴，SD6574(16c)を切り，SD6564(18c)に切られる，柱穴から越前・伊万里(17c後)出土
149	B 2	1	1	420	14	420	300	10	300	13	420(14)	300(10)	東西棟	N86W	78	54	74	1.44	16末～17世紀	側柱	大形楕円柱穴，柱穴は1基のみ確認
151	B 2	2	1	510	17	255	330(360)	11(12)	330(360)	18	270(9),240(8)	330(11)360(12)	東西棟	N80W	116	59	64	1.97	17世紀	側柱	大形楕円柱穴，梁行の長さ違う
152	B 2	2	1	480(510)	16(17)	240(255)	360	12	360	18	240(8)270(9),240(8)	360(12)	南北棟	N10E	84	58	53	1.45	16末～17世紀	側柱	円形と大形楕円柱穴
153	B 2	2	1	540	18	270	492	16.4	492	27	300(10),240(8)	492(16.4)	南北棟	N 9 E	125	62	59	2.02	17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴，柱穴から越前・青磁，唐津折縁皿(17c前)，石臼出土
154	B 2	4	1	1116	37.2	279	468	15.6	468	52	288(9.6),276(9.2),276(9.2),276(9.2)	468(15.6)	南北棟	N 5 E	114	57	45	2	16末～17世紀	側柱	SB155より新しい，大形楕円柱穴，柱穴から中世土師器・越前(16c末)出土
155	B 2	3	1	660	22	220	336	11.2	336	22	240(8),210(7),210(7)	336(11.2)	南北棟	N 6 E	73	43	37	1.7	16末～17世紀前半	側柱	SB154より古い，大形楕円柱穴
157	B 2	2	1	570	19	285	480	16	480	27	300(10),270(9)	480(16)	南北棟	N5W	107	64	65	1.67	17世紀後半	側柱	楕円大形柱穴，柱穴から中世土師器・越前(16c)，越中瀬戸擂鉢・伊万里(17c後半)，床持柱穴ある
158	B 2	1	1	420	14	420	390	13	390	16	420(14)	390(13)	東西棟	N77W	112	50	50	2.24	16末～17世紀	側柱	楕円大形柱穴，SD6021を切る，柱穴から瀬戸美濃(16c)・信楽・柱根出土
159	B 2	1	1	390	13	390	360	12	360	14	390(13)	360(12)	南北棟	N78W	103	46	40	2.24	17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴，柱穴から中世土師器・絵唐津(17c前)出土
160	B 2	1	1	510	17	510	402	13.4	402	21	510(17)	402(13.4)	南北棟	N16E	146	54	54	2.7	17世紀	側柱	大形楕円柱穴，柱穴から中世土師器，唐津(17c)・越中瀬戸・石臼出土，SB158より新しい
161	B 2	1	1	438	14.6	438	420	14	420	18	438(14.6)	420(14)	東西棟	N75W	82	61	45	1.34	17世紀	側柱	大形楕円柱穴，SK6624(16c末-17c)を切る
162	B 2	2	2	600	20	300	540	18	270	32	300(10),300(10)	270(9),270(9)	南北棟	N10E	128	73	49	1.75	17世紀前半	側柱	楕円柱穴がL字状に並ぶ，柱穴から唐津(17c前)出土，土台建物SB6390より古い
163	B 3	2	—	390	13	195	—	—	—	—	210(7),180(6)	—	南北棟	N 5 E	125	79	66	1.58	17世紀前半	側柱	一本柱建物，楕円大形柱穴，柱穴から越前(16c末)，唐津(17c)
164	B 3	2	—	390	13	195	—	—	—	—	180(6),210(7)	—	東西棟	N78W	191	100	90	1.91	17世紀前半	側柱	一本柱建物，柱根ある，柱穴から柱穴土師器・瀬戸美濃(16c)・越前・白磁・青花(16c)，越中瀬戸・唐津(17c)出土

第12表　掘立柱建物(近世)一覧(1)

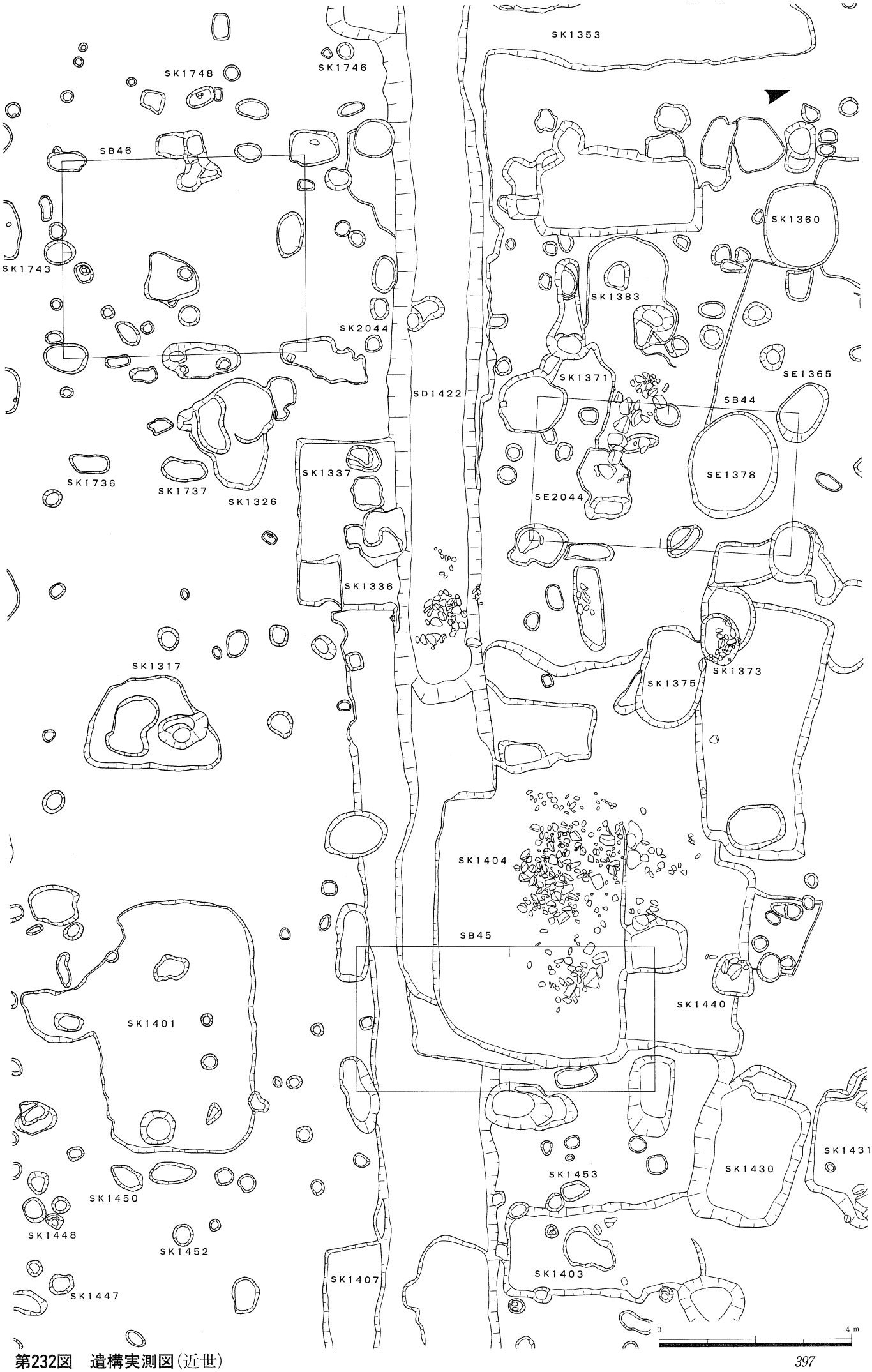
注．桁行・梁行の柱間は，南・東から数え，左・右で違う場合は（ ）で示した。

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長			梁行長			平面積(㎡)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm				時代	柱形式	備考
				cm	尺	平均 cm	cm	尺	平均 cm						長軸	短軸	深さ	長軸÷短軸			
165	B 2	3	1	840	28	280	390	13	390	44	300(10),240(8),300(10)	390(13)	東西棟	N88W	123	66	61	1.86	16末～17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴,北側に1間×1間の張出部(11㎡)有り, SK5957・SK5958(16末-17c)を伴う, 柱穴から唐津(17c)出土, 南側に塀を持つ
166	B 2	2	1	720	24	360	510	17	510	37	360(12),360(12)	510(17)	南北棟	N13E	136	61	59	2.23	17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴,柱穴から越中瀬戸・唐津(17c)出土
167	B 2	2	1	540	18	270	330	11	330	18	270(9),270(9)	330(11)	南北棟	N 9 E	99	49	44	2.02	17世紀	側柱	大形楕円柱穴, SB166に切られる, 柱穴から中世土師器・越前・瀬戸美濃(16c), 越中瀬戸・唐津(17c前)出土
168	B 2	1	1	474	15.8	474	390	13	390	18	474(15.8)	390(13)	東西棟	N86W	99	53	42	1.87	16後～17世紀	側柱	大形楕円柱穴,柱穴から中世土師器(14c?),梁間変形, SK5997(17c)に切られる
170	B 2	2	—	780	26	390	—	—	—	?	420(14),360(12)	—	南北棟	N 6 E	160	68	67	2.35	17世紀	側柱	一本柱建物, 楕円大形柱穴, 柱根ある
171	B 3	2	1	660	22	330	300	10	300	20	390(13)360(12),270(9)300(10)	300(10)	南北棟	N 3 E	90	68	65	1.32	16末～17世紀	側柱	大形楕円柱穴, 柱穴から中世土師器(15末-16初)・土師質擂鉢(16c)・珠洲・青磁(15c)・瀬戸美濃(16c)出土
172	B 3	4	1	1080	36	270	450	15	450	49	330(11),270(9),300(10),180(6)	450(15)	東西棟	N76W	81	47	34	1.72	17世紀か	側柱	楕円柱穴, 柱穴から越中瀬戸(?)・鉄滓, SK7821(18c)を伴う, 西1間は廂になるのか
173	B 3	1	1	420	14	420	270	9	270	11	420(14)	270(9)	南北棟	N76W	92	55	60	1.67	17世紀	側柱	大形楕円柱穴,柱穴から唐津(17c前)出土
174	B 3	1	1	492	16.4	492	240	8	240	12	492(16.4)	240(8)	東西棟	N83W	105	56	57	1.88	17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴,柱穴から石臼(桑山)出土
175	B 3	1	1	501	16.7	501	345	11.5	345	17	501(16.7)	345(11.5)	東西棟	N82W	117	60	65	1.95	17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴, 柱穴から越中瀬戸・唐津(17c前)出土, SD7600(16c)を切る
176	B 3	1	1	420	14	420	270	9	270	11	420(14)	270(9)	南北棟	N 9 E	156	90	98	1.73	16末～17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴,柱穴から中世土師器・珠洲甕・瀬戸美濃(16c末),石臼(桑山)出土
177	B 3 W	2	1	600	20	300	234	7.8	234	14	321(10.7),279(9.3)	234(7.8)	南北棟	N12E	54	31	29	1.74	16世紀～17世紀か	側柱	小形柱穴
178	B 3 W	2	—	600	20	300	—	—	—	—	300(10),300(10)	—	南北棟	N12E	95	58	59	1.64	16末～17世紀	側柱	大形楕円柱穴,柱穴から越中瀬戸・唐津(17c)
179	B 3 W	1	1	306	10.2	306	294	9.8	294	9	306(10.2)	294(9.8)	南北棟	N 9 E	69	43	43	1.6	16末～17世紀	側柱	大形楕円柱穴
180	B 3 W	2	—	552	18.4	276	—	—	—	—	342(11.4),210(7)	—	南北棟	N 1 E	133	58	65	2.29	16末～17世紀	側柱	大形楕円柱穴
181	B 3 W	2	1	732	24.4	366	450	15	450	33	420(14),312(10.4)	450(15)	南北棟	N 8 E	96	46	75	2.09	16末～17世紀	側柱	大形楕円柱穴, 柱根ある
182	B 3 W	2	1	522	17.4	261	366	12.2	366	19	276(9.2),246(8.2)	366(12.2)	南北棟	N0E	68	50	47	1.36	17世紀	側柱	円形柱穴, 柱穴から土師質擂鉢(16c)・唐津鉄釉碗(17c)出土
183	B 3 W	2	1	720	24	360	438	14.6	438	32	402(13.4),318(10.6)	438(14.6)	南北棟	N10E	72	49	50	1.47	16末～17世紀か	側柱	柱間が広い, 梁行変形, 柱根ある
184	B 3 W	2	1	750	25	375	450	15	450	34	420(14),330(11)	450(15)	南北棟	N12E	73	54	49	1.35	16～17世紀	側柱	柱間が広い, 柱穴から珠洲擂鉢(13-14c)出土
192	C 1	2	1	660	22	330	210	7	210	14	360(12),300(10)	210(7)	南北棟	N83W	68	53	44	1.28	17世紀前半	側柱	柱根出土,柱穴から絵唐津(17c前)出土
193	C 1	3	1	630	21	210	420	14	420	26	180(6),210(7),240(8)	420(14)	東西棟	N80W	107	56	49	1.91	17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴, SB194より古い, SD9341を切る
194	C 1	3	2	600	20	200	390	13	195	23	180(6),210(7),210(7)	210(7),180(6)	南北棟	N11E	99	57	50	1.74	17世紀前半	側柱	大形楕円柱穴, SB193・SD9341より新しい, 柱穴から越前・瀬戸美濃(16c)・石臼・柱根出土
197	C 1	2	1	780(750)	26(25)	390(375)	390(360)	13(12)	390(360)	29	330(11)390(13),450(15)360(12)	390(13)360(12)	南北棟	N19E	94	46	46	2.04	17世紀	側柱	大形楕円柱穴,柱穴から中世土師器, 唐津(17c)出土
201	C 1	4	2	912	30.4	228	579(510)	19.3(17)	289(255)	50	192(6.4),192(6.4),192(6.4),336(11.2)	309(10.3)240(8),270(9)	南北棟	N14E	124	74	66	1.68	16末～17世紀	側柱	楕円大形柱穴,柱穴から珠洲出土
229	A 1	2	—	408	13.6	204	—	—	—	—	228(7.6),180(6)	—	南北棟	N 8 E	107	65	46	1.65	17世紀	側柱	一本柱, 大形楕円柱穴, 柱穴から中世土師器(13c)・白磁出土
240	B 3	2	—	900	30	450	—	—	—	—	450(15),450(15)	—	東西棟	N80W	149	73	79	2.04	17世紀	側柱	一本柱, 大形楕円柱穴

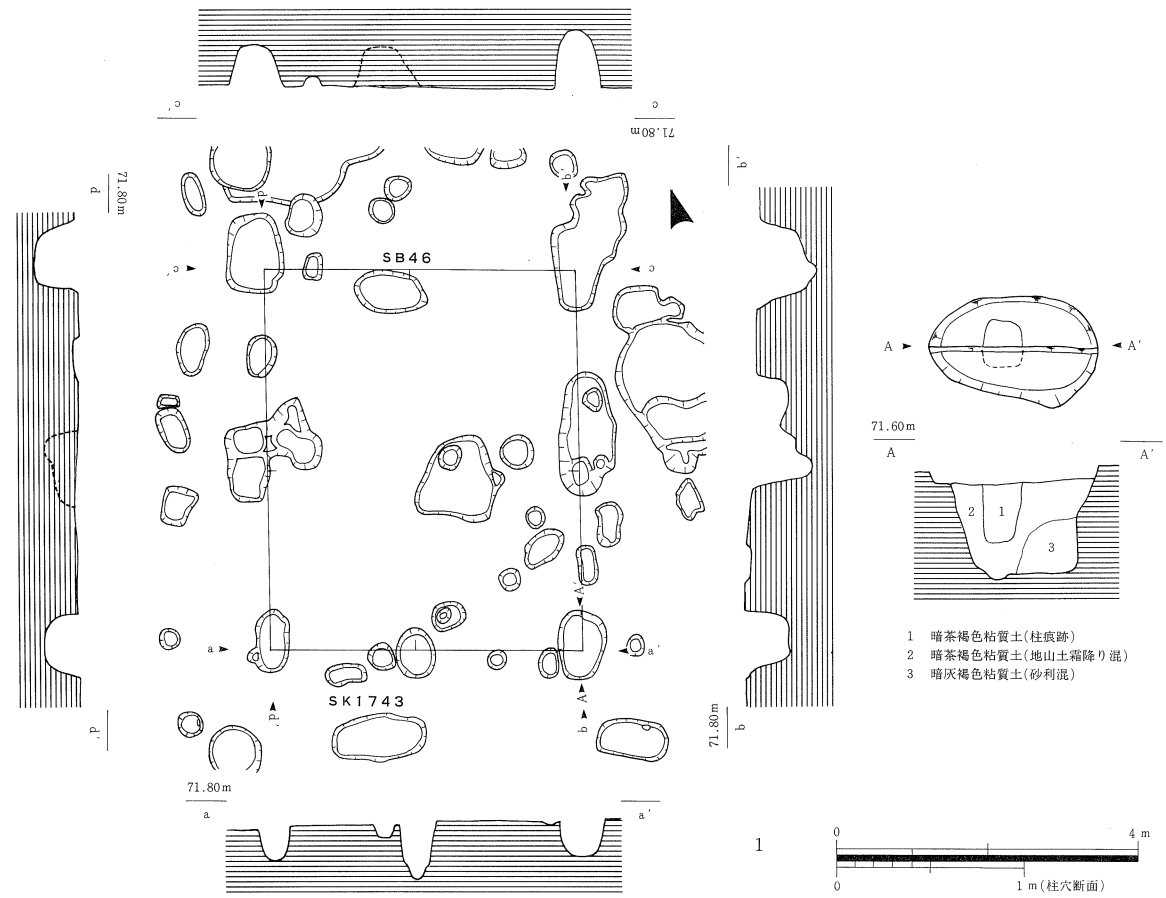
第12表　掘立柱建物(近世)一覧(2)

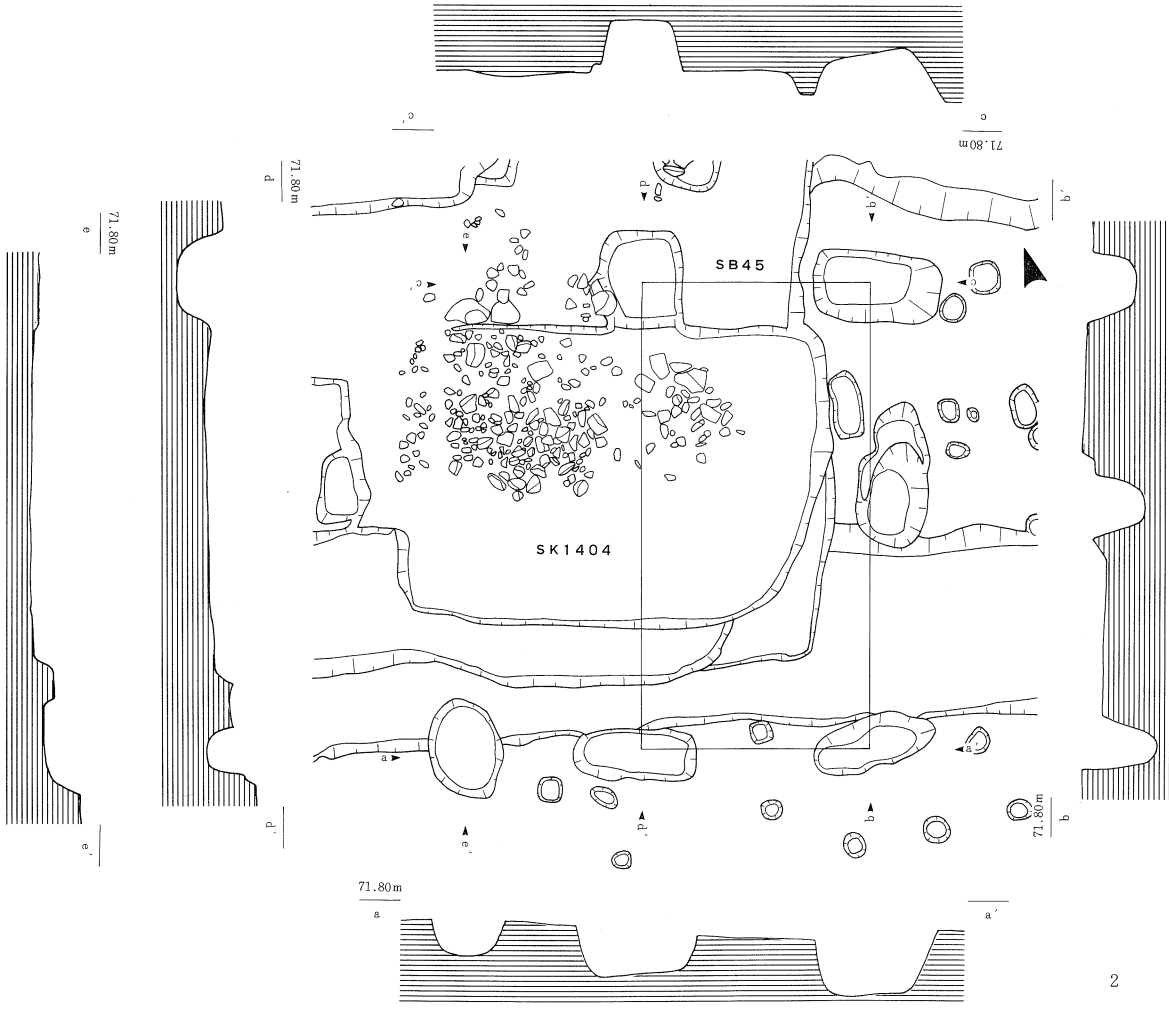


第231図　遺構実測図(近世)
1.SB31・SB32　2.SB43

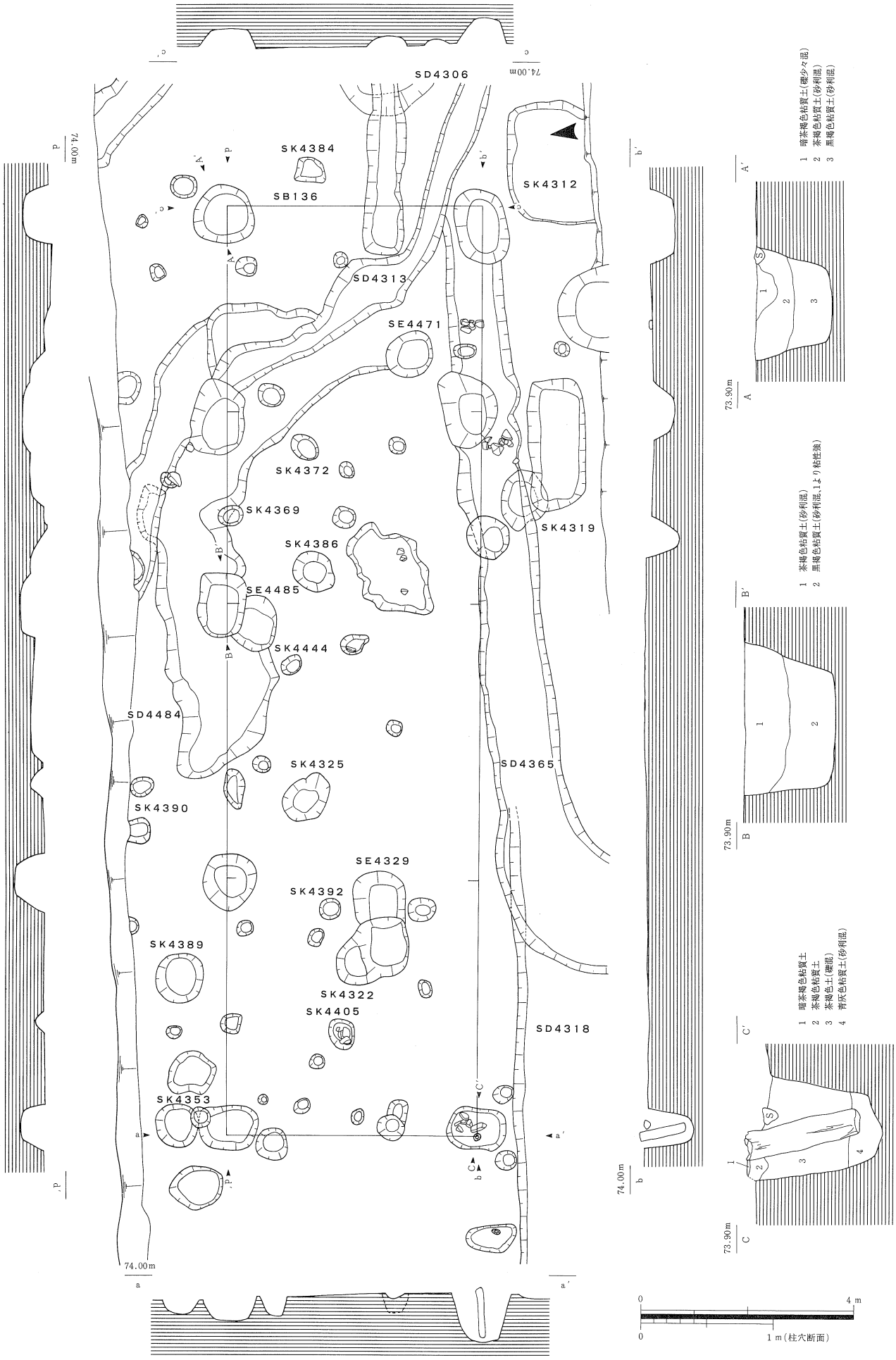


第232図　遺構実測図(近世)
ＳＢ４４～ＳＢ４６

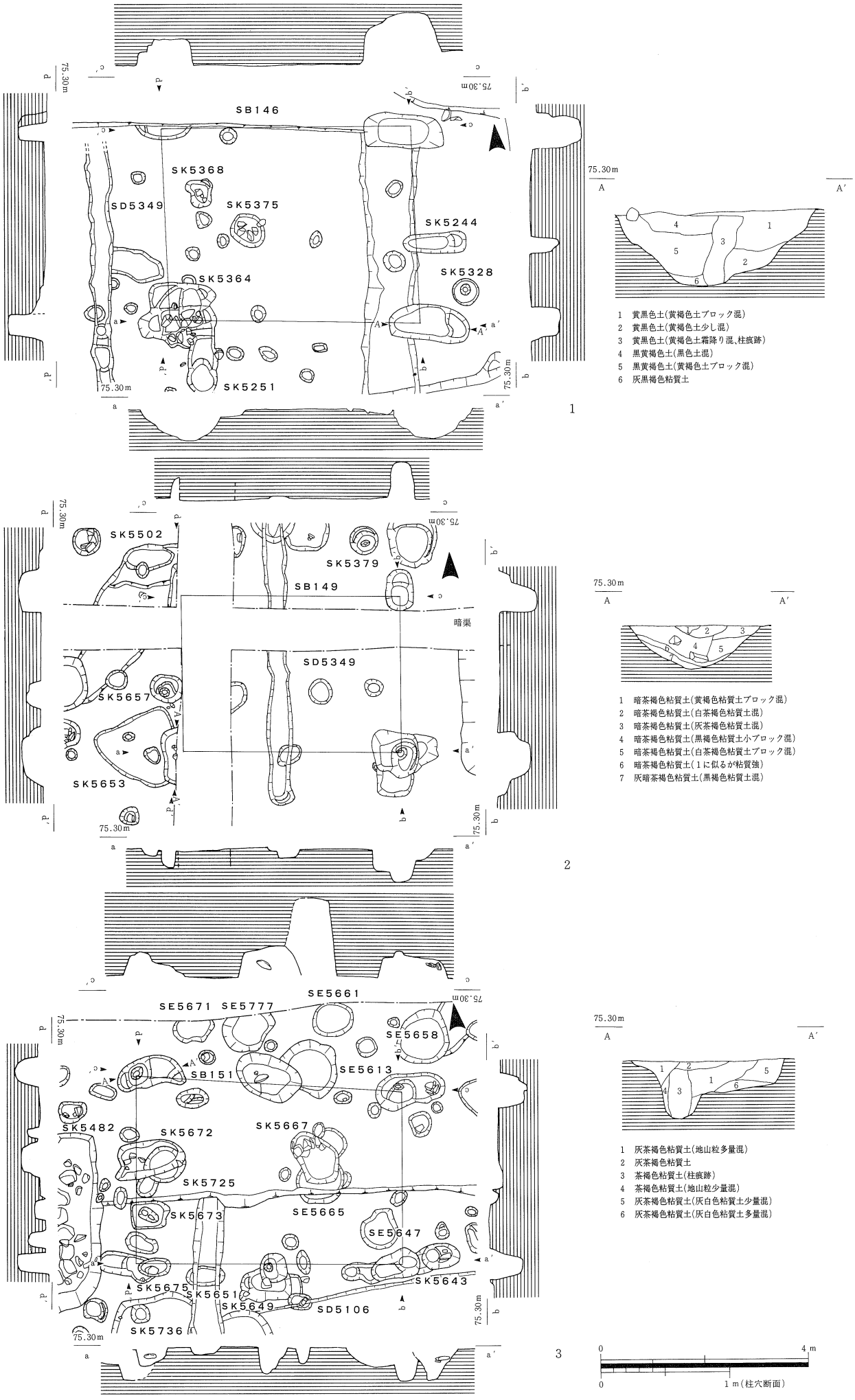




第233図　遺構実測図(近世)
1.ＳＢ４６　2.ＳＢ４５

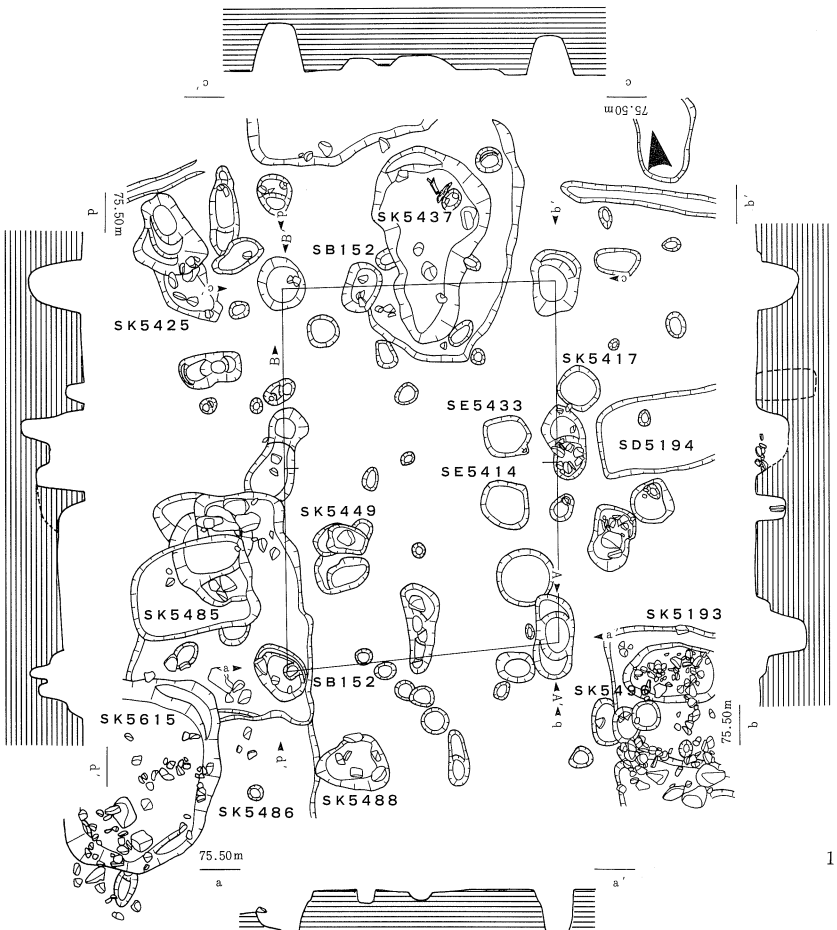


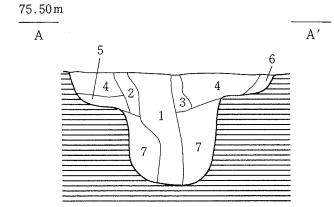
第234図　遺構実測図(近世)
SB136



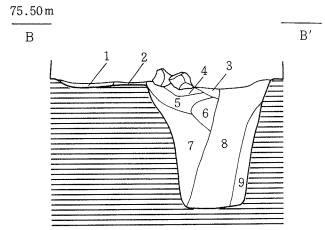
第235図　遺構実測図(近世)

1.SB146　2.SB149　3.SB151



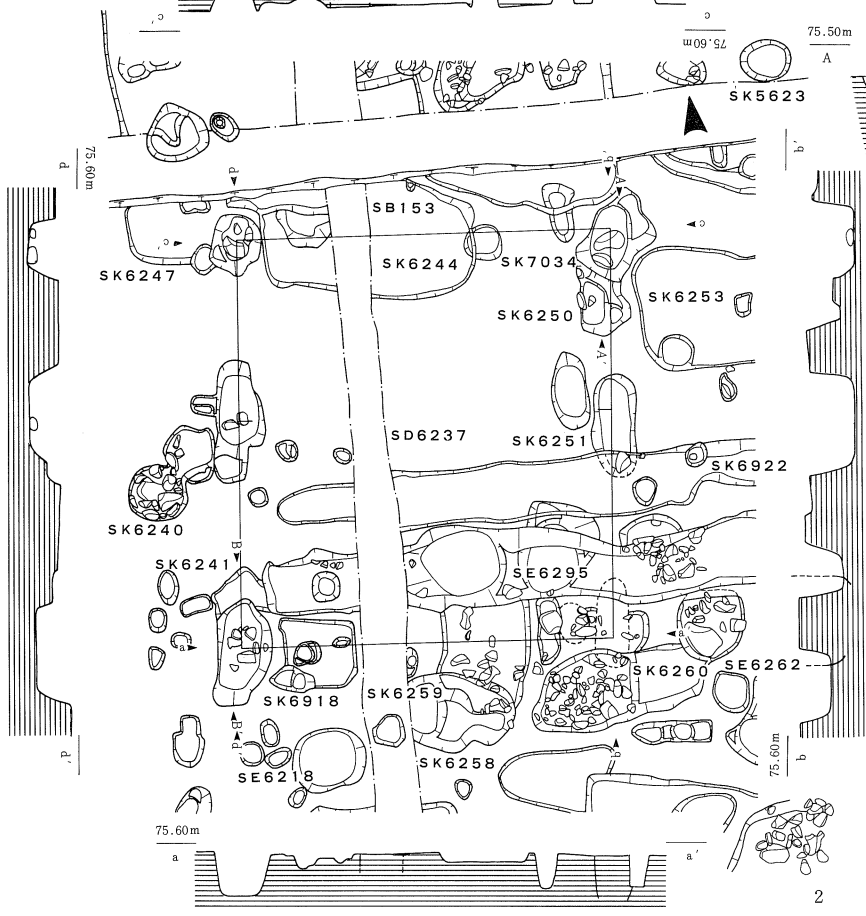


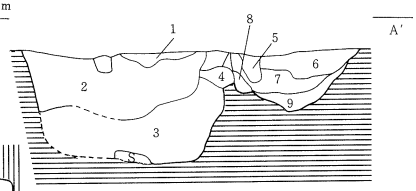
1 暗茶褐色粘質土(黄褐色粘質土粒状混、柱痕跡)
2 暗茶褐色粘質土(黄白色粘質土混)
3 灰茶褐色粘質土(黄褐色粘質土と暗褐色粘質土混)
4 暗茶褐色粘質土(黄白色粘質土と灰茶褐色粘質土混)
5 灰茶褐色粘質土(暗茶褐色粘質土混)
6 暗茶褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
7 暗茶褐色粘質土(灰茶褐色粘質土と黄白色粘質土混、粘性強)



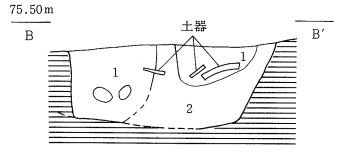
1 黒灰色粘質土(黄灰色粘質土わずかに混、粘性強)
2 黄灰色粘質土(黒灰色粘質土わずかに混)
3 黒灰色粘質土(粘性強)
4 黒灰色粘質土(黄灰色粘質土わずかに混)
5 灰色粘質土(黒灰色粘質土わずかに混)
6 黒灰色粘質土(灰色粘質土わずかに混、粘性強)
7 黒色粘質土(灰色粘質土わずかに混、粘性強)
8 暗黒灰色粘質土(礫混、粘性強、柱痕跡)
9 黒灰色粘質土(青灰色粘質土ブロック状混)

1

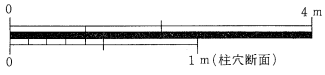




1 黒褐色土(黄褐色土霜降り混)
2 黄褐色土と黒褐色土と茶褐色土の混土
3 灰褐色粘土と黒褐色土と砂質土の混土
4 暗褐色粘質土(ブロック混)
5 黄褐色土と黒褐色土と茶灰色土の混土
6 黄褐色土と黒褐色土と茶灰色土の混土(5より黒褐色土少)
7 黄褐色粘質土(茶灰色粘土ブロック混)
8 黄褐色粘質土(黒褐色土少量混)
9 褐色粘土(黒褐色粘質土ブロック混)

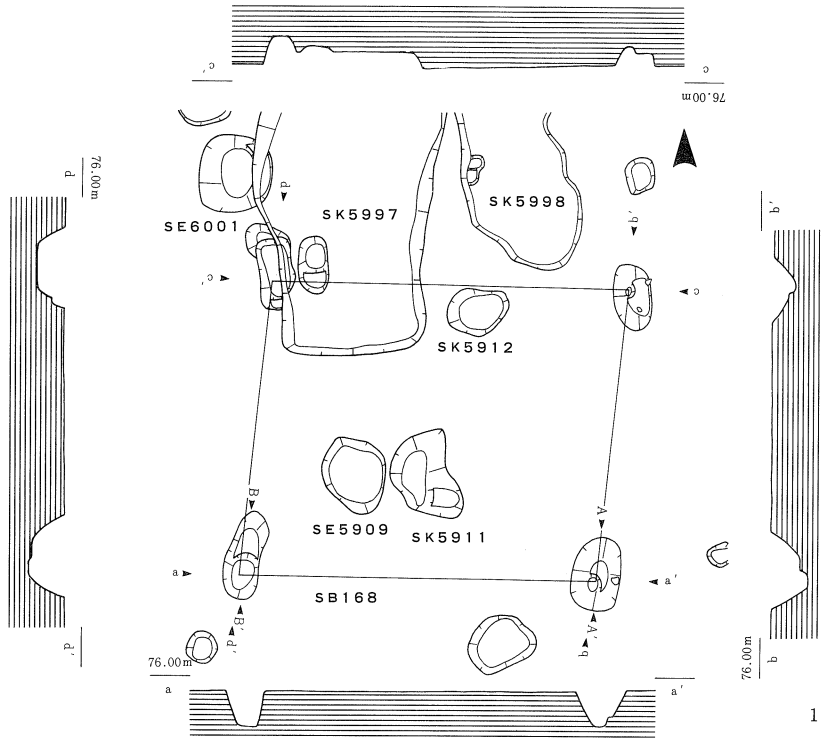


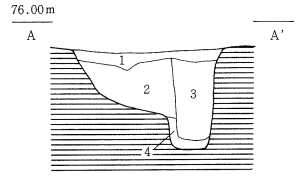
1 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土わずかに混)
2 黄褐色粘質土(暗褐色粘質土混、小礫わずかに混)



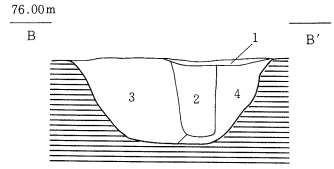
2

第236図　遺構実測図(近世)
1.SB152　2.SB153



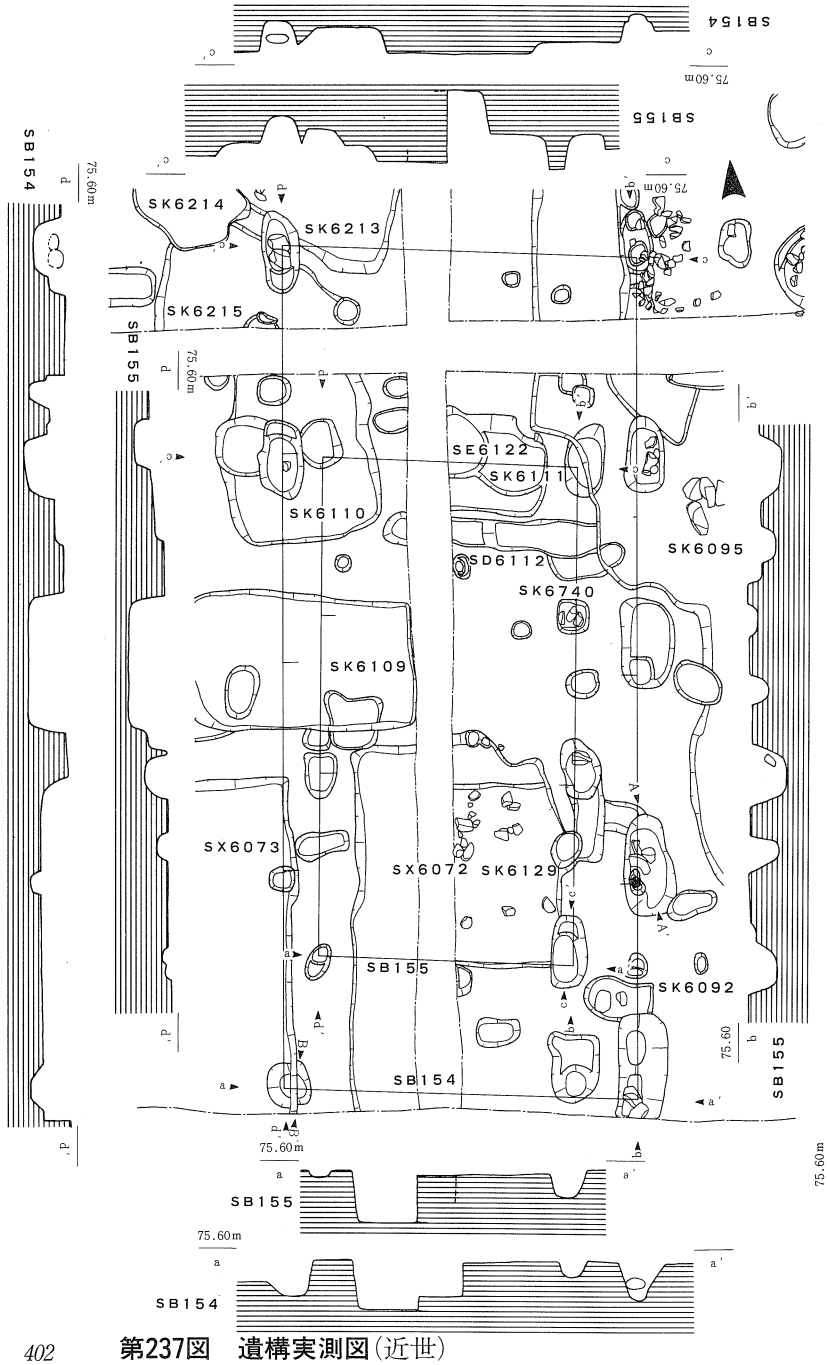


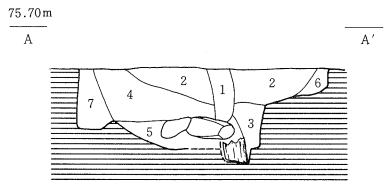
1 暗褐色粘質土(しまり良)
2 暗黄褐色砂礫(しまりやや良、粘性わずか)
3 黒褐色粘質土(しまり悪、柱痕跡)
4 褐色砂礫(粘性わずか)



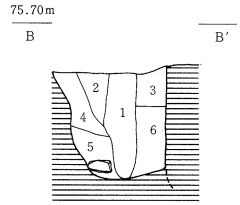
1 黒褐色粘質土(粘性やや弱)
2 黒褐色粘質土(粘性1より強、黄褐粒混、柱痕跡)
3 黄褐色粘質土(黒褐色粘質土混)
4 暗褐色粘質土(2より粘性強、黄褐色粒混)

1

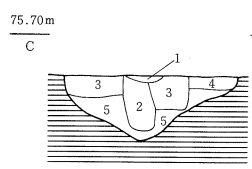




1 暗褐色粘質土(黄褐色粒わずかに混、しまりやや悪、柱痕跡)
2 褐色粘質土(黄褐色粘質土わずかに混、しまり良)
3 暗褐色粘質土(しまり悪、下部に柱痕)
4 明褐色粘質土(黄褐質土粒状に混、しまりやや良)
5 暗褐色粘質土(しまりやや悪)
6 暗褐色粘質土(しまり良)
7 明褐色粘質土(しまりやや悪)



1 暗褐色粘質土(黄褐色土わずかに混、しまりやや悪、柱痕跡)
2 黄褐色粘質土(暗褐色粘質土わずかに混)
3 褐色粘質土(黄褐色土と黒褐色わずかに混、粘性、しまりやや良)
4 暗褐色粘質土(黒褐色土と黄褐色土の混)
5 灰白色粘質土(暗褐色粘質土わずかに混、しまりやや悪)
6 暗褐色粘質土(黄褐色と黒褐色土の混、しまりやや悪、粘性)

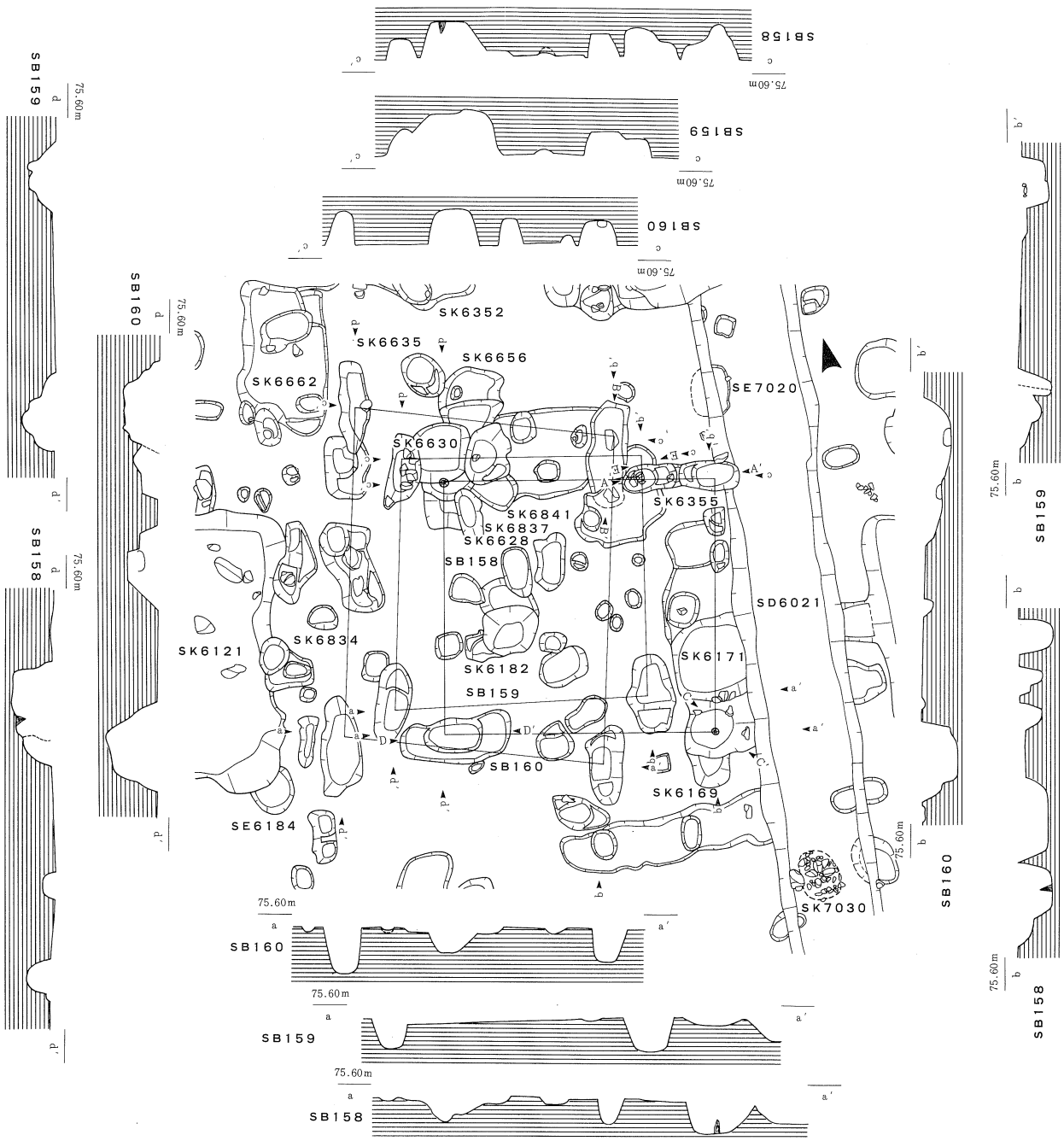


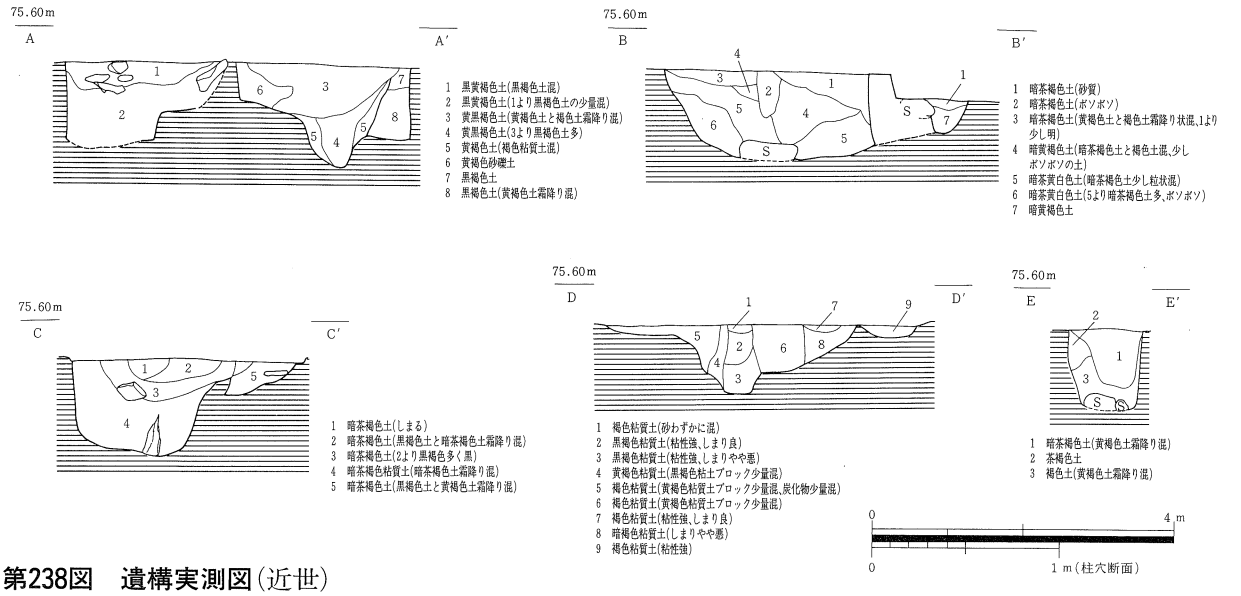
1 暗褐色粘質土
2 暗褐色粘質土(1より粘性、しまりやや悪、柱痕跡)
3 暗褐色粘質土(しまりやや良、褐色土混)
4 褐色粘質土(黄褐色粘質土混、しまりやや良)
5 黄褐色粘質土(褐色粘質土混)

2

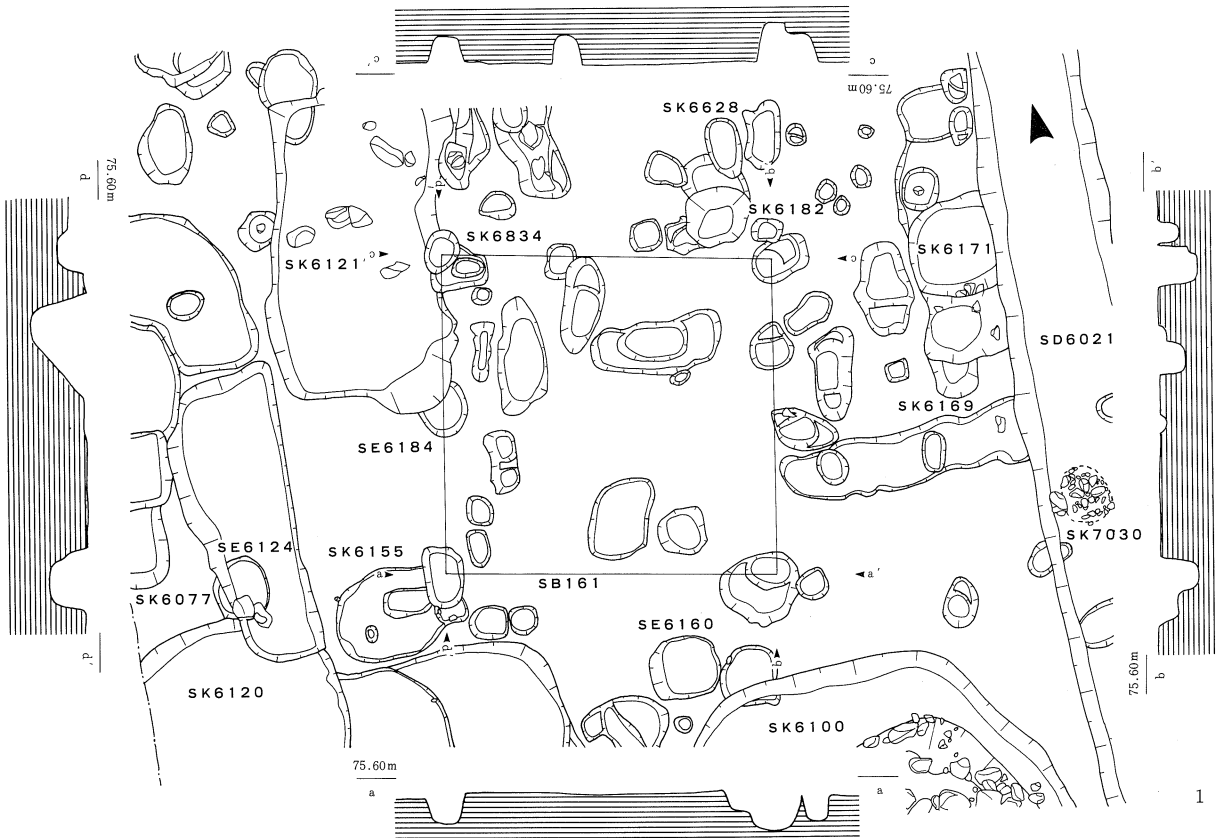
0 4 m
0 1 m(柱穴断面)

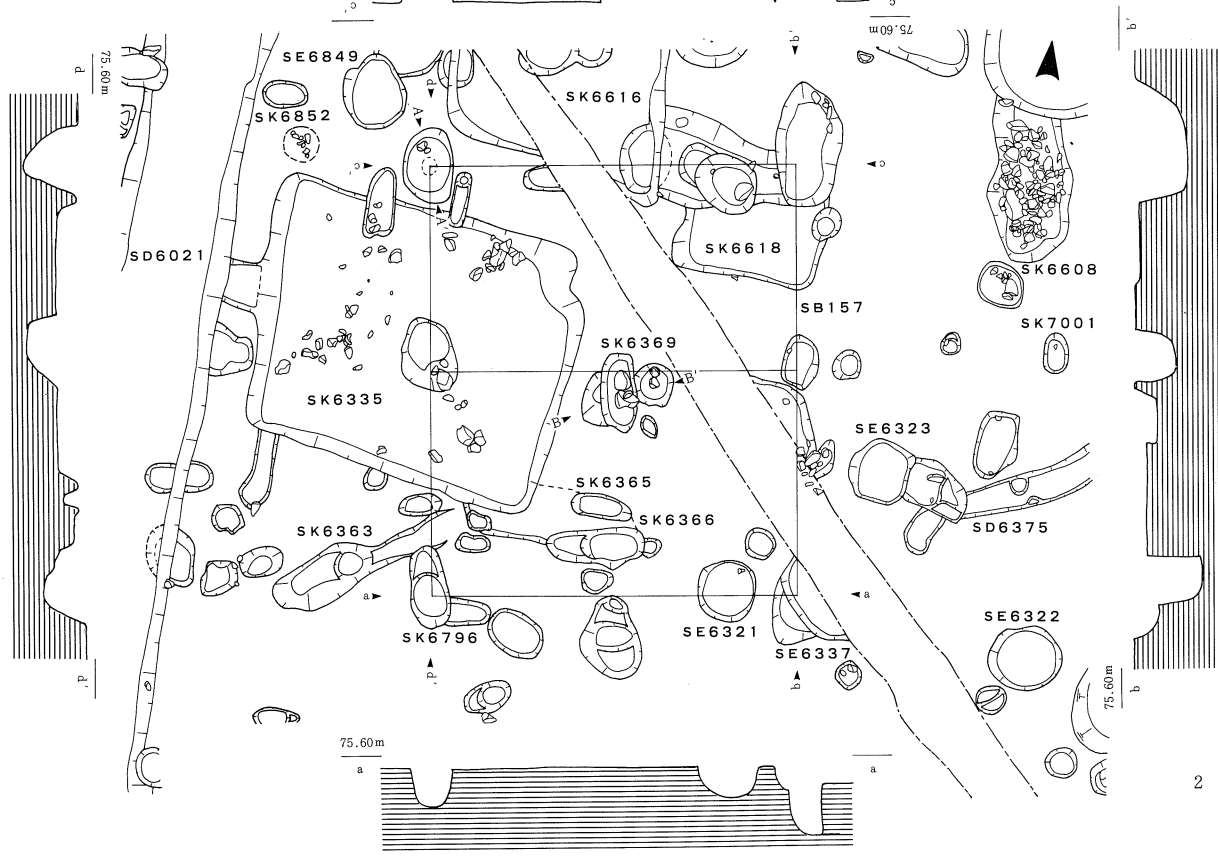
第237図　遺構実測図(近世)
1.SB168　2.SB154・SB155

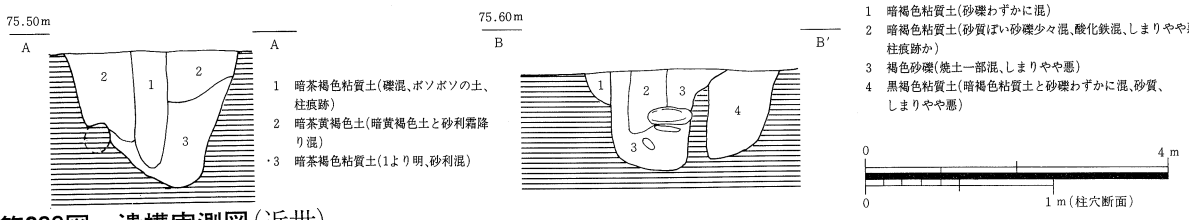




第238図　遺構実測図(近世)
SB158~SB160

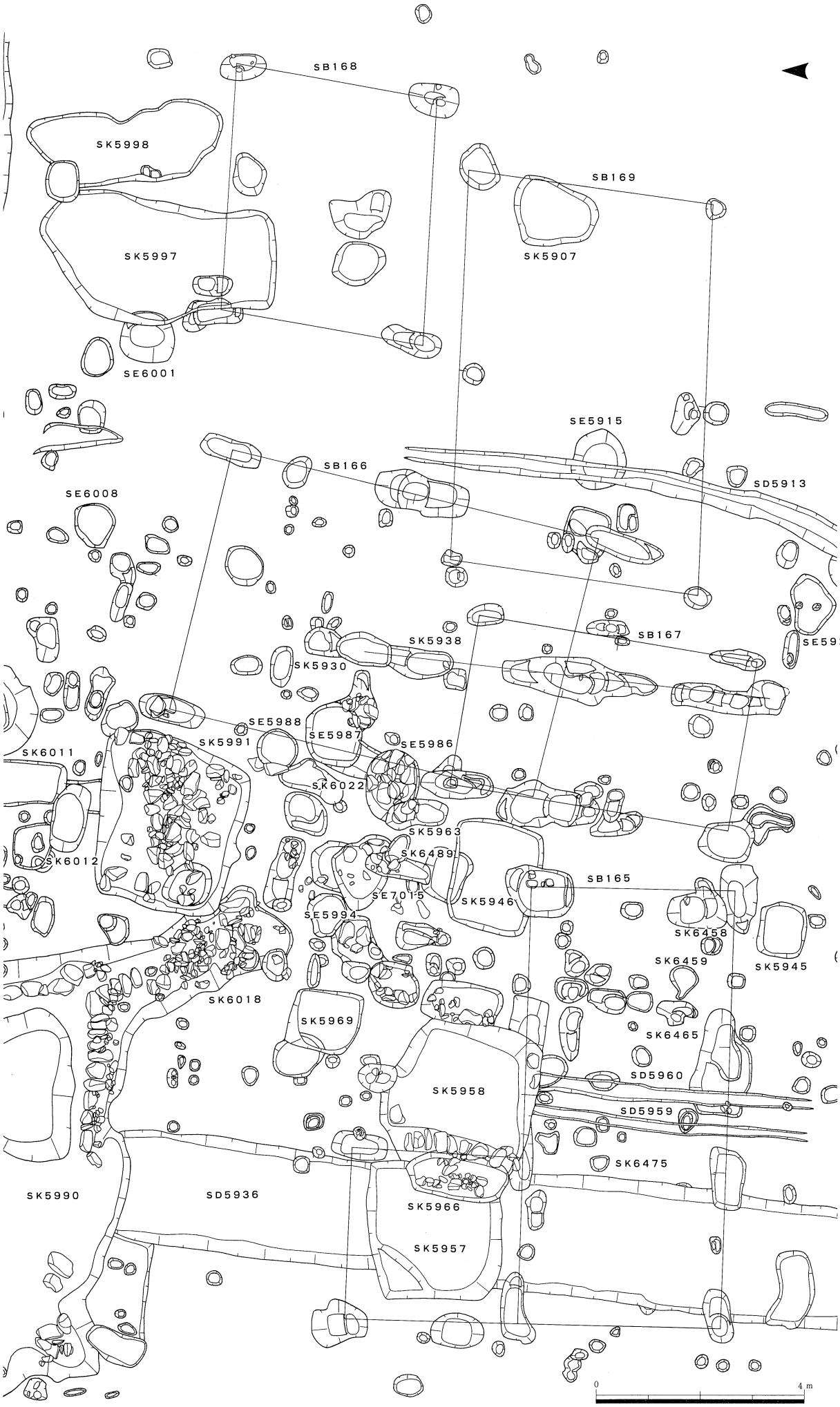




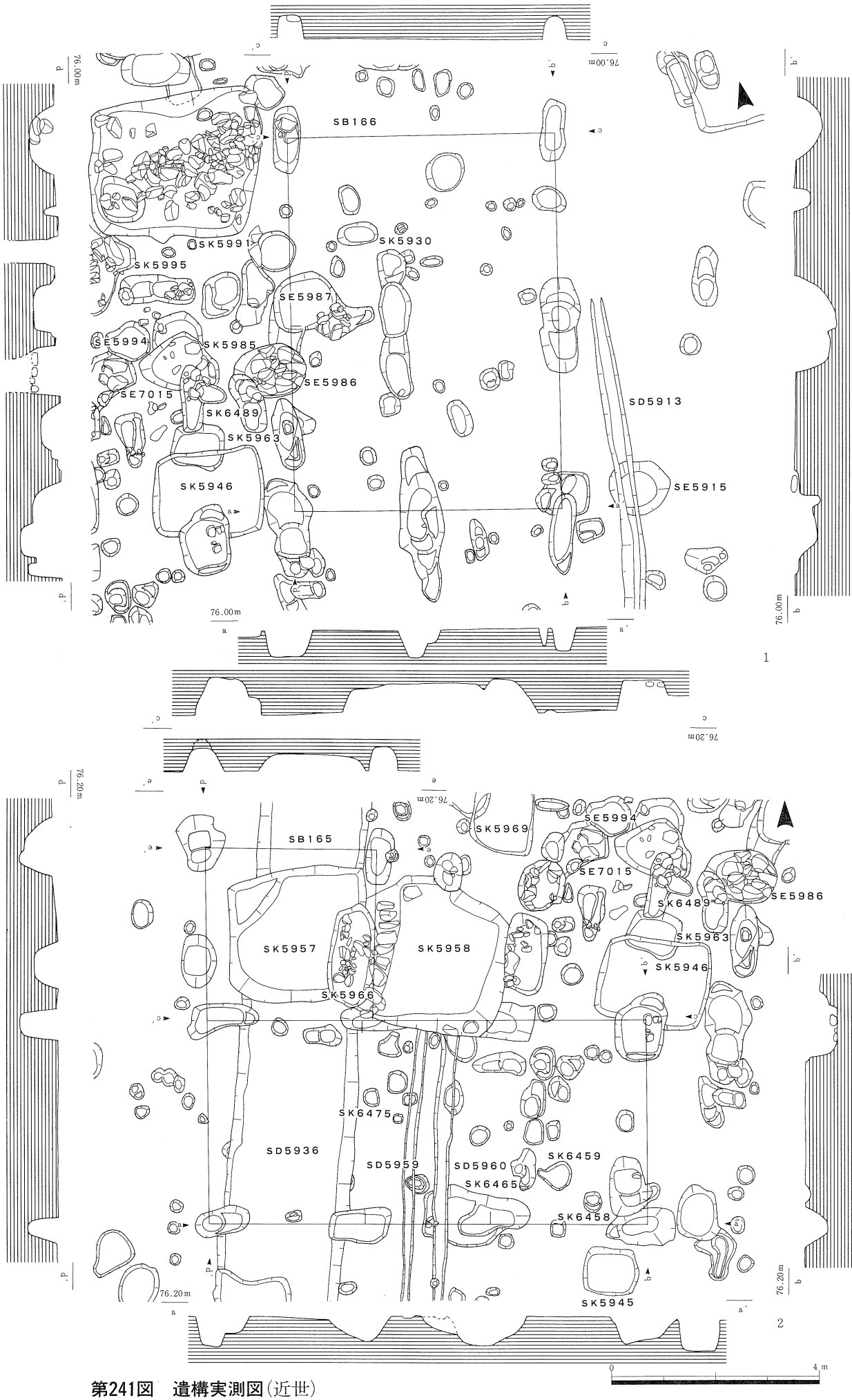


第239図　遺構実測図(近世)

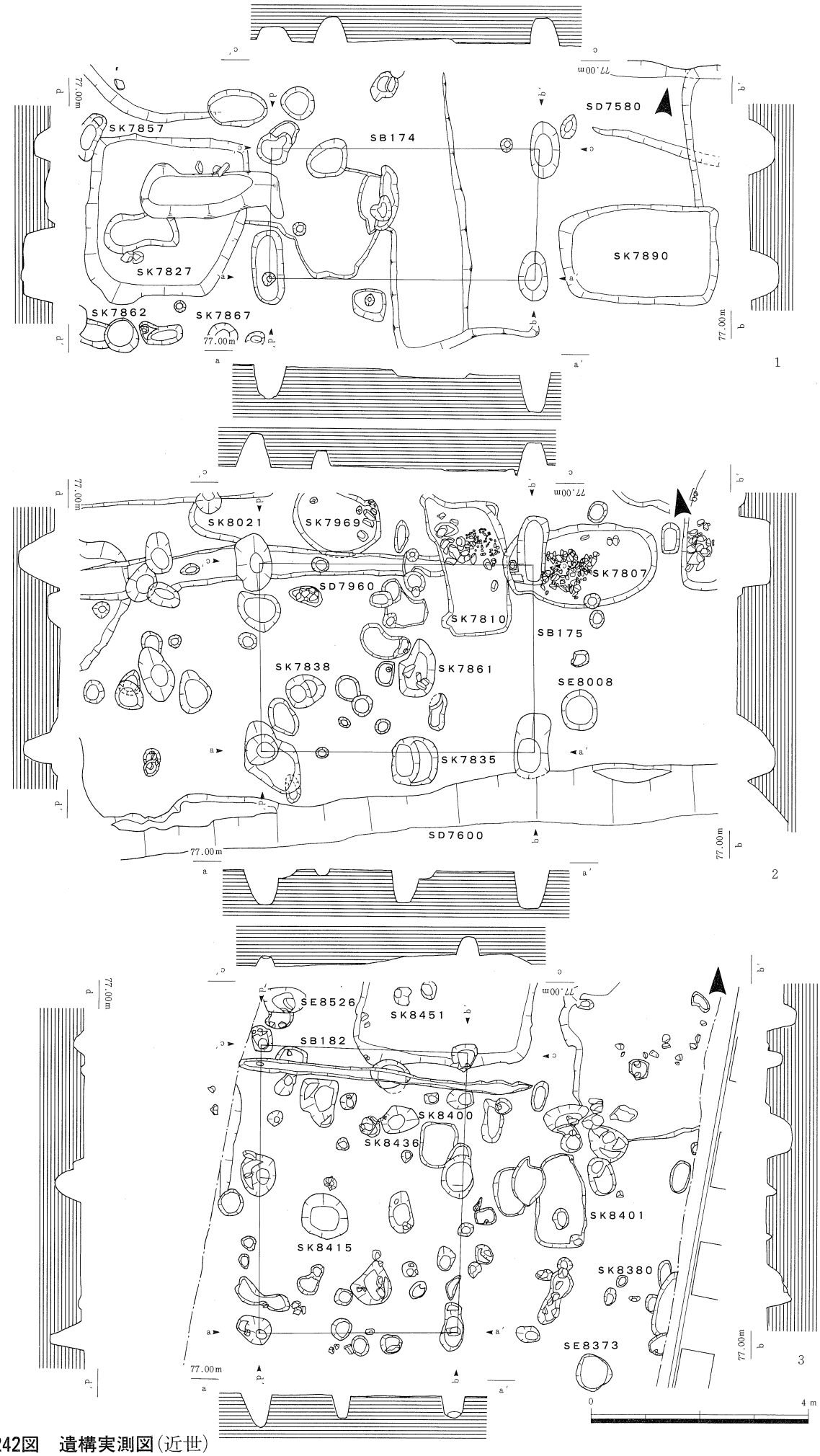
1.SB161　2.SB157



第240図　遺構実測図(近世)
SB165~SB168

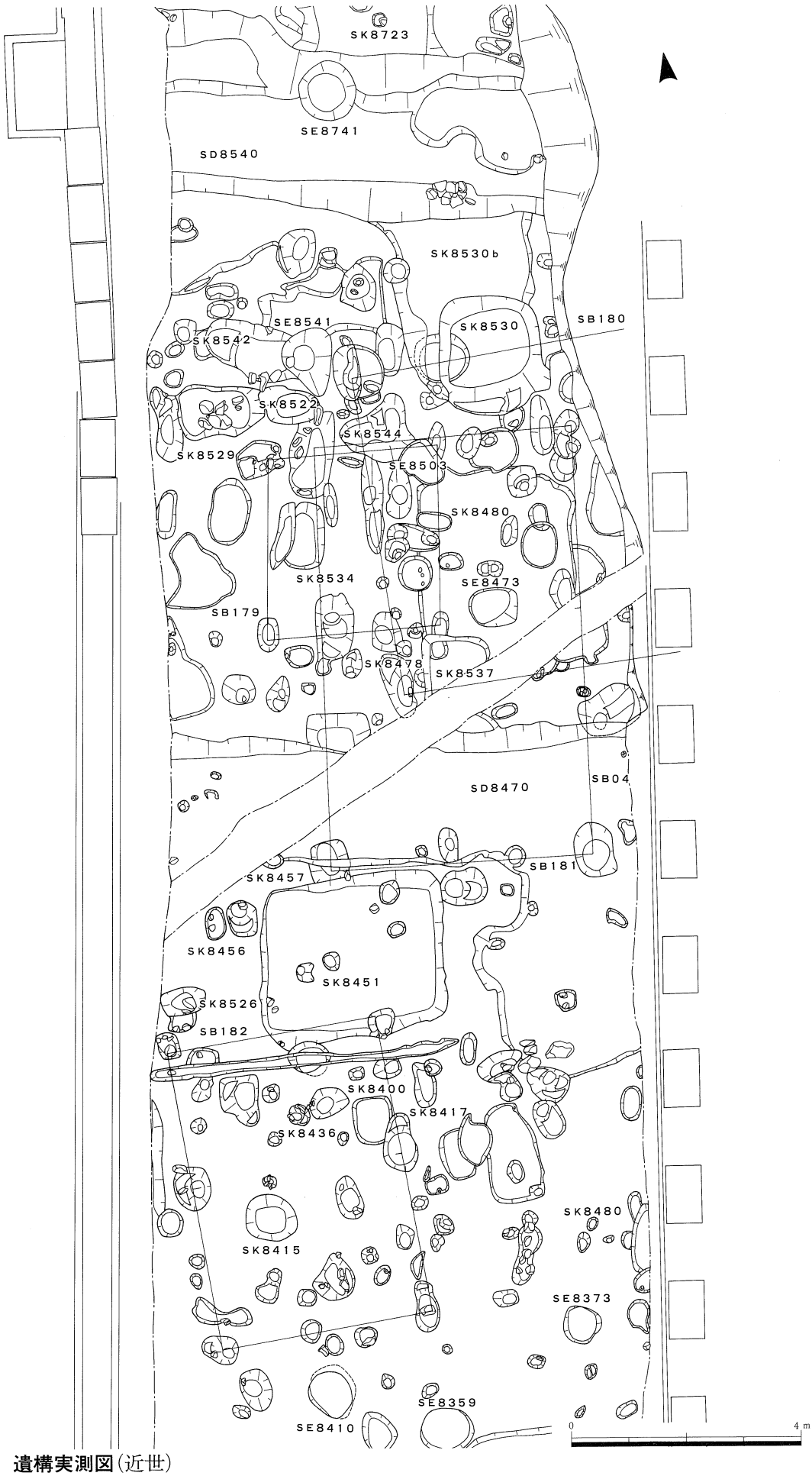


第241図　遺構実測図(近世)
1.SB166　2.SB165

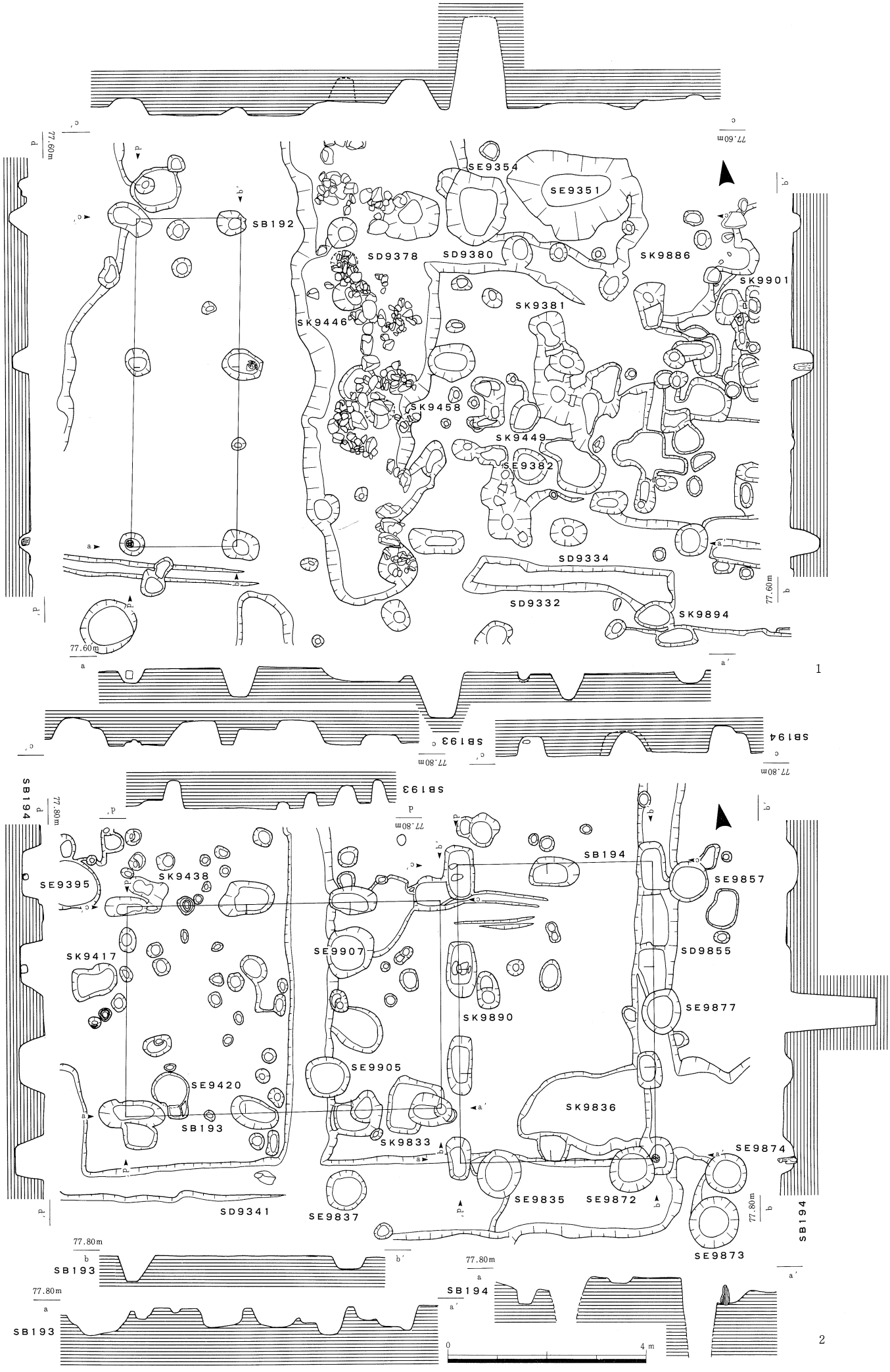


第242図　遺構実測図(近世)

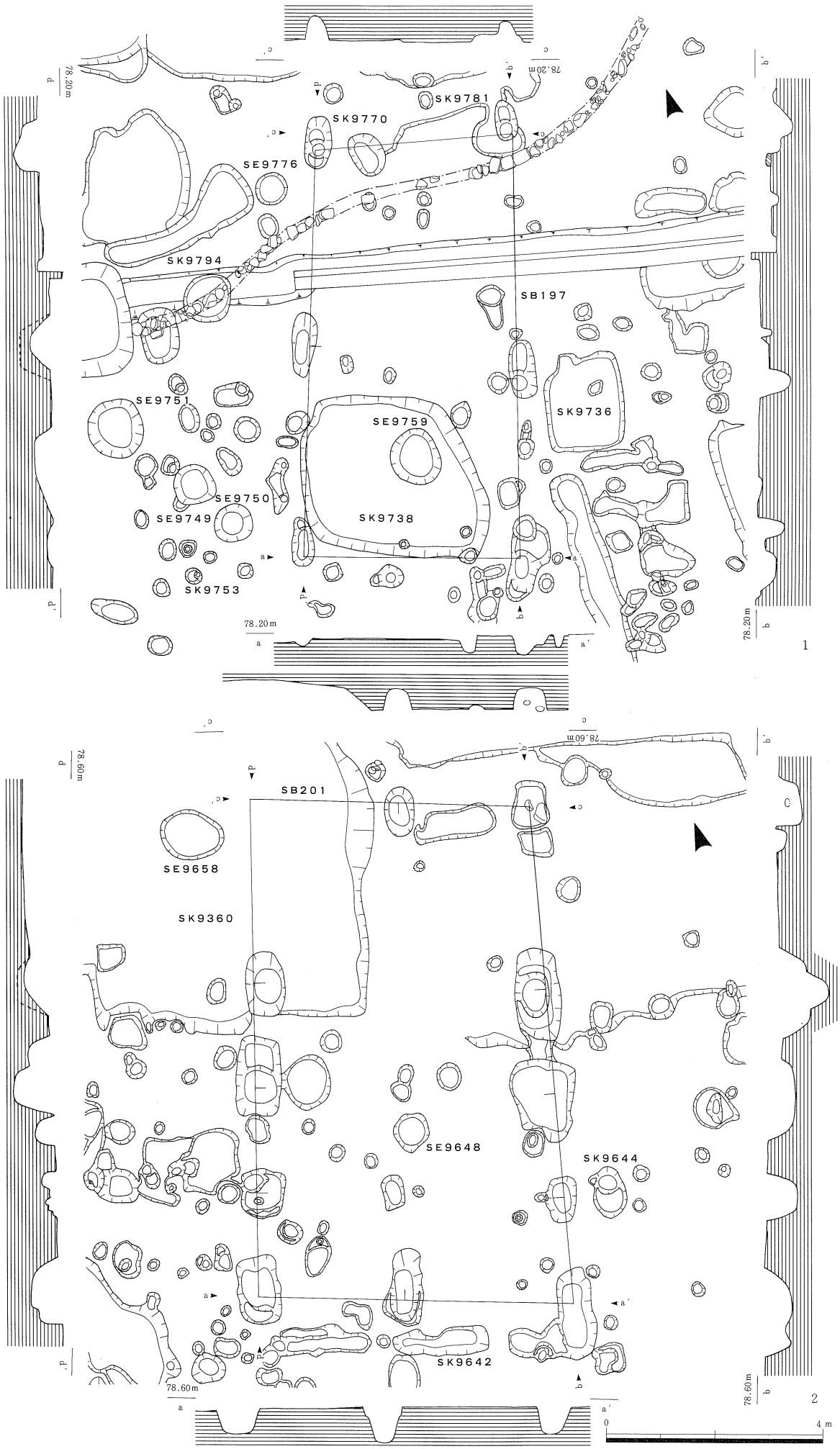
1.SB174　2.SB175　3.SB182



第243図　遺構実測図(近世)
ＳＢ１７９～ＳＢ１８２



第244図　遺構実測図(近世)
SB192～SB194



第245図　遺構実測図(近世)
1.SB197　2.SB201

2　土台建物

当遺跡では，17世紀後半～18世紀の時期に相当する，柱穴を伴わない100m²以上の掘形をもつ大型の土坑を検出している。これらの土坑は，地山を一度掘りくぼめて埋め戻して整地しており，共通して石列・貼床・石を敷き詰めたバラスなどの施設を伴う。ここではこれらの土坑を土台建物と想定して記述する。検出した建物は部分検出１棟を含め４棟で，最大のものは300m²以上の掘形をもつ。

Ｂ地区

6390号土台建物（ＳＢ6390，第246図，図版126・127）

Ｘ240～249Ｙ88～99で検出した，大型の土台建物と想定する遺構である。本体部分の規模は南北19.5m，東西16.5m，面積約300m²である。東西辺が平行するが南北辺が外側に開く，やや歪んだ長方形を呈する。内部の南辺中央には一辺約５ｍの歪んだ方形の土坑が検出され，堆積状況から遺構に伴うものである。土坑の上面，内部からは多量の大礫が検出され，最下層の南肩では長さ約60cmの柱材状の加工木が横たわっていた。この他の掘形内部で検出された遺構は，ＳＢ6390構築以前の遺構である。覆土は大きく３層に分かれる。第１層は砂の混じる暗茶灰色土で，部分的に小礫・黄褐色土ブロックが混じる。これは遺構上面全面にわたる。第２層は褐色粘質土で，黄褐色土ブロック・黒褐色粘質土・砂礫が混じる。この層は遺構の北側で見られ，所により様相が異なる。西側では黄褐色土が主体で，これに黒褐色土と砂粒がマーブル状に混じる。東側は色調が暗くなり，暗茶褐色粘質土に褐色粘土・黄褐色土・小砂礫が混じる。遺構の中央部分に見られず，南側は南辺中央の土坑上面付近にのみ部分的に見られる。この層は堆積の仕方が水平ではなく，特に下に向かって非常に凸凹しており，自然堆積あるいは単純な人為的埋め戻しではなく，ある程度の転圧を加えたものと推定する。また，この層は遺構の肩までは堆積せず，部分的には肩際で溝状に抜けることも確認されている。これらの堆積状況から，特に西側部分は貼床面であったと推定される。最下層の第３層は黒褐色粘質土である。遺構中央で部分的に見られなくなるが，他では全体に堆積する。東側，南中央土坑内には大礫が混じり，粘性がやや強くなるが均質な土である。この土は埋め戻しの土と推定される。また，この遺構には東西辺北側両脇に張り出し状に土坑が付帯する。東側の張り出し部は面積約19m²，本体との境に石列を伴う。石列は検出した長さで約５ｍ，本来は張り出し部との境の南北にわたって設置されていたものと推定する。石はやや不規則に並んでいるが，内側に向かって面を取っている模様である。床面は内側と外側では外側がやや高くなるが，大きく変わるものではない。覆土は暗茶褐色土に黄褐色土粘土粒・焼土・炭化物・礫が混入する。本体の第３層の覆土とあまり変わらない土質である。西側の張り出し部は，東側に比べて明確な掘形をもっておらず，掘形としては約1.5m西に膨らむ形となる。床面の高さも変わらないが，南北５ｍ，東西2.5mの範囲にわたり，上面に黄褐色砂礫土の堆積が見られる。その下には本体部分の覆土に見られない，黄褐色土が混じる暗茶褐色土が堆積するが，最下層には本体部分の第３層が堆積している。遺物には縄文土器，土師器・須恵器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・信楽・白磁・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里，砥石・石臼・茶臼・石鉢・石硯，漆器片・箸・櫛，キセル・銅銭がある。出土層位は第１層と第３層からである。時期は17世紀前半のものが多いが，遺構の時期は17世紀後半にまで下ると考えている。

6665号土台建物（ＳＢ6665，第247図，図版128）

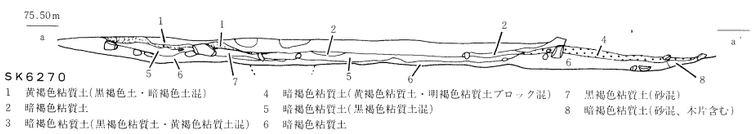
Ｘ232～243Ｙ78～81で検出した，南北に長い不整形を呈する土台建物と想定する遺構である。調査時点でのＳＫ6095・ＳＫ6270・ＳＫ6665が複合した遺構である。上面は砂礫・陶磁器片・ガラスなどが入った数基の近代の穴による攪乱を受けている。平面形は長方形の土坑の南北に，長楕円形の張り

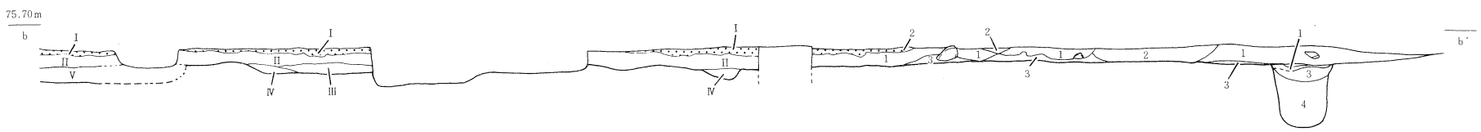
出しが付随したような形をしており，遺構の特徴もそれによって分かれる。規模は全体で南北25m，東西７ m，深さ30cm，面積約135m²である。床面は平坦であるが，主体部の中央東側が約15cm の段差をもって浅くなる。主体の長方形部分と南側の張り出しとの境中央には，長さ約3.5m の石列が検出された。石列は内側に向かって面をとっている模様で，これを境に覆土の様子が変化している。石列の北側では覆土は３層に分けられる。第１層は黄褐色土・茶褐色土が霜降り状に混じる黒褐色粘質土で，厚さ約10cm，全面にわたってほぼ水平に堆積する。第２層は黄褐色土が霜降り状に混じる褐色粘質土である。ほとんどの部分ではこの２層のみが堆積している。第３層は暗茶褐色粘質土で，石列の北側では部分的堆積が見られる。石列の南側では黄褐色土が混じる灰褐色粘質土が主に堆積し，最下層には第３層が薄く面的に堆積する。北側の張り出し部分には，上面に南北約６ m，東西約４ m の性格が異なる土坑状の施設がある。皿状に浅く窪むもので，覆土は上層に暗茶褐色粘質土，中層には薄く黒褐色土・暗褐色土がマーブル状に混じる黄褐色砂質土が堆積する。この層は貼床面と推定する。下層にはやや均質な黒褐色粘質土が堆積しており，ＳＢ6390の基本層と似ている。この施設の下層には，大礫が多く混じる暗褐色粘質土が堆積する。建物内にある井戸，土坑，及び重複するＳＤ6095は，すべてＳＢ6665より古い時期のもので，遺構の上部構造が窺える遺構は検出されなかった。ＳＢ6665の覆土からは，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁，越中瀬戸・唐津・伊万里，坩堝，砥石が出土している。時期は17世紀後半と考える。

7101号土台建物（ＳＢ7101，第248図，図版129・130）

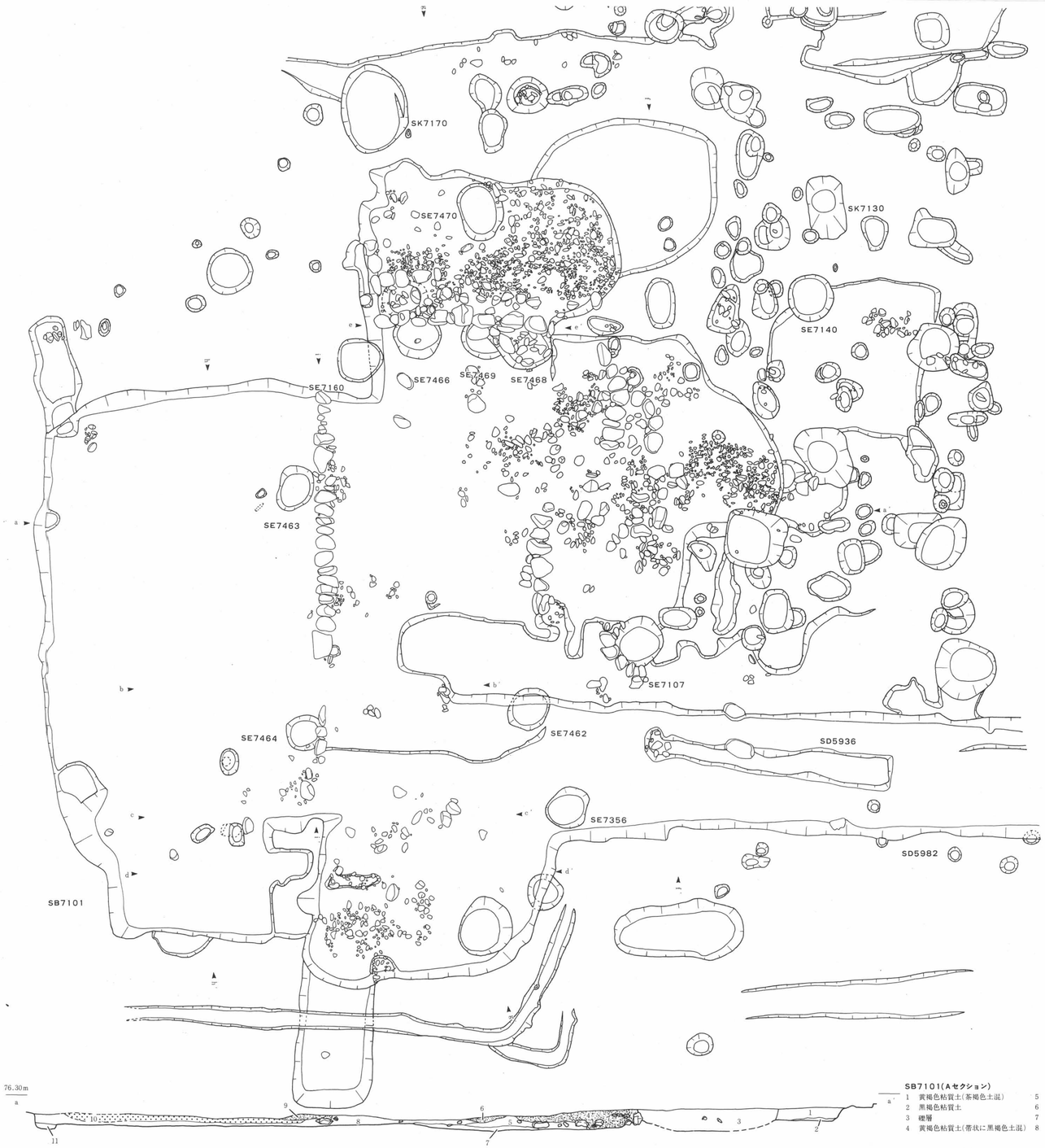
Ｘ210～216Ｙ72～80で検出した，土台建物と想定する遺構である。規模は南北14.5m，東西15.2m，深さ約30cm である。掘形は不整形で，３基の土坑が組合わさった様を呈するが，空間的には覆土の状態から４箇所に分かれる。この４ブロックの境では石列が検出された。東西列が２列，南北列が１列である。東西列は共に北側に向かって面を揃えている。北側の東西列は，一部途切れるものの，長さは約７ m を測る。石の大きさは約20cm～50cm，石の長辺よりも短辺を揃えているものが多い。南側の東西石列は，約２ m の長さで極めて部分的である。掘形の西寄りに６個の石を並べている。東半では検出されなかったが，石列の北と南では覆土が大きく違うので，実際は東端まで石列はあったものと想定している。南北列は約3.5m を測り，石の長辺を揃えて西側に面を揃えている。この約50cm 東には，平行して４個の石列が検出されたが，部分的で南側に検出されない。当初，取り水状の遺構とも考えたが，その可能性は極めて薄く，あくまでも主体は，境に位置する南北列と考える。この石列の下層からは，井戸が４基検出されたが，礫によって廃棄された後この石列が造られていることから，この建物に伴う遺構ではない。これらの他にも掘形内から数基の井戸が検出されたが，ほとんどが中世後期～近世初頭に属するもので，建物に伴う井戸は北側に肩止めの縁石を巡らすＳＥ7107のみである。覆土についてはブロック別に述べたい。北の東西石列より北側は，上層が茶褐色粘質土で，部分的にしか残っていない。中層は黒灰色粘質土に黄褐色土が霜降り状に混じる土が水平堆積し，特に石列の手前の範囲には黄褐色粘質土，または黄褐色粘質土が主体の黒灰色土が混じる層が堆積し，一部石列に被るように堆積する。下層は均質な黒褐色粘質土層である。３本の石列に囲まれた長方形の空間には，主に黒灰色粘質土が堆積し，一部上面，または南石列の上面に黄褐色粘質土やこれに筋状の黒褐色土が混じる土が堆積する。南の東西石列より南側は，大礫・小礫が多く混じる覆土で，石列付近やブロック的に黄褐色粘質土が見られる以外は，黄褐色土が混じりつつも主に黒褐色粘質土が堆積する。南北石列より東側も小礫の堆積が顕著に見られるところで，バラス状に敷き詰められている。覆土は黒灰色粘質土に黄褐色粘質土ブロックが混じる土で，下層のほうが黄褐色粘質土ブロックの混

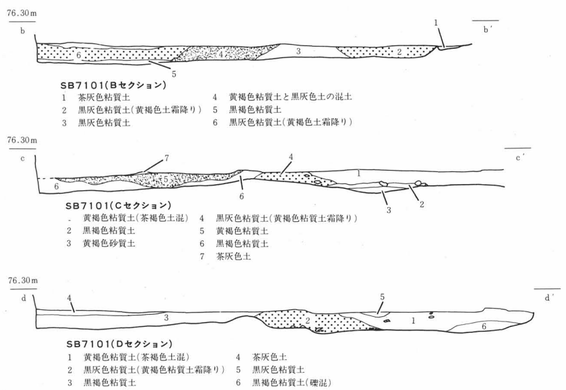
第246図　遺構実測図(近世)
SB6390・SK5132・SK5151

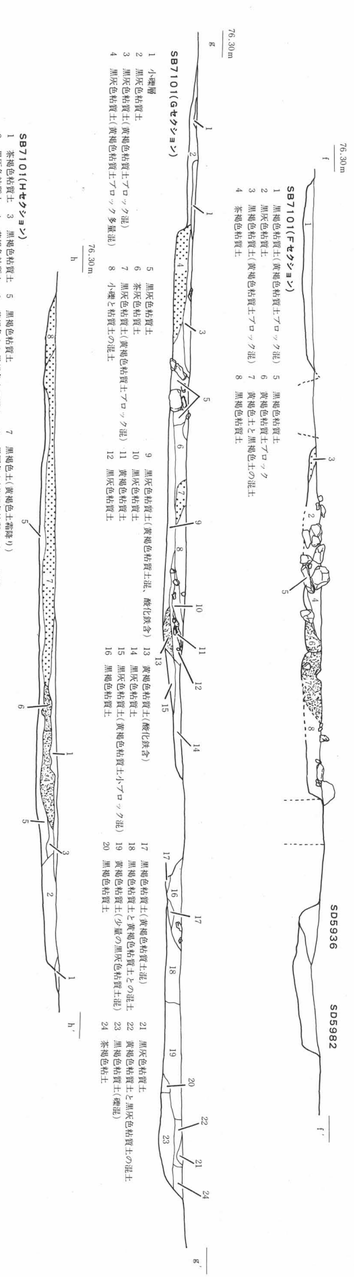




第247図　遺構実測図(近世)
SB6665・SK6270







第248図　遺構実測図(近世)
SB7101

第249図　遺構実測図(近世)
SB8680・SK8684

じる割合が大きい。このように下部構造がブロック毎に変化を見せるということは，上部の居住空間の仕切と関係があると考えられよう。しかし，この建物の場合，黄褐色粘質土の貼床状の土は部分的に検出されるが，面的には把握し難く，石列の面の揃え方も他の土台建物とパターンが異なっている。今後，砺波地方の民家，加えて散居村の成立を考えながら検討していくべきであろう。遺物は，北の東西石列より北側から中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花，越中瀬戸・唐津など17世紀前半の遺物が出土している。石列の南側からは，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・白磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里，磨製石斧，金属製品が出土している。時期は18世紀にまで下る。整地土か，遺構の覆土か遺物の出土位置によって時期は異なってくるが，他の遺構との切り合いから考えても，17世紀後半～18世紀の建物と考えている。

8680号土台建物（ＳＢ8680，第249図）

Ｘ196～198Ｙ64～66で検出した，土台建物と推定する遺構の一部で，中世の溝であるＳＤ7520・ＳＤ8709が埋まった後，その上面に造られている。部分的検出であるため建物の全容は不明であるが，石列で囲まれた貼床面と礫を敷き詰めたバラスを検出している。貼床面は1.5m×２ｍ以上で，北・西・南の三方を石列で囲まれる。石列は内面に向かって面を揃えており，40cm～50cmの大きな石の間に小石を詰めている。石の上面は地山から約30cm～35cmで，貼り床面にはこの面に合わせて下から砂礫の混じる褐色粘質土，黄褐色粘質土，砂礫の混じる褐色粘質土が堆積する。石列の外側には黒褐色粘質土が堆積しており，この土は一度掘り返した部分の整地土と考えている。バラスは西側に一部と南側の張り出しに見られる。整地部分と同じ深さで掘り返した部分に褐色粘質土で埋め，上面に小礫を敷き詰めている。南側の掘り込みはやや浅いが，バラスの上面は整地面，石列上面に揃っている。従って，掘り返して整地した部分，故意に掘り残した部分，バラス部分の３通りの面が検出されたもので，これは即ち建物空間における基礎工事の違いを示すものであろうし，このことから建物の間取りの推察も可能であろう。遺物には，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸，砥石がある。時期は18世紀のものがある。（島田美佐子）

遺構番号	整理番号	地区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆土	出土遺物	備考	時期
ＳＢ6390	ＳＢ490	Ｂ２	不整長方形	1950	1550	50	暗茶褐色土	縄文土器・土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・信楽・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・砥石・茶臼・石硯・石臼・石鉢・台石・加工石・漆器・箱・箸・加工木・キセル・銅銭・鉄製品	面積約300㎡	17Ｃ前半～
ＳＢ6665	ＳＢ765	Ｂ２	不整形	2500	700	30	黒褐色土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・加賀・越中瀬戸・唐津・伊万里・坩堝・砥石	面積約135㎡	17～17Ｃ後半
ＳＢ7101	ＳＢ01	Ｂ３	不整形	1450	1520	32	黒褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里	面積約165㎡	17･18Ｃ
ＳＢ8680	ＳＢ480	Ｂ３Ｗ	不整形	－	－	20～30	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸・砥石	部分検出	18Ｃ

第13表　土台建物（近世）一覧

3　溝

中世後期から近世に存続する時期の溝は多く検出されているが，純粋の近世の溝は少ない。近世単独の時期の遺構が，分散していることに起因していると考える。Ａ１地区を東西に流れるＳＤ1441，Ａ３地区・Ｂ１地区のＳＤ3401は旧河川と考えられ，特に後者は，絵図から橋本川の旧河道と判明している。また，Ｂ２・Ｂ３地区のＳＤ5910は，以速寺の住職の話から，旧以速寺域の周囲を巡っていた堀と判断している。この他の溝は規格的な溝も数本見られるが，浅い小規模なものが目立つ。

Ａ地区

301号溝（ＳＤ301，図版131）

Ａ地区の北側，Ｘ484～486Ｙ100～111に位置する東西溝である。幅40cm～60cm，深さ18cm～30cmで，途中溝が切れる。溝底は少し凹凸している。覆土は暗灰色粘質土の単層である。中世の遺構確認面は溝底より下である。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁，伊万里・瀬戸がある。時期は19世紀以降である。

824号溝（ＳＤ824，第250図，図版131）

Ｘ446～449Ｙ95～97で検出した南北方向の溝である。全長は6.8mで，南端をＳＫ1351に切られる。断面形は逆台形状で，幅は80cm～100cm，底面幅は約45cm，深さは15cm～60cmである。覆土は上層が暗茶褐色粘質土，下層が礫混じりの暗茶褐色粘質土で，礫は下層上面に集中する。遺物の出土はほぼ全域にわたって見られ，ほとんどが下層から出土しており，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸・清水がある。時期は17・18世紀である。

1441号溝（ＳＤ1441，図版132）

平行するＳＤ701とＳＤ911の境上面で検出した東西方向の溝である。包含層掘削の時点より，上面の礫層の広がりから流れが確認されていたものであるが，試掘溝によって斜めに攪乱を受けていることから，西端がやや不明確となっている。幅は220cm～280cm，深さは10cm～75cmで，西に行くにつれて深くなる。覆土は砂礫層，暗茶褐色粘質土，暗茶褐色粘質土と砂質土の混土の堆積が見られ，ある程度の流れをもち，かつ安定したものではなかったことを窺わせる。遺物には中世土師器・珠洲・青磁，唐津・伊万里，漆器椀がある。漆器椀は口縁に藁が巡らされた状態で出土している。また，調査区西壁付近上面からは５ｍ余りの建築材が出土しているが，この建築材は溝に伴うものと考えるよりは，後世に埋められたものではないかと判断している。

2207号溝（ＳＤ2207，第250図）

Ｘ369～372Ｙ84～92に位置し，ＳＤ2215を切る東西溝である。幅88cm～182cm，深さ28cm～42cmである。溝は西側で未調査区に延び，東側でＳＤ2201を切り，ＳＤ2203に接して東側に続くと考える。確認できた溝の長さは約15mである。溝底の高低差は東西で約10cmあり，水流は西に向く。溝底は地山の礫層に達しているために，凸凹になっている。覆土は茶灰色砂質土（上層），灰色粘質土･青褐色粘質土（下層）である。遺物には中世土師器・瀬戸美濃・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は17世紀～18世紀である。

2481号溝（ＳＤ2481，第250図）

Ｘ408～411Ｙ99･100に位置し，ＳＫ2482を切る，幅44cm～50cm，深さ10cm～20cmの南北溝である。溝底は丸くなっている。上層は砂礫土，下層は茶褐色土である。遺物には中世土師器，伊万里があり，時期は18世紀である。なお，ＳＤ2481・ＳＤ2484・ＳＤ2485は，溝の方向と，覆土に砂礫土を含んでいる点で，同時期に作られた溝と考える。

2484号溝（ＳＤ2484，第250図）

Ｘ407～409Ｙ100に位置する南北溝で，長さ3.3m，幅66cm～72cm，深さ15cm～20cmである。溝の断面形は，長方形に近い台形である。覆土は灰色砂礫土の単層である。遺物には伊万里があり，時期は18世紀である。

2485号溝（ＳＤ2485，第250図）

ＳＤ2484に並行して南北に連なる溝で，ＳＤ2648の覆土上面を切っているが，溝北端は未確認である。現存長4.5m以上，幅44cm～56cmである。溝底は北側で深さ25cm，南側になると深さ10cmと浅くなる。覆土は灰色砂礫土の単層である。遺物には唐津があり，時期は18世紀である。

3401号溝（ＳＤ3401，第251図，図版132）

Ａ３地区からＢ１地区に，クランク状に曲がる川跡（旧橋本川）で西流する。覆土は灰褐色砂利土で，上層に茶褐色土が混じることもある。断面形は逆台形である。Ｘ318～322Ｙ80～105では，ＳＤ3402を切り，幅4.3m～６m，深さ60cm～90cmである。この東西方向の溝が直角に南に折れ曲がり，Ｘ309～311Ｙ93～101で，幅６m～７m，深さ40cm～65cmである。この溝は，さらに南に延び，Ｘ298～300Ｙ98・99で，ＳＤ4602を切り，直角に折曲り東側の未調査区に延びる。この東端の断面から，溝は幅9.8m，深さ１mで南側に浅く広がる。溝が折れ曲している所に直径約１mの木の根が出土していることから，溝肩に数本の大木が植わっていたことが判る。遺物は，土師器・須恵器，中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸，木製品など多種多様である。溝は昭和初年の圃場整備事業で埋められるまで使われていた。溝の下限は遺物の出土状況から，中世まで遡る可能性がある。

3403号溝（ＳＤ3403，第252図）

Ｘ300～320Ｙ78～84に位置する南北溝である。幅1.1m～1.9m，深さ15cm～40cmで，壁は丸く立ち上がる。南・北で40cmの高低差があり，北流し，ＳＤ3401に流れ込む。覆土は茶褐色土で，砂利が混じる。Ｘ313・319Ｙ81・82付近で，小石混じりの暗渠と重なる。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里があり，時期は17世紀～18世紀である。

Ｂ地区

4604号溝（ＳＤ4604，第252図）

Ｘ288～296Ｙ100で検出した南北方向の溝である。幅は175cm～220cm，深さは30cm～36cmで，流路は北に向かっており，ＳＤ3401に切られる。南端はＢ地区との境に畦畔ブロックが埋められて攪乱を受けており，Ｂ地区への続きは確認できなかった。断面形は逆台形状で，底面はほぼ平坦，覆土は上層が植物繊維を含む灰茶褐色粘質土，下層が灰褐色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・青花，唐津・18世紀の伊万里がある。

4624号溝（ＳＤ4624）

Ｘ289～290Ｙ80～103付近で，東西方向に西流する溝。南北方向に走る溝全てより新しく，Ｙ96～100付近ではＳＤ4648と並行する。幅21cm～74cm，深さ８cm～12cmを測り，断面形は半円弧を呈する。覆土は茶褐色粘質土の単層である。遺物は中世土師器・瀬戸美濃・青磁が出土し，時期は14世紀～15世紀と考えられるが，切り合いから近世の遺構とする。

5002号溝（ＳＤ5002，第253図，図版133）

近世の土坑ＳＫ5051の東側と重複する南北方向の溝である。溝の東側と西側では検出面の標高差が20cm～35cmの差があり，西側が高い。溝はこの段の下を走っている。北はＢ地区に延び，西肩の段

は残るが，東肩が不明瞭となる。しかし，可能性としては位置的にＳＤ4831に続くものと考える。南はＳＢ6390に切られ，床面下層で一部のみ検出した。東西方向の溝ＳＤ5105がＸ254Ｙ91で合流するが，合流点には木の枝や自然木などを利用してしがらみが作ってあり，付近からは長さ２ｍ余りのものと1.5m余りの自然木が２本出土している。また，しがらみ近くからは轆轤挽きの漆を塗っていない瓶子の脚部が出土している。溝の上面幅は260cm～305cmで，底はやや丸味を帯びて平坦ではない。Ｘ257Ｙ92より北では東側に黄褐色砂質土がしまって畔状をなしており，覆土の違いが見られる。深さは40cm～50cmである。覆土は暗茶褐色粘質土が主体で，西壁際，下層には黒褐色粘質土の堆積が見られる。畔状の黄褐色砂質土の東には灰色砂質土や灰色粘質土が堆積する。上面の大礫はＳＫ5051に伴うものと考えている。遺物には須恵器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁，越中瀬戸・唐津がある。時期は14世紀～17世紀である。

5047号溝（ＳＤ5047，第253図）

ＳＤ5105の上面を東西方向に走る浅い溝で，Ｘ252Ｙ90で二股に分かれる。ＳＤ5105・ＳＤ5002より新しいが，ＳＫ5051には切り合いで負ける。幅は約40cm～60cm，深さは約７cm～10cmである。覆土は暗茶灰色粘質土の単層で，遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

5105号溝（ＳＤ5105，第252図）

Ｂ２Ｎ地区中央南寄りで検出した東西方向の溝である。東端はＳＤ5002に合流する。他の遺構との切り合いはＳＤ5047・ＳＫ5436・ＳＥ5152に負けている。ＳＤ5002との合流点までの長さは約28mで，手前約50cmの所では，底が約20cmの高さで畔状に盛り上がっている。合流点のしがらみと関係があると考える。規模は幅が215cm～250cm，底面幅が約85cmで断面形は丸みを帯びた逆台形状である。深さは75cm～90cmである。覆土は観察地点により異なり，暗褐色粘質土または黒灰色粘質土が主体の土である。最下層には砂粒の混入が見られる。遺物には土師器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は13世紀～17世紀である。

5910号溝（ＳＤ5910，第254図，図版134）

Ｂ２地区からＢ３地区にまたがる「コ」の字形状の溝である。伝安楽寺跡を含むこの付近は，昭和初期まで現在福光町梅原に所在する以速寺の寺域である。当寺の住職の話によれば，この寺域の外側には寺を囲む堀が巡らされていたと言う。このＳＤ5910は，溝の位置，遺物などから当時の堀に間違いないと推定され，この溝に囲まれた内部に関連遺構が含まれることがわかる。この他にも明かに以速寺関係の遺構として井戸（ＳＥ5974），土坑（ＳＫ7149）がある。溝の規模は上面幅が200cm～140cm，底面幅140cm～100cm，深さ55cm～80cmで，断面形は逆台形状である。包含層掘削時より遺構の上面には大礫が帯状に堆積し，中には加工石や石臼，石板，植木鉢の破片が混じっていた。寺の移転時に廃棄されたものであろう。特に東西方向部分で顕著である。覆土は大まかに３層に分かれる。上層は暗黄褐色粘質土，黄褐色粘質土混じり褐色粘質土，中層は暗灰褐色粘質土と砂層が層状に堆積する層で，瓦やガラスビンが混じる。下層は暗褐色粘質土が堆積する。上・中層には大礫が多く混じり，しまりが悪いが，下層には礫が混じらない。遺物の堆積状況から中層までは昭和初期までの堆積であることが確認できる。堀の掘削時期がいつ頃であったかは遺物の検討から確認できよう。これより新しい遺構は東西方向の浅い溝ＳＤ5932，砂礫土が堆積するＳＫ5905，南北方向のＳＤ7111がある。溝の南端はＸ201Ｙ87になると幅は40cm，深さ約50cmとなりＳＤ5935の西側を並走し，Ｘ195Ｙ86で東に屈曲して調査区外へ延びる。このうちＸ201Ｙ87から南に約３ｍの範囲にわたっては暗渠状となってお

り，竹管の断片も検出され，その出入口には数個の礫を配して固定していた。遺物には須恵器，中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里・九谷，石臼などがある。

6034号～6037号溝（ＳＤ6034～ＳＤ6037，第252図）

Ｘ225･226で東西方向に走る溝群である。西端はＳＫ5990と重複し，その西端で終わる。東側はＳＤ5910やＳＤ6014に切られる。４条の溝の中では切り合いはＳＤ6036が一番古く，ＳＤ6034が一番新しい。幅，深さなどは一定ではなく，幅は４条合わせて広くて約185cm，深さもＳＫ5991の北では35cmとやや深くなるものの他では25cm以下である。覆土はＳＤ6036が黒褐色粘質土以外は暗茶褐色粘質土である。遺物は主にＳＤ6034とＳＤ6035から出土し，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・信楽，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

7111号溝（ＳＤ7111，第254図）

Ｘ207～213Ｙ87で検出した南北方向の溝である。ＳＤ5910の西側に接し，切り合いで勝つ。幅は40cm～70cm，深さは20cmである。覆土は茶褐色土の単層で，遺物には18世紀の唐津である。

7261号溝（ＳＤ7261）

Ｘ202～208Ｙ88・89で検出した逆「Ｌ」字形状の溝である。南北方向からＸ208Ｙ89で西に屈曲し，ＳＤ5910に切られる。ＳＤ5910と平行することから，関連のある遺構とも考えられる。断面形は底面が平坦な逆台形状を呈する。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁，越中瀬戸・唐津，近代磁器がある。17世紀以降の時期である。

7451号溝（ＳＤ7451，第252図）

Ｘ201～205Ｙ92～94，調査区の東際で検出した南北方向の溝である。北端は東に屈曲して調査区外へ延び，南端もＳＤ7370に切られて調査区外へ延びる。幅26cm～107cm，深さ約30cmである。覆土は上層が暗茶褐色粘質土，下層は茶褐色粘質土が中心の土である。遺物には中世土師器・珠洲，越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸がある。時期は18世紀である。

7452号溝（ＳＤ7452，第252図）

Ｘ203Ｙ93でＳＤ7451と直交するような位置で検出した東西方向の溝である。Ｂ３地区と隣接するＢ４地区でその延長を検出したものである。幅は120cm～140cm，深さは約35cmで，断面形は底面が平坦な逆台形状である。覆土は茶褐色粘質土が主体で，黄褐色粘質土や炭化物が混じる層が堆積する。遺物には珠洲，唐津・伊万里，石臼がある。時期は18世紀である。

7960号溝（ＳＤ7960，第252図）

Ｘ174Ｙ68～71で検出した東西方向の溝で，約１ｍ北にあるＳＤ7961に平行する。幅は35cm～70cm，深さ約14cmである。ＳＫ7810には切り合いで勝つが，ＳＢ175・ＳＫ7810には負ける。覆土は黄褐色粘質土の混じる暗茶褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器，伊万里がある。

7961号溝（ＳＤ7961，第252図）

Ｂ３地区の南寄りで検出した東西方向から南北方向に屈曲する逆「Ｌ」字形の溝である。ＳＫ7860・ＳＫ7955などの中世後半の土坑に勝つが，ＳＫ7800に負ける。幅は40cm～115cm，深さ18cm～23cmで，断面形は逆台形状である。覆土は砂礫の混じる暗茶褐色粘質土，または黒灰色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲・青磁，越中瀬戸・唐津があり，遺構の時期は17世紀である。

9116号・9117号溝（ＳＤ9116・ＳＤ9117，第254・255）

Ｘ150～155Ｙ61～63で検出した南北方向の溝である。西側には並走するＳＤ9117を検出し，共に南流する。ＳＤ9116の覆土は上層が礫の混じる黒色粘質土，下層が礫混じりの赤色土である。幅60cm～110

cm，深さは12cmと浅く，上層のみでは約4 cmである。上面には酸化鉄ブロックが部分的に残っている。下層の酸化面の広がりはＳＤ9117の上面にも見られ，この層をはずした後の床面は黒色化している。ＳＤ9117は幅55cm～110cm，深さ約10cm，覆土は上層が灰褐色砂礫土，下層が茶褐色砂礫土である。ＳＤ9116の覆土中からは鍛造剝片が検出され，ＳＤ9117とともに製鉄関連遺構の可能性が高い。遺物の検討と合わせて注意する遺構である。遺物には中世土師器越前・瀬戸美濃・青磁・唐津，羽口，石臼が出土している。時期は16世紀後半～17世紀である。

9126号・9192号溝（ＳＤ9126・ＳＤ9192，第255図）

Ｘ153Ｙ58～62，調査区西側で検出した東西方向の溝である。東流し，ＳＤ9116・ＳＤ9117に切られると判断したが，掘形・切り合いにやや不明瞭なところがある。規模はＳＤ9116が幅60cm～110cm，深さ約12cm，ＳＤ9192が幅100cm～140cm，深さ9 cmである。覆土は共に黒褐色粘質土に砂礫の混じった土で，切り合いはＳＤ9126が勝つ。この黒色粘質土をはずした時点で，Ｘ151Ｙ62，Ｘ153Ｙ60・61の2箇所で赤色化した酸化面を検出した。Ｘ151Ｙ62のブロックはＳＤ9116・ＳＤ9117の掘形内に位置するが，とりあえずここで述べる。酸化面は不定形な広がりを見せ，部分的に底面の砂礫面が赤色化，黒色化している。Ｘ153Ｙ60・61のブロックは南北約120cm，東西240cmの不整形な楕円形の広がりで，上面には暗橙色土（焼土），暗橙色土と暗灰色土（灰層）の互層の順で薄く堆積している。暗橙色土と暗灰色土の互層の枚数は場所によって異なっており，厚さも一定ではない。地山面直上は暗灰色土が堆積し，この層の堆積が厚いところは地山面が部分的に赤色化している。この焼土層と灰層は酸化面と還元面と考えられ，ここでも何らかの製鉄関連の作業をしていたと推察される。上部構造が残っておらず，詳細なことはわからないが覆土の分析をすすめながら検討していく予定である。出土遺物はＳＤ9126から中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃，唐津，茶臼，ＳＤ9192からは珠洲がある。時期は16世紀後半～17世紀である。

10436号溝（ＳＤ10436，第254図）

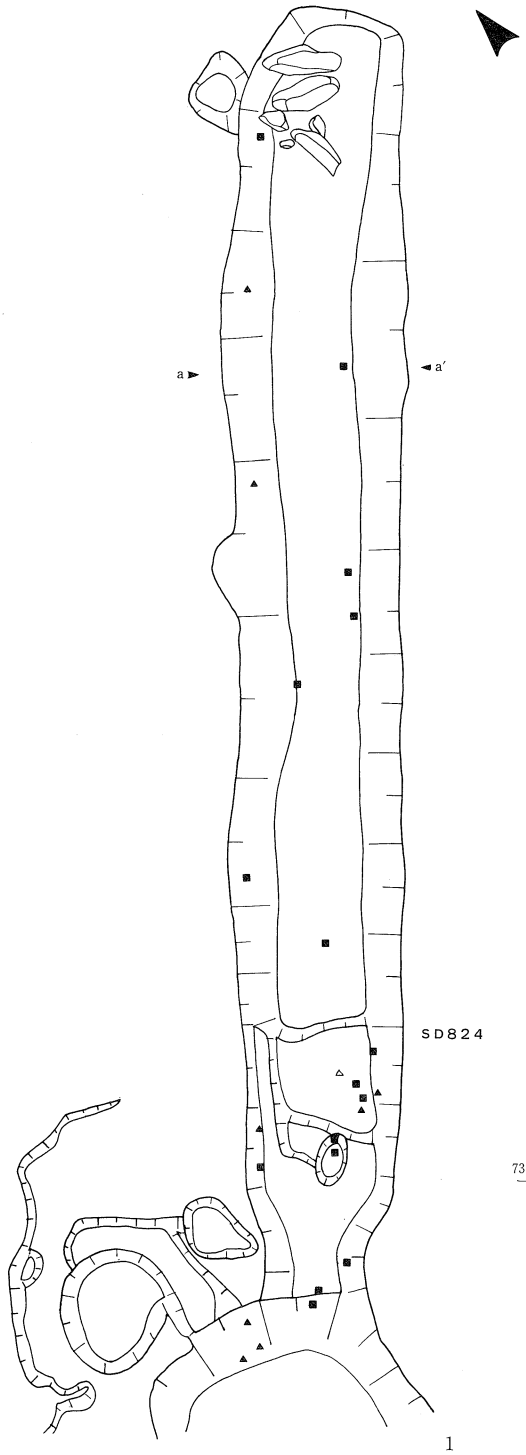
遺跡南端から調査区中央を南北方向に走り，東にカーブする溝である。幅は180cm～120cm，深さが10cm～27cmである。覆土は黒褐色粘質土に砂礫が混じる土で，東にカーブすると下層に礫を敷き詰めたようになっている。遺物の出土は無く，溝の位置は町道があった位置の側端にあたり，町道の側溝であった可能性が高く，極めて新しいものと思われる。

10437号溝（ＳＤ10437，第254図）

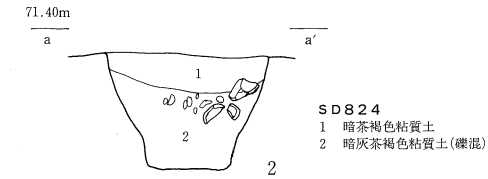
ほとんどがＳＤ10437と重複し，南北方向から東に屈曲する溝である。幅は150cm～120cm，深さは10cm～15cmである。床面は平坦で，覆土は黒褐色粘質土の単層である。遺物は珠洲・瀬戸美濃，伊万里が出土している。　（宮田進一　島田美佐子　田中道子）

遺構番号	整理番号	地　区	流　路	規模；幅	規模；深さ	覆　土	出　土　遺　物	備　　考	時　期
SD04	SD04	A	南→北	48～87	17～44	暗灰褐色粘質土	中世土師器・伊万里		18C前半
SD301	SD301	A	東→西	40～60	18～30	暗灰色粘質土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁・伊万里・瀬戸		19C～
SD704	SD04	A 1	南→北	130～210	58	暗茶褐色土	伊万里		18C
SD824	SD124	A 1	南→北	80～100	15～60	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・志野・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸・清水・打製石斧・磨製石斧		17･18C
SD910	SD210	A 1	－	43～95	35～47	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁・唐津		15･18C
SD1344	SD644	A 1	－	85	38	暗茶褐色粘質土	中世土師器・白磁・唐津		
SD1345	SD645	A 1	西→東	40～49	4～25	－	－		
SD1441	SD741	A 1	西→東	220～280	10～75	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁・唐津・伊万里・瀬戸・箸・漆器		17C後半～18C
SD2207	SD07	A 2	東→西	88～182	28～42	茶灰色砂質土	中世土師器・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里		17～18C
SD2477	SD277	A 2	北→南	56～39	10	灰褐色砂利層	唐津・伊万里		18C・大正
SD2481	SD281	A 2	南→北	44～50	10～20	砂礫土	中世土師器・伊万里		18C
SD2484	SD284	A 2	南→北	66～72	15～20	灰色砂礫土	土師器・中世土師器・伊万里		18･19C
SD2485	SD285	A 2	－	44～56	10～25	灰色砂礫土	中世土師器・珠洲・唐津		18C
SD3401	SD01	A 3 S	東→西	430～600	60～90	暗灰色粘質土	土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青磁・白磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・丸山	旧橋本川	13･15～18C
SD3403	SD03	A 3 S	南→北	110～190	15～40	茶褐色土	中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃・青磁・白磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里	SD3403＝SD4303	13･15･16･17･18C
SD3427	SD27	A 3 S	東→西	125～195	19	茶褐色土	須恵器・伊万里		17C～
SD4315	SD15	B 1	南→北	74～152	40～52	黒褐色土	中世土師器・珠洲・越前・青磁・越中瀬戸・伊万里	SD4307＞SD4315	14･18C
SD4604	SD04	B 1－3	南→北	175～220	30～36	灰茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・青花・唐津・伊万里		14･15･18C
SD4624	SD24	B 1－3	東→西	21～74	8～12	茶褐色粘質土	中世土師器・青磁・瀬戸美濃		14･15C
SD4827	SD27	B	西→北	40～105	9～14	－	須恵器・伊万里		17C～
SD5002	SD2002	B 2 N	南→北	260～305	40～50	暗茶褐色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・石臼・五輪塔・漆器・瓶子脚・箸・曲物・銅銭		14･15･16･17C
SD5047	SD2047	B 2 N	西→東	40～60	7～10	暗茶灰色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里		
SD5105	SD2105	B 2 N	西→東	215～250	75～90	暗褐色粘質土	土師器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・打製石斧・砥石・下駄・箸・底板・銅銭		13C～17C後半
SD5119	SD2119	B 2 N	西→東	65～92	14	暗黒褐色粘質土	唐津		
SD5409	SD2409	B 2 N	－	47～60	21	茶褐色粘質土	越中瀬戸		
SD5910	SD10	B 2	南→東	140～200	55～80	暗黄褐色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・九谷・石臼	SD5910＝SD7110	17･18･19･20C
SD6034	SD134	B 2	南→北	80～250	18	暗茶褐色粘質土	中世土師器・越前・瀬戸美濃・信楽・越中瀬戸・唐津・伊万里	SD6034＞SD6035＞SD6036	16･17C
SD6035	SD135	B 2	西→東	50～75	20	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸		
SD6036	SD136	B 2	西→東	24～30	25	黒褐色土	－		
SD6037	SD137	B 2	西→東	22	3	暗茶褐色土	－		
SD7111	SD11	B 3	－	40～70	20	茶褐色土	唐津		18C
SD7123	SD23	B 3	－	20～27	8～12	焦茶色粘質土	越中瀬戸・唐津		
SD7126	SD26	B 3	西→東	63	8	焦茶色粘質土	中世土師器・唐津		18C
SD7157	SD57	B 3	南→北	50～62	22	焦茶色土	中世土師器・瀬戸美濃・伊万里		18C
SD7261	SD161	B 3	－	50～93	12～64	－	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸・唐津・明治～		17C～
SD7370	SD270	B 3	－	35～67	15	茶褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・唐津・伊万里		17･18C
SD7451	SD351	B 3	南→北	26～107	30	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸		18C
SD7452	SD352	B 3	西→東	120～140	35	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・唐津・肥前・伊万里・石臼		18C・明治～
SD7457	SD357	B 3	南→北	－	－	－	伊万里		
SD7502	SD402	B 3	東→西	26	7	暗茶褐色土	唐津		
SD7504	SD404	B 3	南→北	35	7	茶褐色粘質土	唐津		18C
SD7508	SD408	B 3	北→南	45～100	7～20	暗茶褐色粘質土	－		
SD7708	SD608	B 4	南→北	－	－	－	珠洲・唐津		18C
SD7713	SD613	B 4	西→東	22～27	9	黒灰色粘質土	伊万里		18C
SD7750	SD650	B 4	西→東	31～70	8～14	灰黒褐色砂質土	越中瀬戸		18C
SD7910	SD810	B 3	東→西	120	18～23	灰茶褐色粘質土	中世土師器・瀬戸		
SD7960	SD860	B 3	東→西	35～70	14	暗茶褐色粘質土	中世土師器・伊万里		19C
SD7961	SD861	B 3	西→北	40～115	18～23	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁・越中瀬戸・唐津		15･17C
SD8470	SD270	B 3 W	西→東	15～22	20～24	茶褐色粘質土	中世土師器・唐津		15･17C
SD8643	SD443	B 3 W	東→西	50～80	23	黒褐色粘質土	近世陶器		
SD9116	SD16	C S	北→南	60～110	12	黒色粘質土	中世土師器・越前・瀬戸美濃・青磁・唐津・羽口・石臼		16･17C
SD9117	SD17	C S	北→南	55～110	10	灰褐色砂礫土	中世土師器・瀬戸美濃・青磁		16･17C
SD9126	SD26	C S	西→東	65～190	8～14	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・唐津・茶臼		16･17C
SD9192	SD92	C S	西→東	100～140	9	黒褐色粘質土	珠洲		
SD10436	SD136	C 3	南→北	120～180	10～27	砂礫・黒褐色粘質土	－		
SD10437	SD137	C 3	南→北	120～150	10～15	黒褐色粘質土	珠洲・瀬戸美濃・伊万里		

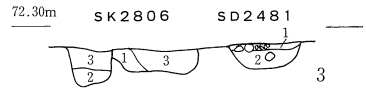
第14表　溝(近世)一覧



■ 陶器
▲ 近世磁器
△ 礫石

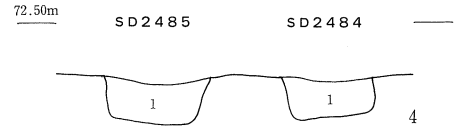


SD824
1 暗茶褐色粘質土
2 暗灰茶褐色粘質土(礫混)



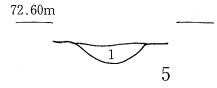
SK2806
1 明茶褐色土
2 茶褐色土(地山混)
3 茶褐色土

SD2481
1 砂礫層
2 茶褐色土(地山混)

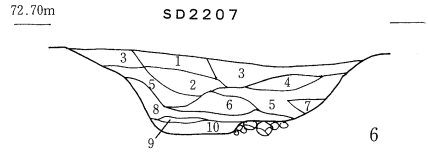


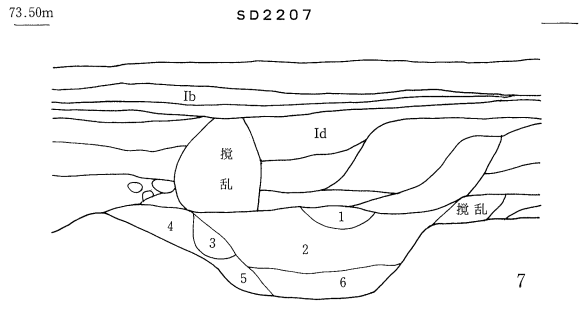
SD2485
1 灰色砂礫土(地山混)

SD2484
1 灰色砂礫土(小礫混)



SD2477
1 茶灰褐色砂礫土





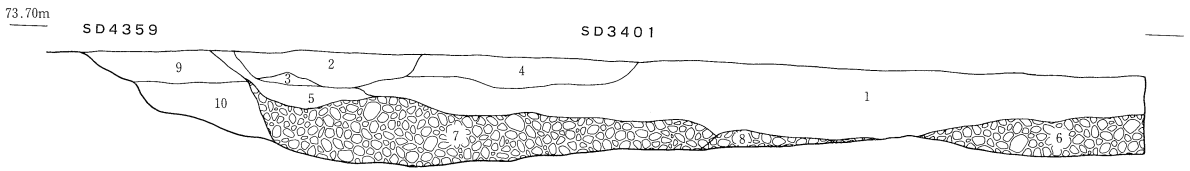
SD2207(上)
1 茶灰褐色砂質土
2 茶灰色砂質土(1より砂多い)
3 灰褐色粘質土(樹枝状に砂混)
4 茶褐色砂質土
5 灰褐色粘質土
6 灰褐色粘質土(砂質土混)
7 青灰色粘質土
8 灰褐色粘質土
9 茶色砂質土
10 灰色粘質土(砂質土混)

SD2207(下)
1 灰茶褐色砂質土(酸化鉄含)
2 灰茶褐色粘質土(酸化鉄含)
3 黄茶色粘質土
4 青褐色粘質土(酸化鉄含)
5 青褐色砂質土(酸化鉄含)
6 青褐色粘質土(酸化鉄含)

第250図　遺構実測図(近世)
1･2.SD824　3.SD2481　4.SD2484・SD2485　5.SD2477　6･7.SD2207

第251図　遺構実測図(近世)

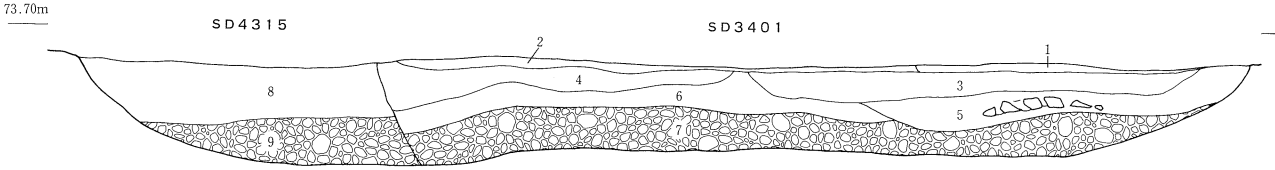
1.SD3401・SD4359　2・3.SD3401・SD4315　4.SD3401・SD3407・SD4302・SD4305・SD4315



1

SD3401
1　暗茶褐色粘質土
2　明茶褐色土(小礫混)
3　茶褐色粘質土(礫少量混)
4　茶褐色粘質土
5　明茶褐色粘質土(砂混)
6　砂礫混
7　砂礫混(6より礫少なく細かい)
8　砂礫混(細かい)

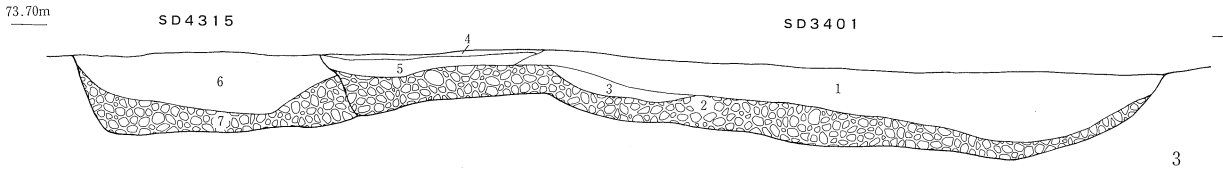
SD4359
9　明茶褐色粘質土
10　明茶褐色粘質土(9より粘質)



2

SD3401
1　明茶褐色粘質土
2　明茶褐色砂質土
3　明茶褐色砂質土(礫混)
4　明茶褐色砂質土(礫混)
5　茶褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック混)
6　茶褐色粘質土(酸化鉄含・種子混)
7　明茶褐色砂質土(礫混)

SD4315
8　茶褐色粘質土(酸化鉄含)
9　茶褐色粘質土(砂・大礫混)



3

SD3401
1　明茶褐色粘質土(植物遺体混)
2　明茶褐色砂質土(礫混)
3　黄褐色砂
4　明茶褐色砂質土
5　明茶褐色粘質土(礫混)

SD4315
6　茶褐色粘質土
7　茶褐色粘質土(砂・大礫混)

SD3401
1　明茶褐色粘質土
2　明灰色砂(砂礫混)
3　砂礫層

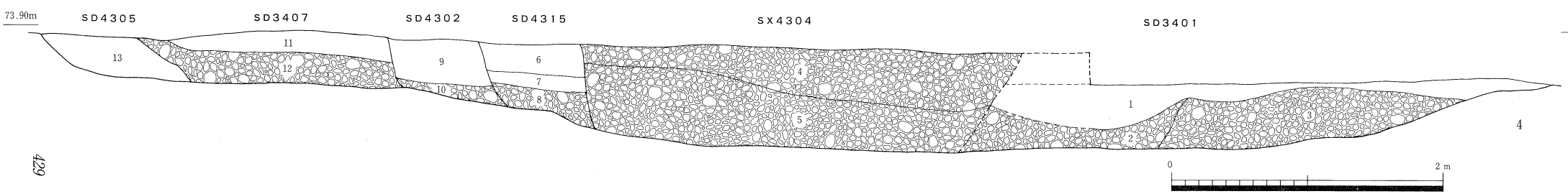
SX4304
4　茶褐色砂(砂礫混)
5　砂礫層

SD4315
6　茶褐色粘質土(植物遺体・小礫混)
7　茶褐色砂質土(植物遺体混)
8　茶褐色砂質土(砂礫混)

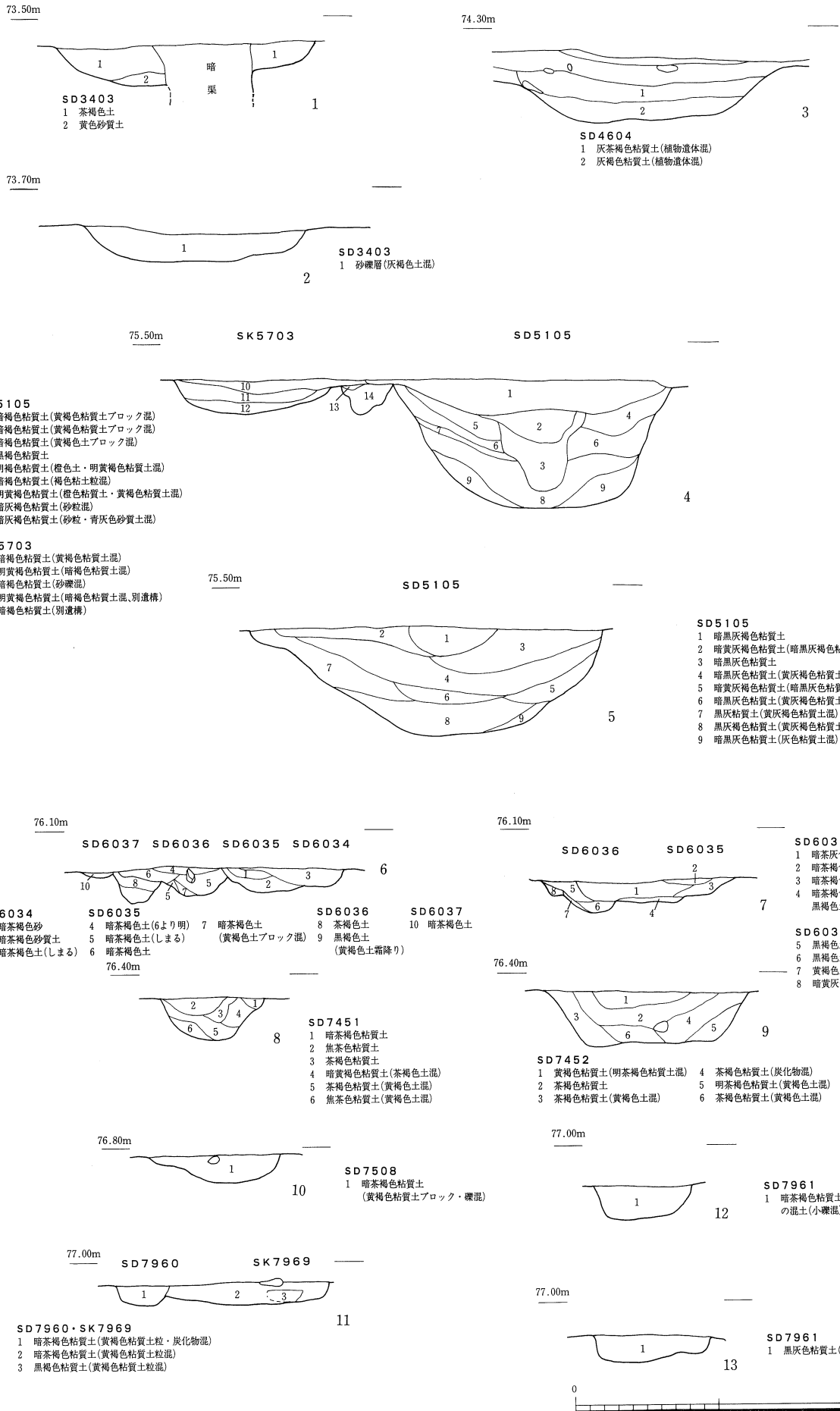
SD4302
9　砂礫層(暗茶褐色粘質土混)
10　砂礫層(暗茶褐色粘質土混)

SD3407
11　暗茶褐色粘質土(小礫混)
12　砂礫層(明茶褐色粘質土混)

SD4305
13　明黒褐色粘質土

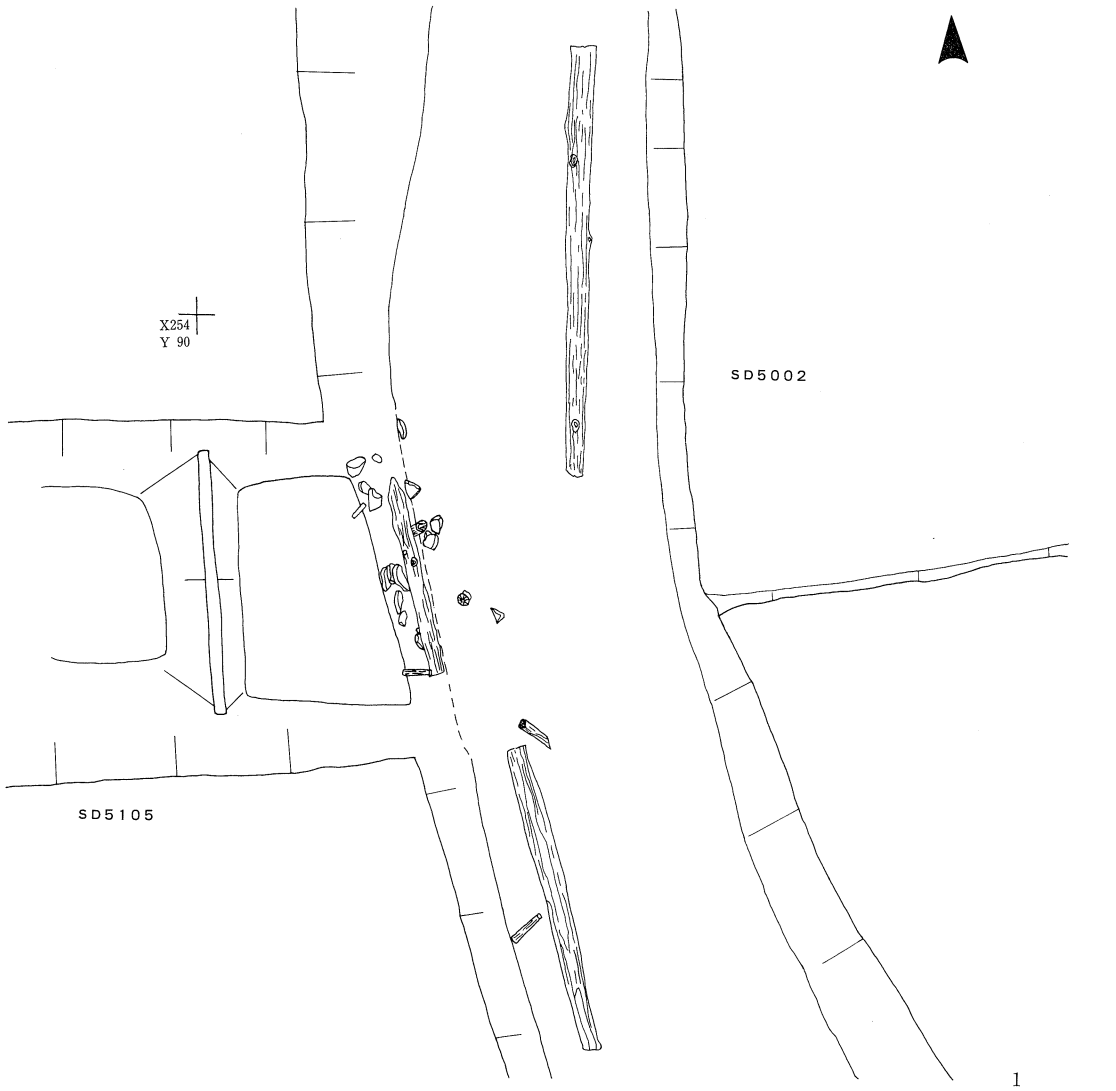


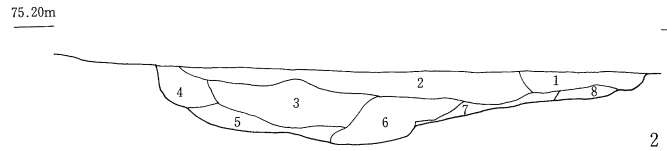
4



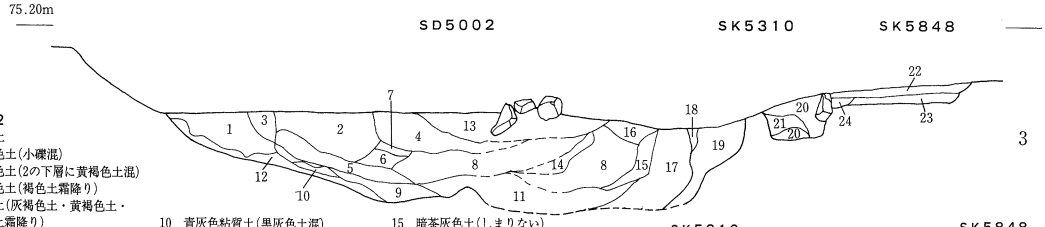
第252図　遺構実測図(近世)

1･2.SD3403　3.SD4604　4･5.SD5105　6.SD6034～SD6037　7.SD6035・SD6036
8.SD7451　9.SD7452　10.SD7508　11.SD7960　12･13.SD7961





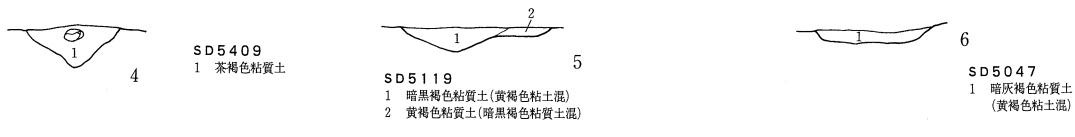
SD5002
1 暗褐色粘質土(黄灰色粘土混)
2 暗褐色粘質土
3 暗褐色粘質土
4 暗灰褐色粘質土
5 暗黒灰褐色粘質土
6 黄灰色粘土と黒色土の混土
7 暗黒灰色砂質土
8 暗茶褐色砂質土



SD5002
1 黒褐色土
2 暗茶褐色土(小礫混)
3 暗茶褐色土(2の下層に黄褐色土混)
4 暗茶褐色土(褐色土霜降り)
5 黄灰色土(灰褐色土・黄褐色土・黒灰色土霜降り)
6 暗茶褐色土(黒褐色土混)
7 2と5の混土
8 暗茶灰色土
9 灰色砂質土と粘土の混土
10 青灰色粘質土(黒灰色土混)
11 黒灰色粘質土
12 1と地山の混土
13 暗茶褐色土(小礫混、2より多い)
14 暗茶褐色粘質土(黄褐色ブロック混)
15 暗茶灰色土(しまりない)
16 暗茶褐色土(礫混)
17 黄褐色砂質土
18 灰色砂質土
19 灰色粘質土(黄褐色土・黄褐色土ブロック混)

SK5310
20 暗茶褐色土(黄褐色土・褐色粘質土ブロック混)
21 暗茶褐色土

SK5848
22 暗茶褐色土(黄褐色土混)
23 黄褐色土(暗茶褐色土混)
24 暗茶褐色土(黄褐色土混、1より多い)

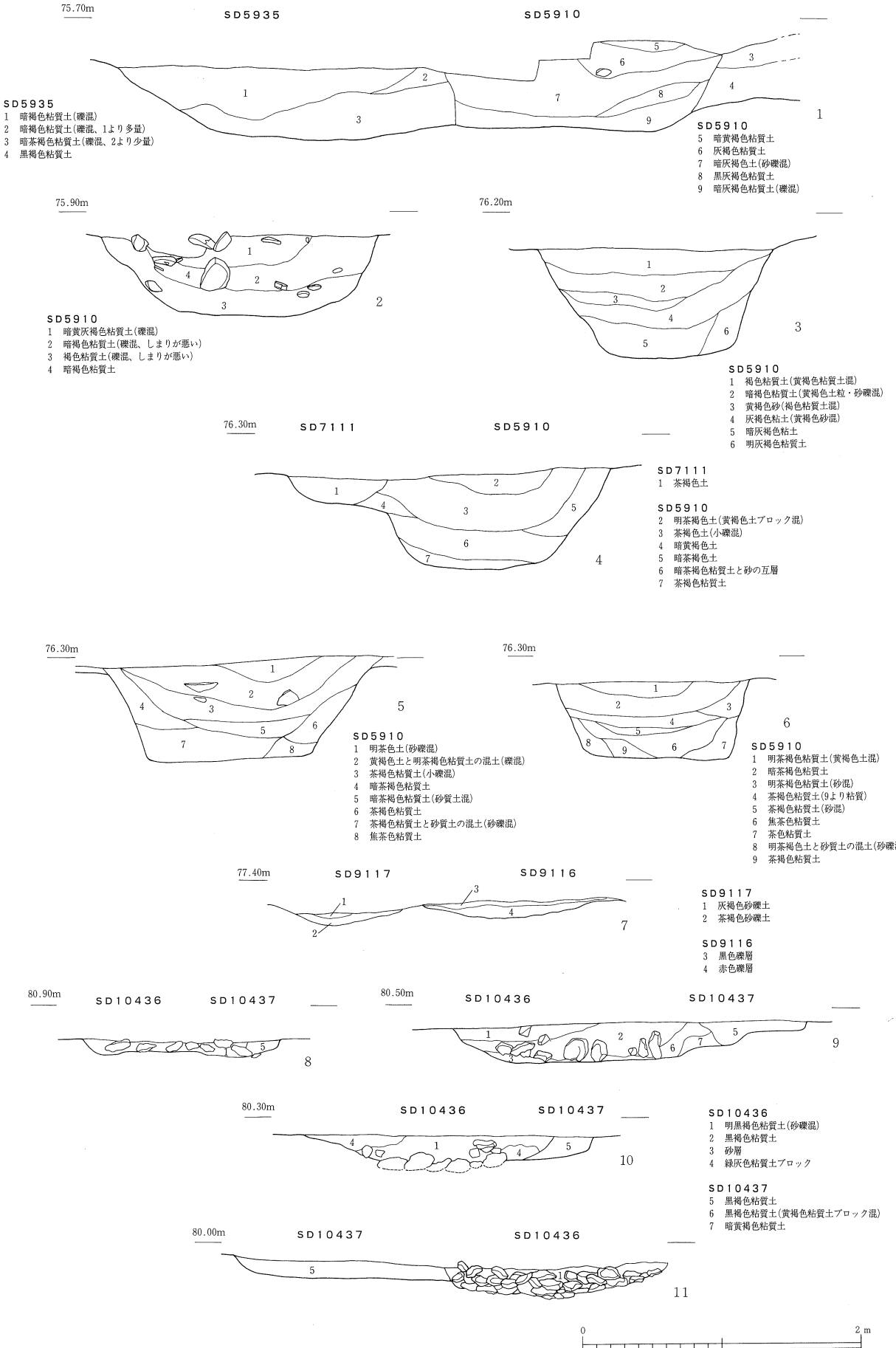


SD5409
1 茶褐色粘質土

SD5119
1 暗黒褐色粘質土(黄褐色粘土混)
2 黄褐色粘質土(暗黒褐色粘質土混)

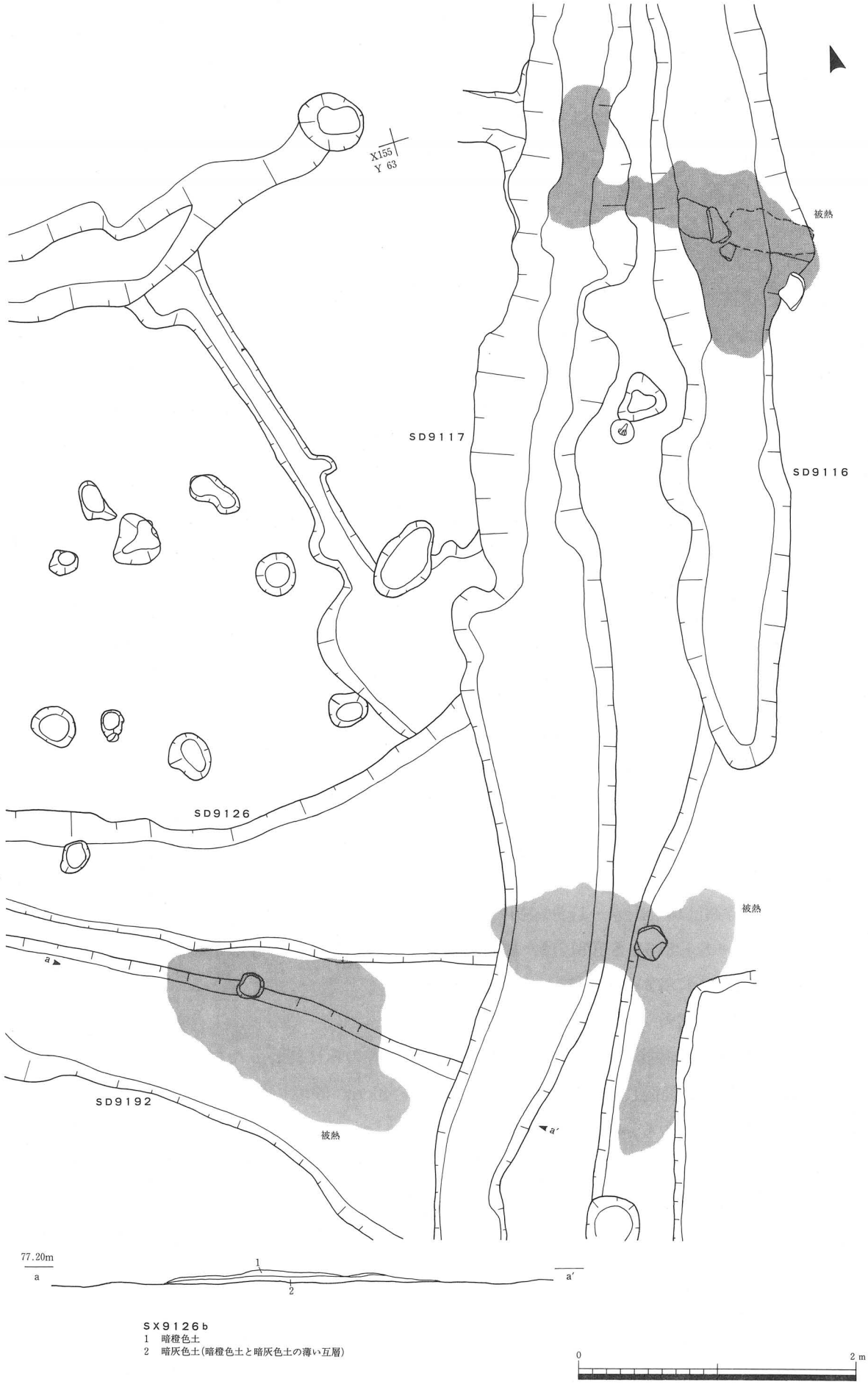
SD5047
1 暗灰褐色粘質土(黄褐色粘土混)

第253図　遺構実測図(近世)
1.SD5002・SD5105遺物出土状況　2･3.SD5002　4.SD5409　5.SD5119　6.SD5047



第254図　遺構実測図(近世)

1.SD5910・SD5935　2·3.SD5910　4.SD5910・SD7111　5·6.SD5910　7.SD9116・SD9117　8~11.SD10436・SD10437



第255図　遺構実測図(近世)
SD9116・SD9117・SD9126・SD9192

4　井　　戸

近世の井戸は94基検出している。北はA地区から南はC 2 地区にまで分布し，A地区の１基を除いて他の近世の遺構分布と呼応する。その中でも５基～６基の群をなしているものと単独で検出されるものに大きく分けられる。型式はほとんどが素掘井戸で，他には一部石組井戸のもの１基と桶積上げ井戸がある。覆土は暗茶褐色土に砂礫の混じるもの，黒褐色粘質土に大礫の混じるもの，黒褐色粘質土のものなどがある。

A地区

５号井戸（ＳＥ05，第256図）

X497Y95，遺跡の井戸の中では最北端にある井戸である。周辺には同時期の遺構はなく，遺物も包含層に散発的にあるのみである。共存したであろう建物などは，路線敷きの西側にあると考えている。肩が崩落して不整形になっているが，直径約80cmの円形であったと考える。掘形は中膨れのフラスコ状となっている。深さは135cmで砂礫層に達し，120cmの深さのところで湧水が見られた。覆土は暗灰色粘質土で，中層から伊万里が出土した。時期は18世紀である。

812号井戸（ＳＥ812，第256図）

X452Y97に位置し，西側のＳＫ813より古い。直径70cmの円形で，掘形は途中下層壁面が崩落したが，袋状となっていたと考える。覆土は上層が砂礫の混じる黄褐色土で，下層は暗茶褐色粘質土，深さは157cmである。遺物には17世紀の唐津がある。

816号井戸（ＳＥ816，第256図）

ＳＥ812から約２ｍ西に位置する，直径70cmの円形の井戸である。掘形は円筒形，深さは175cmである。覆土は上層が砂礫混じりの暗茶褐色土，下層が暗茶褐色粘質土で，下層の検出面から45cmのところから越中瀬戸が出土している。この他に灰釉の唐津，石臼がある。時期は17世紀である。

817号井戸（ＳＥ817，第256図）

ＳＫ872の北に位置する井戸で，長軸93cm，短軸78cmの楕円形を呈する。掘形はＳＥ812と同様，途中下層壁面が崩落したが，袋状になっていたと考える。覆土は上層が砂礫の混じる暗茶灰色土，下層が暗茶褐色粘質土で，深さは214cmである。遺物には中世土師器・珠洲・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里があり，時期は16世紀末～17世紀初である。

前述のＳＥ812・ＳＥ816とＳＥ817は，覆土，遺物から考え同時期に使用されていた可能性が高い。近接するＳＫ871・ＳＫ872・ＳＫ873との関連が窺える。

1212号井戸（ＳＥ1212）

ＳＤ911掘り上げ後に確認した井戸である。断ち割り調査のみに終わったため，概略を記しておく。覆土は上層が約50cm，礫混じり茶褐色粘質土，中層が約40cm，砂混じり暗灰褐色粘質土，下層が約10cm，暗灰褐色粘質土である。深さはＳＤ911底面から約１ｍであるが，覆土から越中瀬戸が出土したため，ＳＤ911より新しいということが判明した。従って，実際の深さは194cmであったであろう。この井戸も遺物の時期から，ＳＫ871等との関連が考えられる。

1215号井戸（ＳＥ1215）

この井戸も断ち割り調査のみのものである。ＳＫ871の東側に接するＳＫ516の下層から検出した井戸である。断面観察の結果，ＳＥ1215が茶褐色礫層で埋められた後，長楕円形のＳＫ1216が暗灰褐色粘質土，礫混じり茶褐色粘質土の順で埋まり，暗黄褐色粘質土が混じる茶褐色粘質土でＳＫ871の肩をつくったと考える。井戸の平面形は円形，深さは182cm，遺物には珠洲と17世紀の越中瀬戸がある。

1378号井戸（ＳＥ1378，第257図）

浅い大型の土坑ＳＫ1366の南側下層より検出した大型の井戸である。平面形は長軸232cm，短軸187cmの楕円形で，深さは確認していない。覆土は上層は暗茶褐色粘質土であるが，第５・７層に砂質土，第６・８層に砂礫土と不自然な堆積をしている。他遺構との切り合いや井戸枠施設の存在など考えられるが，下層確認をしていないので不明である。遺物には須恵器，中世土師器・16世紀の瀬戸美濃・13世紀の青磁・16世紀の青花・越中瀬戸・17世紀の唐津・18世紀の伊万里・唐津・瀬戸がある。

1424号井戸（ＳＥ1424）

ここの近世遺構群の中では一番東にある井戸であり，他のＳＥ1378やＳＥ2043・ＳＥ2044が近接しているのに対し，はずれた所にある。ＳＫ1425の東に位置し，ＳＤ1423より新しい。直径146cmの円形を呈し，断ち割りによって下層の確認を試みたが，湧水が著しく断念した。遺物には中世土師器・瀬戸美濃・越中瀬戸がある。時期は17世紀である。

2043号井戸（ＳＥ2043，第257図）

Ｘ443Ｙ90に位置し，周辺の６基の近世の井戸の中で一番南にある。長軸147cm，短軸127cmの不整円で，深さは180cmである。覆土は暗茶褐色粘質土で，遺物はないが，覆土や遺構の関連から当時期とした。

2044号井戸（ＳＥ2044，第257図）

ＳＥ2043の北東に位置する井戸である。長軸140cm，短軸112cmの不整円で，深さは確認していない。覆土は暗茶褐色粘質土で，遺物には15世紀末～16世紀の中世土師器・珠洲，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

2544号井戸（ＳＥ2544，第258図）

Ｘ411Ｙ90に位置する。Ａ２地区は近世の遺構は少なく，東南部の不定形な土坑群と，調査区西側よりに土坑が点在するのみで，井戸はこの１基のみである。平面形は直径75cmの円形で，砂礫層を２ｍ余り掘削している。掘形は壁が崩落しているが円筒形で，覆土は茶褐色土，検出面から180cmのところで湧水が見られた。遺物には中世土師器・珠洲，唐津がある。時期は18世紀である。

Ｂ地区

4736号井戸（ＳＥ4736，第258図）

単独で検出した近世の井戸と考える土坑である。平面形は三角形様を呈し，長軸85cm，短軸70cmを測る。覆土は大小の礫が多数混じった灰褐色粘質土で，底面中央には上を向いて完形の唐津の皿が出土した。時期は17世紀前半である。

5103号井戸（ＳＥ5103，第258図）

Ｘ255Ｙ98付近で検出した楕円形の井戸である。このブロックは近世遺構が西側に偏って分布する傾向があるが，この井戸は単独で東側にある。規模は長軸124cm，短軸95cm，深さ152cmで，掘形は先細りの円筒形となっている。覆土は上層がしまった暗褐色粘質土，下層が暗黒褐色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲，唐津，曲物がある。

5513号井戸（ＳＥ5513，第258図）

ＳＥ5511・ＳＫ5512と結節した状態で検出した。当初，ＳＥ5511が土坑，ＳＫ5512が接する井戸と考えていたが，断面観察及び断ち割りの結果から，ＳＥ5511が接する井戸，ＳＫ5512はプランこそ明瞭だがＳＥ5513に付随する土坑と判明した。ＳＥ5513はＳＫ5512を加えて，長軸145cmの瓢箪形の井戸となり，覆土は黒褐色粘質土主体で，深さ150cmを測る。遺物には越中瀬戸がある。

5519号井戸（ＳＥ5519，第258図）

Ｘ259Ｙ83で検出した楕円形の井戸と考えた土坑である。長軸は108cm，短軸は95cmである。覆土は特徴的で，第１層の礫混じりの黒褐色粘質土は漏斗状に下層に伸び，その周囲を固めるように乳白色粘質土・黒色粘質土・青灰色粘質土が堆積している。井戸というよりは，柱穴のような堆積の仕方をしており，土坑そのものが柱穴になるのか，又は第１層のみが後世の遺構の覆土なのかは不明である。このような覆土が単純なレンズ状の堆積をしない井戸の例としては，同じ地区の中世後半で取り上げたＳＥ5381がある。また，第３層の乳白色粘質土は他の地区では見られない土で，ＳＥ5519の周囲の井戸のＳＥ5511や，ブロックが混じる層をもつＳＥ5521のみである。遺物には珠洲・白磁，越中瀬戸・唐津がある。

5627号井戸（ＳＥ5627，第258図）

他の同時期の井戸に比べ小さい井戸である。長軸81cm，短軸65cmの楕円形の井戸で，深さは134cmを測る。遺物には越中瀬戸・唐津がある。

5986号井戸（ＳＥ5986，第259図，図版135）

Ｘ221Ｙ80，６基の井戸が集中している地点の１基である。上面は沢山の大礫によって埋まっており，覆土も礫を多量に含む，しまりの悪い暗茶褐色粘土である。南西のＳＫ5963よりは古いが，北のＳＫ5987ｂ・ＳＥ5987よりは新しい。規模は長軸137cm，短軸100cmの楕円形で，掘形は底面がすぼまる。遺物に16世紀の中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃があるが，切り合い関係でＳＥ5986より古いＳＥ5987から唐津が出土しているため，近世とした。

5987号井戸（ＳＥ5987，第259図，図版135）

ＳＥ5986の北にある井戸である。平面形は最大幅120cm，最小幅106cmの不整円形で，覆土は粘性の強い黒褐色土，深さは154cmである。北西隅には張り出し部があり，大小の集石が見られた。これらの礫はＳＥ5987の東肩に流れ込むように堆積しており，付属施設を構成していたこれらの礫が廃棄されたものであろうか。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃，唐津がある。時期は17世紀前半である。

5988号井戸（ＳＥ5988，第259図）

直径96cmの円形を呈し，ＳＫ6022より古い。覆土はしまりの悪い暗褐色粘土で，深さは154cmである。遺物には中世土師器・越前・瀬戸美濃，唐津，鉄滓がある。時期は17・18世紀である。前述のＳＥ5986・ＳＥ5987とＳＥ5988は，遺物の時期も近く，最終レベルもほとんど変わらないことから，同時期または，近い時期に営まれたものであろう。

6001号井戸（ＳＥ6001）

ＳＫ5997の西で検出した，土坑に伴う井戸である。直径95cmの円形で，深さは103cmと深くはない。覆土は暗灰褐色粘土の単層である。遺物には越前，越中瀬戸・唐津がある。

6008号井戸（ＳＥ6008，第260図）

Ｘ224Ｙ82に位置する井戸である。３ｍ東には同じ近世のＳＥ6001がある。平面形は直径80cmを測る不整円形で，覆土は暗茶褐色土，深さは143cmである。遺物には越中瀬戸がある。

6199号井戸（ＳＥ6199，第259図，図版135）

安楽寺跡の西側に位置する井戸である。周囲にはＳＥ6200・ＳＥ7280・ＳＥ7283があり，近世の井戸が集中している。ＳＥ6199はＳＫ6201より新しく，ＳＫ6190より古い。平面形は直径125cmの方形に近い円形で，深さは215cmを測る。覆土は上層が褐色粘土ブロックが混じる黄褐色粘質土，下層が

礫層となっている。この下層を掘り下げている途中，桶の側板が円を描いて立ち並んだ。上端は朽ち果てているものの，１枚１枚の側板はかなり厚めであった。箍（たが）は遺存せず，底板もなく，側板が底から覆土で固定されて立ち並ぶ状況で取り上げた。下端は面を取って平坦になっており，遺物整理段階で１箇所に逆台形状の切り込み穴があいていることがわかった。遺物には中世土師器・珠洲，唐津・伊万里が出土している。

6200号井戸（ＳＥ6200，第259図）

ＳＥ6199の東に隣接する井戸である。ＳＫ6201より新しく，直径75cmの円形を呈する。覆土は砂礫の混じる暗褐色粘質土で，深さは112cmである。遺物には瀬戸，越中瀬戸がある。

6223号井戸（ＳＥ6223，第260図）

Ｘ217Ｙ101にあり，ＳＤ5933より古い直径82cmの円形の井戸である。覆土は礫混じりの暗褐色粘質土で，深さは150cmを測る。遺物には中世土師器・珠洲，越中瀬戸がある。ＳＥ6199・ＳＥ6200などとともに，ＳＤ5910に囲まれる東側のブロック内で検出した遺構は，昭和初期まで存在した以速寺の敷地内であり，寺との関連が予測される。

6322号井戸（ＳＥ6322，第260図）

Ｘ217Ｙ101にある，直径95cmの円形の井戸と考える土坑である。覆土は黄褐色土･礫の混じる暗褐色粘質土で，深さは93cmと比較的浅い。遺物には珠洲・越中瀬戸がある。

6617号井戸（ＳＥ6617，第207図）

ＳＫ6616の上面で検出した円形の石組井戸である。上面の掘形の直径は１ｍで，井戸側は深さ約30cmまで石組で作られている。この下層になると地山の礫層を利用して，素掘りとなっている。石組は５段積まれており，あまり大きくない20cm内外の石を利用している。覆土は黄褐色土粒の混じる暗茶褐色土で，多量の礫が混じる。遺物には中世土師器・青磁，唐津，石臼がある。時期は17世紀前半である。

6643号井戸（ＳＥ6643，第260図）

Ｘ238Ｙ95にある方形に近い円形を呈する井戸である。東側のＳＥ6644より古く，直径110cm，深さ150cmを測る。覆土は暗茶褐色土，遺物には中世土師器・越前，17世紀前半の唐津がある。

6644号井戸（ＳＥ6644，第260図）

ＳＥ6643の東にある，ＳＥ6643・ＳＫ6637・ＳＫ6638より新しい井戸である。上面には大礫が投げ入れられ，不整形な楕円形を呈している。長軸で243cm，最大幅で148cmとなる。覆土は上層が黒褐色土である。遺物には13・14世紀の中世土師器・白磁があるが，切り合いより近世以降とした。

6882号井戸（ＳＥ6882，第260図）

ＳＥ6644の南にある井戸である。柱痕の残るＳＫ6883よりは新しい。長軸133cm，短軸90cmの楕円形で，西側が段掘り状となっており，深さは105cmである。上面には礫が多く，覆土は暗褐色粘質土である。遺物には唐津，曲物がある。

7122号井戸（ＳＥ7122，第261図）

Ｂ２地区とＢ３地区の境近く，西端に位置する井戸で，遺構密度が希薄になる地帯である。長軸145cm，短軸78cmの楕円形で，深さは123cmである。覆土は上層が砂礫の混じる茶褐色粘質土，下層は黒褐色粘質土となる。遺物には中世土師器，伊万里がある。

7194ｂ号・7195号井戸（ＳＥ7194ｂ・ＳＥ7195，第261図）

Ｘ200Ｙ75に位置する井戸である。ＳＥ7194ｂは，長方形の土坑ＳＫ7194の下層から検出された井戸

で，覆土は礫・暗黄褐色土が混じる黒褐色土，深さは78cmと浅い。この東にあるＳＥ7195は，ＳＫ7194より新しい井戸である。掘形は上面では135cm×83cmの長方形であるが，下層は直径55cmの円形となる。覆土は礫の混じった暗茶褐色土で，深さは90cmである。遺物は，ＳＥ7194から中世土師器，唐津，ＳＥ7195から中世土師器が出土しており，切り合いから共に近世とした。

7596号・7677号井戸（ＳＥ7596・ＳＥ7677，第261図）

Ｘ188Ｙ90，ＳＤ7503より新しい井戸である。断面観察ではＳＥ7596が新しく，掘形は長軸80cm，短軸65cmの楕円形，深さは160cmである。ＳＥ7677は長軸80cm，短軸70cmの楕円形，深さ185cmである。覆土はＳＥ7596が黒褐色土の混じる黄白色粘質土，ＳＥ7677が暗茶褐色粘質土である。遺物はＳＥ7596から中世土師器・瀬戸美濃，ＳＥ7677から唐津が出土しており，切り合いから共に近世とする。

7879号井戸（ＳＥ7879，第261図）

Ｘ181Ｙ75に位置する，楕円形の井戸である。長軸は90cm，短軸は72cm，覆土は茶褐色粘質土の単層である。遺物には越中瀬戸・伊万里がある。

8686号・8706号井戸（ＳＥ8686・ＳＥ8706，第261図）

Ｘ195・196Ｙ63，Ｂ３地区西の側道部分中央の西端に位置する井戸である。ＳＥ8686は長軸82cmの楕円形で，覆土は砂礫の混じる暗褐色粘質土である。ＳＥ8706は長軸90cm，短軸75cmの楕円形で，赤黄褐色の礫層を深さ196cmまで掘削している。底面は現在の湧水点に達している。覆土は上層が茶褐色粘質土，中層が黒褐色粘質土，下層が暗褐色粘質土で，中・下層には大礫が混じる。上面では２基の遺構は切り合いがないが，断ち割りの結果，ＳＥ8686の下層が南にもぐっており，ＳＥ8706との切り合いが認められた。遺物はＳＥ8686から唐津，石臼が，ＳＥ8706から珠洲・越前・瀬戸美濃，17世紀の唐津が出土した。

8920号井戸（ＳＥ8920，第262図）

Ｘ162Ｙ84に位置する，直径81cmの円形の井戸である。円筒形の掘形をもち，深さは137cmである。遺物には珠洲，18世紀の伊万里がある。

8954号井戸（ＳＥ8954，第262図）

ＳＫ8952の南側に位置する井戸である。直径70cmの円形で，深さ190cmを測る。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津，石臼がある。時期は16・17世紀である。当地区では50基余りの井戸を検出したが，近世の遺物が混在する井戸は，ＳＥ8920・ＳＥ8935・ＳＥ8954・ＳＥ8969・ＳＥ8980のみである。

8978号井戸（ＳＥ8978）

ＳＫ8965と近世のＳＫ8935の間に位置する。直径70cmの円形の井戸で，周囲に多数の井戸があるなかで，近世の遺物しか出土しなかった唯一の井戸である。遺物には16世紀末～17世紀の越中瀬戸の皿・椀・鉢，唐津の皿・鉢・壺，石臼，五輪塔がある。

Ｃ地区

9648号井戸（ＳＥ9648，第262図）

Ｘ108Ｙ66，ＳＢ201の中央に位置する素掘井戸である。直径62cmの不整円形を呈し，深さは220cm。掘形断面は上端が開いたＵ字形である。覆土は上層が黒褐色粘質土で，深さ1.3mの所に厚さ約15cmの植物の繊維層がレンズ状に堆積していた。この下には中央に暗灰褐色粘質土，これを取り囲むように暗茶褐色粘質土が堆積していた。特異な堆積の仕方であり，植物繊維層が何の役割を果たしていたのか問題であろう。遺物には中世土師器・青磁があり，ここで述べたが時期は中世後期に遡る。

9715号井戸（ＳＥ9715，第262図）

Ｘ116Ｙ67で検出した素掘井戸である。長軸77cm，短軸66cmの楕円形を呈し，包含層掘削の時点から上面の礫が確認されていた。廃棄の際埋められた礫であろうが，深さ40cmまでは確認された。覆土は茶褐色粘質土である。深さは確認していない。遺物には唐津がある。

9857号井戸（ＳＥ9857，図版136）

Ｘ133Ｙ73，ＳＤ9855の東肩下層で検出した円形の素掘井戸である。直径74cm，深さ256cm，覆土は上層に薄くしまった暗茶褐色土が堆積し，その下層に暗茶褐色砂礫土が堆積する。重機で最下層の確認を行ったところ，最下層には青灰色粘質土と植物繊維を含んだ黒褐色粘質土が混じったものが堆積していた。井戸底は地山の砂層まで達している。底から約40cm～50cm上で，櫛と折敷の底板などが出土した。時期を決定する遺物の出土がないので，とりあえずここで述べたが，切り合いから中世後期に遡る可能性もある。

9877号井戸（ＳＥ9877，第262図）

ＳＤ9855の下層から検出した井戸である。長軸92cm，短軸76cmの楕円形の井戸である。覆土は上層が礫混じりの茶褐色土，下層は青灰色土が混じるしまった黒褐色粘質土である。深さは220cmで，底は砂層で止まっている。遺物には中世土師器・珠洲，17世紀の唐津，柄付きの鎌がある。

9916号井戸（ＳＥ9916，図版136）

Ｘ142Ｙ71で検出した楕円形の井戸である。長軸83cm，短軸74cmを測る。重機による断面確認では，上層が茶褐色砂質土，下層が暗灰褐色粘質土である。掘形は円筒形，深さは155cmである。最下層からは唐津の皿と轆轤挽きの柄杓が一括して出土している。

10166号井戸（ＳＥ10166）

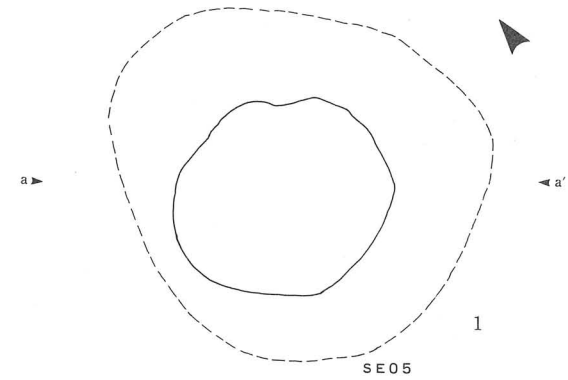
Ｘ71Ｙ55に位置する，直径105cmの円形の井戸である。掘形は2段掘り形状をなし，覆土は礫混じりの暗茶褐色土である。遺物には珠洲，越中瀬戸，石鉢がある。東に近世のＳＫ10171があり，この他に近世の遺構がないことから，それと関連する遺構と考える。

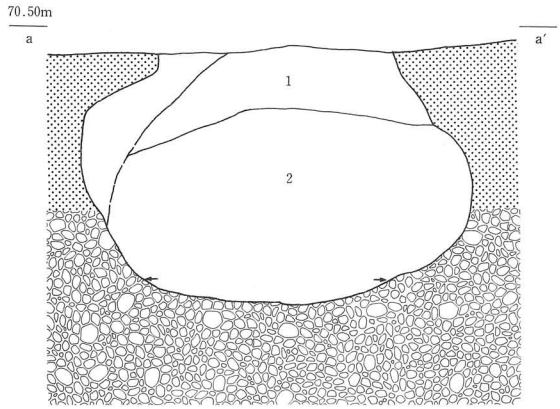
10249号井戸（ＳＥ10249，第262図，図版137）

Ｘ95Ｙ67にある，桶の井戸枠をもつ桶積上げ井戸である。平面形は上面は不整形で，下層は長軸85cm，短軸70cmの楕円形をなし，掘形は円筒形である。覆土は上面が黒色土，その下が礫の混じる黒褐色粘質土である。裏込め土は上層が砂礫の混じる暗茶褐色土，桶の外側が砂礫の混じる黒灰色土である。桶の直径は約38cm，18枚の縦板を竹製の箍で上下2箇所締めてつくられたものである。底板はなく，桶は1段のみである。底部近くからは人頭大の河原石を検出した。井戸廃棄の際に一緒に廃棄されたものであろうか。時期を決定する他の遺物の出土はない。桶積上げ井戸は中世前期から見られるようになるが，桶の井戸枠の遺存状況から考えて当期にしている。（島田美佐子）

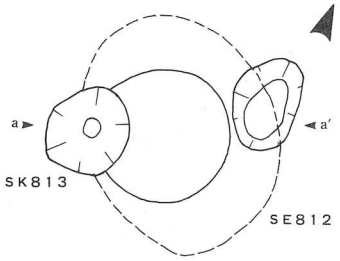
遺構番号	整理番号	地　区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆　　土	出　土　遺　物	備　　考	時　　期	最終レベル	湧水レベル
SE05	SE05	A	円形	80	－	135	暗灰色粘質土	伊万里		18C	69.02	69.15
SE812	SE112	A1	円形	70	－	157	黄茶褐色砂礫土	唐津		17C	69.46	
SE816	SE116	A1	円形	70	－	175	暗茶褐色砂礫土	珠洲・越中瀬戸・唐津・石臼		17C	69.41	
SE817	SE117	A1	楕円形	93	78	214	暗茶灰色土	中世土師器・珠洲・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里		16末～17C初	68.94	
SE1212	SE512	A1	楕円形	102	84	194	茶褐色粘質土	越中瀬戸			69.22	
SE1215	SE515	A1	円形	－	－	182	茶褐色礫層	越中瀬戸・珠洲	SK871＞SK1216＞SE1215		69.34	
SE1378	SE678	A1	楕円形	232	187	－	暗茶褐色粘質土	須恵器・中世土師器・瀬戸美濃・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸		13･16･17･18C		
SE1379	SE679	A1	不整円形	88	－	－	－	中世土師器・珠洲・唐津		17C		
SE1424	SE724	A1	円形	146	－	－	－	中世土師器・瀬戸美濃・越中瀬戸		17C		
SE2043	SE1343	A1	不整円形	147	127	180	暗茶褐色粘質土	－			69.49	
SE2044	SE1344	A1	不整円形	140	112	－	暗茶褐色粘質土	中世土師器･珠洲･越中瀬戸･唐津･伊万里		15C末～16C		
SE2544	SE344	A2	円形	75	－	206	茶褐色土	中世土師器・珠洲・唐津		13･14･18C	70.01	70.3
SE3408	SE08	A3S	方形	84	77	－	灰黒褐色粘質土	中世土師器・越中瀬戸	SE3408＞SD3407			
SE4736	SE136	B1－3	三角形	85	70	64	灰褐色粘質土	唐津		17C前半	73.30	
SE5103	SE2103	B2N	楕円形	124	95	152	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・唐津・曲物			73.38	
SE5432	SE2432	B2N	不整形	149	32	115	黒褐色粘質土	珠洲・伊万里・底板（折敷）	SD5112・SK5432＞SE5432	18C	73.85	
SE5509	SE2509	B2N	楕円形	135	88	105	黒灰褐色粘質土	青花		16C後半～17C前半	73.97	
SE5513	SE2513	B2N	不整形	145	132	150	黒褐色粘質土	越中瀬戸・箸・加工木・礎板			73.55	
SE5519	SE2519	B2N	楕円形	108	95	－	黒褐色粘質土	珠洲・白磁・越中瀬戸・唐津				
SE5627	SE2627	B2N	楕円形	81	65	134	茶褐色粘質土	越中瀬戸・唐津			74.00	
SE5513	SE2513	B2N	楕円形	145	88	150	黒褐色粘質土	越中瀬戸			73.54	
SE5974	SE74	B2	円形	130	－	－	暗褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里・石製品・木製品・銅銭	石組井戸	近代		
SE5986	SE86	B2	楕円形	137	100	150	暗茶褐色粘土	中世土師器･瀬戸･瀬戸美濃･底板･加工板		16C	74.28	
SE5987	SE87	B2	不整円形	103	－	150	黒褐色粘土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・唐津		17C前半	74.27	
SE5988	SE88	B2	円形	96	－	154	暗褐色粘土	中世土師器･越前･瀬戸美濃･唐津･鉄滓		17･18C	74.25	
SE6001	SE101	B2	円形	95	－	103	暗灰褐色粘土	越前・越中瀬戸・唐津			74.75	
SE6008	SE108	B2	不整円形	80	－	143	暗茶褐色土	越中瀬戸			74.42	
SE6098	SE198	B2	円形	76	－	135	砂礫層	珠洲・越中瀬戸・唐津			74.42	
SE6199	SE299	B2	方形	125	－	215	黄褐色粘質土	中世土師器・珠洲・唐津・伊万里			74.08	
SE6200	SE300	B2	円形	75	－	112	暗褐色粘質土	瀬戸・越中瀬戸			75.05	
SE6218	SE318	B2	円形	103	－	92	暗灰褐色粘質土	越前・伊万里			74.54	
SE6222	SE322	B2	不整円形	80	－	185	黒褐色粘土	珠洲・唐津			73.97	
SE6223	SE323	B2	円形	82	－	150	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越中瀬戸			74.72	
SE6245	SE345	B2	円形	68	－	112	黒褐色土	越中瀬戸			74.15	
SE6262	SE362	B2	円形	68	－	134	暗褐色粘質土	中世土師器･越前･伊万里･石鉢･石臼･切石・箸・曲物・加工木			74.10	
SE6290	SE390	B2	不整円形	125	115	56	暗褐色粘質土	中世土師器・唐津			74.57	
SE6322	SE422	B2	円形	95	85	93	暗褐色粘質土	珠洲・越中瀬戸			74.47	
SE6617	SE717	B2	円形	100	－	86	暗茶褐色土・礫	中世土師器・青磁・唐津・石臼	石組井戸	17C前半	74.52	
SE6643	SE743	B2	不整円形	110	－	150	暗茶褐色土	中世土師器・越前・唐津・加工木		17C前半	73.85	
SE6644	SE744	B2	不整楕円形	243	120	148	黒褐色土	中世土師器・白磁			73.85	
SE6680	SE780	B2	円形	93	－	105	黒褐色粘質土	唐津・伊万里			74.13	
SE6882	SE982	B2	楕円形	133	90	105	暗褐色粘質土	唐津・曲物・石臼			74.25	
SE6919	SE1019	B2	円形	85	－	－	暗茶褐色土	伊万里				
SE7122	SE22	B3	楕円形	145	78	123	茶褐色砂礫土	中世土師器・伊万里			74.92	
SE7193	SE93	B3	楕円形	90	75	169	－	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・唐津		15C末	74.75	
SE7194	SE94	B3	方形	108	80	78	黒褐色土	中世土師器・唐津	SE7195＞SE7194	15C末・17C	75.80	
SE7195	SE95	B3	方形	135	83	90	暗茶褐色土	中世土師器			75.69	
SE7234	SE134	B3	方形	155	110	204	－	珠洲・越中瀬戸・伊万里			74.26	
SE7268	SE168	B3	円形	125	－	74	－	越中瀬戸	SE7268＞SD7200	18C	74.58	
SE7272	SE172	B3	方形	132	87	183	－	中世土師器・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・備前・伊万里	骨・SE7277＞SD7200	17･18C	74.78	
SE7280	SE180	B3	円形	100	－	226	茶褐色粘質土	越前・青花・越中瀬戸		17･18C	73.98	
SE7283	SE183	B3	円形	170	－	－	黄褐色粘質土	中世土師器・越中瀬戸・唐津				
SE7351	SE251	B3	方形	165	105	170	暗茶褐色砂礫土	越中瀬戸・伊万里	SE7351＞SD7200・SE7352	18C	74.90	
SE7352	SE252	B3	不整方形	75	70	161	暗茶褐色砂礫土	中世土師器・肥前	SE7352＞SD7200・SK7201	18C	74.99	
SE7354	SE254	B3	方形	90	85	164	－	珠洲・越中瀬戸	SE7354＞SD7200		74.93	
SE7466	SE366	B3	円形	90	－	－	－	中世土師器・瀬戸美濃・青花・唐津	SK7101＞SE7466	15C後半		
SE7527	SE427	B3	円形	80		160	黄褐色土	唐津		17C	74.13	
SE7596	SE496	B3	楕円形	80	65	165	黄白色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・唐津・漆器			74.75	
SE7620	SE520	B3	円形	74	－	112	－	唐津		17C	75.51	
SE7623	SE523	B3	楕円形	135	113	121	－	唐津・五輪塔		17C	75.44	
SE7672	SE572	B3	方形	100	85	－	黒褐色粘質土	珠洲				
SE7677	SE577	B3	方形	80	70	185	暗茶褐色粘質土	唐津	SE7596＞SE7677		74.55	
SE7879	SE779	B3	楕円形	90	72	248	茶褐色粘質土	越中瀬戸・伊万里		17･18C	74.18	
SE8008	SE908	B3	円形	74	－	253	－	越中瀬戸・唐津		17C後半	74.35	
SE8131	SE1031	B3	方形	68	55	－	－	伊万里・石硯				
SE7707	SE607	B4	不整形	88	－	－	－	珠洲・唐津		17C		
SE7728	SE628	B4	円形	110	－	－	－	越中瀬戸				
SE7741	SE641	B4	円形	90	－	－	灰茶褐色粘質土	唐津・伊万里				
SE7742	SE642	B4	方形	75	73	－	－	中世土師器・珠洲・唐津・伊万里		18C		
SE8319	SE119	B3W	円形	90	－	126	灰茶褐色粘質土	加工石			75.52	
SE8686	SE486	B3W	楕円形	82	40	134	暗褐色粘質土	唐津・石臼			75.32	
SE8706	SE506	B3W	楕円形	90	75	196	茶褐色粘質土	珠洲・越前・瀬戸美濃・唐津		17C	74.74	
SE8920	SE20	CN	円形	81	－	137	－	珠洲・伊万里		18C	75.90	
SE8935	SE35	CN	円形	77	－	159	－	唐津		13･17C	75.56	
SE8954	SE54	CN	円形	70	－	190	－	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・石臼		14～16･17C	75.29	
SE8969	SE69	CN	円形	84	－	174	－	中世土師器・珠洲・越中瀬戸		15･16C末	75.46	
SE8978	SE78	CN	円形	70	－	－	－	越中瀬戸・唐津・石臼・打製石斧・凹石・五輪塔		16末～17C		
SE8980	SE80	CN	円形	100	－	148	－	中世土師器･八尾･珠洲･唐津･伊万里		15･17C		
SE9166	SE66	CS	楕円形	195	88	－	茶褐色砂礫土	珠洲・越前・信楽・越中瀬戸		16C末		
SE9168	SE68	CS	楕円形	115	94	－	－	中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津		16･17C		
SE9173	SE73	CS	楕円形	126	115	－	－	珠洲・瀬戸・越中瀬戸		16C末		
SE9218	SE118	CS	不整形	186	80	－	－	中世土師器･越前･珠洲･瀬戸美濃･伊万里		16･17C		
SE9351	SE51	C1	不整形	155	－	－	黒灰色土	越前・信楽・越中瀬戸	SE9351＞SK9335	16C～		
SE9354	SE54	C1	不整形	143	124	－	－	八尾・珠洲・越前・唐津		16C		
SE9672	SE372	C1	円形	80	－	－	－	中世土師器・青花・越中瀬戸・唐津		16･17C前半		
SE9715	SE415	C1	楕円形	77	66	143	茶褐色粘質土	唐津		17C	76.57	
SE9857	SE557	C1	円形	74	－	256	暗茶褐色土	箆・加工板			75.14	
SE9877	SE577	C1	楕円形	92	76	220	茶褐色土・礫	中世土師器・珠洲・唐津・鍬	SD9855＞SE9877	15･17C	75.46	
SE9878	SE578	C1	楕円形	150	120	171	－	越前・唐津・石臼・石鉢・五輪塔		16C	75.66	
SE9883	SE583	C1	円形	75	－	－	－	中世土師器・唐津		15･17C		
SE9900	SE600	C1	円形	98	－	－	－	瀬戸・越中瀬戸				
SE9916	SE616	C1	楕円形	83	74	155	茶褐色砂質土	唐津・柄杓		17C	75.74	
SE10166	SE66	C2	円形	105	－	64	暗茶褐色土	珠洲・越中瀬戸・石鉢			78.78	
SE10249	SE149	C2	不整円形	114	54	110	黒色土	－	桶積上げ井戸		77.70	

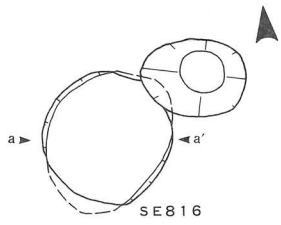
第15表　井戸（近世）一覧

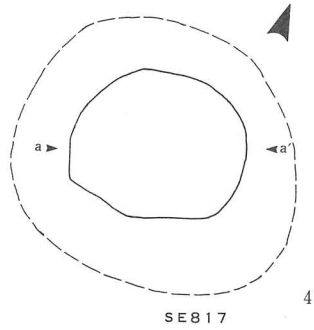


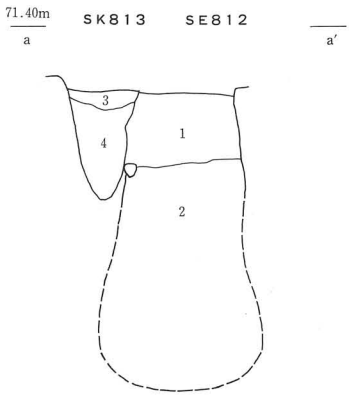


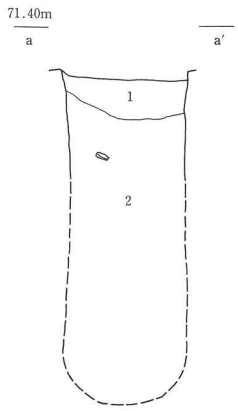
SE05
1　暗灰色粘質土(酸化鉄含)
2　暗灰色粘質土(1より酸化鉄少ない)

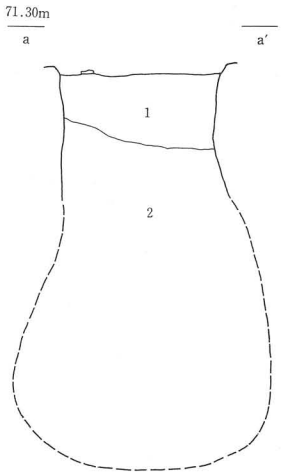












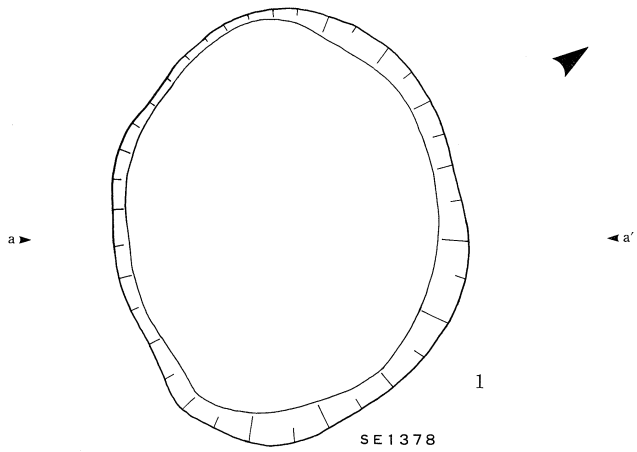
SE812
1　黄茶褐色砂礫土
2　暗茶褐色粘質土

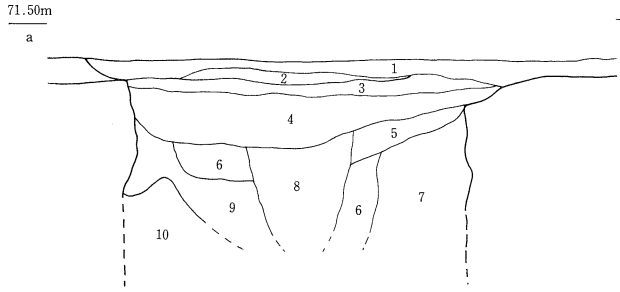
SK813
3　茶褐色土
4　暗茶褐色土(黄褐色土ブロック混)

SE816
1　暗茶褐色砂礫土
2　暗茶褐色粘質土

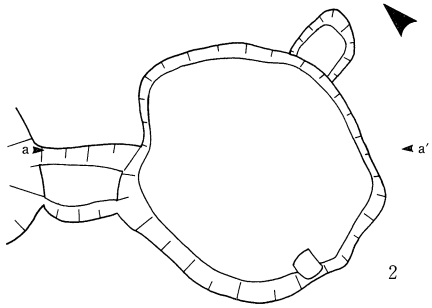
SE817
1　暗茶灰色土(礫混)
2　暗茶褐色粘質土

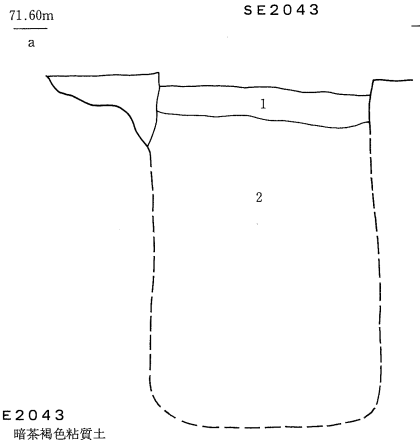
第256図　遺構実測図(近世)
1.SE05　2.SE812　3.SE816　4.SE817



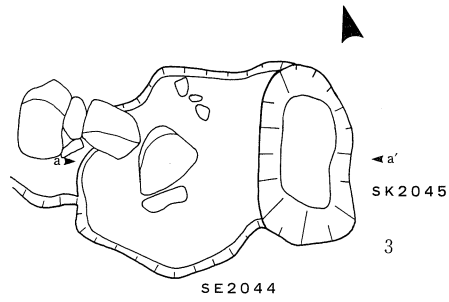


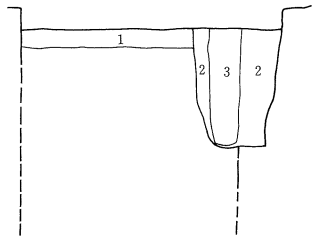
SE1378
1　暗灰色粘質土
2　茶褐色粘質土(黄褐色粘質土霜降り)
3　暗茶褐色粘質土
4　暗茶褐色粘質土(酸化鉄含)
5　暗黄褐色砂質土
6　暗灰褐色砂礫土
7　暗黄褐色砂質土(暗灰色粘質土霜降り)
8　暗灰褐色砂礫土(6より礫大)
9　暗灰褐色粘質土(礫混)
10　暗灰褐色粘質土(黄褐色粘質土霜降り)





SE2043
1　暗茶褐色粘質土
2　暗茶褐色粘質土(礫混)

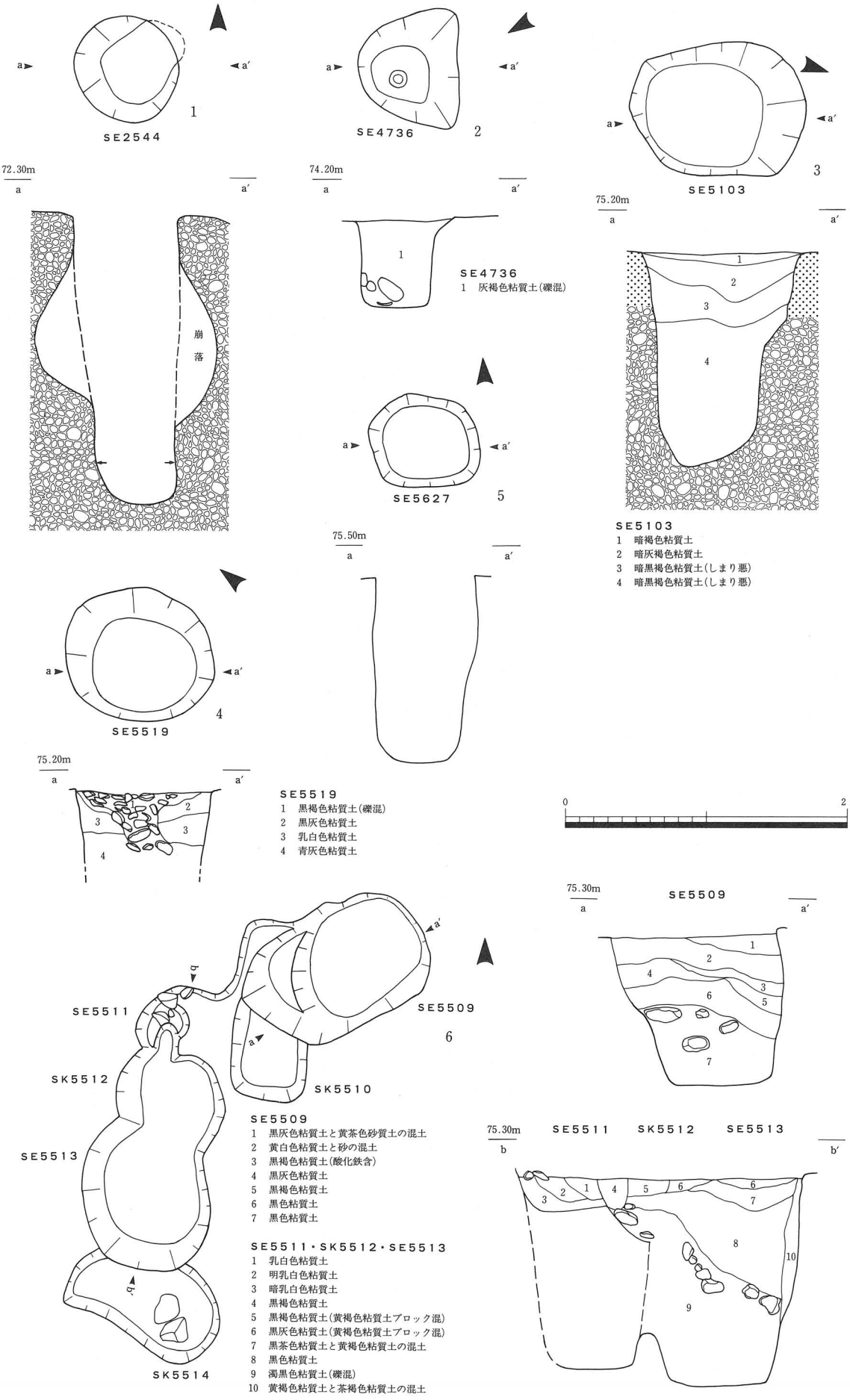




SE2044
1　暗茶褐色粘質土

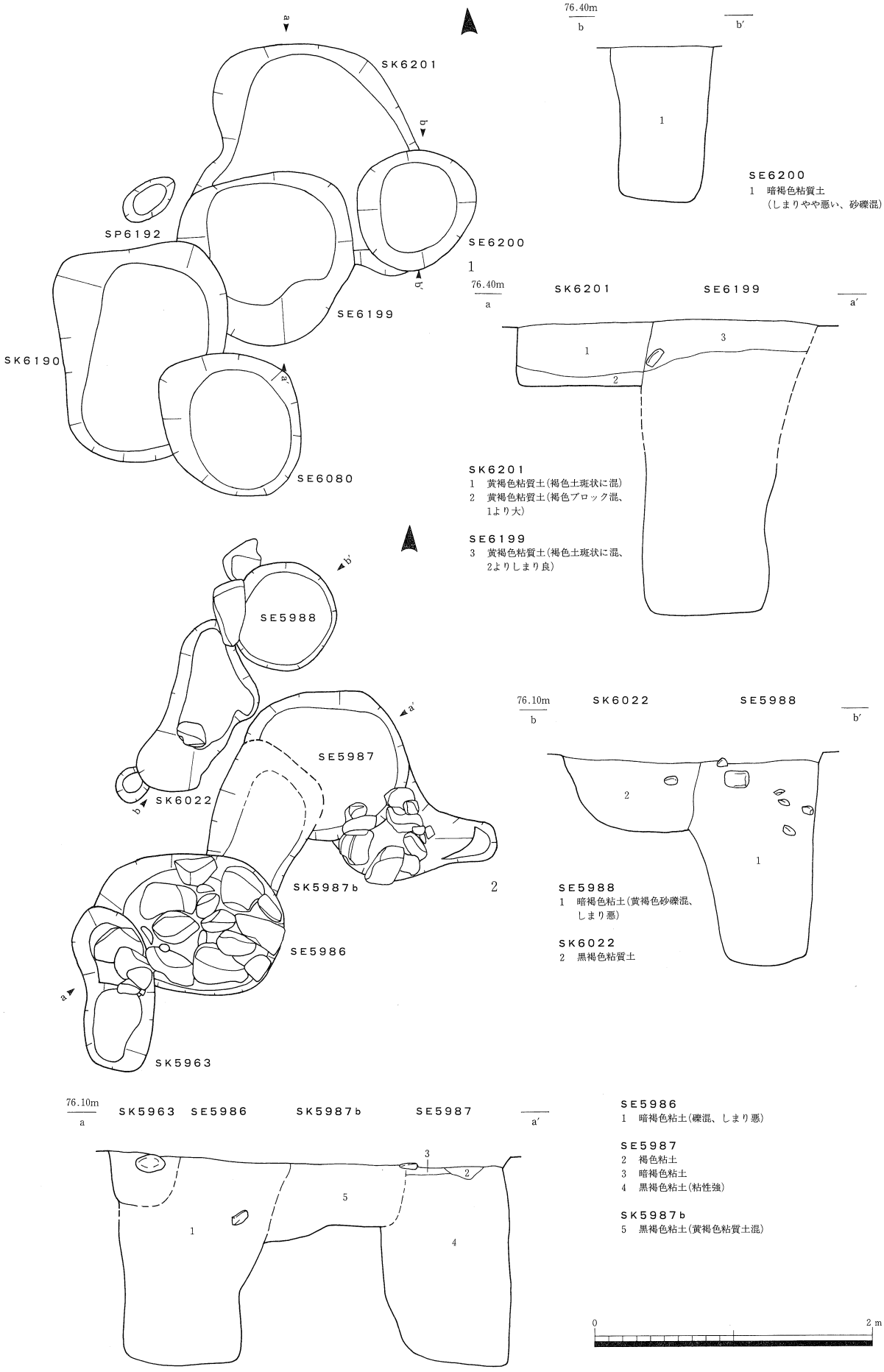
SK2045
2　暗茶褐色粘質土
3　暗灰褐色粘質土

第257図　遺構実測図(近世)
1.SE1378　2.SE2043　3.SE2044

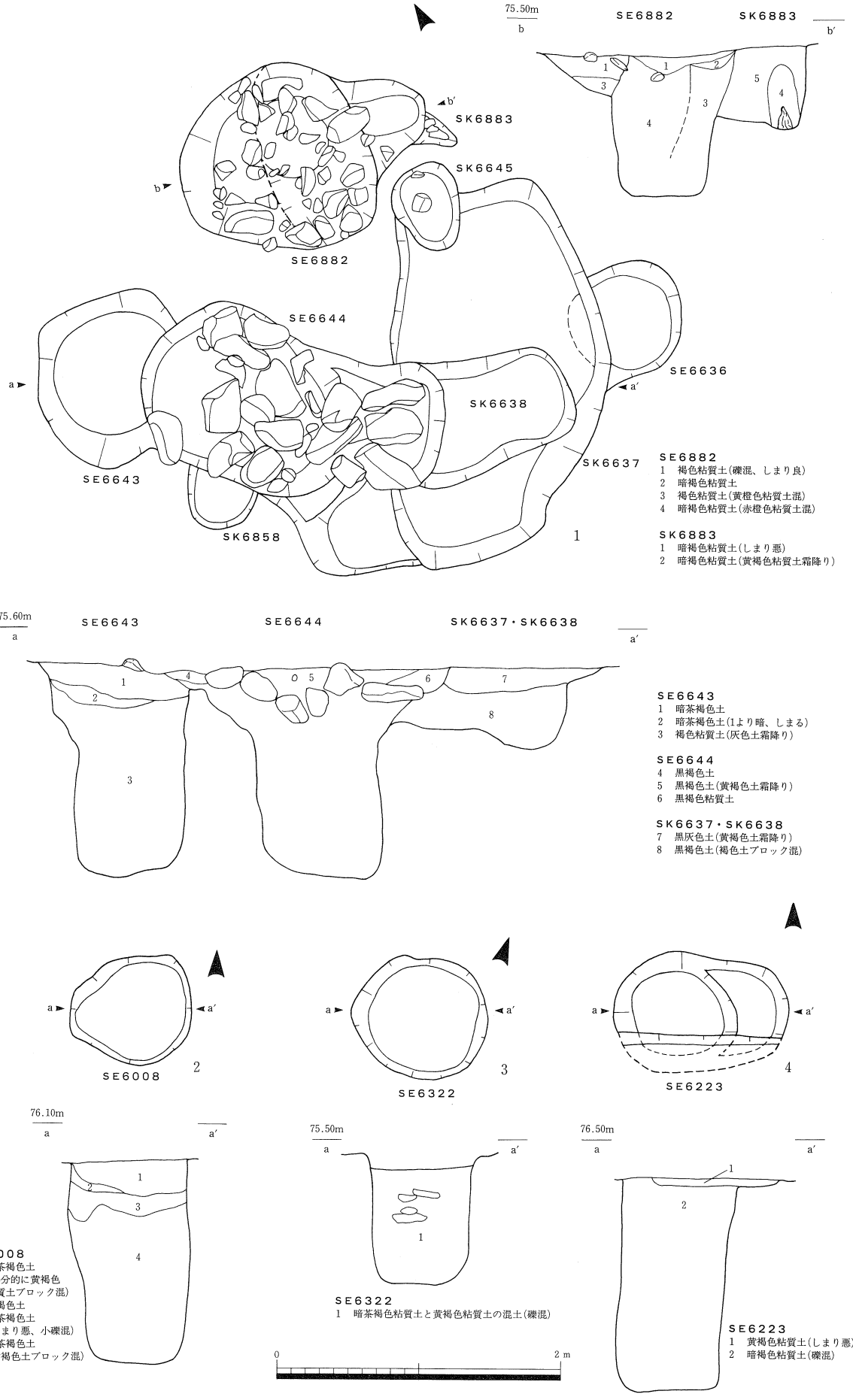


第258図　遺構実測図(近世)

1.SE2544　2.SE4736　3.SE5103　4.SE5519　5.SE5627　6.SE5509・SE5511・SE5513

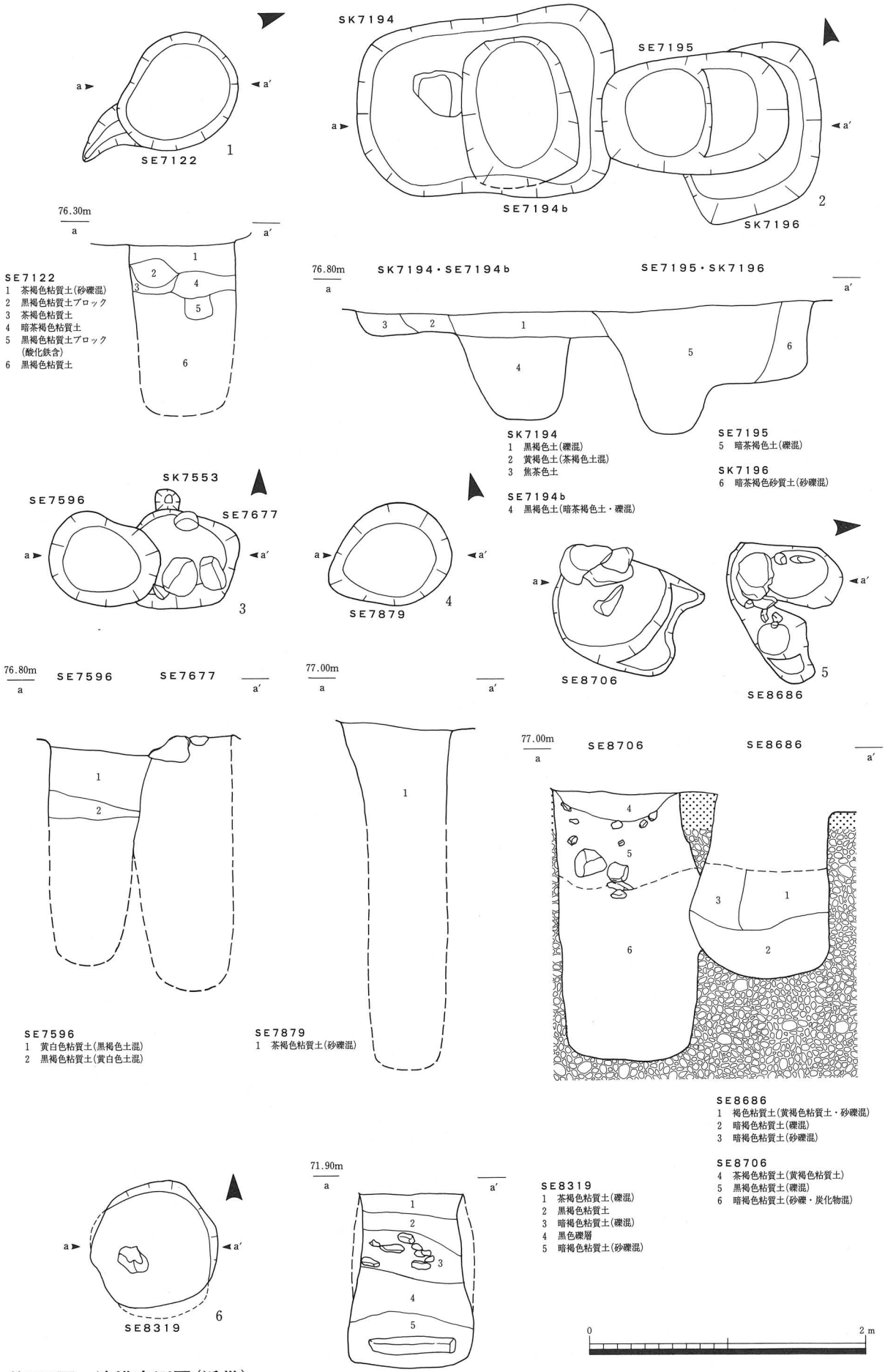


第259図　遺構実測図(近世)
1.SE6199・SE6200　2.SE5986～SE5988



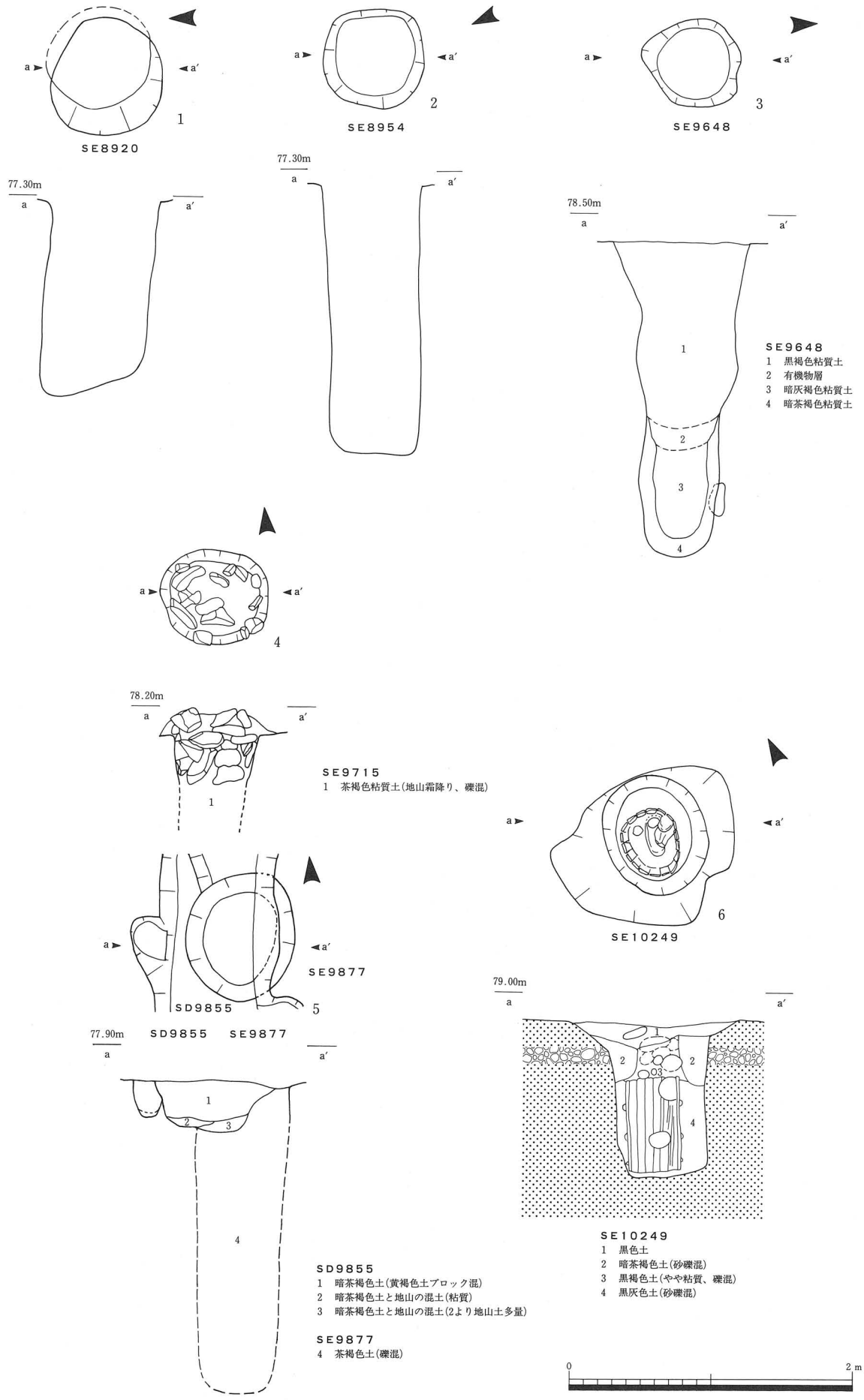
第260図　遺構実測図(近世)

1.SE6643・SE6644・SE6882　2.SE6008　3.SE6322　4.SE6223



第261図　遺構実測図(近世)

1.SE7122 2.SE7194b・SE7195 3.SE7596・SE7677 4.SE7879 5.SE8686・SE8706 6.SE8319



第262図　遺構実測図(近世)

1.SE8920 2.SE8954 3.SE9648 4.SE9715 5.SE9877 6.SE10249

5　土　　坑

近世の土坑は，遺物の出土したもので約240基検出している。この中には不整形のものと方形の掘形のしっかりしたものがあり，方形のものの中には建物に伴う竪穴状土坑も含まれる。性格が不明なものが多く，廐・作業場などの性格がわかるものは少ない。しかし建物の一部を構成するものか，それに伴って掘削された土坑が多いと考えられる。

A地区

797号土坑（ＳＫ797，第263図）

Ｘ458Ｙ108，ＳＤ794の上面で検出した土坑である。ＳＤ794・ＳＫ838より新しく，ＳＢ32を切っている。南北140cm，東西175cmの長方形を呈し，深さは15cmと浅い。覆土は暗茶褐色土の単層である。遺物には中世土師器，18世紀の伊万里がある。

832号土坑（ＳＫ832，第263図，図版138）

ＳＫ797の南，蒲鉾形の浅い落ち込みの下層で検出した土坑である。上層の蒲鉾形の落ち込みも同遺構の可能性があるが，ＳＤ701の覆土との判別が困難であった。規模は南北170cm，東西330cm，深さは落ち込みの検出面から60cmである。覆土は上層が暗茶褐色粘質土，下層が暗茶灰色粘質土である。遺構中央から越中瀬戸の匣鉢と伊万里の皿が出土した。

833号土坑（ＳＫ833，第263図，図版133）

ＳＫ832の東で検出した土坑である。ＳＫ832より新しい。規模は南北245cm，東西345cmである。壁の立ち上がりはしっかりしているが，南側は明確に確認できなかった。深さは28cmである。床面はほぼ平坦である。覆土は暗茶灰色土の単層で，20cm～30cmの礫が遺構の中央を中心に混じる。遺物には中世土師器・珠洲，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

871号土坑（ＳＫ871，第265図，図版140）

ＳＤ911の南側で検出した石敷きの土坑である。全体の規模は南北約5m，東西の最大幅約6mである。床面の石敷きは全面にわたっており，底近くの石が組んであることなどから，意識的に敷いたものである。加えて，中央より北側で東西に渡り１列，西辺に南北に渡り１列の石組列がある。これらの石列は遺構面精査段階から確認されていた。石列は大小の石を組み合わせて，少なくとも３段は積まれている。覆土は上層が地山が混じる暗茶褐色粘質土，下層が暗灰茶褐色粘質土に分かれるが，下層は石の裏込め土と考える。実際の生活面が上層と下層の間であったか，もっと上面であったかは不明瞭であるが，上層から多くの遺物が出土していることから，下層上面が生活面と考えることが妥当であろう。その場合，南北の石列は上部構造の土台の役割を果たしていたのであろうか。ＳＫ871と重複する長楕円形の柱穴と考える土坑がすべて土坑より古いことから，その可能性もある。遺物には土師器，中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は18世紀である。

872号土坑（ＳＫ872，第265図，図版140）

ＳＫ871の西で検出した土坑である。規模は南北270cm，東西280cmで正方形に近い。東のＳＫ873，北のＳＫ895よりは新しい。覆土は上層が暗灰茶褐色粘質土，下層が暗灰色粘質土で，部分的に礫が混じる。床面は平坦で，深さは32cmである。遺物は中世土師器・珠洲，唐津がある。

873号土坑（ＳＫ873，第265図，図版140）

ＳＫ871とＳＫ872の間で検出した土坑である。切り合いは２基の土坑より古いが，遺物を見ると時期差はあまりない。規模は南北350cm，東西325cmの長方形で，深さは25cmである。床面は平坦，覆土は地山の混じる暗茶褐色粘質土に，暗茶褐色粘質土と薄い黒褐色粘質土がレンズ状に堆積する。遺

物は須恵器，中世土師器・志野・白磁，越中瀬戸・唐津があり，時期は18世紀である。ＳＫ871とＳＫ872・ＳＫ873は同時期に存在した関連遺構と考えている。

1317号土坑（ＳＫ1317，第267図）

Ｘ438Ｙ101で検出した不整形の土坑である。南北270cm，東西190cmを測り，断面形はレンズ状で中央がくぼむ。最深部で35cmを測る。覆土は暗茶褐色粘質土の単層で，下層に向かうにつれて礫が混じる。北側の穴は土坑よりも新しい。遺物には中世土師器，唐津・伊万里がある。

1321号土坑（ＳＫ1321，第264図，図版138）

Ｘ436Ｙ93～95で検出した長方形の土坑である。西のＳＫ1323より新しい。南北135cm，東西491cm，深さ40cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は暗灰褐色粘質土の単層で，10cm～30cm大の多量の礫が混じる。遺物は中世土師器・青磁，唐津・伊万里・九谷である。

1335号土坑（ＳＫ1335，第264図）

Ｘ444･445Ｙ97で検出した長方形の土坑である。南北340cm，東西175cm，深さ53cm，壁の立ち上がりはしっかりしており，床面も平坦である。覆土は暗茶褐色土が主体の土である。遺物は出土していないが，ＳＤ1422の北からＳＤ911の間の範囲は近世の遺構が多いため，当時期にあてた。

1340号土坑（ＳＫ1340，第266図）

Ｘ446Ｙ91，ＳＤ1344の上面で検出した土坑である。東のＳＫ1341よりは新しい。南北175cm，東西95cmの楕円形で，深さは40cmである。床面はほぼ平坦で，下層からＳＫ1349を検出した。覆土は暗茶褐色粘質土である。遺物の出土はないが，ＳＫ1341の遺物から判断した。

1341号土坑（ＳＫ1341，第266図）

ＳＫ1340・ＳＫ1342間に位置する，両者より古い土坑である。東西がこれらの土坑に切られているため不明だが，南北は195cm，深さ45cmである。床面はほぼ平坦で，壁の立ち上がりもしっかりしている。覆土は暗茶褐色粘質土･暗黄褐色粘質土･灰褐色粘質土が混じる層である。遺物は中世土師器･志野，越中瀬戸・唐津・伊万里である。

1342号・1343号土坑（ＳＫ1342・ＳＫ1343，第266図）

ＳＫ1341の東側で検出した土坑である。重複しているため正確な規模は不明である。深さは20cmである。覆土は暗茶褐色粘質土で，下層に黒灰色粘質土が堆積する。ＳＫ1342の東にあるＳＫ1343はＳＫ1342より新しい。南北108cm，東西125cmの楕円形で，立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は暗茶褐色粘質土で，深さは25cmである。

1351号土坑（ＳＫ1351，第266図，図版141）

Ｘ443～446Ｙ93･94で検出した溝状の土坑である。北端側は近世のＳＤ814と切り合い，南側は中世のＳＤ1422を横断する。西に緩くカーブしているが，南北9m，東西幅135cmを測る。断面形は逆台形で，深さは１ｍである。南端は一段浅くなっており，同遺構か別遺構かは未確認だが，別遺構と考えたい。覆土は暗茶褐色粘質土，暗黄褐色粘質土が混じる暗茶褐色粘質土，暗灰褐色粘質土の順に堆積し，下層になると礫が多く混じる。遺物には中世土師器，唐津がある。

1353号土坑（ＳＫ1353，第266図，図版141）

ＳＫ1351の東にある，平行して南北にのびる溝状の土坑である。ＳＫ1355・ＳＫ1354より新しい。南北10m，東西幅157cm，深さは32cmとＳＫ1351に比べ浅い。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。遺物は中世土師器・瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

1354号土坑（ＳＫ1354，第266図，図版141）

ＳＫ1353の西で検出した短い溝状の土坑である。西のＳＫ1352・ＳＫ1356よりは古い。規模は南北315cm，東西幅50cm，深さ65cmである。壁の立ち上がりは，東側が下層に向けてオーバーハングしている。覆土は暗灰褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

1356号土坑（ＳＫ1356，第266図）

ＳＫ1351とＳＫ1353の間で，同様に平行している溝状の土坑である。ＳＫ1352・ＳＫ1355より古い。規模は南北595cm，東西幅68cmである。断面形は逆台形で，深さ70cmである。覆土は地点によって異なるが，暗黄褐色粘質土，暗茶褐色粘質土，黒灰色粘質土が堆積する。遺物は中世土師器・白磁，越中瀬戸がある。

これら溝状の土坑については，平行している以外何の規則性もなく，用途などは不明である。しかし，覆土の様子，遺物の種類から考えて，短期間のうちに何らかの目的で作られたものであろう。同時期にあたる，ＳＤ824・ＳＤ1344・ＳＤ1355との関連も問題である。

1358号土坑（ＳＫ1358，第267図，図版141）

Ｘ447・448Ｙ98・99で検出した長方形の浅い土坑である。南のＳＫ659より古いが，東のＳＫ1366より新しい。南北235cm，東西325cmを測る。覆土は黒褐色粘質土の単層で，深さ19cm，床面は平坦である。遺物は出土していない。

1359号土坑（ＳＫ1359，第267図，図版141）

ＳＫ1358の南上面で重複する，同じような形状の土坑である。規模は南北310cm，東西265cm，深さ17cmである。覆土は，上層が礫の混じる暗灰褐色粘質土，下層が暗黄褐色粘質土である。遺物には中世土師器，唐津，石鉢がある。

1366号土坑（ＳＫ1366）

ＳＫ1359の東で検出した大型の浅い土坑である。南北670cm，深さ11cmを測る。南北の規模は確認できたが，浅いため東の肩は確認できなかった。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。土坑内の他の遺構はほとんどが，土坑の覆土の下層から検出したものである。遺物には中世土師器，唐津がある。

1404号土坑（ＳＫ1404，第268図）

Ｘ441～444Ｙ103～105，ＳＤ1422の上面で，ＳＫ1405とともに検出した長方形の土坑である。ＳＫ1405より新しく，その内側で全体が重複する。北のＳＫ1437・ＳＫ1438・ＳＫ1439よりは新しい。規模は南北410cm，東西500cm，深さ57cm，壁の立ち上がりは明瞭で，地山礫層に達する床面は平坦である。覆土は，東半上面の暗茶褐色土の混じる礫層が堆積し，この下層はセクションの観察部分によって異なっている。暗茶褐色土に黄褐色土が混じる土，同じく黄褐色土のブロックが混じる土，礫の混じる暗茶灰色粘質土，暗茶褐色土があるが，規則性は認められない。礫の堆積は北ブロックに特に多く，その中には加工した桑山石も見られる。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸・白磁・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸がある。時期は18世紀である。

1405号土坑（ＳＫ1405，第268図）

ＳＫ1404と南側５分の１を残して重複する。平面形の切り合いは，遺構面精査の段階から顕著であったが，西側の壁の立ち上がりは調査区中央セクションが残っていたため不明瞭である。床面のレベルはＳＫ1404と同じであるが，南東隅に一段高い部分があり，別の土坑が重複している可能性がある。覆土は暗茶灰色粘質土である。遺物には青磁，唐津がある。

ＳＫ1404・ＳＫ1405及び，ＳＫ1438・ＳＫ1439は覆土の違いで分けたものの，床面を共有しているものが多く，場合によっては一挙に掘り込んで部分的に埋めた可能性もあり，ＳＢ45との関係と合わ

せて問題となる。

1431号土坑（ＳＫ1431，第264図）

ＳＫ1431の北で検出した不整形の土坑である。南北160cm，東西最大幅340cmで基本は長方形であるが北東隅と北西隅が張り出している。この部分には30cm～50cm大の礫が出土し，部分的には縁辺に沿って並べてあるようである。覆土は第１・２層が黄褐色土の混じる暗茶褐色土で，第３層が黒灰色粘質土である。第２層の黄褐色土ブロックが混じる層は帯状に堆積し，生活面となっていた可能性がある。遺物には中世土師器・珠洲，唐津がある。

2219号土坑（ＳＫ2219，第269図）

Ａ２地区の中央西側，Ｘ387Ｙ87に位置する。長軸120cm，短軸113cmの円形で，深さ46cmである。覆土は灰褐色粘質土で，酸化鉄が混じる。下層から18世紀の伊万里が出土した。

2222号土坑（ＳＫ2222，第269図）

ＳＫ2219の北側，Ｘ390Ｙ88に位置する。長軸120cm，短軸72cmの隅丸長方形で，深さ23cmである。覆土は茶灰色粘質土（上層），褐色砂質土（下層）である。遺物には中世土師器，伊万里がある。時期は18世紀である。

2223号土坑（ＳＫ2223，第269図）

ＳＫ2222の西側，Ｘ390Ｙ87に位置する。西側は未調査区，北側と東側は遺構で切られているが，形状は長方形であろう。現況は長軸122cm，短軸118cm，深さ68cmである。覆土は茶灰褐色土，灰褐色土で，酸化鉄が混じる。遺物は中世土師器，唐津である。時期は18世紀である。

2232号土坑（ＳＫ2232，第269図）

Ａ２地区の南西側，Ｘ375･376Ｙ100～103に位置する。長軸514cm，短軸240cmの長方形で，深さ45cmである。覆土は茶褐色土，褐色土，黒褐色土で，地山土が混じる。遺物には中世土師器･瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津がある。時期は18世紀以降である。

2253号土坑（ＳＫ2253，第269図）

ＳＫ2219の北側，Ｘ387Ｙ87に位置する。長軸90cm，短軸80cmの円形で，深さ36cmである。覆土は茶灰褐色土で，酸化鉄が混じる。上層は少しボソボソの土である。土坑の底から18世紀の伊万里碗が倒置した状態で出土した。

2454号土坑（ＳＫ2454，第270図）

ＳＤ2203の東側，Ｘ401･402Ｙ106･107に位置する。長軸217cm，短軸104cmの長方形で，深さ42cmである。覆土は灰茶褐色土である。遺物には18世紀の唐津がある。

2469号土坑（ＳＫ2469，第270図）

Ａ２地区の北西部分，Ｘ405･406Ｙ92に位置し，長軸244cm，短軸222cmの不整円形である。土坑中央の深さは45cmで，東側と南側だけが67cmと深い。覆土は灰茶褐色土である。遺物には中世土師器･白磁，越中瀬戸･唐津，寛永通宝がある。時期は18世紀である。寛永通宝は，土坑の底から出土した。

2487号土坑（ＳＫ2487，第270図）

Ｘ407Ｙ93に位置し，長軸170cm，短軸148cmの方形で，深さ39cmである。覆土は茶褐色土，灰褐色土，灰茶褐色土で，小礫・地山土が混じる。遺物には縄文土器，中世土師器，越中瀬戸・伊万里がある。時期は18世紀である。

2491号土坑（ＳＫ2491，第270図）

Ａ２地区の北西部分，Ｘ410Ｙ93に位置する。長軸282cm，短軸167cmの長方形である。覆土は地山

土と同じ，礫混じりの茶褐色土であるため，土坑の北壁面が明確にできなかった。土坑の底は二段になっており，西側で深さ30cm，東側で深さ12cmである。遺物には中世土師器・珠洲，伊万里がある。時期は18世紀である。

3414号土坑（ＳＫ3414，第271図）

Ａ３地区の南端，Ｘ313・314Ｙ89・90に位置する。長軸193cm・短軸170cmの円形で，深さ20cmである。覆土は黒褐色砂質土，黒褐色土，灰褐色粘質土である。壁面はなだらかで，底面は丸くなっている。遺物には中世土師器・瀬戸美濃，伊万里がある。時期は18世紀である。

3549号土坑（ＳＫ3549）

ＳＫ3409の内，Ｘ312・313Ｙ97・98に位置する。長軸100cm，短軸54cmの楕円形で，深さ55cmである。覆土は茶褐色粘質土，黒灰褐色粘質土で，小石が混じる。壁面は斜めに立ち上がる。遺物には中世土師器・青花，伊万里がある。時期は18世紀と考える。

4009号土坑（ＳＫ4009）

Ａ３地区の中央西側，Ｘ348～353Ｙ83・84に位置する。西側が未発掘区のため，形状は不明であるが，２基の土坑が重なっている。南から北へ細長く延びた，南北870cm，東西295cmの長方形の土坑（ＳＫ4009）がある。深さ20cmである。覆土は灰茶褐色土の単層である。土坑の底にある柱穴は，土坑より古い。現代の攪乱穴ＳＫ3985が土坑を切る。もう１基の土坑（ＳＫ4009ｂ）は，東西426cm，南北390cmの長方形で，深さ37cmである。覆土は灰褐色土である。両土坑の遺物には縄文土器，土師器・須恵器，中世土師器・珠洲・瀬戸・信楽・白磁・青磁，越中瀬戸・伊万里がある。時期は18世紀である。

Ｂ地区

4820号土坑（ＳＫ4820，第202図）

Ｘ288・289Ｙ82で検出した正方形に近い長方形の土坑である。規模は南北200cm，東西222cmを測る。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は上層が砂質土が混じる黒褐色粘質土，下層が黒褐色粘性砂質土がほぼ水平に堆積する。遺物には15世紀の中世土師器・珠洲・瀬戸美濃，17世紀の越中瀬戸・唐津がある。

5051号土坑（ＳＫ5051，第272図，図版142）

ＳＤ5002の東側に平行する南北に長い不整形の土坑である。覆土の違いで北側のＳＫ5051ｂと南側のＳＫ5051に分かれる。ＳＫ5051ｂは南北490cm，東西550cmの正方形に近く，中央が一段方形に浅くなる二段掘り形状となっている。覆土は上層が暗茶灰色土，下層が褐色粘土ブロックが混じる暗茶褐色粘質土の２層で，床面近くから唐津が出土した。土坑内のＳＫ5090・ＳＫ5327・ＳＫ5848はすべて土坑より古い。土坑西側の石列は遺構精査段階から上面で検出できたもので，一段のみのものである。ＳＤ5002の東肩に沿って並んでいることから，ＳＤ5002を意識したものであろう。従って，ＳＤ5002とＳＫ5051ｂは同時に存在していた可能性も高い。ＳＫ5051は覆土の切り合いから見ればＳＫ5051ｂ・ＳＤ5002より新しい。規模は南北11m，東西6.1m，深さ50cmである。覆土は暗茶褐色粘質土が主体で，この層から下駄などの遺物が出土している。この下層に灰色粘質土，青灰色粘質土，褐色粘質土が堆積する。覆土中には植物遺体が混じり，南側では暗茶褐色粘質土の上層に特に多く植物遺体が混じる層がある。このことから，遺構の時期，あるいはそれ以降には遺構内が湿地または澱みになっていたことが窺われる。遺物には土師器・須恵器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里，火舎，五輪塔・石鉢，木製品（漆器椀・下駄・底板），銅銭がある。

5132号土坑（ＳＫ5132，第246図）

東側をＳＸ6390に西側を暗渠に切られる，長方形の土坑である。東西450cm，深さ50cmを測る。覆土は上層が暗褐色粘質土，中層が黒褐色粘質土，下層が黒褐色粘質土である。それぞれに黄褐色粘質土・褐色粘質土・黒褐色粘質土などが混じり，中・下層には礫が混じる。ＳＸ6390と床面の高さが同じであり，東西辺が平行していることから，ＳＸ6390の関連遺構の可能性がある。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・越前・瀬戸美濃・白磁，越中瀬戸・唐津・伊万里，砥石，下駄がある。

5151号土坑（ＳＫ5151，第246図）

ＳＫ5132の北側上面にかかって検出した土坑である。長軸440cm，短軸270cmの楕円形で，断面はレンズ形，深さ33cmである。覆土は上層が褐色粘質土･暗褐色粘質土，下層が礫を多く含む暗褐色粘質土である。全体にしまりが悪い。遺物には越中瀬戸がある。

5331号土坑（ＳＫ5331，第273図，図版142）

Ｘ260～264Ｙ77～82で検出した大型の土坑である。規模は南北850cm，東西925cm，深さ24cmである。遺構内は暗渠が十字に走るが，遺存状況は良好である。壁の立ち上がりもしっかりしており，床面は平坦である。覆土は第１層黒色土，第２層黒茶褐色土で，全体にわたり水平に堆積している。この土坑と切り合う遺構，あるいは土坑内にある遺構はほとんどがＳＫ5331よりも古い。唯一新しいのは，ＳＫ5333のみである。遺物は中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・15世紀の青磁，唐津，鉄滓がある。時期は17世紀前半の唐津が混じることから，中世末から近世初頭と考える。

5435号・5437号土坑（ＳＫ5435・ＳＫ5437，第276図，図版144）

Ｘ250～252Ｙ81で検出した楕円形の土坑である。ＳＫ5435の覆土の第１層は南北600cm，東西310cmの楕円形の範囲で広がるが，部分的に肩が不明瞭となる。第２層以下は南北320cm，東西310cmの不整形であるが，正方形に近い広がりを見せ，覆土は暗灰色粘質土が主体である。北側にあるＳＫ5443も第１層下から検出しており，南側のＳＫ5437も同様である。このことから３基の土坑は関連した同時期の土坑とわかる。ＳＫ5437は南北260cm，東西150cmの楕円形の土坑で，ＳＫ5435の床面から深さ22cmである。覆土は上層が暗灰褐色粘質土，下層が暗黒灰色粘質土である。遺物はＳＫ5435から中世土師器・越前・瀬戸美濃・白磁，越中瀬戸・唐津・伊万里が出土し，時期は17・18世紀である。

5436号土坑（ＳＫ5436，第274図，図版144）

Ｘ252･253Ｙ77～79で検出した一辺440cmの正方形の土坑である。北側はＳＤ5105と切り合い，ＳＤより新しい。東側は南北に暗渠が走る。壁の立ち上がりは明瞭で，床面も平坦である。覆土は黄褐色粘質土・黄白色粘質土ブロック，炭化物，植物遺体，小礫が混じる灰茶褐色粘質土の単層である。部分的に最下層に黒褐色粘質土が堆積する。土坑内の遺構は，ＳＫ5622を除いて他はすべて土坑より古い。この土坑の南には近世の大型の土坑が切り合いながら一直線に並んでいる。遺物は土師器，中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花，越中瀬戸がある。遺物の下限は16世紀であるが，時期はもっと下ると考える。

5445号・5474号土坑（ＳＫ5445・ＳＫ5474，第275図，図版144）

ＳＫ5436の南で検出した大型の土坑である。ＳＫ5445はＳＫ5474より新しく，規模は南北450cm，東西590cmの不整形の長方形で，深さは36cmで床面は平坦である。覆土は暗黒灰色粘質土が主体で，黄灰色粘質土，礫が混じる。土坑内の遺構は土坑より古い。遺物は中世土師器・瀬戸美濃・白磁・青磁がある。ＳＫ5474は北を，ＳＫ5445は東を暗渠に切られているが，平面形は南北が330cmの長方形を呈すると考える。覆土は上層が暗黒灰色粘質土，中層が暗灰色粘質土，下層が暗黒色粘質土である。壁の立ち上がりは明瞭で床面も平坦である。深さはＳＫ5445と同様で36cmである。土坑内の遺構はＳ

E5730は土坑より古いが，ＳＫ5483は土坑より新しい。遺物は中世土師器，伊万里が出土している。従って，ＳＫ5445・ＳＫ5474の時期は18世紀以降と考える。

5486号土坑（ＳＫ5486，第277図，図版144）

X247Y79で検出した長方形の土坑である。切り合いはＳＫ5492，ＳＥ5648に勝っている。規模は南北255cm，東西200cm，深さ23cmである。レンズ状に堆積する覆土は大きく２層に分かれる。第１層は暗黒灰色粘質土，第２層が暗黒色粘質土でこの間には部分的に黄灰色粘質土のバンド層が入る。遺物には青花，唐津がある。時期は17世紀である。

5526号・5527号土坑（ＳＫ5526・ＳＫ5527，第273図）

ＳＫ5331の南で検出した土坑である。ＳＫ5526とＳＫ5331との切り合いは，ＳＫ5331のほうが新しいと考えたが明確ではない。ＳＫ5527よりは断面観察から新しい。どちらにせよこの３基は時期差はあまりないと考えている。ＳＫ5526は深さ15cmの浅い土坑で，覆土は上層が黒色土が混じる黄褐色土，下層が黄褐色土ブロックが混じる黒色土である。遺物には中世土師器，唐津がある。ＳＫ5527はＳＫ5526内の西側で検出した長方形の土坑である。南側が暗渠に切られるが，南北約260cm，東西約205cmである。壁は緩やかに立ち上がり，床面は平坦である。深さは40cmで，覆土は上層が黄褐色土ブロックが混じる黒色土で，下層は黒色粘質土で板状の木製品が混じる。遺物には越中瀬戸がある。

5906号土坑（ＳＫ5906，第278図）

X216Y83～85で検出した不整形の土坑である。平面形は長楕円形と円形が接合した形で，床面の高さも異なっているが，覆土は一挙に埋まった感じである。南北160cm，東西520cm，深さは32cmである。壁の立ち上がりは東・南は急であるが，北は緩やかである。覆土は暗褐色粘質土・黄褐色粘質土，黒褐色粘土，灰褐色粘土が混じって不規則に堆積する。遺物には瀬戸美濃，唐津，瀬戸，加工石があり，覆土の堆積状況からも近世でも新しい時期のものと考える。

5916号土坑（ＳＫ5916，第280図）

ＳＫ5906の西で検出した長方形の土坑である。南北235cm，東西95cm，深さ47cmである。覆土は上層が黄褐色粘質土が混じる暗灰褐色粘土，下層が黒褐色粘土が混じる，直径3cm～4cm大の礫層である。覆土の状態から近世でも新しい時期と考えられる。遺物には越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

5957号・5958号土坑（ＳＫ5957・ＳＫ5958，第279図，図版143）

X220Y75～77，ＳＤ5936・ＳＤ5982の上面で検出した土坑である。ＳＫ5957は南北250cm，東西265cmの正方形に近い平面形で，深さは60cmと深い。壁の立ち上がりはしっかりしており，北西隅が一段浅くなっているものの，床面は平坦である。覆土は主に暗褐色土，黄褐色土，褐色土，黒色土の混土で，最下層に粘性の強い黒褐色粘土が堆積する。東に接するＳＫ5958は南北が290cmで，これも正方形に近い平面形になると考える。北のＳＫ5983よりも古く，東のＳＫ5965・ＳＫ5984よりも新しい。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面はＳＫ5957に比べ10cm浅くなるものの平坦である。覆土は暗褐色粘質土が主体で，下層には黄褐色土の混じる黒褐色土が堆積する。ＳＫ5957の最下層のような均質な黒褐色土は部分的にしか見られない。西側には床面にまで達する二段の石列を伴う。石列は外側に向かってやや弧を描き，外側に面を取っている。石列の外側にはＳＫ5966の覆土が堆積する。ＳＫ5966は当初，石列西の楕円形の土坑と考えたが，断面観察からＳＫ5957とＳＫ5958の境を埋める埋土の一種でなかろうかと考える。上層は暗褐色粘質土が混じる黄褐色粘質土，下層は下部に直径10cm～30cmの礫を敷き詰めた，黄褐色粘質土が混じる暗褐色粘質土である。下層はＳＫ5957とＳＫ5958の床面の高さの違いを水平にならしている。従って，ＳＫ5957・ＳＫ5858は同時に作られたものであろ

うと考え，またこれらはＳＢ165に付属するものであろう。遺物はＳＫ5957からは中世土師器・珠洲・瀬戸美濃，唐津が，ＳＫ5958からは中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青花がある。時期は16世紀末から17世紀前半である。

5973号土坑（ＳＫ5973，第280図）

Ｘ220Ｙ98，ＳＤ6006の上面で検出した楕円形の土坑である。深さは45cmで，壁は西側以外は直角に立ち上がる。覆土は炭化物，黄褐色粘土，礫が混じる暗褐色粘土である。遺物には中世土師器・珠洲，唐津・伊万里がある。時期は18世紀～19世紀である。

5990号土坑（ＳＫ5990，第281図，図版146）

Ｘ224～226Ｙ74～77で検出した大型の長方形の土坑である。南東隅には溝状の張り出し（ＳＫ6018）をもち，縁辺に石列を伴う。土坑中央に散在する石は並んでいた石が動いたものであろう。他の遺構との関係は南のＳＤ5936，ＳＤ5982よりは新しく，北のＳＤ6034などは切り合いでは溝が切っているが，断面観察から同時期に存在していた時期もあると考えている。規模は南北820cm，東西860cm，深さ48cmである。南東部で一部深くなるところはあるが，概して床面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。基本覆土は第１層黒褐色土，第２層暗褐色粘質土，第６層暗褐色粘土，第11層黒褐色粘土である。東半部には第６層と第11層の間に褐色粘土，粘性の強い暗灰褐色粘土，明黄褐色砂質土などが見られ，これは取り水口と推定される南東隅に近いためかと考える。南東部に見られる石列は，遺構の内側に向かって面を揃え，地山直上に置かれるか，または暗褐色粘質土によって埋められている。これに対し，北の東西石列は第４層上に並べて上面を遺構検出面と同じ高さにし，ＳＤ5034などの方向に面を揃えている。つまり，南東部の石列はあくまでも遺構の縁辺をかためるために設置し，北側の石列は第４層が埋まった後，溝を意識して設置したことになる。従って，北側の石列は溝に伴うもので，覆土の第21・24層はその埋土と考えたい。土坑の性格としては，縁辺の石列，取り水口遺構を伴うこと，覆土が水性堆積状であることから園地状の遺構と考えたい。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花，越中瀬戸・18世紀の唐津・伊万里，石臼・五輪塔がある。

5991号土坑（ＳＫ5991，第278図，図版145）

Ｘ223Ｙ78・79で検出した長方形の土坑である。周囲のＳＫ6556・ＳＫ6579・ＳＫ6543よりも新しい。規模は南北240cm，東西323cm，断面は逆台形で深さ35cmである。覆土は上層は褐色粘質土または暗褐色粘質土で，下層になると黒褐色粘土，暗褐色粘土が水平堆積する。覆土中には，上面から多量の石が混じっており，10cm～50cm大のものがある。これらの石はほとんどが上層中に含まれ，床面に達するものがないことから，土坑廃棄時に一括して投げ込まれたものであろう。遺物には中世土師器・青花，越中瀬戸・唐津，石臼がある。

5997号土坑（ＳＫ5997，第280図）

Ｘ223Ｙ84で検出した不整形の土坑である。規模は南北455cm，東西240cm，深さは20cmである。覆土は暗灰褐色粘土の単層であるが，壁の立ち上がりは明瞭で床面も平坦である。西側で切り合うＳＥ6001には勝っているが，同一個体の破片が出土していることからＳＥ6001は土坑に伴う遺構である。遺物には中世土師器・瀬戸美濃，越中瀬戸・伊万里がある。

6042号土坑（ＳＫ6042，第282図）

Ｘ226Ｙ85，ＳＤ6036に沿って検出した土坑である。規模は南北150cm，東西225cmの長方形で，深さは15cmである。西のＳＫ5043には切り合いで勝つが，ほとんど同時期のものであろう。覆土は黄褐色粘質土が混じる暗褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器，唐津がある。

6047号土坑（ＳＫ6047，第282図）

ＳＫ6045の西で検出した土坑である。南北195cm，東西370cmの長方形を呈し，深さは31cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。ＳＫ6068はこの床面で検出したものである。北のＳＫ6048・ＳＫ6049より新しい。覆土は暗褐色粘質土の単層で，遺物は越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

6048号土坑（ＳＫ6048，第282図）

ＳＫ6047の北で重複する土坑である。北側部分は圃場整備による段のため消失する。西はＳＫ6049と接する。ＳＫ6049とは上層に同じ覆土が堆積していることから，時期的に変わらないと考える。覆土は第１層が暗褐色粘質土，第２層以下は黒褐色粘質土が堆積する。遺物には瀬戸美濃，唐津がある。

6100号土坑（ＳＫ6100，第283図，図版147）

Ｘ228～231Ｙ88～90で検出した大型の土坑で，中世後半の土坑と近世のものが重複している。中世後半の土坑は南側に遺存し，深さが８cmと浅い。覆土は褐色粘質土である。遺物には珠洲・越前，茶臼などがあり，時期は16世紀である。近世の土坑は規模が南北５m，東西５mのやや歪んだ方形である。壁は緩やかに立ち上がる形状で，床面は南よりの中央が一段下がる。深さは37cmである。覆土は第１・２層が褐色粘質土，一段下がった所に堆積している第３層は黒褐色粘質土である。東側を中心に大礫が多く混じり，中には石臼片，切石片がある。地山直上からは越中瀬戸が出土しており，この他に唐津・伊万里がある。時期は17世紀後半である。

6109号土坑（ＳＫ6109，第284図）

Ｘ234Ｙ76・77で検出した長方形の土坑である。東側が暗渠に切られていて東西の規模は不明，南北は170cmである。壁の立ち上がりは明確で，深さは40cmである。土坑内のＳＫ6755・ＳＫ6757との切り合いは，ＳＫのほうが新しい。床面は平坦，覆土は暗褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器，唐津・伊万里がある。時期は18世紀である。

6120号土坑（ＳＫ6120，第285図，図版145）

Ｘ231・232Ｙ84～87で検出した不整形の土坑である。覆土の違いによって任意にａからｅに分けた。ａの北とｅの南は近代の攪乱によって，ａの西側は暗渠によって切られている。一番プランがしっかりしているのはａで，他よりも床面が10cm深く，壁の立ち上がりもしっかりしている。覆土は主に上から第１層暗褐色粘質土，第２層黄褐色粘質土，第３層細砂礫が混じる黒褐色土，第５層礫が混じる暗褐色粘質土，第４層黒褐色粘質土が堆積する。第１～第３・５層はレンズ状に堆積し，第４層のみが水平堆積する。礫が混じる覆土をもつのはａのみである。他のｂ～ｅは平面形は不規則で，深さも浅い。大きく時期差をもって切り合っておらず，性格をもつ施設とは考えられない。遺物は全体から中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青花，唐津・伊万里，火舎，漆器，銅製品が出土している。時期は17世紀である。

6121号土坑（ＳＫ6121，第284図）

Ｘ234・235Ｙ86・87で検出した長方形の土坑である。南北405cm，東西233cmを測る。他の遺構との切り合いは，ＳＫ6777・ＳＫ6883以外はすべて土坑が勝っている。覆土は南側と北側では異なった様相が見られる。南側は主に上から黄褐色砂質土，黒褐色粘質土，灰褐色粘質土，黒褐色粘質土，黄褐色粘質土，黒褐色粘質土がレンズ状に堆積する。しかし，北側は褐色粘質土，暗褐色粘質土，黄褐色粘質土などが不規則に堆積する。プランが同じであるが別の遺構が切り合っている可能性もある。遺物は中世土師器・珠洲，唐津・伊万里がある。

6217号土坑（ＳＫ6217，第282図）

Ｘ240Ｙ76で検出した長方形の土坑である。この地区は遺構の密度が稠密なところであるのに対し，この土坑の周囲には遺構が少ない。規模は南北225cm，東西145cmで平面形はきっちりしており，壁の立ち上がりもしっかりしている。覆土は上層が黄褐色粘質土ブロックが混じる暗褐色粘質土，下層が黄褐色粘土で，深さ40cmである。遺物には18世紀の瀬戸があり，覆土の様子から見ても極めて新しい時期のものであろう。

6219号土坑（ＳＫ6219，第286図）

Ｘ241Ｙ83，ＳＤ6096の東で検出した長方形の土坑である。南北185cm，東西150cm，壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦，深さは67cmである。覆土は第１層が小礫の混じる暗褐色粘質土，第２層が酸化鉄を含む暗褐色粘質土，第３層が黒褐色粘質土，第４層が茶褐色粘質土である。第１・２層はレンズ状に堆積するが，第４・５層は水平堆積する。遺物には中世土師器，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は18世紀である。

6274号土坑（ＳＫ6274，第286図）

Ｘ245･246Ｙ81～83，Ｂ２地区とＢ２Ｎ地区の境で検出した土坑である。北側が暗渠で切られており，全形は不明である。遺構の切り合いはＳＥ5737には負けるが，ＳＤ6096・ＳＥ6255には勝っている。土坑内部からは多量の大小の礫を検出したが，西側縁辺では石列を形成している。あまり整然とは並んでおらず，面を取る方向もどちらかと言えば内側に向かっているといった状態である。しかし，中央に散在する礫も当初は石列を形成していたものと推察している。西縁辺に堆積する均質な褐色粘質土（第５･12層）はその埋土で，石は地山直上から並んでおり，１～２段の石列であったようである。石列内の覆土は上層が暗褐色粘質土で，下層がしまりの悪い混土のない暗褐色粘質土である。遺物には中世土師器・越前・瀬戸，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は17世紀～18世紀である。

6279号土坑（ＳＫ6279，第286図）

ＳＫ6219の東で検出した長方形の土坑である。南北120cm，東西140cm，深さは53cmで床面はやや丸い。覆土は上から砂粒の混じる灰褐色粘質土，暗褐色粘質土，明褐色粘質土である。軸方向が違うが，形態的にＳＫ6219と似ている。遺物には18世紀の瀬戸がある。

6282号・6298号土坑（ＳＫ6282・ＳＫ6298，第291図）

Ｘ242Ｙ86･87で検出した土坑群の一つである。ＳＫ6282はＳＫ6298を埋めてつくっており，規模は南北250cm，東西295cmで，床面では正方形に近い。壁の立ち上がりはしっかりしており，深さは35cmである。覆土は黒褐色粘質土の単層で，床面･壁面の直上には貼床状の砂礫混じりのしまった褐色粘質土が堆積する。ＳＫ6298はＳＫ6282と南北幅が同じで，床面がやや深いものの大きな差はない。同時に掘り上げてＳＫ6298の部分を埋めて，ＳＫ6282をつくった可能性が高い。またＳＫ6282はＳＢ156に伴う遺構の可能性も考えられる。ＳＫ6298の覆土はＳＫ6282の壁面に近い層，及び上層に礫の混じる黒褐色粘質土が堆積し，その下層には多種の土が混じる暗褐色粘質土が堆積する。遺物はＳＫ6282から中世土師器・瀬戸美濃・信楽，越中瀬戸，坩堝がある。ＳＫ6298からは中世土師器・珠洲，伊万里，坩堝がある。

6286号・6287号土坑（ＳＫ6286・ＳＫ6287，第288図）

ＳＫ6287はＸ243･244Ｙ87･88で検出した不整方形の土坑である。ＳＫ6286はＳＫ6287と重複しており，西側の部分検出である。ＳＫ6287は東西が225cmで，南端が暗渠に切られる。覆土は上層が砂粒の混じる黒褐色粘質土，下層が黒褐色粘質土，または部分的に黒褐色土粒・焼土粒が混じる褐色粘質

土である。この上下層の間には貼床状に黄褐色粘質土層が薄く堆積する。遺物は中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃，唐津がある。

6292号土坑（ＳＫ6292，第291図）

ＳＫ6282の南に位置する土坑で，東西辺は平行で，東辺は面を合わせている。南北372cm，東西293cmの整然とした長方形で，ＳＢ156に伴う。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面はほぼ平坦である。覆土は上層に東側を中心とした，焼土が全く混じらない黒褐色粘質土が堆積し，中層には西側からの焼土・炭化物層の流れ込みが見られる。下層には焼土・炭化物の混じる黒褐色粘質土が堆積し，最下層には再び焼土・炭化物層が中央を中心に堆積する。炭化物は藁状のものが多く混じる。遺物には中世土師器，切石がある。

6305号土坑（ＳＫ6305，第291図）

ＳＫ6292の東に位置する土坑で，南北辺が平行している。南北333cm，東西240cmの規模で，同じく整然とした長方形を呈する。遺構の切り合いはＳＫ6300・ＳＥ6306・ＳＫ6307に負ける。覆土は褐色粘質土が混じる黄褐色粘質土が主体で，部分的にその下に黄褐色粘質土が混じる暗褐色粘質土が堆積する。最下層の床面・壁面の直上には貼床状の暗褐色粘質土が薄く堆積する。床面は平坦で，深さは35cmである。遺物には中世土師器・珠洲，切石，鉄製品がある。

これらＳＫ6282・ＳＫ6292・ＳＫ6298・ＳＫ6305の4基の土坑及び周囲の遺構は，一連の作業場的空間を形成していたものと考えている。

6310号土坑（ＳＫ6310，第288図，図版147）

Ｘ233･234Ｙ92･93で検出した大型の長方形の土坑である。西側を走るＳＤ6282ｂは土坑より新しい。また，東辺の北半分はわずかであるが暗渠に切られる。規模は南北520cm，東西205cm，深さ22cmでプランは整っている。覆土は基本的に3層で，上層が黄褐色粘質土が混じる黒褐色粘質土，中層が黄褐色粘質土が混じる暗褐色粘質土，下層が藁・木片状の炭化物が混じる黒褐色炭化物層である。下層の黒褐色炭化物層が土坑の特徴で，床面のほぼ全体に見られる。藁状の炭化物であることから，遺構の性格として作業場，馬小屋などが想定されよう。遺物は中世土師器・越前，唐津・伊万里がある。

6335号土坑（ＳＫ6335，第287図，図版148）

Ｘ233･234Ｙ92･93，ＳＤ6012の東側で検出した土坑である。南北400cm，東西350cmを測るが，軸方向が歪んでいるためか平行四辺形となっている。他の遺構との切り合いは，ＳＤ6359，ＳＫ6799以外にはすべて負けている。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は大まかに上層が砂礫の混じる暗褐色粘質土，中層が灰状炭化物主体の炭化物層あるいはこの下に部分的に堆積する黄褐色粘質土層，黄褐色砂層，下層は焼土が10％～30％混じる暗褐色粘質土層である。床面・壁面には焼けた痕跡はない。覆土の炭化物・焼土，及び坩堝・羽口が出土していることから，土坑の性格として作業場が考えられる。下層が水平堆積しており，中層に貼床状の覆土があることから，作業床面は上層の下面と推測する。炉及び付属施設などは検出されなかった。他の遺物には土師器，中世土師器・越前・瀬戸，越中瀬戸・唐津，鉄製品がある。

7114号土坑（ＳＫ7114，第289図）

Ｘ211Ｙ82～85で検出した東西に細長い長方形の土坑である。規模は東西850cm，南北180cm，床面は所々浅くなっており，深さは最深部で20cmである。他の遺構との切り合いから見て最も新しい。覆土は全体にわたって砂礫の混じる暗茶褐色土が薄く堆積し，その下層は茶褐色土・暗茶褐色土が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は17世

紀・18世紀である。

7119号土坑（ＳＫ7119，第289図）

ＳＫ7114の南側下層で検出した円形の土坑である。直径107cmで底は平坦，深さは47cmである。南西の楕円形の土坑SK7120よりは新しい。覆土は上から黄褐色土混じりの暗茶褐色土，黄橙色砂質土と黄橙色粘質土の混土，小礫混じりの暗黄色砂質土である。遺物には越中瀬戸がある。

7155号土坑（ＳＫ7155，第290図）

Ｘ211Ｙ90，ＳＤ5910とＳＤ5936の間で検出した長楕円形の土坑である。この溝間の一帯は比較的遺構が少ない。規模は長軸300cm，短軸155cmを測る。覆土は小礫の混じる黒褐色粘質土の単層で，深さは17cm，床面は平坦である。遺物には縄文土器，中世土師器，唐津・伊万里がある。時期は18世紀である。

7180号土坑（ＳＫ7180，第292図）

Ｘ203～205Ｙ81～85で検出した大型の浅い土坑である。浅いために北肩が不明瞭であるが，長方形を呈すると考える。規模は南北850cm，東西約1050cmで，西側はＳＤ7181に負ける。覆土は黒灰色粘質土の単層で，床面はほぼ平坦である。土坑内部で明確な遺構と考えたものはＳＫ7182と南東隅で検出した井戸のみで，区画から見ても建物が存在していた感もある。東西辺がＳＤ5910と平行していることから同時期のものであろう。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津・伊万里があり，時期は17世紀～19世紀である。

7182号土坑（ＳＫ7182，第292図）

ＳＫ7180の内部西側で検出した長方形の土坑である。ＳＫ7180に伴うものと考えており，規模は南北405cm，東西約505cmである。覆土は黒褐色粘質土の単層で，深さはＳＫ7180の床面から20cmである。床面は平坦で，部分的に礫が集積状となっている。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は17世紀・18世紀である。

7199号土坑（ＳＫ7199，第293図）

Ｘ194･195Ｙ76･77，ＳＤ7200の上面で検出した土坑である。周囲には同様のＳＫ7201，ＳＫ7355があり，切り合いはＳＫ7201に負ける。規模は南北約570cm，東西422cmで不整形である。深さは68cmで，床面は平坦でＳＫ7201の床面より低い。覆土は黄褐色粘質土ブロック層に黒褐色粘質土が混じる土である。遺物は中世土師器・珠洲，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は17世紀～19世紀である。

7201号土坑（ＳＫ7201，第293図）

ＳＫ7199の南に位置する土坑で，周囲の遺構との切り合いでは一番新しい。規模は南北584cm，東西692cmの長方形である。床面はほぼ平坦であるが，南側がやや深くなる。北側の覆土は茶褐色粘質土と黄褐色粘質土の板状ブロックが混じる黒灰色粘質土である。南側は東のＳＫ7355の床面と同じ深さで，黒茶色粘質土とその下層に板状の黄褐色粘質土ブロックが混じる黒灰色粘質土が堆積する。一部上面にはＳＫ7355と同じく茶黒色粘質土が堆積しており，床面も同じことから関連遺構の可能性が高い。遺物は中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・加賀・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は18世紀である。

7218号土坑（ＳＫ7218）

Ｘ200Ｙ82で検出した長方形の土坑である。規模は南北205cm，東西150cmで壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は第１層が礫層，第２層が礫の混じる暗茶褐色粘質土，第３層が暗黄褐色粘質土である。遺物には中世土師器，越中瀬戸・唐津がある。時期は18世紀である。

7223号土坑（ＳＫ7223，第295図）

ＳＫ7218の西側で検出した不整形の土坑である。北側は不明確で，西側はＳＫ7222に切られる。覆土は暗黄褐色土である。遺物には珠洲，唐津・伊万里，砥石がある。時期は18世紀である。西のＳＫ7222・ＳＫ7221とは切り合いがあるが，ほとんど同時期の遺構としたい。ＳＫ7221はＳＫ7222に切り合いで負け，遺物も中世土師器が出土しているが床面がほとんど変わらないことからも当時期の遺構であろう。

7224号土坑（ＳＫ7224，第295図）

ＳＫ7222の西で検出した不整形の土坑である。東西220cm，南北約95cm，深さ18cm である。西側の一部には集石が見られる。覆土は礫の混じる茶褐色粘質土の単層で，特に西側に礫が多い。遺物には唐津がある。

7231号土坑（ＳＫ7231，第294図）

Ｘ203Ｙ79で検出した長楕円形の土坑である。北端のＳＥ7232には切り合いでは勝っている。規模は南北288cm，東西170cm で，深さは北側が底が丸くて一段深く，55cm である。覆土は上面に薄く小礫の混じる黒灰色粘質土が堆積し，その下層には小礫の混じる茶灰色粘質土，最下層には小礫の混じる黒灰色粘質土となる。遺物には中世土師器・越前，越中瀬戸・唐津・伊万里，石臼がある。

7253号土坑（ＳＫ7253，第294図）

ＳＫ7218の南東で検出した長方形の土坑である。規模は南北148cm，東西180cm で断面形は落ち込み状である。覆土は小礫の混じる茶褐色粘質土が主体で，深さは最深部で22cm である。遺物は中世土師器・珠洲，越中瀬戸がある。

7300号土坑（ＳＫ7300，第290図）

Ｘ211･212Ｙ97で検出した方形の土坑である。南のＳＫ7301には切り合いで勝つ。規模は南北208cm，東西230cm で深さは14cm と浅く，床面は平坦である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・越前，越中瀬戸，羽口がある。

7302号土坑（ＳＫ7302，第290図）

Ｘ211～213Ｙ95･96で検出した不整方形の土坑である。中央を南北にＳＤ7319が走り，土坑の南端ではその上面に集石が見られた。ＳＤ7319は土坑より新しく，土坑内のＳＥ7465は土坑より古い。規模は南北400cm，東西305cm で壁は緩やかに立ち上がり，深さは28cm である。覆土は黄褐色土ブロックが混じる黒褐色粘質土で，最下層に薄く礫の混じる黄褐色砂質土が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・越前，唐津，羽口がある。

7325号土坑（ＳＫ7325，第294図）

Ｘ207Ｙ80で検出した長方形の柱穴である。断面に柱痕が見られるが，建物の規模が不明確のためここで述べることにする。規模は南北130cm，東西60cm，深さ50cm である。覆土は黄黒褐色土と茶黒褐色土が水平堆積する所に，黄黒褐色土・茶褐色土・褐色土の柱痕が残る。柱痕は上面で直径37cm，底で直径12cm を測る。覆土中からは中世土師器・青花，越中瀬戸・伊万里が出土している。時期は17世紀～18世紀である。

7355号土坑（ＳＫ7355，第293図，図版149）

ＳＤ7300の上面に重複する長楕円形の土坑である。南北は560cm を測り，深さは44cm で床面は平坦である。覆土は上面に茶黒色粘質土が堆積し，その下層には順に暗茶黒色粘質土，黒灰色粘質土，砂礫層となっている。ＳＫ7199と切り合う付近では南北に並ぶ７個の石列が見られ，上面はほぼ黒灰色

粘質土の上面にそろっている模様である。その東側には集石も見られる。従って，西側のＳＫ7201やＳＫ7199とは切り合いが見られるものの同時期の関連遺構と考える。遺物には中世土師器，越中瀬戸・唐津・伊万里があり，時期は18世紀である。

7510号土坑（ＳＫ7510，第296図，図版149）

Ｘ183～188Ｙ89，調査区東際で検出した長方形の土坑である。一部検出で東側は調査区外へ延びる。規模は南北10.3m，深さ52cm で壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。主軸は西にあるＳＤ7535と平行しており，同時存在の可能性がある。多数の遺構と切り合うが，ほとんどの遺構が土坑に勝っている。その中には土坑に伴うものもあると考えるが，建物までの検討にはいたらなかった。覆土は基本的には第１層黄茶褐色土粒が混じる暗茶褐色粘質土，第２層暗茶褐色土が混じる黄褐色粘質土，第３層黄褐色土が混じる焦茶色粘質土であるが，南側半分では第２層が見られなくなる。土坑内の遺構には第２層上面から掘り込むＳＫ7625やＳＫ7627があり，これらは土坑に伴う遺構であろう。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁，越中瀬戸・唐津，茶臼・石鉢がある。時期は16世紀後半～17世紀である。

7593号土坑（ＳＫ7593，第296図）

Ｘ180Ｙ86で検出した長方形の土坑である。規模は南北105cm，東西157cm である。壁の立ち上がりはしっかりしており，深さは47cm である。底は東に向けて深くなる。覆土は上層が茶褐色土が混じる黄褐色粘質土，中層が黄褐色粘質土が混じる茶褐色粘質土，下層が茶褐色粘質土である。遺物には唐津がある。

7611号土坑（ＳＫ7611，第296図）

Ｘ170Ｙ86で検出した方形の土坑である。周囲には多数の井戸が散在するが，その西側は遺構の空白地帯となっている。西肩で切り合うSE7623は土坑に負けているが，唐津が出土しており同じく近世の井戸である。規模は南北190cm，東西195cm で，床面は西側がやや深くなる。深さは45cm である。覆土は礫の混じる暗茶褐色土で最下層には黒褐色粘質土が堆積する。遺物には越中瀬戸・唐津がある。時期は17世紀である。

7805号土坑（ＳＫ7805，第298図）

Ｘ174･175Ｙ74で検出した長方形の土坑である。ＳＫ7806に切り合いで勝つ。規模は南北322cm，東西120cm，深さ22cm である。床面は平坦で，覆土は暗茶褐色粘質土，灰茶褐色砂質土が堆積する。北側，西南側には集石状に礫の堆積が見られる。遺物には越中瀬戸・唐津・伊万里がある。

7806号土坑（ＳＫ7806，第298図）

ＳＫ7805の西で検出した土坑である。ＳＫ7805に切られるため全長は不明である。深さは35cm，覆土は灰茶褐色砂質土で黒褐色粘質土が帯状に混じる。遺物には唐津・伊万里がある。

7810号土坑（ＳＫ7810，第298図）

Ｘ174Ｙ71で検出した長方形の土坑である。ＳＤ7960には切り合いで勝つ。南北245cm，東西125cm，深さ18cm である。覆土は上層が茶褐色粘質土，下層が暗茶褐色粘質土でともに黄褐色土が混じる。北側には部分的に礫の堆積が見られる。遺物には中世土師器・珠洲，越中瀬戸がある。

7820号土坑（ＳＫ7820，第297図）

ＳＤ7200とＳＤ7520の間の地区，Ｘ191･192Ｙ73･74で検出した土坑である。北側はＳＫ7821に切られ，南側は攪乱が入り，ＳＤ7520との切り合いは不明である。ＳＥ7822･ＳＥ7830にも肩を切られる。平面形は不整形で東西は315cm である。床面は平坦で，覆土はレンズ状に３層が堆積する。上から黒

褐色粘質土，黄褐色粘質土ブロックが混じる黒褐色粘質土，黄褐色土が少量混じる黒灰褐色粘質土である。遺物には中世土師器・瀬戸美濃，越中瀬戸・伊万里がある。

7821号土坑（ＳＫ7821，第297図）

ＳＫ7820の北で検出した長方形の土坑である。ＳＫ7820より新しい。規模は南北300cm，東西240cm，深さ30cmである。床面は平坦で，覆土は黄灰褐色粘質土と黒灰褐色粘質土の混土の単層である。遺物には中世土師器・瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津・伊万里，石鉢がある。時期は18世紀である。

8000号土坑（ＳＫ8000，第298図，図版150）

Ｘ172Ｙ72～74で検出した東西にやや長い楕円形の土坑である。規模は南北260cm，東西540cm，深さ35cmで，床面は平坦である。西側は攪乱を受けており，南側はＳＫ8001に切り合いで勝つ。内部ではＳＥ8022を検出したが，これは土坑よりも古いものである。覆土は主に礫の混じる黒褐色粘質土の単層で，小礫が南肩から流れ込むような形で堆積する。南側上面には一部茶褐色砂礫層が堆積する。北壁に沿って長さ約50cm大の９個の河原石を１列に並べており，東隅の石の隙間には石臼片と２個の河原石を埋めている。石の上面は土坑の上場に合わせて揃えてあり，土坑の深さに合わせて石の大きさを選別したことがわかる。遺物には中世土師器・珠洲・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里，石臼，鉄滓がある。時期は17・18世紀である。

8001号土坑（ＳＫ8001，第298図）

ＳＫ8000の南で検出した土坑である。ＳＫ8000，ＳＫ8002に切り合いで負け，これより床面が低い。規模は約南北290cm，東西240cmの長方形の土坑である。壁の立ち上がりはしっかりしており，深さは最深部で55cmを測る。南東隅のＳＥ8005は土坑より新しい。覆土は黒褐色粘質土に黄褐色粘質土のブロックが混じる土と黒褐色粘質土が堆積する。南西の上面には礫の堆積が見られる。遺物は中世土師器・珠洲・越前，越中瀬戸・唐津がある。時期は16・17世紀である。

8002号土坑（ＳＫ8002，第298図）

ＳＫ8001の南上面で検出した不整形な土坑である。規模は南北約275cm，東西約370cmである。北側には溝状に異なる覆土が堆積し，別遺構が切り合っているものと考えるが，プラン，切り合いに不明瞭な点が多い。覆土は北側の溝状部分には黒褐色粘質土，黒褐色粘質土と黄褐色粘質土ブロックの混土，茶灰色粘質土が堆積し，他のほとんどは小礫の混じる黒褐色粘質土が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里が出土している。時期は18世紀～19世紀である。

8003号土坑（ＳＫ8003，第298図）

ＳＫ8002の東で検出した長方形の土坑である。南北125cm，東西160cmで，西肩の立ち上がりはほとんどない。覆土は黒褐色粘質土で，上面には砂礫，黄褐色粘質土が混じる。遺物は16世紀末の中世土師器・珠洲が混じるが，周辺の遺構との関連から近世の遺構とする。

8080号土坑（ＳＫ8080，第298図）

Ｘ186Ｙ66，Ｂ３地区の西際で検出した長方形状の土坑である。西側は調査区外へ延び，南側は暗渠に切られる。北側はＳＫ8091に切られるが，壁の立ち上がりはしっかりしており床面も平坦である。覆土は茶褐色土が主体で，これに黒褐色土や黄褐色土が混じり合う土である。遺物には中世土師器，唐津・伊万里がある。時期は18世紀である。

8644号土坑（ＳＫ8644，第299図）

Ｘ210Ｙ65で検出した長方形の土坑である。南の浅いＳＤ8643，ＳＫ8666より新しい。規模は南北220cm，東西200cm，深さは18cmである。覆土は上層が礫と茶褐色粘質土が混じる黒褐色粘質土，下層が

暗黒褐色粘質土である。上層には南側を中心に多量の礫が混じる。遺物には越中瀬戸がある。

8688号土坑（ＳＫ8688，第299図）

Ｘ193Ｙ62，調査区西際で検出した楕円形の土坑である。南北110cm，東西約70cm，深さは８cmと浅い。覆土は黄褐色粘質土ブロックが混じる茶褐色粘質土の単層である。遺物には白磁，越中瀬戸がある。時期は17世紀である。

8712号土坑（ＳＫ8712，第299図）

Ｘ192Ｙ65，ＳＤ7520の上面で検出した土坑である。断面観察から柱穴の可能性があるが，ここで述べておく。規模は南北100cmで，東側は調査区外へ延びる。深さは65cmである。覆土は礫の混じる暗茶褐色粘質土に柱痕と考える黒褐色粘質土が円筒形に堆積する。柱痕は上面で直径38cm，底で直径22cmを測る。遺物には青磁，伊万里がある。

8934号土坑（ＳＫ8934，第300図，図版153）

Ｘ162・163Ｙ78～80で検出した長方形の土坑である。規模は南北305cm，東西645cm，深さ35cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。床面ではＳＫ8937など２基の穴を検出したが，いずれも土坑と同時期か，以前のものである。東肩で切り合うＳＥ8935，ＳＥ8936との切り合いはあまり明確ではなく，同時期あるいは若干新しいと考えている。覆土はしまった黒褐色土の単層で，南側上部から遺構外の南1.5mの範囲には黄褐色土・炭化物が微量に混じる暗茶褐色土が堆積する。遺物には15世紀後半の中世土師器・珠洲・16世紀の瀬戸美濃・青花，17世紀前半の越中瀬戸がある。時期は15世紀～17世紀である。

8942号土坑（ＳＫ8942，第299図）

ＳＫ8934の北で検出した不整形の土坑である。規模は南北最大幅160cm，東西455cmである。深さは55cmで，西側のアメーバー状に広がる部分は浅い。壁は南壁がほぼ垂直に立ち上がるのに対し北側は緩やかで，断面は逆三角形状となっている。覆土は深い部分は黒褐色土で，この下層に堅くしまる暗黄褐色土が堆積する。浅い部分は暗茶褐色土で，上面にはレンズ状に焼土・炭化物が多量に混入する黒褐色土が堆積する。遺物は唐津のみである。

8966号土坑（ＳＫ8966，第301図，図版153）

ＳＫ8952の南で検出した不整形の大型の土坑である。複数の土坑が切り合った形に見えるが，断面観察では大きな変化は見られない。規模は南北6.7m，東西14.5m，深さは東から西にかけてだらだらと深くなり48cmである。覆土は暗茶褐色土が主体で，部分的に黄褐色土が混じり，西側上面には西からの砂礫の混じる暗黄褐色土の流れ込みが観察できる。土坑の肩にかかる柱穴はほぼ同時期と考えており，土坑は建物に伴う遺構と考えている。床面及び肩で検出した井戸は，覆土の様子から土坑より古く，15世紀・16世紀の遺物が出土している。土坑からは，15世紀～16世紀の中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・志野・16世紀の白磁・15世紀の青磁，17世紀の越中瀬戸・唐津，石臼・石鉢が出土しており，時期は15世紀～17世紀である。また，中世後半で扱ったＳＫ8952とは位置的に互いを意識した位置関係にあり，ＳＫ8952の時期がやや新しくなり，同時期に存在していた可能性もある。総体的にこの地区の遺構は15世紀～17世紀の時期に集約されており，特に土坑は大きな時期差はなく，それぞれが関連をもった遺構であろう。

Ｃ地区

9127号土坑（ＳＫ9127，第302図，図版154）

Ｘ145Ｙ71で検出した浅い長方形の土坑である。規模は南北244cm，東西180cm，深さ15cmである。

壁の立ち上がりは緩く，床面も平坦ではない。覆土は上面に薄く黒褐色土が堆積し，その下層に礫の混じる茶褐色土，赤茶褐色粘質土が堆積する。遺物には珠洲・16世紀の瀬戸美濃・13世紀の白磁・15世紀の青磁，17世紀の唐津がある。時期は16世紀・17世紀である。

9129号土坑（ＳＫ9129，第302図，図版154）

Ｘ146～149Ｙ74･75で検出したやや大型の長方形の土坑である。規模は南北が590cm，東西が370cmである。北側が開くややいびつな形をしており，東肩のＳＫ9214には切り合いで負ける。覆土は上層が黄褐色砂礫層で，暗黄褐色土・黒褐色土・茶褐色土などが混じり込む。下層は黒褐色粘質土である。遺物には15世紀後半の中世土師器・珠洲・越前・16世紀の瀬戸美濃・志野・青磁，越中瀬戸・17世紀の唐津がある。時期は15世紀～17世紀である。

9320ｂ号土坑（ＳＫ9320ｂ，第302図）

Ｘ128･129Ｙ65～67で検出した台形状の土坑である。南北420cm，東西420cm，深さ28cmを測る。床面は平坦で，覆土は上面に灰褐色粘質土が堆積し，掘形の外側にも広がる。この下層には部分的に地山ブロックが混じる暗灰褐色粘質土が堆積し，最下層に面的に黒褐色粘質土が堆積する。遺物には珠洲・越前・白磁，越中瀬戸・唐津・伊万里，石硯がある。時期は16世紀・17世紀である。

9371号土坑（ＳＫ9371，第303図，図版155）

Ｘ140～148Ｙ63～66，ＣＳ地区・Ｃ１地区にまたがる細長い土坑で，溝の可能性もある。規模は南北17m，東西360cm～560cmである。遺構内のＸ141Ｙ63で検出したＳＥ9372は土坑より古い。東側にはＳＤ9379が並存し，一部石列によって区切られる。また，Ｘ145Ｙ63でＳＤ9376・ＳＫ9466と接し，共に石列によって区切られて共存する。ＳＫ9371の覆土は南側は単純な３層に分けられる。上層が地山と茶褐色土の混土，中層が地山が混じる暗灰褐色粘質土，下層が黒褐色粘質土で，上層と中層の間には所により地山ブロックが見られる。この地山ブロックは北にいくにつれて顕著になり，東肩に厚く堆積する。ＳＤ9376との境の石列はＳＤ9376に向って面を取っており，ＳＫ9466との境の石列も同様であったと考える。ＳＤ9376はその堆積状況化からＳＫ9466を埋めて石列を設けて造られたことがわかる。従ってＳＤ9376も溝とはしているが，ＳＫ9371に伴う土坑の可能性が高い。石列の下から検出されたＳＥ9427・ＳＥ9443はＳＫ9466には伴わず，これらより古いものである。ＳＫ9371からは唐津，石臼，加工木が出土している。時期は17世紀である。

9606号土坑（ＳＫ9606，第304図）

Ｘ105～107Ｙ73･74，調査区東際で検出した長方形のやや浅い土坑である。東は調査区外へ延びる。南北は515cm，壁の立ち上がりは緩やかで西側は二段になっており，北東部では内壁は残るが，外壁は不明瞭になる。SE9608との切り合いは土坑が勝つ。床面はほぼ平坦であるが南側は楕円形状に窪む。覆土は暗灰褐色粘質土で，最下層の黒褐色粘質土は部分的，または窪む所に堆積する。遺物には中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花，越中瀬戸・唐津があり，上面から伊万里が出土している。時期は16世紀・17世紀前半である。

9608号土坑（ＳＫ9608，第304図）

ＳＫ9606の西で検出した三角形状の土坑である。南北344cm，南辺で東西252cmで，深さは12cmである。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。遺物は越中瀬戸がある。南に隣接するＳＫ9609は，ＳＫ9608と東西辺が平行しており，かつ覆土も同じことから遺物の出土はないが関連遺構と考える。

9683号土坑（ＳＫ9683，第308図）

Ｘ113Ｙ71で検出した円形の土坑である。直径215cm，深さ22cm，床面は比較的平坦である。東のＳ

K9690には切り合いで勝っている。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器・珠洲，越中瀬戸・唐津が出土している。時期は17・18世紀である。

9684号土坑（ＳＫ9684，第308図）

ＳＫ9683の南で検出した不整形の土坑である。ＳＫ9684，ＳＤ9670には切り合いで勝つ。規模は南北270cm，東西500cm，深さ35cmである。覆土は主に地山が混じる茶褐色土で，最下層に地山の混じる暗灰色粘質土が薄く堆積する。遺物には中世土師器・珠洲があるが，ＳＫ9685との切り合いから当時期の遺構と判断する。

9685号土坑（ＳＫ9685，第308図）

ＳＫ9683の南東で検出した円形の土坑である。直径は約300cm，深さ44cmである。北のＳＫ9690には切り合いで勝ち，西のＳＫ9684には覆土の切り合いで負けるが，床面の高さは変わらない。覆土は上層が茶褐色土に地山と炭化物が多く混じる土で，この下には茶褐色粘質土，暗灰色粘質土が堆積する。中層は黄褐色粘質土（地山）が約10cmの厚さで堆積する。最下層は地山の混じる暗灰色粘質土である。遺物は瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は16・17世紀である。

9689号土坑（ＳＫ9689，第304図）

Ｘ110～112Ｙ104・105，調査区東際で検出した不整形の土坑である。東側は調査区外へ延びる。南北は530cm，壁の立ち上がりは緩やかで，南側の切り合いは不明である。北側中央は長方形状に一段くぼむ。床面は平坦で，覆土は暗茶褐色粘質土が主体の土である。遺物は越前・瀬戸美濃，唐津・伊万里，石鉢がある。時期は16世紀・18世紀初である。

9702号土坑（ＳＫ9702，第308図）

Ｘ115・117Ｙ70・71で検出した長方形の土坑である。北側のＳＫ9710とＳＫ9732に切り合いで負ける。規模は南北420cm，東西302cm，深さは46cmである。壁の立ち上がりは直角に近く，床面は平坦である。覆土は茶褐色土・灰茶褐色粘質土・黒褐色粘質土などの土で，酸化鉄を多く含み，薄い層をなしているところもある。また炭化物が混じる層もある。遺物には中世土師器・瀬戸美濃，唐津がある。時期は16世紀・17世紀後半である。

9704号土坑（ＳＫ9704，第304図）

ＳＫ9689の北で検出した長方形の土坑である。東側は調査区外へ延びる。東西に走るＳＤ9703，南のＳＫ9733には切り合いで勝っている。床面は平坦，覆土は暗茶褐色粘質土で，最下層に薄く黒褐色粘質土が堆積する。遺物の出土はないが，ＳＤ9703から16世紀の青花が出土していることから，16世紀以降の時期となる。

9783号土坑（ＳＫ9783，第305図）

Ｘ126・127Ｙ76・77で検出した三角形状の土坑である。北のＳＫ9782，南のＳＫ9778には切り合いで勝っている。規模は最大長320cm，最大幅240cm，深さは12cmと浅く，床面は平坦である。覆土は暗茶褐色粘質土で，ＳＫ9782・ＳＫ9778とは覆土の違いのみで，床面の高さは変わらない。遺物には中世土師器，唐津がある。時期は17世紀前半である。

9803号土坑（ＳＫ9803，第306図）

Ｘ130・131Ｙ73～75で検出した半円形状の土坑である。西のＳＥ9874より新しい。東西の溝状の遺構にも切り合いで勝つ。規模は南北356cm，東西420cm，深さ20cmである。床面は平坦で，覆土は黄褐色土が混じる茶褐色粘質土の単層である。遺物は中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花，唐津がある。

9850号土坑（ＳＫ9850，第306図，図版156）

ＳＫ9803の東に位置する不整長方形の土坑である。北のＳＫ9851との切り合いは，ＳＫ9850がかろうじて勝つが，ほとんど時期差はなく，関連遺構の可能性のほうが高い。またＳＫ9850の下層からＳＢ195が確認されている。規模は南北660cm，東西380cm，深さ20cmである。覆土は黄褐色土ブロックが混じる黒褐色土または茶褐色土で，最下層は黒褐色粘質土が堆積する。これを除去すると砂礫層（地山）となり，湧水が見られた。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・志野，越中瀬戸・唐津，砥石がある。時期は17世紀前半である。

9852号土坑（ＳＫ9852，第306図）

ＳＫ9851の東に位置する土坑で，切り合いで勝っている。規模は南北240cm，東西304cmの長方形で，深さ28cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は南側がやや深くなる。覆土は主に上層が黄褐色土ブロックが混じる暗茶褐色土で，下層は暗茶褐色粘質土である。遺物には瀬戸と唐津がある。時期は17世紀である。

9859号土坑（ＳＫ9859，第309図）

Ｘ130Ｙ72・73でＳＫ9860と切り合う長方形の土坑である。切り合いはＳＫ9860に勝つが，ＳＤ9323には負ける。規模は南北268cm，東西約350cm，深さ32cmである。内部で検出したＳＥ9817・ＳＥ9819・ＳＥ9918，溝状の遺構は土坑の床面で検出したものである。覆土は主に茶灰色土に黄褐色土ブロック・酸化鉄が混じる土である。北肩にはＳＤ9324の覆土の上面に黄褐色土（地山）ブロックを意識的に貼って，肩を作っているように見える。遺物には中世土師器・珠洲・青磁，唐津・伊万里がある。

9860号土坑（ＳＫ9860，第309図）

Ｘ130・136Ｙ73～78で検出した東西に長い溝状の土坑である。ＳＤ9324に続く可能性もある。ＳＫ9865・ＳＫ9870には切り合いで勝つが，ＳＫ9859には負ける。南北幅は220cm～270cm，床面は平坦で礫面となり，暗茶褐色粘質土が主体に堆積する。下層はやや粘性が強くなり，自然木などの植物遺体の遺存も見られた。また，Ｘ136Ｙ74付近では長さ約３ｍにわたって北肩から礫の流れ込みが見られ，なんらかの土塁状の施設があった可能性もある。これらのことからも溝の性格が強いと言え，溝とするならばＳＤ9324，ＳＤ9341とともに「コ」字状の区画をつくることになる。遺物は珠洲，唐津が出土しており，時期は17世紀である。

9863号土坑（ＳＫ9863，第309図）

Ｘ138・139Ｙ75・76で検出した不整形の土坑である。規模は南北280cm，東西130cmである。平面形は掘り過ぎで若干大きくなっている。深さは20cmで，覆土は黄褐色土ブロックが混じる暗茶褐色土である。遺物には中世土師器，越中瀬戸がある。

9868号土坑（ＳＫ9868，第309図）

Ｘ139・140Ｙ72・73で検出した方形の土坑である。１基の土坑と判断し掘り進んだが，断面観察などから２基の土坑が切り合っているものとわかった。東側の土坑は西より新しく，床面が凸凹である。覆土は黄褐色土が混じる暗茶褐色土である。東のＳＥ9884は土坑より新しい。西側の土坑は三角形状で深さは26cm，覆土は東より明るい暗茶褐色土である。南のＳＫ9867とは切り合いはなく，接するのみである。遺物は珠洲・瀬戸美濃・青花，越中瀬戸が出土し，時期は16世紀・17世紀前半である。

9885号・9886号土坑（ＳＫ9885・ＳＫ9886，第221図）

Ｘ141・142Ｙ71～73，ＣＳ地区とＣ１地区の境目かつＣ１地区の東西の境目に位置する土坑で，遺構のつながりが不明確となってしまっている。ＳＫ9885は，壁の立ち上がりがしっかりし，床面が平坦な土坑で，西側をＳＫ9886に切られる。覆土は黄褐色土ブロックが混じる暗茶褐色土の単層で，深さ

20cmである。遺物は土器の他に石臼，羽口がある。ＳＫ9886は深さ48cmで，床面がやや凸凹している。ＳＫ9170と関連するものであろう。覆土は上層が茶褐色土，下層が礫の混じる黒褐色粘質土である。遺物はＳＫ9885とＳＫ9886と合わせて，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁，越中瀬戸・唐津，石鉢が出土している。時期は17世紀前半である。

10171号土坑（ＳＫ10171，第307図，図版156）

Ｘ71～73Ｙ57～59で検出した長方形の土坑である。規模は南北310cm，東西600cm，壁の立ち上がりは比較的緩やかで，深さは16cmと浅い。覆土は黒褐色粘質土の単層である。床面は平坦で，西肩で検出した土坑は同時期，あるいは以前のものであろう。圃場整備の削平によって東側・南側にはほとんど遺構がなく，関連遺構と考えるものには南に近接する柱根をもつＳＫ10165・ＳＫ10211・ＳＫ10210などがあり，同時期の遺物を出土する遺構としては南西方向にＳＥ10166があるのみである。出土遺物には15世紀後半の中世土師器・16世紀の越前・瀬戸・瀬戸美濃・青磁・16世紀の青花，越中瀬戸・17世紀前半の唐津がある。木製品には箸と下駄がある。

10318号～10321号土坑（ＳＫ10318～ＳＫ10321，第310図）

Ｘ31～36Ｙ35～40で検出した浅い長方形の落ち込みである。この中でまた一段くぼむものにそれぞれ遺構番号を付したが，覆土もほとんど変わらず同一遺構と扱うこととする。覆土は黒褐色粘質土，または黄褐色土ブロックが混じる黒褐色粘質土である。床面は平坦で，深さは深いところで30cm（ＳＫ10318），浅いところで10cmである。遺物はＳＫ10318からは珠洲・越前・瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津，漆器，ＳＫ10319からは中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃・青磁，唐津・伊万里，ＳＫ10320からは中世土師器・瀬戸美濃・青花，ＳＫ10321からは中世土師器・瀬戸美濃・青磁が出土している。時期は15世紀～17世紀のものが出土しており，一定量出土していることから何らかの人為的遺構と考える。東にある長方形の落ち込みＳＫ10333も同様のものである。

10322号土坑（ＳＫ10322，第311図）

ＳＫ10318～ＳＫ10321の北に位置する長方形の土坑である。規模は南北11.7m，東西4.7mである。床面は平坦で，ＳＸ10326に切られ，16世紀のＳＤ10323に勝つ。覆土は黄褐色土ブロックが混じる黒褐色粘質土の単層である。床面は平坦で，壁の立ち上がりは緩い。遺物には中世土師器・瀬戸美濃があり，時期的にもＳＫ10318～ＳＫ10321と同時期であろう。　　（宮田進一　島田美佐子）

遺構番号	整理番号	地　区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆　　土	出　土　遺　物	備　　考	時　　期
SK706	SK06	A 1	円形	80	－	48	暗茶褐色土	中世土師器・唐津・伊万里		
SK707	SK07	A 1	楕円形	130	65	40	暗茶褐色土	伊万里		18C～
SK709	SK09	A 1	方形	350	260	85	暗灰茶褐色粘質土	須恵器・中世土師器・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里		18C
SK714	SK14	A 1	円形	50	－	35	暗灰茶褐色粘質土	中世土師器・唐津・伊万里		18C～
SK716	SK16	A 1	方形	260	225	62	暗灰茶褐色粘質土	中世土師器・唐津・伊万里・明治末磁器		
SK721	SK21	A 1	円形	107	－	35	暗茶褐色粘質土	伊万里		
SK797	SK97	A 1	方形	175	140	15	暗茶褐色土	中世土師器・伊万里		18C
SK803	SK103	A 1	楕円形	140	60	55	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・唐津		
SK832	SK132	A 1	方形	330	170	60	暗茶褐色土	白磁・越中瀬戸・伊万里		
SK833	SK133	A 1	方形	345	245	28	暗茶灰色土	中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK871	SK171	A 1	方形	600	500	30	暗茶褐色粘質土	土師器・中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里	SK871＞SK1216＞SE1215	17C後半～18C前半
SK872	SK172	A 1	方形	280	270	32	暗灰茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・唐津		17･18C
SK873	SK173	A 1	方形	350	325	25	暗茶褐色粘質土	須恵器・中世土師器・志野・白磁・越中瀬戸・唐津・京焼き		13･16･17･18C
SK901	SK201	A 1	楕円形	90	50	47	暗茶褐色土	越中瀬戸		
SK1317	SK617	A 1	不整形	270	190	35	暗茶褐色粘質土	中世土師器・伊万里		
SK1319	SK619	A 1	方形	300	200	45	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里		18C
SK1320	SK620	A 1	楕円形	－	126	33	暗黒茶褐色粘質土	中世土師器・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・		18C
SK1321	SK621	A 1	方形	491	135	40	暗灰褐色粘質土	中世土師器・青磁・唐津・伊万里・九谷		
SK1326	SK626	A 1	方形	165	130	50	暗灰褐色粘質土	中世土師器・白磁・越中瀬戸	風倒木痕	
SK1335	SK635	A 1	方形	340	175	53	暗茶褐色粘質土	－		
SK1340	SK640	A 1	楕円形	175	95	40	暗茶褐色粘質土	－		
SK1341	SK641	A 1	－	195	－	45	暗黄褐色粘質土	中世土師器・志野・越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK1342	SK642	A 1	－	－	－	20	暗茶褐色粘質土	－		
SK1343	SK643	A 1	楕円形	125	108	25	暗茶褐色粘質土	中世土師器		
SK1351	SK651	A 1	－	900	135	100	暗茶褐色粘質土	中世土師器・唐津		
SK1352	SK652	A 1	－	325	60	13	暗茶褐色粘質土	中世土師器・青磁		
SK1353	SK653	A 1	不整形	1000	157	32	暗茶褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK1354	SK654	A 1	不整形	315	50	65	暗灰褐色粘質土	中世土師器・越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK1355	SK655	A 1	不整形	320	82	28	暗灰色粘質土	－		
SK1356	SK656	A 1	楕円	595	68	70	暗黄褐色粘質土	中世土師器・白磁・越中瀬戸		
SK1358	SK658	A 1	方形	325	235	19	黒褐色粘質土	－		
SK1359	SK659	A 1	方形	310	265	17	暗灰褐色粘質土	中世土師器・唐津・石鉢		
SK1360	SK660	A 1	円形	180	155	17	暗茶褐色粘質土	中世土師器・越前・青磁		
SK1365	SK665	A 1	方形	－	－	69	暗茶褐色粘質土	中世土師器・越中瀬戸・唐津・伊万里・石硯		
SK1366	SK666	A 1	方形	670	－	11	暗茶褐色粘質土	中世土師器・唐津		
SK1404	SK704	A 1	方形	500	410	57	暗茶褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸・石硯・五輪塔		18C
SK1405	SK705	A 1	方形	520	500	52	暗茶灰色粘質土	青磁・唐津		
SK1425	SK725	A 1	方形	400	330	42	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津		17C前半
SK1431	SK731	A 1	不整形	340	160	40	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・唐津		
SK1437	SK737	A 1	方形	130	123	69	暗茶褐色粘質土	－		
SK1438	SK738	A 1	－	－	－	20	黒茶褐色土	－		
SK1439	SK739	A 1	－	－	－	26	暗茶褐色土	－		
SK1895	SK1195	A 1	方形	99	59	25	－	中世土師器・瀬戸美濃・唐津・伊万里		
SK2061	SK1361	A 1	方形	347	77	42	－	中世土師器・珠洲・白磁・伊万里		
SK2219	SK19	A 2	円形	120	113	46	灰褐色粘質土	中世土師器・越前・伊万里		18C
SK2221	SK21	A 2	不整形	292	－	50	－	中世土師器・火舎・珠洲・越中瀬戸・伊万里		13C後半・18C
SK2222	SK22	A 2	方形	120	72	23	灰褐色粘質土	中世土師器・伊万里		14･18C
SK2223	SK23	A 2	方形	122	118	68	灰茶褐色土	中世土師器・越中瀬戸・唐津・伊万里		18C
SK2230	SK30	A 2	方形	355	242	38	褐色土	中世土師器・唐津		
SK2232	SK32	A 2	方形	514	240	45	茶褐色土	中世土師器・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津		13･14C
SK2236	SK36	A 2	方形	450	355	80	茶褐色土	越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK2237	SK37	A 2	－	－	－	－	茶褐色土	唐津		
SK2241	SK41	A 2	不整形	215	90	25	褐色土	中世土師器・伊万里		18C
SK2242	SK42	A 2	不整円形	175	100	20	暗黄褐色土	中世土師器・伊万里		18C
SK2253	SK53	A 2	方形	90	80	36	茶灰褐色土	中世土師器・伊万里		
SK2454	SK254	A 2	方形	217	104	42	灰褐色土	越中瀬戸・瀬戸		18C
SK2469	SK269	A 2	不整円形	244	222	45	灰茶褐色土	中世土師器・白磁・越中瀬戸・唐津		14･15C
SK2487	SK287	A 2	方形	170	148	39	灰褐色土	縄文土器・中世土師器・越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK2491	SK291	A 2	方形	282	172	30	茶褐色土・砂礫	中世土師器・珠洲・伊万里		18C
SK3008	SK08	A 3 N	不整形	385	350	14	茶褐色土	唐津		
SK3017	SK17	A 3 N	方形	200	160	36	黒褐色土・褐色土	須恵器・珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸	SK3017＞SK3016	
SK3414	SK14	A 3 S	楕円形	193	170	20	黒褐色砂質土	伊万里		18C
SK3549	SK149	A 3 S	楕円形	100	54	55	茶褐色粘質土	中世土師器・青花・伊万里		18C
SK4009	SK609	A 3 S	方形	392	－	30	灰褐色土	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・瀬戸・信楽・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK4338	SK38	B 1	方形	100	75	61	茶褐色粘質土他	中世土師器・珠洲		15･17C
SK4389	SK89	B 1	円	45	38	32	暗茶褐色粘質土・礫	中世土師器・珠洲		15･16･17C？
SK4820	SK20	B	方形	222	200	26	黒褐色粘質土・砂質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津		15･16･17C
SK4823	SK23	B	方形	410	265	24	－	越中瀬戸		17C前半
SK4830	SK30	B	楕円形	62	33	15	－	中世土師器・珠洲・越中瀬戸		
SK4837	SK38	B	楕円形	165	80	13	－	中世土師器・越中瀬戸		17･18C
SK4871	SK71	B	楕円形	60	35	49	－	越前・唐津		17C
SK5051	SK2051	B 2 N	不整形	1100	610	50	暗茶褐色粘質土	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・火舎・五輪塔・石鉢・漆器・下駄・底板・銅銭		
SK5051b	SK2051b	B 2 N	方形	550	490	40	暗茶灰色粘質土	唐津		
SK5132	SK2132	B 2 N	方形	450	－	50	暗褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸美濃・加賀・白磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・砥石・下駄		
SK5151	SK2151	B 2 N	楕円形	440	270	33	褐色粘質土	越中瀬戸		
SK5331	SK2331	B 2 N	楕円形	925	850	24	黒色土	中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・青磁・唐津・羽口・鉄滓		15･17C
SK5435	SK5435	B 2 N	楕円形	600	310	35	暗黒灰色粘質土	中世土師器・越前・瀬戸美濃・白磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・石臼		17･18C
SK5436	SK2436	B 2 N	方形	440	440	30	灰茶褐色粘質土	土師器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・越中瀬戸		13･14･15･16C
SK5437	SK2437	B 2 N	楕円形	260	150	22	暗灰褐色粘質土	中世土師器		
SK5445	SK2445	B 2 N	方形	590	450	36	暗黒灰色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・白磁・青磁	SK5445＞SK5474	15C
SK5474	SK2474	B 2 N	方形	－	330	36	暗灰色粘質土	中世土師器・伊万里		15･18C後半

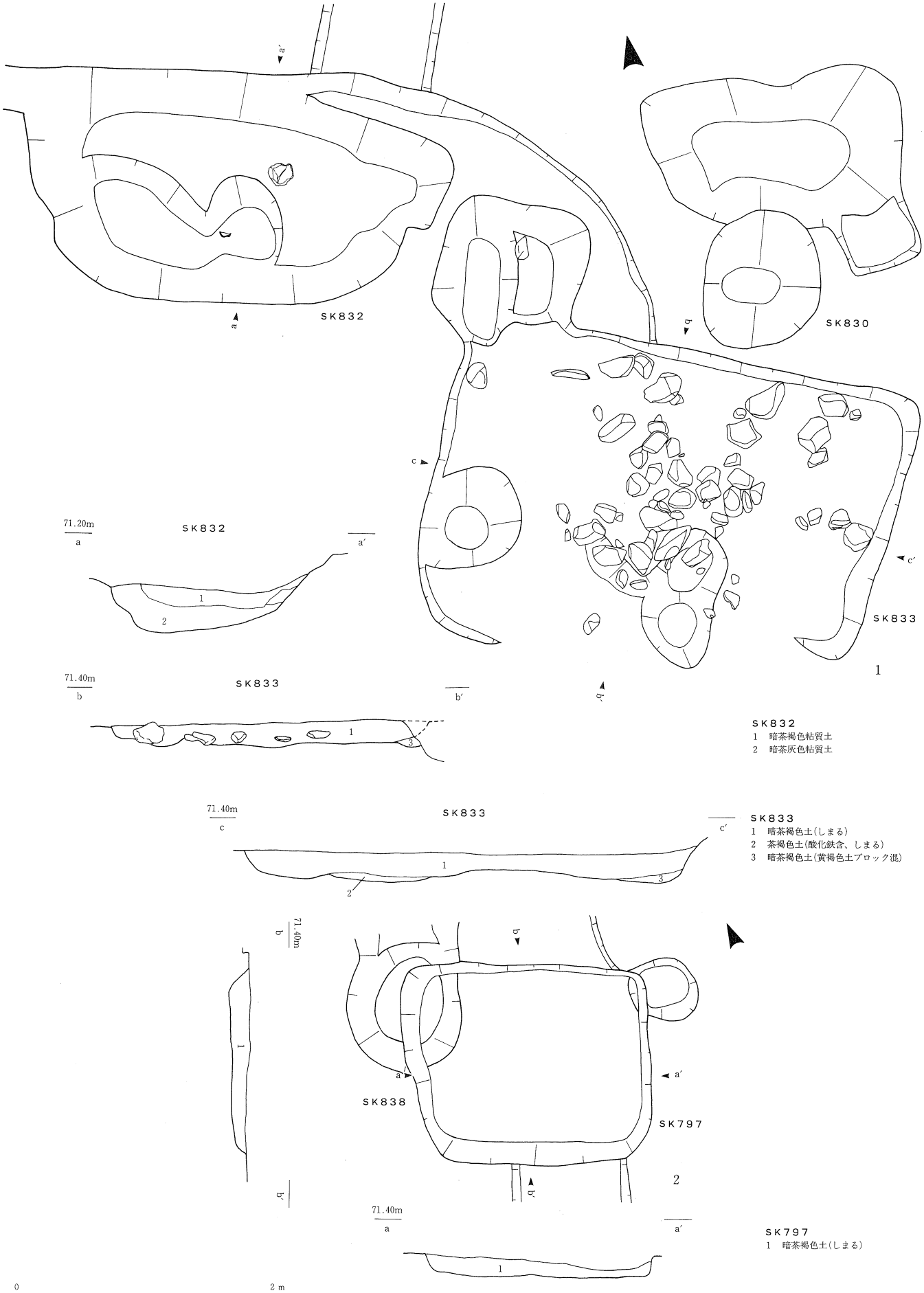
第16表　土坑(近世)一覧(1)

遺構番号	整理番号	地　区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆　　土	出　土　遺　物	備　　考	時　　期
SK5485	SK2485	B 2 N	方形	195	185	50	乳灰色粘質土	中世土師器		
SK5486	SK2486	B 2 N	方形	255	200	23	暗黒灰色粘質土	瀬戸美濃・青花・唐津		16C後半・17C
SK5492	SK2492	B 2 N	方形	300	220	40	黒色粘質土	瀬戸美濃		
SK5526	SK2526	B 2 N	−	−	−	15	黄褐色土	中世土師器・唐津		
SK5527	SK2527	B 2 N	方形	260	205	40	黄褐色土	越中瀬戸・加工木		
SK5740	SK2740	B 2 N	−	−	−	20	暗褐色粘質土	唐津		
SK5906	SK06	B 2	不整形	520	160	32	暗褐色粘質土	瀬戸美濃・唐津・瀬戸・加工石		17C前半
SK5916	SK16	B 2	方形	235	95	47	暗灰褐色粘質土	越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK5957	SK57	B 2	方形	265	250	60	暗褐色土と黄褐色土と褐色土の混土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・唐津	SK5966＞SK5957	
SK5958	SK58	B 2	方形	290	−	50	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青花		
SK5973	SK73	B 2	楕円形	165	155	45	暗褐色粘土	中世土師器・珠洲・唐津・伊万里・加工石		18･19C
SK5990	SK90	B 2	方形	860	820	48	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・石臼・五輪塔		17C末～18C前半
SK5991	SK91	B 2	方形	323	240	35	暗褐色粘質土	中世土師器・輸入陶磁器・越中瀬戸・唐津・石臼		17C前半
SK5997	SK97	B 2	不整形	455	240	20	暗灰褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・越中瀬戸・伊万里		17C前半
SK6042	SK142	B 2	方形	225	150	15	暗褐色粘質土	中世土師器・唐津		
SK6043	SK143	B 2	方形	120	115	18	暗褐色粘質土	−		
SK6047	SK147	B 2	方形	370	195	31	暗褐色粘質土	越中瀬戸・唐津・伊万里		
SK6048	SK148	B 2	方形	−	93	51	暗褐色粘質土	瀬戸美濃・唐津		
SK6049	SK149	B 2	不整形	−	76	45	暗褐色粘質土	−		
SK6100	SK200	B 2	方形	500	500	37	褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・信楽・白磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・瀬戸・石臼・茶臼・切石	遺構2の可能性あり	16･17C後半･18C後半
SK6109	SK209	B 2	方形	297	170	40	暗褐色粘質土	中世土師器・唐津・伊万里		18C
SK6120	SK220	B 2	不整形	430	−	51	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青花・唐津・伊万里・漆器・銅製品		17C
SK6121	SK221	B 2	方形	405	233	63	黄褐色砂質土	中世土師器・珠洲・唐津・伊万里		
SK6217	SK317	B 2	方形	225	145	40	暗褐色粘質土	瀬戸		
SK6219	SK319	B 2	方形	185	150	67	暗褐色粘質土	中世土師器・越中瀬戸・唐津・伊万里		18C
SK6274	SK374	B 2	方形	−	450	55	暗褐色粘質土	中世土師器・越前・越中瀬戸・唐津・伊万里		17･18C
SK6279	SK379	B 2	方形	140	120	53	灰褐色粘質土	瀬戸		17C後半･18C
SK6282	SK382	B 2	方形	295	250	35	黒褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・信楽・越中瀬戸・坩堝		16･17C初
SK6286	SK386	B 2	方形	−	71	29	暗褐色粘質土	−		
SK6287	SK387	B 2	不整方形	225	−	39	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・唐津		
SK6292	SK392	B 2	方形	372	293	40	黒褐色粘質土	中世土師器・切石		
SK6298	SK398	B 2	方形	250	226	42	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・伊万里・坩堝		
SK6305	SK405	B 2	方形	333	240	35	黄褐色粘質土	中世土師器・珠洲・焼石・鉄製品		
SK6310	SK410	B 2	方形	520	205	22	黒褐色粘質土	中世土師器・越前・唐津・伊万里		18C
SK6315	SK415	B 2	方形	120	90	18	黒褐色粘質土	中世土師器・唐津・伊万里・坩堝		
SK6335	SK435	B 2	方形	400	350	32	暗褐色粘質土	土師器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・唐津・羽口・坩堝・鉄製品		
SK6336	SK436	B 2	不整楕円形	250	165	57	暗茶褐色土	中世土師器・越前・白磁・青花・越中瀬戸・唐津・加工木		16C後半
SK6609	SK709	B 2	方形	212	205	95	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・唐津		15･16･17C
SK6714	SK814	B 2	方形	200	138	14	褐色粘質土	−		
SK7109	SK09	B 3	楕円形	313	230	35	黒褐色土	須恵器・越中瀬戸		
SK7114	SK14	B 3	方形	850	180	20	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里		17･18C
SK7119	SK19	B 3	円形	107	−	47	暗茶褐色粘質土	越中瀬戸		
SK7120	SK20	B 3	楕円形	142	60	37	暗茶褐色粘質土	−		
SK7121	SK21	B 3	円形	105		34	黒褐色粘質土	越中瀬戸		
SK7133	SK33	B 3	方形	85	65	19	焦茶色粘質土	越中瀬戸		
SK7134	SK34	B 3	楕円形	100	45	54	暗茶褐色粘質土	越中瀬戸		17C
SK7149	SK49	B 3	方形	360	264	32	明茶褐色土	中世土師器・珠洲・青磁・瀬戸・唐津	近代の土坑（以速寺の不燃物坑）	18･19･20C
SK7151	SK51	B 3	楕円形	57	30	14	焦茶色粘質土	−		
SK7155	SK55	B 3	楕円形	300	155	17	黒褐色粘質土	縄文土器・中世土師器・唐津・伊万里		18C
SK7180	SK80	B 3	方形	1050	850	10	黒灰色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里		15･17～19C
SK7182	SK82	B 3	方形	505	405	20	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里		16･17･18C
SK7190	SK90	B 3	不整形	265	94	20	茶褐色土	唐津・伊万里		18C
SK7199	SK99	B 3	不整形	570	422	68	黄褐色粘質土	中世土師器・珠洲・加賀・越中瀬戸・唐津・伊万里		17･18･19C
SK7201	SK101	B 3	楕円形	692	584	50	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・加賀・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里		18C
SK7218	SK118	B 3	方形	205	150	44	茶褐色礫	中世土師器・越中瀬戸・唐津・砥石		18C
SK7223	SK123	B 3	不整形	149	87	15	暗黄褐色土	珠洲・唐津・伊万里		18C
SK7224	SK124	B 3	不整形	220	95	18	茶褐色粘質土	唐津？		
SK7231	SK131	B 3	楕円形	288	170	55	茶灰色粘質土	中世土師器・越前・越中瀬戸・唐津・伊万里・近代陶磁器・石臼		
SK7253	SK153	B 3	方形	180	148	22	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越中瀬戸		
SK7300	SK200	B 3	方形	230	208	14	黒褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・越中瀬戸・羽口・銅銭		
SK7302	SK202	B 3	不整方形	400	305	28	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・唐津・羽口		15C後半～16C
SK7307	SK207	B 3	方形	283	85	22	黒褐色粘質土	伊万里		17C
SK7322	SK222	B 3	円形	70	−	13	茶黒褐色土	唐津・伊万里		17C後半～18C初
SK7325	SK225	B 3	方形	130	60	50	黄黒褐色土	中世土師器・青花・越中瀬戸・伊万里		17･18C
SK7355	SK255	B 3	楕円形	−	560	44	茶黒色粘質土	中世土師器・越中瀬戸・唐津・伊万里		15･16･18C
SK7373	SK273	B 3	楕円形	38	25	−	焦茶色粘質土	越中瀬戸		17C～
SK7460	SK360	B 3	−	−	−	−	−	中世土師器・珠洲・唐津・伊万里		
SK7510	SK410	B 3	方形	1030	−	52	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸・唐津・茶臼・石鉢		16C後半～17C
SK7528	SK428	B 3	方形	330	112	54	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・唐津・伊万里		18C
SK7550	SK450	B 3	−	−	−	−	−	唐津		
SK7568	SK468	B 3	方形	250	80	17	黄褐色土	中世土師器・珠洲・唐津		
SK7593	SK493	B 3	方形	157	105	47	黄褐色粘質土	唐津		
SK7611	SK511	B 3	方形	195	190	45	暗茶褐色土	越中瀬戸・唐津		17C
SK7639	SK539	B 3	方形	350	105	37	黄褐色土	その他（近世陶器）		
SK7800	SK700	B 3	方形	426	250	24	黒褐色土	越前・青磁・越中瀬戸		
SK7805	SK705	B 3	方形	322	120	22	暗茶褐色粘質土	越中瀬戸・唐津・伊万里		18C
SK7806	SK706	B 3	方形	−	149	35	灰茶褐色砂質土	唐津・伊万里		18C
SK7810	SK710	B 3	方形	245	125	18	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越中瀬戸		
SK7820	SK720	B 3	不整形	−	315	50	黒褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・加賀・越中瀬戸・伊万里		

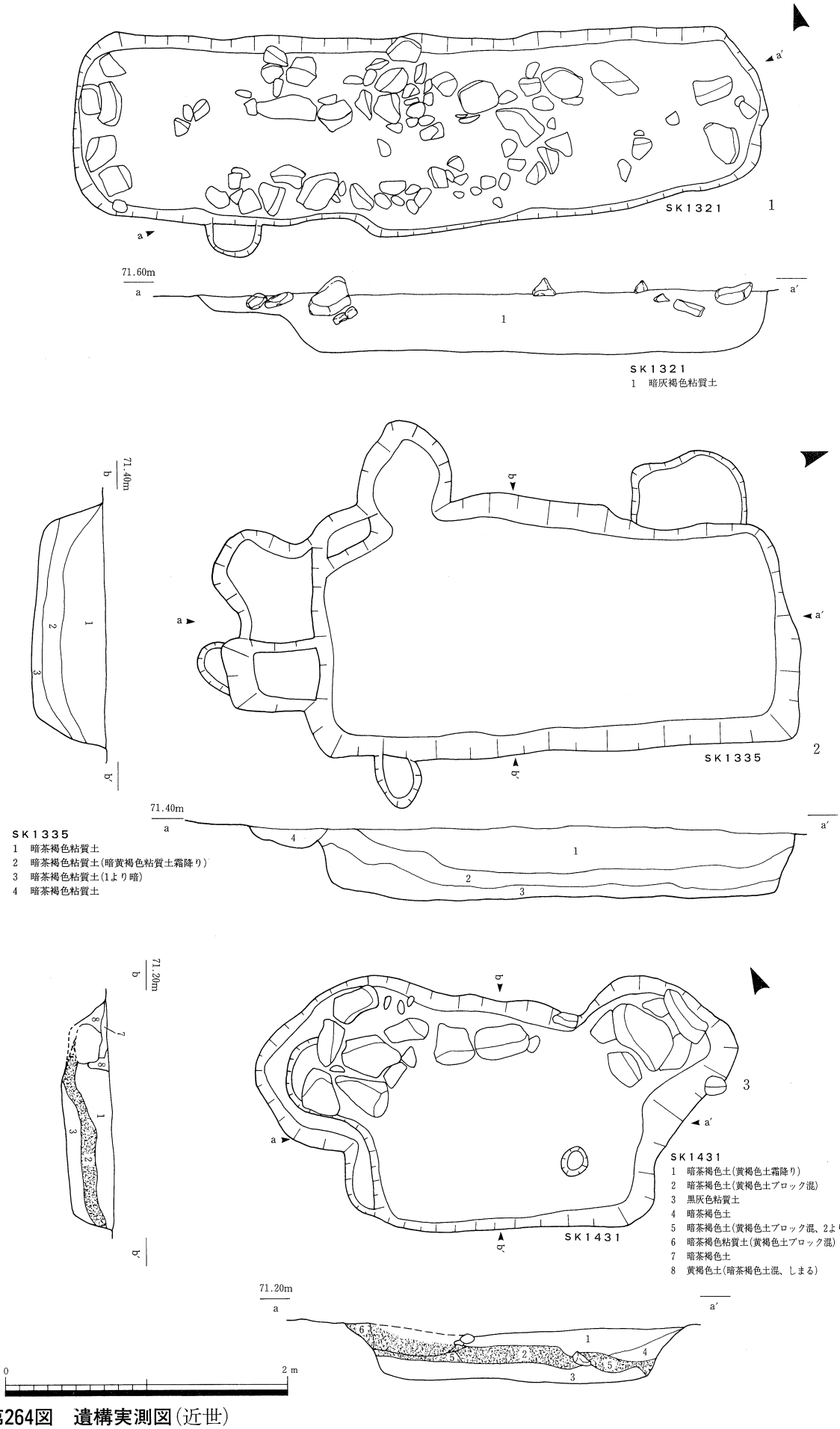
第16表　土坑（近世）一覧（2）

遺構番号	整理番号	地区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆土	出土遺物	備考	時期
SK7821	SK721	B3	方形	300	240	30	茶灰褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里・石鉢		17C後半・18C
SK7911	SK811	B3	方形	360	290	22	灰茶褐色粘質土	唐津		17C
SK7966	SK866	B3	不整形	300	225	15	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・唐津・伊万里		18C
SK7969	SK869	B3	方形	165	115	21	暗茶褐色粘質土	青磁・唐津		15・18C
SK8000	SK900	B3	楕円形	540	260	35	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・明治・石臼・鉄滓		17・18C
SK8001	SK901	B3	方形	290	240	55	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・越中瀬戸・唐津		
SK8002	SK902	B3	不整形	370	275	26	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里		17・18・19C
SK8003	SK903	B3	方形	160	125	25	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲		16C末
SK8010	SK910	B3	−	−	−	−	−	珠洲・越中瀬戸		
SK8015	SK915	B3	方形	290	55	8	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・越中瀬戸・伊万里		18C
SK8060	SK960	B3	不整形	524	−	38	茶褐色粘質土	唐津		
SK8080	SK980	B3	方形	−	−	38	茶褐色粘質土	中世土師器・唐津・伊万里		18C
SK8204	SK04	B3W	−	−	−	50	灰色砂質土	中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃・越中瀬戸		
SK8259	SK59	B3W	楕円形	53	46	48	赤橙色磚層	瀬戸美濃・青花・唐津		17C
SK8339	SK139	B3W	楕円形	94	80	62	暗茶褐色粘質土	越中瀬戸		17C
SK8436	SK236	B3W	楕円形	70	52	50	暗茶褐色粘質土	青花・越中瀬戸		16・17C
SK8439	SK239	B3W	楕円形	76	65	55	黒褐色粘質土	唐津		17C
SK8573	SK373	B3W	楕円形	70	51	77	褐色砂	現代（植木鉢）		
SK8600	SK400	B3W	−	−	−	−	黒褐色粘質土	瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津		16・17C
SK8644	SK444	B3W	方形	220	200	18	黒褐色粘質土	越中瀬戸		
SK8684	SK484	B3W	円形	105	−	36	茶褐色粘質土	瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津		16・17C前半
SK8684b	SK484b	B3W	不整形	−	48	60	−	近世陶器		
SK8686	SK486	B3W	楕円形	82	40	64	褐色粘質土	唐津・石臼		
SK8688	SK488	B3W	楕円形	110	70	8	茶褐色粘質土	白磁・越中瀬戸		17C
SK8690	SX490	B3W	−	−	−	−	−	瀬戸美濃・唐津・伊万里		17・18C
SK8704	SK504	B3W	円形	65	−	25	暗褐色粘質土	中世土師器・瀬戸・唐津		17C
SK8706	SK506	B3W	楕円形	92	78	71	褐色粘質土	珠洲・越前・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津		17C
SK8707	SK507	B3W	−	−	−	−	茶褐色粘質土	越前		
SK8712	SK512	B3W	方形	100	−	65	暗褐色粘質土	青磁・伊万里		15・16初・17・18C
SK8734	SK534	B3W	楕円形	58	32	42	灰茶褐色粘質土	−		
SK8934	SK34	CN	方形	645	305	35	黒褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青花・越中瀬戸		15・16・17C
SK8942	SK42	CN	不整形	455	160	55	黒褐色土	唐津		
SK8966	SK66	CN	不整形	1450	670	48	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・志野・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・石臼・石鉢		15・16・17C
SK9127	SK27	CS	方形	244	180	15	茶褐色土	珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁・唐津		13・16・17C
SK9129	SK29	CS	方形	590	370	46	黄褐色砂礫	中世土師器・珠洲・越前・志野・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸・唐津		15・16・17C
SK9302	SK02	C1	方形	815	607	20	茶褐色粘質土	越前・唐津		16・17C
SK9315	SK15	C1	方形	890	440	32	黄褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁		
SK9316	SK16	C1	不整方形	710	440	32	黄褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・唐津		16・17C
SK9320b	SK20b	C1	方形	420	420	28	灰褐色粘質土	珠洲・越前・白磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・石硯		16・17C
SK9327	SK27	C1	方形	370	286	26	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・美濃・唐津・打製石斧		
SK9328	SK28	C1	方形	310	300	32	暗茶褐色粘質土	瀬戸美濃・唐津		17C
SK9333	SK33	C1	−	−	−	−	−	珠洲・瀬戸美濃・青花・唐津・茶臼・石臼		16C末～17C初
SK9371	SK71	C1	不整形	1700	560	60	茶褐色土	唐津・石臼・加工木		17C
SK9460	SK160	C1	楕円形	92	42	40	暗黄白褐色砂質土	唐津		17C
SK9606	SK306	C1	方形	515	−	14	暗灰褐色粘質土	中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里（上層）		16・17C前半・18C
SK9608	SK308	C1	三角形	344	252	12	暗茶褐色粘質土	越中瀬戸		
SK9683	SK383	C1	円形	215	−	22	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津		16・17C
SK9684	SK384	C1	不整形	500	270	35	茶褐色土	中世土師器・珠洲・石臼		
SK9685	SK385	C1	円形	300	−	44	茶褐色土	瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里		16・17C
SK9689	SK389	C1	不整形	530	−	24	暗茶褐色粘質土	中世土師器・越前・瀬戸美濃・唐津・伊万里・石鉢・打製石斧		16・18C初
SK9702	SK402	C1	方形	420	302	46	茶褐色土	中世土師器・瀬戸美濃・唐津・近代以降陶磁器		16・17C
SK9704	SK404	C1	方形	350	−	92	暗茶褐色粘質土	−		
SK9783	SK483	C1	三角形	320	240	12	暗茶褐色粘質土	中世土師器・唐津		17C前半
SK9803	SK503	C1	半円形	420	356	20	茶褐色土	中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・唐津・石斧		17C
SK9850	SK550	C1	方形	660	380	20	茶褐色土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・志野・越中瀬戸・唐津・砥石		
SK9852	SK552	C1	方形	304	240	28	暗茶褐色土	瀬戸・唐津		17C
SK9859	SK559	C1	方形	350	268	32	茶褐色土	中世土師器・珠洲・青磁・唐津・伊万里		17C？
SK9860	SK560	C1	不整方形	270	115	32	暗茶褐色土	珠洲・唐津・石製暖房具・漆器		17C
SK9863	SK563	C1	不整形	280	130	20	暗茶褐色土	中世土師器・越中瀬戸		
SK9868	SK568	C1	方形	390	175	26	暗茶褐色土	珠洲・瀬戸美濃・青花・越中瀬戸		16・17C前半
SK9881	SK581	C1	不整方形	102	64	10	−	中世土師器・珠洲・志野・越中瀬戸・砥石		
SK9885	SK585	C1	不整方形	219	219	20	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・石臼・石鉢・石製暖房具		15・17C前半
SK9886	SK586	C1	−	−	−	48	茶褐色土	中世土師器		
SK9887	SK587	C1	方形	−	−	13	黒茶褐色土	珠洲		
SK9911	SK611	C1	楕円形	125	78	41	−	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青花・越中瀬戸・唐津・石臼		17C
SK10171	SK71	C2	方形	600	310	16	黒色粘質土	中世土師器・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・箸・下駄		17C前半
SK10318	SK18	C3	方形	382	254	30	黒褐色粘質土	珠洲・越前・瀬戸美濃・唐津・越中瀬戸		16・17C
SK10319	SK19	C3	楕円形	327	211	10	黒褐色土	中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃・青磁・唐津・伊万里		15・16C
SK10320	SK20	C3	不整形	1170	470	20	黒褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・青磁・青花		15・16C
SK10322	SK22	C3	方形	1176	328	20	茶褐色土	中世土師器・瀬戸美濃		
SK10326	SK26	C3	方形	759	109	28	茶褐色土	加工木		
SK10328	SK28	C3	方形	1183	240	7	黄茶褐色土	越前・伊万里		明治～
SK10329	SK29	C3	楕円形	260	215	15	黒褐色粘質土	−		
SK10335	SK35	C3	方形	400	295	30	黒褐色粘質土	−		

第16表　土坑（近世）一覧（3）



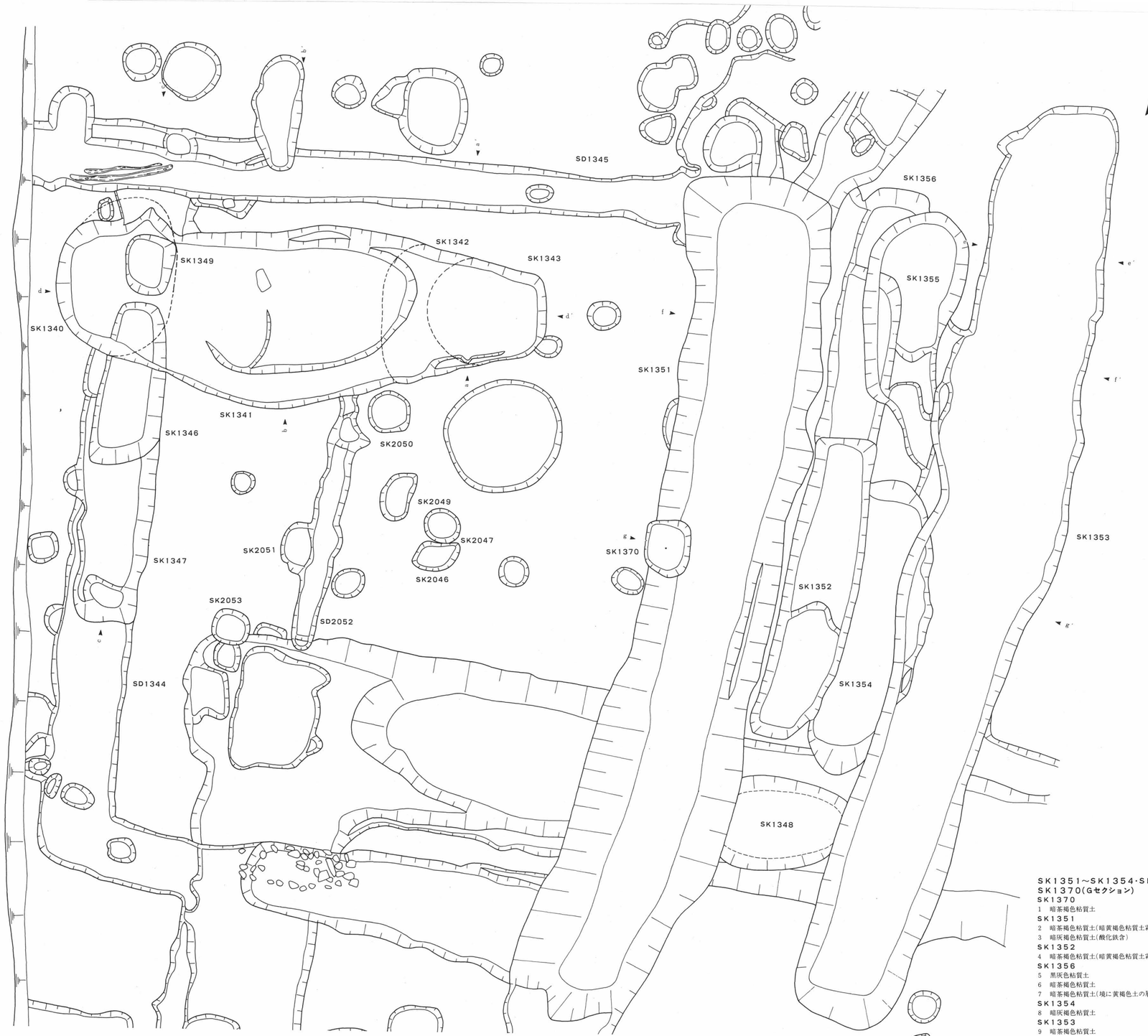
第263図　遺構実測図(近世)
1.SK832・SK833　2.SK797



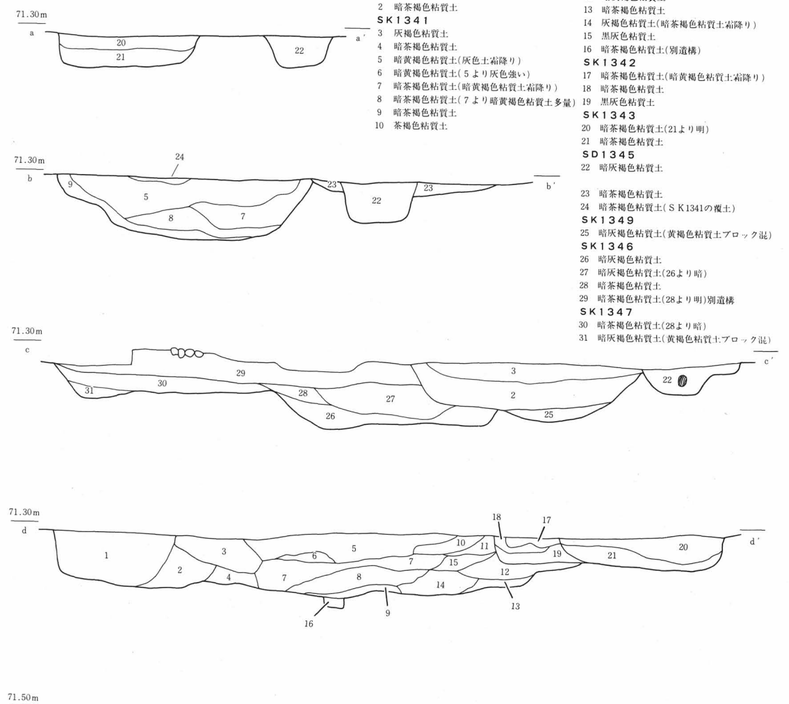
第264図　遺構実測図(近世)

1.SK1321　2.SK1335　3.SK1431

第265図　遺構実測図(近世)
SK803・SK871～SK875・SK895・SK900・SK901

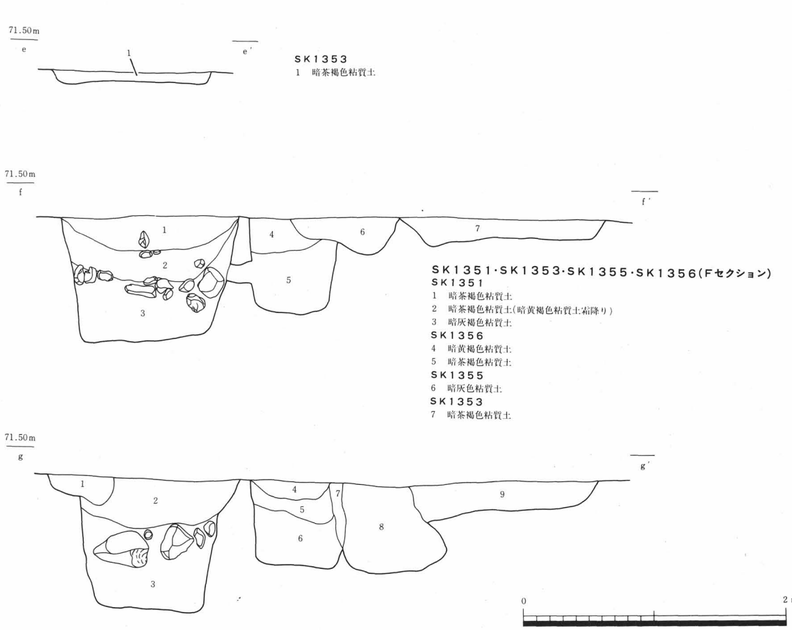


第266図　遺構実測図(近世)
SK1340～SK1343・SK1346・SK1347・SK1349・SK1351～SK1356



SK1340～SK1343・SD1345・SK1346・SK1347・SK1349(A・B・C・Dセクション)

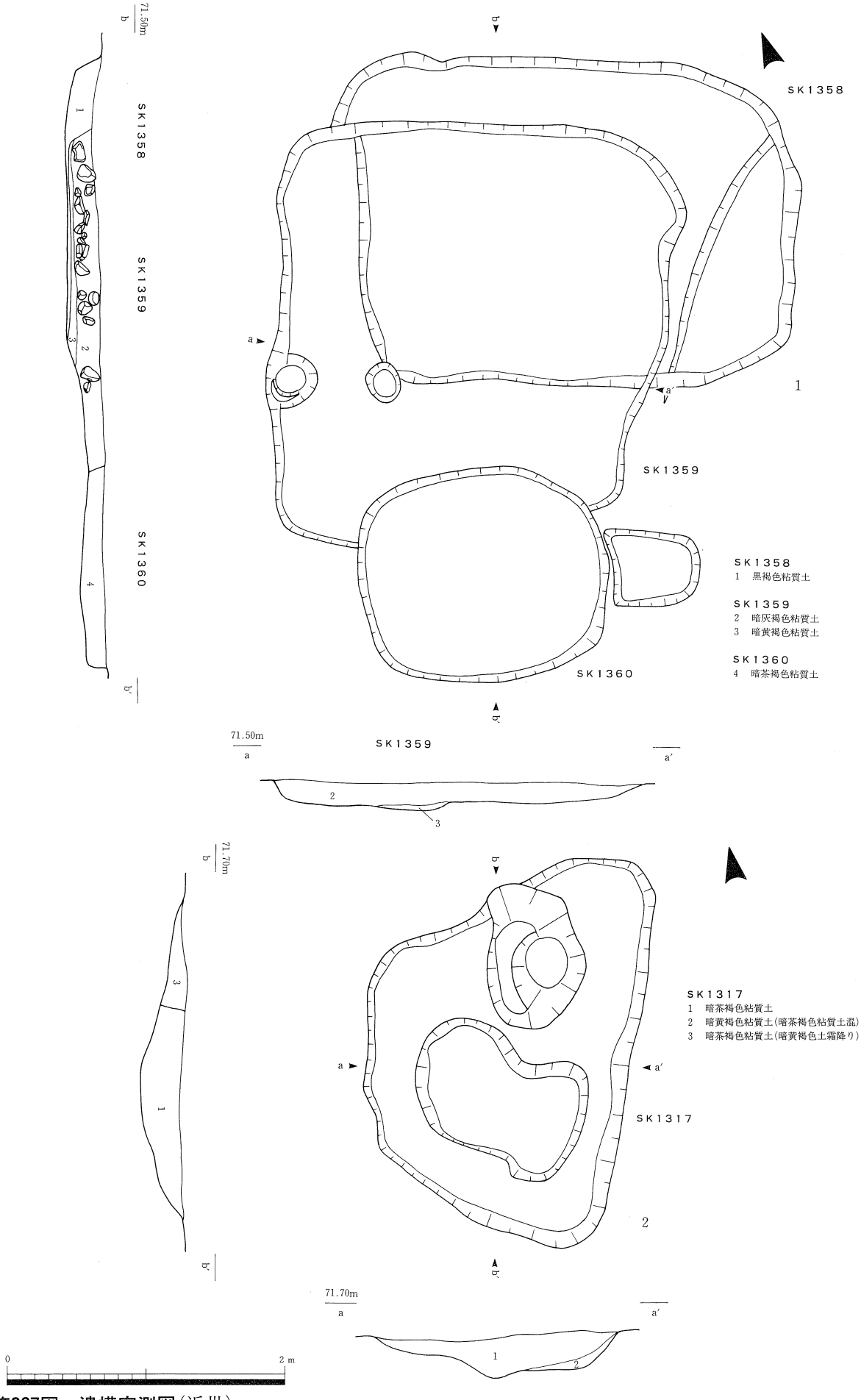
SK1340
1　暗茶褐色粘質土
2　暗茶褐色粘質土
SK1341
3　灰褐色粘質土
4　暗茶褐色粘質土
5　暗黄褐色粘質土(灰色土霜降り)
6　暗黄褐色粘質土(5より灰色強い)
7　暗茶褐色粘質土(暗黄褐色粘質土霜降り)
8　暗茶褐色粘質土(7より暗黄褐色粘質土多量)
9　暗茶褐色粘質土
10　茶褐色粘質土
11　暗茶褐色粘質土
12　暗黄褐色粘質土
13　暗茶褐色粘質土
14　灰褐色粘質土(暗茶褐色粘質土霜降り)
15　黒灰色粘質土
16　暗茶褐色粘質土(別遺構)
SK1342
17　暗茶褐色粘質土(暗黄褐色粘質土霜降り)
18　暗茶褐色粘質土
19　黒灰色粘質土
SK1343
20　暗茶褐色粘質土(21より明)
21　暗茶褐色粘質土
SD1345
22　暗灰色粘質土
23　暗茶褐色粘質土
24　暗茶褐色粘質土(SK1341の覆土)
SK1349
25　暗灰褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック混)
SK1346
26　暗灰褐色粘質土
27　暗灰褐色粘質土(26より暗)
28　暗茶褐色粘質土
29　暗茶褐色粘質土(28より明)別遺構
SK1347
30　暗茶褐色粘質土(28より暗)
31　暗灰褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック混)



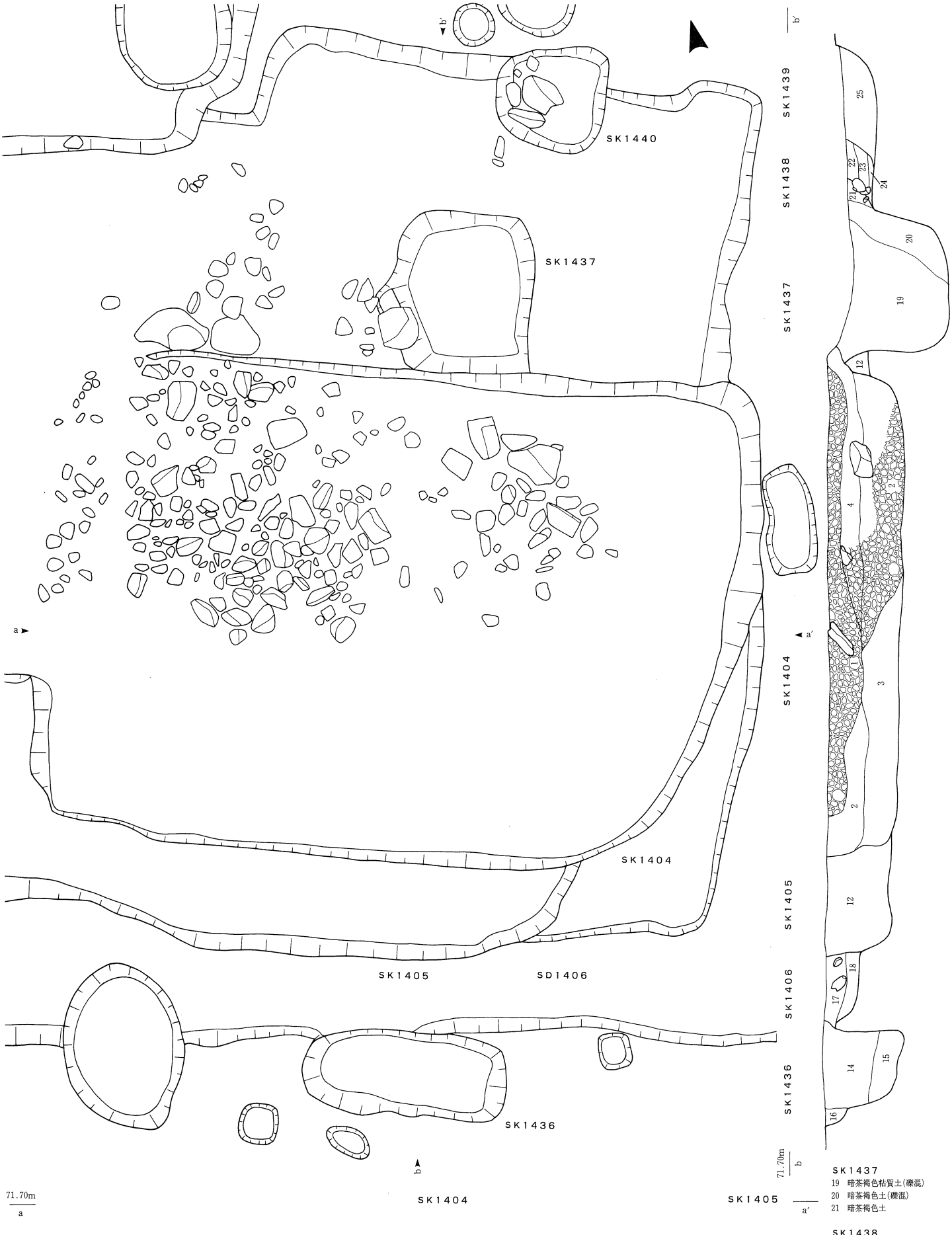
SK1353
1　暗茶褐色粘質土

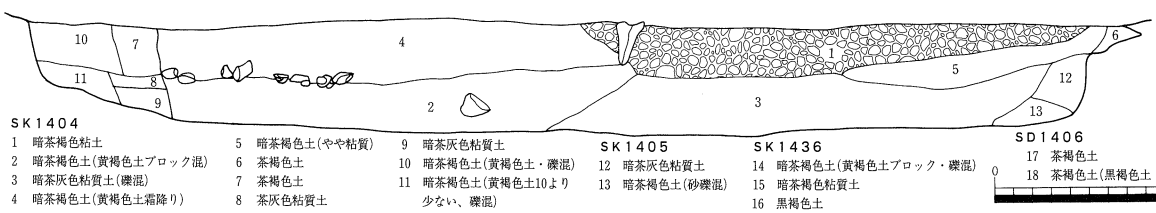
SK1351・SK1353・SK1355・SK1356(Fセクション)
SK1351
1　暗茶褐色粘質土
2　暗茶褐色粘質土(暗黄褐色粘質土霜降り)
3　暗灰褐色粘質土
SK1356
4　暗黄褐色粘質土
5　暗茶褐色粘質土
SK1355
6　暗灰色粘質土
SK1353
7　暗茶褐色粘質土

SK1351～SK1354・SK1356・SK1370(Gセクション)
SK1370
1　暗茶褐色粘質土
SK1351
2　暗茶褐色粘質土(暗黄褐色粘質土霜降り)
3　暗灰褐色粘質土(酸化鉄含)
SK1352
4　暗茶褐色粘質土(暗黄褐色粘質土霜降り)
SK1356
5　黒灰色粘質土
6　暗茶褐色粘質土
7　暗茶褐色粘質土(塊に黄褐色土の層)
SK1354
8　暗灰褐色粘質土
SK1353
9　暗茶褐色粘質土



第267図　遺構実測図(近世)
1.SK1358～SK1360　2.SK1317





SK1404
1 暗茶褐色粘土
2 暗茶褐色土(黄褐色土ブロック混)
3 暗茶灰色粘質土(礫混)
4 暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
5 暗茶褐色土(やや粘質)
6 茶褐色土
7 茶褐色土
8 茶灰色粘質土
9 暗茶灰色粘質土
10 暗茶褐色土(黄褐色土・礫混)
11 暗茶褐色土(黄褐色土10より少ない、礫混)

SK1405
12 暗茶灰色粘質土
13 暗茶褐色土(砂礫混)

SK1436
14 暗茶褐色土(黄褐色土ブロック・礫混)
15 暗茶褐色粘質土
16 黒褐色土

SD1406
17 茶褐色土
18 茶褐色土(黒褐色土・黄褐色土ブロック混)

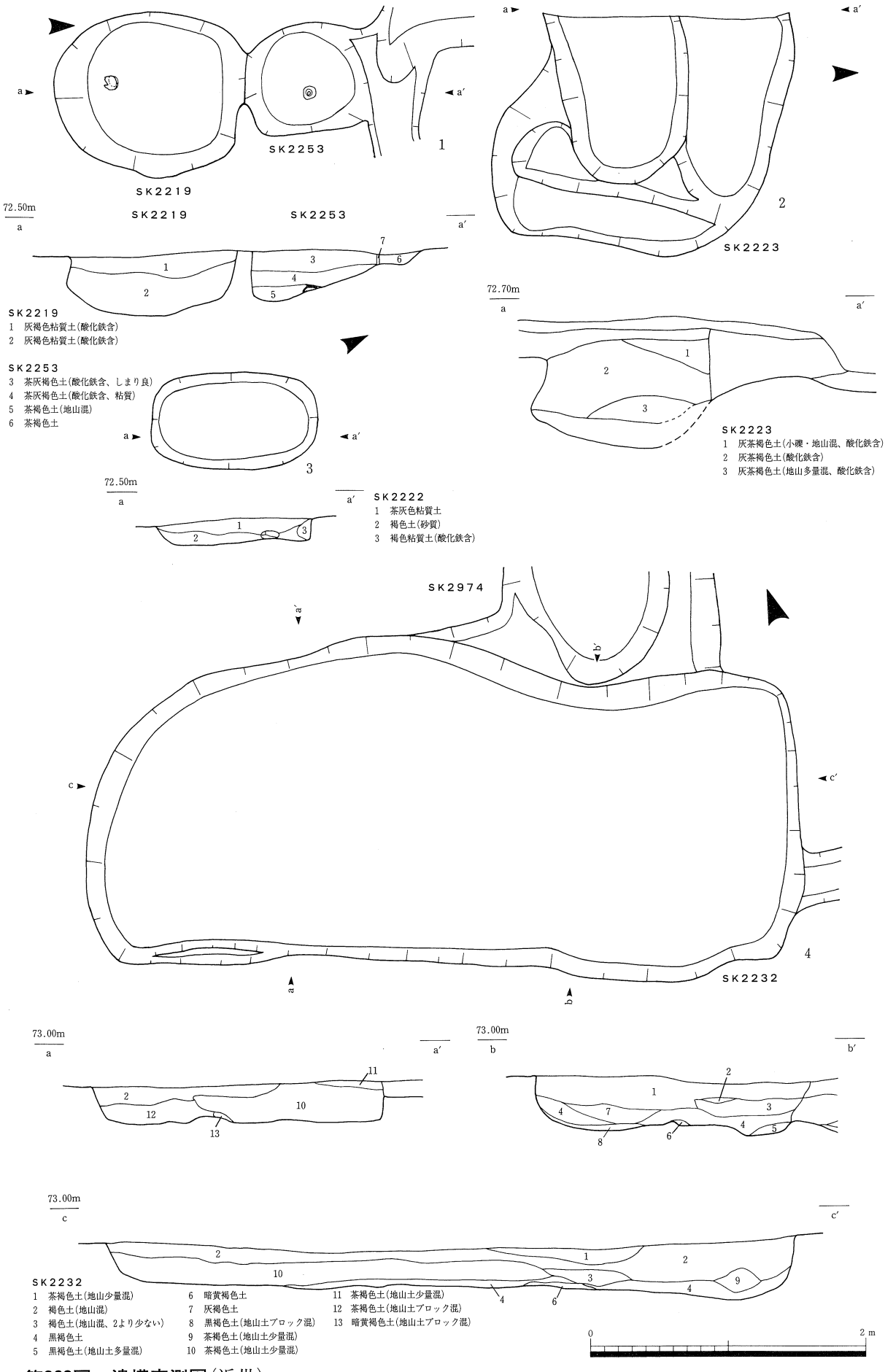
SK1437
19 暗茶褐色粘質土(礫混)
20 暗茶褐色土(礫混)
21 暗茶褐色土

SK1438
22 茶褐色土
23 暗茶褐色土
24 黒褐色土

SK1439
25 暗茶褐色土

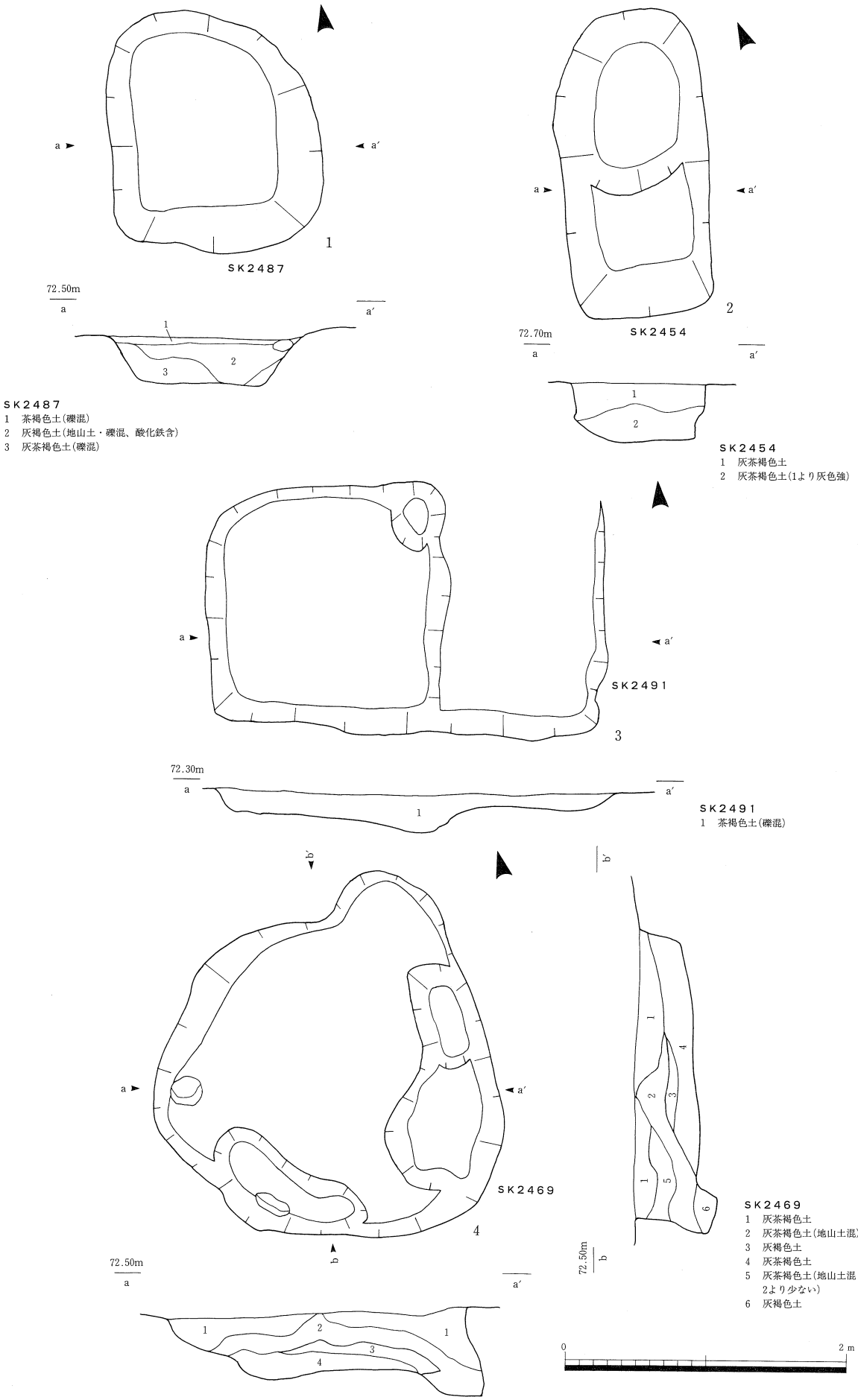
0 2m

第268図　遺構実測図(近世)
SK1404～SK1406・SK1436～SK1439



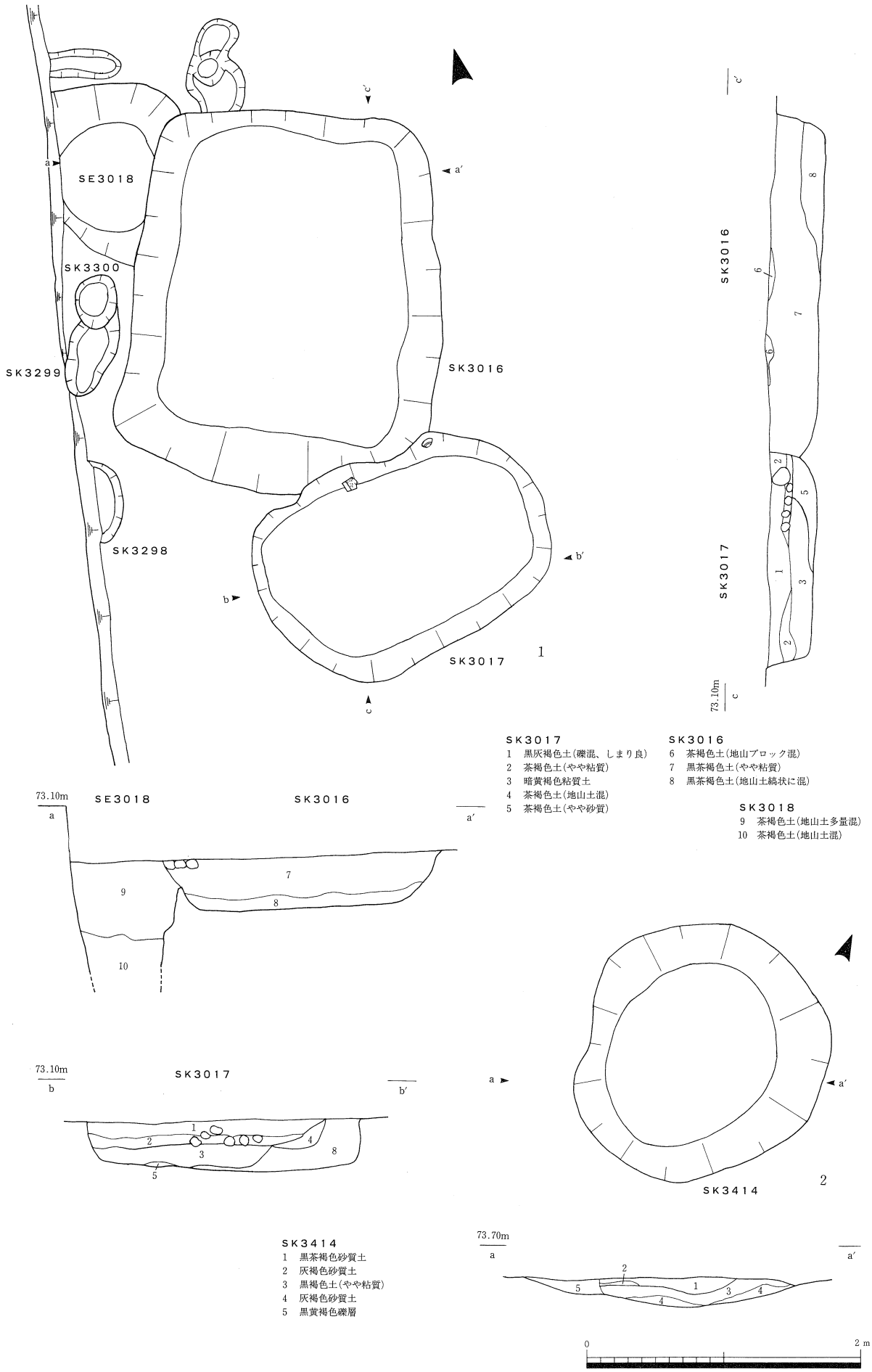
第269図　遺構実測図(近世)

1.SK2219・SK2253　2.SK2223　3.SK2222　4.SK2232



第270図　遺構実測図(近世)

1.SK2487　2.SK2454　3.SK2491　4.SK2469



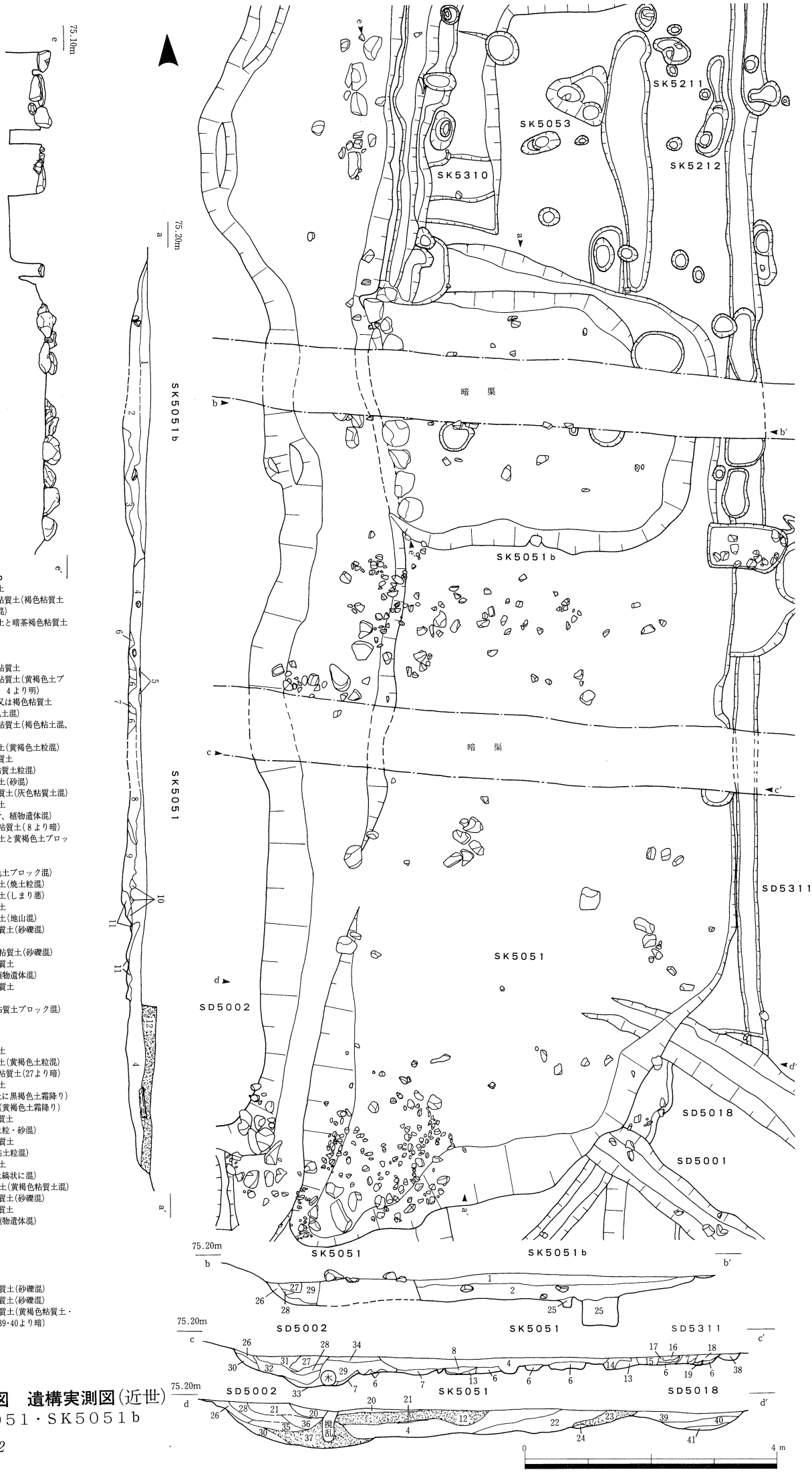
SK3017
1 黒灰褐色土(礫混、しまり良)
2 茶褐色土(やや粘質)
3 暗黄褐色粘質土
4 茶褐色土(地山土混)
5 茶褐色土(やや砂質)

SK3016
6 茶褐色土(地山ブロック混)
7 黒茶褐色土(やや粘質)
8 黒茶褐色土(地山土縞状に混)

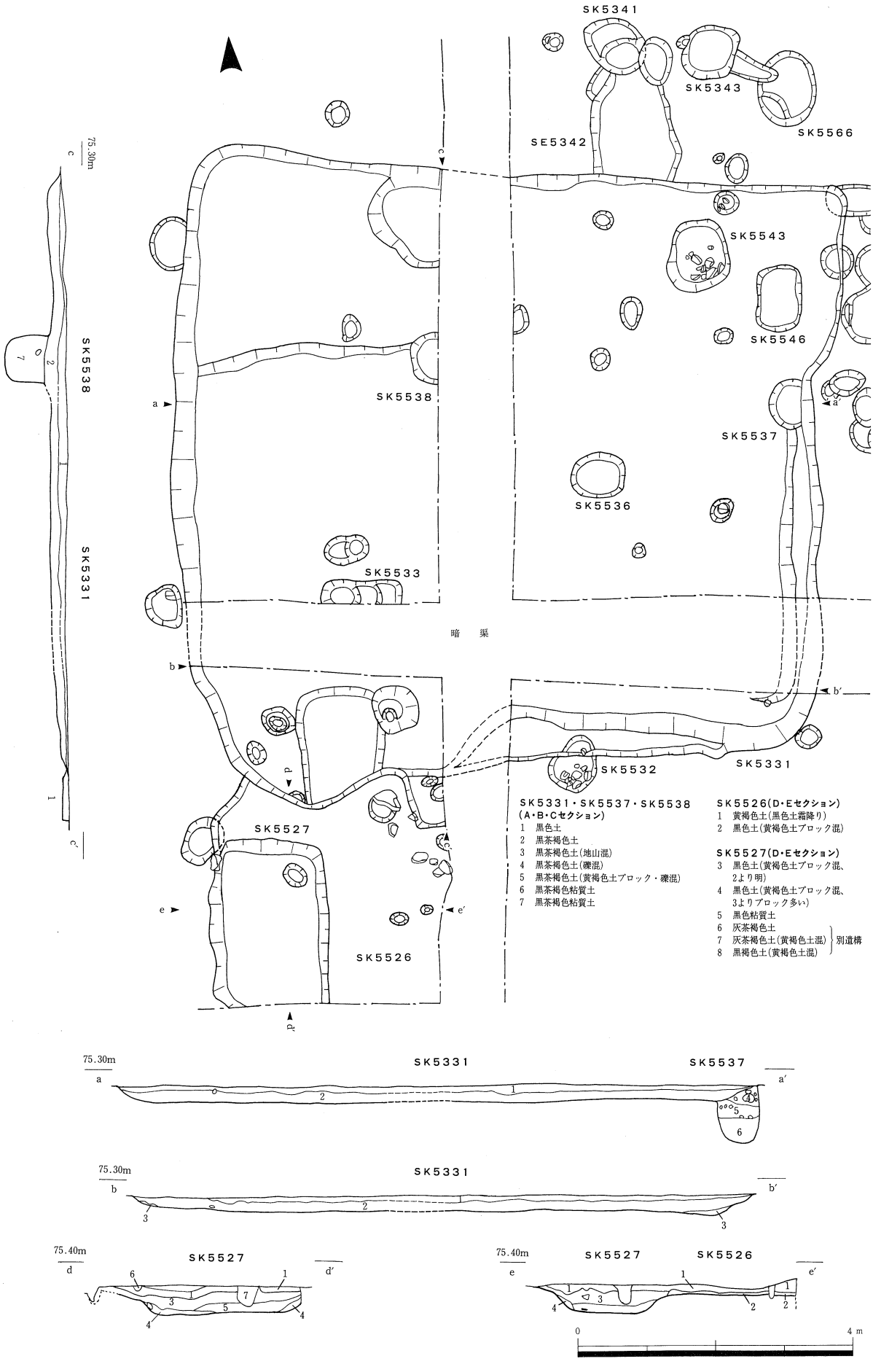
SK3018
9 茶褐色土(地山土多量混)
10 茶褐色土(地山土混)

SK3414
1 黒茶褐色砂質土
2 灰褐色砂質土
3 黒褐色土(やや粘質)
4 灰褐色砂質土
5 黒黄褐色礫層

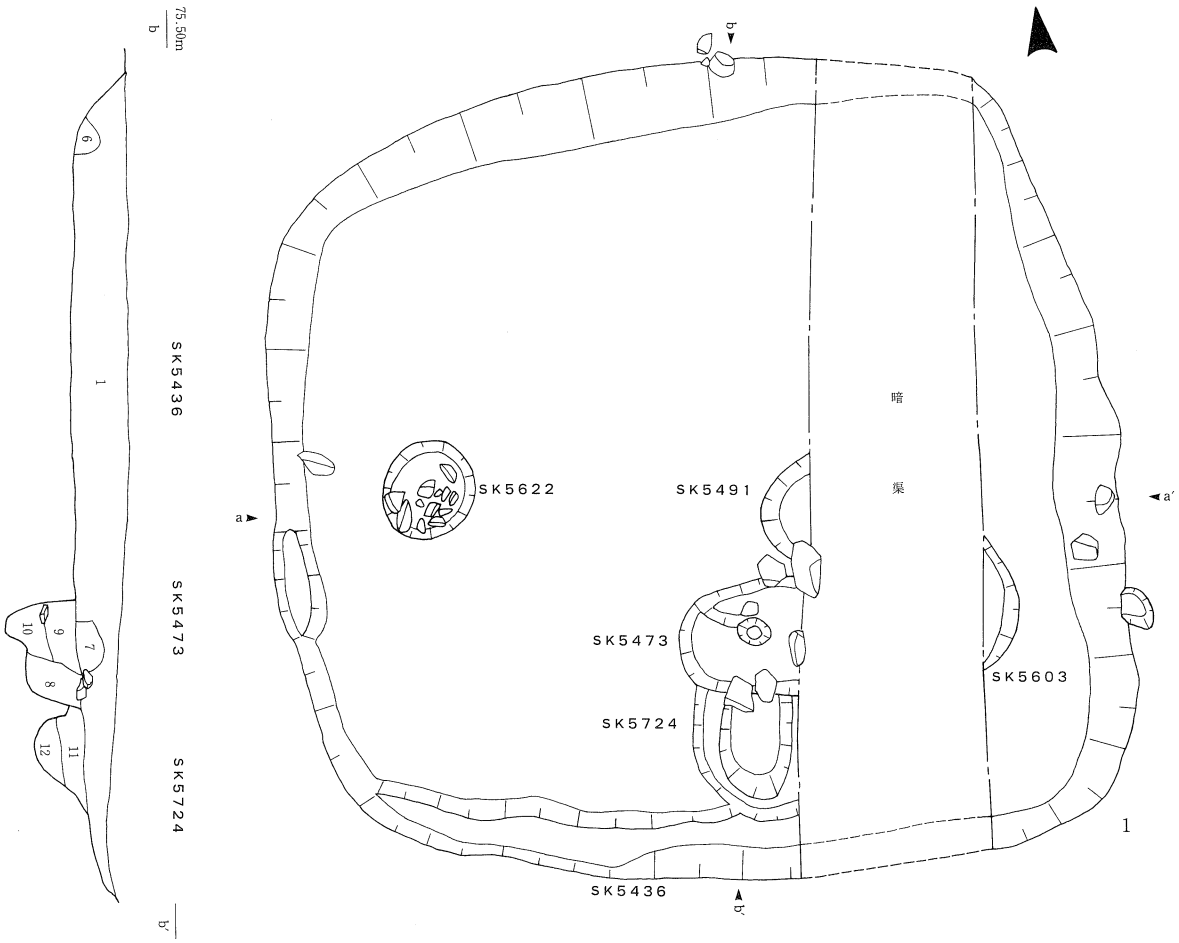
第271図　遺構実測図(近世)
1.SK3016・SK3017　2.SK3414



第272図　遺構実測図(近世)
SK5051・SK5051b

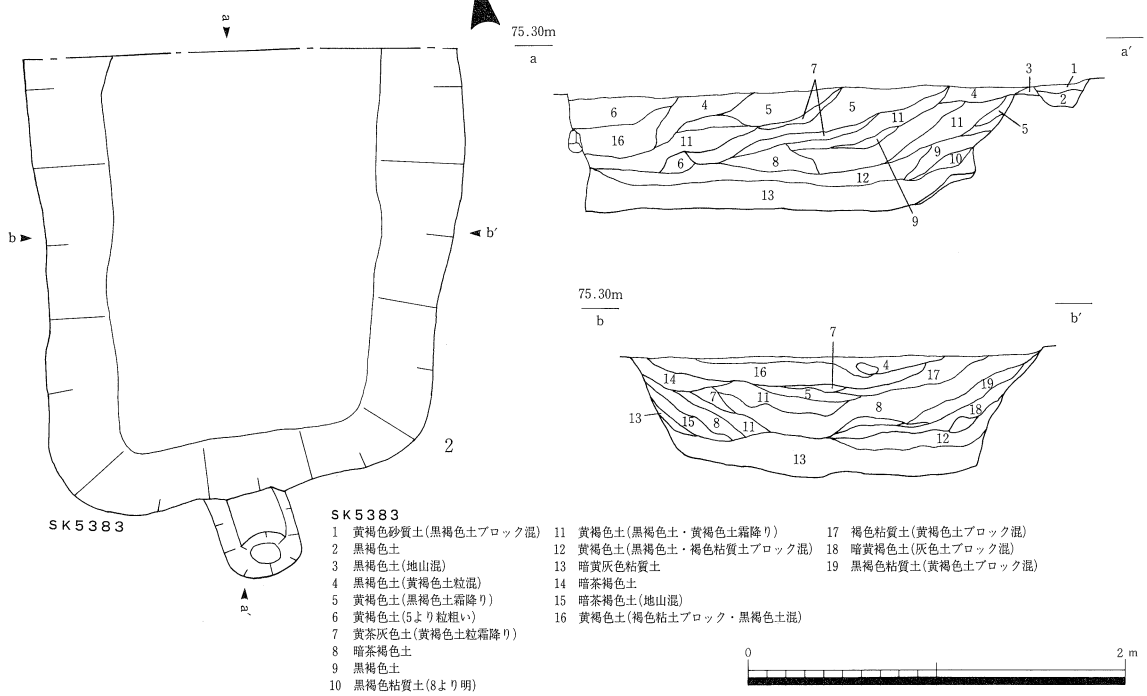


第273図　遺構実測図(近世)
SK5331・SK5526・SK5527



SK5436・SK5473・SK5622・SK5724

1 灰茶褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック・黄白色粘質土ブロック霜降り、礫混)
2 明灰茶褐色粘質土(暗茶褐色土帯状に混)
3 黒褐色粘質土
4 灰茶褐色粘質土(1より粘質)
5 灰暗茶褐色粘質土
6 黒褐色粘質土
7 暗茶褐色粘質土(酸化鉄含)
8 暗茶褐色粘質土(灰茶褐色粘質土ブロック混)
9 暗灰色粘質土
10 暗黒灰色粘質土
11 黒灰色粘質土
12 黒茶色粘質土
13 灰黒灰色粘質土(礫混、しまり良)



SK5383

1 黄褐色砂質土(黒褐色土ブロック混)
2 黒褐色土
3 黒褐色土(地山混)
4 黒褐色土(黄褐色土粒混)
5 黄褐色土(黒褐色土霜降り)
6 黄褐色土(5より粒粗い)
7 黄茶灰色土(黄褐色土粒霜降り)
8 暗茶褐色土
9 黒褐色土
10 黒褐色粘質土(8より明)
11 黄褐色土(黒褐色土・黄褐色土霜降り)
12 黄褐色土(黒褐色土・褐色粘質土ブロック混)
13 暗黄灰色粘質土
14 暗茶褐色土
15 暗茶褐色土(地山混)
16 黄褐色土(褐色粘土ブロック・黒褐色土混)
17 褐色粘質土(黄褐色土ブロック混)
18 暗黄褐色土(灰色土ブロック混)
19 黒褐色粘質土(黄褐色土ブロック混)

0 2 m

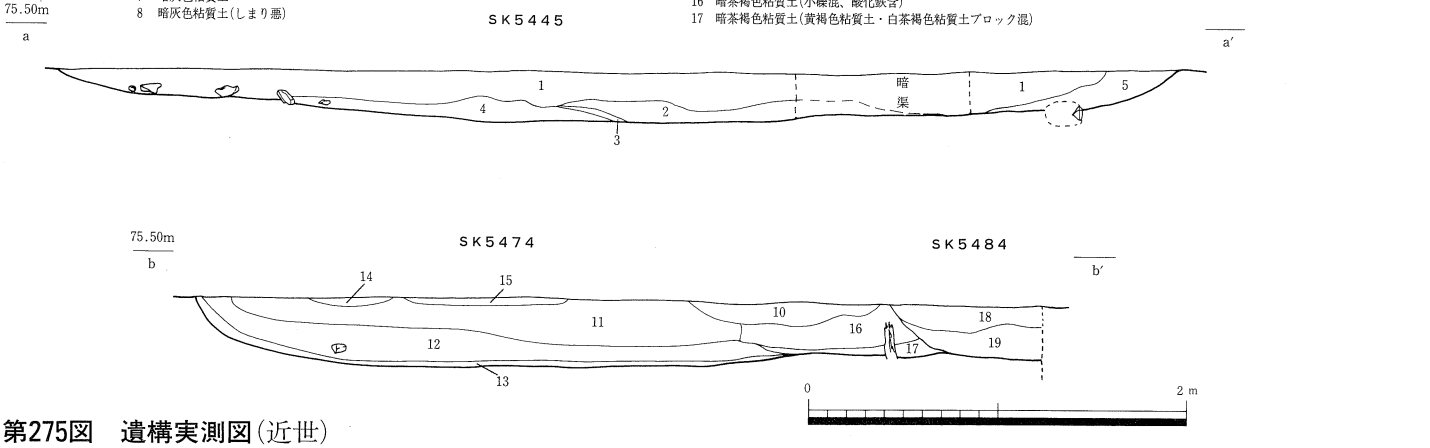
第274図　遺構実測図(近世)
1.SK5436　2.SK5383

SK5445
1 暗黒灰色粘質土(黄灰色粘質土・礫混)
2 暗黒灰色粘質土(黄灰色粘質土混)
3 暗黒色粘質土
4 暗黒灰色粘質土(礫混)
5 暗黒褐色粘質土(黄灰色粘質土混)
6 暗黒灰色粘質土(黄褐色粘質土斑点状に混)
7 暗灰色粘質土
8 暗灰色粘質土(しまり悪)

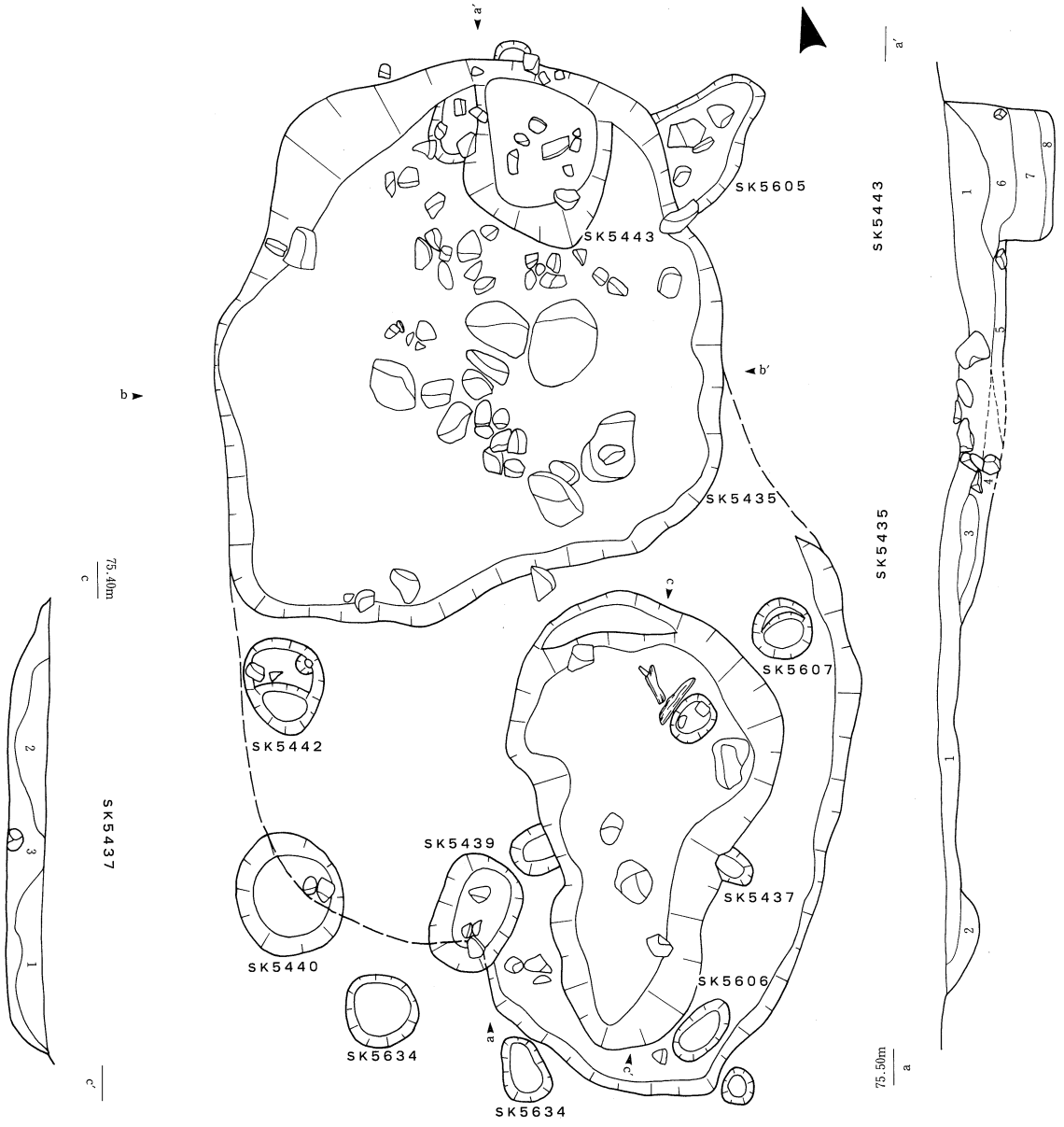
SK5476
9 暗黒灰色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混)

SK5474
10 暗黒灰色粘質土(黄灰色粘質土斑点状に混)
11 暗灰色粘質土(黄灰色粘質土・礫混)
12 暗灰色粘質土(黄灰色粘質土・小砂利混)
13 暗黒褐色粘質土
14 暗茶褐色粘質土(砂混)
15 暗茶褐色粘質土(黄褐色粘質土粒・砂礫混)
16 暗茶褐色粘質土(小礫混、酸化鉄含)
17 暗茶褐色粘質土(黄褐色粘質土・白茶褐色粘質土ブロック混)

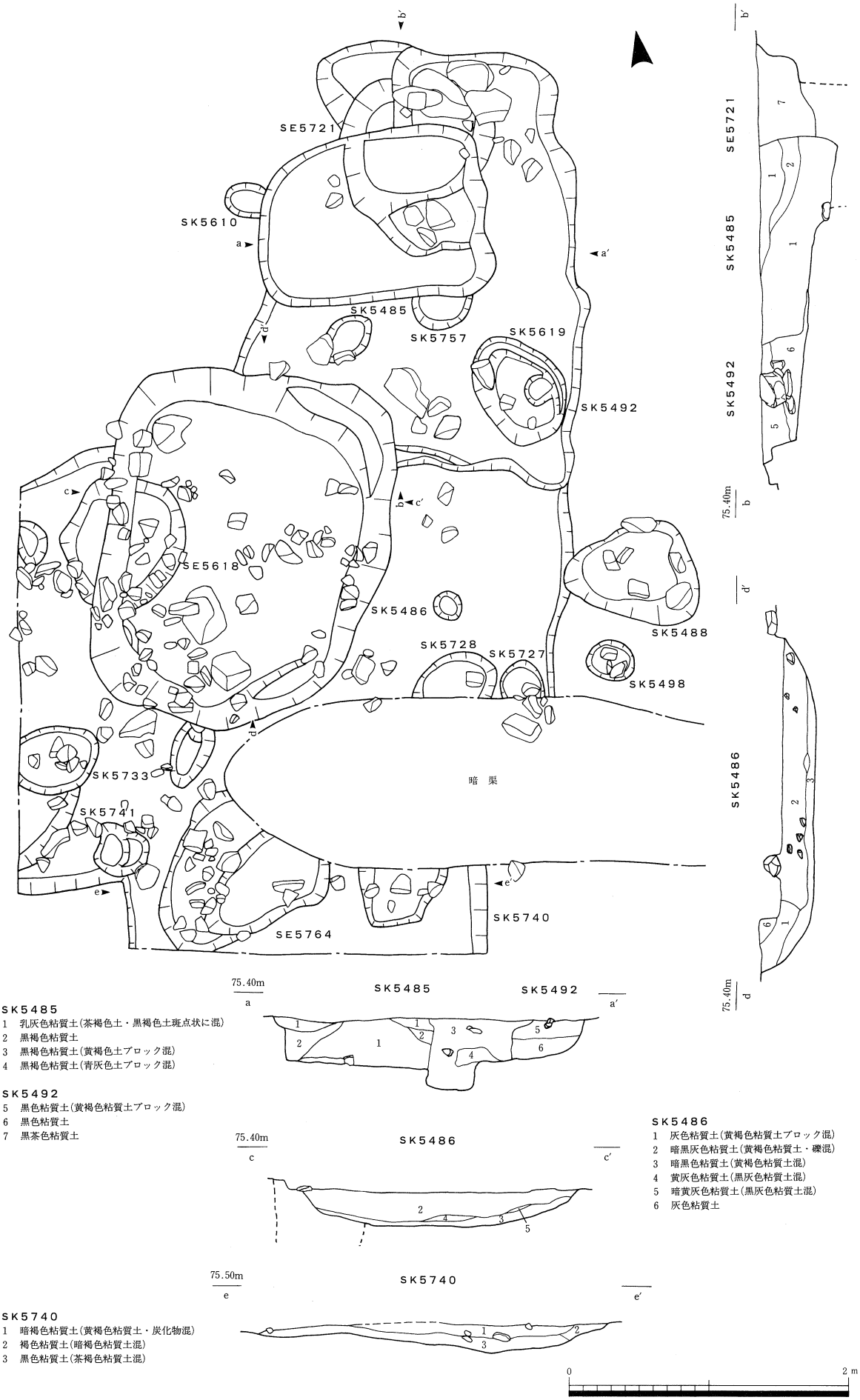
SK5484
18 暗茶褐色粘質土(黄褐色粘質土・小礫混)
19 暗茶褐色粘質土(黄褐色粘質土・白茶褐色粘質土・砂礫混)



第275図　遺構実測図(近世)
SK5445・SK5474・SK5476・SK5484

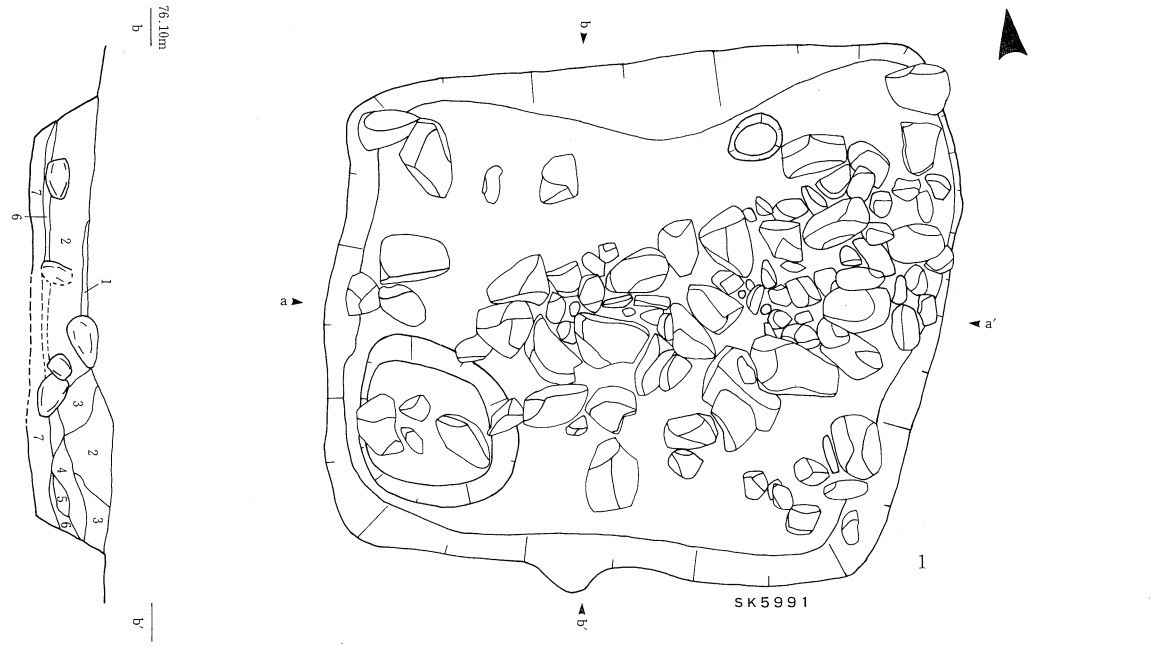


第276図　遺構実測図(近世)
SK5435・SK5437

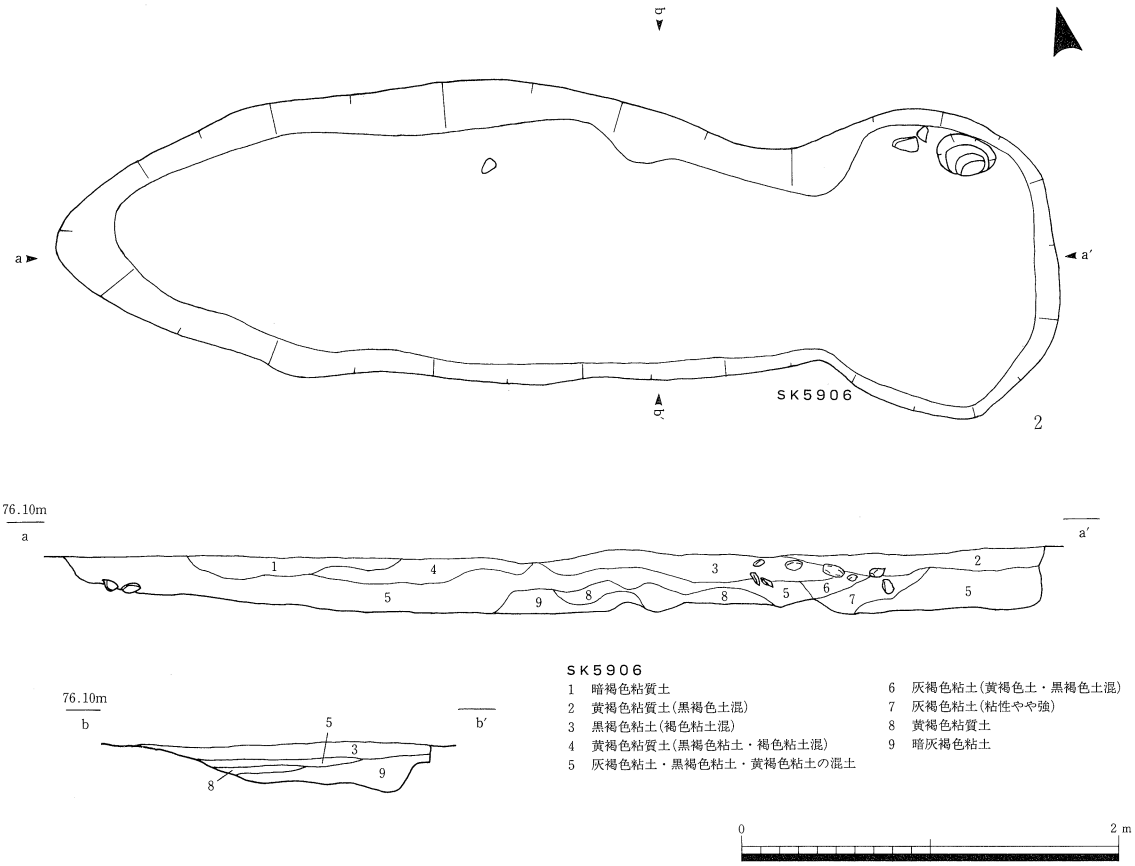


第277図　遺構実測図(近世)

1.SK5485・SK5486・SK5492・SK5740



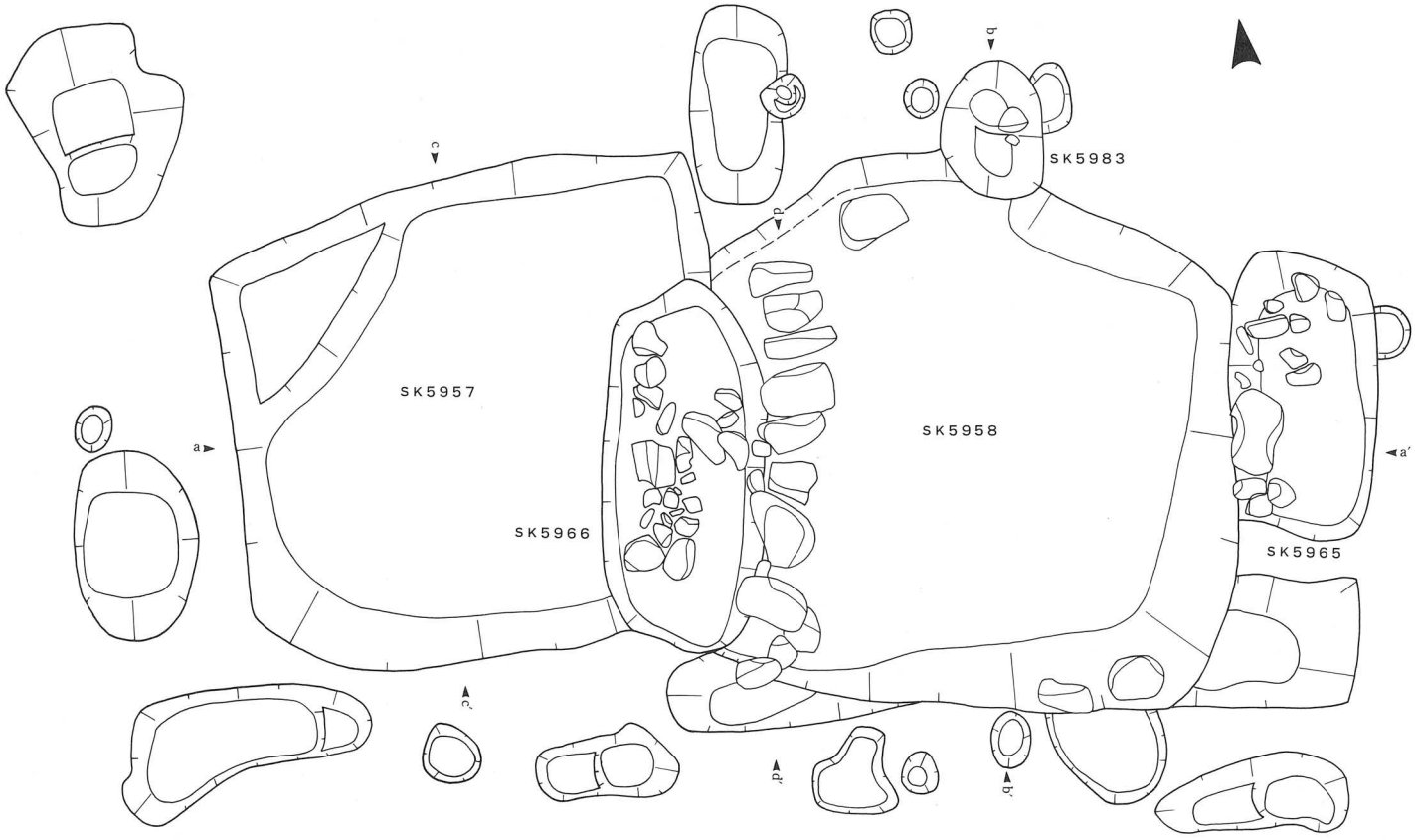
SK5991
1 暗褐色粘質土
2 褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
3 暗褐色粘質土(しまり良)
4 暗褐色粘質土(3より粘質)
5 褐色粘土
6 黒褐色粘土(しまり悪)
7 暗褐色粘土
8 黄褐色粘質土

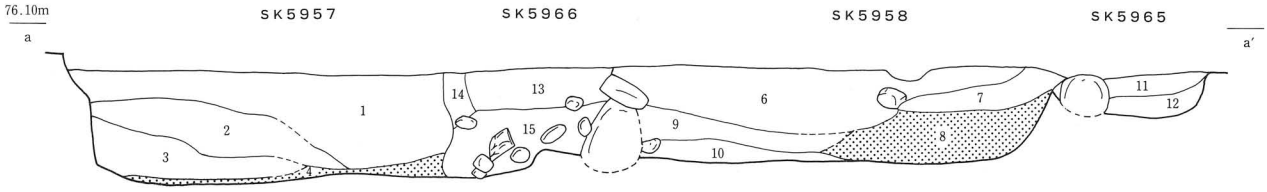


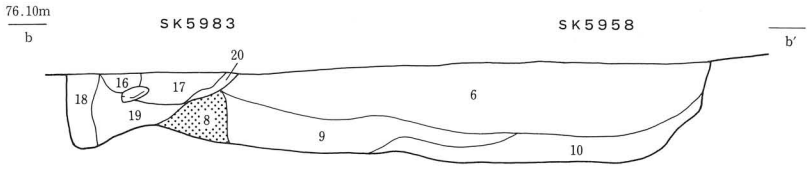
SK5906
1 暗褐色粘質土
2 黄褐色粘質土(黒褐色土混)
3 黒褐色粘土(褐色粘土混)
4 黄褐色粘質土(黒褐色粘土・褐色粘土混)
5 灰褐色粘土・黒褐色粘土・黄褐色粘土の混土
6 灰褐色粘土(黄褐色土・黒褐色土混)
7 灰褐色粘土(粘性やや強)
8 黄褐色粘質土
9 暗灰褐色粘土

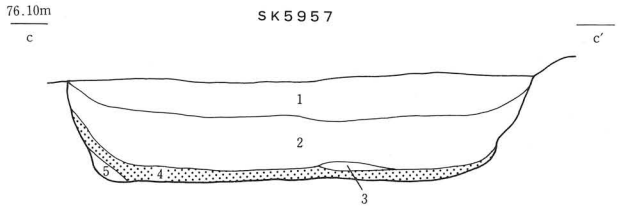
0 2 m

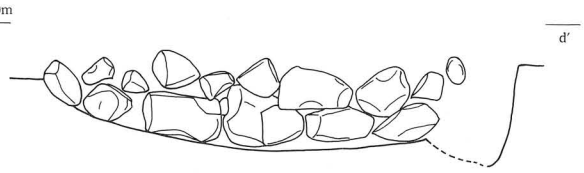
第278図　遺構実測図(近世)
1.SK5991　2.SK5906











SK5957
1　暗褐色土・黄褐色土・褐色土・黄褐色土粒の混土
2　暗褐色土・黄褐色土・褐色土・黄褐色土粒の混土（1より明）
3　暗褐色粘土（黄褐色粘質土混）
4　黒褐色粘土（粘質）
5　暗褐色粘土（砂混）

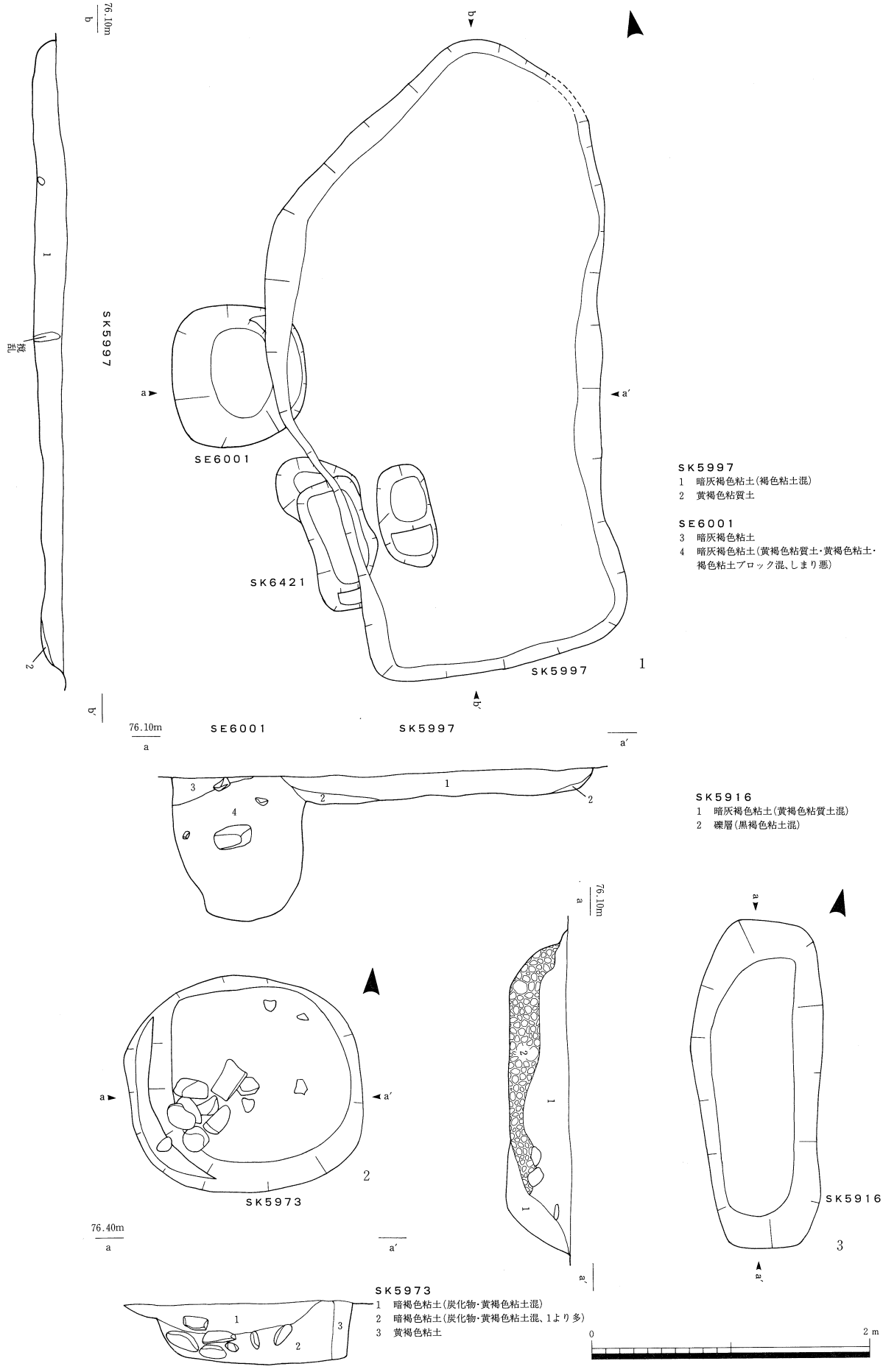
SK5958
6　暗褐色粘質土
7　暗褐色粘質土（6より均質）
8　黒褐色粘質土
9　暗褐色粘質土（黄褐色粘質土ブロック混）
10　黒褐色粘質土（黄褐色粘質土混）

SK5965
11　暗褐色粘質土（黄褐色粘質土混）
12　暗褐色粘質土（黄褐色粘質土混、11より少）

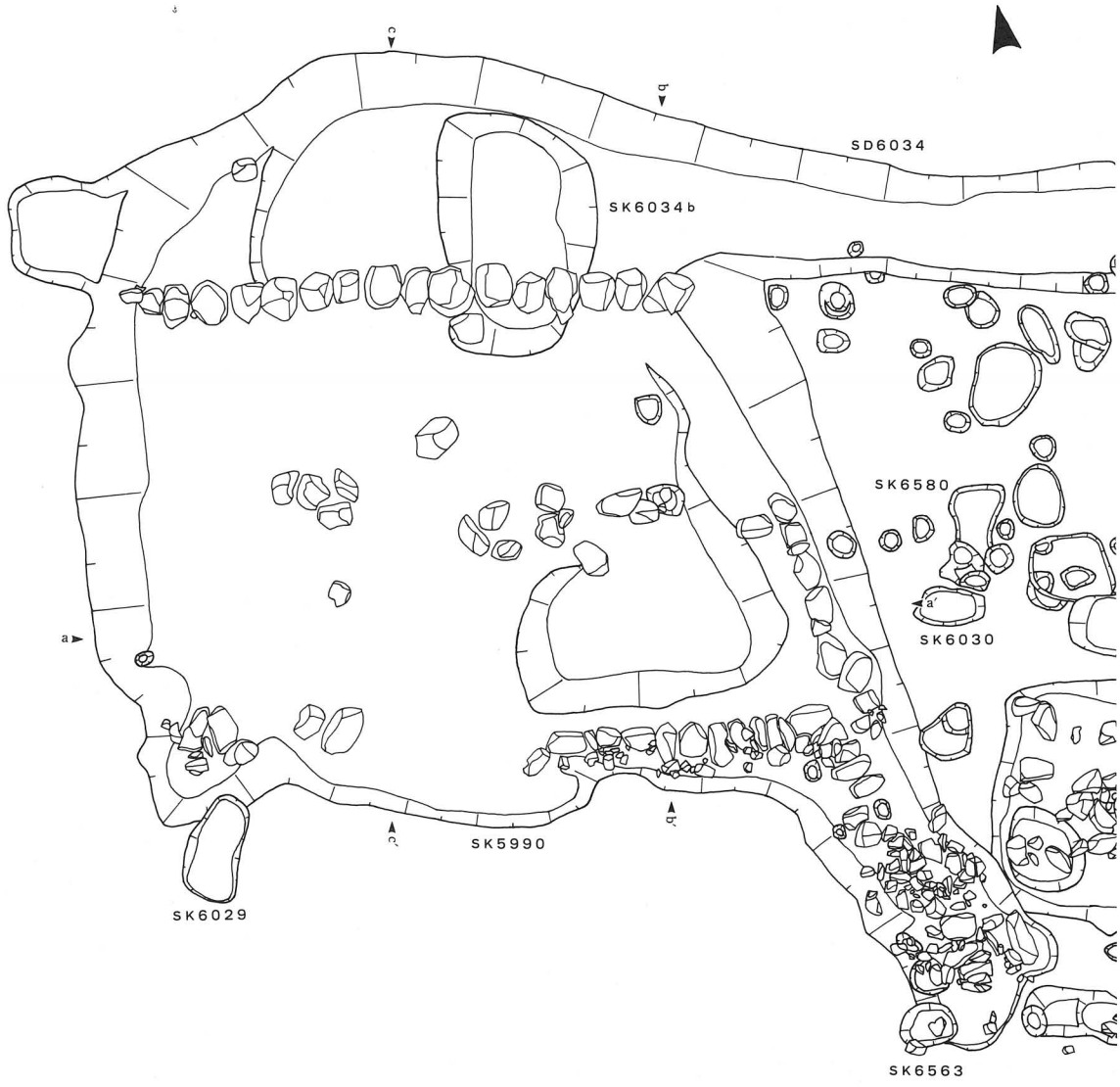
SK5966
13　黄褐色粘質土（暗褐色粘質土斑状に混）
14　黄褐色粘質土（黒褐色粘質土ブロック混）
15　暗褐色粘質土（黄褐色粘質土・礫混）

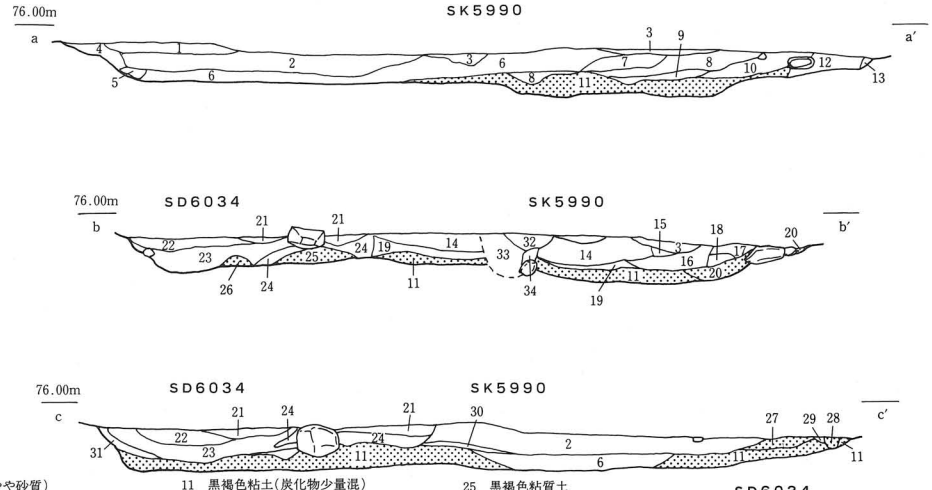
SK5983
16　暗褐色粘質土（黄褐色粘質土混）
17　暗褐色粘質土（黄褐色粘質土混、16より少）
18　暗褐色粘土（しまり悪）
19　黄褐色粘質土（暗褐色粘質土混）
20　褐色粘土（黄褐色粘質土混）

第279図　遺構実測図（近世）
SK5957・SK5958・SK5965・SK5966・SK5983



第280図　遺構実測図(近世)
1.SK5997　2.SK5973　3.SK5916





SK5990

1 黒褐色粘質土(やや砂質)
2 暗褐色粘質土(粘性やや強)
3 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック混)
4 暗褐色粘質土
5 灰褐色粘質土(暗褐色粘質土・黄褐色粘質土混)
6 暗褐色粘土
7 褐色粘土
8 暗灰褐色粘土(粘性やや強)
9 明黄褐色砂質土
10 暗褐色粘質土(黄褐色土・暗灰褐色土混)
11 黒褐色粘土(炭化物少量混)
12 暗褐色粘質土
13 暗褐色粘質土
14 褐色粘質土(黒褐色粘土・黄褐色土混)
15 暗褐色粘質土(灰褐色土・黄褐色土混)
16 暗褐色粘質土(黄褐色土混・炭化物少量混)
17 暗褐色粘質土(黄褐色土混)
18 暗褐色粘質土(黄褐色土混)
19 黄褐色粘質土(黄褐色土混)
20 黒褐色粘質土(黄褐色土混)
25 黒褐色粘質土
26 黒褐色粘質土(黄褐色土混)
27 黒褐色粘質土
28 黒褐色粘質土(黄褐色土混)
29 黄褐色粘質土(黒褐色土混)
30 灰褐色粘質土(黄褐色土・黒褐色土混)
31 暗褐色粘質土(黄褐色土混)
32 黒褐色粘質土(しまり悪)
33 黒褐色粘質土
34 黒褐色粘質土(しまり悪)

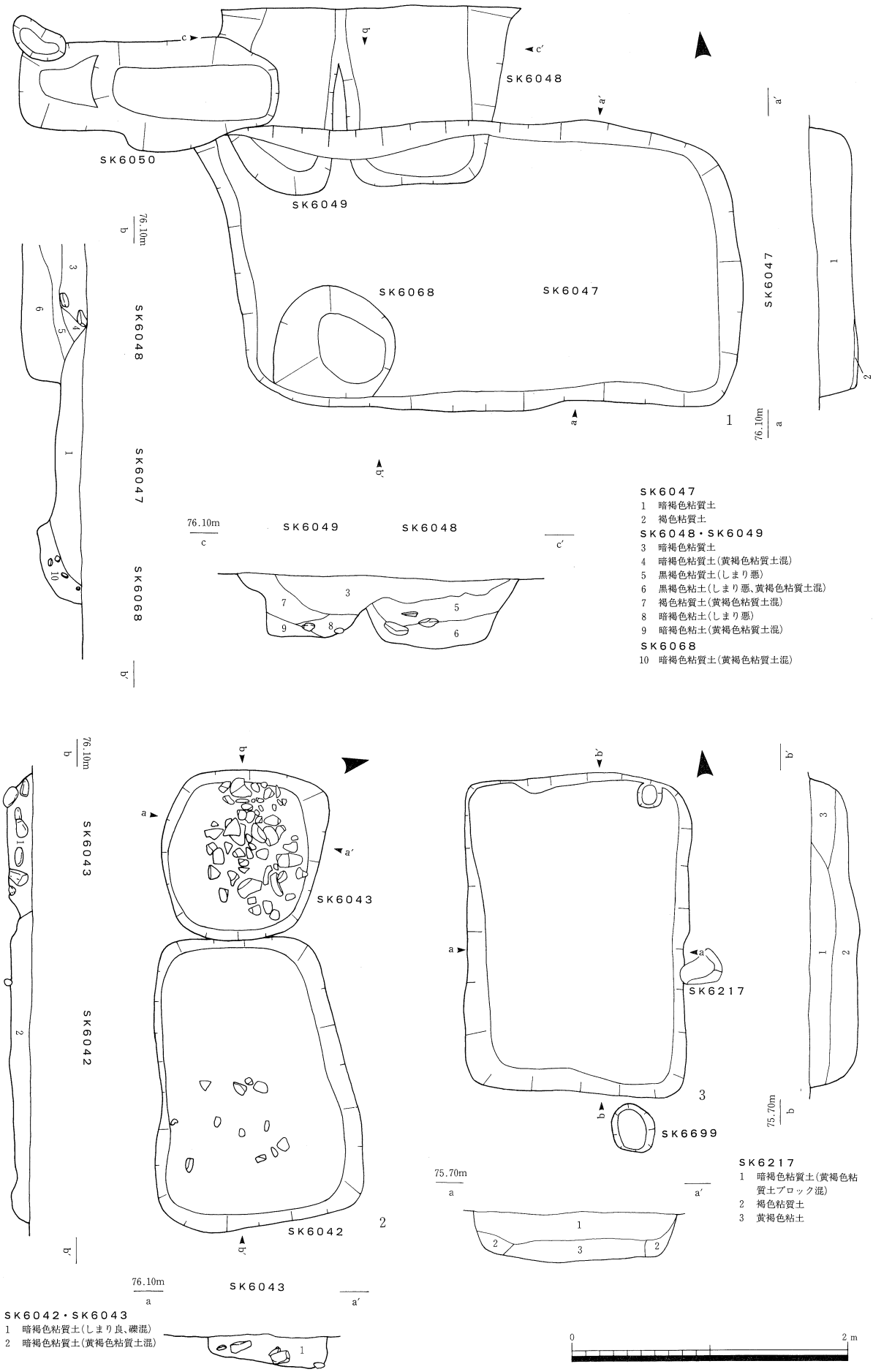
SD6034

21 褐色粘質土(黒褐色粘土混)
22 暗褐色粘質土
23 暗褐色粘質土
24 黄褐色粘質土(黒褐色土・炭化物少量混)

0 4 m

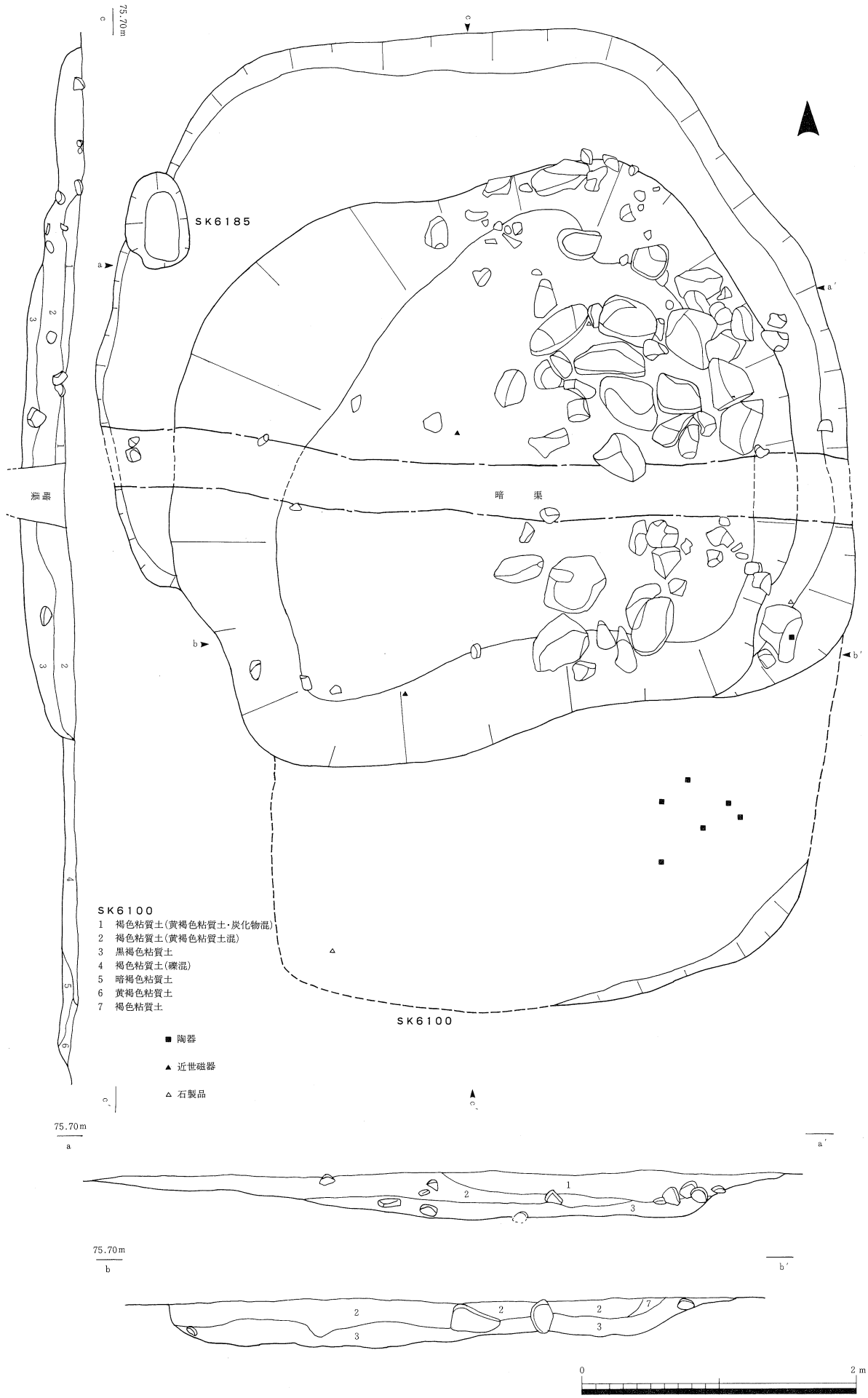
第281図　遺構実測図(近世)

SK5990

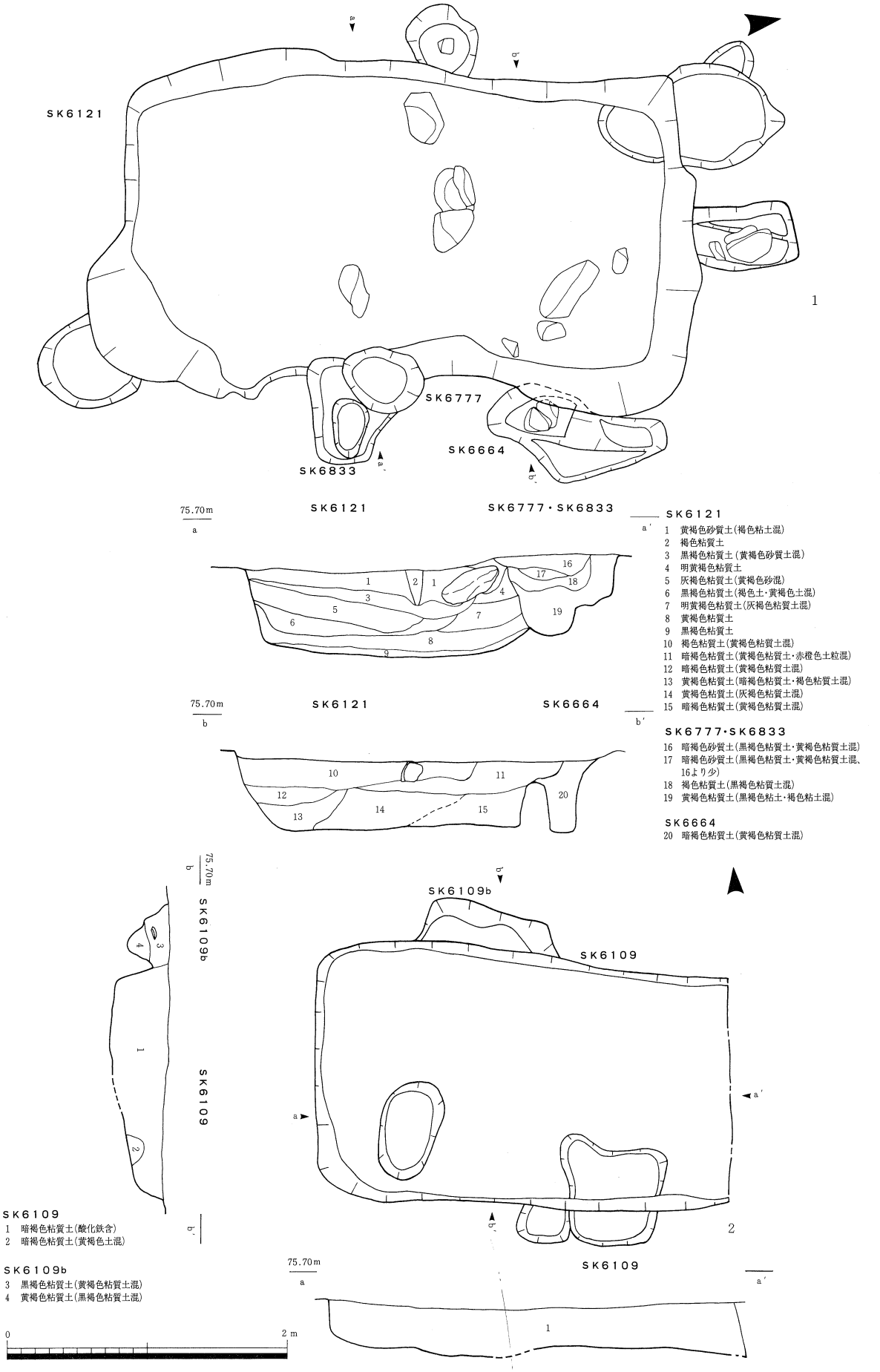


第282図　遺構実測図(近世)

1.SK6047～SK6050・SK6068　2.SK6042・SK6043　3.SK6217

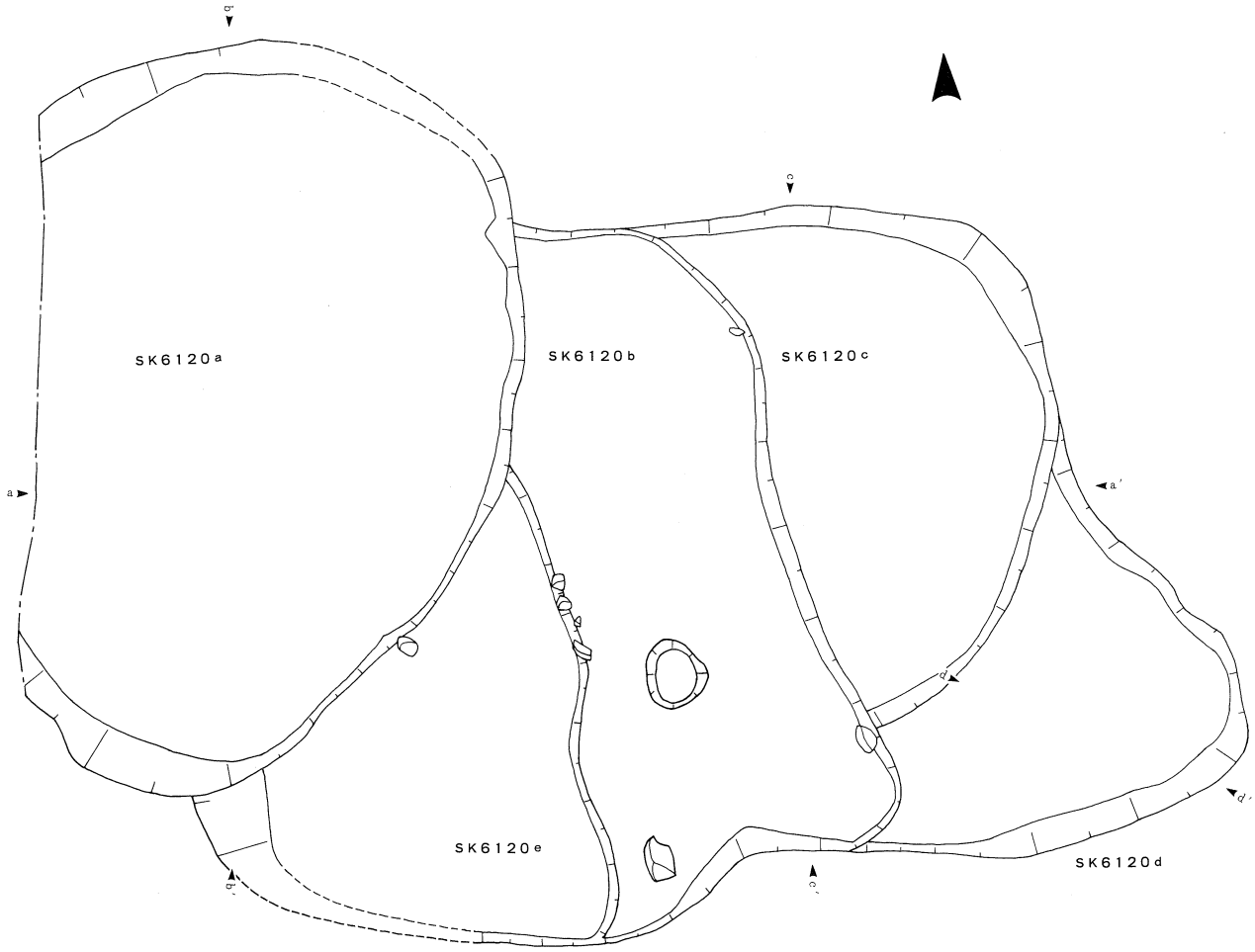


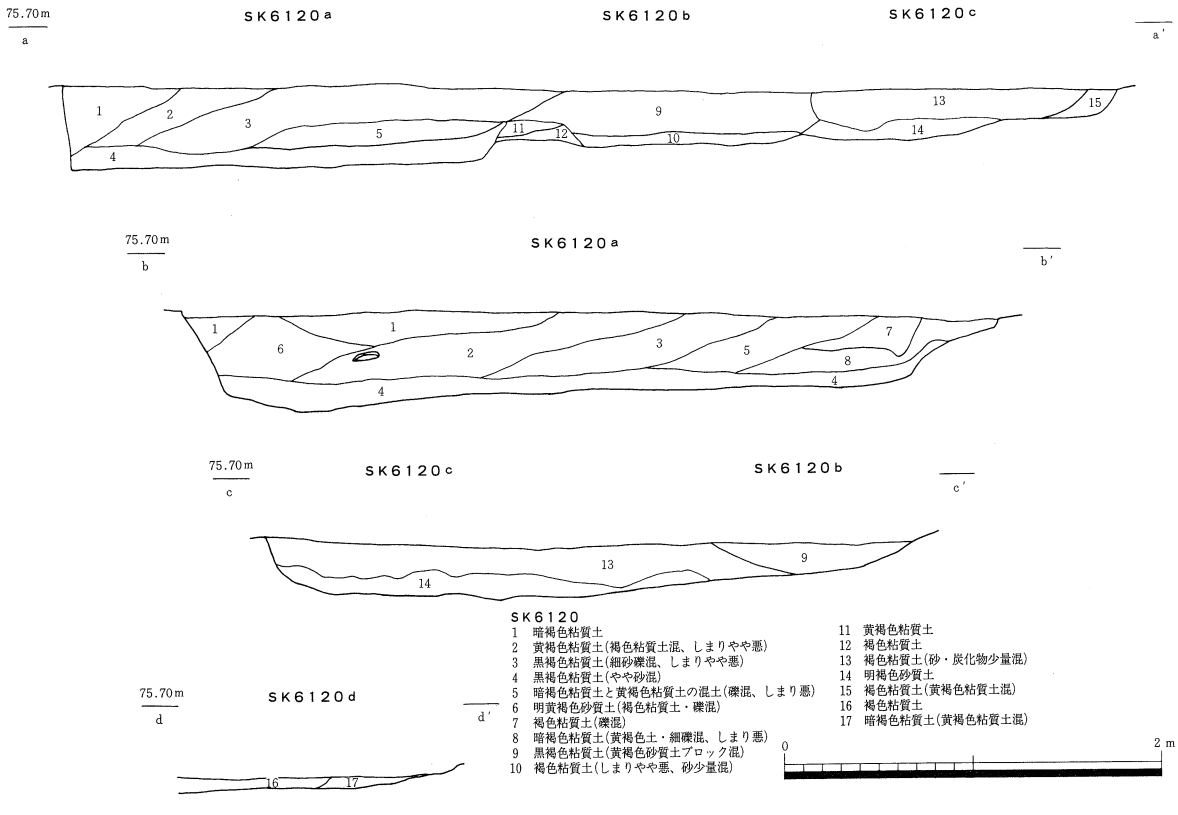
第283図　遺構実測図(近世)
SK6100



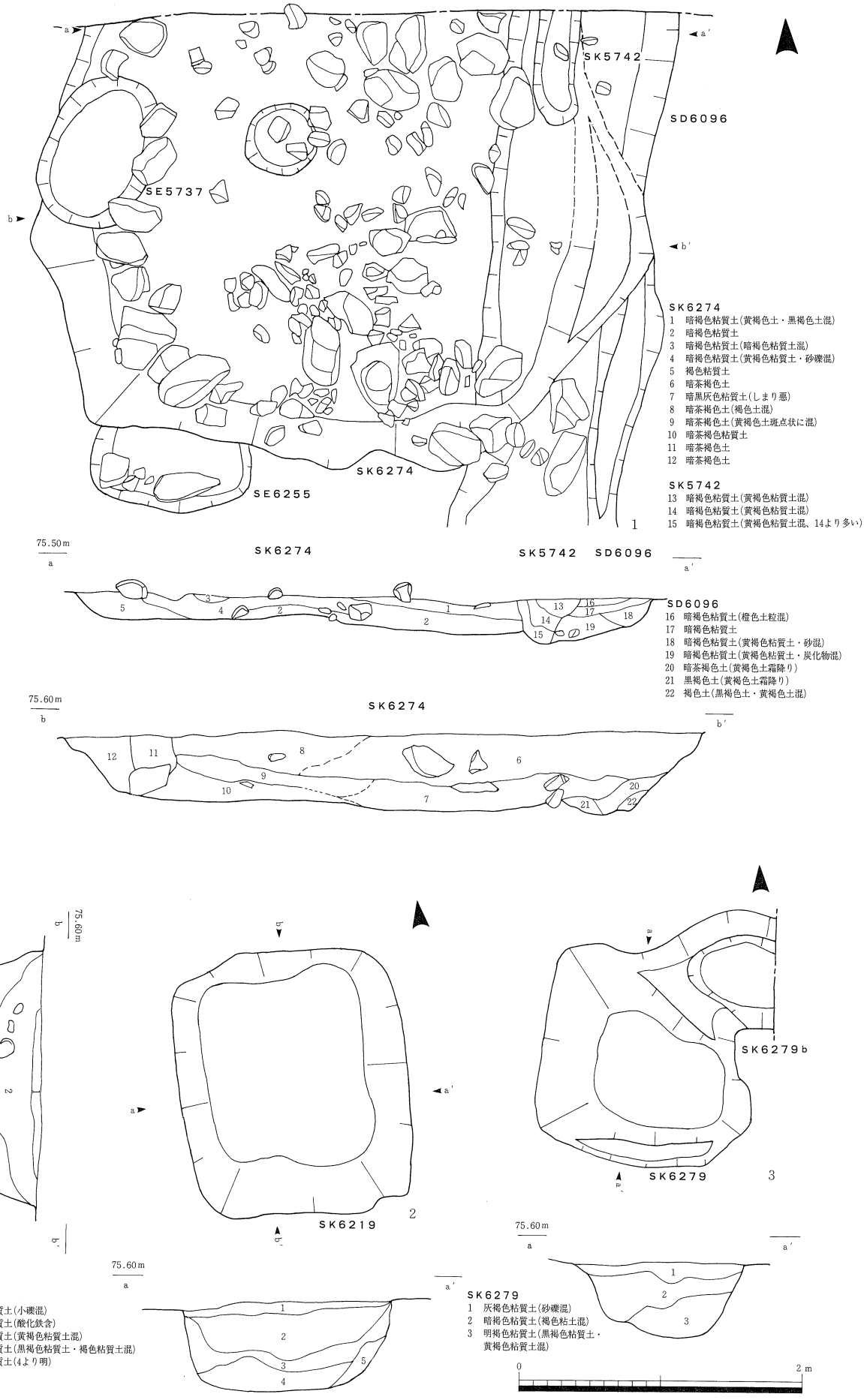
第284図　遺構実測図(近世)

1.SK6121・SK6664・SK6777・SK6833　2.SK6109・SK6109b



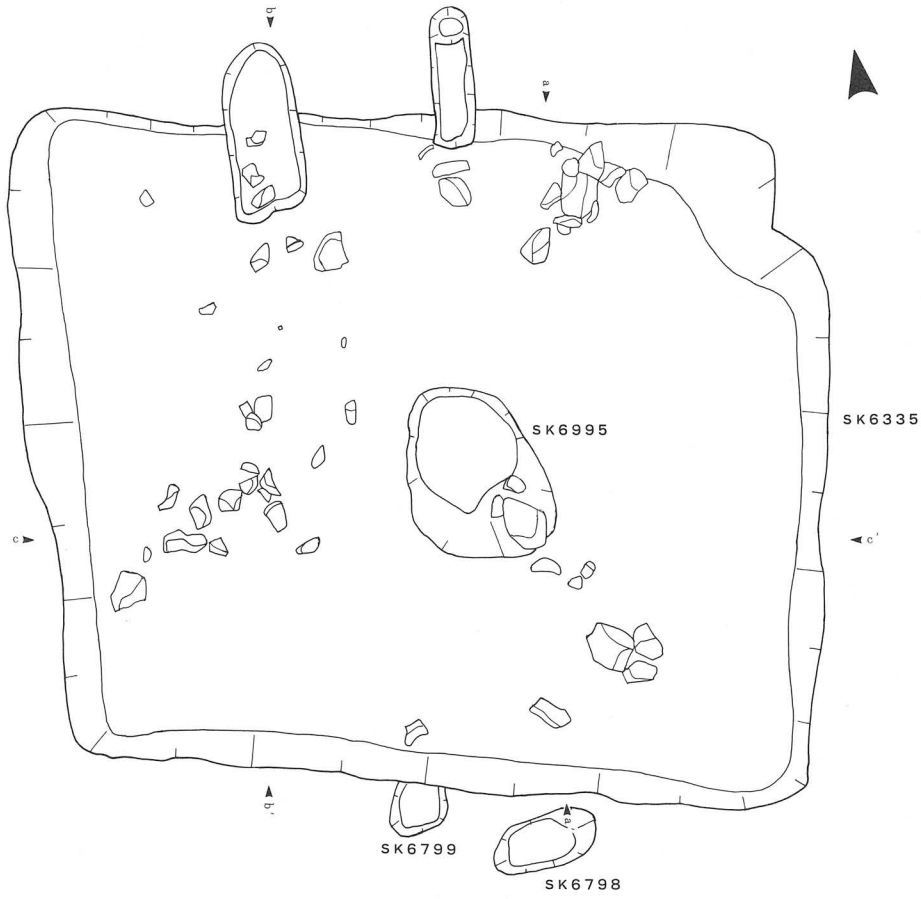


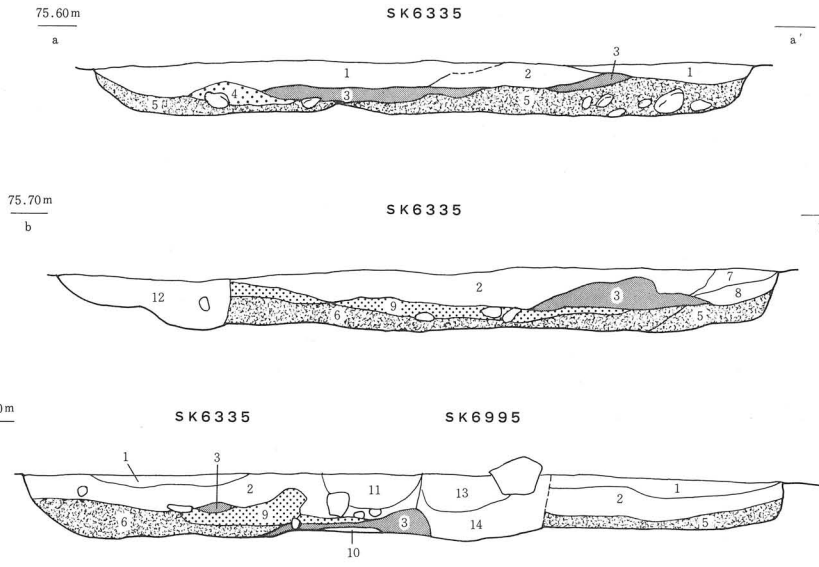
第285図　遺構実測図(近世)
SK6120



第286図　遺構実測図(近世)

1.SK5742・SK6274　2.SK6219　3.SK6279



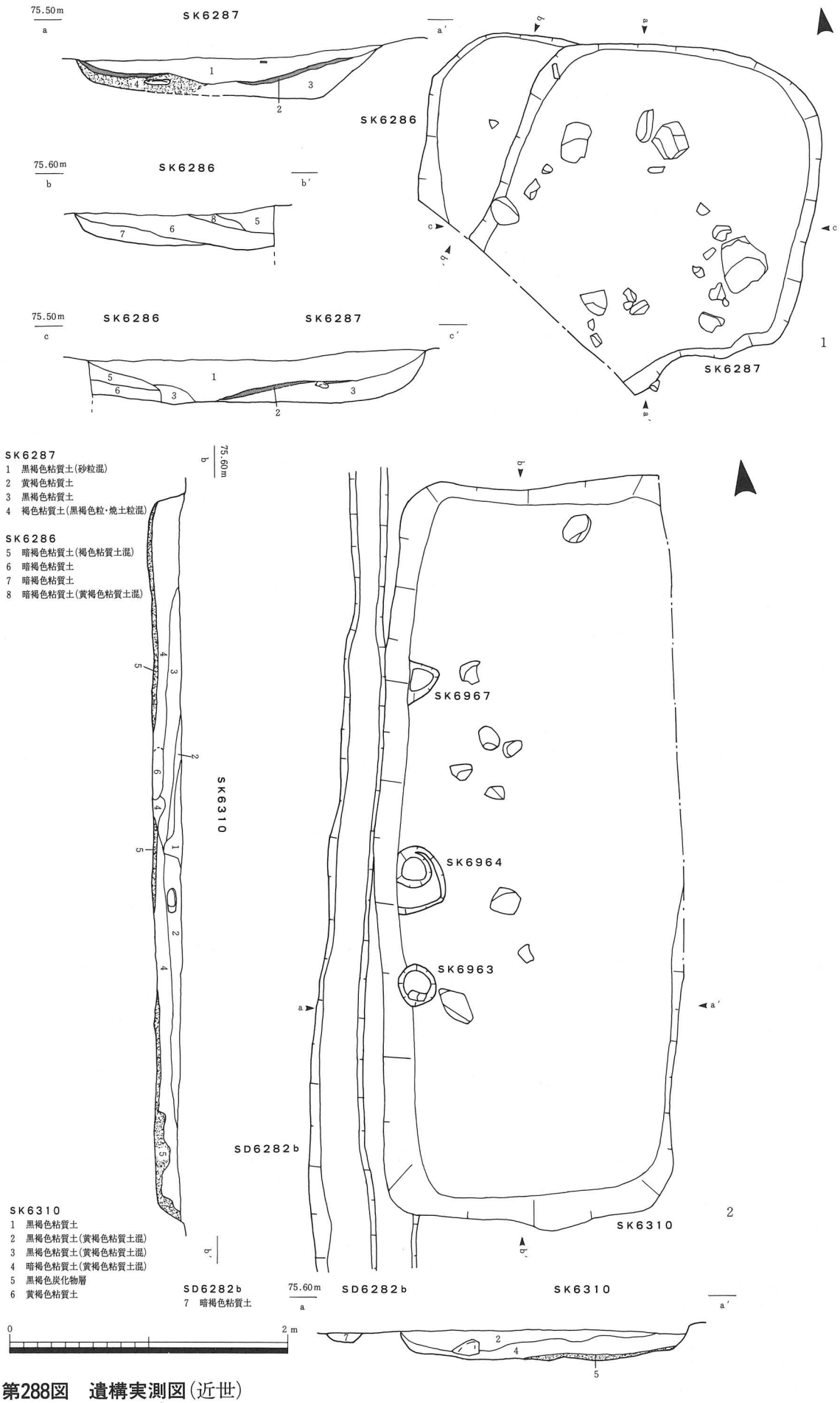


SK6335
1 褐色粘質土(礫混)
2 暗褐色粘質土(砂礫混)
3 炭化物層(暗褐色粘質土混、藻状炭化物主体)
4 黄褐色砂(炭化物混)
5 暗褐色粘質土(焼土・炭化物混)
6 暗褐色粘質土(焼土・炭化物混、5と似る)
7 暗褐色粘質土(砂礫混)
8 暗褐色粘質土(焼土・砂礫混)
9 黄褐色粘質土(黄褐色粘質土・褐色粘質土・暗褐色粘質土粒混)
10 暗褐灰色粘質土
11 明褐色砂質土(小礫混)
12 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)

SK6995
13 暗茶褐色砂質土と黄褐色粘質土の混土(小礫混)
14 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック・小礫混)

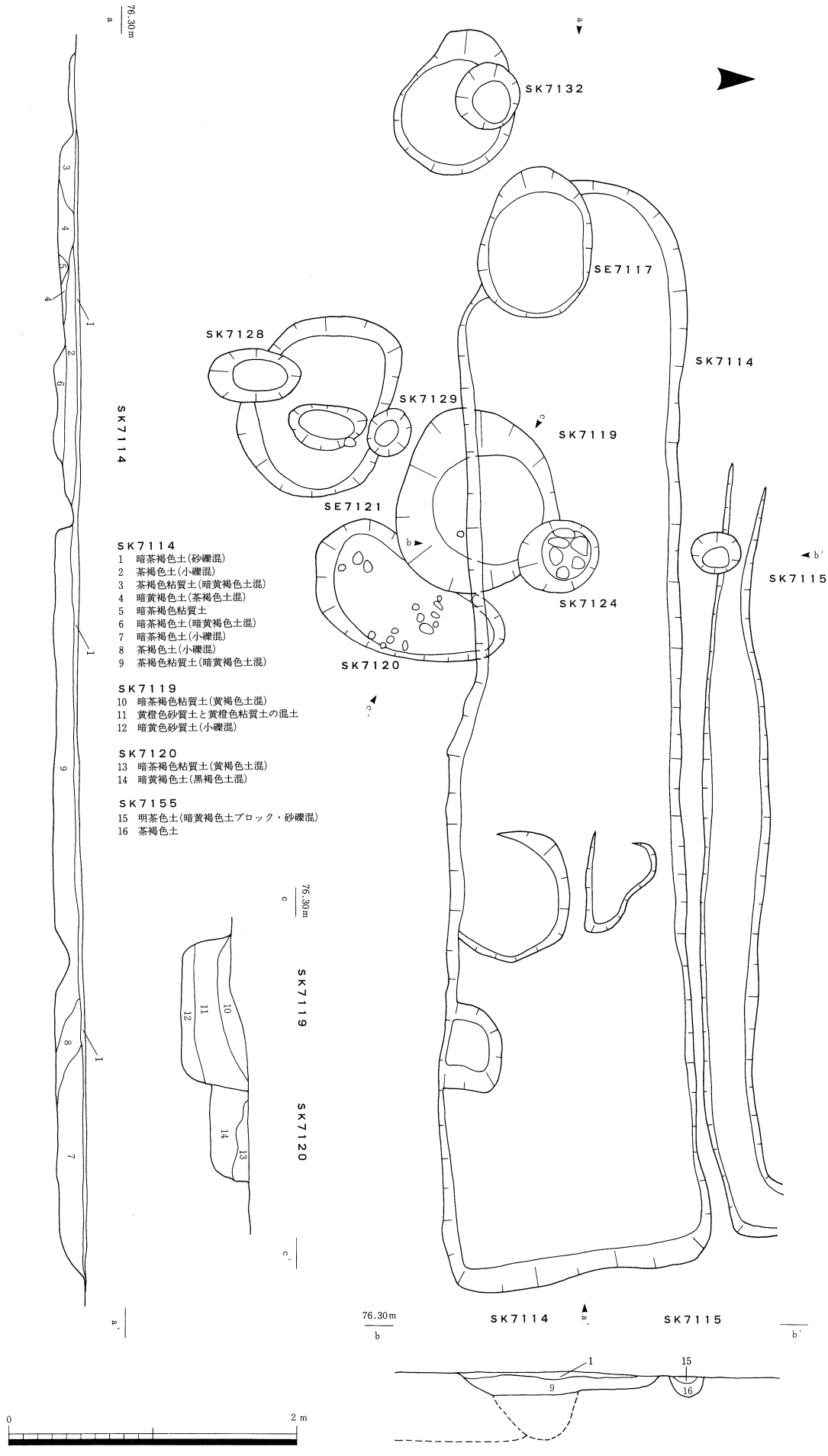
0 2m

第287図　遺構実測図(近世)
SK6335・SK6995

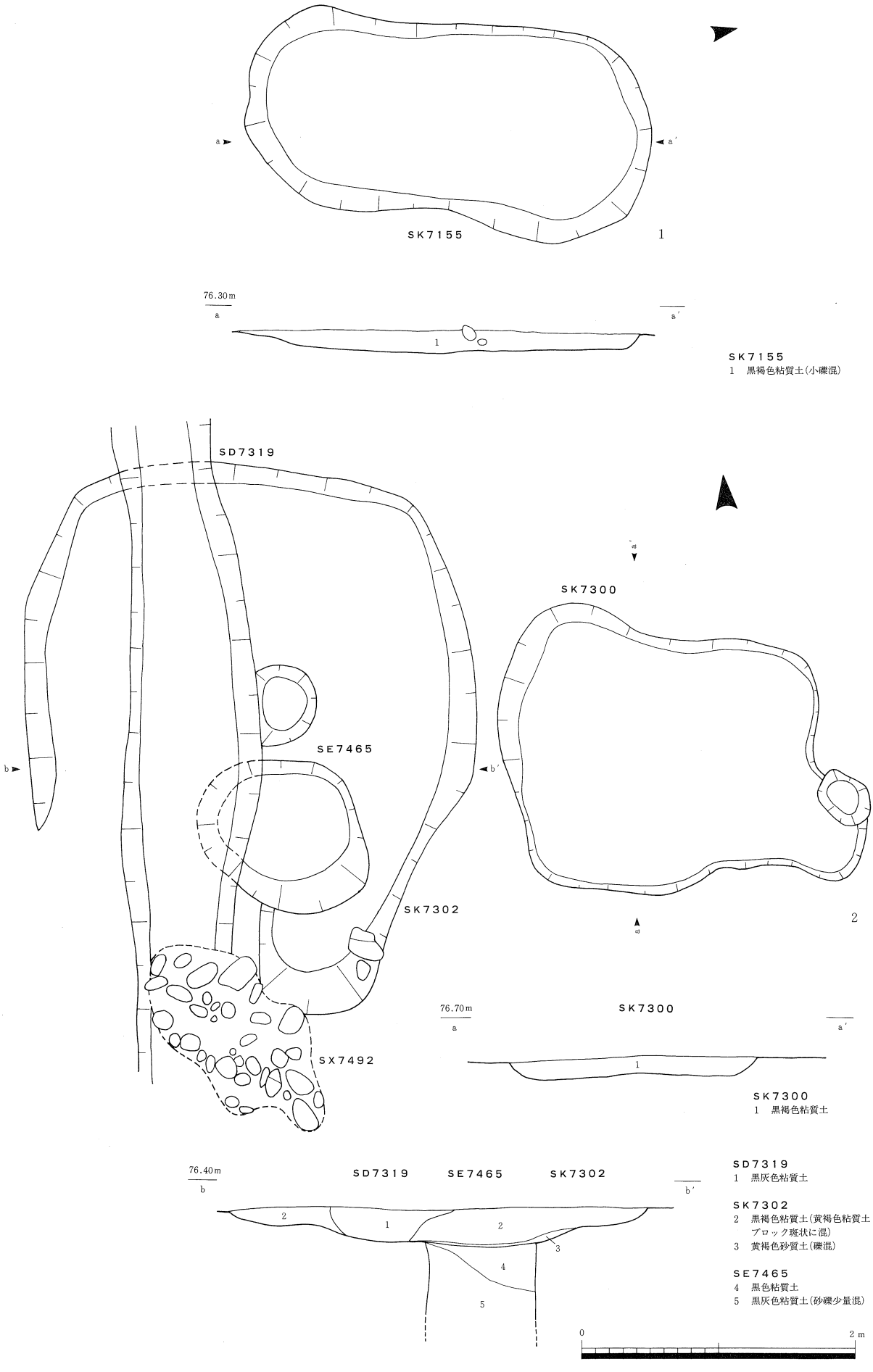


第288図　遺構実測図(近世)

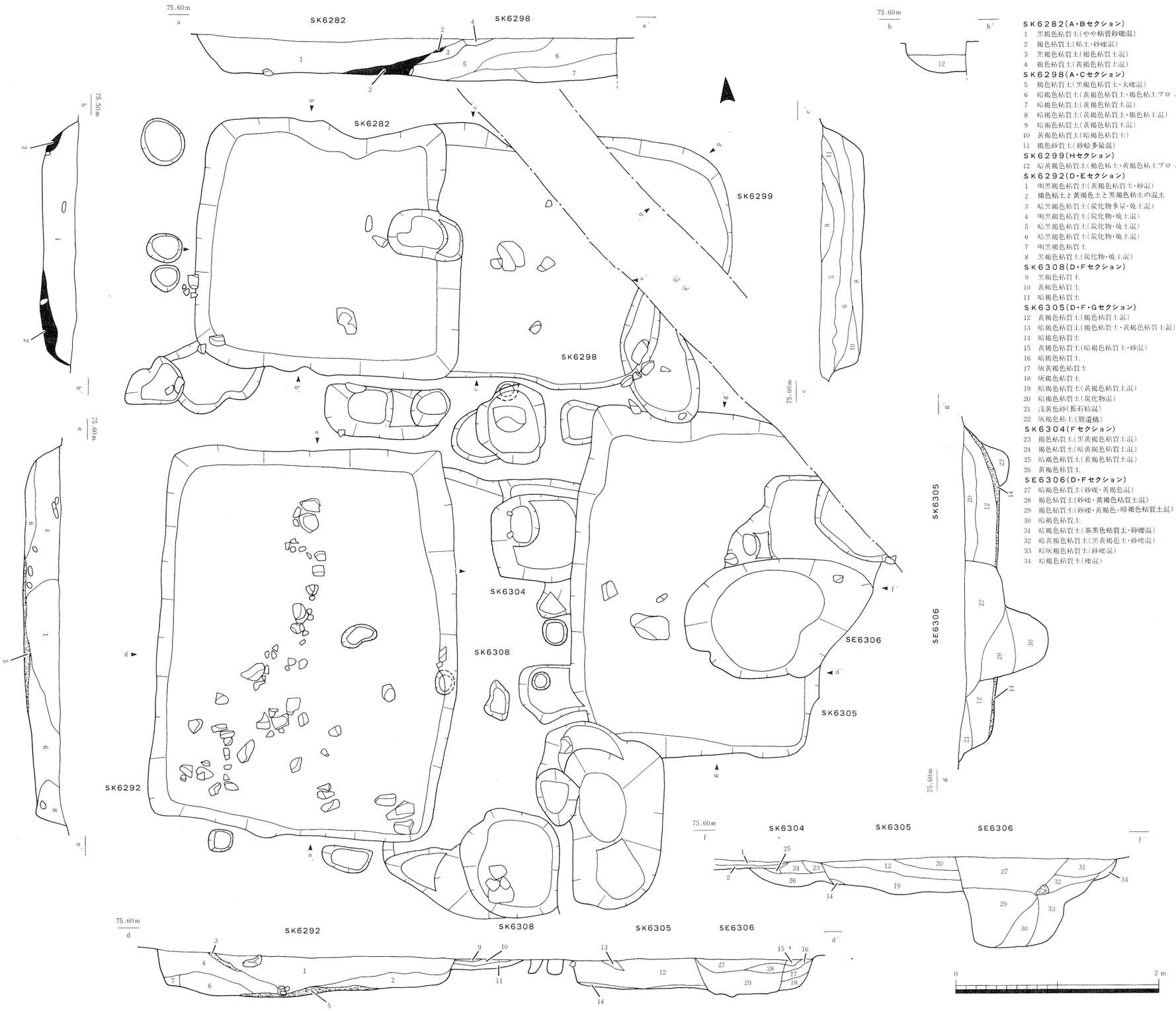
1.SK6286・SK6287　2.SK6310



第289図　遺構実測図(近世)
SK7114・SK7119・SK7120



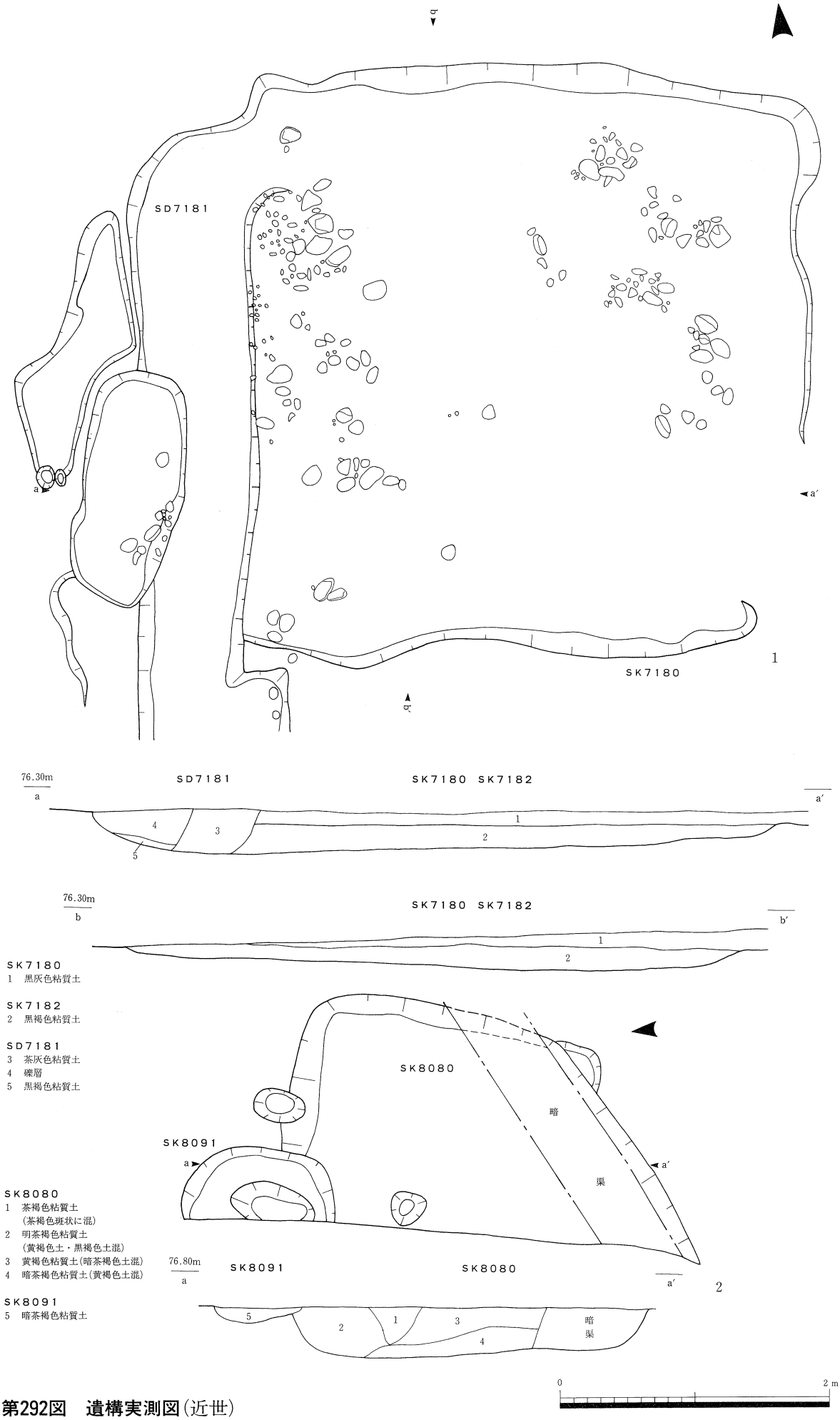
第290図　遺構実測図(近世)
1.SK7155　2.SK7300・SK7302



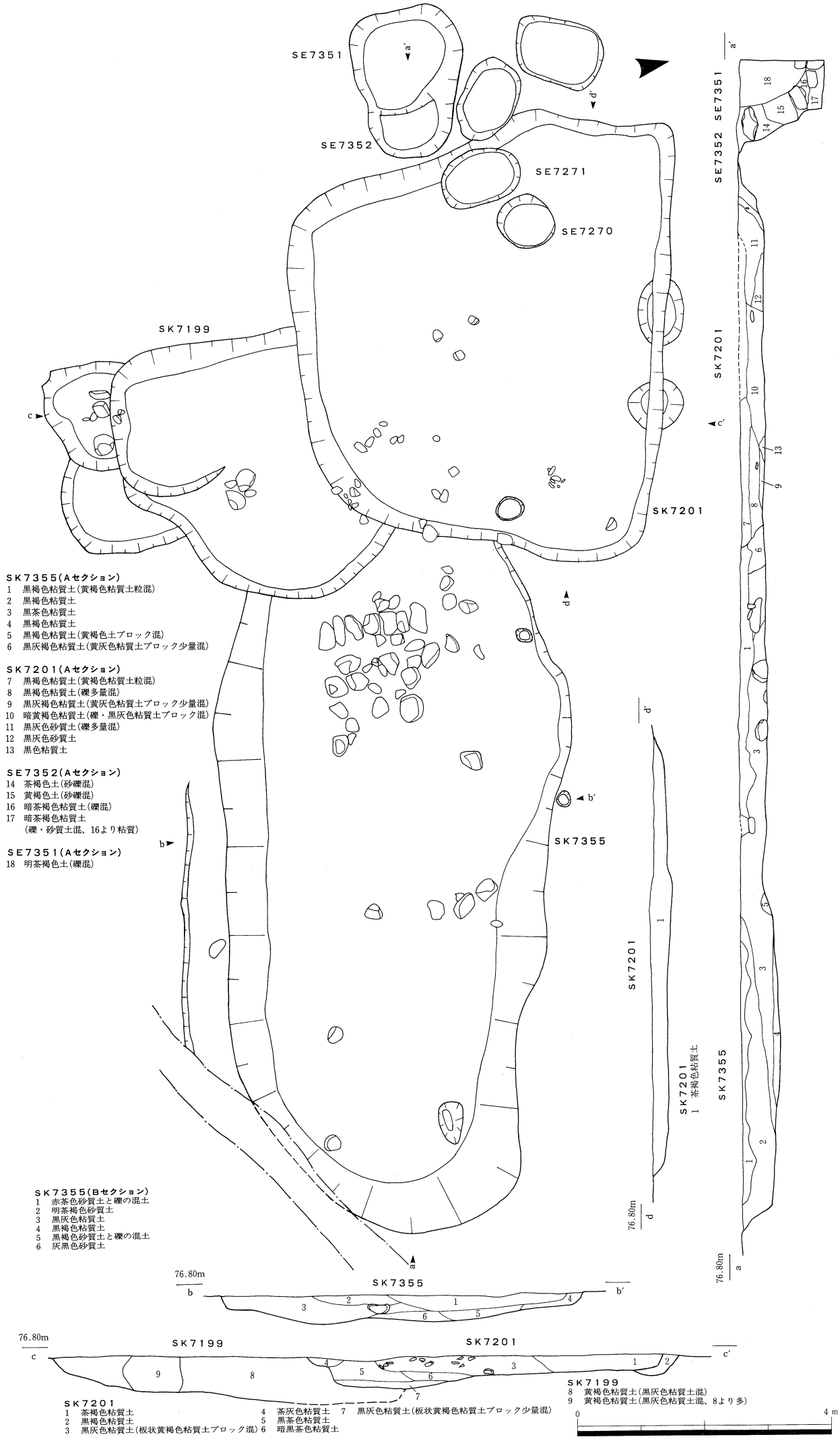
SK6282(A・Bセクション)
1 黒褐色粘質土(やや粘質砂礫混)
2 褐色粘質土(粘土・砂礫混)
3 黒褐色粘質土(褐色粘質土混)
4 褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
SK6298(A・Cセクション)
5 褐色粘質土(黒褐色粘質土・大礫混)
6 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土・褐色粘土ブロック混)
7 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
8 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土・褐色粘土混)
9 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
10 黄褐色粘質土(暗褐色粘質土)
11 褐色砂質土(砂粒多量混)
SK6299(Hセクション)
12 暗黄褐色粘質土(褐色粘土・黄褐色粘土ブロック混)
SK6292(D・Eセクション)
1 明黒褐色粘質土(黄褐色粘質土・砂混)
2 褐色粘土と黄褐色土と黒褐色粘土の混土
3 暗黒褐色粘質土(炭化物多量・焼土混)
4 明黒褐色粘質土(炭化物・焼土混)
5 暗黒褐色粘質土(炭化物・焼土混)
6 暗黒褐色粘質土(炭化物・焼土混)
7 明黒褐色粘質土
8 黒褐色粘質土(炭化物・焼土混)
SK6308(D・Fセクション)
9 黒褐色粘質土
10 黄褐色粘質土
11 暗褐色粘質土
SK6305(D・F・Gセクション)
12 黄褐色粘質土(褐色粘質土混)
13 暗褐色粘質土(褐色粘質土・黄褐色粘質土混)
14 暗褐色粘質土
15 黄褐色粘質土(暗褐色粘質土・砂混)
16 暗褐色粘質土
17 灰黄褐色粘質土
18 灰褐色粘質土
19 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
20 暗褐色粘質土(炭化物混)
21 浅黄色砂(長石粒混)
22 灰褐色粘土(別遺構)
SK6304(Fセクション)
23 褐色粘質土(黒黄褐色粘質土混)
24 褐色粘質土(暗黄褐色粘質土混)
25 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
26 黄褐色粘質土
SE6306(D・Fセクション)
27 暗褐色粘質土(砂礫・黄褐色)
28 褐色粘質土(砂礫・黄褐色粘質土混)
29 褐色粘質土(砂礫・黄褐色・暗褐色粘質土混)
30 暗褐色粘質土
31 暗褐色粘質土(茶黒色粘質土・砂礫混)
32 暗黄褐色粘質土(黒黄褐色土・砂礫混)
33 暗灰褐色粘質土(砂礫混)
34 暗褐色粘質土(礫混)

0 2m

第291図　遺構実測図(近世)
SK6282・SK6292・SK6298・SK6299・SK6304・SK6305・SK6308



第292図　遺構実測図(近世)
1.SK7180・SK7182　2.SK8080



SK7355(Aセクション)
1 黒褐色粘質土(黄褐色粘質土粒混)
2 黒褐色粘質土
3 黒茶色粘質土
4 黒褐色粘質土
5 黒褐色粘質土(黄褐色土ブロック混)
6 黒灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック少量混)

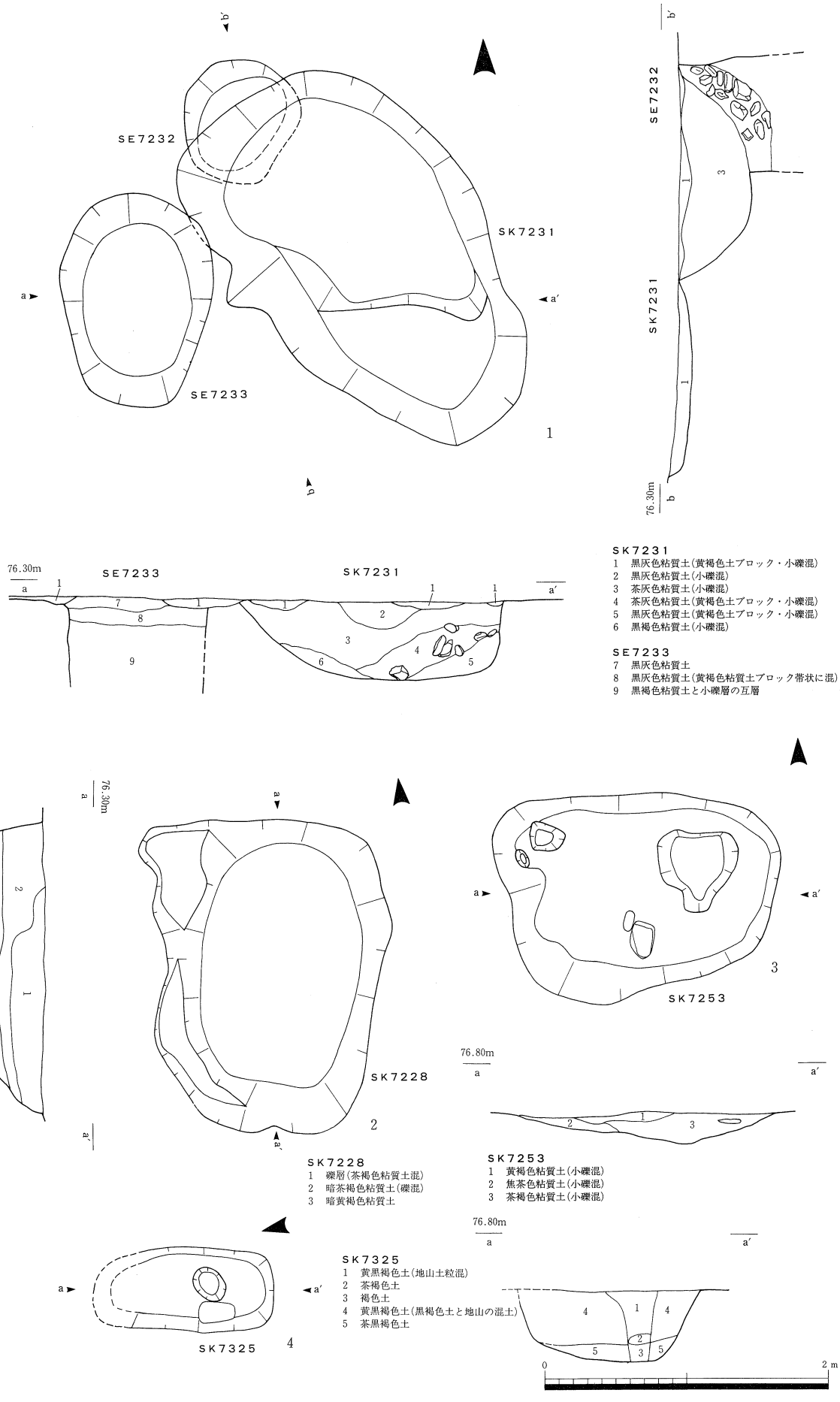
SK7201(Aセクション)
7 黒褐色粘質土(黄褐色粘質土粒混)
8 黒褐色粘質土(礫多量混)
9 黒灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック少量混)
10 暗黄褐色粘質土(礫・黒灰色粘質土ブロック混)
11 黒灰色砂質土(礫多量混)
12 黒灰色砂質土
13 黒色粘質土

SE7352(Aセクション)
14 茶褐色土(砂礫混)
15 黄褐色土(砂礫混)
16 暗茶褐色粘質土(礫混)
17 暗茶褐色粘質土
(礫・砂質土混、16より粘質)

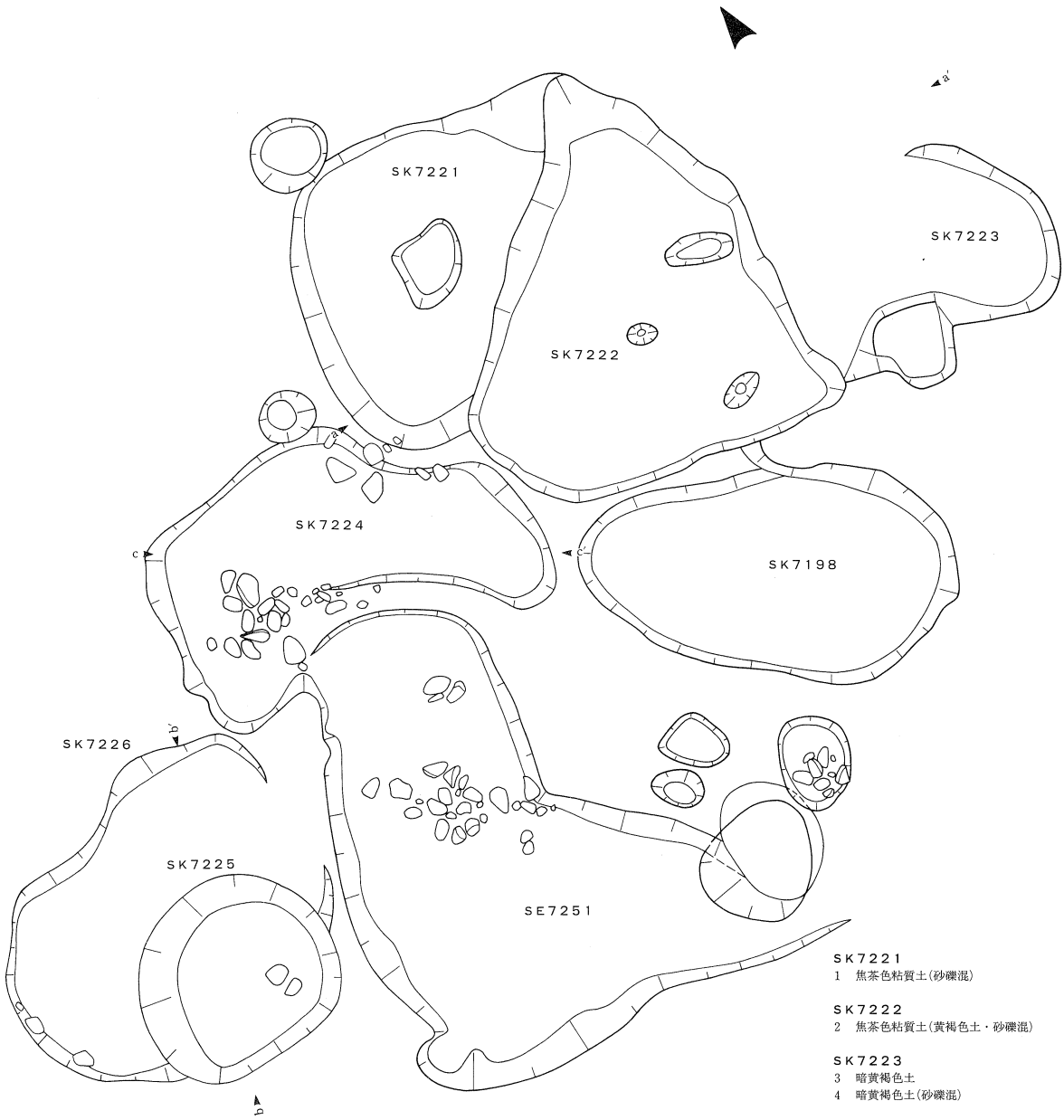
SE7351(Aセクション)
18 明茶褐色土(礫混)

SK7355(Bセクション)
1 赤茶色砂質土と礫の混土
2 明茶褐色砂質土
3 黒灰色粘質土
4 黒褐色粘質土
5 黒褐色砂質土と礫の混土
6 灰黒色砂質土

第293図　遺構実測図(近世)
SK7199・SK7201・SK7355



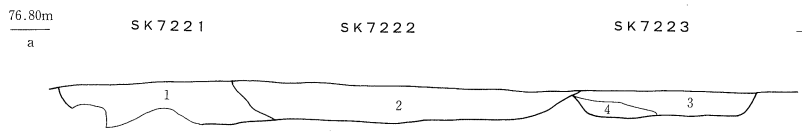
第294図　遺構実測図(近世)
1.SK7231　2.SK7228　3.SK7253　4.SK7325

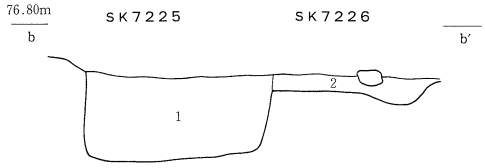


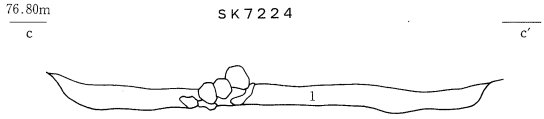
SK7221
1　焦茶色粘質土(砂礫混)

SK7222
2　焦茶色粘質土(黄褐色土・砂礫混)

SK7223
3　暗黄褐色土
4　暗黄褐色土(砂礫混)



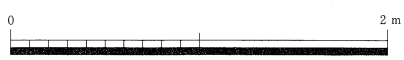




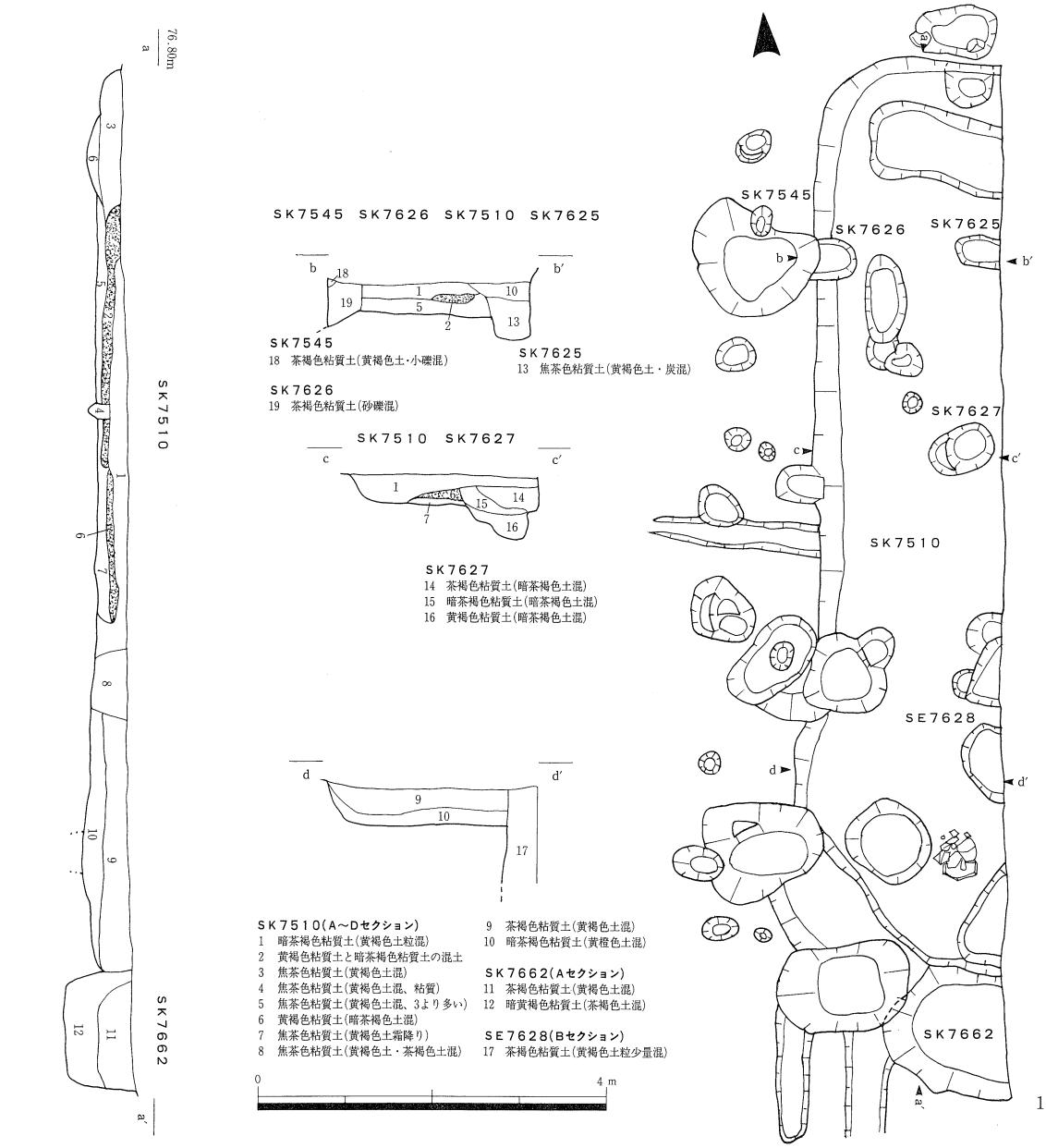
SK7225
1　暗茶褐色粘質土(礫混)

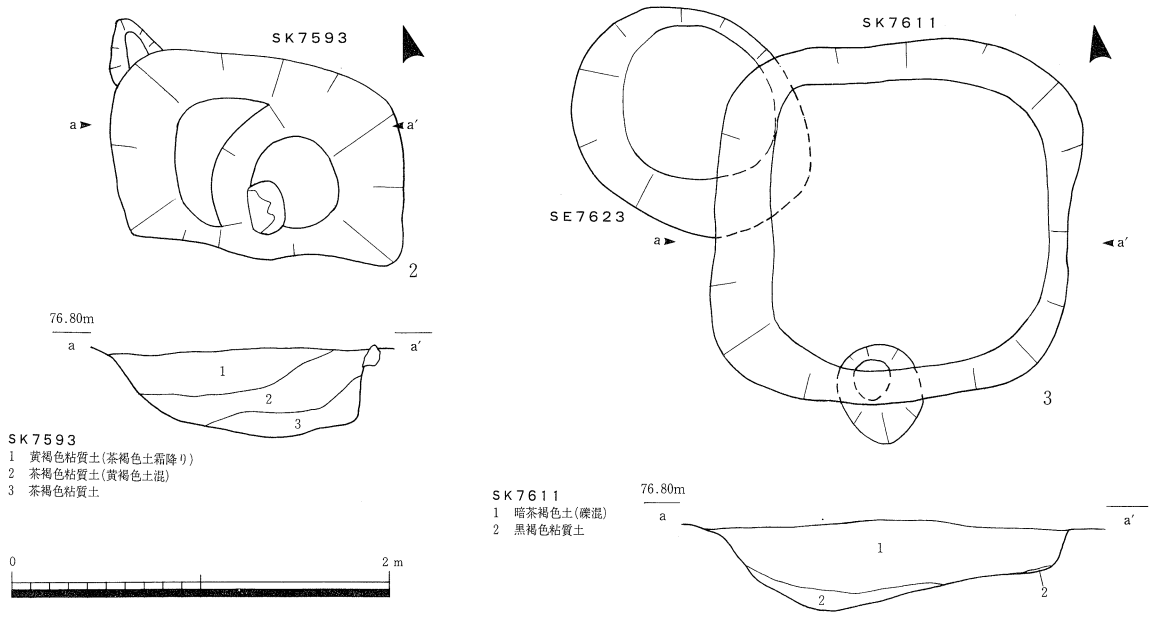
SK7226
2　黒褐色粘質土と暗黄褐色粘質土の混土(砂礫混)

SK7224
1　茶褐色粘質土(礫混)

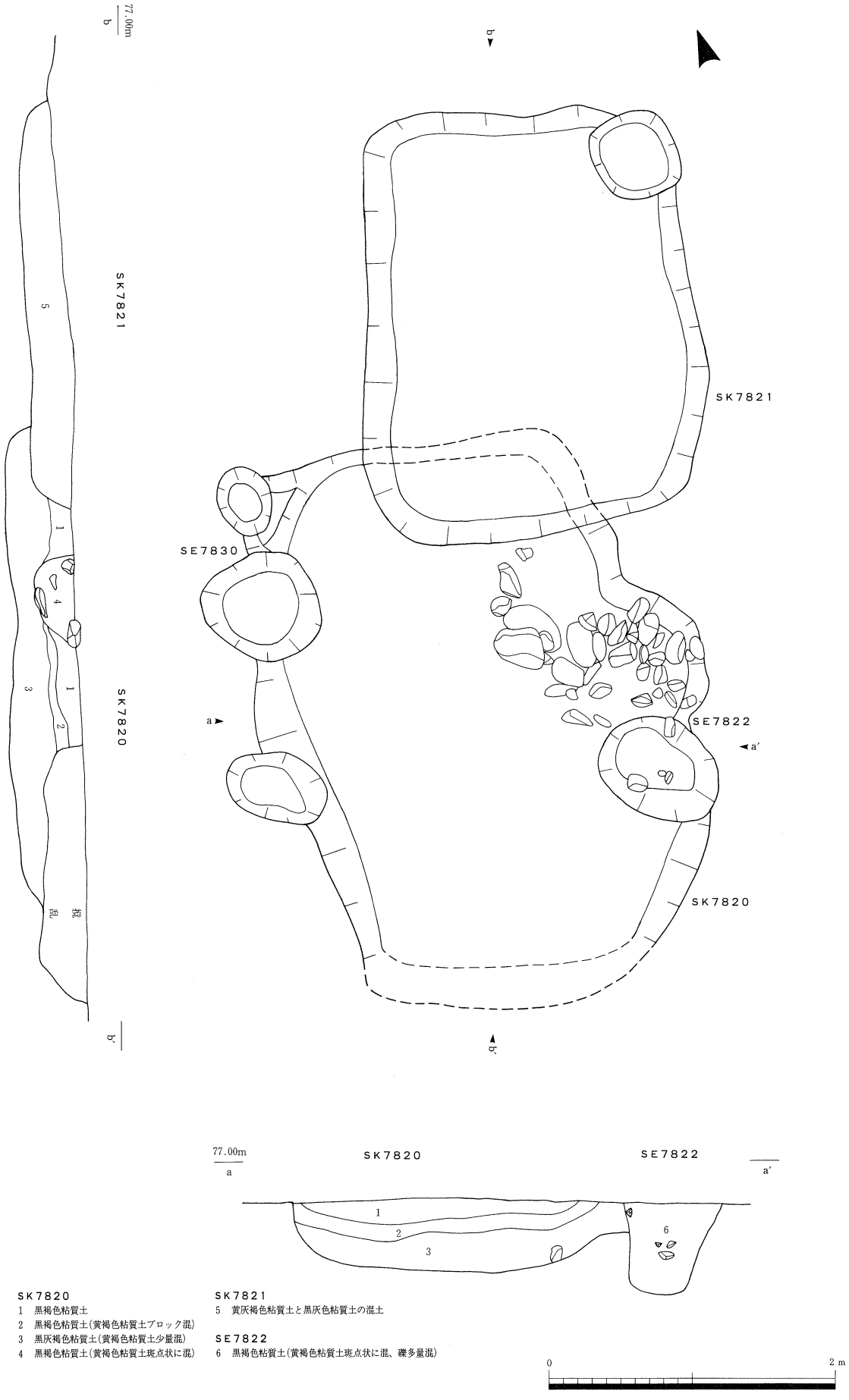


第295図　遺構実測図(近世)
SK7221～SK7226





第296図　遺構実測図(近世)
1.SK7510　2.SK7593　3.SK7611

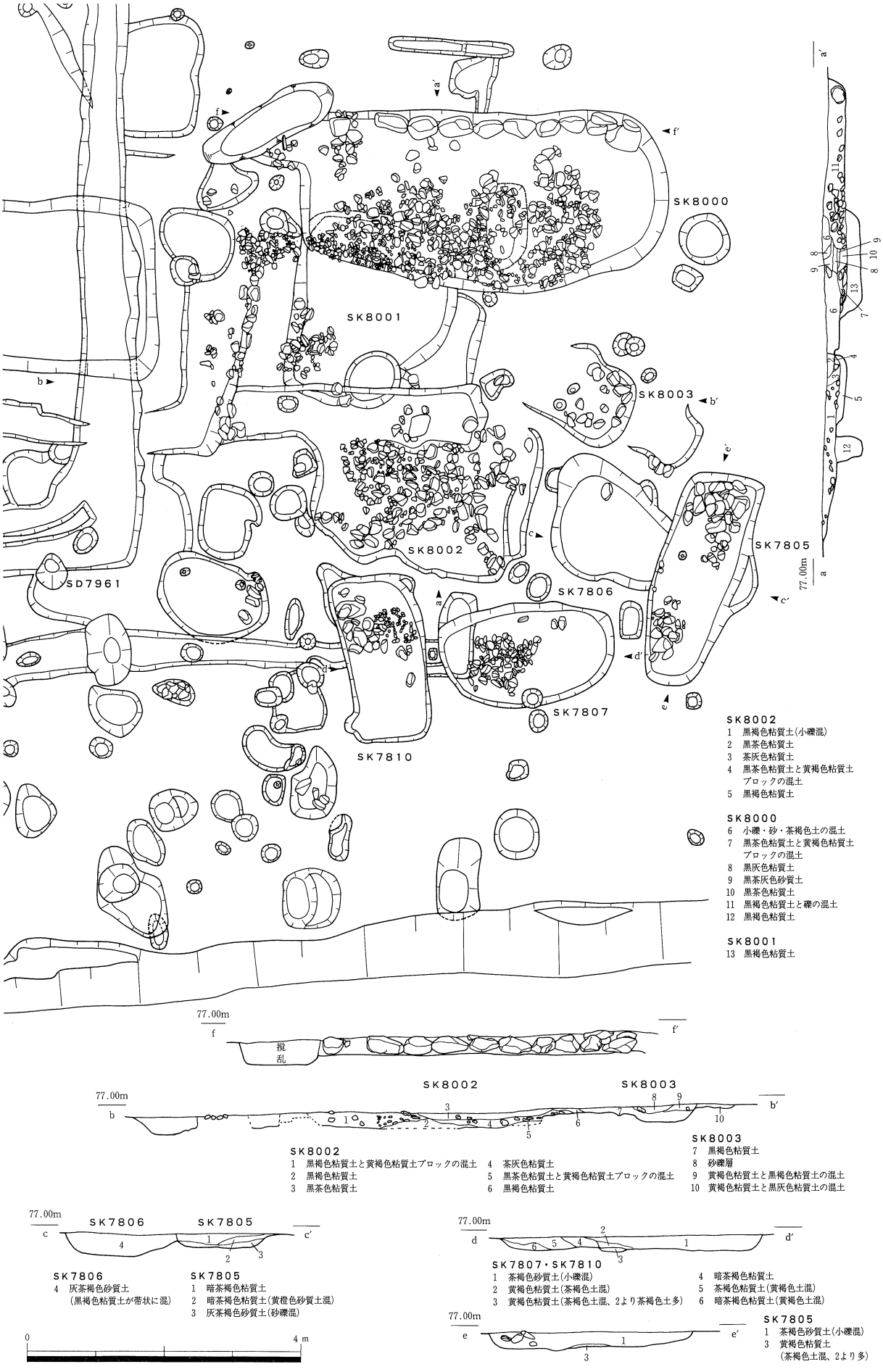


SK7820
1　黒褐色粘質土
2　黒褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック混)
3　黒灰褐色粘質土(黄褐色粘質土少量混)
4　黒褐色粘質土(黄褐色粘質土斑点状に混)

SK7821
5　黄灰褐色粘質土と黒灰色粘質土の混土

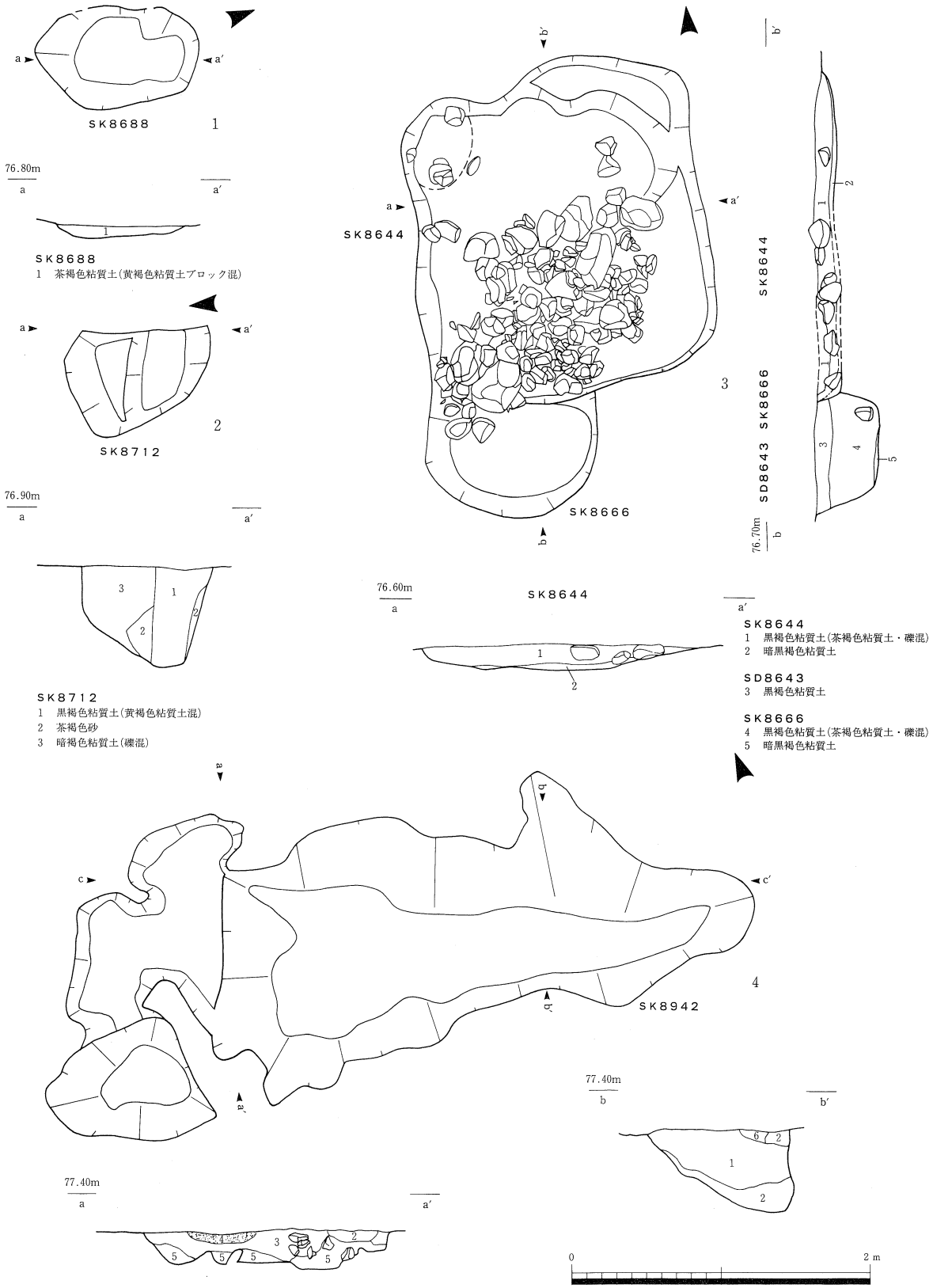
SE7822
6　黒褐色粘質土(黄褐色粘質土斑点状に混、礫多量混)

第297図　遺構実測図(近世)
SK7820・SK7821



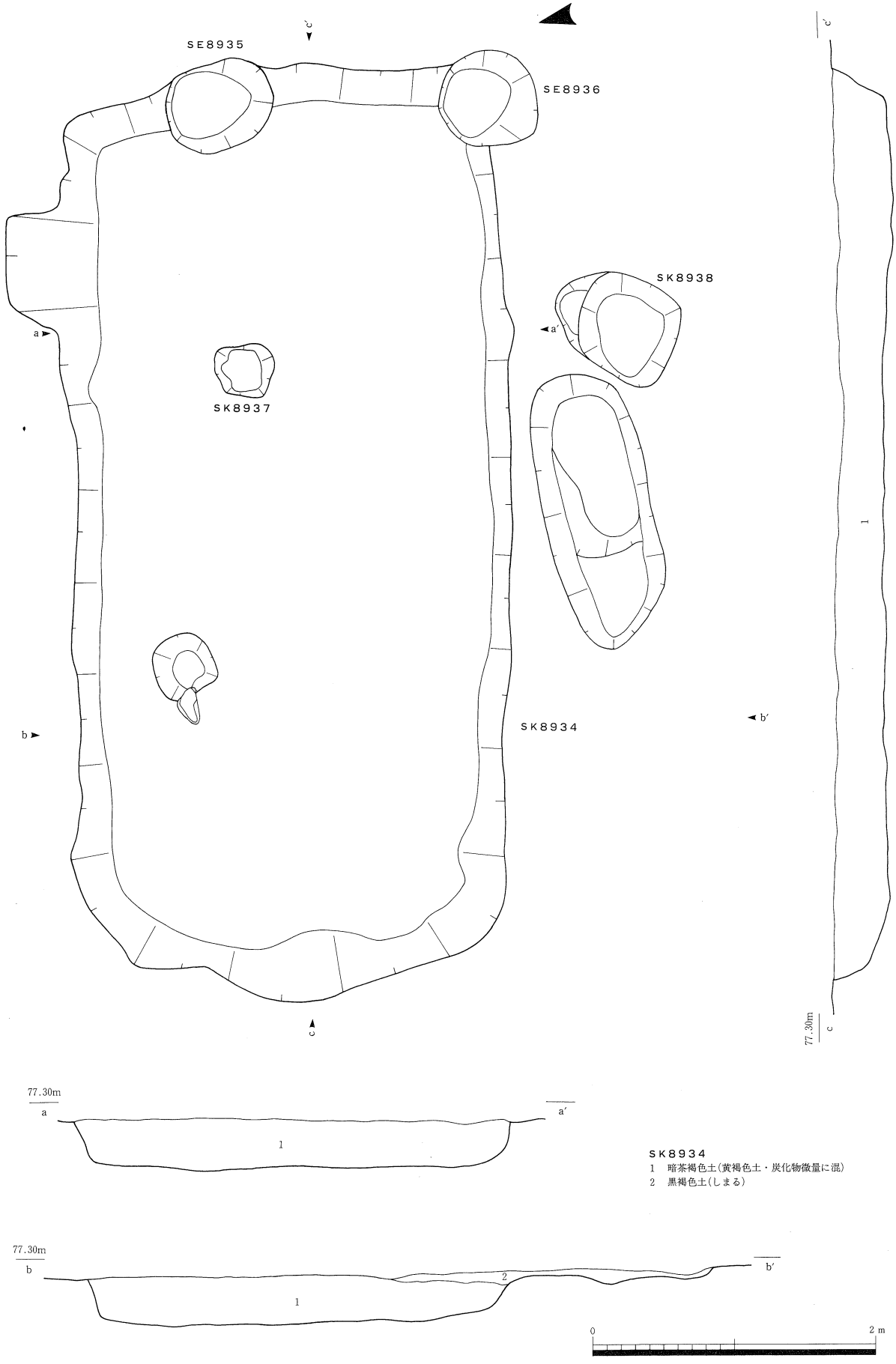
第298図　遺構実測図(近世)

SK7805～SK7807・SK7810・SK8000～SK8003

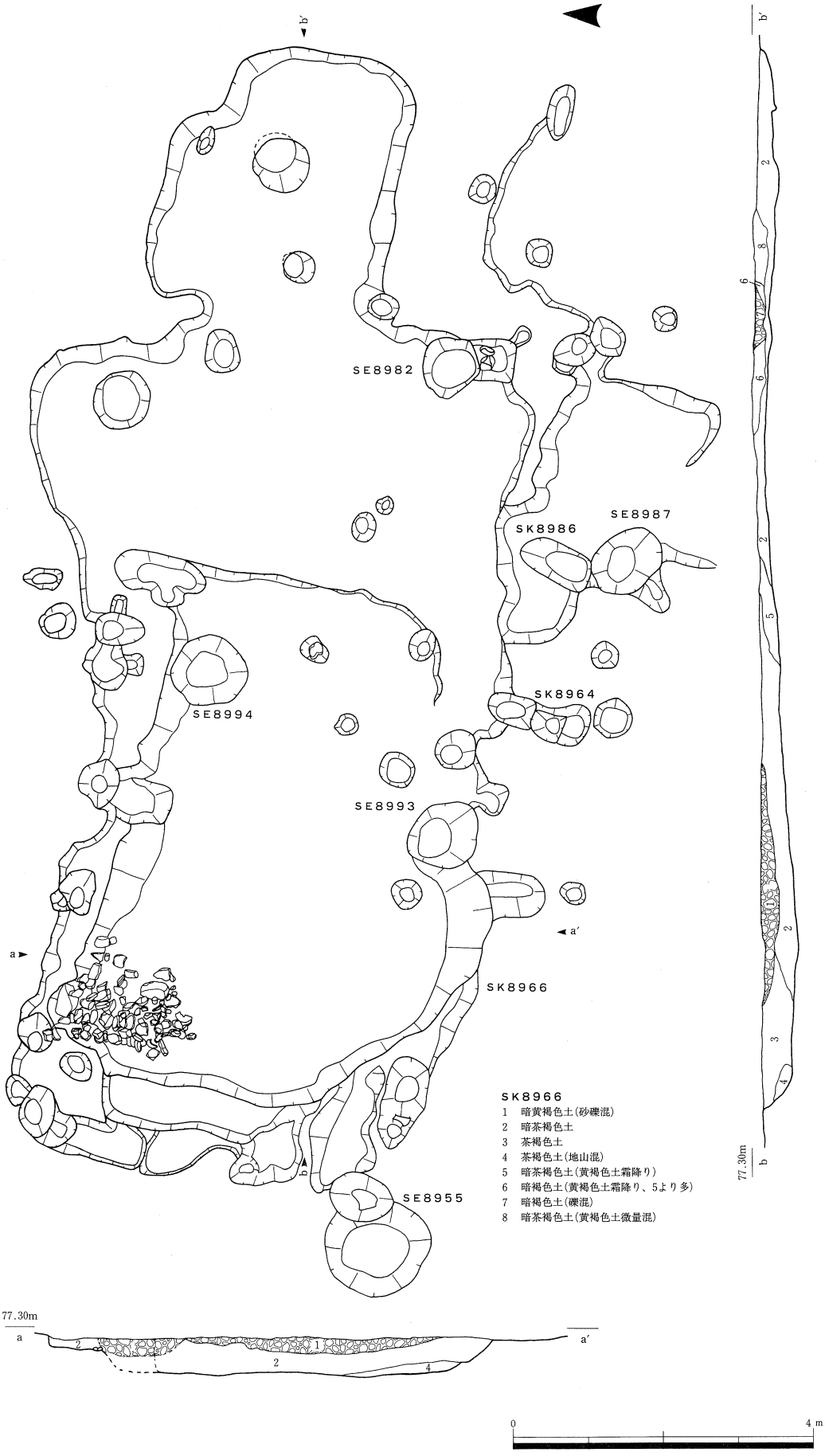


第299図　遺構実測図(近世)

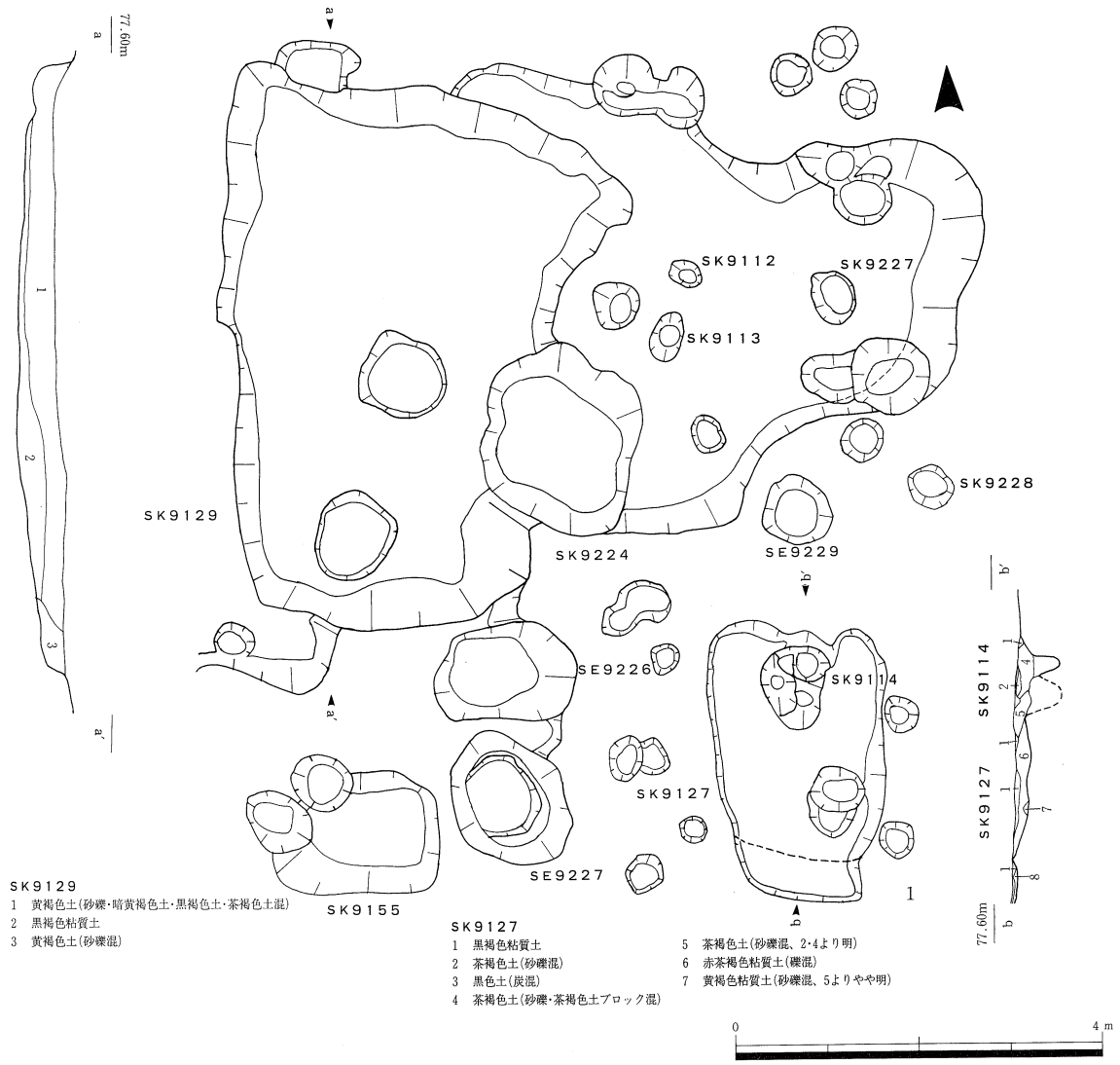
1.SK8688　2.SK8712　3.SK8644・SK8666　4.SK8942

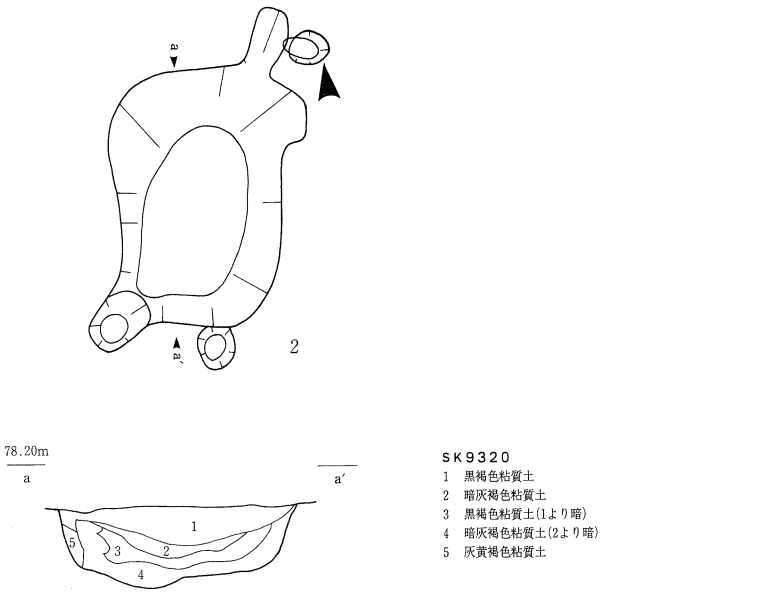


第300図　遺構実測図(近世)
SK8934

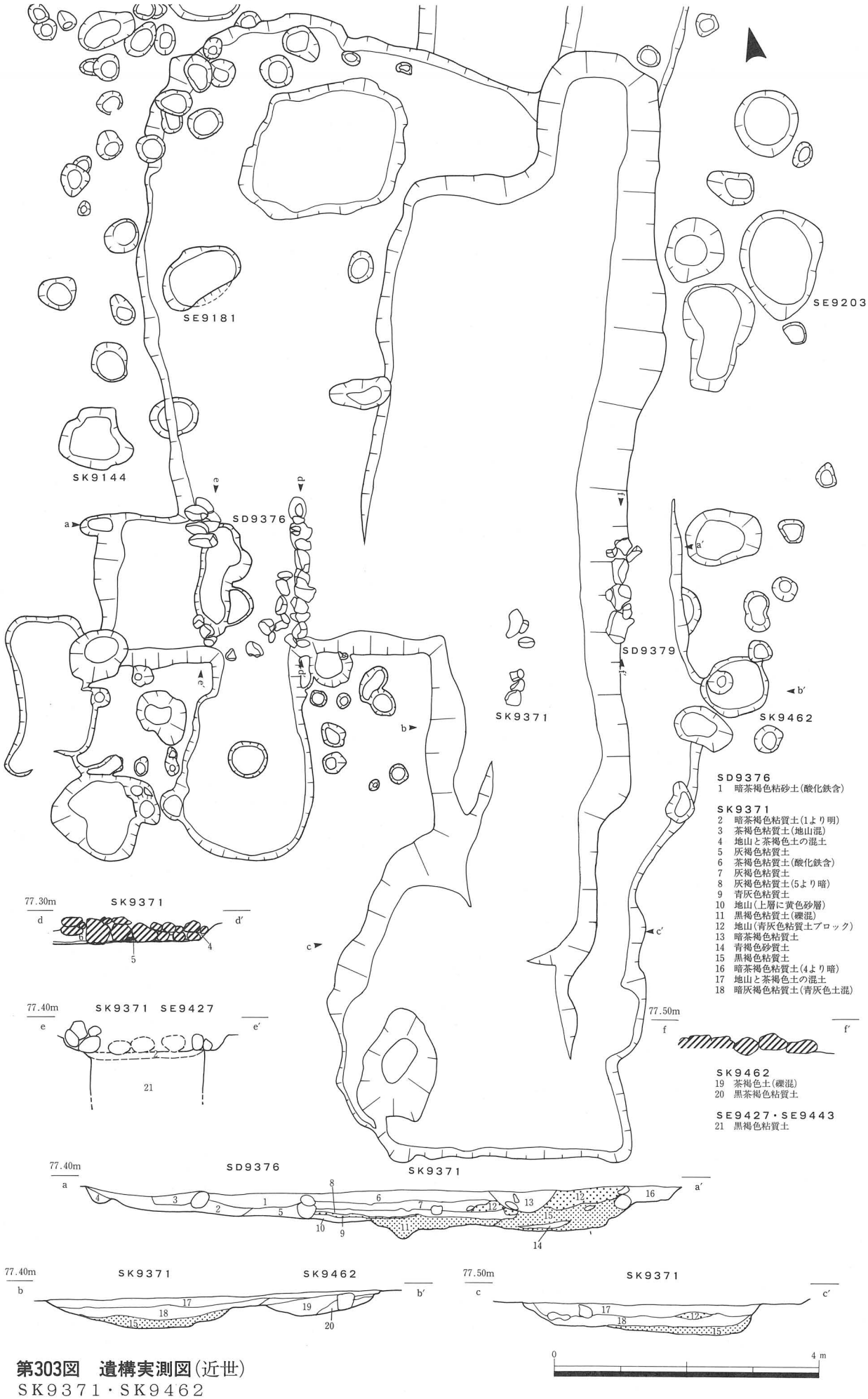


第301図　遺構実測図(近世)
SK8966

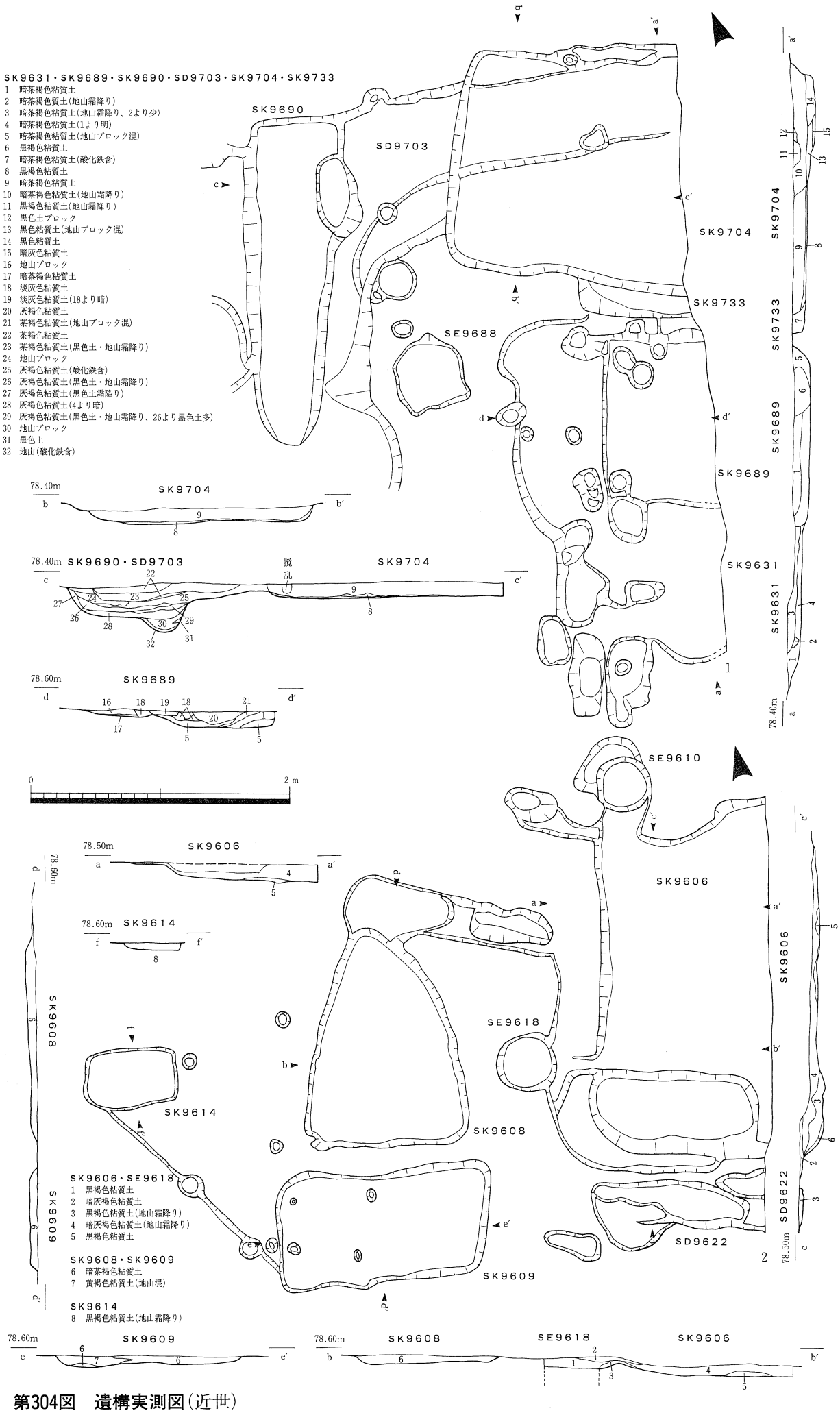




第302図　遺構実測図(近世)
1.SK9129・SK9127　2.SK9320

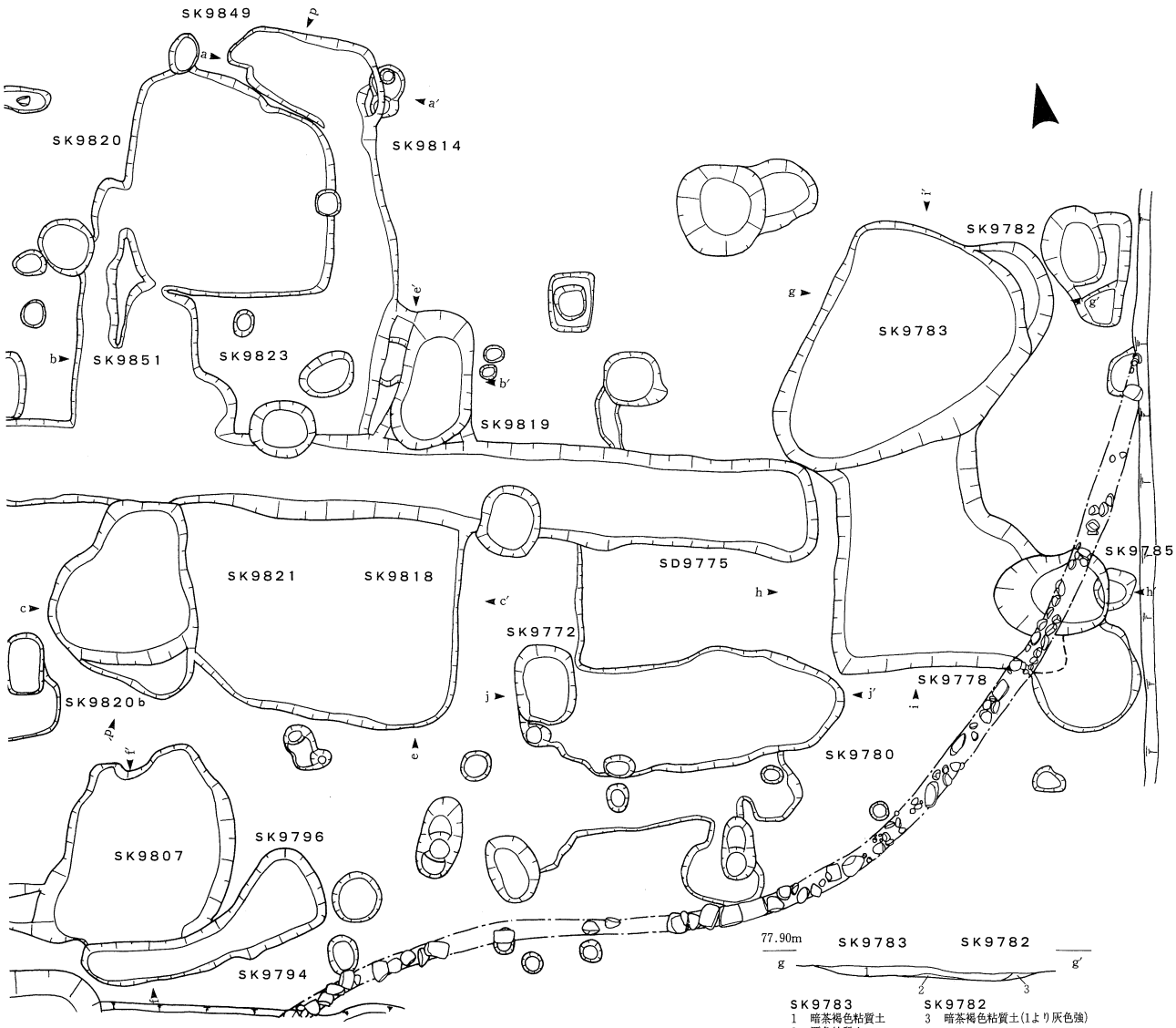


第303図　遺構実測図(近世)
SK9371・SK9462



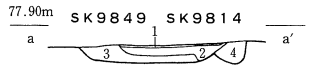
第304図　遺構実測図(近世)

1.SK9631・SK9689・SK9690・SK9704・SK9733　2.SK9606・SK9608・SK9609・SK9614



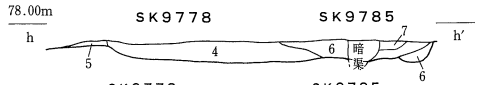
SK9783
1 暗茶褐色粘質土
2 灰色粘質土

SK9782
3 暗茶褐色粘質土(1より灰色強)



SK9849
1 黒褐色粘質土
2 灰褐色粘質土
3 黄褐色粘質土(黒色土霜降り)

SK9814
4 黒色土(地山霜降り)



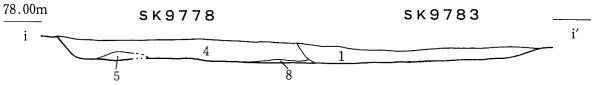
SK9778
4 暗茶褐色粘質土
5 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)

SK9785
6 地山ブロック
7 暗茶褐色粘質土

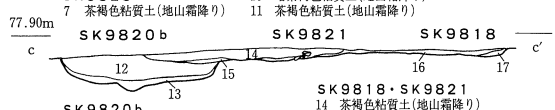
SK9851
5 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
6 地山ブロック

SK9823
7 茶褐色粘質土(地山霜降り)

SK9819
8 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
9 茶褐色粘質土(灰色土混、地山霜降り)
10 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
11 茶褐色粘質土(地山霜降り)

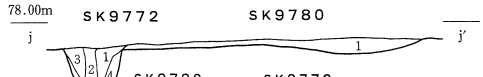


SK9778
8 灰色粘質土



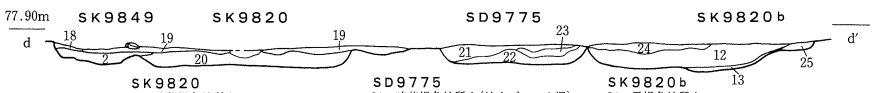
SK9820b
12 茶褐色粘質土(地山霜降り)
13 淡灰黄色粘質土

SK9818・SK9821
14 茶褐色粘質土(地山霜降り)
15 灰褐色粘質土
16 暗茶褐色粘質土
17 淡灰褐色粘質土



SK9780
1 暗茶褐色粘質土

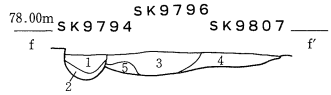
SK9772
1 暗茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
3 暗茶褐色粘質土(地山霜降り、やや粘質)
4 暗茶褐色粘質土



SK9820
18 暗茶褐色粘質土
19 淡灰褐色粘質土
20 暗茶褐色粘質土(18より明)

SD9775
21 暗茶褐色粘質土(地山ブロック混)
22 暗茶褐色粘質土
23 茶褐色粘質土

SK9820b
24 黒褐色粘質土
25 黒褐色粘質土(24より暗)



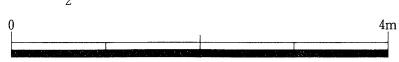
SK9794
1 黒褐色粘質土
2 暗灰褐色粘質土

SK9807
3 黄褐色粘質土(礫混)
4 茶褐色粘質土(地山霜降り)

SK9796
5 茶褐色粘質土(地山霜降り)

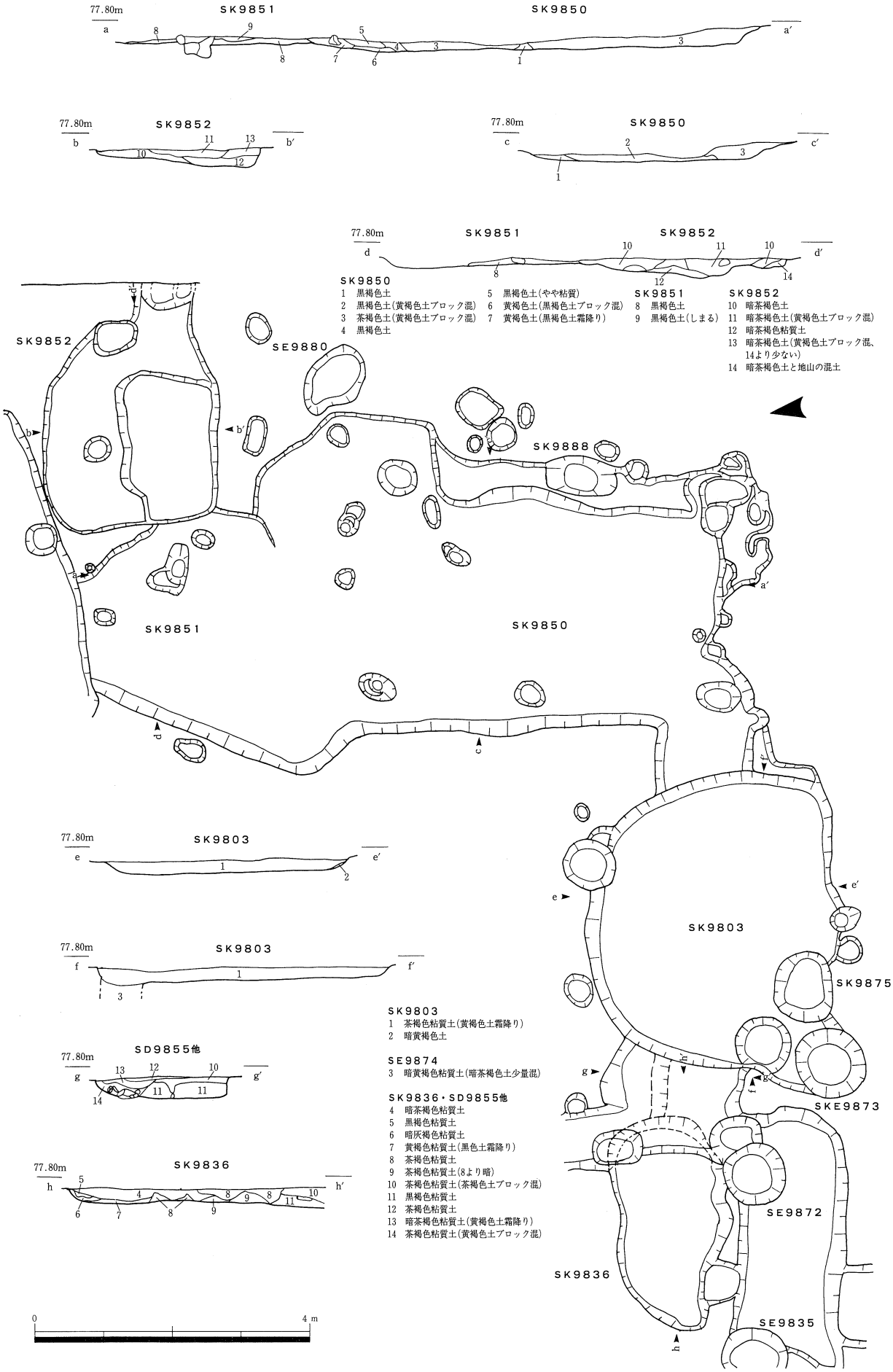
SK9818
26 茶褐色粘質土(地山霜降り)

SD9775
27 淡灰色粘土
28 黄褐色粘質土
29 暗茶褐色粘質土(地山少量霜降り)



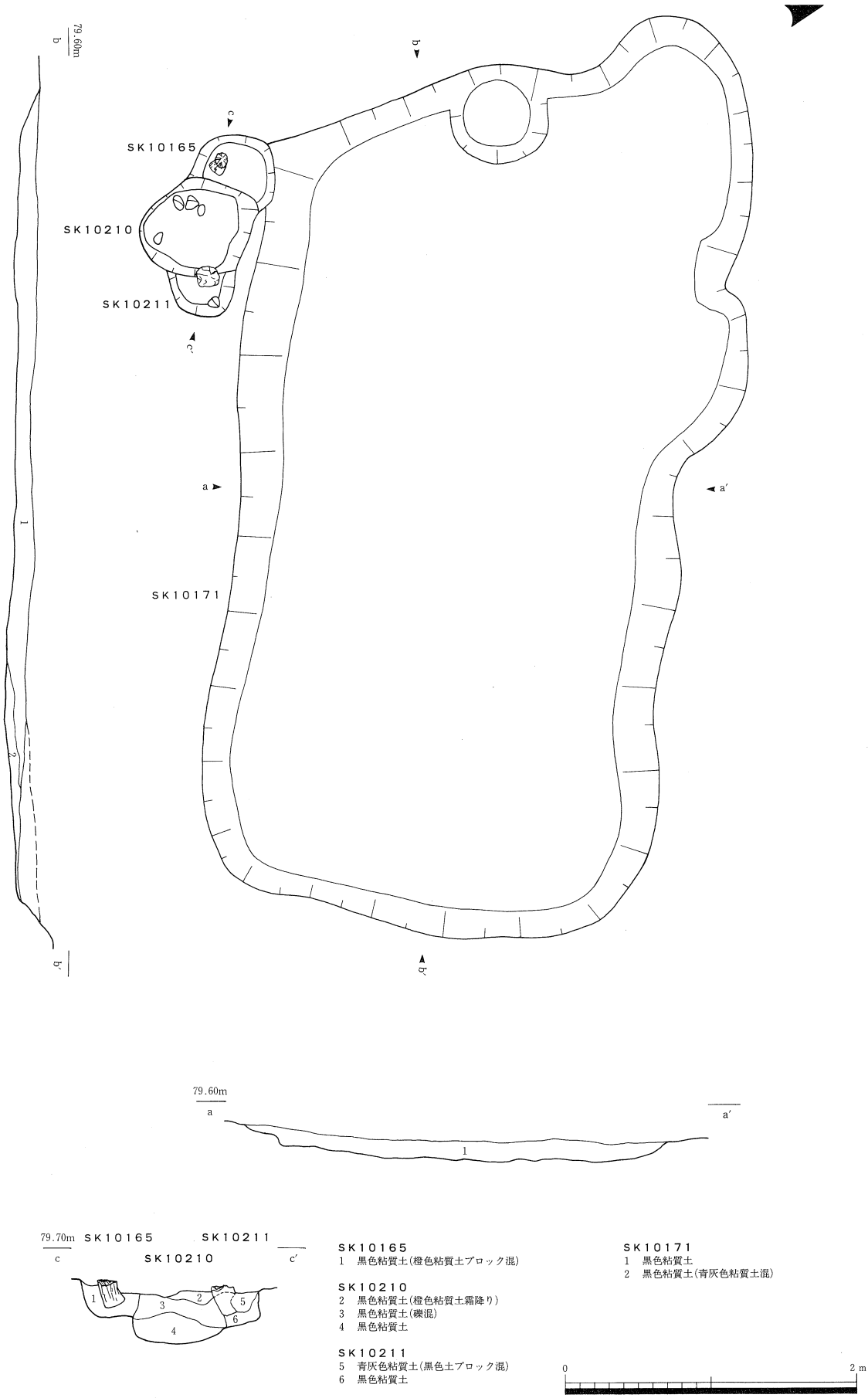
第305図　遺構実測図(近世)

SK9778・SK9780・SK9782・SK9783・SK9785・SK9794・SK9796・SK9807・SK9818～SK9821・SK9823・SK9849・SK9851

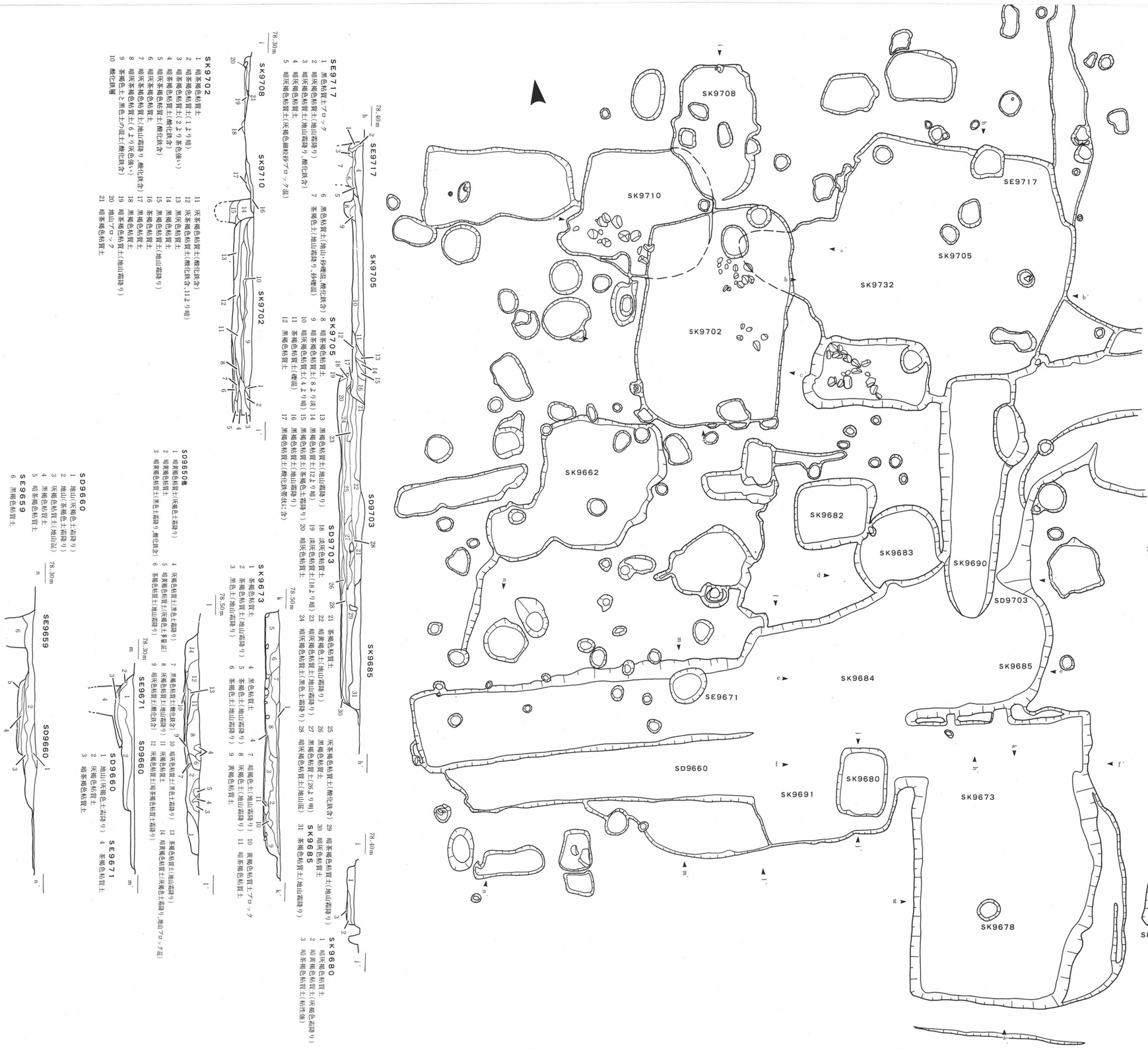


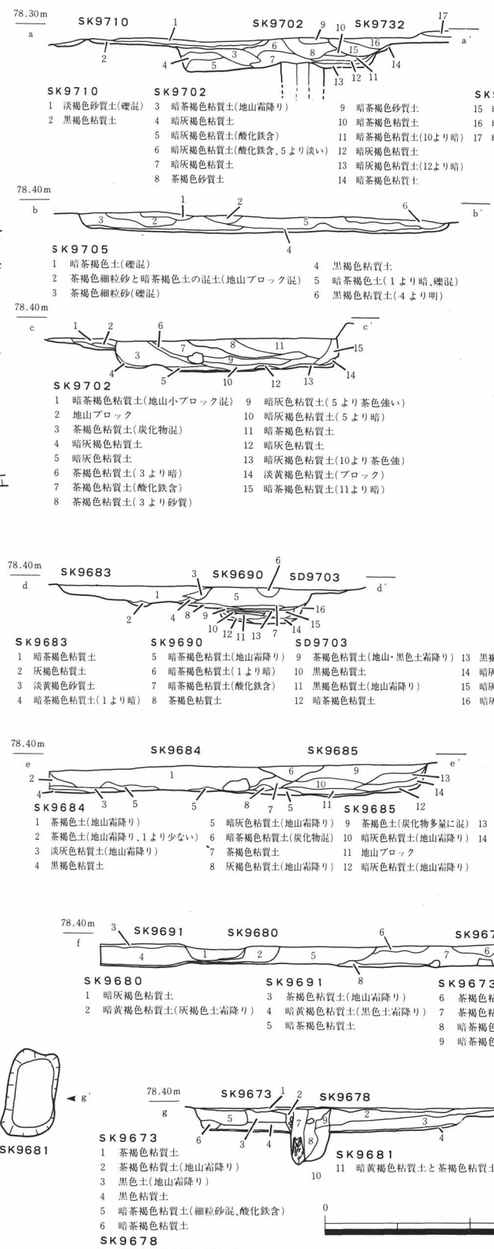
第306図　遺構実測図(近世)

SK9803・SK9836・SK9850～SK9852



第307図　遺構実測図(近世)
SK10171





SK9710
1 淡褐色砂質土(礫混)
2 黒褐色粘質土

SK9702
3 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
4 暗灰褐色粘質土
5 暗灰褐色粘質土(酸化鉄含)
6 暗灰褐色粘質土(酸化鉄含、5より淡い)
7 暗灰褐色粘質土
8 茶褐色砂質土
9 暗茶褐色砂質土
10 暗茶褐色粘質土
11 暗茶褐色粘質土(10より暗)
12 暗灰褐色粘質土
13 暗灰褐色粘質土(12より暗)
14 暗茶褐色粘質土

SK9732
15 暗茶褐色砂質土(9より明)
16 暗茶褐色粘質土
17 暗茶褐色砂質土(地山霜降り)

SK9705
1 暗茶褐色土(礫混)
2 茶褐色細粒砂と暗茶褐色土の混土(地山ブロック混)
3 茶褐色細粒砂(礫混)
4 黒褐色粘質土
5 暗茶褐色土(1より暗、礫混)
6 黒褐色粘質土(4より明)

SK9702
1 暗茶褐色粘質土(地山小ブロック混)
2 地山ブロック
3 茶褐色粘質土(炭化物混)
4 暗灰褐色粘質土
5 暗灰色粘質土
6 茶褐色粘質土(3より暗)
7 茶褐色粘質土(酸化鉄含)
8 茶褐色粘質土(3より砂質)
9 暗灰色粘質土(5より茶色強い)
10 暗灰褐色粘質土(5より暗)
11 暗茶褐色粘質土
12 暗灰色粘質土
13 暗灰褐色粘質土(10より茶色強)
14 淡黄褐色粘質土(ブロック)
15 暗茶褐色粘質土(11より暗)

SK9683
1 暗茶褐色粘質土
2 灰褐色粘質土
3 淡黄褐色砂質土
4 暗茶褐色粘質土(1より暗)

SK9690
5 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
6 暗茶褐色粘質土(1より暗)
7 暗茶褐色粘質土(酸化鉄含)
8 茶褐色粘質土

SD9703
9 茶褐色粘質土(地山・黒色土霜降り)
10 黒褐色粘質土
11 黒褐色粘質土(地山霜降り)
12 暗茶褐色粘質土
13 黒褐色粘質土
14 暗灰褐色粘質土
15 暗灰褐色粘質土(14より明)
16 暗灰褐色粘質土

SK9684
1 茶褐色土(地山霜降り)
2 茶褐色土(地山霜降り、1より少ない)
3 淡灰色粘質土(地山霜降り)
4 黒褐色粘質土

SK9685
5 暗灰色粘質土(地山霜降り)
6 暗茶褐色粘質土(炭化物混)
7 茶褐色粘質土
8 灰褐色粘質土(地山霜降り)
9 茶褐色土(炭化物多量に混)
10 暗灰色粘質土(地山霜降り)
11 地山ブロック
12 暗灰色粘質土(地山霜降り)
13 茶褐色粘質土
14 茶褐色粘質土(酸化鉄含)

SK9680
1 暗灰褐色粘質土
2 暗黄褐色粘質土(灰褐色土霜降り)

SK9691
3 茶褐色粘質土(地山霜降り)
4 暗黄褐色粘質土(黒色土霜降り)
5 暗茶褐色粘質土
8 暗灰褐色粘質土

SK9673
6 茶褐色粘質土(地山ブロック混)
7 茶褐色粘質土(地山霜降り)
8 暗茶褐色粘質土(粘性強)
9 暗茶褐色粘質土

SK9673
1 茶褐色粘質土
2 茶褐色粘質土(地山霜降り)
3 黒色土(地山霜降り)
4 黒色粘質土
5 暗茶褐色粘質土(細粒砂混、酸化鉄含)
6 暗茶褐色粘質土

SK9678
7 茶褐色粘質土(地山霜降り)
8 暗灰褐色粘質土(地山霜降り)
9 暗灰褐色粘質土(炭混)
10 暗灰褐色粘質土

SK9681
11 暗黄褐色粘質土と茶褐色粘質土の混土

SK9702
1 暗茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土(1より暗)
3 暗茶褐色粘質土(2より茶色強い)
4 暗茶褐色粘質土(酸化鉄含)
5 暗灰茶褐色粘質土(酸化鉄含)
6 暗灰茶褐色粘質土
7 暗灰茶褐色粘質土(地山霜降り、酸化鉄含)
8 暗灰茶褐色粘質土(6より灰色強い)
9 茶褐色土と黒色土の混土(酸化鉄含)
10 酸化鉄層
11 灰茶褐色粘質土(酸化鉄含)
12 灰茶褐色粘質土(酸化鉄含、11より暗)
13 黒灰色粘質土
14 黒褐色粘質土
15 黒褐色粘質土(地山霜降り)
16 茶褐色粘質土
17 黒褐色粘質土
18 暗灰茶褐色粘質土
19 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
20 地山ブロック
21 暗茶褐色粘質土

SE9717
1 黒色粘質土ブロック
2 暗灰褐色粘質土(地山霜降り)
3 暗灰褐色粘質土(地山霜降り、酸化鉄含)
4 暗灰褐色粘質土
5 暗灰褐色粘質土(灰褐色細粒砂ブロック混)
6 黒色粘質土(地山・砂礫混、酸化鉄含)
7 茶褐色土(地山霜降り、砂礫混)
8 暗茶褐色粘質土
9 暗茶褐色粘質土(8より淡)
10 暗灰褐色粘質土(4より暗)
11 茶褐色粘質土(礫混)
12 黒褐色粘質土
13 黒褐色粘質土(地山霜降り)
14 黒褐色粘質土(12より暗)
15 暗灰褐色粘質土(13より暗)
16 黒褐色粘質土(地山霜降り)
17 黒褐色粘質土(酸化鉄層状に含)
18 淡灰色粘質土
19 淡灰色粘質土(18より暗)
20 暗灰色粘質土
21 茶褐色粘質土
22 暗茶褐色土(地山霜降り)
23 暗灰褐色粘質土(地山霜降り)
24 暗灰褐色粘質土(黒色土霜降り)
25 灰茶褐色粘質土(酸化鉄含)
26 黒褐色粘質土
27 黒褐色粘質土(25より薄)
28 暗灰褐色粘質土(地山)
29 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
30 暗灰色粘質土
31 茶褐色粘質土(地山霜降り)

SK9708
1 暗茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土(1より暗)
3 暗茶褐色粘質土(2より茶色強い)
4 暗茶褐色粘質土(酸化鉄含)
5 暗灰茶褐色粘質土(酸化鉄含)
6 暗灰茶褐色粘質土
7 暗灰茶褐色粘質土(地山霜降り、酸化鉄含)
8 暗灰茶褐色粘質土(6より灰色強い)
9 茶褐色土と黒色土の混土(酸化鉄含)
10 酸化鉄層
11 灰茶褐色粘質土(酸化鉄含)
12 灰茶褐色粘質土(酸化鉄含、11より暗)
13 黒灰色粘質土
14 黒褐色粘質土
15 黒褐色粘質土(地山霜降り)
16 茶褐色粘質土
17 黒褐色粘質土
18 暗灰茶褐色粘質土
19 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
20 地山ブロック
21 暗茶褐色粘質土

SK9710
1 淡褐色砂質土(礫混)
2 黒褐色粘質土

SK9702
3 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
4 暗灰褐色粘質土
5 暗灰褐色粘質土(酸化鉄含)
6 暗灰褐色粘質土(酸化鉄含、5より淡い)
7 暗灰褐色粘質土
8 茶褐色砂質土
9 暗茶褐色砂質土
10 暗茶褐色粘質土
11 暗茶褐色粘質土(10より暗)
12 暗灰褐色粘質土
13 暗灰褐色粘質土(12より暗)
14 暗茶褐色粘質土

SK9732
15 暗茶褐色砂質土(9より明)
16 暗茶褐色粘質土
17 暗茶褐色砂質土(地山霜降り)

SK9705
1 暗茶褐色土(礫混)
2 茶褐色細粒砂と暗茶褐色土の混土(地山ブロック混)
3 茶褐色細粒砂(礫混)
4 黒褐色粘質土
5 暗茶褐色土(1より暗、礫混)
6 黒褐色粘質土(4より明)

SK9702
1 暗茶褐色粘質土(地山小ブロック混)
2 地山ブロック
3 茶褐色粘質土(炭化物混)
4 暗灰褐色粘質土
5 暗灰色粘質土
6 茶褐色粘質土(3より暗)
7 茶褐色粘質土(酸化鉄含)
8 茶褐色粘質土(3より砂質)
9 暗灰色粘質土(5より茶色強い)
10 暗灰褐色粘質土(5より暗)
11 暗茶褐色粘質土
12 暗灰色粘質土
13 暗灰褐色粘質土(10より茶色強)
14 淡黄褐色粘質土(ブロック)
15 暗茶褐色粘質土(11より暗)

SK9683
1 暗茶褐色粘質土
2 灰褐色粘質土
3 淡黄褐色砂質土
4 暗茶褐色粘質土(1より暗)

SK9690
5 暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
6 暗茶褐色粘質土(1より暗)
7 暗茶褐色粘質土(酸化鉄含)
8 茶褐色粘質土

SD9703
9 茶褐色粘質土(地山・黒色土霜降り)
10 黒褐色粘質土
11 黒褐色粘質土(地山霜降り)
12 暗茶褐色粘質土
13 黒褐色粘質土
14 暗灰褐色粘質土
15 暗灰褐色粘質土(14より明)
16 暗灰褐色粘質土

SK9684
1 茶褐色土(地山霜降り)
2 茶褐色土(地山霜降り、1より少ない)
3 淡灰色粘質土(地山霜降り)
4 黒褐色粘質土

SK9685
5 暗灰色粘質土(地山霜降り)
6 暗茶褐色粘質土(炭化物混)
7 茶褐色粘質土
8 灰褐色粘質土(地山霜降り)
9 茶褐色土(炭化物多量に混)
10 暗灰色粘質土(地山霜降り)
11 地山ブロック
12 暗灰色粘質土(地山霜降り)
13 茶褐色粘質土
14 茶褐色粘質土(酸化鉄含)

SK9680
1 暗灰褐色粘質土
2 暗黄褐色粘質土(灰褐色土霜降り)

SK9691
3 茶褐色粘質土(地山霜降り)
4 暗黄褐色粘質土(黒色土霜降り)
5 暗茶褐色粘質土
8 暗灰褐色粘質土

SK9673
6 茶褐色粘質土(地山ブロック混)
7 茶褐色粘質土(地山霜降り)
8 暗茶褐色粘質土(粘性強)
9 暗茶褐色粘質土

SK9673
1 茶褐色粘質土
2 茶褐色粘質土(地山霜降り)
3 黒色土(地山霜降り)
4 黒色粘質土
5 暗茶褐色粘質土(細粒砂混、酸化鉄含)
6 暗茶褐色粘質土

SK9678
7 茶褐色粘質土(地山霜降り)
8 暗灰褐色粘質土(地山霜降り)
9 暗灰褐色粘質土(炭混)
10 暗灰褐色粘質土

SK9681
11 暗黄褐色粘質土と茶褐色粘質土の混土

SD9650a
1 暗黄褐色粘質土(灰褐色土霜降り)
2 暗黄褐色粘質土
3 暗黄褐色粘質土(黒色土霜降り、酸化鉄含)
4 灰褐色粘質土(黒色土霜降り)
5 暗黄褐色粘質土(灰褐色土霜降り)
6 茶褐色粘質土(地山霜降り)

SD9650b
7 黒褐色粘質土(黒色土霜降り)
8 灰褐色粘質土(灰褐色土多量混)
9 暗灰色粘質土(地山霜降り)
10 灰褐色粘質土(灰褐色土霜降り)
11 灰褐色粘質土
12 灰褐色粘質土(暗茶褐色粘質土霜降り)
13 茶褐色粘質土(地山霜降り)
14 暗黄褐色粘質土(灰褐色土霜降り、地山ブロック混)

SK9660
1 地山(灰褐色土霜降り)
2 地山(茶褐色土霜降り)
3 灰褐色粘質土(地山ほ)
4 黒褐色粘質土
5 暗茶褐色粘質土
6 黒褐色粘質土

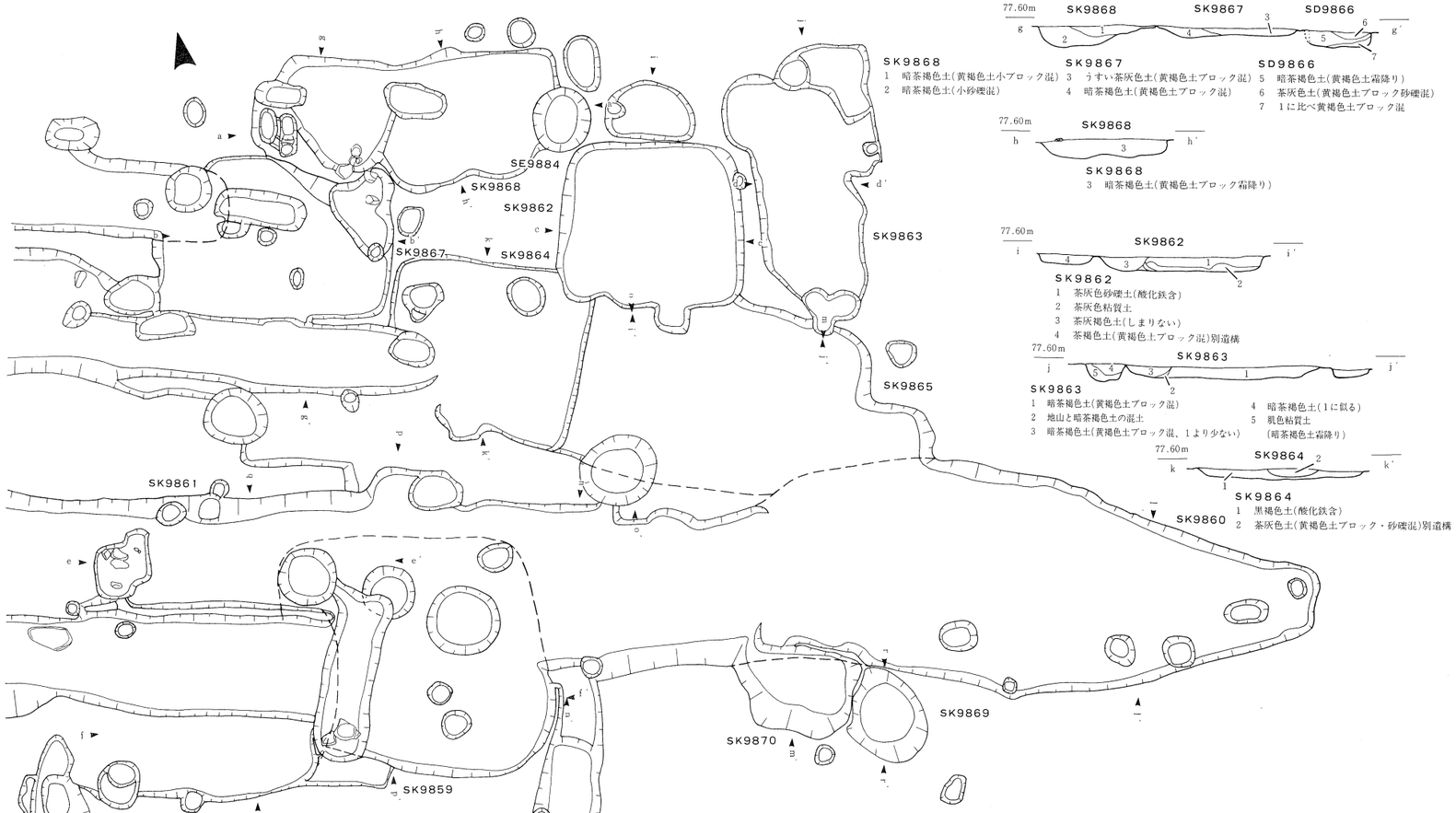
SD9660
1 地山(灰褐色土霜降り)
2 灰褐色粘質土
3 暗茶褐色粘質土

SE9659
1 黒褐色粘質土

SE9671
1 地山(灰褐色土霜降り)
2 灰褐色粘質土
3 暗茶褐色粘質土
4 茶褐色粘質土

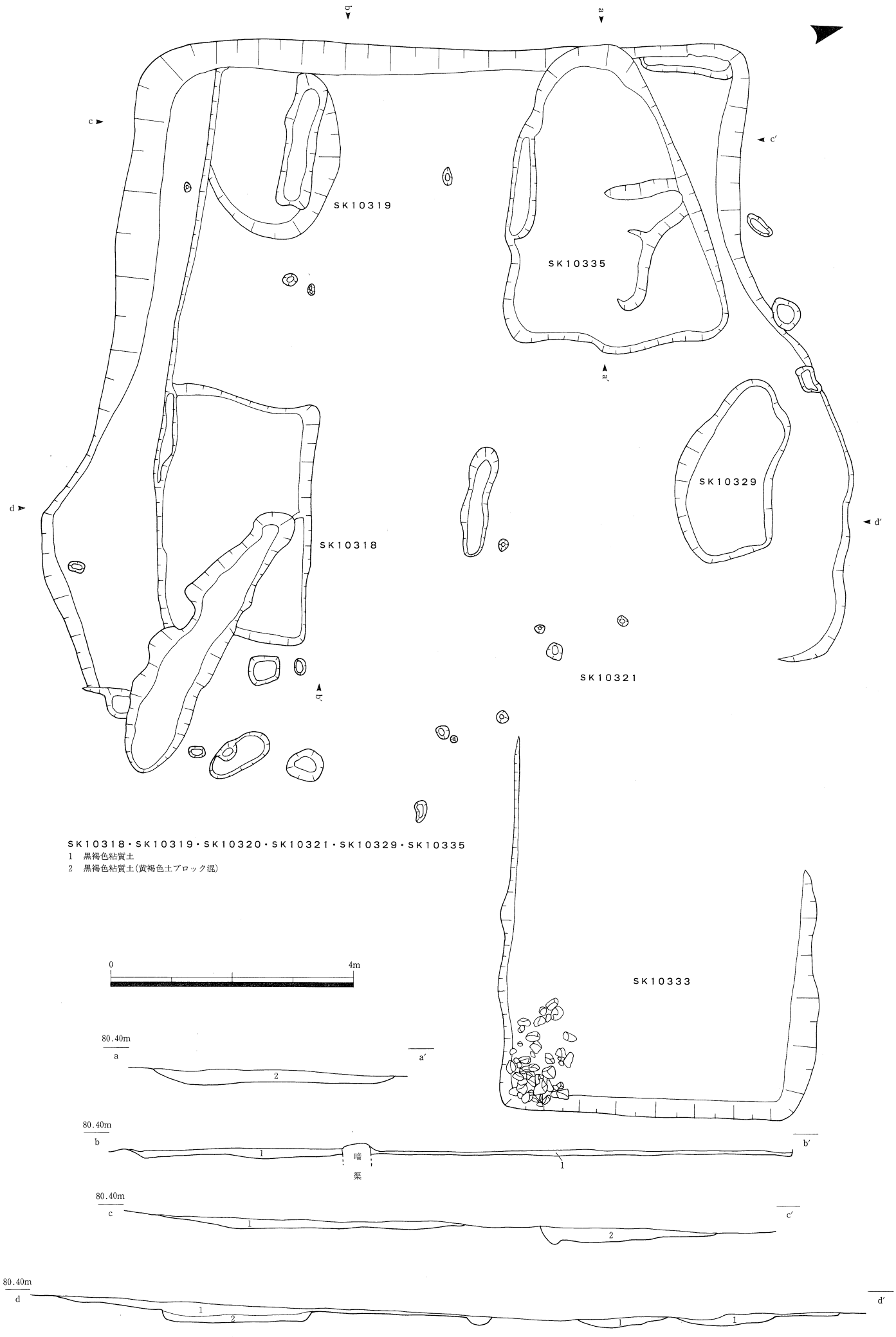
SE9671
1 暗茶褐色粘質土

第308図　遺構実測図(近世)
SK9673・SK9680・SK9683～SK9685・SK9690・SK9691・SK9702・SK9703・SK9705・SK9708・SK9710・SK9732

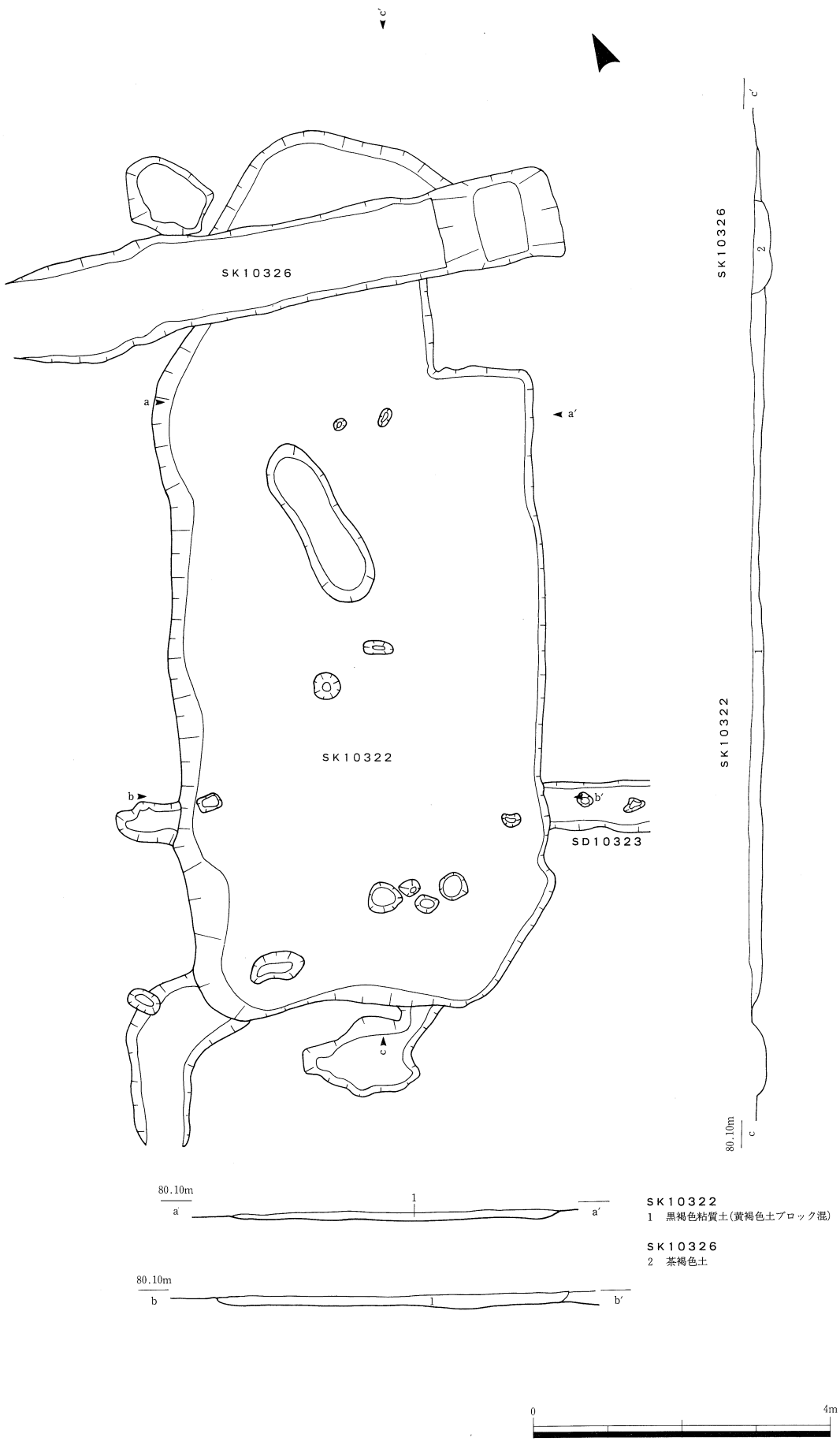


第309図　遺構実測図(近世)

SK9859～SK9865・SK9867～SK9870



第310図　遺構実測図(近世)
SK10318～SK10321・SK10329・SK10335



第311図　遺構実測図(近世)
SK10322・SK10326

F　近代以降

明かに近代以降の遺構は，Ｂ２地区・Ｂ３地区の旧以速寺跡周辺に分布する。大きく，旧以速寺関連の遺構とやや性格の不明な土取り穴と考える遺構などに分けられる。これらの他碍子が出土した土坑などもあるが，ここでは主なものを述べるに留める。

1　井　　戸

Ｂ地区

5974号井戸（ＳＥ5974）

Ｘ220Ｙ100で検出した石組円筒形井戸である。遺構検出時には円形の素掘井戸と判断していたが，半切して掘り進んでいくうちに，約50cm下から石組井戸であることが判明した。覆土は大礫の混じるしまりの悪い暗褐色粘質土である。旧以速寺の敷地内にあることから，昭和初期までにこの地にあった以速寺の井戸と考える。中・下層からは寺の移転寺に廃棄されたと推定される，近代陶磁器，ガラス製品などの生活雑器が大量に出土している。深さは飲料水に使用していたのか，中・近世の井戸よりも深く，最終的には重機によって断ち割った。最下層には，先端をやや先細りにした16cm×12cmの角材が井桁に組んであった。水溜となっていた模様で，内法は85cmの正方形である。井戸の掘削年代は，ほとんどが近代陶磁器であることから，古くても江戸時代には遡らないであろう。

2　土　　坑

Ｂ地区

5981号・6069～6076号・6104号・6117号・6202～6208号・6311号土坑（ＳＸ5981・ＳＸ6069～ＳＸ6076・ＳＸ6104・ＳＸ6117・ＳＸ6202～ＳＸ6208・ＳＸ6311）

Ｘ228～241Ｙ75～85で検出した長方形の土坑群である。Ｘ235以北の土坑は性格がやや異なるが，それ以外は共通した特徴を備えている。平面形は長方形，または「Ｌ」字形，壁はややオーバーハングするものの，ほぼ直立する。深さは30cm～70cmで床面はほぼ平坦，下層が礫面に達するものは少ない。覆土は上層が黄褐色粘質土ブロックが混じる暗茶褐色粘質土で，下層は砂礫層となっている。砂礫層に混じって，陶磁器片が出土する。掘形から，地山の黄褐色粘質土を取った土取りの穴跡の可能性が強く，後に不燃物のゴミとともに埋め戻したと考える。Ｘ235以北の土坑は，形も不定形で，覆土は小砂礫の混じる暗茶褐色粘質土の単層である。昭和初期の絵図を見ると，このあたりに家が建っており，その家屋の跡の可能性もある。これらの土坑の中からは，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁が時折混じるが，ほとんどは18世紀から19世紀の越中瀬戸・唐津・磁器，ガラス類が出土した。

7149号土坑（ＳＫ7149）

Ｘ205Ｙ92・93，ＳＤ5935とＳＤ5982の間で検出した長方形の土坑である。規模は南北260cm，東西360cmである。覆土は上層が明茶褐色砂質土，中層が茶褐色粘質土，下層が黄褐色粘質土ブロックが混じる茶褐色粘質土である。中・下層には20cm～30cm大の礫が多く混じる。遺物には中世土師器・珠洲・青磁などの古い遺物も混じるが，陶磁器・ガラスなどが多く混じる。旧以速寺の堀であるＳＤ5910の区画の内部であることから，寺の不燃物坑として利用されていた土坑ではないかと推測される。

（島田美佐子）

第Ⅳ章　ま　と　め

梅原胡摩堂遺跡は，質・量とも膨大なため，遺構編と遺物編に分けて記述することにした。そのため，遺構の詳細な時期変遷・遺跡の評価などは次回の遺物編で触れることにし，今回は代表的な遺構についてまとめることにした。

1　遺構分布と地籍図

梅原胡摩堂遺跡が立地する福光町梅原・宗守地区は，近世の区有文書がほとんど残っていなく，ましてや中世・古代に関する文書も皆無に等しい。そのため，文献資料から遺跡全体に迫ることはなかなか難しい。しかし，梅原・宗守地区の地籍図が残っているので，それを手がかりとして，発掘調査で分かった遺構分布に照らしてどんなことが読み取れるかを考えてみる。

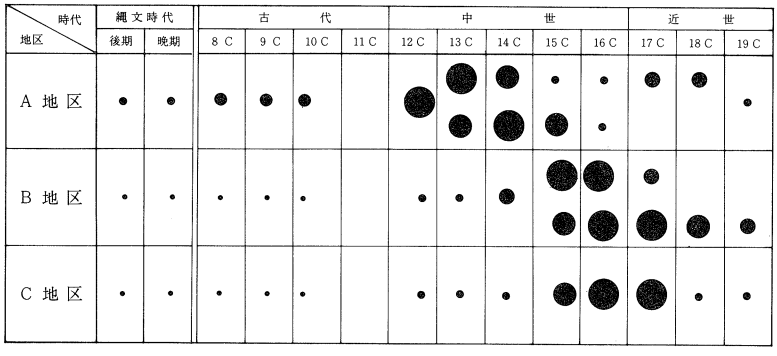
遺構分布

検出した建物・溝・井戸・墓などの遺構を時期別に簡単に述べる。中世前期では，A地区が北側で12世紀中頃～14世紀の，南側（A３地区）で13世紀～15世紀の遺構が確認できる。掘立柱建物は自然河川や溝で区画された中に配置され，７つの群に分かれる。井戸は少なく，建物に付随していない。掘立柱建物群を区画する溝の西側に，13世紀初めの土壙墓１基を検出した。さらに，中世前期の範囲の外周部には供養関係の土坑ＳＫ4483がある。Ｂ・Ｃ地区には遺構がほとんど広がっていない。

中世後期になると，15世紀代はＢ地区の北側（Ｂ１～Ｂ２地区）を中心に広がる。15世紀後半～16世紀には，伝安楽寺（旧以速寺の前身と言われている）周辺のＢ地区から南のＣ地区に遺構が広範囲に分布する。伝安楽寺周辺には建物群が少なく，深い溝（堀）が鈎の手状に巡る。しかし，Ｃ地区では道ＳＦ01を境にして，西側にＳＤ9301・ＳＤ10101の方形区画大溝（堀）と，東側に屋敷を区画したと考えられる溝がある。Ｃ地区の中央部（Ｃ２地区）は削平を受けて，遺構が確認できないが，建物は区画溝の内に配置されていると考える。道はＣ地区の南側（Ｃ３地区）で折れ曲がり，東側に延びていき，宗守城に通じると考える。この時期の土壙墓は確認できない。

近世になると，遺構は旧以速寺を中心にＣ地区の北側（Ｃ１地区）に及ぶが，18世紀以降，散在する。建物は掘立柱建物・礎石建物・土台建物があり，構造的に変化を遂げる。中世後半の大溝はほとんど埋められる。18世紀以降は土台建物が中心になり，旧以速寺周辺やＡ地区に点在し，現在見られる散居の村並が伺える。

以上から，遺構の広がりは中世前期で南北約400m，中世後期で南北約600m，近世で東西約300mの範囲である。便宜上に分けたＡ地区～Ｃ地区で見ると，第312図のような時期別変遷になる。時代の中心が地点を変えて推移していることが分かる。しかし，発掘調査対象地は，南北１kmと長いが，東西50m～60mと狭いため，遺構が東西方向にどれだけひろがっているのか明確ではない。近年，圃場整備事業に伴う周辺の分布調査によって，Ａ地区周辺で東西約400m以上，Ｂ地区周辺で約600mの範囲に中世遺物の散布が確認でき，さらに，東側の未調査区に広がる可能性があることが判明した[注1]。また，Ｃ地区周辺は分布調査対象範囲外である。調査地区が遺物散布地の



第312図　梅原胡摩堂遺跡の時期別変遷

中央部にあたるため，中世遺構の南北方向の広がりを円にすれば分布調査で確認した遺物散布範囲に収まる。分布調査の性格上，遺構の時期・内容が不明確ではあるが，南北方向で見られた中世前期と後期の遺構の広がりは，東西方向にも広がっていると推察される。もし，そうだとすれば，時代によって集落の中心が変化する。すなわち，北側の低い所から南側の高い所へと中心を移し，開墾が南側に広がっていったことを示す。

ところで，梅原・宗守の開発の歴史を見ると，梅原では段丘の上面にあたる上村・安丸が早くから開け，その後，下段の出村に開発が進んだと言われている[注2]。早く開けたところは，発掘調査した梅原胡摩堂遺跡A・B地区，梅原加賀坊遺跡，梅原安丸遺跡の立地する周辺にあたる。近世の宗守村は梅原付近で早く，それ以南は後から開発されている。寛文4年～同13年の山田新田用水の開削や天保年間の開発によって，梅原村は田7.025石・畠8.85石，宗守村は田28.042石・畠28.042石が新開された[注3]。宗守村は梅原村と較べて，田が約4倍，畠が約13倍の広さが開発されているが，その地域は梅原胡摩堂遺跡のC地区以南である。だから，当遺跡の発掘調査した地域が近世に開墾されたものでなく，中世に開発が進んでいたことは上記の遺構分布からも裏付けられる。

梅原・宗守の地籍図

梅原・宗守に現在残っている地籍図を次に検討する。宗守地区の地籍図は明治38年12月の「調製」の「富山県東礪波郡北山田村大字宗守村地図」で，宗守公民館に所蔵されている。その「地図」は別々の軸仕立ての四面からなり，地番や小字名が書かれている。凡例には，田・郡村宅地・畑・山林・原野・水路・清水・堤とある。加賀藩の宗守御蔵があった所には公立学校敷地と書かれている。この「地図」は梅原でも作られたと考えられるが，梅原には現在残っていない。

宗守公民館にはこのほかに宗守と梅原の地籍図が残っている。この地籍図は製作年代が記載されていなく，別々の軸仕立てになっている。耕地整備完成後の昭和元年～昭和3年に移転した以速寺が旧の場所に書かれていることから，昭和初期以前の製作であることが分かる。凡例には上記の「地図」に書かれていたもの以外に，民有水路・民有道路・伏樋・役場・学校など，より細かい標記になっている。しかも，凡例は宗守の方だけで，梅原の方には記載がないことから，宗守と梅原は対で作られたことが分かる。更に，尺で等高線が記載されている。地番も上記の「地図」より枝番で細分されている。この地籍図は，大正13年から始まり大正15年で終わった耕地整理事業の実施計画書を県に提出するため，大正12年7月に測量・作成されたと推察する[注4]。そのため，現地の地形を詳しく表したものとなっている。しかし，宗守・梅原を一枚に合わせると接合部が少しずれ，測量の精度が伺える。

この宗守の地籍図は，明治38年12月の宗守村地図の記載とほとんど変化がない。梅原もよく似たものと推察する[注3]。そのため，大正12年現地実測とはいえ，明治38年までは遡れることからも実際に地籍図と呼んでもいい内容であることが分かる。さらに，この地割りは幕末の文久3年の地割りに基づいている[注4]ことから，大正の地籍図は近世の様相も伝えていることが分かる。

遺構分布と地籍図

そこで，大正12年の地籍図から抜き出した水路・道図と発掘調査で判明した遺構，特に溝分布図（第313図）から，どんなことが読み取れるのかを考える。

中世前期には自然河川ＳＤ701と区画溝ＳＤ2203・ＳＤ3425がある。地籍図にはＳＤ701にあたる河川跡はなく，用水路だけが確認できる。これはＳＤ1441（近世）周辺を流れている。ＳＤ2203・ＳＤ3425の面影もないが，方一町のＳＤ2203の区画内には，地番が周辺の水田に較べ中世平城跡で見られるように，細かくなっている。この東側には梅原の熊野権現社があって，護摩堂の宮と呼ばれていたとい

うが，現在は神社がなく，別の場所に移転してしまっている[注5]。この様な地域だからこそ，地籍図では細かい地割りとして残っていた可能性がある。ＳＤ2203の周辺には用水路が確認できる。区画溝とその用水を対応させて考えるのは，早計ではあるが，溝の存在を意識させられる。県道金沢・井波線から北へ村を通り抜ける南北道が見られる。これは，県道から北へは現在の町道を通り，橋本川付近から東へ折れて北に延びて行き，ＳＤ2203・ＳＤ3425の西側を通ることになる。県道付近は分からないが，Ｘ200ぐらいから以北の橋本川までは，南北の道が遺構分布の粗い所で追える。さらに，ＳＤ3425の西側はよく分からないが，ＳＤ2203の西側は遺構が稀薄なところがある。それを道と考えれば，ＳＤ2203・ＳＤ3425の西側を通ることになる。以上，この南北道は県道付近を除き中世前期まで遡れる可能性があることがわかった。しかし，自然河川や区画溝は確認できないが，ＳＤ2203はその痕跡を残している可能性がある。

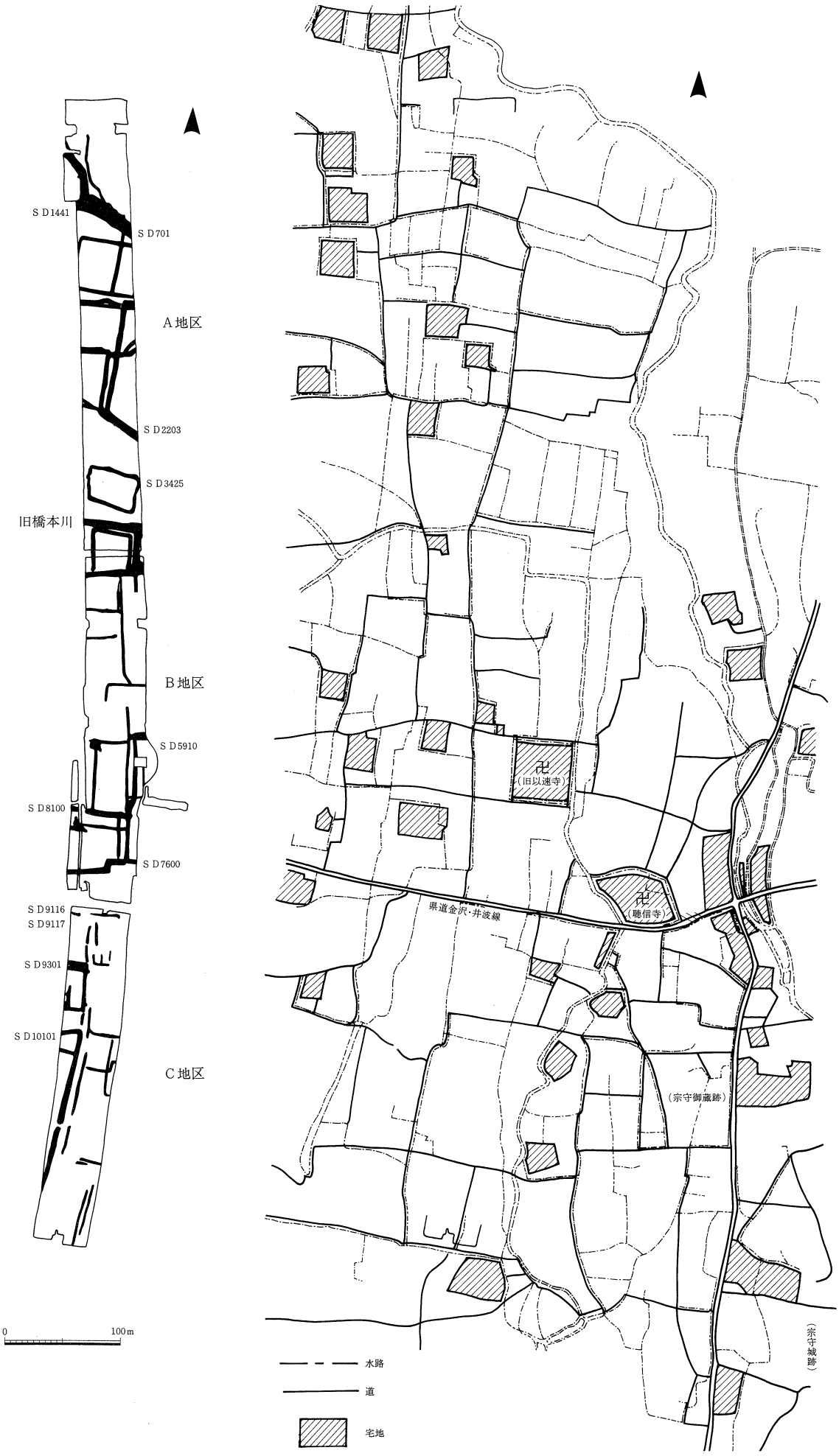
中世後期から近世初めにはＣ地区では大区画溝ＳＤ9301・ＳＤ10101があるが，地籍図では溝は確認できない。溝の東側に沿って走る道も記載されていないし，Ｃ地区から宗守城へ行く道も明確でない。地籍図ではＣ地区は南北に長く通る道がなく，東西に横切る道がある。特に，Ｃ１地区の南側にある東西道は宗守御蔵に通じる道である。宗守御蔵は寛文11年に作食蔵の記載がある[注6]ことから，17世紀後半には蔵としての機能が考えられる。その道は、16世紀末から17世紀前半の遺構のあるＣ１地区の南側に当たる所を走っていると考える。また，福光から井波に通じる近世の脇道は幅３尺と狭いが，県道の下を通っている。しかし，16世紀末から17世紀初めの製鉄関連遺構ＳＤ9116・ＳＤ9117などが脇道すぐそばにあることから考えて，その脇道を中世後半まで遡らせるのは問題があろう。県道を挟んで南北の地域を分断するために，近世初めに脇道が整備されたと考える。

Ｂ地区では大溝ＳＤ8100・ＳＤ7600などがある。地籍図では確認できなかったが，南側の大溝ＳＤ7600の周辺は梅原と宗守の境界になっており，溝の幅を狭めて境界の役割を果たしたとも考えられる。Ｂ地区の，近世から大正末まであった旧以速寺は土塁と外に堀を持つ真宗寺院である。堀はＳＤ5910にあたり，土塁はＳＤ5910の東側の遺構の稀薄なところに想定できる。また，地籍図では上述した南北道から東側に分かれて，旧以速寺に通じる道がある。Ｂ２地区のＸ227～230付近で遺構の稀薄なところがあり，そこに道があったと推察する。しかし，中世後期の伝安楽寺（「梅原堂屋敷」とあることから道場と考える）は南北80間余，東西100間余りで，四方に土塁を持つと言う[注7]。その遺構は確認できなかったが，ＳＤ5935の東側に中世後期の遺構が多く，銅製花瓶が出土していることからも，今後検討が必要であろう。

以上，中世後期から近世初めの大溝は17世紀前半にはほとんど意識的に埋められているため，大溝やその側を走る道は地籍図では確認出来ないことが多い。溝・道がわずかに認められる中世前期の在り方とは違う。近世の脇道は17世紀以降の整備とも考えられる。近世以速寺の遺構は現代まで続いたため，地籍図上に残る。このように県道を挟んで北の寺院地域と北の居館地域を分断するように，近世前半に脇道が加賀藩によって整備された可能性もあり，近世初めの支配形態とも関係があろう[注8]。

（宮田進一）

注１　神保孝造1991『富山県福光町梅原安丸遺跡群Ⅰ』福光町教育委員会
注２・６　石崎直義・石崎俊彦1971「近世の政治と経済」『福光町史』上巻
注３　井口仁志1960『梅原小杉耕地整理事業誌』によれば、その時に県から技師・技手が現地測量を行っていることが記載されている。なお、「梅原村耕地見取絵図」と題する簡単な地図が福光図書館に所蔵されている。簡単で正確さに欠けるが、区画整理前に地元で作られたと考える。
注４　北山田土地改良区理事会1967『北山田土地改良沿革史』
注５　注３文献
注７　（明治29年４月１日付け書写）「教願寺由緒書」（『大野市史』第１巻　1978　所収）
注８　大坂の陣以降、加賀藩主の前田氏は越中支配体制を整備・強化し、元和～寛永年間にかけて、法令などが発布・制度化され、藩体制を確立した（金龍教英1982「前田氏の越中支配」『富山県史』通史Ⅲ近世上）という働きと連動していると考える。



第313図　溝分布と水路・道配置図

2　掘立柱建物

梅原胡摩堂遺跡で復元した[注1]掘立柱建物230棟を，柱穴出土の遺物，建物周辺の出土遺物，周辺の遺構の配置・切り合い関係から，中世前期・中世後期・近世に分けた。各時期の特徴を以下まとめる。

梅原胡摩堂遺跡の中世前期掘立柱建物

中世前期の建物は125棟で，総柱と側柱に分かれる。前者は97棟，後者は28棟である。総柱建物は桁行２間～９間×梁行２間～６間で，平均3.9間×2.9間である。桁行２間～５間×梁行２間～３間の建物が73%，桁行４間～９間×梁行４間～６間の建物が27%を占めている。梁行２間は44%，３間は29%で，前者が多い。側柱建物は桁行１間～５間×梁行１間～２間が79%を占めている。梁行１間と２間はほぼ同数で，梁行３間～４間は７棟ある。時期別に見ると，①12世紀中頃～13世紀(前半)，②13世紀（後半）～14世紀（前半），③14世紀（後半）～15世紀（前半）を中心とする時期に分かれる。建物の時期が重複しているものがあると考えられるので，以下の数字は概数である。①の時期は60棟である。梁行３間（33%）や４間（33%）の方が２間（22%）より多い。②は49棟で，梁行２間（63%）が主体で，３間（18%），１間（10%）と続く。③は11棟と減少する。梁行が４間以上はない。①は総柱が92%である。梁行は２間で25%，３間で33%，４間で32%と，３間と４間が多い。桁行は５間以上のものもある。側柱は１間が１棟，２間が２棟，３間と５間が１棟で数は少ない。②は総柱が67%と低くなる。梁行は２間が63%，３間が18%，４間が９%で，２間が主体である。桁行は４間以下である。側柱は17棟ある。梁行２間が多い（47%）が，３間～４間もある。13世紀と14世紀のものを較べてみると，前者は総柱が92%，後者は60%で，総柱が少なくなっている。③になると，総柱は桁行２間×梁行２間の１棟で激減し，大型総柱建物は確認できなくなる。

柱間の平均間隔は桁行239cm，梁行232cmで，桁行と梁行の間隔がほぼ等しい。①の時期は桁行241cm，梁行236cm，②は桁行235cm，梁行227cm，③は桁行245cm，梁行234cmである。

建物の平面積は９m^2～272m^2，平均62m^2である。①の時期は14m^2～273m^2，平均86m^2である。30m^2未満，30m^2～50m^2，51m^2～100m^2，101m^2～150m^2，151m^2～200m^2，201m^2以上に分かれる。150m^2以上が10%である。50m^2以下，51m^2～100m^2，101m^2～150m^2が，30%，38%，22%である。51m^2～100m^2が目立つ。特に，50m^2以下は平均34m^2である。30m^2～50m^2が72%で，多い。②は９m^2～118m^2，平均43m^2である。50m^2以下，51m^2～100m^2，101m^2～120m^2が66%，32%，２%である。前者が主体を占める。50m^2以下は平均28m^2で，30m^2～50m^2と30m^2未満が約半々である。50m^2以下と51m^2～100m^2は13世紀では半々であったものが，14世紀では20m^2～40m^2が８割近く占めるようになる。③は13m^2～66m^2，平均28m^2である。50m^2以下は９割で，平均21m^2である。30m^2未満と30m^2～50m^2が半々である。

柱穴の規模は長軸31cm～54cm×短軸27cm～48cm，平均39cm×34cmである。短軸に対する長軸の比率（長軸比率と称する）は1.00～1.43，平均1.15である。規模と長軸比率は時期による変化はない。柱穴の深さは平均22cm～29cmで，時期による変化もない。個々の柱穴の深さは一定でなく，地形に制約されていると考えられる。平面形は円形が多いが，楕円形や方形もある。同じ建物でも柱穴が円形と方形が混在したものもある。

掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土の単層が多い。柱根は遺存していないが，柱痕跡から柱根の直径が約10cm～20cmである。柱痕跡は全柱穴の１割以下しか確認できない。そのことは，柱根の再利用がよく行われていたと推察する。吉倉Ａ遺跡のように約５割近くの柱根の再利用率が示されている[注2]が，柱根が残っていても，利用できる部分は切りとって使ったと考えられるので，相当の建築材が再利用されたであろう。出土遺物には土師器が多い。完形の土師器が出土している例がある。五社遺跡[注3]でも

柱穴から大量の土師器が出土しており，地鎮的性格を推測させる。

柱間間隔が広狭する建物はあるが，半間の庇が付くものや庇部分の柱穴が小さくなるものもほとんどない。イロリなどの火の使用跡は確認できなかった。石川県縄手遺跡の木製イロリ[注4]・同県三木だいもん遺跡の石製カマド[注5]は大型総柱建物に伴う例であるが，それらと分かる遺物も出土していない。

竪穴状土坑を伴う建物は6棟（4％）ある。土坑は浅く，建物の隅や張出部に位置する。その覆土には炭化物を混じるものがある。単独の竪穴状土坑はほとんど確認できない。①の時期で2棟(総柱)，②で3棟（側柱），③で1棟（側柱）に土坑を伴い，側柱の方が多い。県総合運動公園内で調査した8遺跡の中世前期掘立柱建物105棟のうち，28棟（27％）で竪穴状土坑が確認できた（文献3・4・6）。そのうち，86％が総柱である。竪穴状土坑が多い南中田D遺跡では36％で，全て総柱である。県内では，梅原胡摩堂遺跡のような竪穴状土坑が1割以下の遺跡と運動公園のように多い遺跡があるが，前者の遺跡の方が多い。井戸は建物にほとんど伴わない。井戸の上屋と考える建物が1棟ある。

建物の方位は①の時期で，南北棟がN－0°～18°－E，東西棟がN－80°～82°－Wである。前者は10°前後が多く，真北が1例である。②で南北棟が0°～32°東，東西棟が65°～86°西である。前者で20°～30°東，後者で65°～70°西に振れるものが出てくる。南北棟で西に振れるのは1棟だけである。③では南北棟が10°～20°東，東西棟が73°～82°西に振れる。県内の北反畝遺跡・じょうべのま遺跡では建物の方位が0°～4°西に振れる（文献1・10）が，神田遺跡では2°～11°東に振れている（文献3）。若宮B遺跡では大部分0°～12°西に振れている（文献12）。12世紀後半～13世紀の同じ時代の遺跡でも立地によって東・西への振れに変動が見られる。しかし，総体として見れば，建物が北に向いている。すなわち南北棟が多い。屋内奥深くまで入る東からの太陽光線を採るために東向きの建物が中世に多いと言われている[注6]。県内の中世建物の多くが南北棟を取っており，この傾向は古代の建物まで遡れる。しかも，当遺跡が立地する礪波平野では西風のため現在でも東向きの家が多いと言う地理的環境からも東向きの建物が主体を占めていたと考えられる。

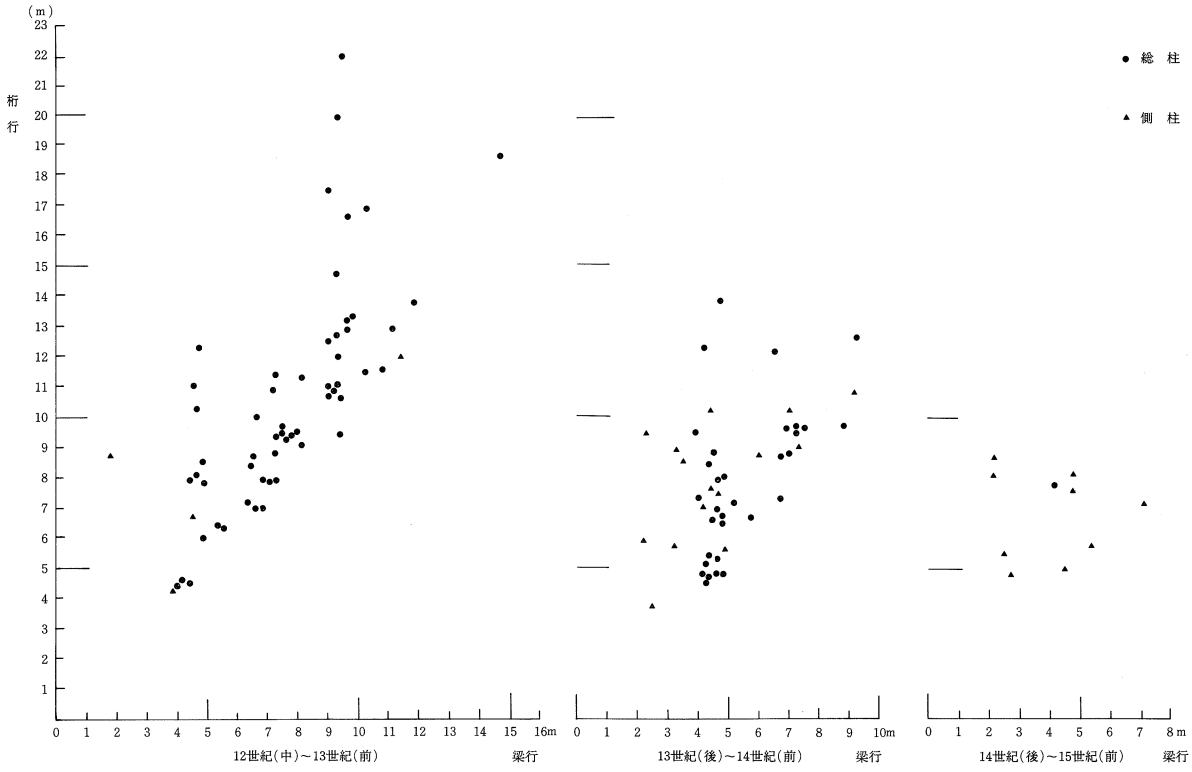
梅原胡摩堂遺跡の中世後期掘立柱建物

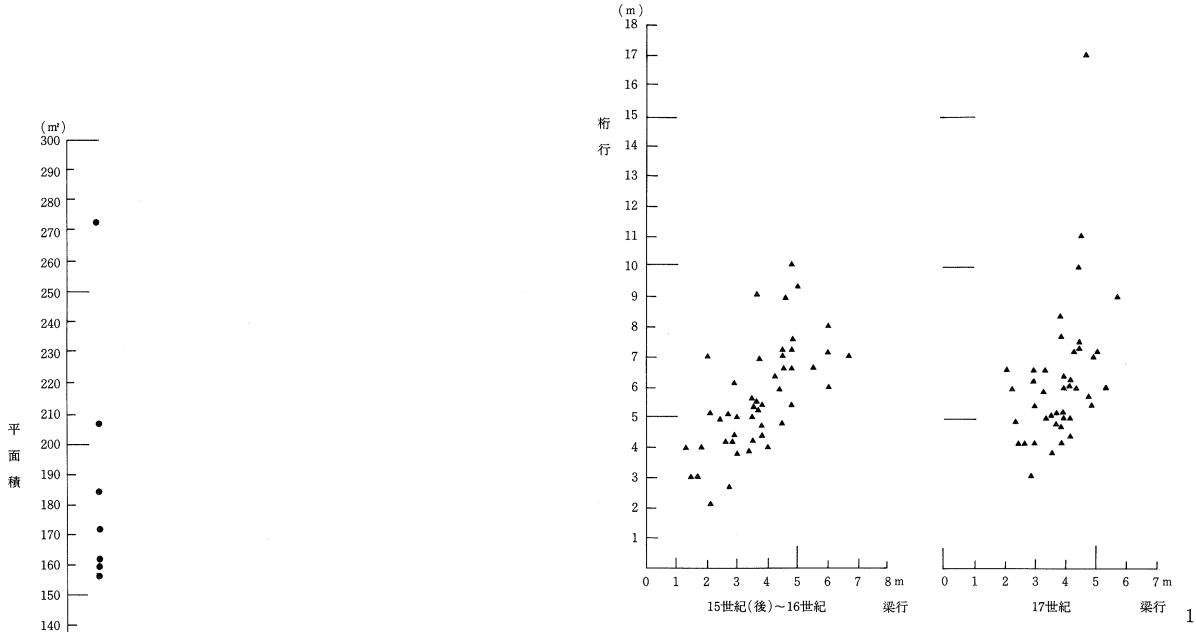
中世後期の建物は大部分が側柱（53棟）である。総柱は3棟あるが，時期が15世紀代に収まるもので，降っても16世紀後半に入るものはないと考える。それは桁行3間×梁行2間の小型で，大型総柱でない。全体的に見れば，柱間は桁行1間～4間×梁行1間～3間で，平均2.3間×1.5間である。梁行1間が63％，2間が35％である。中世前期の14世紀～15世紀の様相と似るが，大型柱穴建物や「L」字状に3隅しか柱穴のないなど建物は変化に富んでいる。時期別に見れば，14世紀後半～15世紀前半，15世紀後半～16世紀初め，16世紀前半～末に分かれるが，前者は中世前期で触れたので，ここでは後2者を合わせて④15世紀（後半）～16世紀として一括する。

柱間の平均間隔は桁行260cm，梁行263cmで，中世前期のものに較べて広い。特に，15世紀は8棟と少ないが，平均桁行248cm，梁行225cmである。これを前半と後半に分けて見れば，前半は桁行269cm，梁行269cm，後半は桁行214cm，梁行221cmである。15世紀後半の柱間が最も狭くなる。15世紀末を含めた16世紀では桁行263cm，梁行270cmである。柱間が広くなり，梁行の方が長い。このことから，柱間間隔は縮小化していたが，16世紀以降，柱間が拡大することが分かる。しかも，一方，柱間が240cm前後のもあり，柱間の間隔が両極に分化している（第314・315図）。

建物の平面積は5 m²～49m²で，全て50m²以下である。面積は平均23m²で，中世前期に較べると小さくなっている。30m²未満が56％，30m²～50m²が44％である。

柱穴の規模は長軸26cm～98cm×短軸24cm～88cm，平均54cm×44cmである。前期の柱穴に較べる



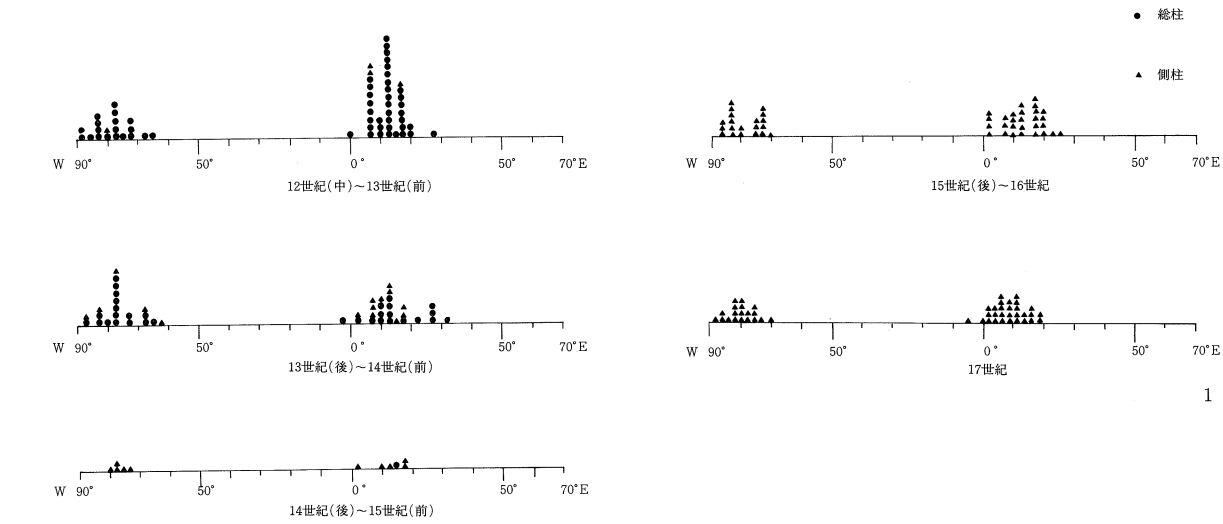


1

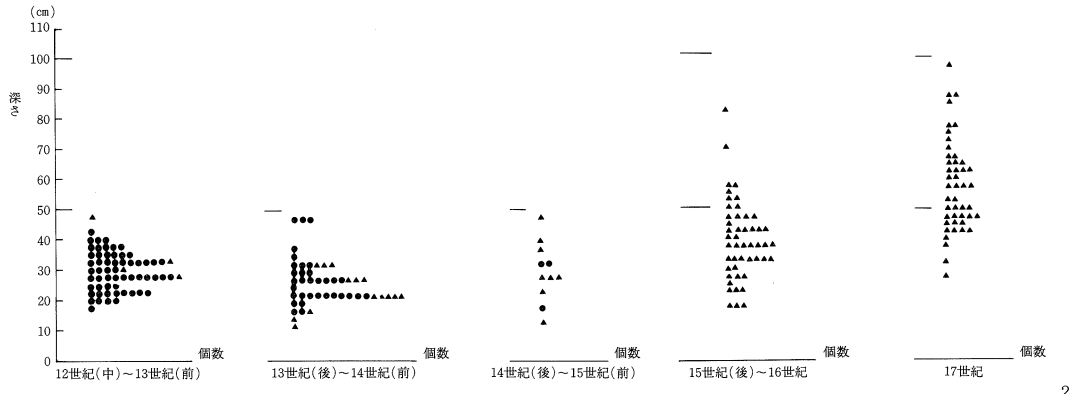
2

第314図　掘立柱建物計測図(1)

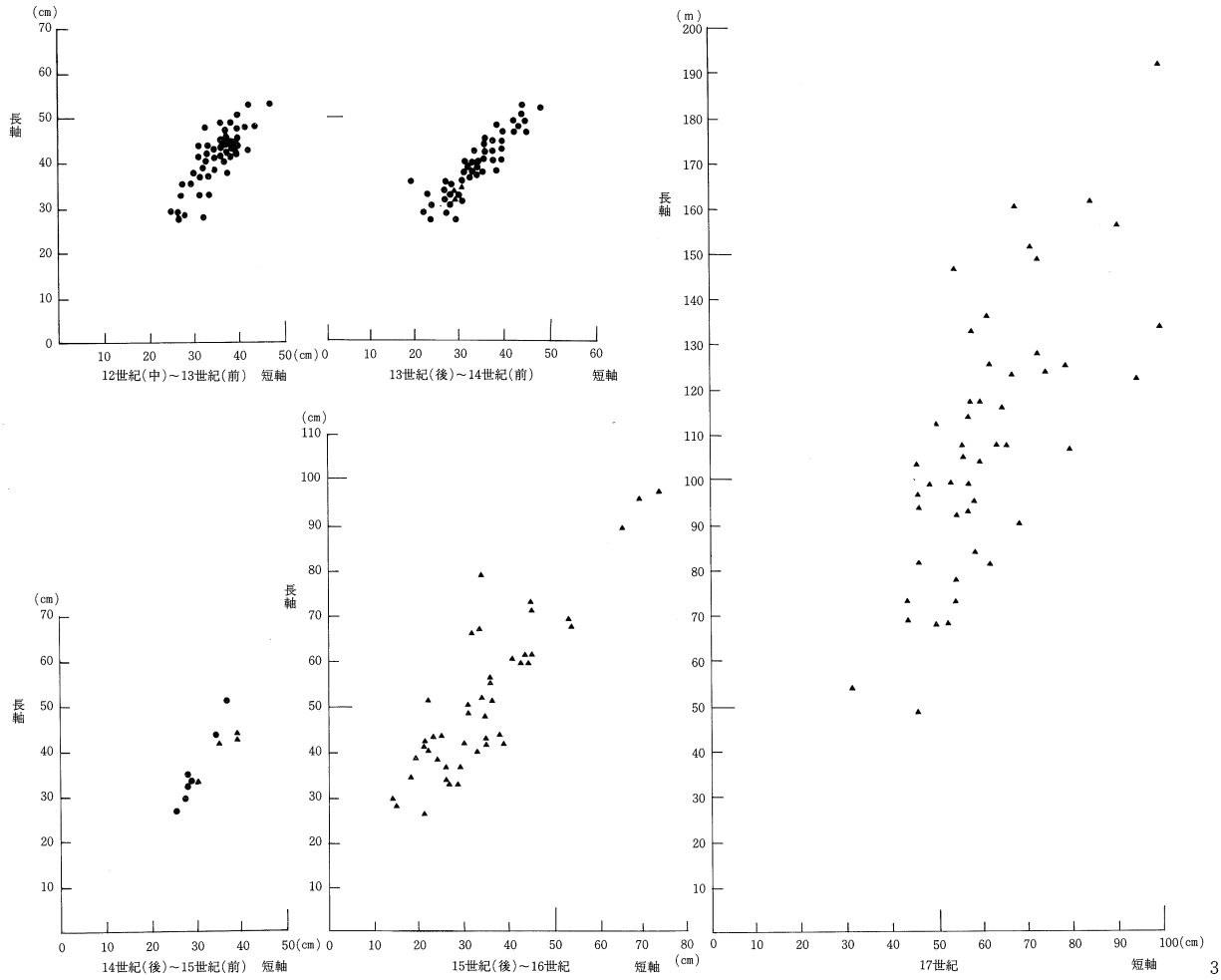
1.桁行・梁行　2.平面積



1



2



3

第315図　掘立柱建物計測図(2)

1.建物方位　2.柱穴の深さ　3.柱穴の長軸・短軸

と，規模が大きくなっている。長軸比率は平均1.23であるが，時期差による比率の変化はない。15世紀の柱穴は平均42cm×34cmである。15世紀前半では43cm×36cm，後半では36cm×30cmで，少し小さくなる。15世紀末を含めた16世紀の時期は58cm×48cmで，大きくなる。共に，平面形は円形・楕円形である。長軸の長さによって柱穴が3種類に分かれる。50cm以下（41%），51cm～80cm（44%），90cm～100cm（14%）である。90cm以上は16世紀後半～17世紀初めのもので，近世の大型柱穴につながる。柱穴の深さは16cm～82cm，平均38cmで，15世紀よりは16世紀の方が少し深くなっている。

掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土に地山土が多く混じる。柱穴に小石などを入れる例が多い。柱根は直径15cm～20cmで，芯持材がほとんどである。全柱穴の内，柱根あるいは柱痕跡を残すものは1割以下である。柱穴出土の遺物には土師器が少なく，完形品もない。また，16世紀の溝出土の柱材は筋違いのほぞ穴が穿かれており，板を横に通して藁などで壁にしたと指摘されている[注7]。

建物に伴う竪穴状土坑は深く，埋め戻していたり，オープンのままであったりしている。覆土には焼土・炭化物を混じるものが多い。土坑は5棟で確認され，全体の1割を占めている。その他，単独の竪穴状土坑も出現してくる。井戸は建物に附属してくる。

建物の方位は南北棟がN－0°～26°－Eで，10°と20°のものに分かれる。東西棟はN－70°～90°－Wで，80°前後が多い。前期に較べて，東に振れるものが多い。弓庄城跡（文献5）・友坂遺跡（文献13）などは20°以上東・西に振れ，この時期の建物は方位にばらつきが目立つ。

梅原胡摩堂遺跡の近世掘立柱建物

近世の建物は掘立柱建物と土台建物があるが，ここでは前者についてのみ述べる。建物は49棟で，全て側柱建物である。棟持柱の楕円柱穴だけが一本に並ぶ一本柱建物やそれの変形した建物もある。それらは棟持柱を深く掘り自立させて，周囲上に礎石の柱を建てた建物を想定できる。

柱間は桁行1間～4間×梁行1間～2間で，平均2.2間×1.2間である。桁行1間～2間×梁行1間～2間の建物が70%を占め，梁行3間がない。梁行1間が84%である。時期別に見れば，16世紀末～17世紀前半と17世紀後半に分かれるが，ここでは⑤17世紀として一括する。

柱間の平均間隔は桁行307cm，梁行317cmで，他の時期に比べスパーンが最も広くなる。桁行より梁行の方が長い。16世紀末～17世紀前半と17世紀後半を較べれば，前者は桁行299cm，梁行329cm，後者は桁行327cm，梁行276cmで，柱間が少し小さい（第314・315図）。

建物の平面積は9 m²～84m²で，平均25m²である。後期の建物の平面積と似る。29m²以下が74%，30m²～50m²が21%で，前者が多い。

柱穴の規模は長軸54cm～156cm×短軸31cm～90cm，平均108cm×61cmである。長軸比率は平均1.77である。16世紀末～17世紀前半と17世紀後半を較べると，前者は120cm×70cm（長軸比率1.71），後者は109cm×59cm（長軸比率1.85）で，後者は偏平が激しい。柱穴の規模は4種類ある。長軸50cm以下（4%），60cm～80cm（21%），90cm～130cm（54%），131cm～190cm（21%）である。50cm以下が激減し，90cm以上が75%を占める。平面形は楕円形が多い。50cm以下の円形はわずかである。柱穴の深さは50cm～60cm，平均58cmで，深い。16世紀末～17世紀前半は72cm，17世紀後半で55cmで浅い。

掘形埋土は地山土に黒褐色土・茶褐色土が霜降り状に混じる。楕円柱穴は長軸方向に二段掘りのように段を持つ。柱根の根元に礫などを入れたり，礎石にしたり，柱穴の底を少し掘り窪めたりしているものがある。楕円柱穴の長軸方向は建物の主軸方向と同じ向きのものが多い。柱根はB2地区でよく遺存しており，径10cm～20cmの芯持材が大部分である。柱痕跡や柱根は全柱穴の1割以下である。

竪穴状土坑が建物の一部となっているものが多い。貼床のもの，藁状炭化物を含むもの，石列を置

き，片側だけ埋め戻した例がある。

建物の方位は南北棟がＮ－０°～19°－Ｅで，10°前後が中心である。１棟だけ５°西に向く建物がある。後期に較べると，やや真北に向いている。東西棟はＮ－65°～90°－Ｗで，80°前後が多い。

中世前期総柱建物の基本形

さて，中世前期の総柱建物の構造を検討する。当遺跡は明確でないので，県内の遺跡から考える。

北反畝遺跡のＳＢ90は桁行５間×梁行４間の総柱建物である（第318図）。身舎部の桁行３間×梁行２間の柱穴には径30cm～40cm の柱根が残っている。八角形に面取りされ，下には礎板がある。廂部にある柱穴の柱根は径25cm～30cm で簡単な成形を施されているが，南側だけしか礎板がない。身舎の柱穴は57cm×50cm，廂の柱穴は46cm×41cm であり，前者の柱穴のほうが少し大きい。身舎と廂の柱列の並びは揃っていて，柱間間隔も極端に狭くならない。これらから，梁行２間×桁行３間の建物を基本に，周辺に側柱を配置し軒下に取り込んだ構造を想定できる。柱穴の深さが違うだけで，身舎と廂の柱間間隔が極端に変化がなく，柱列が通る平面形をＡ１タイプとする。県総合運動公園内遺跡群で見られる廂の柱穴の小さいのはこのＡ１タイプが多い。さらに，南中田Ａ遺跡のＳＢ01は桁行３間×梁行２間の身舎（上屋）に軒下を取り込んだ下屋構造だが，さらに，廂を出して下屋としているものもある（第318図）。当遺跡のＳＢ11のように身舎と廂の柱列が不揃いの平面形をＡ２タイプとする。

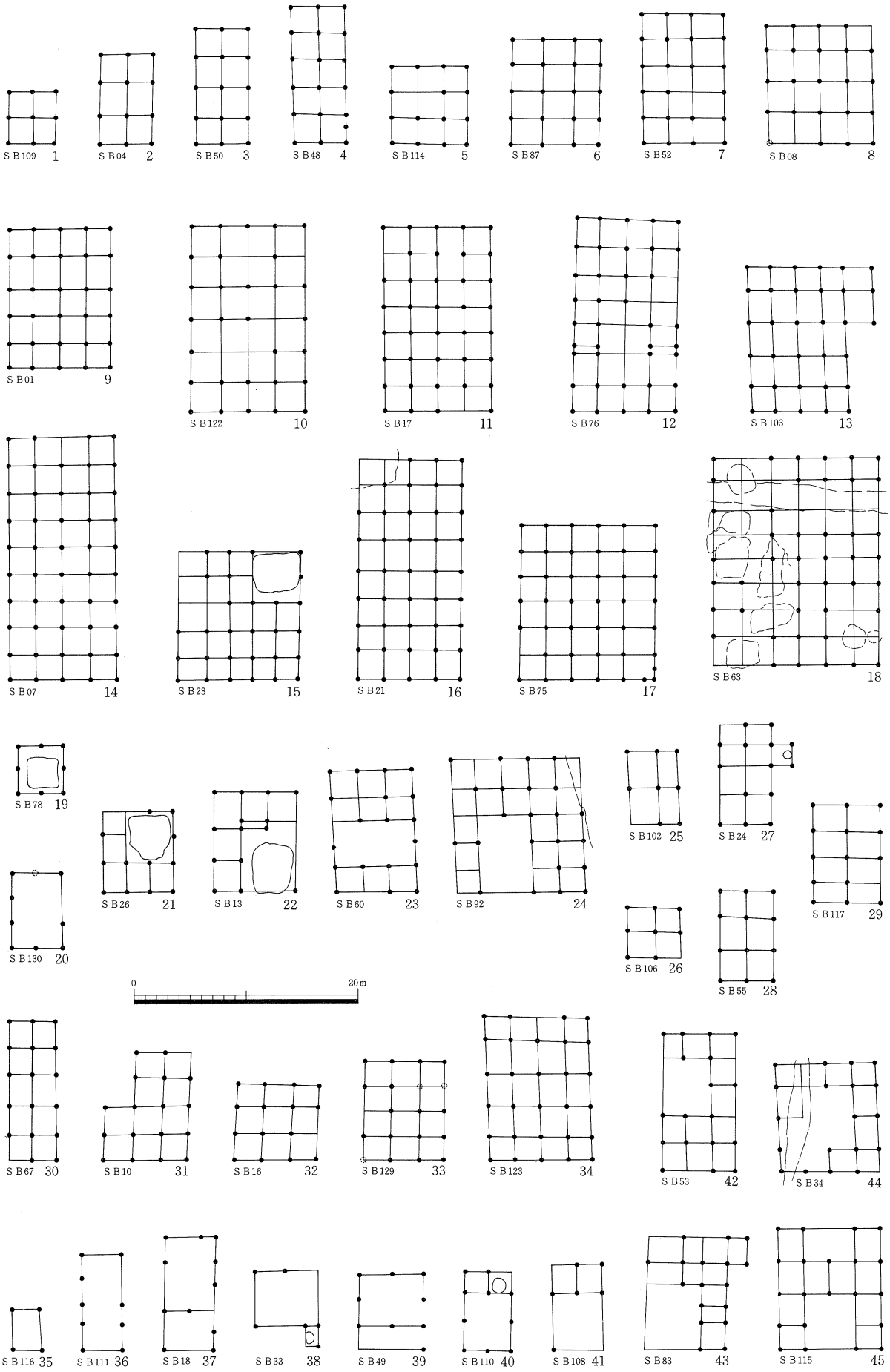
小倉中稲遺跡のＳＢ01は桁行４間×梁行３間の総柱である（第318図）。その柱穴は平均長軸27cm×短軸24cm の不整円形，深さ23cm である。身舎と廂の柱穴の規模がほぼ同じである。長軸比率は1.13である。桁行・梁行の柱間間隔もほぼ同じである。この建物は，上記の建物構造から考えて，桁行３間×梁行２間の身舎に梁行部分を左右１間延ばしてできたと考えられる。身舎と廂の柱間や柱穴規模に変化がなく，柱列が並んでいる平面形をＢタイプとする。このタイプは，梅原胡摩堂遺跡・神田遺跡など県内では多い。この平面形は鎌倉の武家屋敷の総柱建物でよく見られる[注8]。

以上，柱穴の規模，柱列の並び，柱間間隔などの違いから平面形が３つある。また，総柱建物は梁行２間×桁行３間～４間を基本にしていることが分かった。県内の古代掘立柱建物が桁行３間×梁行２間を基本にしている[注9]点で，身舎を側柱か総柱かで構成されている違いがあるが，古代から中世への流れが読み取れる。すなわち，中世の総柱の大型化は基本形に桁行・梁行方向に柱を延ばして大きくしたためであることが伺える。別の言い方をすれば，古代の「間面記法」で示される中世建物が確認できたことになる。よって，中世の建物は身舎と廂を含めた生活空間として捉える必要がある。

上記の総柱建物の上部構造は建築材が出土していないので分からないが，現存する民家例から軸組と小屋組が一体になっている構造が想定できる。が，側柱を通柱にし屋内を束柱にする側通柱式なのか，床下部と床上部の軸部が分かれて板壁・土壁などの束柱式を取っているのかは平面形からでは判断ができない[注10]。しかし，室町時代後期の群馬県茂木家と神戸市箱木家の民家例から考えると，前者はＡ１タイプ，後者はＡ２タイプの参考例になる。茂木家では軸部と小屋組が一体となった棟束構造で，棟持柱・入側柱と側柱が梁で一体となって，柱列が通る。箱木家では軸部と小屋組が区別される棟束構造で，棟持柱・入側柱と側柱の垂木だけの連結で弱く，柱列が通らない[注11]。中世後期末の民家と前期の総柱とを一緒に論じることができなく，Ａ２タイプを軸部と小屋組の一体化した構造と考えているが，柱列が通らない点が，廂（下屋）と身舎との構造を考える上で参考になろう。

掘立柱建物の分類と時期区分

さて，掘立柱建物は中世後期に総柱から側柱に主体を変化させ，やがて土台建物に変化していく。このような当遺跡で分かった成果を踏まえて，建物を分類してみる。建物を上部構造から分類しなけ

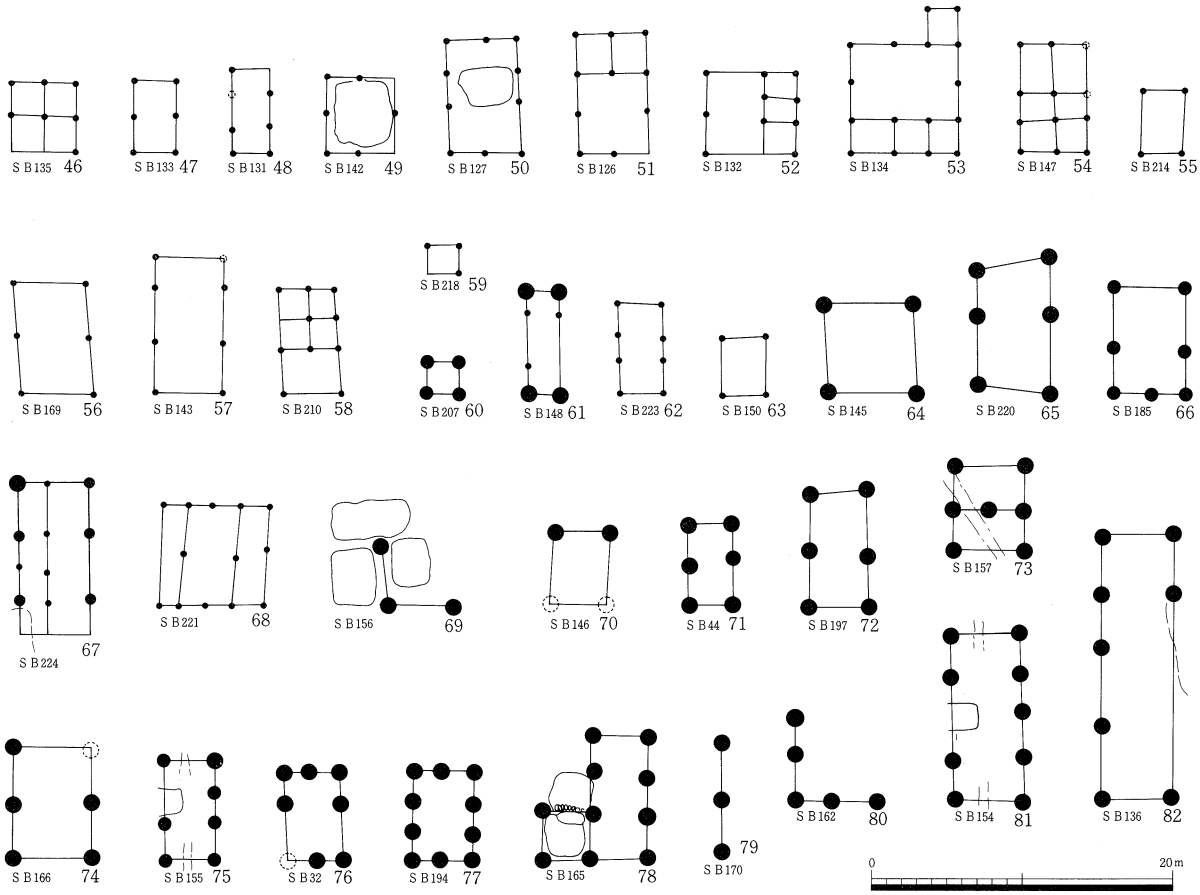


第316図　掘立柱建物模式図(1)　中世前期(1～45)

1～24.12世紀(中)～13世紀(前半)　25～45.13世紀(後半)～14世紀(前半)

ればならないが，上部構造が解明できないので，平面形から考えた。まず，総柱と側柱に分類できる。総柱建物の内，梁行３間以上の大型と梁行２間以下の小型がある。その構造は上記で述べた通りである。当遺跡のＳＢ92・ＳＢ115などのように，一見総柱のように見えるが，内の柱が抜けた側柱建物がある。この抜けた柱は礎石を用いたためでない。建物規模の拡大が屋内の大小の諸室を間仕切るための柱配置を自由にする必要があること[注12]からも，この柱抜け側柱を１つのタイプと考えたい。よって，これを総柱とは別タイプに分類し，側柱だけで構成される側柱とも区別する[注13]。さらに，柱穴の規模が時期差を示す目安となることから，規模が50cm以下の小型のものをａと50cmを越える大型をｂにする。平面形が主として円形を１，楕円を２，方形を３に分けた。以上から，掘立柱建物をⅠ類～Ⅲ類に分類した。総柱の小型柱穴をⅠａ類，中抜け側柱の小型柱穴をⅡａ類，側柱だけのうち小型柱穴をⅢａ類，大型円形柱穴をⅢｂ１類，大型楕円柱穴Ⅲｂ２類となる（第316・317図参照）。当遺跡で判明した時期別区分から，県内の11世紀～18世紀の建物を６段階に設定した。

１段階（12世紀中頃以前）　住居としての総柱建物の出現と確立　県内の総柱建物の出現は６世紀末～７世紀前半の桜町遺跡で，倉庫と考えられている[注14]。その後，倉庫以外，住居に使用されるようになる。10世紀末～11世紀前半の五社遺跡が現在最古の例である。総柱（Ⅰａ１）と側柱（Ⅲａ）とが約半々で混在する。総柱は桁行２間～４間×梁行２間で，40m²以下である。柱穴は20cm～30cmである。河西健二氏は柱穴の並びのずれ・柱穴の小型化・平面形の歪みから中世的様相を指摘されている[注15]。付加するならば，柱間は桁行より梁行の方が長いものと短いものが混在している点に注目したい。県内の古代掘立柱建物は梁行の柱間が桁行より長いものがほとんどである。この傾向の分化が五社遺跡で見られる点からも過度期的様相を示している。北陸では総柱住居の古い例は新潟県上越市一之口遺跡の大型総柱で，９世紀後半から10世紀前半である[注16]。県内では竪穴住穴が10世紀後半には消滅する。



第317図　掘立柱建物模式図(2)　中世前期(46～54)　中世後期(55～69)　近世(70～82)
46～54.14世紀(後半)～15世紀(前半)　55～69.15世紀(後半)～16世紀　70～82.17世紀